

令和3年度 世田谷区民意識調査の結果について

1 調査目的

区民が、区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政運営の基礎資料とする。

2 調査概要

- (1) 調査期間 令和3年5月25日～6月4日  
(2) 対象 満18歳以上の区内在住者(外国籍含む) 4,000人(無作為抽出)  
(3) 調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答  
(4) 回収結果 有効回収数2,086人 回収率52.2%  
(内訳:郵送回収1,525通・73.1%、インターネット回収561通・26.9%)  
(5) 調査項目 23項目(全72問 ※枝問含む)

1. 定住性	2. 区政	3. 職員応対	4. <u>地域行政制度</u>	5. 福祉と医療
6. 悩みや不安の相談先	7. <u>高齢者の居場所</u>	8. 障害者を支える取り組み		
9. 子育て・子どもを取り巻く環境	10. 地域コミュニティ	11. <u>公共施設</u>		
12. 災害時の備え	13. 男女共同参画の推進	14. 犯罪被害者支援	15. 多文化共生	
16. 文化活動	17. スポーツ	18. たばこマナー	19. 農業	20. <u>産業</u>
21. <u>気候危機</u>				
22. 広報	23. <u>新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響</u>			

経年調査質問(40問) 単年調査質問(32問) ※下線は令和3年度新規項目

3 調査結果

別添「世田谷区民意識調査2021」及び概要版のとおり

4 区民への公開スケジュール

- 9月2日 ・区ホームページに「世田谷区民意識調査2021」及び「概要版(日本語版・英語版・テキストデータ)」を掲載  
・区政情報センター(区政情報コーナー)、図書館で区民向けに閲覧開始  
9月15日 区のおしらせ「せたがや」9月15日号に調査結果の一部を掲載

# 世田谷区民意調査 2021

## (概要版)

(令和3年5月実施)

区民意調査概要版は、令和3年5月に実施した「世田谷区民意調査2021」を要約したもので、広く区民の方にその内容を知っていただくために作成しました。

今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、地域行政制度、気候危機、新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響などに関する項目を調査対象といたしました。

これらの調査結果については、区政を推進するための基礎資料として活用してまいります。

また、詳しく知りたい方は、世田谷区の区政情報センター、区政情報コーナー、区立図書館、区のホームページで「世田谷区民意調査2021」をご覧ください。

### 調査の概要

対象者 世田谷区在住の満18歳以上の男女

対象数 4,000人

(内訳/日本国籍3,913人、外国籍87人)

抽出方法 層化二段無作為抽出法

調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答

調査期間 令和3年5月25日～6月4日

有効回収数 2,086人

(内訳/日本国籍2,056人、外国籍30人)

有効回収率 52.2%

(内訳/郵送回収1,525通・73.1%、  
インターネット回収561通・26.9%)

### 回答者の属性

- 1 定住性
- 2 区政
- 3 職員応対
- 4 地域行政制度
- 5 福祉と医療
- 6 悩みや不安の相談先
- 7 高齢者の居場所
- 8 障害者を支える取り組み
- 9 子育て・子どもを取り巻く環境
- 10 地域コミュニティ
- 11 公共施設
- 12 災害時の備え
- 13 男女共同参画の推進
- 14 犯罪被害者支援
- 15 多文化共生
- 16 文化活動
- 17 スポーツ
- 18 たばこマナー
- 19 農業
- 20 産業
- 21 気候危機
- 22 広報
- 23 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響

※過去に同様の調査を行っている項目については、直近のデータを記載しています。

令和3年9月



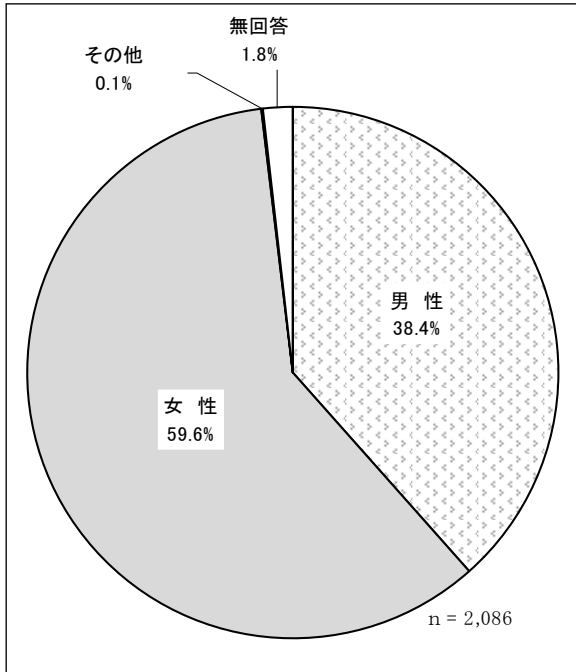
世田谷区

### グラフの見方

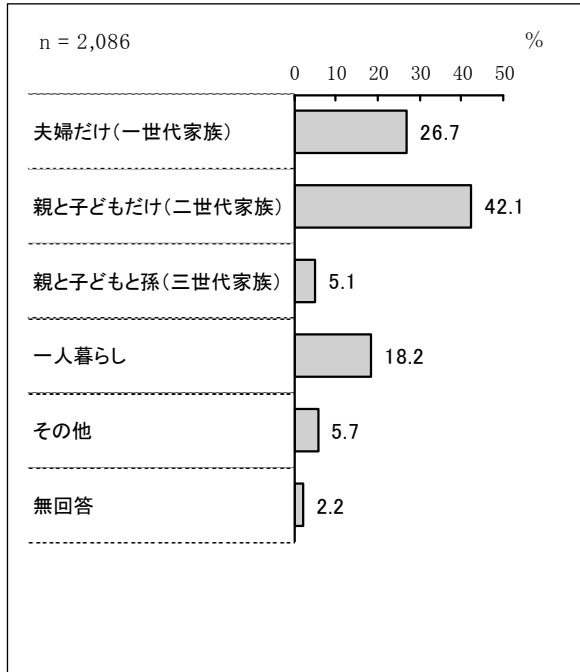
- 1 (複数回答) と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならないものがあります。
- 3 複数回答の設問については、合計が100.0%を超えることがあります。
- 4 グラフ中のnは、設問の回答者数を表します。

### 回答者の属性

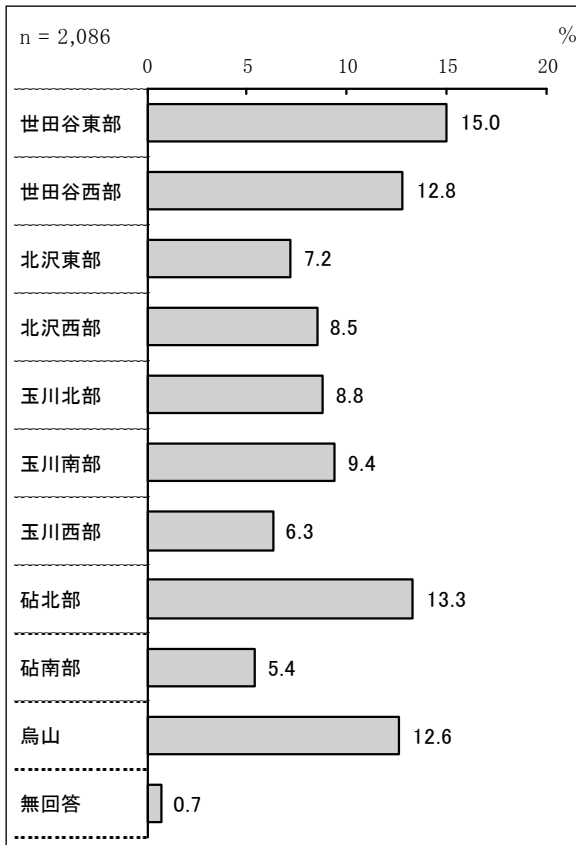
(1) 性別



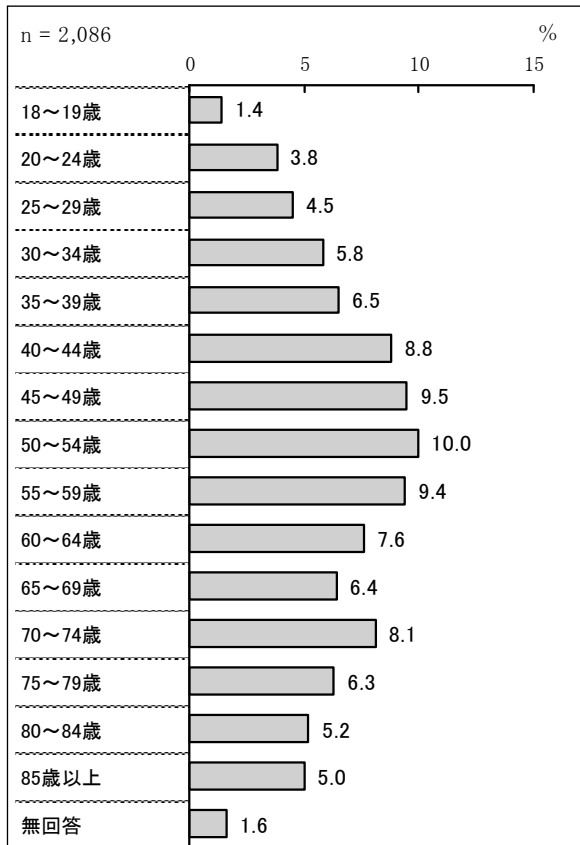
(2) 家族構成



(3) 居住地区



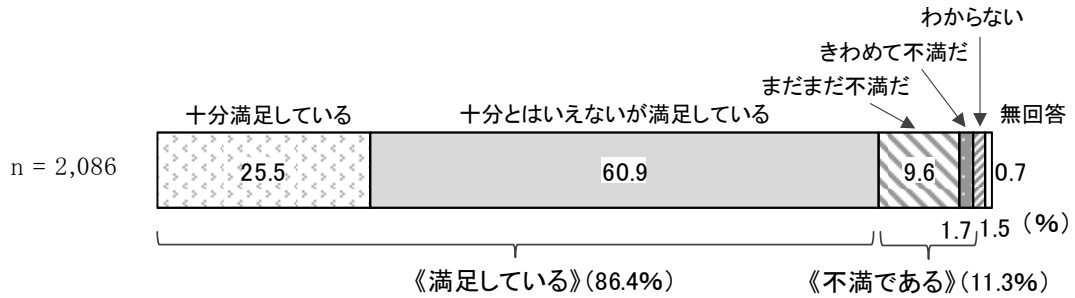
(4) 年齢



# 1. 定住性

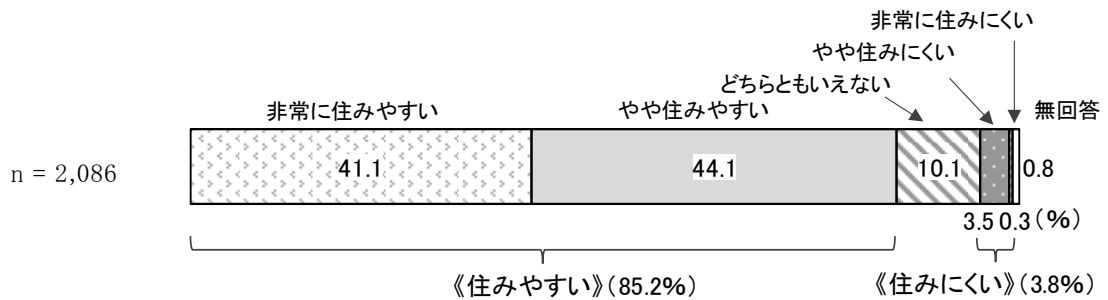
## (1) 暮らしの満足度

現在の暮らしについて、《満足している》と感じている方は86.4%となっています。  
 (令和2年度は87.3%)



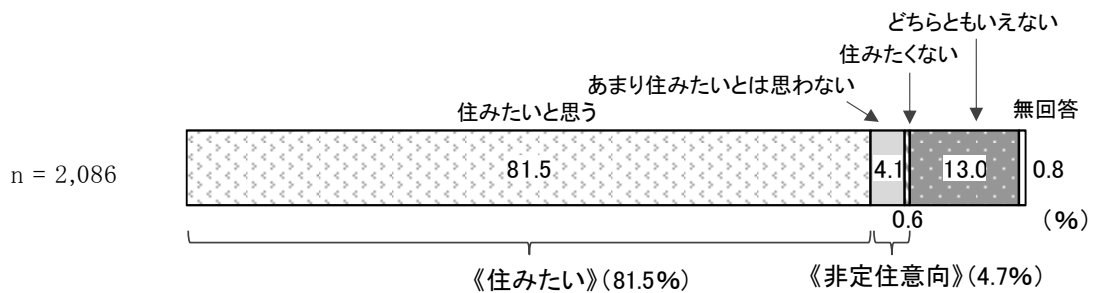
## (2) 住みやすさ

《住みやすい》と感じている方は85.2%となっています。  
 (令和2年度は83.6%)



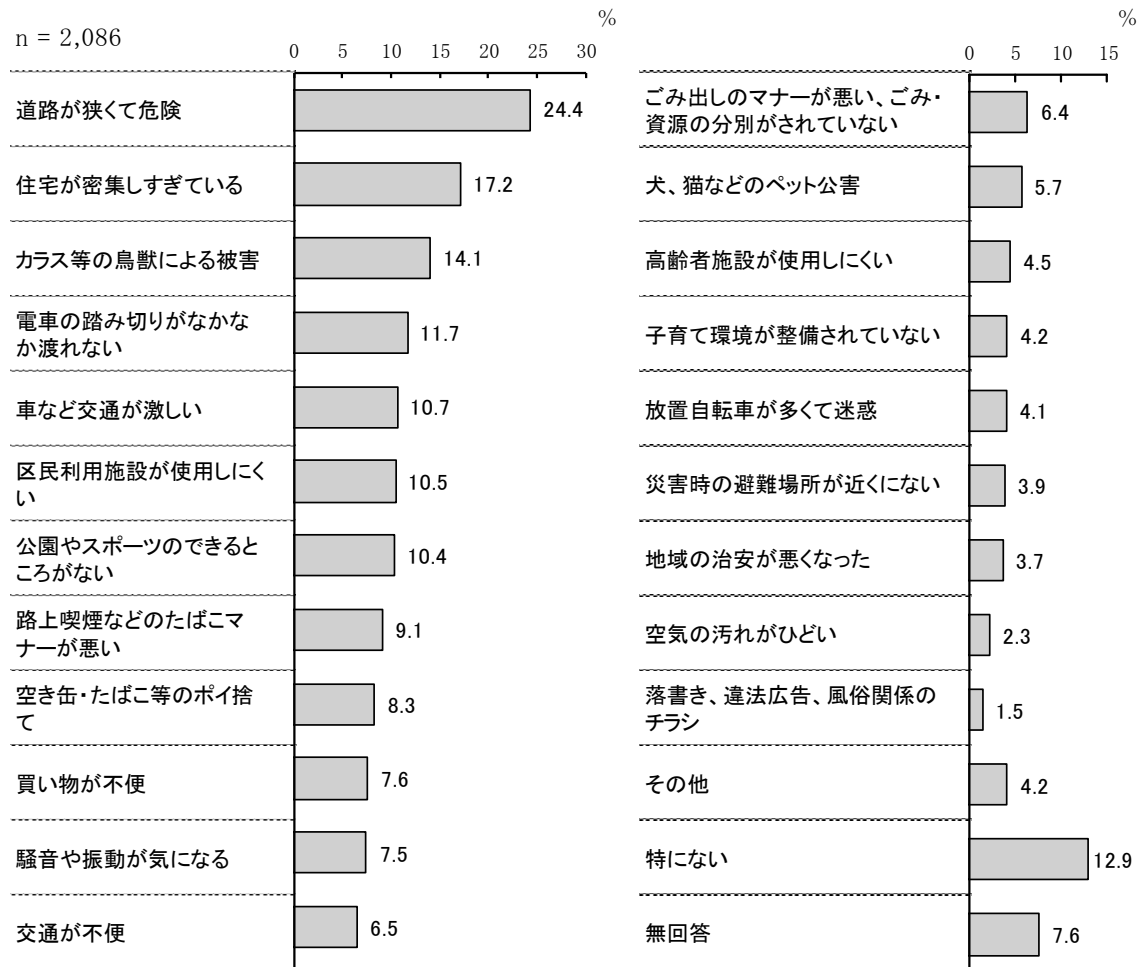
## (3) 定住意向

今後も世田谷区に「住みたいと思う」方は81.5%となっています。  
 (令和2年度は81.7%)



(4) 地域における日常生活での困りごと（複数回答）

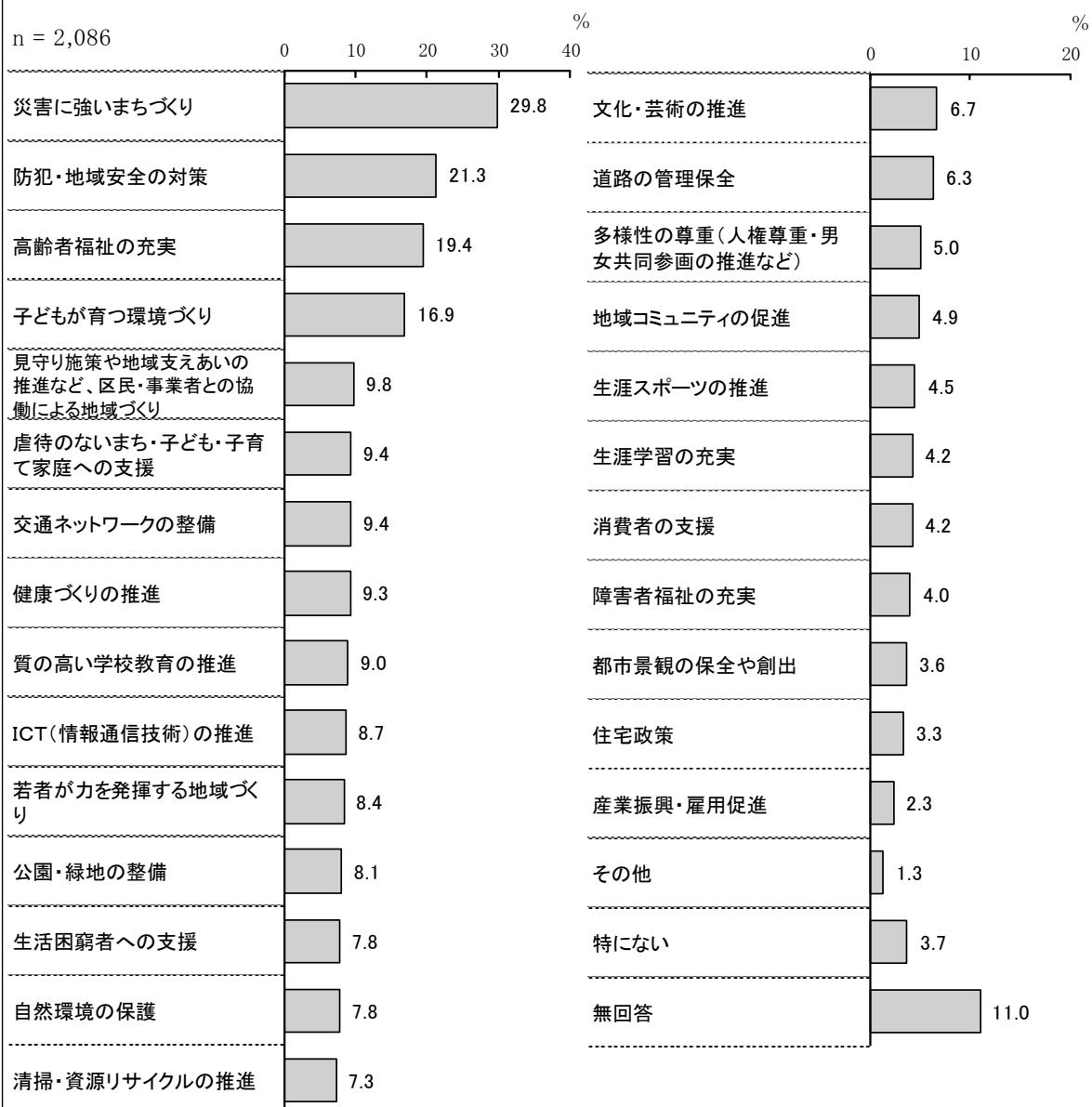
「道路が狭くて危険」が24.4%で最も高く、以下、「住宅が密集しすぎている」、「カラス等の鳥獣による被害」などと続いています。



## 2. 区政

### (1) 区が積極的に取り組むべき事業（複数回答）

「災害に強いまちづくり」が29.8%で最も高く、以下、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」などと続いています。

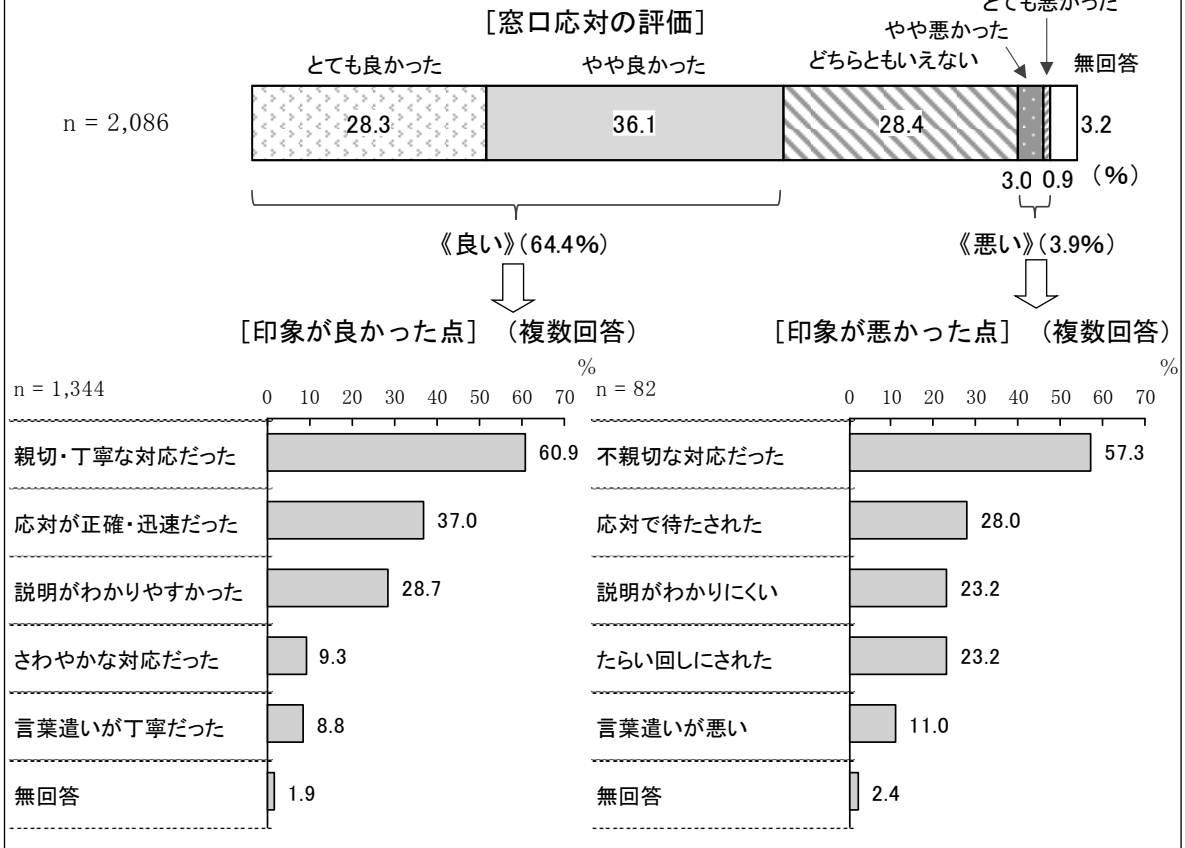


### 3. 職員応対

#### (1) 窓口応対の評価と印象が良かった点・悪かった点

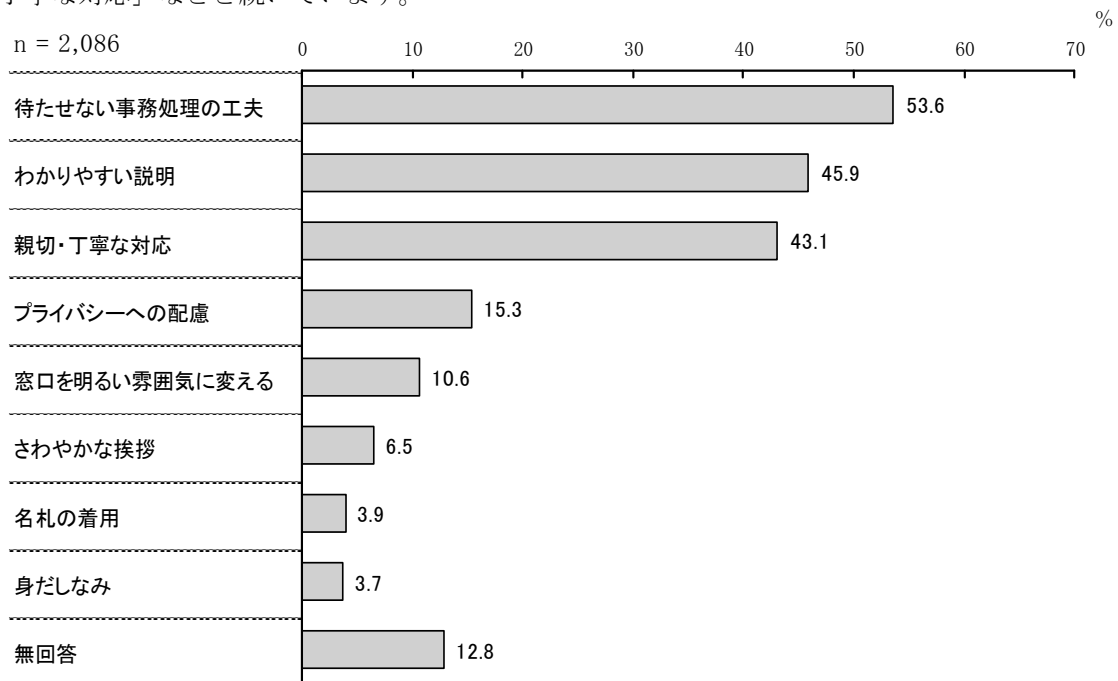
窓口応対は64.4%の方が《良い》と感じています。(令和2年度は62.1%)

親切・丁寧な応対だったかどうか、評価のポイントになっています。



#### (2) 職員応対での注意点 (複数回答)

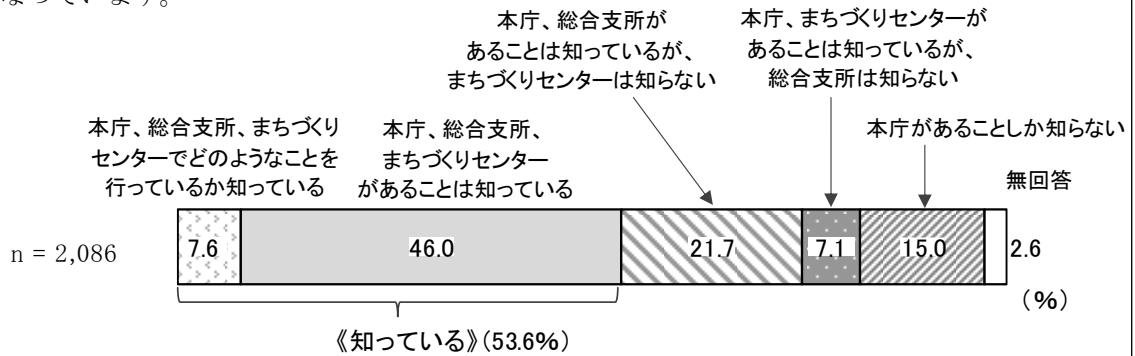
「待たせない事務処理の工夫」が53.6%と最も高く、以下、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」などと続いています。



## 4. 地域行政制度

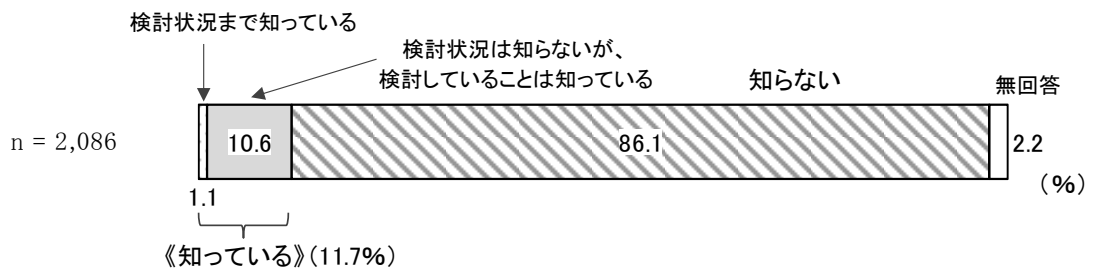
### (1) 行政拠点の認知度

「本庁、総合支所、まちづくりセンターでどのようなことを行っているか知っている」と「本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている」を合わせた《知っている》が53.6%となっています。



### (2) 条例制定に向けての検討の認知度

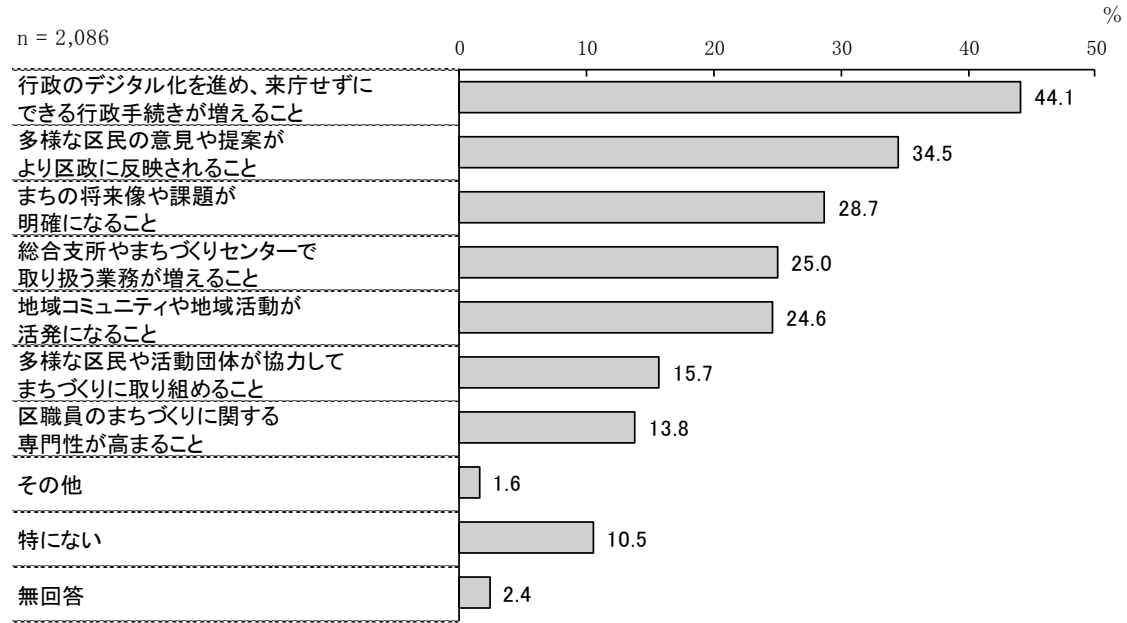
地域行政制度の条例制定に向けての検討の認知度を聞いたところ「知らない」が86.1%となっています。





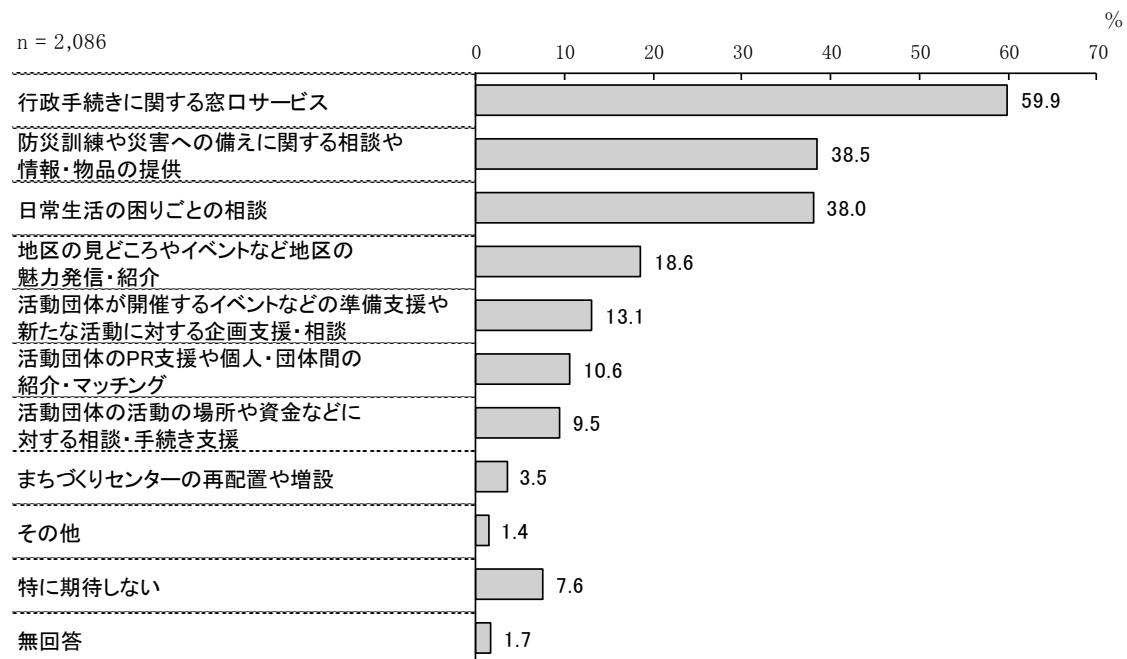
### (3) 地域行政制度の条例に期待すること（複数回答）

地域行政制度の条例にどのようなことを期待するか聞いたところ、「行政のデジタル化を進め、来庁せずにできる行政手続きが増えること」が44.1%と最も高く、以下、「多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること」、「まちの将来像や課題が明確になること」、「総合支所やまちづくりセンターで取り扱う業務が増えること」、「地域コミュニティや地域活動が活発になること」などと続いています。



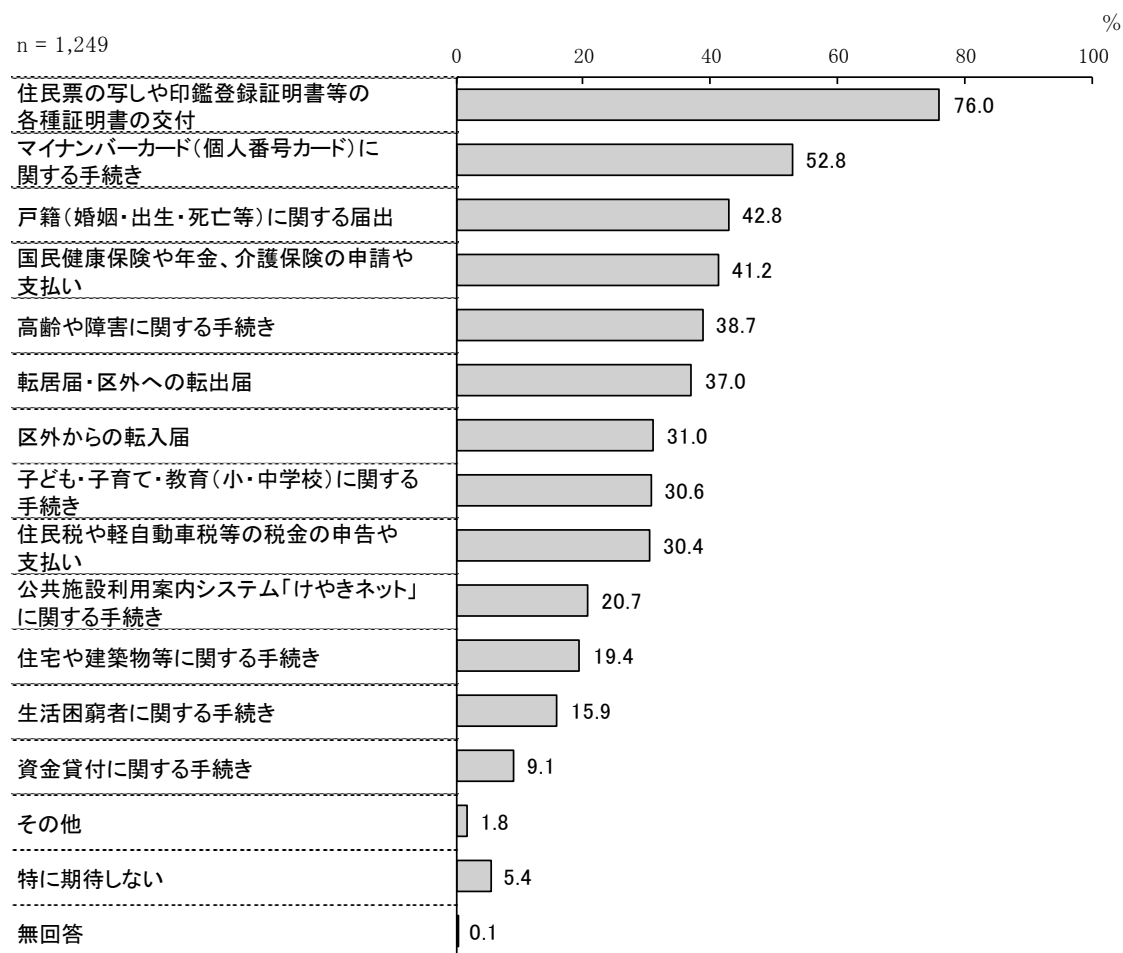
### (4) まちづくりセンターに期待すること（複数回答）

まちづくりセンターにどのようなことを期待するか聞いたところ、「行政手続きに関する窓口サービス」が59.9%と最も高く、以下、「防災訓練や災害への備えに関する相談や情報・物品の提供」、「日常生活の困りごとの相談」、「地区の見どころやイベントなど地区の魅力発信・紹介」などと続いています。



### (5) まちづくりセンターでできるとよい行政手続き（複数回答）

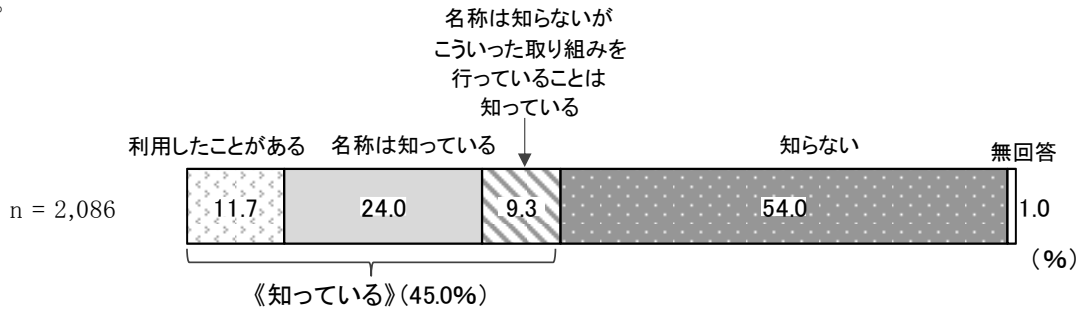
まちづくりセンターの窓口で、どのような行政手続きができることに期待するか聞いたところ、「住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付」が76.0%と最も高く、以下、「マイナンバーカード（個人番号カード）に関する手続き」、「戸籍（婚姻・出生・死亡等）に関する届出」、「国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い」などと続いています。



## 5. 福祉と医療

### (1) 「福祉の相談窓口」の認知度

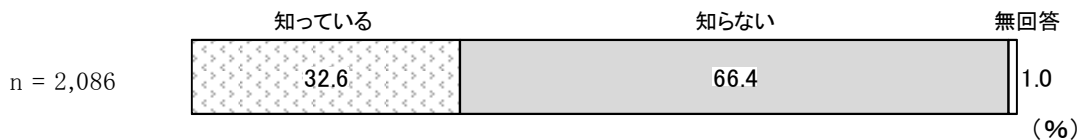
「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(24.0%)、「利用したことがある」(11.7%)、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」(9.3%)を合わせた《知っている》が45.0%、「知らない」が54.0%となっています。



## 6. 悩みや不安の相談先

### (1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度

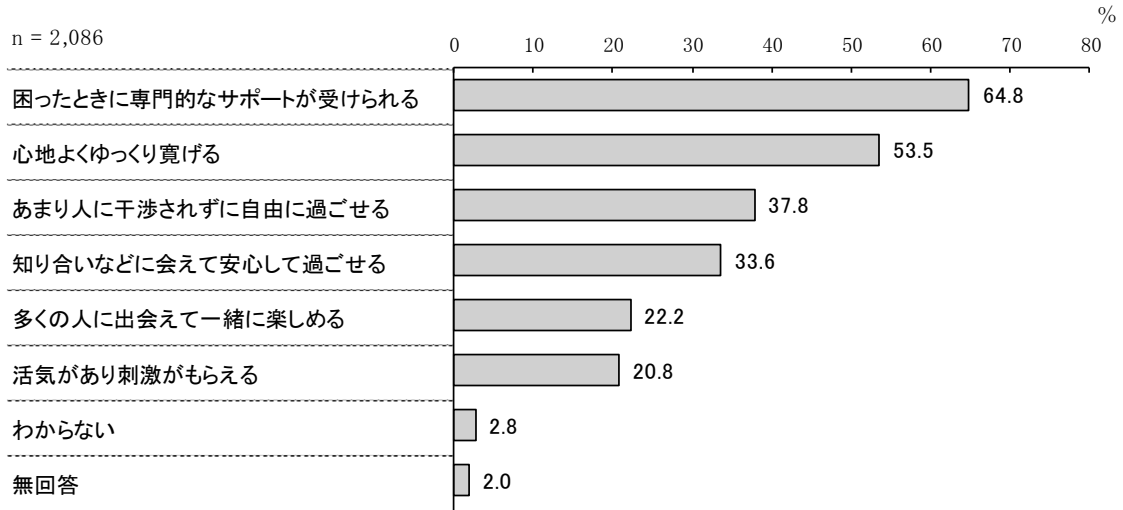
相談できる医療機関や行政窓口の認知度を聞いたところ、「知っている」が32.6%、「知らない」が66.4%となっています。



## 7. 高齢者の居場所

### (1) 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるもの（複数回答）

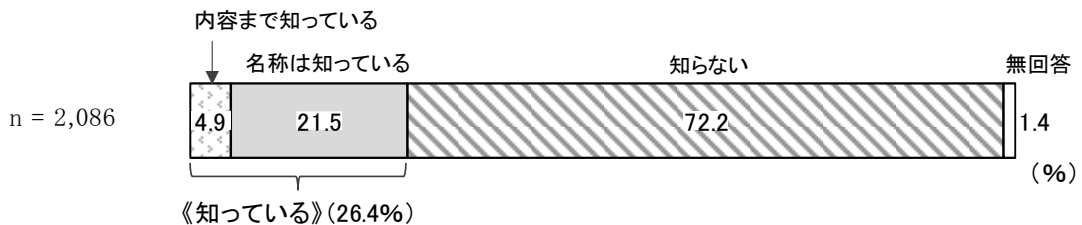
高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるものについて聞いたところ、「困ったときに専門的なサポートが受けられる」が64.8%と最も高く、以下、「心地よくゆっくり寛げる」、「あまり人に干渉されずに自由に過ごせる」、「知り合いなどに会えて安心して過ごせる」など続いています。



## 8. 障害者を支える取り組み

### (1) 障害者差別解消法の認知度

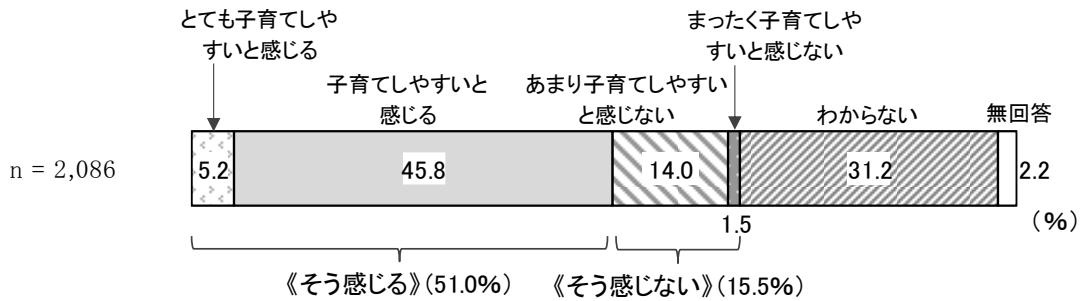
障害者差別解消法の認知度を聞いたところ、「内容まで知っている」(4.9%)と「名称は知っている」(21.5%)を合わせた《知っている》が26.4%、「知らない」が72.2%となっています。



## 9. 子育て・子どもを取り巻く環境

### (1) 区の子育て環境

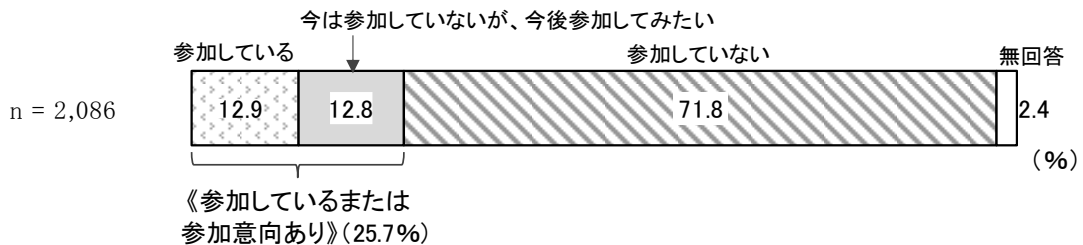
世田谷区の子育て環境について聞いたところ、《そう感じる》が51.0%、《そう感じない》が15.5%となっています。



## 10. 地域コミュニティ

### (1) 地域活動への参加経験・参加意向

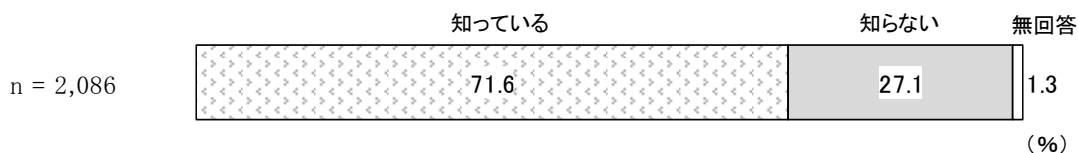
身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(12.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(12.8%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》が25.7%となっています。「参加していない」が71.8%となっています。



## 11. 公共施設

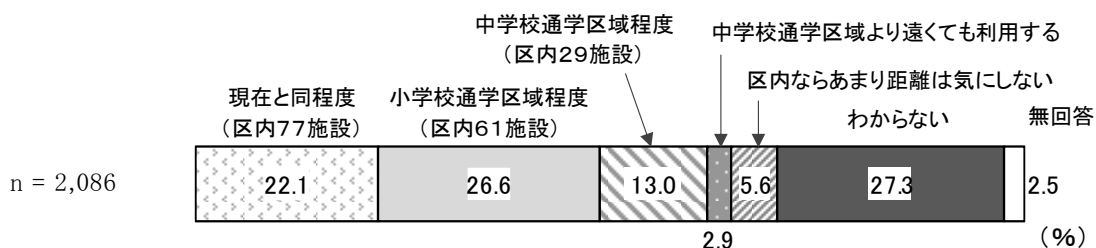
### (1) 地区会館や区民集会所の認知度

身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所の認知度を聞いたところ、「知っている」が71.6%、「知らない」が27.1%となっています。



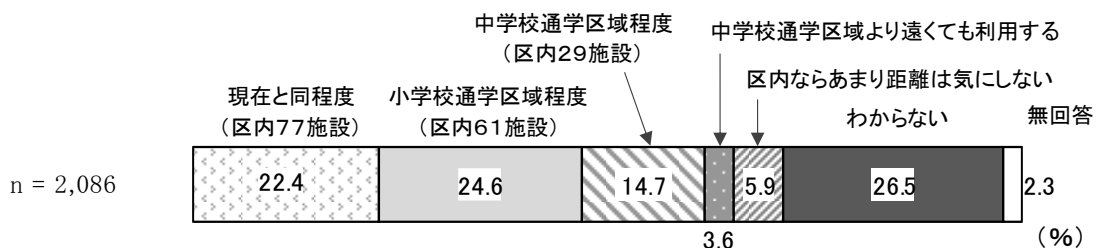
### (2) 体を動かすために利用したいと思う距離

体を動かす目的に利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」が26.6%と最も高く、次いで、「現在と同程度」が22.1%となっています。



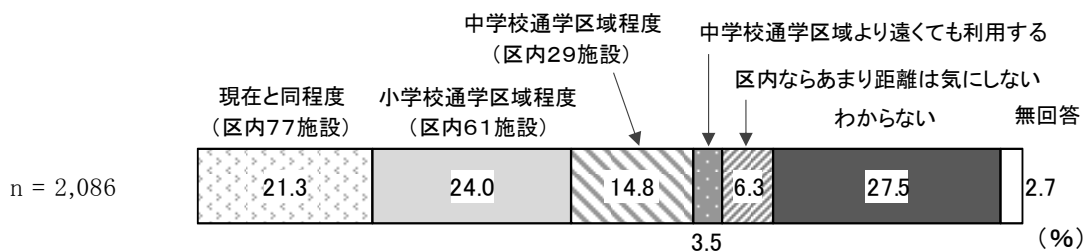
### (3) 会議・学習会のために利用したいと思う距離

会議・学習会のために利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」が24.6%と最も高く、次いで、「現在と同程度」が22.4%となっています。



### (4) 芸術活動のために利用したいと思う距離

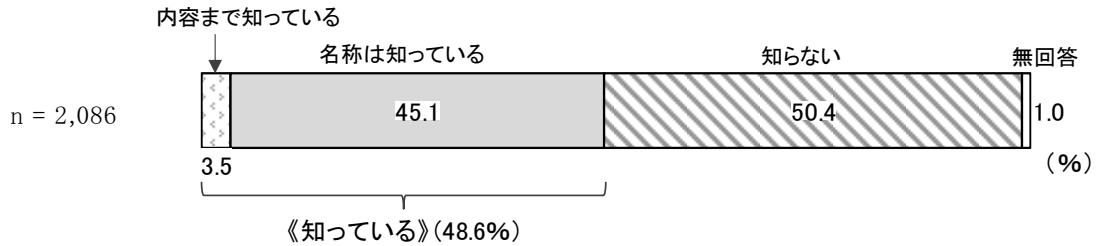
芸術活動のために利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」が24.0%と最も高く、次いで、「現在と同程度」が21.3%となっている。



## 12. 災害時の備え

### (1) 地区防災計画の認知度

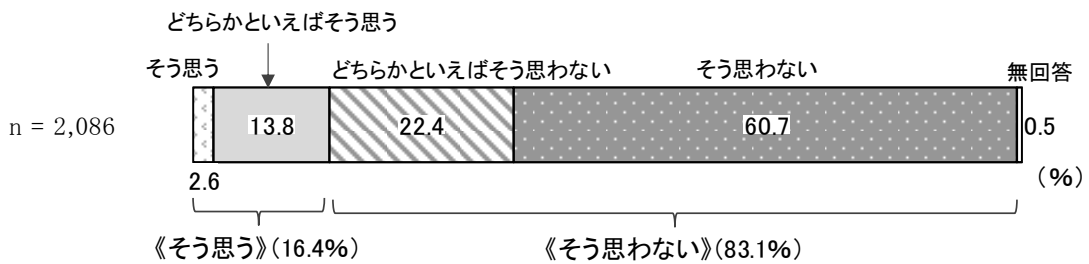
地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(45.1%)と「内容まで知っている」(3.5%)を合わせた《知っている》が48.6%、「知らない」が50.4%となっています。



## 13. 男女共同参画の推進

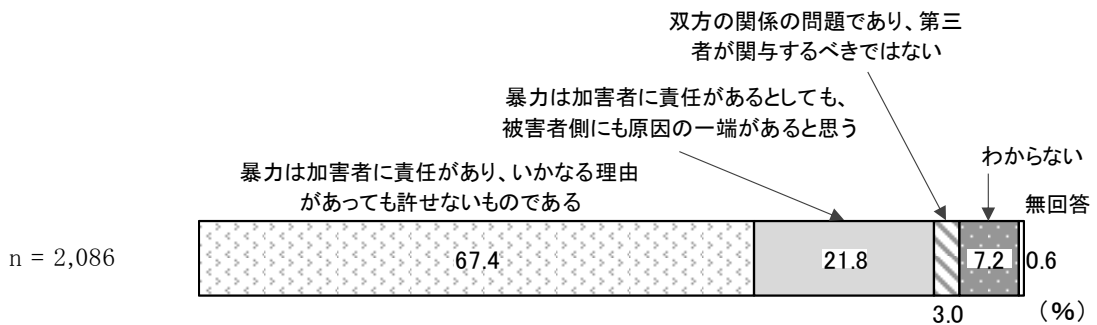
### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、《そう思う》が16.4%、《そう思わない》が83.1%となっています。



### (2) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

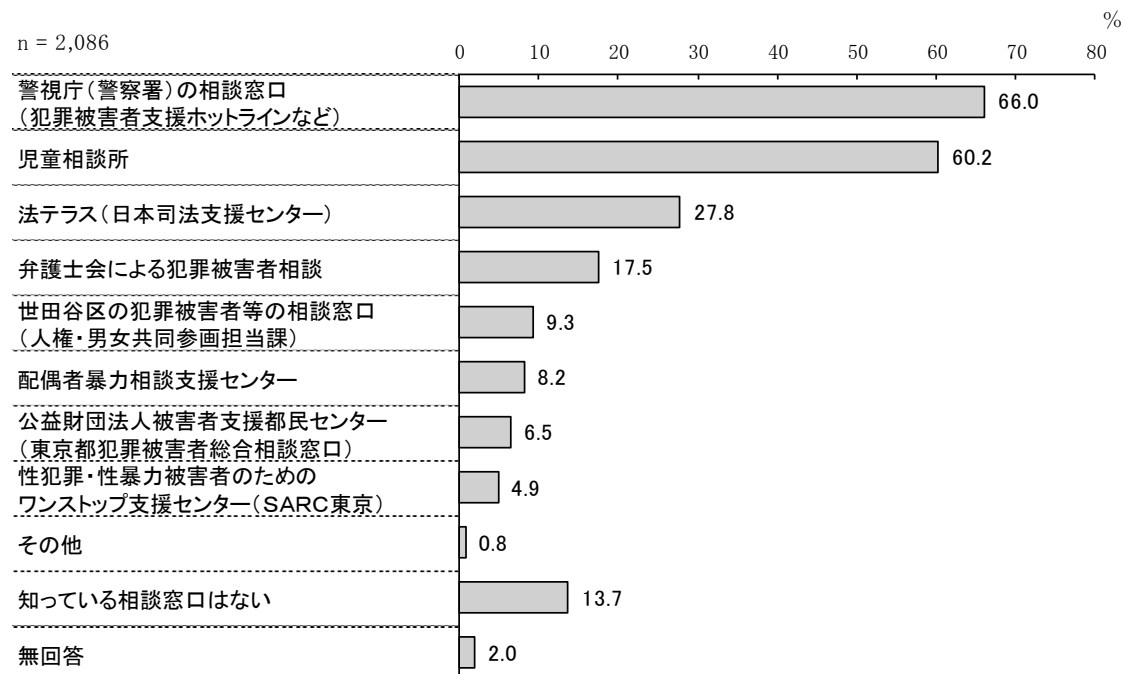
「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が67.4%と最も高く、次いで、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が21.8%となっています。



## 14. 犯罪被害者支援

### (1) 犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況（複数回答）

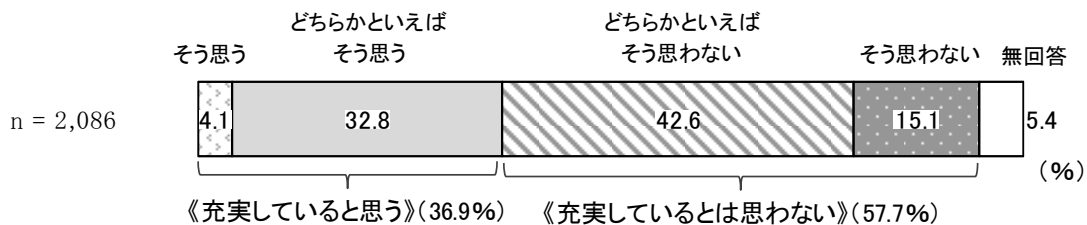
犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況について聞いたところ、「警視庁（警察署）の相談窓口」が66.0%と最も高く、次いで、「児童相談所」が60.2%となっています。



## 15. 多文化共生

### (1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、「充実していると思う」が36.9%、「充実しているとは思わない」が57.7%となっています。

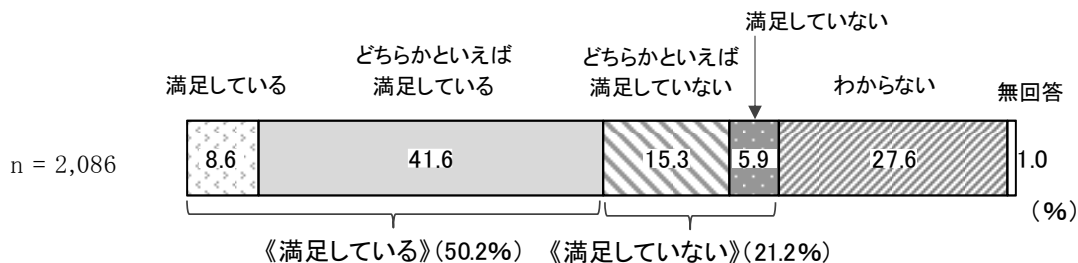




## 16. 文化活動

### (1) 区内の文化資源環境への満足度

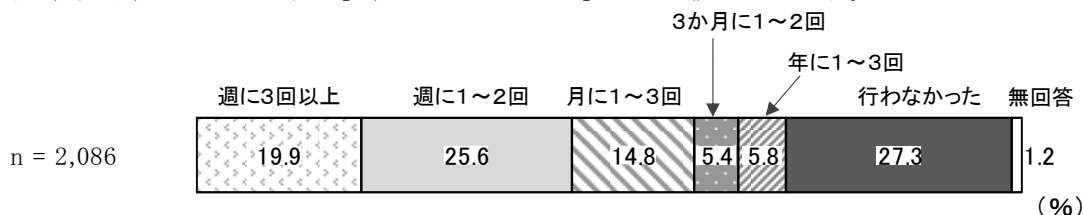
区内の文化資源環境への満足度を聞いたところ、《満足している》が50.2%、《満足していない》が21.2%となっています。



## 17. スポーツ

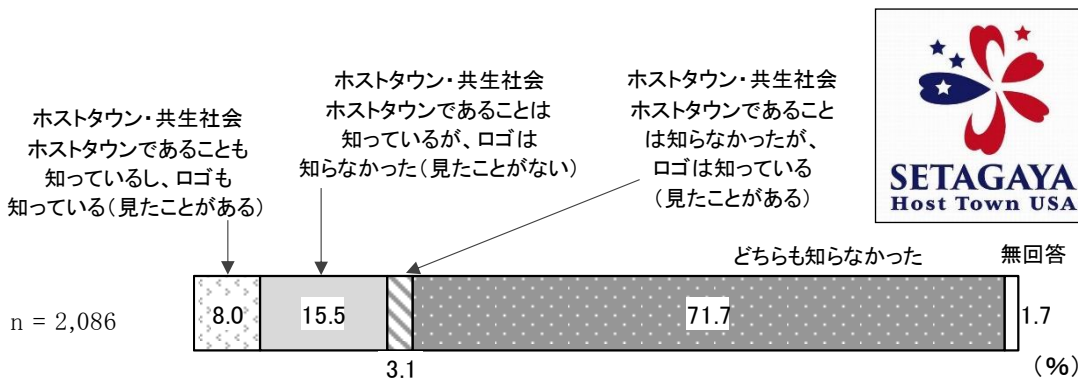
### (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数

この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に1～2回」が25.6%で最も高く、以下、「週に3回以上」、「月に1～3回」などと続いています。



### (2) ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度

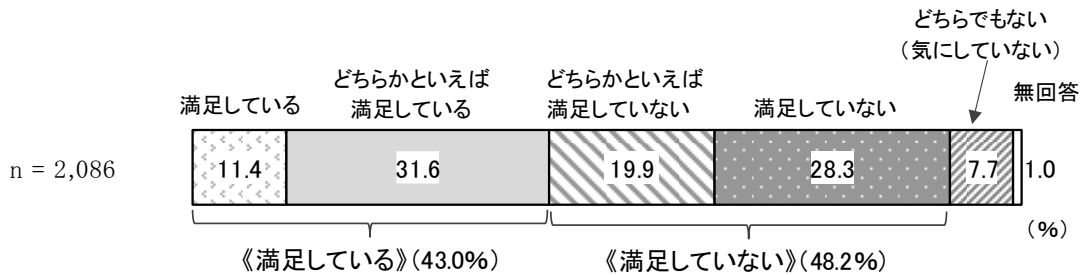
ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度を聞いたところ、「どちらも知らなかった」が71.7%を占めています。次いで、「ホストタウン・共生社会ホストタウンであることは知っているが、ロゴは知らなかった(見たことがない)」が15.5%となっています。



## 18. たばこマナー

### (1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

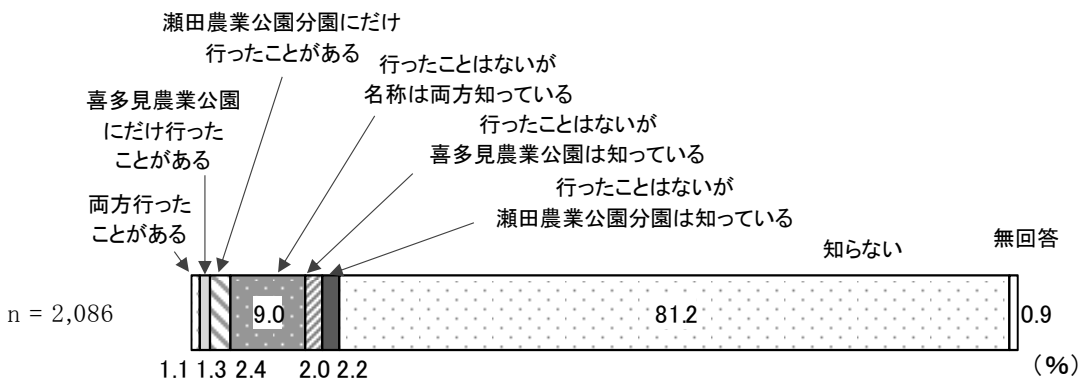
居住地域におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、《満足していない》が48.2%、《満足している》が43.0%となっています。



## 19. 農業

### (1) 農業公園の認知度

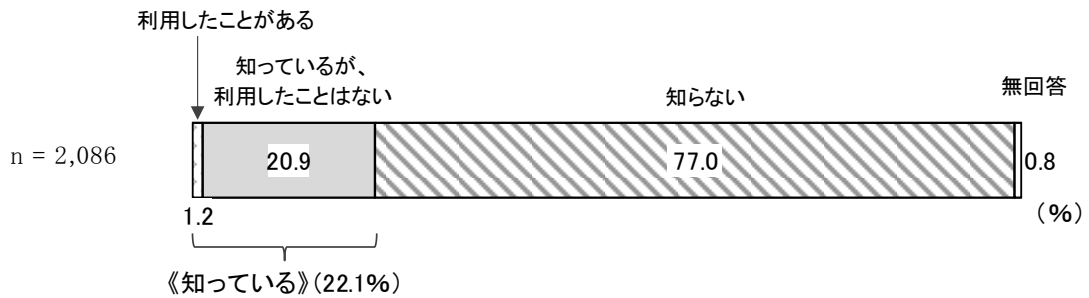
農業公園の認知度を聞いたところ、「知らない」が81.2%を占め、「行ったことはないが名称は両方知っている」が9.0%となっています。



## 20. 産業

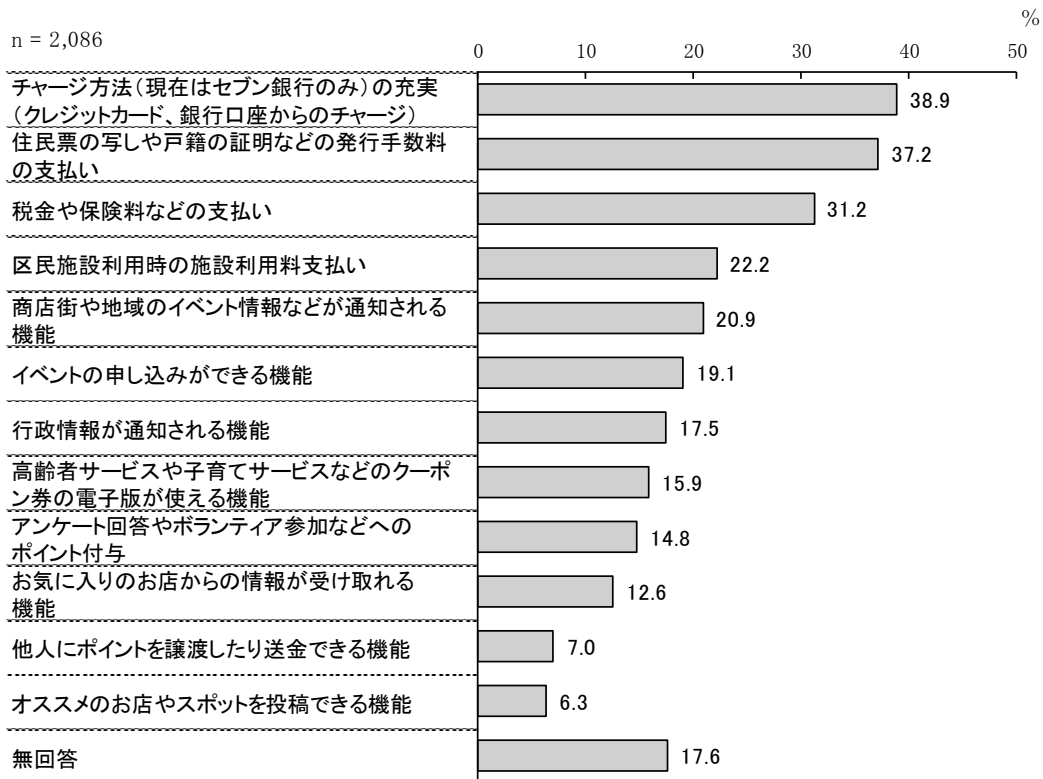
### (1) せたがやPayの認知度

せたがやPayの認知度を聞いたところ、「知らない」が77.0%と多数を占めています。「利用したことがある」(1.2%)と「知っているが、利用したことはない」(20.9%)を合わせた《知っている》は22.1%となっています。



### (2) せたがやPayの活用できる機能の希望 (複数回答)

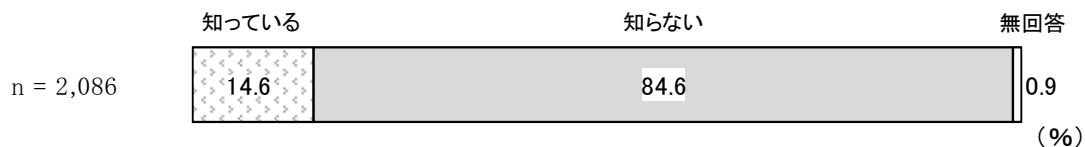
せたがやPayの活用できる機能の希望を聞いたところ、「チャージ方法(現在はセブン銀行のみ)の充実(クレジットカード、銀行口座からのチャージ)」が38.9%と最も高く、以下、「住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い」、「税金や保険料などの支払い」などと続いています。



## 21. 気候危機

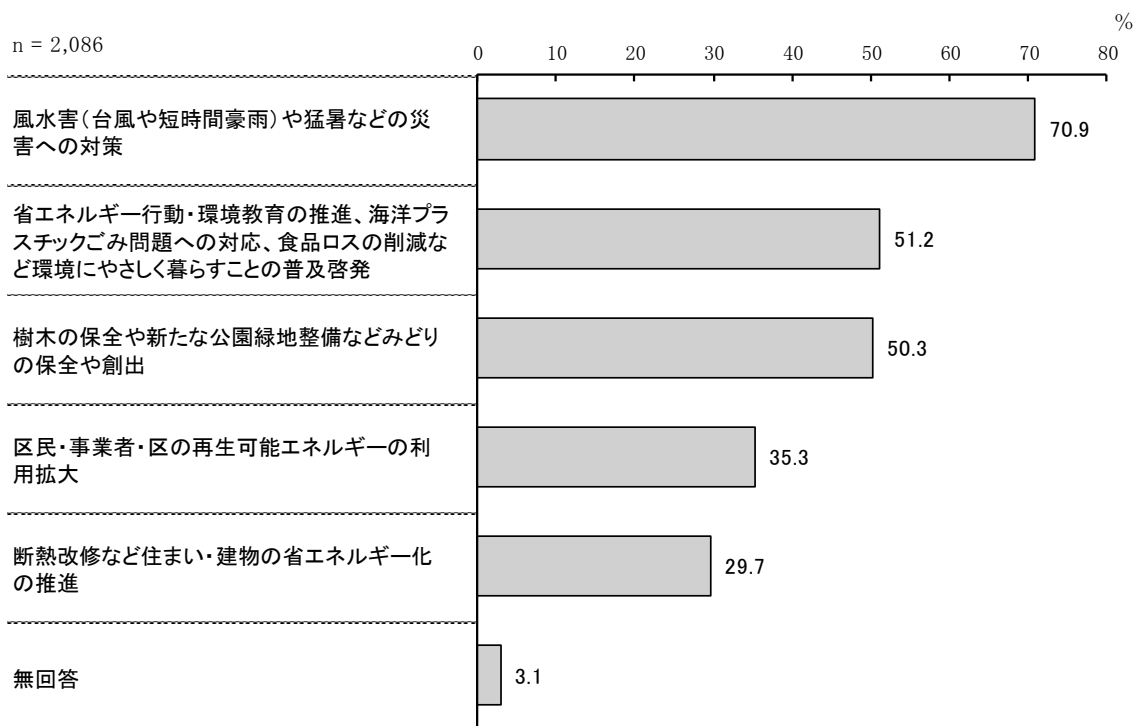
### (1) 気候非常事態宣言の認知度

気候非常事態宣言の認知度を聞いたところ、「知らない」が 84.6%と多数を占めています。「知っている」は 14.6%となっています。



### (2) 重点的に取り組むべき気候危機への対策（複数回答）

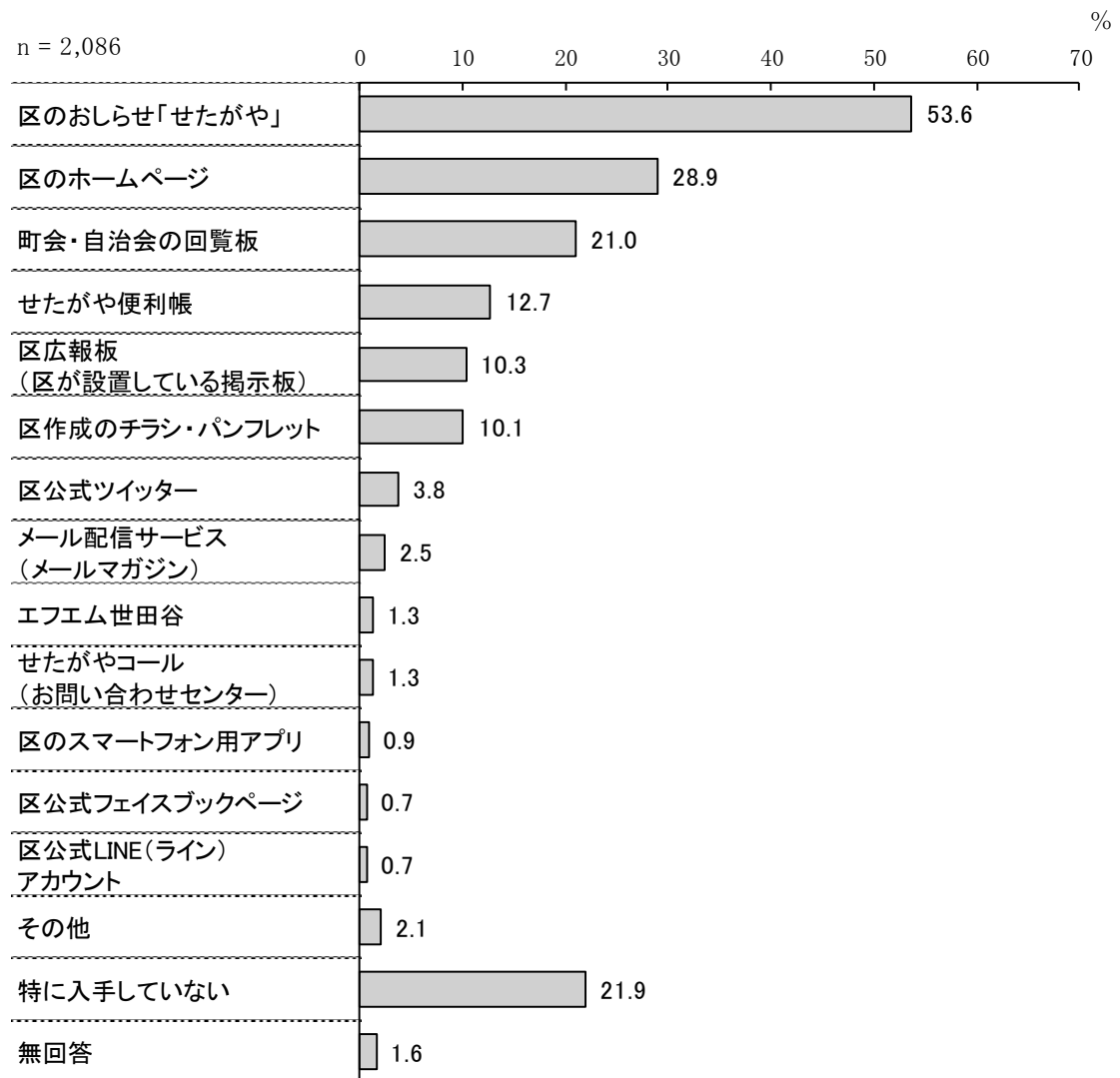
重点的に取り組むべき気候危機への対策について聞いたところ、「風水害（台風や短時間豪雨）や猛暑などの災害への対策」が 70.9%と最も高く、以下、「省エネルギー行動・環境教育の推進、海洋プラスチックごみ問題への対応、食品ロスの削減など環境にやさしく暮らすことの普及啓発」、「樹木の保全や新たな公園緑地整備などみどりの保全や創出」などと続いています。



## 22. 広報

### (1) 区に関する情報の入手先（複数回答）

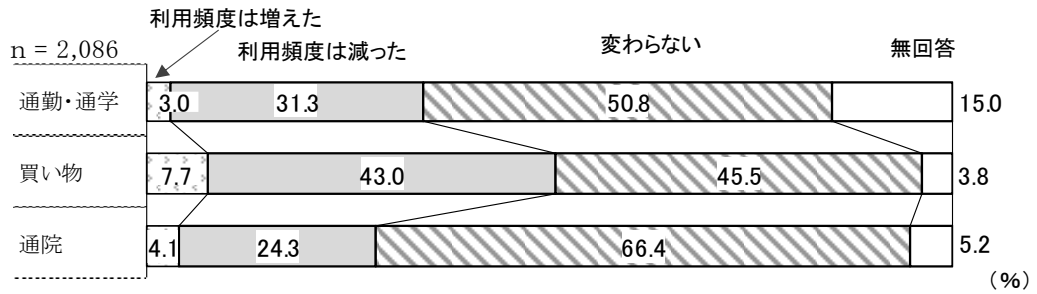
区に関する情報の入手先について聞いたところ、「区のおしらせ「せたがや」」が53.6%で最も高く、以下、「区のホームページ」、「町会・自治会の回覧板」、「せたがや便利帳」、「区広報板（区が設置している掲示板）」、「区作成のチラシ・パンフレット」などと続いています。



## 23. 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響

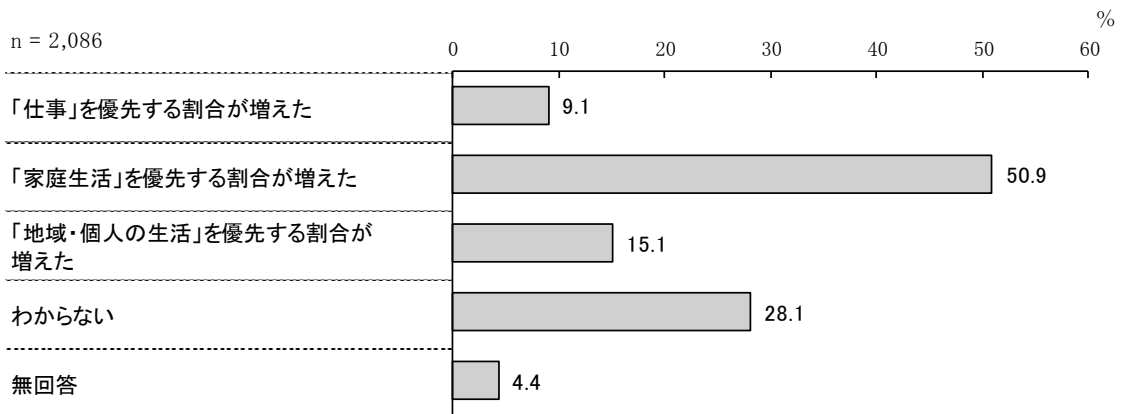
### (1) 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化について聞いたところ、「変わらない」が通勤・通学 (50.8%)、買い物 (45.5%)、通院 (66.4%) いずれでも最も高くなっています。「利用頻度は減った」のは、買い物 (43.0%) で最も高くなっています。



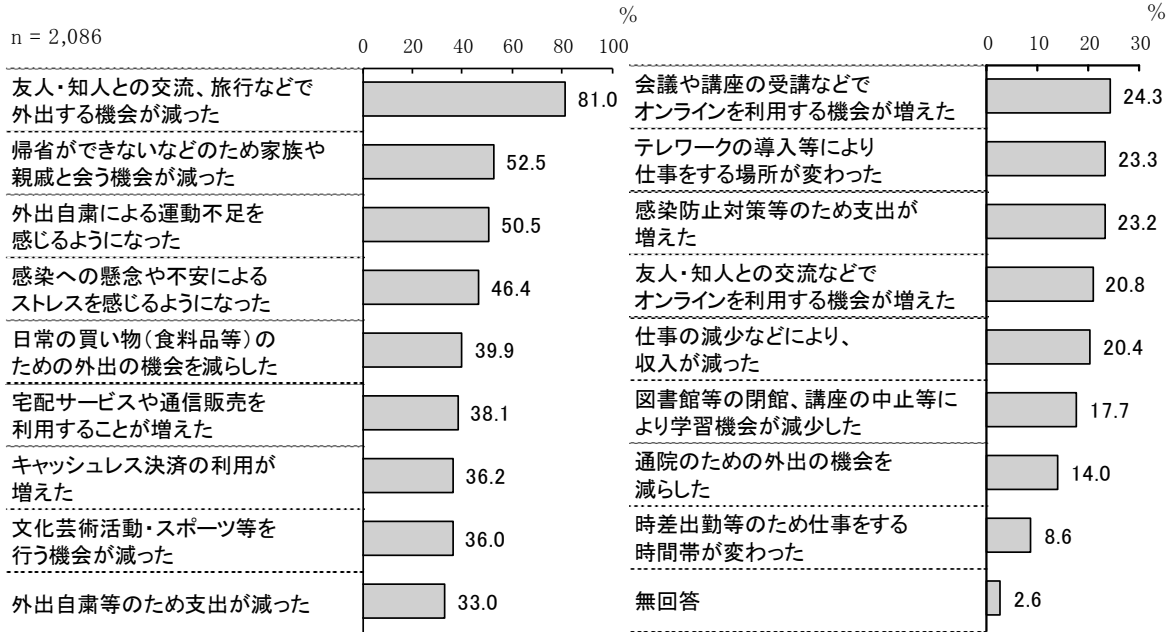
### (2) 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化 (複数回答)

新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化について聞いたところ、「「家庭生活」を優先する割合が増えた」が50.9%で最も高くなっています。



(3) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響（複数回答）

新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響は、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が81.0%で最も高く、以下、「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った」、「外出自粛による運動不足を感じるようになった」、「感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった」、「日常の買い物（食料品等）のための外出の機会を減らした」などと続いています。



世田谷区民意識調査2021（概要版）  
令和3年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 1968）

発行 世田谷区政策経営部広報広聴課  
東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号  
電話：03（5432）2014  
ファクシミリ：03（5432）3001

実施 株式会社名豊  
愛知県名古屋市中区松原2丁目2番33号  
電話：052（322）0071（代表）  
ファクシミリ：052（322）0130

# 世田谷区民意識調査 2021

(令和3年5月実施)







## はじめに

世田谷区では、日頃より、様々な形で区民の皆様から区政に対するご意見・ご要望をお聴かせいただいています。

区民意識調査も、こうした広聴事業のひとつとして、区政に対するニーズや意識とその変化を把握するために毎年実施しているもので、今回で47回目となります。

本書は、本年実施した区民意識調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、「定住性」「職員対応」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、地域行政制度、気候危機、新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響などに関する項目を調査対象といたしました。

この調査結果を今後の事業の見直しや政策立案の参考とさせていただくとともに、引き続き区民の皆様へのわかりやすい情報提供・情報発信に努め、行政への理解や関心を深めていただき、区民参加を更に推進してまいります。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

令和3年9月

世田谷区



# 目 次

## 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 標本設計	1
6. この報告書のみかた	5
7. 標本誤差	5

## 標本構成

1. 標本構成	7
---------	---

質問と回答	11
-------	----

## 調査結果

<b>1. 定住性</b>	<b>35</b>
(1) 居住年数	35
(2) 暮らしの満足度	39
(3) 住みやすさ	45
(4) 定住意向	50
(5) 定住意向理由	56
(6) 非定住意向理由	61
(7) 地域における日常生活での困りごと	63
<b>2. 区政</b>	<b>68</b>
(1) 区が積極的に取り組むべき事業	68
<b>3. 職員対応</b>	<b>73</b>
(1) 窓口対応	73
(2) 印象が良かった点	76
(3) 印象が悪かった点	79
(4) 職員対応での注意点	81

4. 地域行政制度	84
(1) 行政拠点の認知度	84
(2) 条例制定に向けての検討の認知度	88
(3) 地域行政制度の条例に期待すること	91
(4) まちづくりセンターに期待すること	94
(5) まちづくりセンターでできるとよい行政手続き	97
5. 福祉と医療	101
(1) 「福祉の相談窓口」の認知度	101
(2) 介護や医療必要時の居留意向	105
(3) 「在宅医療」の認知度	109
6. 悩みや不安の相談先	113
(1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度	113
(2) 悩みや不安の相談先	116
7. 高齢者の居場所	119
(1) 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるもの	119
(2) 高齢者の自宅以外での過ごし方の希望	122
8. 障害者を支える取り組み	125
(1) 障害者差別解消法の認知度	125
9. 子育て・子どもを取り巻く環境	128
(1) 区の子育て環境	128
(2) 子育てについて相談できる人の有無	132
(3) 「世田谷版ネウボラ」の認知度	135
(4) 子どもの外遊びへの大人の関わりについて	138
10. 地域コミュニティ	141
(1) 地域活動への参加経験・参加意向	141
(2) 参加している地域団体	145
(3) 参加している地域活動の種類	148
11. 公共施設	151
(1) 地区会館や区民集会所の認知度	151
(2) 地区会館や区民集会所の利用頻度	154
(3) 区民集会所の利用目的	157
(4) 体を動かすために利用したいと思う距離	160

(5) 会議・学習会のために利用したいと思う距離	163
(6) 芸術活動のために利用したいと思う距離	166
<b>12. 災害時の備え</b>	<b>169</b>
(1) 防災への対処	169
(2) 水や食料の備蓄について	177
(3) 地区防災計画の認知度	181
<b>13. 男女共同参画の推進</b>	<b>185</b>
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	185
(2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度	189
(3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方	193
(4) DV被害にあったときの相談先	196
(5) 性的マイノリティという言葉の認知度	199
<b>14. 犯罪被害者支援</b>	<b>202</b>
(1) 犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況	202
<b>15. 多文化共生</b>	<b>205</b>
(1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度	205
(2) 外国人に対する偏見や差別の解消	209
(3) 外国人へのわかりやすい情報発信	212
<b>16. 文化活動</b>	<b>214</b>
(1) 区内の文化資源の認知度	214
(2) 区内の文化資源環境への満足度	219
<b>17. スポーツ</b>	<b>222</b>
(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数	222
(2) 観戦またはやってみたいパラスポーツ	226
(3) パラスポーツ推進のための取り組み	229
(4) 参加したいパラスポーツの内容	233
(5) ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度	235
<b>18. たばこマナー</b>	<b>238</b>
(1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度	238
<b>19. 農業</b>	<b>242</b>
(1) 農業公園の認知度	242

20. 産業	246
(1) せたがやPayの認知度	246
(2) せたがやPayの活用できる機能の希望	249
21. 気候危機	252
(1) 気候非常事態宣言の認知度	252
(2) 気候危機への不安感	254
(3) 重点的に取り組むべき気候危機への対策	256
(4) 気候危機に対して自分ができること	258
22. 広報	260
(1) 区に関する情報の入手先	260
23. 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響	262
(1) 各交通手段の利用頻度	262
(2) 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化	277
(3) 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化	292
(4) 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化	299
(5) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響	303

## 調 査 概 要





## 1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

## 2. 調査項目

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| (1) 定住性            | (13) 男女共同参画の推進             |
| (2) 区政             | (14) 犯罪被害者支援               |
| (3) 職員応対           | (15) 多文化共生                 |
| (4) 地域行政制度         | (16) 文化活動                  |
| (5) 福祉と医療          | (17) スポーツ                  |
| (6) 悩みや不安の相談先      | (18) たばこマナー                |
| (7) 高齢者の居場所        | (19) 農業                    |
| (8) 障害者を支える取り組み    | (20) 産業                    |
| (9) 子育て・子どもを取り巻く環境 | (21) 気候危機                  |
| (10) 地域コミュニティ      | (22) 広報                    |
| (11) 公共施設          | (23) 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響 |
| (12) 災害時の備え        |                            |

## 3. 調査設計

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女             |
| (2) 対象数  | 4,000人（内訳／日本国籍3,913人、外国籍87人） |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法                   |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答       |
| (5) 調査期間 | 令和3年5月25日～6月4日               |
| (6) 調査機関 | 株式会社名豊                       |

## 4. 回収結果

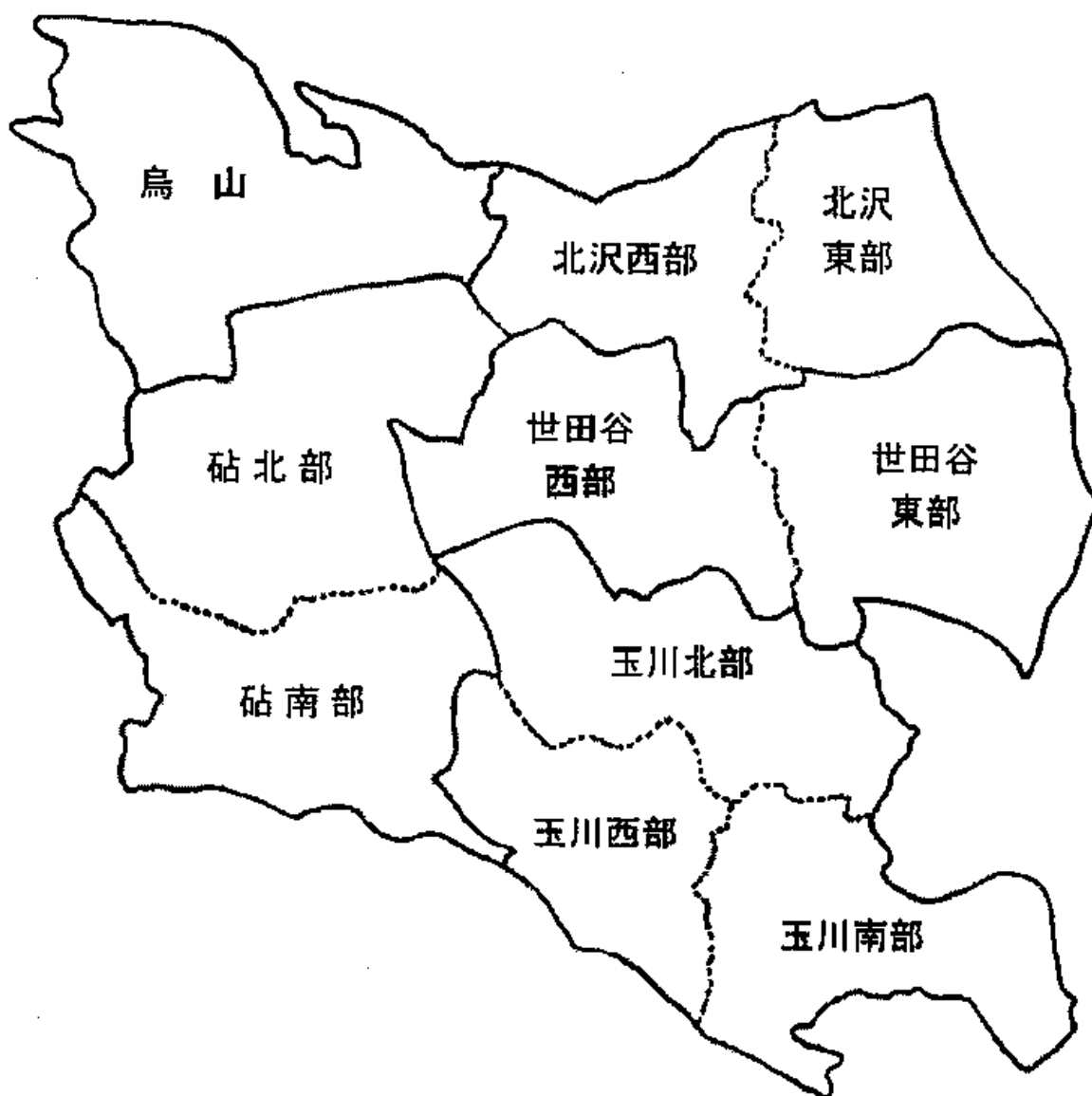
- |           |  |
|-----------|--|
| (1) 有効回収数 | 2,086人（内訳／日本国籍2,056人、外国籍30人）                       |
| (2) 有効回収率 | 52.2%<br>(内訳／郵送回収1,525通・73.1%、インターネット回収561通・26.9%) |

## 5. 標本設計

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| (1) 母集団   | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数   | 4,000人           |
| (3) 調査地点数 | 200地点            |
| (4) 抽出方法  | 層化二段無作為抽出法       |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



地域別町丁名一覧表

地域	町丁目	地域	町丁目			
世田谷東部	池尻	1～4丁目	玉川南部	奥沢	1～8丁目	
	下馬	1～6丁目		東玉川	1～2丁目	
	三宿	1～2丁目		玉川田園調布	1～2丁目	
	太子堂	1～5丁目		等々力	1～8丁目	
	三軒茶屋	1～2丁目		尾山台	1～3丁目	
	野沢	1～4丁目		玉堤	1～2丁目	
	若林	1～5丁目		玉川西部	中町	1～5丁目
	上馬	1～5丁目			野毛	1～3丁目
	駒沢	1～2丁目			瀬田	1～5丁目
		上野毛	1～4丁目			
世田谷西部	世田谷	1～4丁目	玉川	1～4丁目		
	弦巻	1～5丁目	砧北部	船橋	1～7丁目	
	宮坂	1～3丁目		千歳台	1～6丁目	
	桜	1～3丁目		祖師谷	1～6丁目	
	経堂	1～5丁目		砧	1～8丁目	
	桜丘	1～5丁目		成城	1～9丁目	
北沢東部	北沢	1～5丁目	砧南部	大蔵	1～6丁目	
	代沢	1～5丁目		砧公園		
	大原	1～2丁目		岡本	1～3丁目	
	羽根木	1～2丁目		鎌田	1～4丁目	
	代田	1～6丁目	喜多見	1～9丁目		
北沢西部	松原	1～6丁目	宇奈根	1～3丁目		
	梅丘	1～3丁目	烏山	八幡山	1～3丁目	
	豪徳寺	1～2丁目		南烏山	1～6丁目	
	赤堤	1～5丁目		粕谷	1～4丁目	
	桜上水	1～5丁目		北烏山	1～9丁目	
		給田		1～5丁目		
玉川北部	駒沢公園		上祖師谷	1～7丁目		
	駒沢	3～5丁目	上北沢	1～5丁目		
	新町	1～3丁目				
	深沢	1～8丁目				
	桜新町	1～2丁目				
	用賀	1～4丁目				
	上用賀	1～6丁目				
	玉川台	1～2丁目				

### 【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和3年4月1日現在）により、4,000の標本数を配分した。

### 【抽出】

① 調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が20になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。

② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目で指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数20を系統的に抽出した。

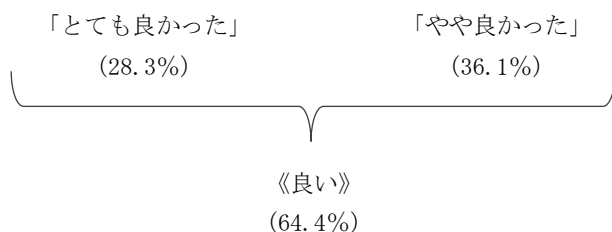
④ 以上の結果、各地域（層）別の標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域		標本数	調査地点数	18歳以上の人口数 (母集団)
世田谷	東部	660	33	130,508
	西部	460	23	90,779
北沢	東部	340	17	66,967
	西部	360	18	70,137
玉川	北部	360	18	72,636
	南部	340	17	68,449
	西部	260	13	51,199
砧	北部	500	25	96,616
	南部	200	10	40,354
烏山		520	26	104,154
計		4,000	200	791,799

(人口は令和3年4月1日現在)

## 6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- 例：図3-1-1



- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が30に満たないデータについては参考値とする。

## 7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$\text{(標本誤差)} \quad b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団（世田谷区全体） n=比率算出の基礎（サンプル数） p=回答比率
---

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表

基数(n)			回答比率(P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数			2,086	± 1.3%	± 1.7%	± 2%	± 2.1%	± 2.1%
地域	世田谷	東部	313	± 3.3%	± 4.4%	± 5.1%	± 5.4%	± 5.5%
		西部	268	± 3.6%	± 4.8%	± 5.5%	± 5.9%	± 6%
	北沢	東部	150	± 4.8%	± 6.4%	± 7.3%	± 7.8%	± 8%
		西部	178	± 4.4%	± 5.9%	± 6.7%	± 7.2%	± 7.3%
	玉川	北部	184	± 4.3%	± 5.8%	± 6.6%	± 7.1%	± 7.2%
		南部	196	± 4.2%	± 5.6%	± 6.4%	± 6.8%	± 7%
		西部	131	± 5.1%	± 6.8%	± 7.8%	± 8.4%	± 8.6%
	砧	北部	278	± 3.5%	± 4.7%	± 5.4%	± 5.8%	± 5.9%
		南部	112	± 5.5%	± 7.4%	± 8.5%	± 9.1%	± 9.2%
	烏山			262	± 3.6%	± 4.8%	± 5.5%	± 5.9%
性別	男性		802	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
	女性		1,244	± 1.7%	± 2.2%	± 2.5%	± 2.7%	± 2.8%
年代	10・20歳代		204	± 4.1%	± 5.5%	± 6.3%	± 6.7%	± 6.9%
	30歳代		256	± 3.7%	± 4.9%	± 5.6%	± 6%	± 6.1%
	40歳代		381	± 3%	± 4%	± 4.6%	± 4.9%	± 5%
	50歳代		406	± 2.9%	± 3.9%	± 4.5%	± 4.8%	± 4.9%
	60歳代		293	± 3.4%	± 4.6%	± 5.2%	± 5.6%	± 5.7%
	70歳代		299	± 3.4%	± 4.5%	± 5.2%	± 5.5%	± 5.7%
	80歳以上		213	± 4%	± 5.4%	± 6.1%	± 6.6%	± 6.7%

基数(n)		回答比率(P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500の場合		(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000の場合		(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500の場合		(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.6%
n = 1,000の場合		(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800の場合		(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600の場合		(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400の場合		(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200の場合		(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100の場合		(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

(注) この表の見方は次のとおりである。  
「ある設問の回答数が2,086人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.1%である。」

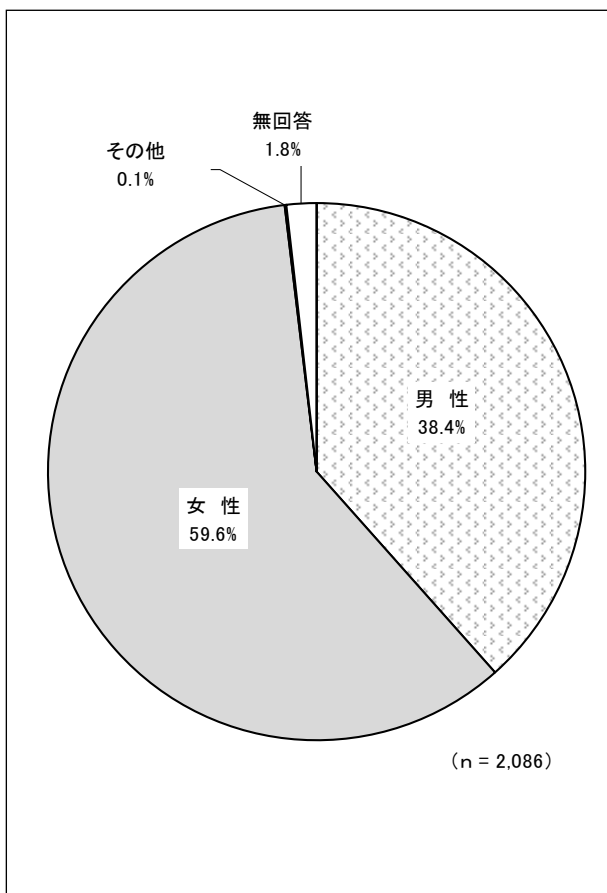
## 標 本 構 成



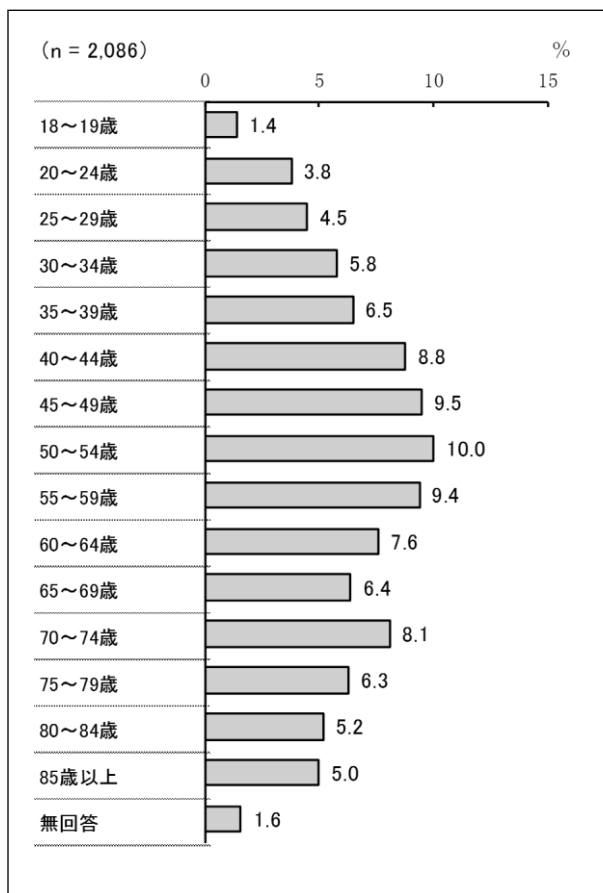


# 1. 標本構成

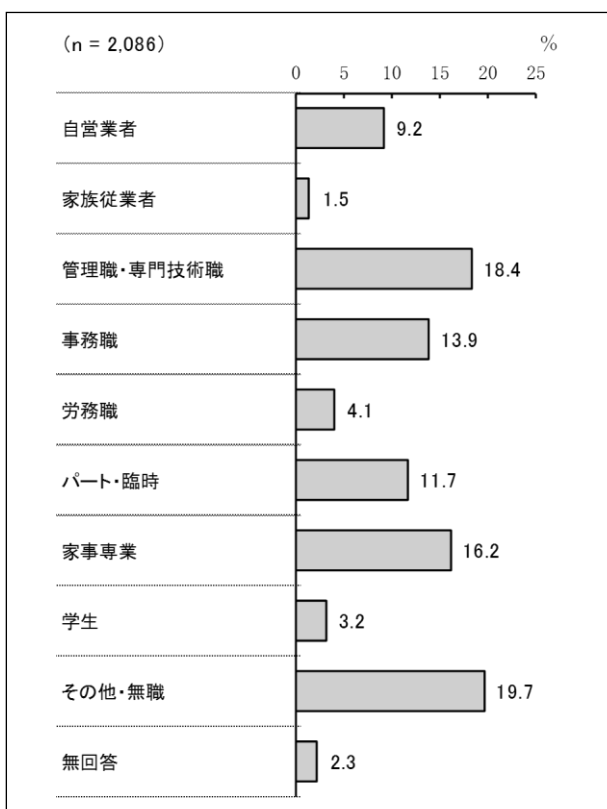
## (1) 性別



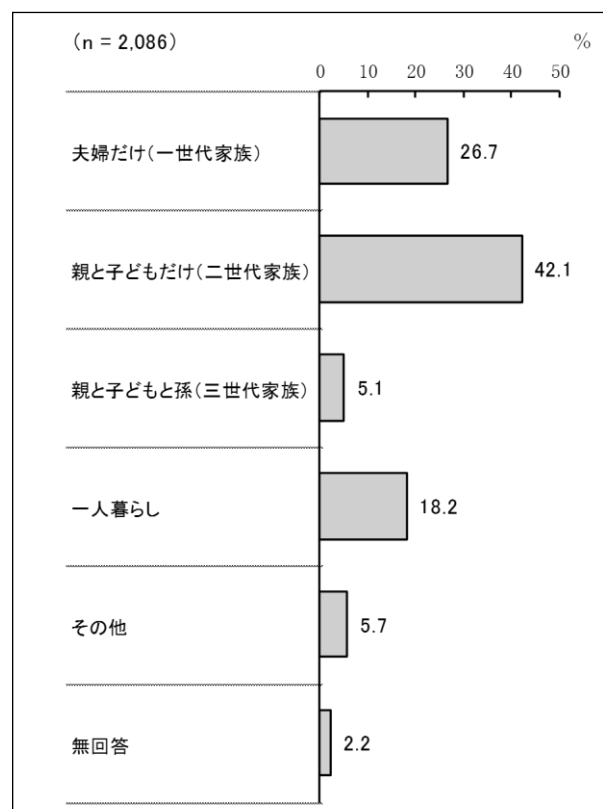
## (2) 年齢



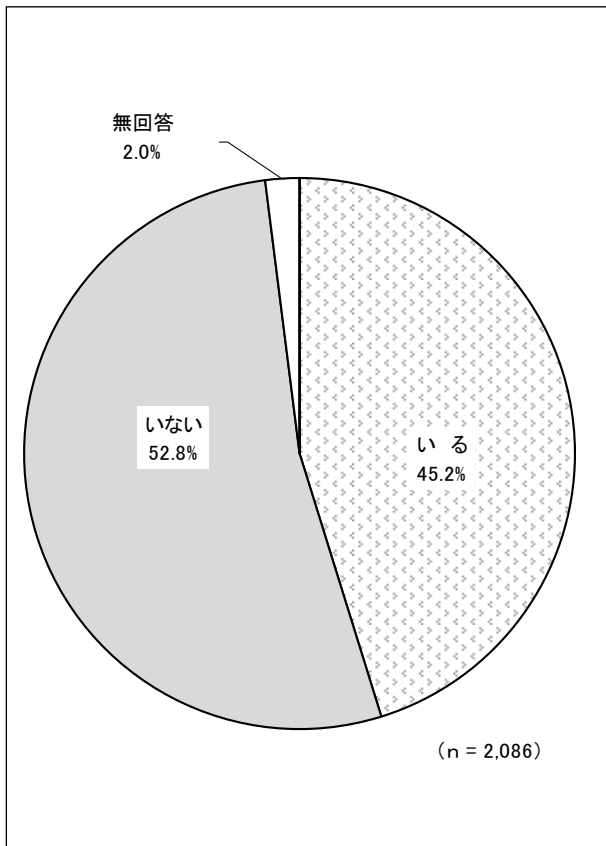
## (3) 職業



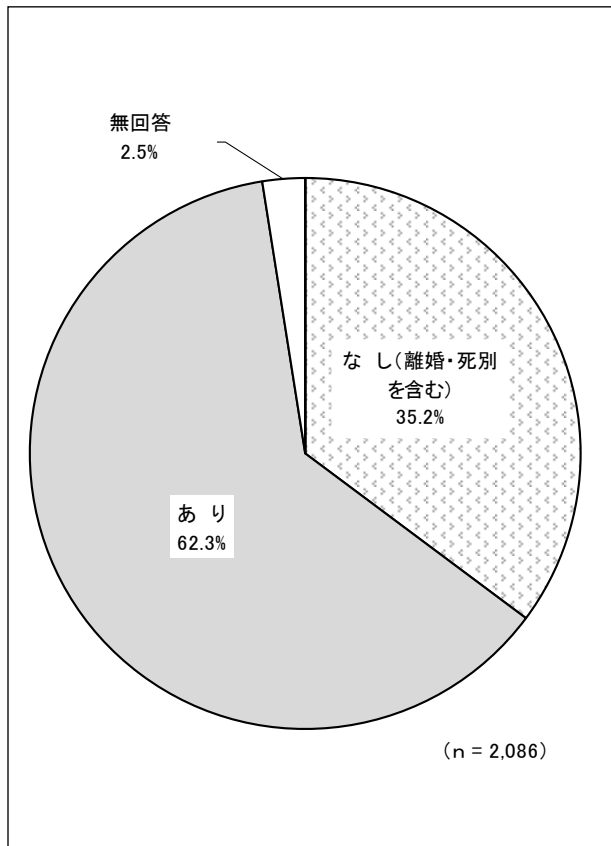
## (4) 家族構成



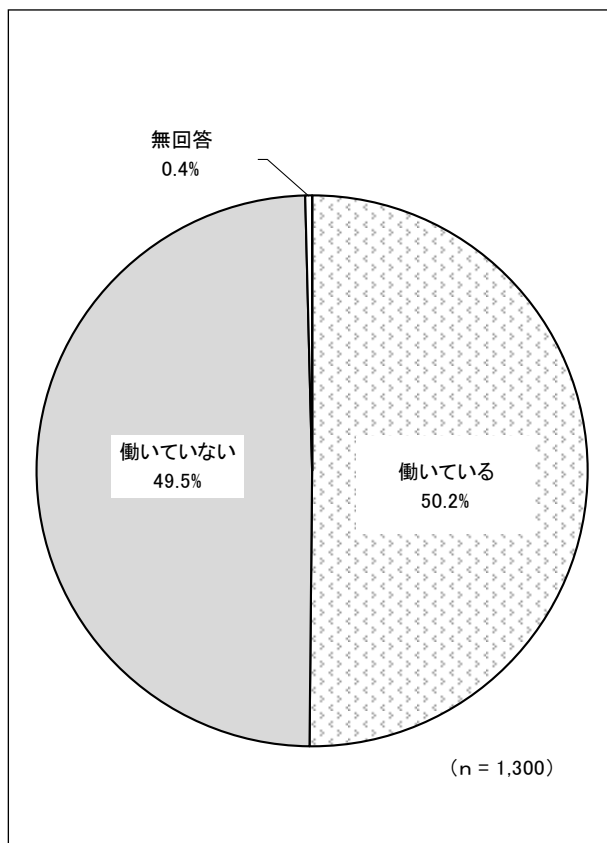
(5) 同居家族における高齢者の有無



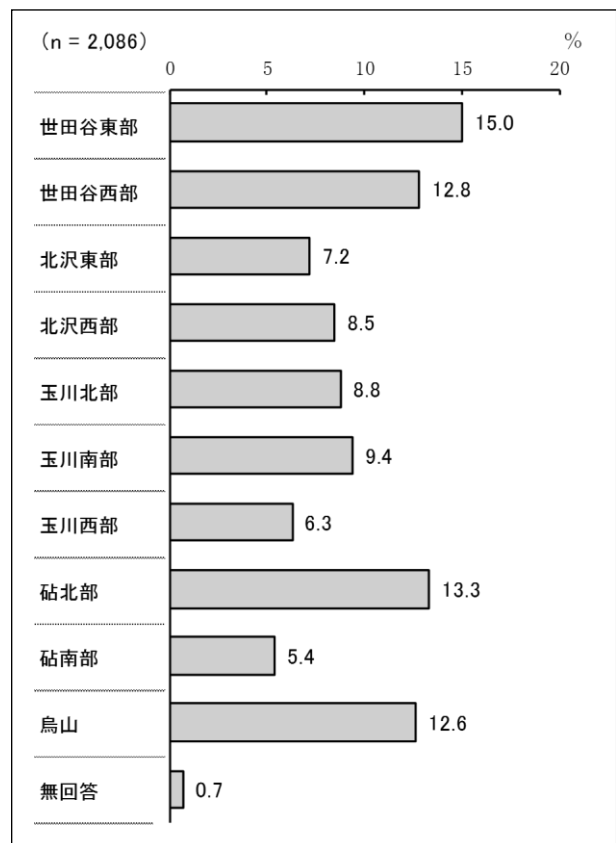
(6) 配偶者の有無



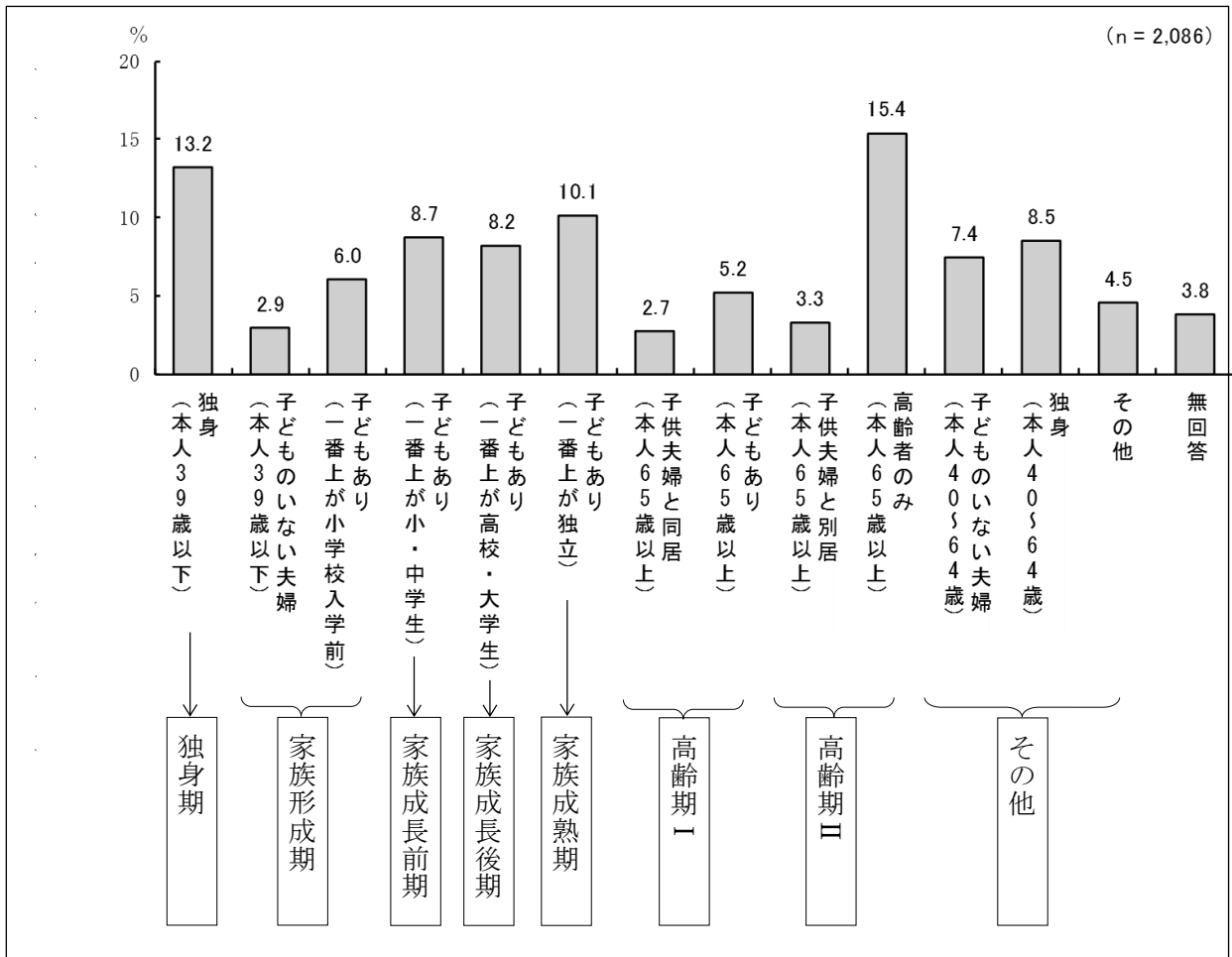
(7) 共働きの有無



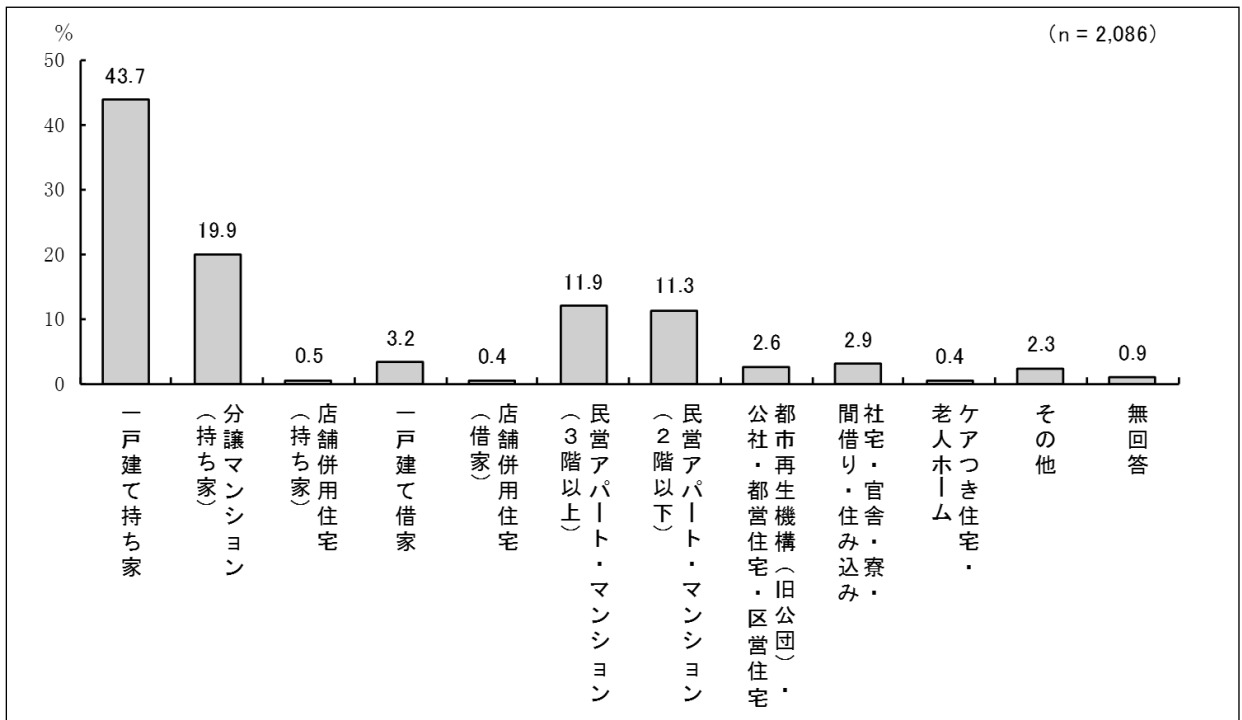
(8) 居住地区



(9) ライフステージ



(10) 住居形態





# 質問と回答



この調査は世田谷区役所が実施しています

## 令和3年度 世田谷区民意調査

この調査用紙は、質問の回答をご記入のうえ、令和3年6月4日までに、同封の封筒に入れ封をして、切手を貼らずに郵便ポストに投函していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。また、回答はインターネットでも行うことができます。インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、何とぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査に関するご質問などは、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

令和3年5月

世田谷区政策経営部 広報広聴課

### ご記入にあたってのお願い

1. 封筒の宛名が書かれているご本人がお答えください。ただし、事情により、ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方が代わりに記入していただいても構いません。
2. 回答は、最初から1問ずつ、最後までお答えください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によって、○をつける数を（1つ）（いくつでも）などと指定していますので、その範囲内でお答えください。
5. 回答は郵送またはインターネットで行うことができます。インターネットで回答した場合は紙の調査用紙の提出は不要です。

6月4日（金）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

### 郵送での回答方法

1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

### インターネットによる回答方法（パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。）

URL : <https://〇〇〇〇/>

あなたのID番号 : ●●●●

あなたのパスワード : ●●●●

入力期限 : 令和3年6月4日（金）



回答が60分を超えると自動的に接続が切断されます。回答内容は保存されるため、再度ID番号とパスワードでログインすれば続きから回答できます。

※ 調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール 03（5432）3333

午前8時～午後9時（年中無休）



(n = 2,086)

## 定 住 性

(全員の方に)

問1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(〇は1つ)

1	1年未満	3.2	5	10～18年未満	14.8
2	1～3年未満	7.9	6	18～30年未満	20.3
3	3～6年未満	8.2	7	30年以上	36.9
4	6～10年未満	8.2		(無回答)	0.5

(全員の方に)

問2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(〇は1つ)

1	十分満足している	25.5	3	まだまだ不満だ	9.6	(無回答)	0.7
2	十分とはいえないが満足している	60.9	4	きわめて不満だ	1.7		
			5	わからない	1.5		

(全員の方に)

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(〇は1つ)

1	非常に住みやすい	41.1	4	やや住みにくい	3.5
2	やや住みやすい	44.1	5	非常に住みにくい	0.3
3	どちらともいえない	10.1		(無回答)	0.8

(全員の方に)

問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(〇は1つ)

1	住みたいと思う	81.5		問4-1にお答えください。
2	あまり住みたいとは思わない	4.1		
3	住みたくない	0.6	→	問4-2にお答えください。
4	どちらともいえない	13.0	→	問5にお答えください。
	(無回答)	0.8		

▼(問4で「1」と答えた方に) (n=1,700)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1	住み慣れているから	67.9	9	教育や文化、その他の社会施設などがよく整備されているから	18.3
2	生まれた時からずっと住んでいるから	13.8	10	仕事や商売の関係で	6.7
3	自分の土地(住宅)だから	36.2	11	家賃など経済的負担が適当だから	2.0
4	住まいが広いなど住宅事情がよいから	10.8	12	子育てがしやすいから	8.2
5	自然や街並みなど生活環境がよいから	49.6	13	その他	2.4
6	交通や買い物など生活に便利だから	66.4	14	わからない	0.1
7	通勤・通学など交通の便がよいから	36.8		(無回答)	0.3
8	人間関係がよいから	15.6			

(問4で「2～3」と答えた方に) (n=98)

問4-2 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1	土地柄になじめないから	12.2	9	教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから	11.2
2	生まれ育った土地ではないから	13.3	10	仕事や商売の関係で	6.1
3	自分の土地(住宅)でないから	12.2	11	家賃など経済的負担が多いから	34.7
4	住まいが狭いなど住宅事情が悪いから	21.4	12	子育てがしにくいから	17.3
5	自然や街並みなど地域の生活環境が悪いから	21.4	13	その他	23.5
6	交通や買い物など生活に不便だから	22.4	14	わからない	0.0
7	通勤・通学など交通の便が悪いから	11.2		(無回答)	6.1
8	地域・近隣との交流がほとんどないから	9.2			

(全員の方に)

問5 あなたは、普段生活してこの地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)

《街づくり・暮らし》		《交通》	
1 公園やスポーツのできる場所がない	10.4	11 交通が不便	6.5
2 住宅が密集しすぎている	17.2	12 車など交通が激しい	10.7
3 放置自転車が多くて迷惑	4.1	13 電車の踏み切りがなかなか渡れない	11.7
4 災害時の避難場所が近くにない	3.9	14 道路が狭くて危険	24.4
5 地域の治安が悪くなった	3.7	-----	
6 落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	1.5	《環境・ごみ》	
7 子育て環境が整備されていない	4.2	15 騒音や振動が気になる	7.5
8 区民利用施設が使用しにくい	10.5	16 空気の汚れがひどい	2.3
9 高齢者施設が使用しにくい	4.5	17 空き缶・たばこ等のポイ捨て	8.3
10 買い物が不便	7.6	18 路上喫煙などのたばこマナーが悪い	9.1
		19 ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	6.4
		20 カラス等の鳥獣による被害	14.1
		21 犬、猫などのペット公害	5.7
		22 その他	4.2
		23 特にない	12.9
		(無回答)	7.6

## 区 政

(全員の方に)

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

《健康・福祉》		《暮らし・コミュニティ》	
1 健康づくりの推進	9.3	12 地域コミュニティの促進	4.9
2 見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり	9.8	13 防犯・地域安全の対策	21.3
3 高齢者福祉の充実	19.4	14 消費者の支援	4.2
4 障害者福祉の充実	4.0	15 多様性の尊重(人権尊重・男女共同参画の推進など)	5.0
5 生活困窮者への支援	7.8	16 文化・芸術の推進	6.7
-----		17 生涯スポーツの推進	4.5
《子ども若者・教育》		18 清掃・資源リサイクルの推進	7.3
6 若者が力を発揮する地域づくり	8.4	19 産業振興・雇用促進	2.3
7 生涯学習の充実	4.2	-----	
8 ICT(情報通信技術)の推進	8.7	《都市づくり》	
9 子どもが育つ環境づくり	16.9	20 災害に強いまちづくり	29.8
10 質の高い学校教育の推進	9.0	21 住宅政策	3.3
11 虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	9.4	22 公園・緑地の整備	8.1
		23 自然環境の保護	7.8
		24 都市景観の保全や創出	3.6
		25 交通ネットワークの整備	9.4
		26 道路の管理保全	6.3
		27 その他	1.3
		28 特にない	3.7
		(無回答)	11.0

## 職員 応 対

(全員の方に)

問7 区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。(○は1つ)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">1 とても良かった 28.3</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">2 やや良かった 36.1</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">3 どちらともいえない 28.4</td> <td style="padding: 2px;">→ 問8にお答えください。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">4 やや悪かった 3.0</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">5 とても悪かった 0.9</td> <td style="padding: 2px;">→ 問7-2にお答えください。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">(無回答) 3.2</td> <td></td> </tr> </table>	1 とても良かった 28.3		2 やや良かった 36.1		3 どちらともいえない 28.4	→ 問8にお答えください。	4 やや悪かった 3.0		5 とても悪かった 0.9	→ 問7-2にお答えください。	(無回答) 3.2		<p>問7-1にお答えください。</p>
1 とても良かった 28.3													
2 やや良かった 36.1													
3 どちらともいえない 28.4	→ 問8にお答えください。												
4 やや悪かった 3.0													
5 とても悪かった 0.9	→ 問7-2にお答えください。												
(無回答) 3.2													

(問7で「1~2」と答えた方に) (n=1,344)

問7-1 印象が良かった点はどれですか。(○は2つまで)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1 説明がわかりやすかった 28.7</td> <td style="padding: 2px;">4 親切・丁寧な対応だった 60.9</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2 応対が正確・迅速だった 37.0</td> <td style="padding: 2px;">5 言葉遣いが丁寧だった 8.8</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">3 さわやかな対応だった 9.3</td> <td style="padding: 2px;">(無回答) 1.9</td> </tr> </table>	1 説明がわかりやすかった 28.7	4 親切・丁寧な対応だった 60.9	2 応対が正確・迅速だった 37.0	5 言葉遣いが丁寧だった 8.8	3 さわやかな対応だった 9.3	(無回答) 1.9	
1 説明がわかりやすかった 28.7	4 親切・丁寧な対応だった 60.9						
2 応対が正確・迅速だった 37.0	5 言葉遣いが丁寧だった 8.8						
3 さわやかな対応だった 9.3	(無回答) 1.9						

(問7で「4~5」と答えた方に) (n=82)

問7-2 印象が悪かった点はどれですか。(○は2つまで)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1 説明がわかりにくい 23.2</td> <td style="padding: 2px;">4 不親切な対応だった 57.3</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2 応対で待たされた 28.0</td> <td style="padding: 2px;">5 言葉遣いが悪い 11.0</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">3 たらい回しにされた 23.2</td> <td style="padding: 2px;">(無回答) 2.4</td> </tr> </table>	1 説明がわかりにくい 23.2	4 不親切な対応だった 57.3	2 応対で待たされた 28.0	5 言葉遣いが悪い 11.0	3 たらい回しにされた 23.2	(無回答) 2.4	
1 説明がわかりにくい 23.2	4 不親切な対応だった 57.3						
2 応対で待たされた 28.0	5 言葉遣いが悪い 11.0						
3 たらい回しにされた 23.2	(無回答) 2.4						

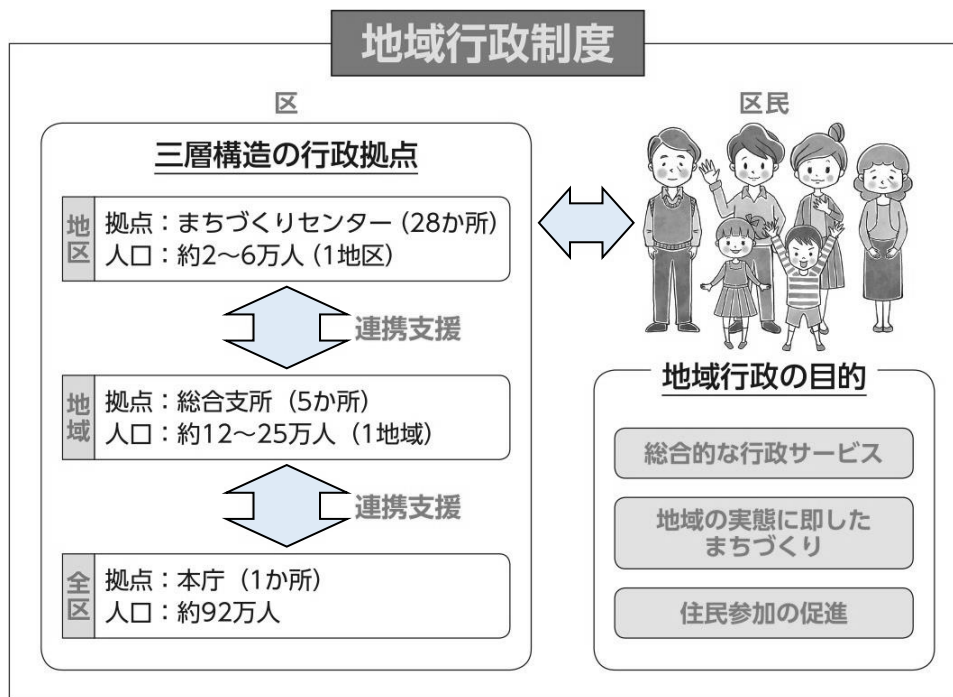
(全員の方に)

問8 今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。(○は3つまで)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1 身だしなみ 3.7</td> <td style="padding: 2px;">5 親切・丁寧な対応 43.1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2 わかりやすい説明 45.9</td> <td style="padding: 2px;">6 待たせない事務処理の工夫 53.6</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">3 名札の着用 3.9</td> <td style="padding: 2px;">7 窓口を明るい雰囲気に変える 10.6</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">4 さわやかな挨拶 6.5</td> <td style="padding: 2px;">8 プライバシーへの配慮 15.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">(無回答) 12.8</td> </tr> </table>	1 身だしなみ 3.7	5 親切・丁寧な対応 43.1	2 わかりやすい説明 45.9	6 待たせない事務処理の工夫 53.6	3 名札の着用 3.9	7 窓口を明るい雰囲気に変える 10.6	4 さわやかな挨拶 6.5	8 プライバシーへの配慮 15.3		(無回答) 12.8	
1 身だしなみ 3.7	5 親切・丁寧な対応 43.1										
2 わかりやすい説明 45.9	6 待たせない事務処理の工夫 53.6										
3 名札の着用 3.9	7 窓口を明るい雰囲気に変える 10.6										
4 さわやかな挨拶 6.5	8 プライバシーへの配慮 15.3										
	(無回答) 12.8										

## 地域行政制度

区では5つの地域に総合支所、28の地区にまちづくりセンターを設置して、区民に身近な行政を行う「地域行政制度」を導入しています。いくつかの県や政令指定都市の人口に肩を並べる世田谷区で、地域の実情や区民の声を受け止めた、きめ細やかな行政サービスやまちづくりを行うために、平成3年にこの制度をスタートしました。



地域行政制度導入から30年が経ち、高齢化の進展、地域活動の担い手の不足、情報技術の進展など生活環境が大きく変化する中で、住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域社会の実現に向け、地域コミュニティの醸成を促進し、参加と協働によるまちづくりや住民参加の機会づくりを進める必要があることから、現在、条例制定に向けた検討を進めています。

この条例では地域行政制度の基本理念やその目標、区民主体のまちづくりにおける区民と区の役割、三層構造（まちづくりセンター、総合支所及び本庁）に基づく推進体制、その他の地域行政制度に関する基本的事項を定めます。区民と区がそれぞれの役割を共有するとともに、三層構造における住民参加や行政運営のあり方を整理することにより、まちづくりをさらに推進し、住民自治を将来に向け持続可能なものにしていきます。

(全員の方に)

問9 あなたは、地域行政制度による三層構造の行政拠点を知っていますか。(○は1つ)

1	本庁、総合支所、まちづくりセンターでどのようなことを行っているか知っている	7.6
2	本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている	46.0
3	本庁、総合支所があることは知っているが、まちづくりセンターは知らない	21.7
4	本庁、まちづくりセンターがあることは知っているが、総合支所は知らない	7.1
5	本庁があることしか知らない	15.0

(無回答)

2.6

(全員の方に)

問10 あなたは、地域行政制度の条例制定に向けて検討をしていることを知っていますか。(〇は1つ)

1 検討状況まで知っている	1.1	3 知らない	86.1
2 検討状況は知らないが、検討していることは知っている	10.6	(無回答)	2.2

(全員の方に)

問11 あなたは、地域行政制度の条例にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

1 地域コミュニティや地域活動が活発になること	24.6
2 多様な区民や活動団体が協力してまちづくりに取り組めること	15.7
3 まちの将来像や課題が明確になること	28.7
4 多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること	34.5
5 総合支所やまちづくりセンターで取り扱う業務が増えること	25.0
6 行政のデジタル化を進め、来庁せずにできる行政手続きが増えること	44.1
7 区職員のまちづくりに関する専門性が高まること	13.8
8 その他	1.6
9 特にない	10.5
(無回答)	2.4

まちづくりセンターは、平成17年度に「窓口サービスの効率化」と「地区まちづくり支援の強化」を進めるため、当時27か所の出張所のうち行政手続きを受ける窓口を7か所に集約し、20か所は地区まちづくり支援を強化するまちづくり出張所(現まちづくりセンター)として整理し、現在、28か所に設置しています。現在、行政手続きを受ける窓口は、総合支所くみん窓口が5か所、出張所が5か所あります。

まちづくりセンターでは、地区防災力の向上や、様々な活動団体のネットワークづくりの支援などの地区まちづくりに取り組むとともに、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)、社会福祉協議会と協力して、身近な福祉の相談窓口を開設し、区民の方の様々な相談をお受けしています。

(全員の方に)

問12 あなたは、区民に一番身近なまちづくりセンターにどのようなことを期待しますか。

(〇はいくつでも)

1 活動団体が開催するイベントなどの準備支援や新たな活動に対する企画支援・相談	13.1
2 活動団体のPR支援や個人・団体間の紹介・マッチング	10.6
3 活動団体の活動の場所や資金などに対する相談・手続き支援	9.5
4 防災訓練や災害への備えに関する相談や情報・物品の提供	38.5
5 地区の見どころやイベントなど地区の魅力発信・紹介	18.6
6 日常生活の困りごとの相談	38.0
7 行政手続きに関する窓口サービス	59.9
8 まちづくりセンターの再配置や増設	3.5
9 その他	1.4
10 特に期待しない	7.6
(無回答)	1.7

(問12で「7」と答えた方に) (n=1,249)

問12-1 あなたはまちづくりセンターの窓口で、どのような行政手続きができることに期待しますか。

(○はいくつでも)

1	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付	76.0
2	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い	30.4
3	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い	41.2
4	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き	30.6
5	区外からの転入届	31.0
6	転居届・区外への転出届	37.0
7	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出	42.8
8	高齢や障害に関する手続き	38.7
9	生活困窮者に関する手続き	15.9
10	資金貸付に関する手続き	9.1
11	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き	52.8
12	住宅や建築物等に関する手続き	19.4
13	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き	20.7
14	その他	1.8
15	特に期待しない	5.4
	(無回答)	0.1

## 福祉と医療

(全員の方に)

問13 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。

(○は1つ)

1	利用したことがある	11.7	3	名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている	9.3
2	名称は知っている	24.0	4	知らない	54.0
				(無回答)	1.0

(全員の方に)

問14 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。(○は1つ)

1	そう思う	34.9	3	あまりそう思わない	6.4
2	どちらかといえばそう思う	34.1	4	そう思わない	2.4
			5	わからない	21.5
				(無回答)	0.6

(全員の方に)

問15 あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。

(○は1つ)

1 自分、または身近な人が利用している	9.4
2 利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いも知っている)	21.7
3 利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いは知らない)	41.9
4 知らない	26.0

(無回答)

1.0

### 悩みや不安の相談先

(全員の方に)

問16 あなたは、悩みや不安、ストレスを感じたときに相談できる、医療機関や行政機関の専門窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	32.6	2 知らない	66.4
---------	------	--------	------

(無回答)

1.0

(全員の方に)

問17 あなたは、自分自身では抱えきれない悩みや不安、ストレスを感じたときに、どのようにしますか。

(○は1つ)

1 専門の相談窓口相談する	8.5	3 誰にも相談しない	13.7
2 家族や友人など身近な人に相談する	68.5	4 わからない	7.9

(無回答)

1.4

### 高齢者の居場所

区では、高齢者の健康寿命の延伸、フレイル予防等の観点から、「高齢者の地域参加促進施策」として、高齢者が気軽に立ち寄り、過ごすことができる「居場所づくり」に取り組んでいます。

(全員の方に)

問18 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるものとして、あなたの気持ちに近いものはどれですか

(10～50歳代の方はご自身が高齢になったときに何を求めたいと思いますか)。(○は3つまで)

1 活気があり刺激がもらえる	20.8
2 知り合いなどに会えて安心して過ごせる	33.6
3 多くの人に出会えて一緒に楽しめる	22.2
4 心地よくゆっくり寛げる	53.5
5 あまり人に干渉されずに自由に過ごせる	37.8
6 困ったときに専門的なサポートが受けられる	64.8
7 わからない	2.8

(無回答)

2.0

(全員の方に)

問19 高齢者の自宅以外での過ごし方として、あなたの気持ちに近いものはどれですか(10~50歳代の方はご自身が高齢になったときにどう過ごしたいと思えますか)。(〇は3つまで)

1 お茶を飲んだり、おしゃべりをして人と交流する	32.6
2 自分のペースで趣味を楽しむ	53.7
3 時々、興味のある*講座等に参加する	31.7
4 継続的に興味のある*講座等に参加する	15.0
5 体力維持のために身体を動かす	62.4
6 何も決めずゆっくり過ごす	21.2
7 ボランティアなど社会的な活動をする	20.8
8 わからない	2.2 (無回答) 2.3

\*講座等・・・例えば、囲碁・将棋・カラオケ・麻雀・手芸・料理・絵画など

### 障害者を支える取り組み

(全員の方に)

問20 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(〇は1つ)

1 内容まで知っている	4.9	2 名称は知っている	21.5	3 知らない	72.2
(無回答) 1.4					

### 子育て・子どもを取り巻く環境

(全員の方に)

問21 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。(〇は1つ)

1 とても子育てしやすいと感じる	5.2	3 あまり子育てしやすいと感じない	14.0
2 子育てしやすいと感じる	45.8	4 まったく子育てしやすいと感じない	1.5
		5 わからない	31.2
(無回答) 2.2			

(全員の方に)

問22 あなたは、18歳未満の子どもを子育て中、またはあなたご自身もしくは配偶者が妊娠中ですか。

(〇は1つ)

1 はい	21.3	2 いいえ	75.0
(無回答) 3.6			

(問22で「1」と答えた方に) (n=445)

問22-1 あなたは、子育てについて相談できる人が身近な地域にいますか。(〇は1つ)

1 いる	78.0	2 いない	20.9
(無回答) 1.1			



(全員の方に)

問23 あなたは、「世田谷版ネウボラ」という、妊娠期から就学前までの乳幼児を育てているご家庭を切れ目なく支えるため、医療機関や地域の支援の担い手と連携して相談支援していく取り組みを行っていることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	8.5	2 知らない	89.1
		(無回答)	2.4

(全員の方に)

問24 近所の子どもたちが外で遊ぶことへの大人の関わりについて、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1 子どもたちがもっと外で遊べるように、何らかの協力をしたい	9.4
2 子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい	35.6
3 大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だと思う	46.2
4 子どもたちが外で遊ぶことには、親や学校、保育園など関係者が関われば良い	4.8
5 子どもたちが外で遊ぶことについて大人が支える必要はない	1.3
	(無回答) 2.7

## 地域コミュニティ

(全員の方に)

問25 あなたは、身近な地域の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 参加している	12.9	問25-1、問25-2にお答えください。
2 今は参加していないが、今後参加してみたい	12.8	▶ 問26にお答えください。
3 参加していない	71.8	
	(無回答) 2.4	

▼ (問25で「1」と答えた方に) (n=270)

問25-1 参加している地域団体等は何ですか。(〇はいくつでも)

1 町会・自治会などの地域活動	45.6
2 関心のある分野での、NPO (社会貢献をする市民活動団体) やボランティア	20.7
3 文化活動やスポーツなどの地域サークル	34.8
4 コミュニティ・ビジネス (ビジネスの手法で、地域住民に公共的なサービスを提供する事業 例: 有償ボランティアによる家事介護事業など)	4.1
5 その他	13.0
	(無回答) 1.9

(問25で「1」と答えた方に) (n=270)

問25-2 参加している地域活動はどんなことですか。(〇はいくつでも)

1 子育て支援活動	12.6	6 介護予防・健康づくり活動	7.0
2 青少年健全育成活動	5.9	7 スポーツ活動	16.7
3 高齢者支援活動(見守り、家事支援など)	6.3	8 文化・芸術活動	14.1
4 お祭り・イベント	23.0	9 環境美化・リサイクル活動	14.4
5 防犯・防災活動	15.9	10 交通安全活動	6.3
		(無回答)	21.5

## 公 共 施 設

世田谷区の公共施設は約900施設あり、施設の整備・維持管理にかかる経費は400億円を超えています(一般会計予算の1割強を占めています)。財政を健全に保ちながら公共施設の量と質、安全性を確保していくため、「世田谷区公共施設等総合管理計画(平成29年3月)」を策定し取り組みを進めています。

現在一部改訂を行っており、重点方針のひとつに「区民利用施設の更なる有効活用」をうたっています。

(全員の方に)

問26 あなたは、身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所を知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	71.6	2 知らない	27.1
		(無回答)	1.3

(全員の方に)

問27 あなたは、身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所をどの程度利用しますか。(〇は1つ)

1 毎日	0.1	4 半年に数回	2.4
2 週に数回	1.5	5 年に数回	5.8
3 月に数回	4.8	6 ほとんど利用していない	82.8
		(無回答)	2.6

▶問28にお答えください。

(問27で「1~5」と答えた方に) (n=305)

問27-1 身近な区民集会施設では地域のコミュニティの形成のため様々なことに利用できますが、どのような目的で利用していますか。以下の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1 ダンス・体操	21.0	9 絵画・書道	4.3
2 ヨガ・気功	3.3	10 料理講習	1.6
3 空手・少林寺拳法・太極拳	2.0	11 日本舞踊	0.7
4 卓球	8.9	12 合唱・コーラス	5.9
5 会議・学習会	28.2	13 楽器練習	4.6
6 俳句・詩歌	1.3	14 演劇・読み合わせ	1.0
7 手芸・華道・茶道	4.9	15 その他	32.5
8 囲碁・将棋	2.0	(無回答)	2.0

\*施設により利用可能な用途は異なります。

(全員の方に)

問28 あなたが、ダンス、ヨガ、空手、卓球など体を動かす目的に利用する場合はどの程度の距離なら利用しようと思いますか。(〇は1つ)

1 現在と同程度 (区内77施設)	22.1	4 中学校通学区域より遠くても利用する	2.9
2 小学校通学区域程度 (区内61施設)	26.6	5 区内ならあまり距離は気にしない	5.6
3 中学校通学区域程度 (区内29施設)	13.0	6 わからない	27.3

(無回答) 2.5

(全員の方に)

問29 あなたが、会議・学習会に利用する場合はどの程度の距離なら利用しようと思いますか。(〇は1つ)

1 現在と同程度 (区内77施設)	22.4	4 中学校通学区域より遠くても利用する	3.6
2 小学校通学区域程度 (区内61施設)	24.6	5 区内ならあまり距離は気にしない	5.9
3 中学校通学区域程度 (区内29施設)	14.7	6 わからない	26.5

(無回答) 2.3

(全員の方に)

問30 あなたが、俳句、手芸、絵画、合唱、楽器練習など芸術活動に利用する場合はどの程度の距離なら利用しようと思いますか。(〇は1つ)

1 現在と同程度 (区内77施設)	21.3	4 中学校通学区域より遠くても利用する	3.5
2 小学校通学区域程度 (区内61施設)	24.0	5 区内ならあまり距離は気にしない	6.3
3 中学校通学区域程度 (区内29施設)	14.8	6 わからない	27.5

(無回答) 2.7

## 災害時の備え

(全員の方に)

問31 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	心がけている	いえるほど心がけている	どちらかといえば心がけていない	心がけていない	わからない	(無回答)
(1) 防災知識の向上	20.5	50.1	17.6	6.8	3.4	1.6
(2) 地区での避難所運営訓練や防災塾への参加	3.5	12.1	27.3	42.7	11.7	2.6
(3) *避難行動要支援者の支援	3.1	12.7	24.4	35.3	21.3	3.3

\*避難行動要支援者・・・要介護高齢者等や障害者のうち、身体の障害等の理由により、災害時に自力で自宅外へ避難することが困難な方や、自ら救出を求めることが困難な方。

(全員の方に)

問32 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

1 1～2日分	21.7	4 1週間分以上	12.0
2 3日分	32.0	5 水や食料の備蓄はしていない	13.9
3 4～6日分	19.5	(無回答)	0.9

(全員の方に)

問33 あなたは、地区防災計画を知っていますか。(〇は1つ)

1 内容まで知っている	3.5	2 名称は知っている	45.1	3 知らない	50.4
(無回答)					1.0

## 男女共同参画の推進

区では、第二次男女共同参画プランを平成29年3月に策定しました。プランでは、「あらゆる分野における女性活躍推進」、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の着実な推進」、「女性に対する暴力の根絶」、「すべての人が尊厳をもって生きることができる社会の構築」という4つの目標を掲げ、男女共同参画社会の実現に向けて様々な施策に取り組んでいます。

(全員の方に)

問34 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。(〇は1つ)

1 そう思う	2.6	3 どちらかといえばそう思わない	22.4	
2 どちらかといえばそう思う	13.8	4 そう思わない	60.7	
(無回答)				0.5

(全員の方に)

問35 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)を知っていますか。(〇は1つ)

1 法律も内容も知っている	27.1	3 知らない	10.8
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	61.6	(無回答)	0.4

(全員の方に)

問36 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス=夫婦(事実婚・離婚後も含む)や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

1 暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである	67.4	
2 暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う	21.8	
3 双方の関係の問題であり、第三者が関与するべきではない	3.0	
4 わからない	7.2	
(無回答)		0.6

(全員の方に)

問37 あなたは、DV被害にあったとき、どのようにしますか。(〇は1つ)

1 専門の相談窓口相談する	39.5	3 誰にも相談しない	3.7	
2 家族や知人など身近な人に相談する	40.7	4 わからない	15.3	
(無回答)				0.8

(全員の方に)

問38 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	80.3	2 知らない	19.1	
(無回答)				0.6

## 犯罪被害者支援

犯罪被害を受けた方の相談窓口は、警察署、東京都、世田谷区など複数あります。それぞれ、相談内容によって、必要な支援先へ繋いでいます。

(全員の方に)

問39 あなたが、以下の犯罪被害者とその家族または遺族の支援のための相談窓口の中で、知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

1 警視庁(警察署)の相談窓口(犯罪被害者支援 ホットラインなど) 66.0	6 配偶者暴力相談支援センター 8.2
2 公益財団法人被害者支援都民センター(東京都 犯罪被害者総合相談窓口) 6.5	7 弁護士会による犯罪被害者相談 17.5
3 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支 援センター(SARC東京) 4.9	8 法テラス(日本司法支援センター) 27.8
4 世田谷区の犯罪被害者等の相談窓口(人権・男女 共同参画担当課) 9.3	9 その他 0.8
5 児童相談所 60.2	10 知っている相談窓口はない 13.7
(無回答) 2.0	

## 多文化共生

世田谷区には令和3年4月1日現在、約22,000人(人口の約2.4%)の外国人の方が住んでおり、身近なところで外国人の方と接する機会が増えてきています。

こうした状況を踏まえ、区は、外国人も日本人も共に生き活きと暮らすことができる、「多文化共生」社会の実現を目指し、世田谷をさらに魅力あるまちにするよう取り組んでいます。

(全員の方に)

問40 あなたは、「外国人と日本人が共に暮らす」という視点からみて、区が多文化共生社会の実現に向けた施策が充実していると思いますか。(〇は1つ)

1 そう思う 4.1	3 どちらかといえばそう思わない 42.6
2 どちらかといえばそう思う 32.8	4 そう思わない 15.1
(無回答) 5.4	

(全員の方に)

問41 区では、多様な文化を理解し合える交流イベント等を開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人に対する偏見や差別が解消されていると思いますか。(〇は1つ)

1 そう思う 4.0	3 どちらかといえばそう思わない 22.1
2 どちらかといえばそう思う 30.0	4 そう思わない 6.7
	5 わからない 35.9
(無回答) 1.3	

(全員の方に)

問42 区の情報が多言語や、「やさしい日本語」などにより区内の外国人にもわかりやすく発信されていると思いますか。(〇は1つ)

1	そう思う	3.5	3	どちらかといえばそう思わない	20.9
2	どちらかといえばそう思う	19.5	4	そう思わない	8.4
			5	わからない	46.2

(無回答)

1.4

## 文化活動

(全員の方に)

問43 あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。

(〇はそれぞれ1つずつ)

	行ったことがある	知っているが行ったことはない	聞いたことがある	知らない	(無回答)
(1) 世田谷美術館や世田谷文学館、世田谷パブリックシアターなどの公立の文化施設	59.9	21.0	6.5	11.4	1.2
(2) 五島美術館や静嘉堂文庫美術館、大学付属の博物館などの民間の文化施設	26.9	33.2	10.8	27.8	1.3
(3) 世田谷代官屋敷や郷土資料館、次大夫堀公園民家園、野毛大塚古墳などの歴史的な文化資源	46.8	21.8	9.9	20.4	1.2

(全員の方に)

問44 あなたは、区内の文化・芸術に親しめる環境に満足していますか。(〇は1つ)

1	満足している	8.6	3	どちらかといえば満足していない	15.3
2	どちらかといえば満足している	41.6	4	満足していない	5.9
			5	わからない	27.6

(無回答)

1.0

## スポーツ

区では、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

(全員の方に)

問45 あなたがこの1年間にスポーツや運動(ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む)を行った回数はどのくらいですか。(〇は1つ)

1	週に3回以上	19.9	4	3か月に1~2回	5.4
2	週に1~2回	25.6	5	年に1~3回	5.8
3	月に1~3回	14.8	6	行わなかった	27.3

(無回答)

1.2

区では、東京2020大会の開催を障害者スポーツ推進の最大の好機として捉え、スポーツ・レクリエーションを通じて障害のある人とない人の交流を促進し、区民の※パラスポーツへの関心を高めるとともに、障害理解を促進することを目指して取り組みを進めています。

※パラスポーツ・・日本障がい者スポーツ協会は、令和3年3月、「障害者スポーツ」という言葉を「パラスポーツ」という言葉に統一する方針を決めました。

これは、「パラスポーツ」という言葉の一般的な浸透に加え、障害のある人もない人も共に楽しめるスポーツとして、障害者スポーツが今後も「パラスポーツ」という表現を通じてこれまで以上に普及していくことを目的としたもので、区としてもこの方針に賛同し、パラスポーツと表記しております。

(全員の方に)

問46 あなたが観戦(会場での観戦、テレビ観戦等)してみたい、またはやってみたい(イベント会場での体験を含む)と思うパラスポーツはどれですか。(以下の項目1~22の競技は、東京2020パラリンピック競技大会実施競技です。)(○は3つまで)

1	アーチェリー	10.2	9	ゴールボール	3.7	17	テコンドー	1.2
2	陸上競技	19.8	10	柔道	3.8	18	トライアスロン	2.8
3	バドミントン	9.3	11	パワーリフティング	0.4	19	車いすバスケットボール	18.8
4	ボッチャ	9.2	12	ボート	1.0	20	車いすフェンシング	1.0
5	カヌー	3.0	13	射撃	6.3	21	車いすラグビー	5.9
6	自転車トラック・レース	2.1	14	シッティングバレーボール	2.1	22	車いすテニス	16.0
7	馬術	12.5	15	水泳	18.7	23	その他のパラスポーツ競技	0.5
8	5人制サッカー	5.5	16	卓球	7.9	24	特になし	28.3

(無回答)

3.1

(全員の方に)

問47 区では、(公益財団法人)世田谷区スポーツ振興財団と連携し、現在、以下のパラスポーツの取り組みを行っております。あなたが、良いと思う取り組みはどれですか。(○は3つまで)

1	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施	27.0
2	障害のある人とない人が共に楽しめるスポーツ大会等の実施	34.7
3	パラスポーツを体験する機会の充実(ブース・紹介コーナーの設置など)	15.3
4	パラスポーツ選手(パラリンピアン)との交流の実施	11.0
5	パラスポーツに関する広報の充実	11.3
6	パラスポーツの用具の貸し出し	8.3
7	スポーツ施設のバリアフリー化(駐車場、トイレ、更衣室、スロープ)	45.3
8	スポーツ施設に障害について専門知識があるスタッフの配置	14.0
9	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成	18.0
10	スポーツ施設利用における障害者の優先時間帯等の設定(プールの優先レーンなど)	8.8
11	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施	23.9
12	その他	5.3

(無回答)

5.6

(全員の方に)

問48 あなたは、どのような内容であれば、今後パラスポーツに参加したいと思いますか。

(○はいくつでも)

1	スポーツ・レクリエーションを通じた障害のある人とない人との交流	24.8
2	特定のパラスポーツ種目の交流大会	7.1
3	継続・定期的なパラスポーツ教室	9.0
4	イベントや祭り等でのパラスポーツの体験ブース・紹介コーナー	30.7
5	スタッフ、ボランティア等の人材育成講座	13.3
6	その他	1.6
7	特にない	42.3
8	既にパラスポーツに参加したことがある。	0.4

(無回答)

2.7

世田谷区は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において区立総合運動場がアメリカ選手団のキャンプ地に決定したことをきっかけに、アメリカ合衆国の「ホストタウン」及び「共生社会ホストタウン」として内閣官房に登録されました。

ホストタウン : 東京2020大会の開催により多くの選手・観客等が来訪することをきっかけに、地域の活性化等を進め、選手等との交流をするなど、相手国と人的・経済的・文化的な相互交流を図る自治体

共生社会ホストタウン : ホストタウンのうち、パラリンピアンとの交流やユニバーサルデザインのまちづくり、心のバリアフリーなどに取り組む自治体



<世田谷区のホストタウン・共生社会ホストタウンロゴマーク>

(全員の方に)

問49 あなたは、世田谷区がアメリカ合衆国のホストタウン・共生社会ホストタウンであることについて、上記のロゴマークを含めて知っていますか。(○は1つ)

1	ホストタウン・共生社会ホストタウンであることも知っているし、ロゴも知っている (見たことがある)	8.0
2	ホストタウン・共生社会ホストタウンであることは知っているが、ロゴは知らなかった (見たことがない)	15.5
3	ホストタウン・共生社会ホストタウンであることは知らなかったが、ロゴは知っている (見たことがある)	3.1
4	どちらも知らなかった	71.7

(無回答)

1.7



## たばこマナー

区は、喫煙する人としない人が相互に理解を深め、地域のたばこマナーが向上するまちづくりの実現をめざすため、「世田谷区たばこルール」を策定し、平成30年10月より区内全域の道路、公園を喫煙禁止にしました。

(全員の方に)

問50 あなたは、現在お住まいの地域における路上喫煙やポイ捨て等たばこマナーに満足していますか。(〇は1つ)

1 満足している	11.4	3 どちらかといえば満足していない	19.9
2 どちらかといえば満足している	31.6	4 満足していない	28.3
		5 どちらでもない(気にしていない)	7.7
		(無回答)	1.0

## 農 業

(全員の方に)

問51 あなたは、農業公園(喜多見農業公園・瀬田農業公園分園)を知っていますか。(〇は1つ)

1 両方行ったことがある	1.1
2 喜多見農業公園にだけ行ったことがある	1.3
3 瀬田農業公園分園にだけ行ったことがある	2.4
4 行ったことはないが名称は両方知っている	9.0
5 行ったことはないが喜多見農業公園は知っている	2.0
6 行ったことはないが瀬田農業公園分園は知っている	2.2
7 知らない	81.2
(無回答)	0.9

## 産 業

2月20日より、スマートフォンを活用した非接触で買い物ができる電子決済アプリ「せたがやPay」が開始されました。世田谷区が発行するプレミアム付区内共通商品券の電子版を「せたがやPay」で発行しています。

(全員の方に)

問52 あなたは、せたがやPayを知っていますか。また、利用したことがありますか。(〇は1つ)

1 利用したことがある	1.2	2 知っているが、利用したことはない	20.9	3 知らない	77.0
(無回答)					0.8

(全員の方に)

問53 せたがやPayでは単なる決済ツールだけではなく、利用者への通知、アンケート、ポイント付与など、様々なサービスへの活用も検討しています。活用できる機能としてどのようなものを希望されますか。(〇はいくつでも)

1	住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い	37.2
2	税金や保険料などの支払い	31.2
3	区民施設利用時の施設利用料支払い	22.2
4	高齢者サービスや子育てサービスなどのクーポン券の電子版が使える機能	15.9
5	行政情報が通知される機能	17.5
6	アンケート回答やボランティア参加などへのポイント付与	14.8
7	イベントの申し込みができる機能	19.1
8	商店街や地域のイベント情報などが通知される機能	20.9
9	お気に入りのお店からの情報が受け取れる機能	12.6
10	他人にポイントを譲渡したり送金できる機能	7.0
11	オススメのお店やスポットを投稿できる機能	6.3
12	チャージ方法(現在はセブン銀行のみ)の充実(クレジットカード、銀行口座からのチャージ)	38.9
	(無回答)	17.6

## 気 候 危 機

区は、深刻化する気候危機の状況を踏まえ、区民・事業者の皆さんと地球温暖化の問題を共有し、共に行動していくため、昨年10月16日に東京23区では初となる「世田谷区気候非常事態宣言」を行いました。宣言では、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことも表明しました。

(全員の方に)

問54 あなたは、世田谷区が気候非常事態宣言を行い、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロ等をめざしていることを知っていますか。(〇は1つ)

1	知っている	14.6	2	知らない	84.6
				(無回答)	0.9

(全員の方に)

問55 あなたは、地球温暖化に伴う気候危機について、どのように感じていますか。(〇は1つ)

1	極めて不安に思う	52.2	3	ほとんど不安はない	4.6
2	少し不安に思う	36.3	4	よく分からない	6.3
				(無回答)	0.7

(全員の方に)

問56 気候危機への対策として、区として重点的に行ってほしい取り組みを選んでください。

(〇はいくつでも)

1	風水害(台風や短時間豪雨)や猛暑などの災害への対策	70.9
2	樹木の保全や新たな公園緑地整備などみどりの保全や創出	50.3
3	区民・事業者・区の再生可能エネルギーの利用拡大	35.3
4	省エネルギー行動・環境教育の推進、海洋プラスチックごみ問題への対応、食品ロスの削減など環境にやさしく暮らすことの普及啓発	51.2
5	断熱改修など住まい・建物の省エネルギー化の推進	29.7

(無回答)

3.1

(全員の方に)

問57 気候危機の問題に対して、あなたにできることは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

1	ハザードマップの確認や防災用品の準備など、災害に備えること	72.0
2	自宅で花やみどりを育てる、生垣をつくるなど、みどりを守り増やすこと	29.1
3	再生可能エネルギー電力の購入や太陽光発電設備の設置など、再生可能エネルギーを取り入れること	22.3
4	節電や古い家電製品の買い替えなど、家庭において省エネルギーで暮らすこと	54.3
5	建物の断熱改修など、住宅リフォームを行うこと	12.7

(無回答)

3.2

## 広 報

(全員の方に)

問58 区に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

1	区のおしらせ「せたがや」	53.6	9	せたがや便利帳	12.7
2	区のホームページ	28.9	10	せたがやコール(お問い合わせセンター)	1.3
3	区公式ツイッター	3.8	11	区広報板(区が設置している掲示板)	10.3
4	区公式フェイスブックページ	0.7	12	区作成のチラシ・パンフレット	10.1
5	区公式LINE(ライン)アカウント	0.7	13	町会・自治会の回覧板	21.0
6	メール配信サービス(メールマガジン)	2.5	14	その他	2.1
7	区のスマートフォン用アプリ	0.9	15	特に入手していない	21.9
8	エフエム世田谷	1.3		(無回答)	1.6

## 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響

(全員の方に)

問59 あなたは、現在、区内の各交通手段（移動手段）をどのくらいの頻度で利用していますか。

次の（１）から（７）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

項目	よく使う	時々使う	ほとんど使わない	使っていないが今後は使いたい	使っていないし今後使いたいとは思わない	(無回答)
(1) 鉄道・電車	40.6	32.6	16.3	3.3	2.9	4.3
(2) バス	13.9	32.9	38.1	4.0	5.6	5.5
(3) タクシー	3.8	21.5	50.3	4.5	11.4	8.4
(4) 自動車	23.5	21.9	22.8	3.7	18.5	9.5
(5) バイク	1.8	1.1	23.2	3.2	58.2	12.4
(6) 自転車	37.2	16.1	16.3	7.0	15.2	8.2
(7) 徒歩	79.0	12.7	2.0	0.4	1.2	4.8

(全員の方に)

問60 あなたは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、区内の各交通手段（移動手段）の利用頻度に変化はありましたか。

次の（１）から（７）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

項目	利用頻度は増えた	利用頻度は減った	変わらない	(無回答)
(1) 鉄道・電車	1.6	58.6	35.0	4.7
(2) バス	2.6	41.9	49.1	6.4
(3) タクシー	6.2	24.5	59.8	9.5
(4) 自動車	19.6	10.6	58.8	11.0
(5) バイク	1.2	6.2	77.0	15.5
(6) 自転車	21.4	8.8	59.5	10.3
(7) 徒歩	40.0	9.2	45.3	5.5

(全員の方に)

問61 あなたは、下記目的毎の区内各交通手段（移動手段）利用頻度に変化はありましたか。

次の（１）から（３）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

項目	利用頻度は増えた	利用頻度は減った	変わらない	(無回答)
(1) 通勤・通学	3.0	31.3	50.8	15.0
(2) 買い物	7.7	43.0	45.5	3.8
(3) 通院	4.1	24.3	66.4	5.2

(全員の方に)

問62 新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活(家族と過ごすこと、家事、育児、介護など)」「地域・個人の生活(地域・社会活動、学習・研修、趣味、娯楽、スポーツなど)」の優先度に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

1 「仕事」を優先する割合が増えた	9.1
2 「家庭生活」を優先する割合が増えた	50.9
3 「地域・個人の生活」を優先する割合が増えた	15.1
4 わからない	28.1
(無回答)	4.4

(全員の方に)

問63 新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、あなたの仕事や生活にどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

1 仕事の減少などにより、収入が減った	20.4
2 外出自粛等のため支出が減った	33.0
3 感染防止対策等のため支出が増えた	23.2
4 テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	23.3
5 時差出勤等のため仕事をする時間帯が変わった	8.6
6 宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	38.1
7 日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした	39.9
8 通院のための外出の機会を減らした	14.0
9 友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	81.0
10 帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	52.5
11 図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減少した	17.7
12 文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	36.0
13 感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	46.4
14 外出自粛による運動不足を感じるようになった	50.5
15 会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた	24.3
16 友人・知人との交流などでオンラインを利用する機会が増えた	20.8
17 キャッシュレス決済(クレジットカード、スマートフォンによる支払い等)の利用が増えた	36.2
(無回答)	2.6

(引き続き、次ページの質問にお答えください)

\*\*\* 基本項目（フェイスシート）\*\*\*

（全員の方に）

F 1 あなたの性別はどちらですか。（○は1つ）

1 男性	38.4	2 女性	59.6	3 その他	0.1
					(無回答) 1.8

F 2 あなたの年齢はいくつですか。（○は1つ）

1 18～19歳	1.4	6 40～44歳	8.8	11 65～69歳	6.4
2 20～24歳	3.8	7 45～49歳	9.5	12 70～74歳	8.1
3 25～29歳	4.5	8 50～54歳	10.0	13 75～79歳	6.3
4 30～34歳	5.8	9 55～59歳	9.4	14 80～84歳	5.2
5 35～39歳	6.5	10 60～64歳	7.6	15 85歳以上	5.0
					(無回答) 1.6

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。（○は1つ）

1 自営業者	9.2	4 事務職	13.9	7 家事専業	16.2
2 家族従業者	1.5	5 労務職	4.1	8 学生	3.2
3 管理職・専門技術職	18.4	6 パート・臨時	11.7	9 その他・無職	19.7
					(無回答) 2.3

F 4 あなたの家族構成は次のどれですか。（○は1つ）

1 夫婦だけ（一世代家族）	26.7	4 一人暮らし	18.2
2 親と子どもだけ（二世代家族）	42.1	5 その他	5.7
3 親と子どもと孫（三世代家族）	5.1	(無回答)	2.2

F 5 回答者ご本人も含めて、ご家族の中に高齢者（65歳以上の方）はいらっしゃいますか。（○は1つ）

1 いる	45.2	2 いない	52.8
			(無回答) 2.0

F 6 配偶者はいらっしゃいますか。（○は1つ）

1 なし（離婚・死別を含む）	35.2	→ F 7にお答えください	
2 あり	62.3	→ F 6-1にお答えください	
			(無回答) 2.5

（F 6で「2」と答えた方に）（n=1,300）

F 6-1 あなたと配偶者は、2人とも働いていますか。（○は1つ）

1 働いている	50.2	2 働いていない	49.5
			(無回答) 0.4

（全員の方に）

F 7 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 独身	24.6	6 子ども夫婦と同居（本人が65歳以上）	2.7
2 子どもあり（一番上が小学校入学前）	6.0	7 子ども夫婦と別居（本人が65歳以上）	3.3
3 子どもあり（一番上が小・中学生）	8.7	8 高齢者のみ（本人が65歳以上）	7.8
4 子どもあり（一番上が高校・大学生）	8.3	9 夫婦のみ	15.3
5 子どもあり（一番上が独立：学校卒業、就職、結婚など）	15.2	10 その他	4.3
			(無回答) 3.8

F 8 あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 一戸建て持ち家	43.7	8 都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	2.6
2 分譲マンション(持ち家)	19.9	9 社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	2.9
3 店舗併用住宅(持ち家)	0.5	10 ケアつき住宅・老人ホーム	0.4
4 一戸建て借家	3.2	11 その他	2.3
5 店舗併用住宅(借家)	0.4	(無回答)	0.9
6 民営アパート・マンション(3階以上)	11.9		
7 民営アパート・マンション(2階以下)	11.3		

F 9 あなたのお住まいの地域は次のどれですか。(○は1つ)

1 世田谷東部	(池尻、下馬、三宿、太子堂、三軒茶屋、野沢、若林、上馬、駒沢1～2丁目)	15.0
2 世田谷西部	(世田谷、弦巻、宮坂、桜、経堂、桜丘)	12.8
3 北沢東部	(北沢、代沢、大原、羽根木、代田)	7.2
4 北沢西部	(松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水)	8.5
5 玉川北部	(駒沢公園、駒沢3～5丁目、新町、深沢、桜新町、用賀、上用賀、玉川台)	8.8
6 玉川南部	(奥沢、東玉川、玉川田園調布、等々力、尾山台、玉堤)	9.4
7 玉川西部	(中町、野毛、瀬田、上野毛、玉川)	6.3
8 砧北部	(船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城)	13.3
9 砧南部	(大蔵、砧公園、岡本、鎌田、喜多見、宇奈根)	5.4
10 烏山	(八幡山、南烏山、粕谷、北烏山、給田、上祖師谷、上北沢)	12.6
	(無回答)	0.7

ご協力ありがとうございました。

※ ご記入いただいた調査用紙は6月4日までに、投函してください。

## 調 査 結 果





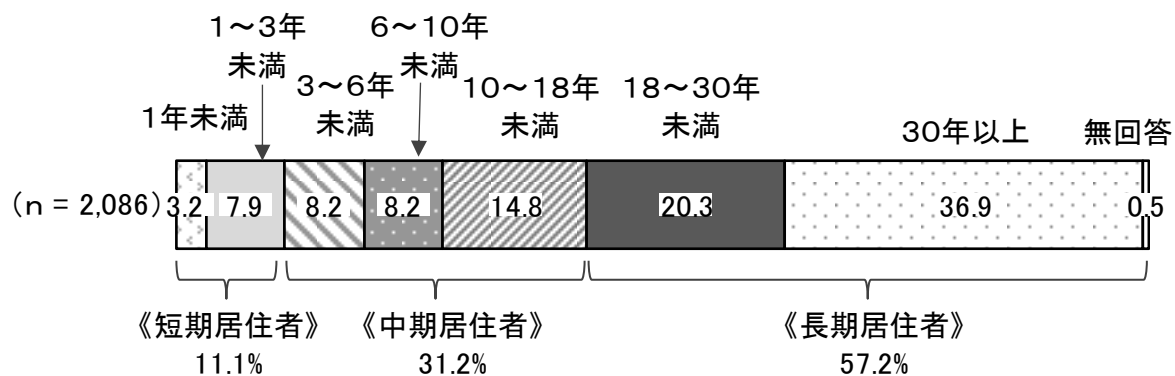
# 1. 定住性

## (1) 居住年数

◎居住年数 18 年以上の《長期居住者》は6割近く

問1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(○は1つ)

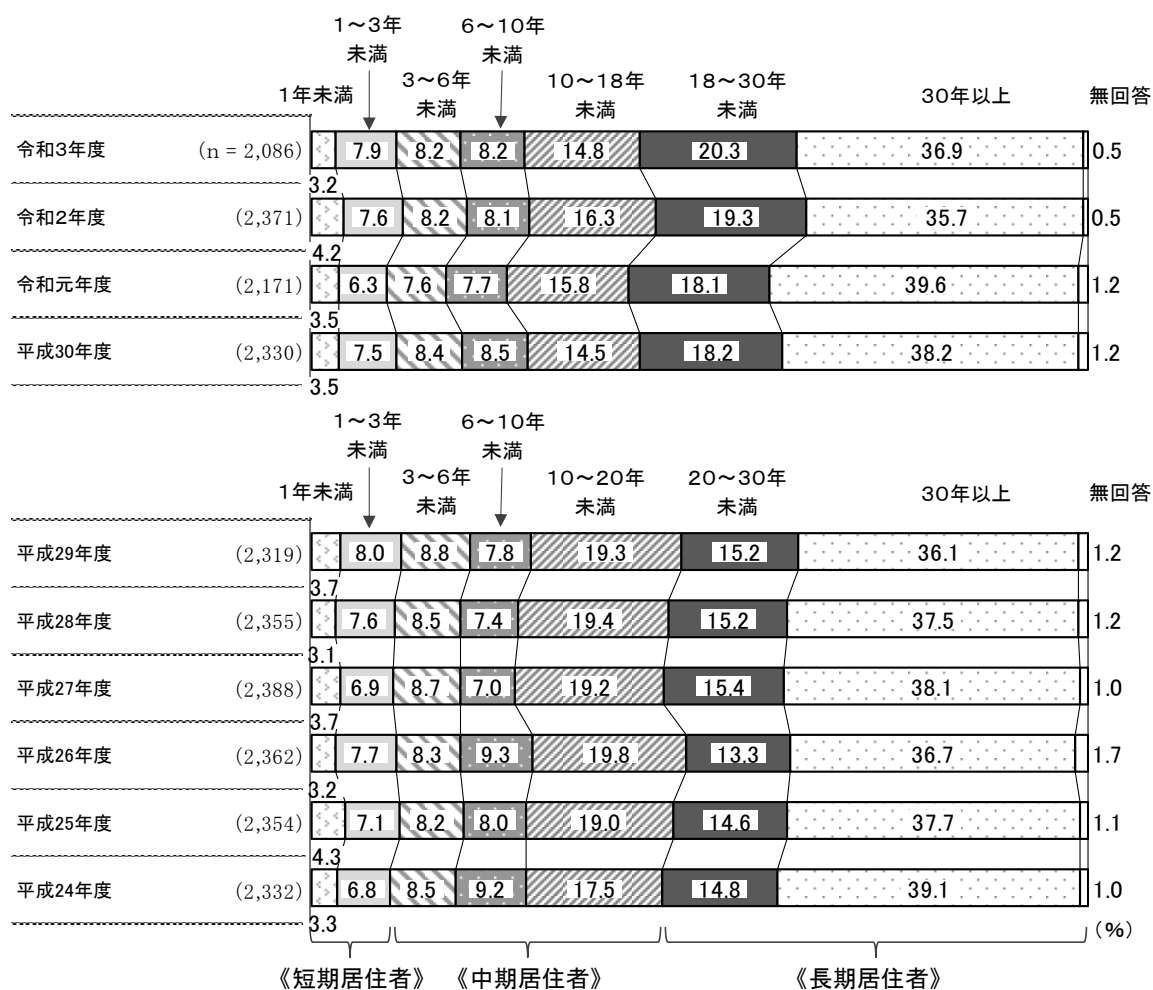
図1-1-1



### <調査結果>

世田谷区での居住年数は、「1年未満」(3.2%)と「1～3年未満」(7.9%)を合わせた《短期居住者》(11.1%)が1割を超え、「3～6年未満」(8.2%)、「6～10年未満」(8.2%)、「10～18年未満」(14.8%)を合わせた《中期居住者》(31.2%)が3割を超え、「18～30年未満」(20.3%)と「30年以上」(36.9%)を合わせた《長期居住者》(57.2%)が6割近くとなっている。(図1-1-1)

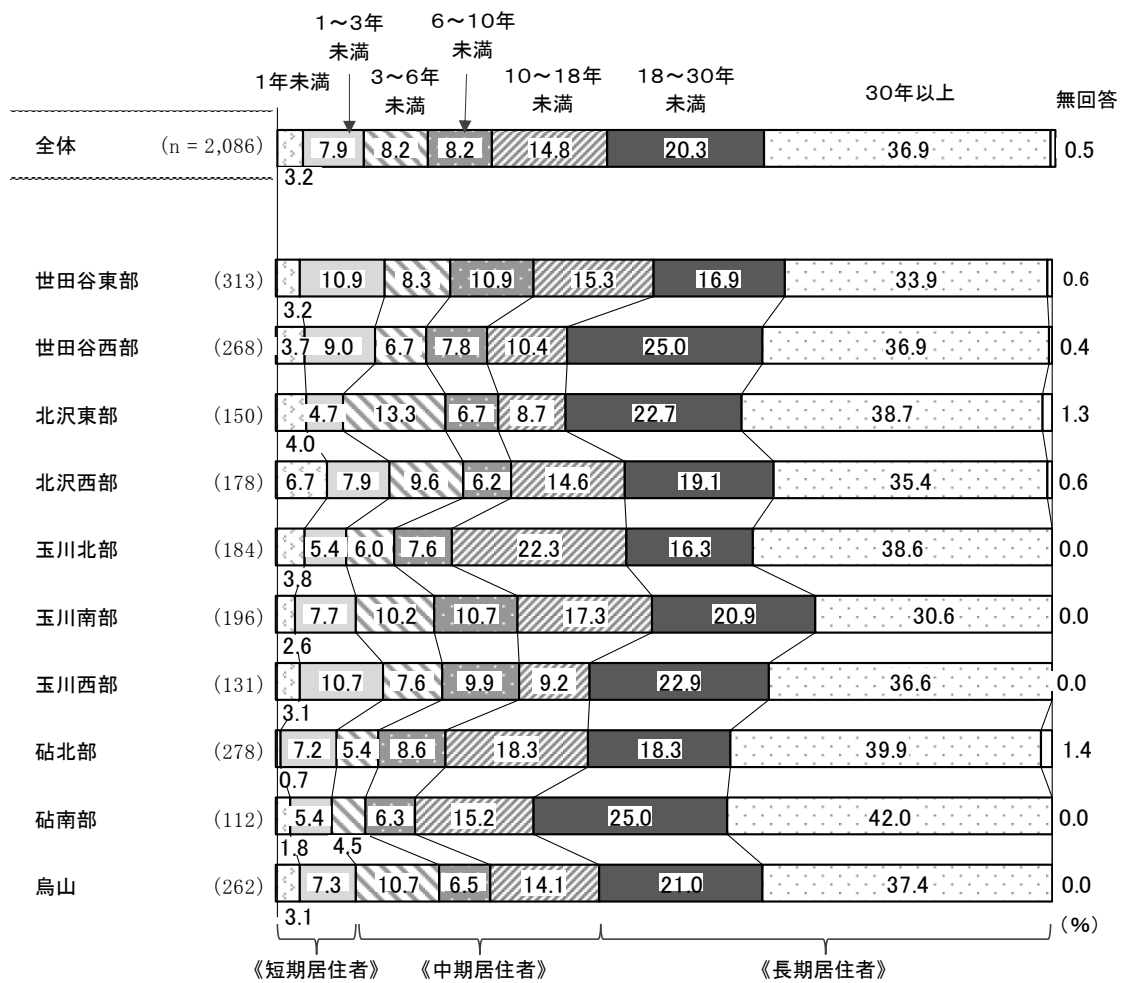
図 1 - 1 - 2 居住年数（時系列）



〈調査結果〉

平成30年度以降と平成29年度以前では、「10～18年未満」と「18～30年未満」の区分が異なるが、平成24年度からの時系列の変化をみると、《短期居住者》、《中期居住者》、《長期居住者》ともに割合に大きな変化は見られない。《長期居住者》は5割台で推移している。(図1-1-2)

図 1 - 1 - 3 居住年数 (地域別)

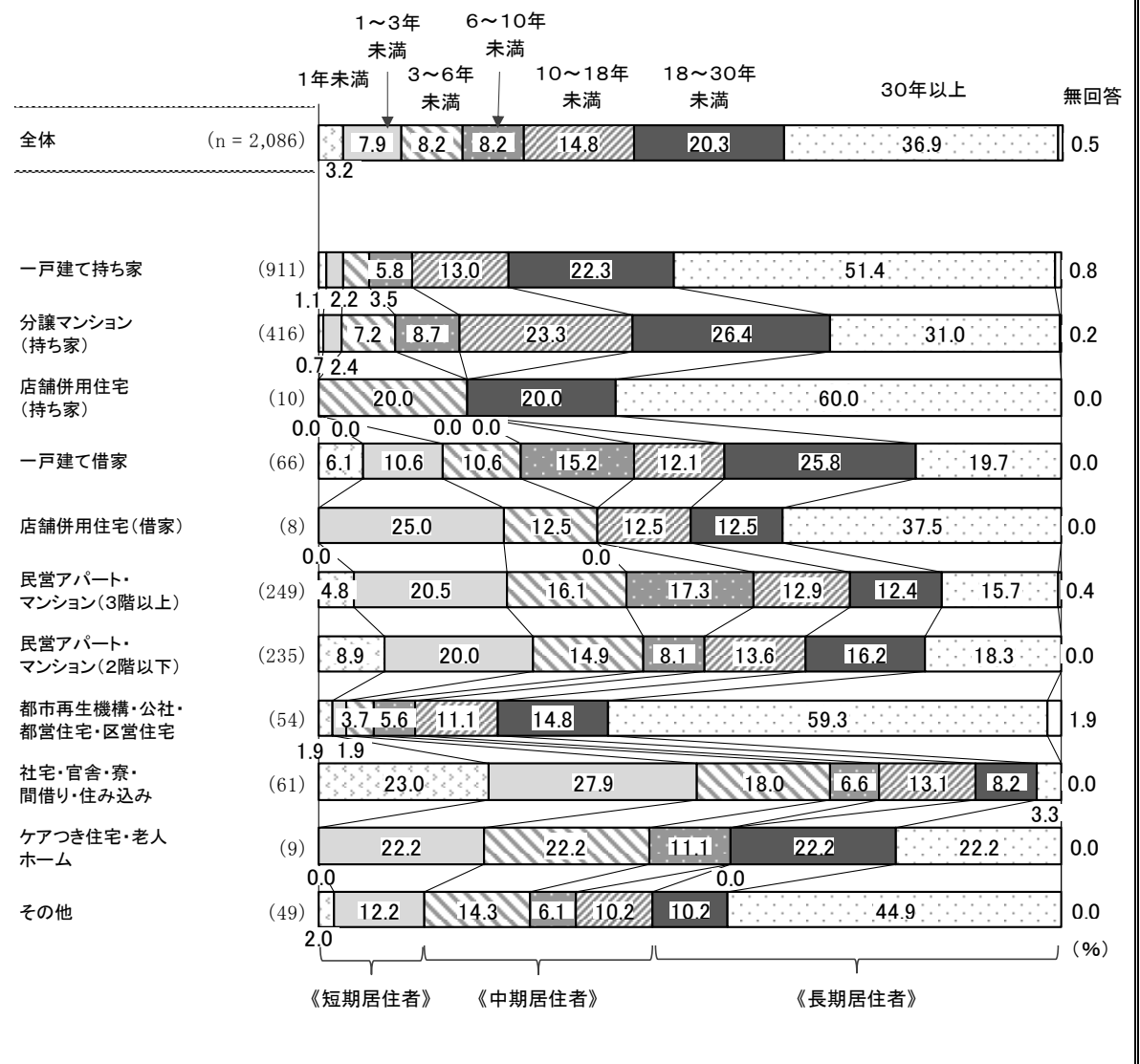


〈調査結果〉

地域別にみると、《長期居住者》は砧南部が7割近くで最も高く、世田谷西部、北沢東部で6割を超えている。《短期居住者》は世田谷東部、北沢西部で1割半ばとなっている。

(図 1 - 1 - 3)

図1-1-4 居住年数（住居形態別）



〈調査結果〉

住居形態別にみると、《長期居住者》は、都市再生機構・公社・都営住宅・区営住宅では7割半ば、一戸建て持ち家では7割を超えている。《短期居住者》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みでほぼ5割、民営アパート・マンション（2階以下）で3割近くとなっている。

(図1-1-4)

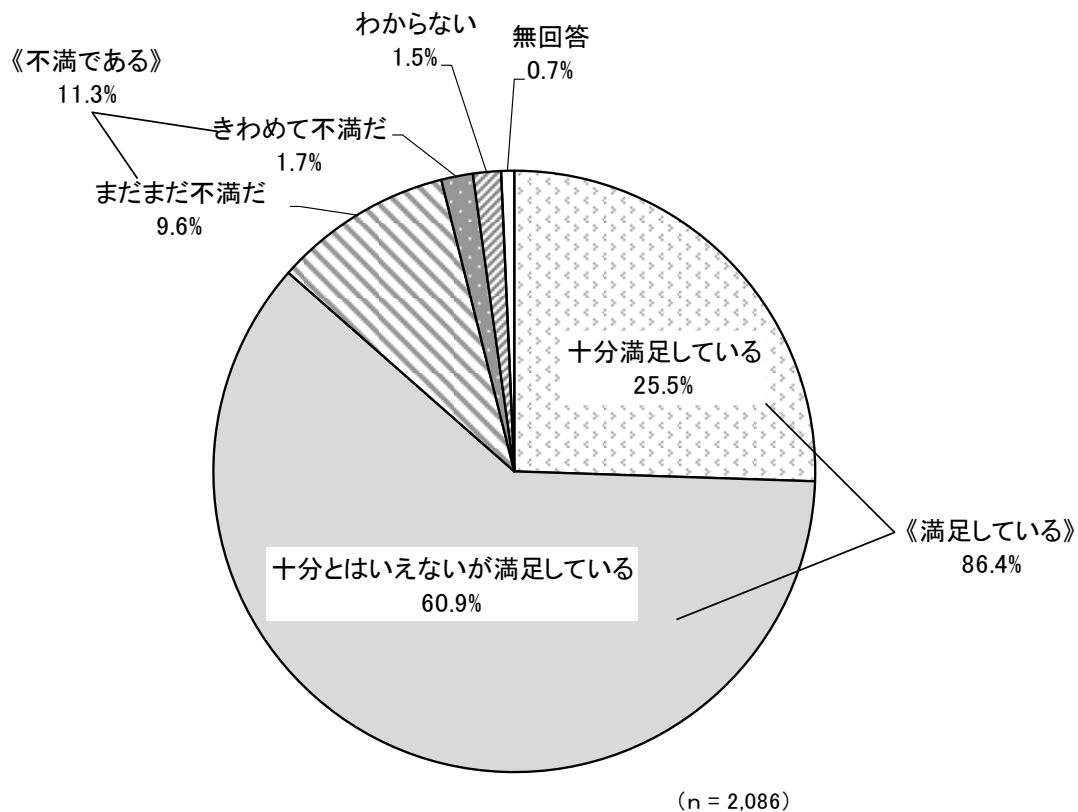
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

## (2) 暮らしの満足度

◎ 《満足している》が8割半ば

問2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(〇は1つ)

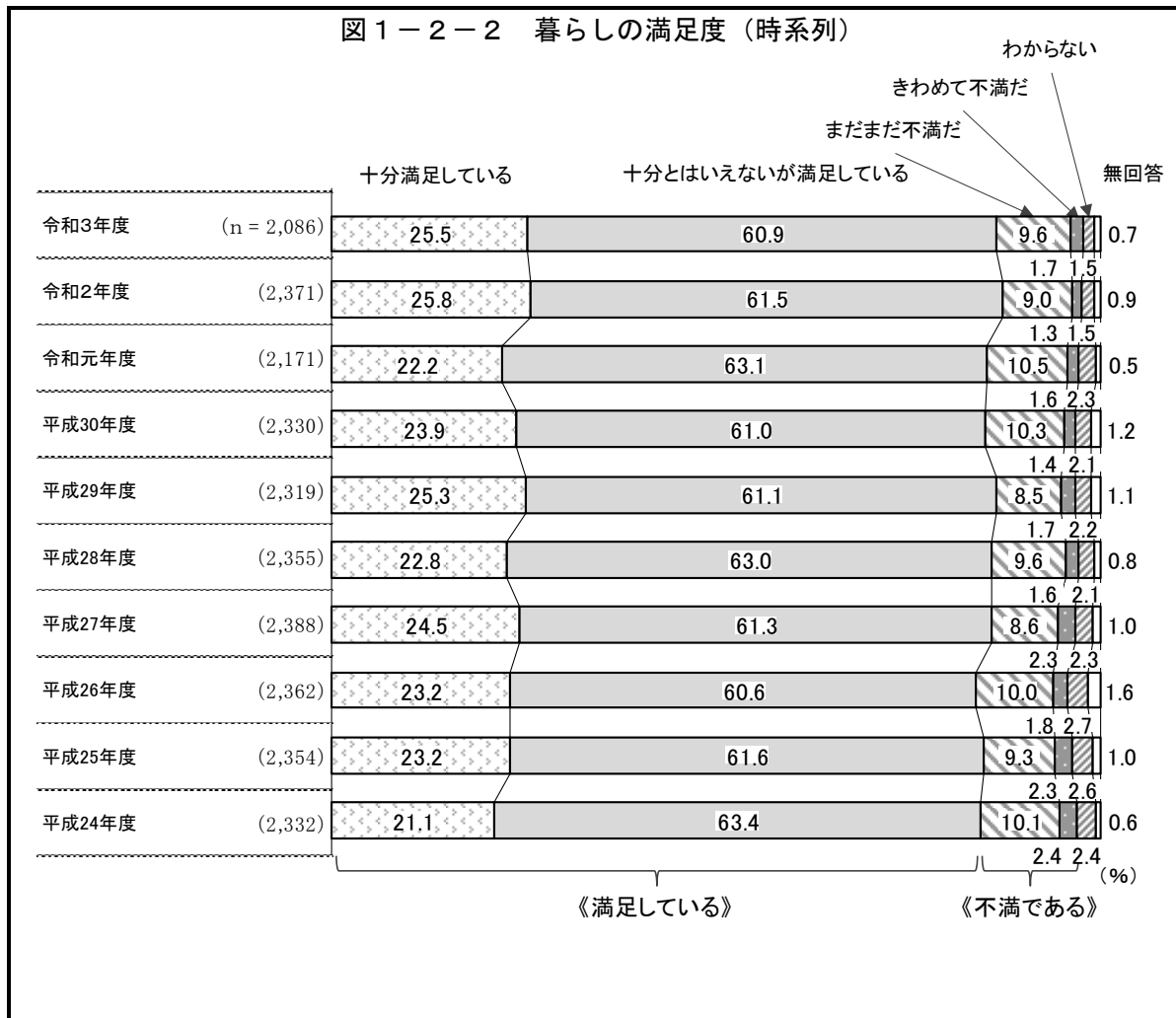
図1-2-1



### <調査結果>

現在の暮らしについてどのように思っているか聞いたところ、「十分満足している」(25.5%)と「十分とはいえないが満足している」(60.9%)を合わせた《満足している》(86.4%)が8割半ばとなり、「まだまだ不満だ」(9.6%)と「きわめて不満だ」(1.7%)を合わせた《不満である》(11.3%)を大きく上回っている。(図1-2-1)

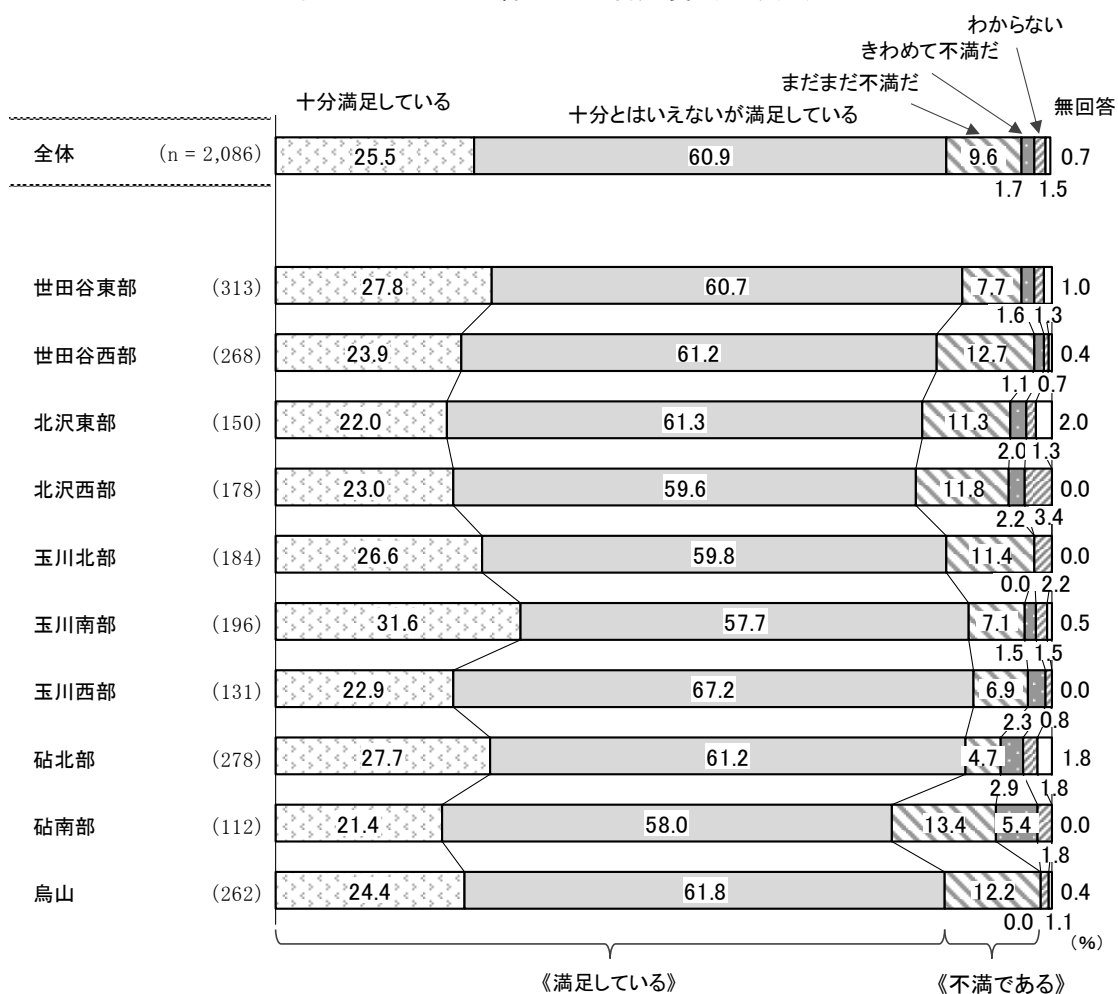
図1-2-2 暮らしの満足度（時系列）



〈調査結果〉

平成24年度からの時系列の変化をみると、《満足している》が多数を占める傾向に変化はない。(図1-2-2)

図1-2-3 暮らしの満足度（地域別）

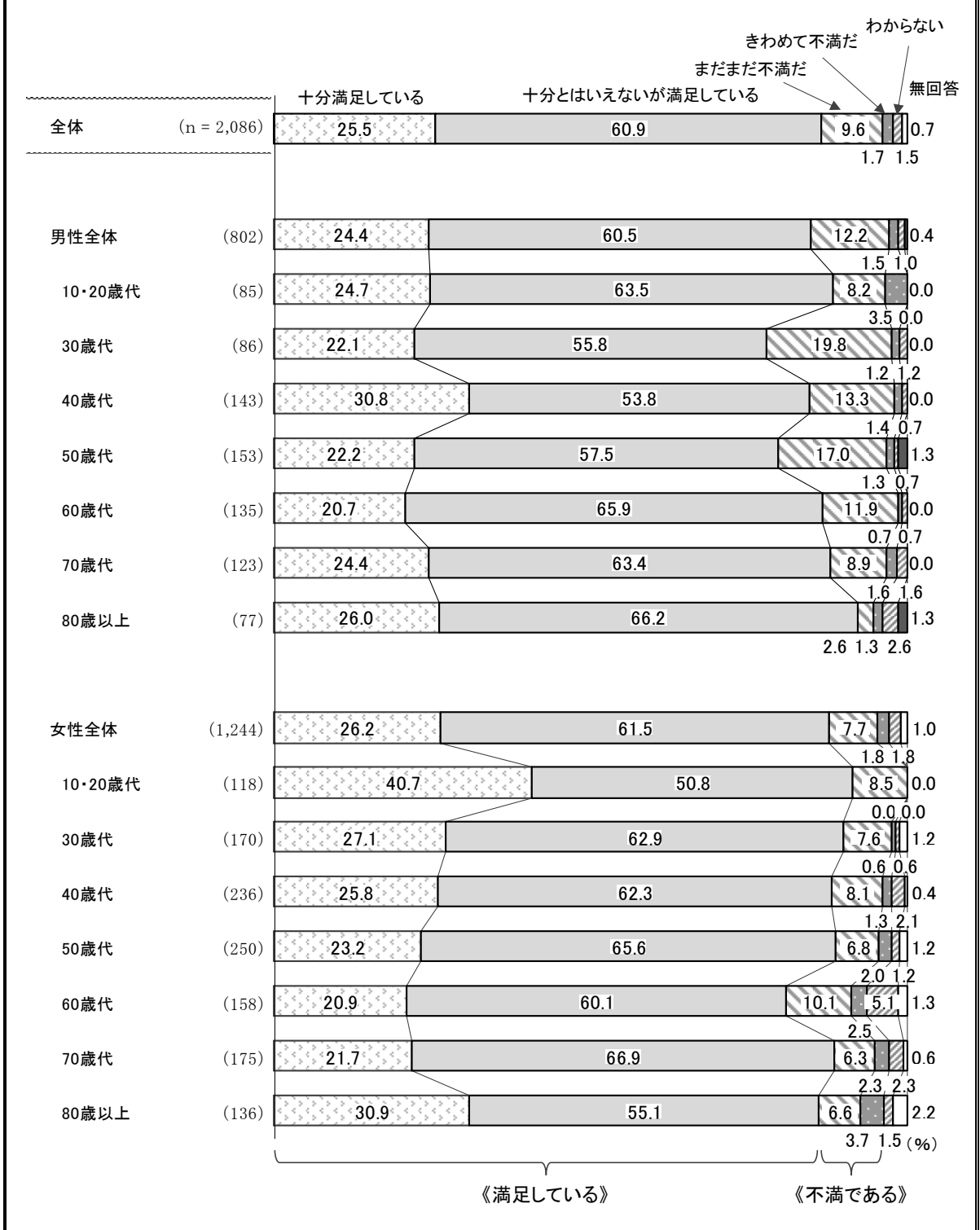


〈調査結果〉

地域別にみると、いずれの地域も《満足している》が多数を占めており、玉川西部で9割、玉川南部でほぼ9割となっている。「十分満足している」は玉川南部で3割を超え、世田谷東部、砧北部で3割近くとなっている。一方、《不満である》は砧南部で2割近くとなっている。(図1-2-3)



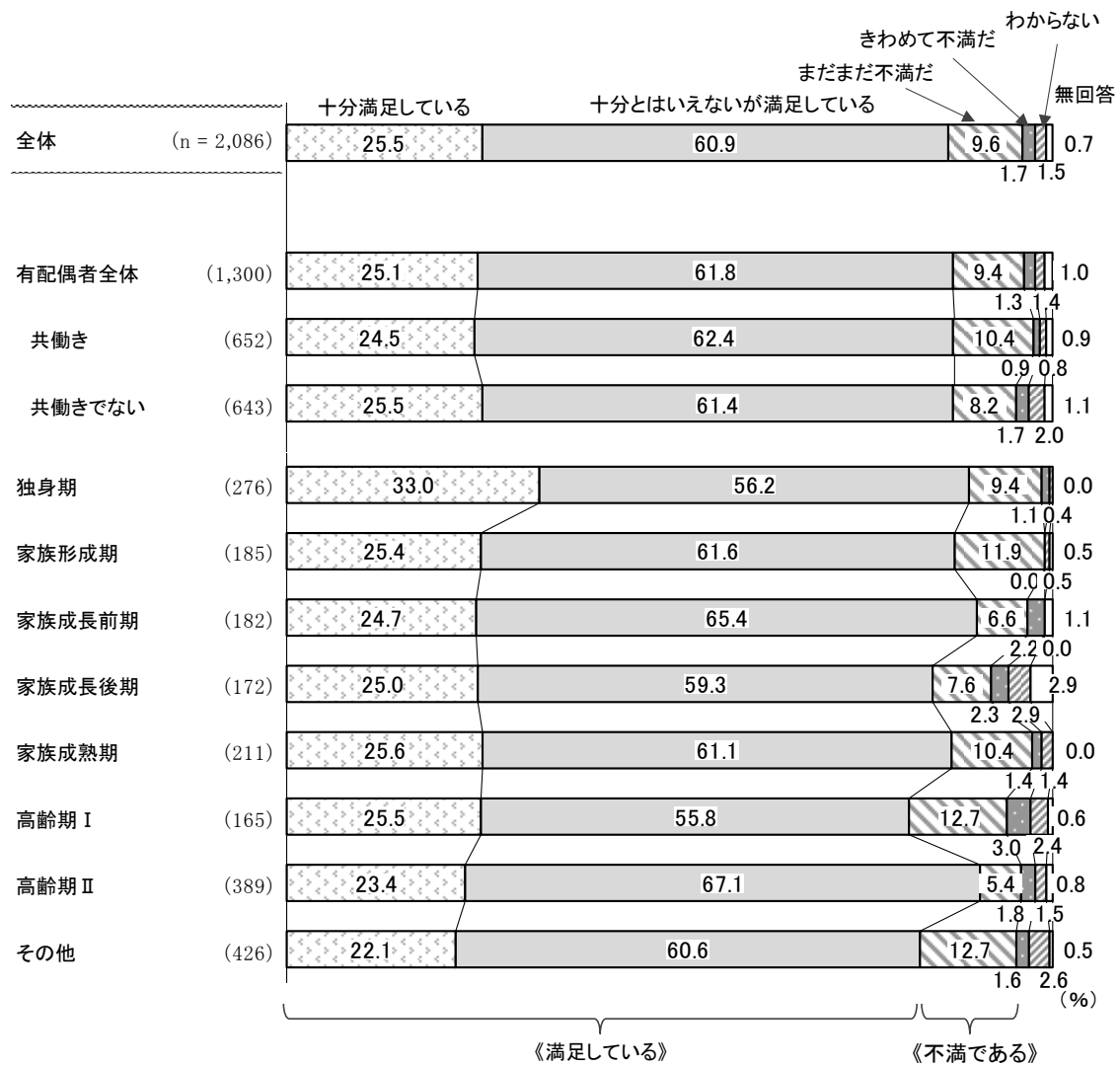
図 1-2-4 暮らしの満足度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《満足している》は男性の80歳以上、女性の10・20歳代で9割を超え、女性の30歳代で9割となっている。「十分満足している」は女性の10・20歳代でほぼ4割と高い。《不満である》は、男性の30歳代で2割を超え、50歳代で2割近くとなっている。(図1-2-4)

図 1-2-5 暮らしの満足度（共働きの有無別・ライフステージ別）



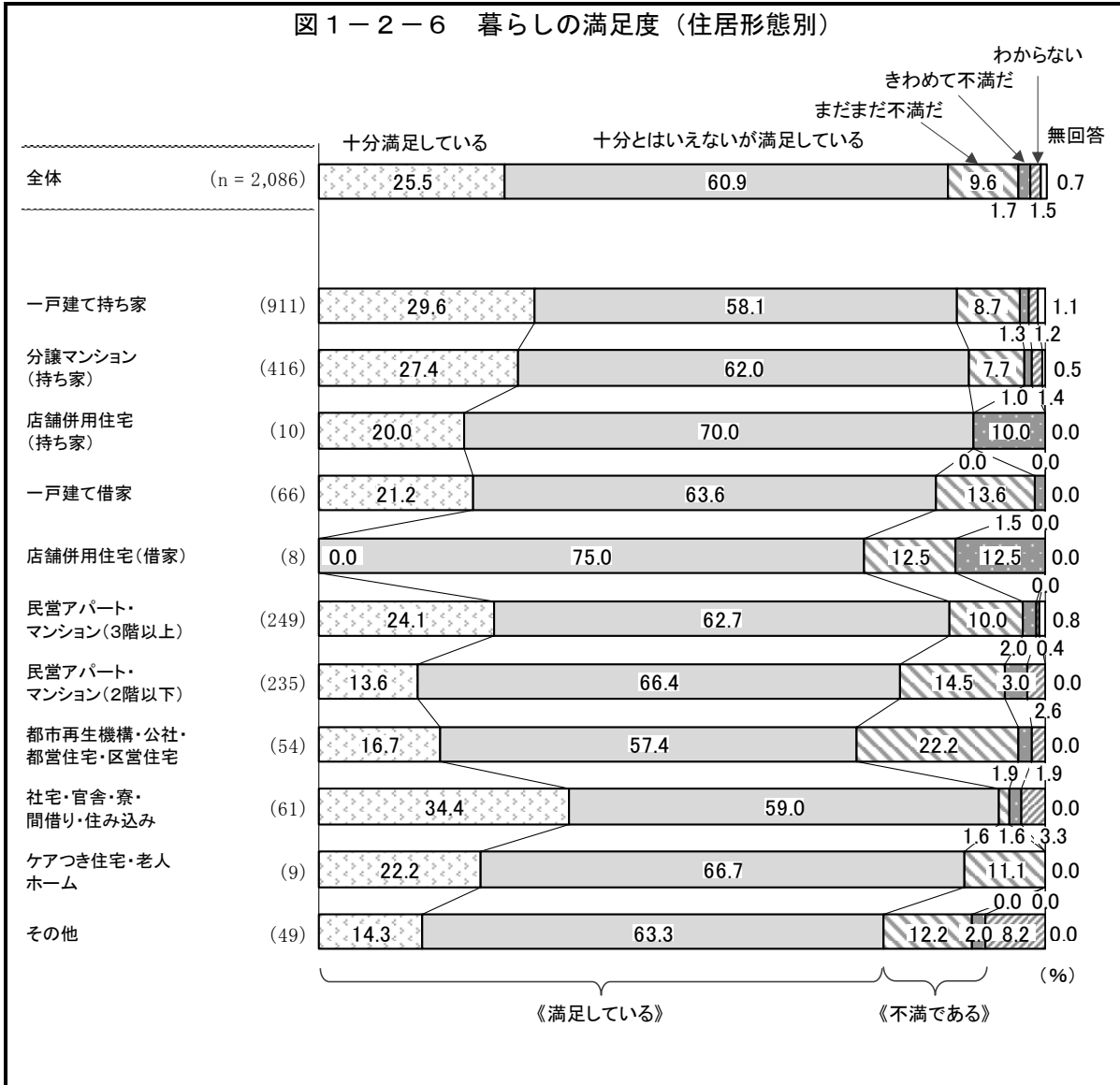
〈調査結果〉

共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

ライフステージ別にみると、《満足している》は高齢期Ⅱがほぼ9割で最も高く、家族成長前期で9割と続いている。「十分満足している」は独身期で3割を超えている。

(図 1-2-5)

図 1-2-6 暮らしの満足度（住居形態別）



〈調査結果〉

住居形態別にみると、「満足している」は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで9割を超え、分譲マンション（持ち家）でほぼ9割、一戸建て持ち家、民営アパート・マンション（3階以上）で9割近くとなっている。「不満である」は、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で2割半ばとなっている。

（図 1-2-6）

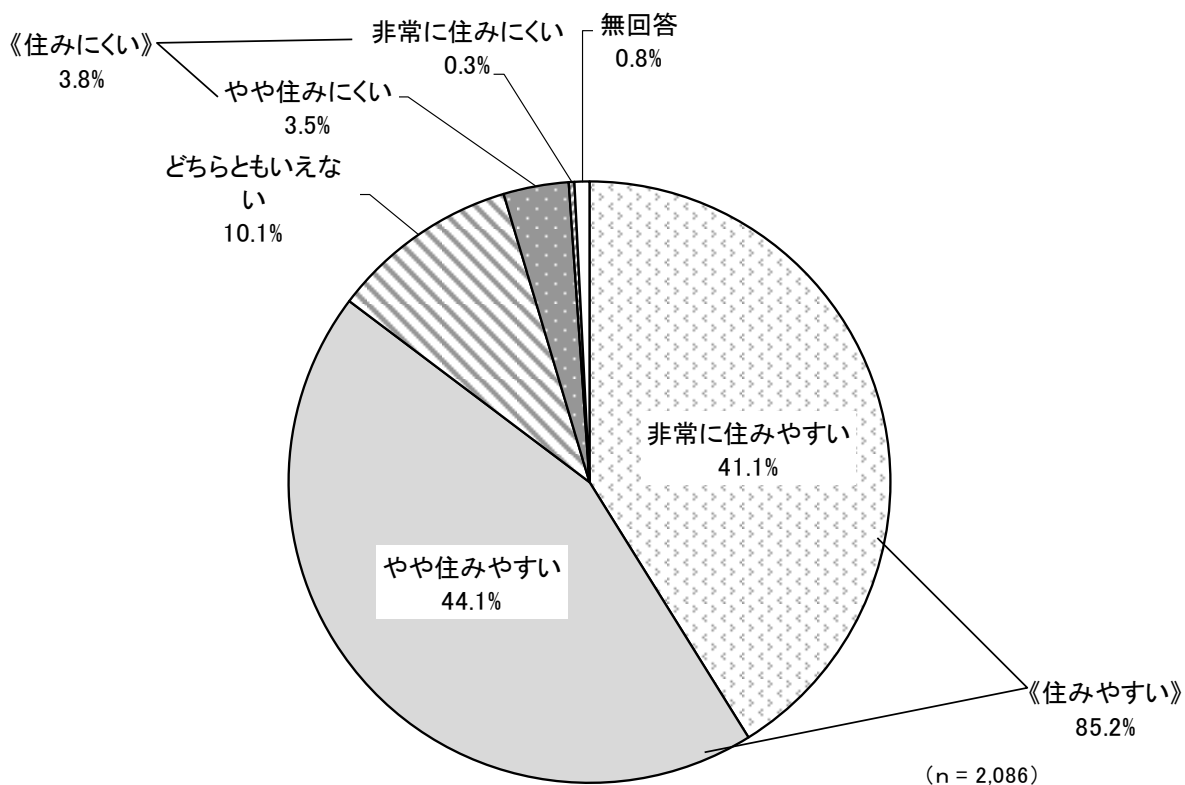
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

### (3) 住みやすさ

◎「住みやすい」が8割半ば

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(〇は1つ)

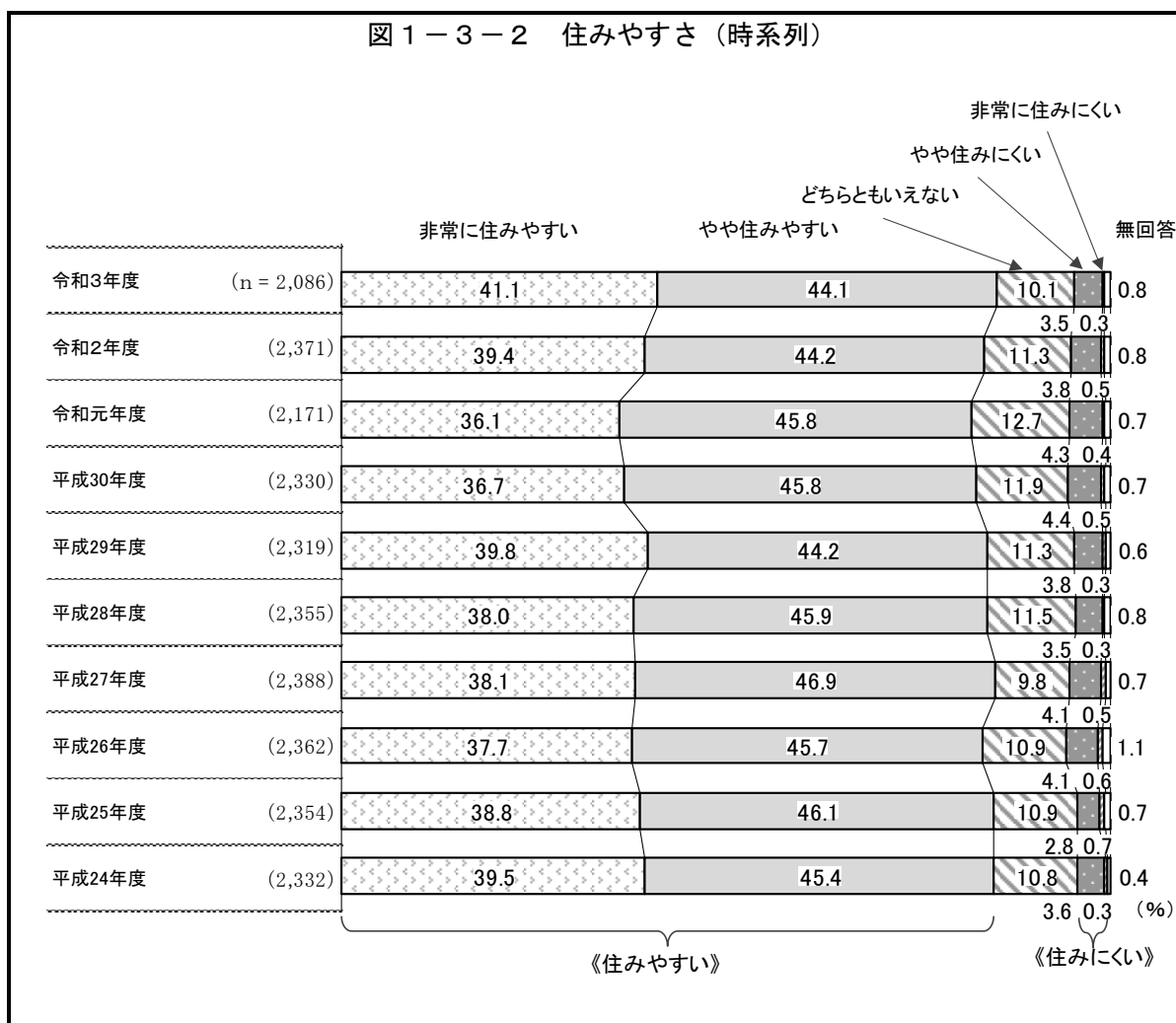
図1-3-1



#### <調査結果>

世田谷区の住みやすさについて聞いたところ、「非常に住みやすい」(41.1%)と「やや住みやすい」(44.1%)を合わせた《住みやすい》(85.2%)が8割半ばとなっており、「やや住みにくい」(3.5%)と「非常に住みにくい」(0.3%)を合わせた《住みにくい》(3.8%)を大きく上回っている。(図1-3-1)

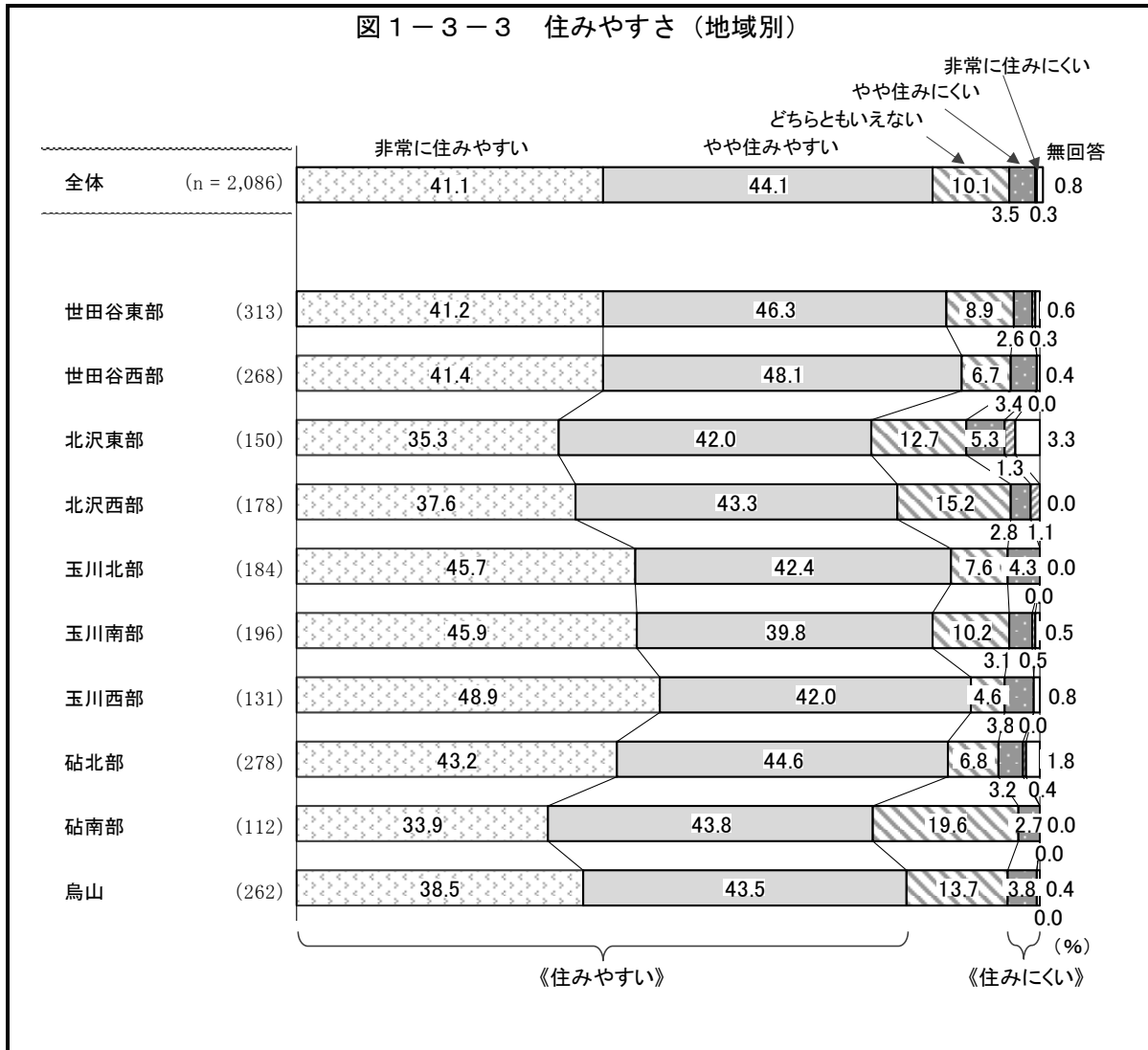
図1-3-2 住みやすさ（時系列）



〈調査結果〉

平成24年度からの時系列の変化をみると、「《住みやすい》」の割合は、いずれの年も8割台となっている。「非常に住みやすい」の割合は、3割台後半で推移し、令和2年からはほぼ4割から4割となっている。(図1-3-2)

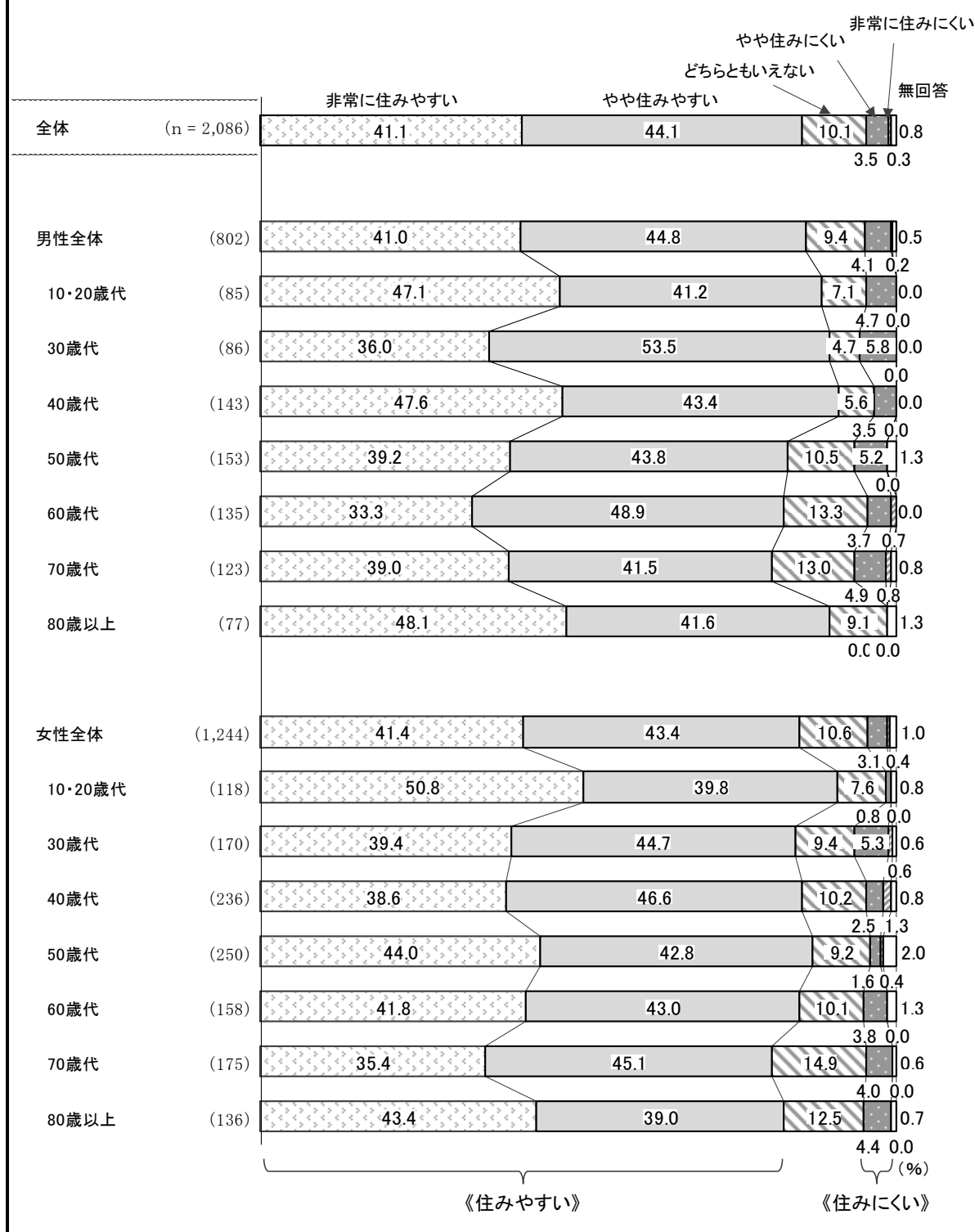
図 1-3-3 住みやすさ (地域別)



〈調査結果〉

地域別にみると、いずれの地域も《住みやすい》が多数を占めており、「非常に住みやすい」は玉川西部で5割近く、玉川南部、玉川北部で4割半ばとなっている。《住みにくい》は、いずれの地域でも1割に満たなかった。(図1-3-3)

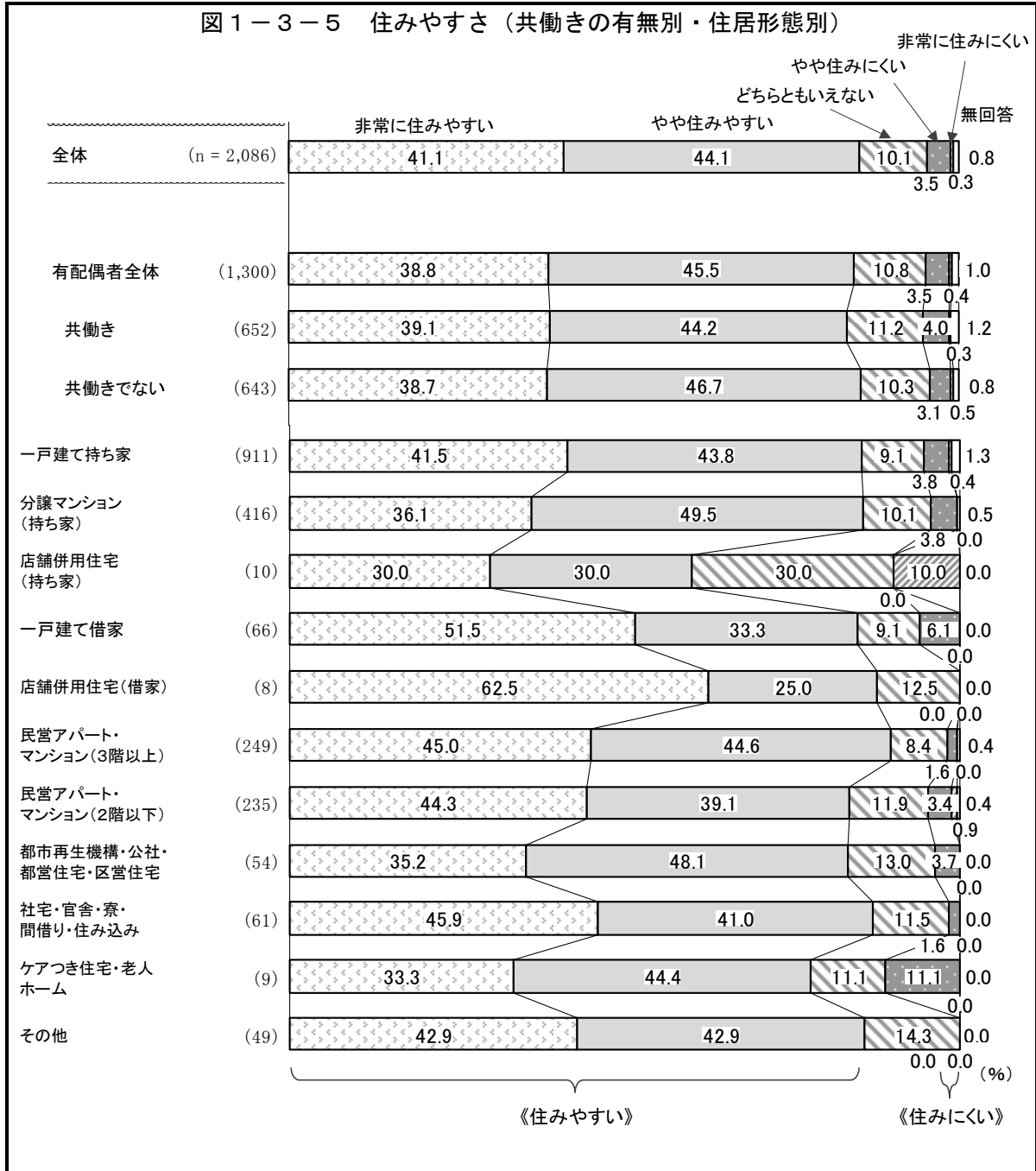
図1-3-4 住みやすさ (性・年齢別)



<調査結果>

性・年齢別にみると、「住みやすい」は男性の40歳代で9割を超え、女性の10・20歳代でほぼ9割、男性の80歳以上で9割となっている。「非常に住みやすい」は女性の10・20歳代の女性でほぼ5割、男性の10・20歳代、40歳代、80歳以上で5割近くと高い。「住みにくい」は、どの年代でも1割に満たなかった。(図1-3-4)

図1-3-5 住みやすさ（共働きの有無別・住居形態別）



〈調査結果〉

共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別にみると、「住みやすい」は、民営アパート・マンション（3階以上）で9割、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで9割近くとなっています。

(図1-3-5)

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

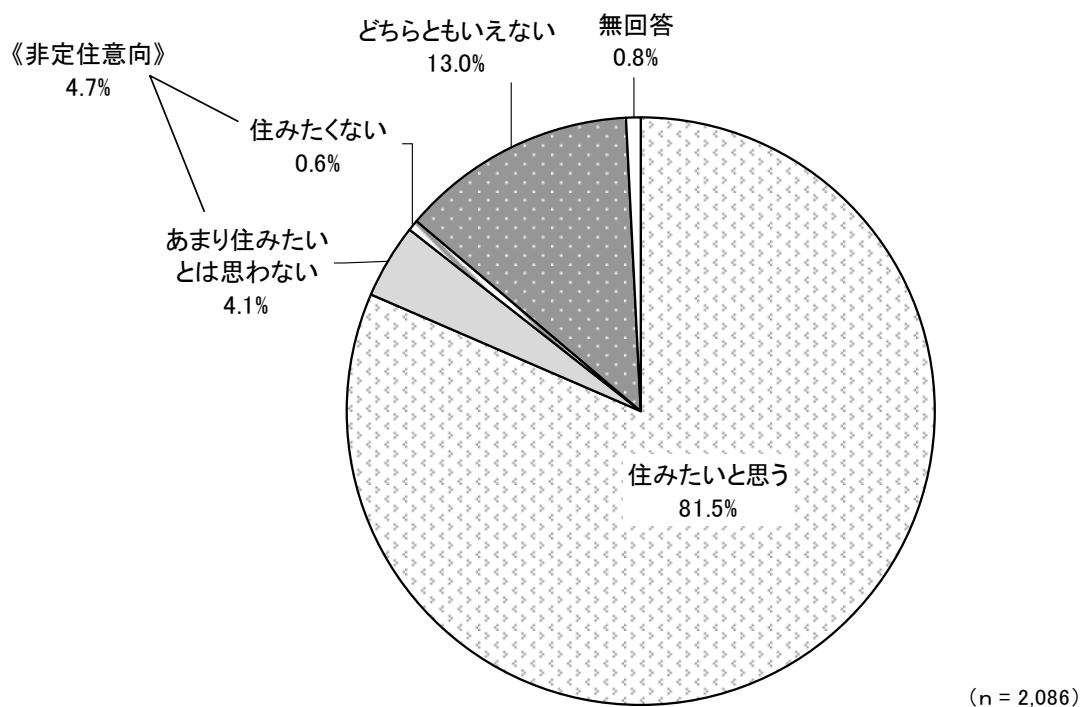


#### (4) 定住意向

◎「住みたいと思う」が8割を超えている

問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

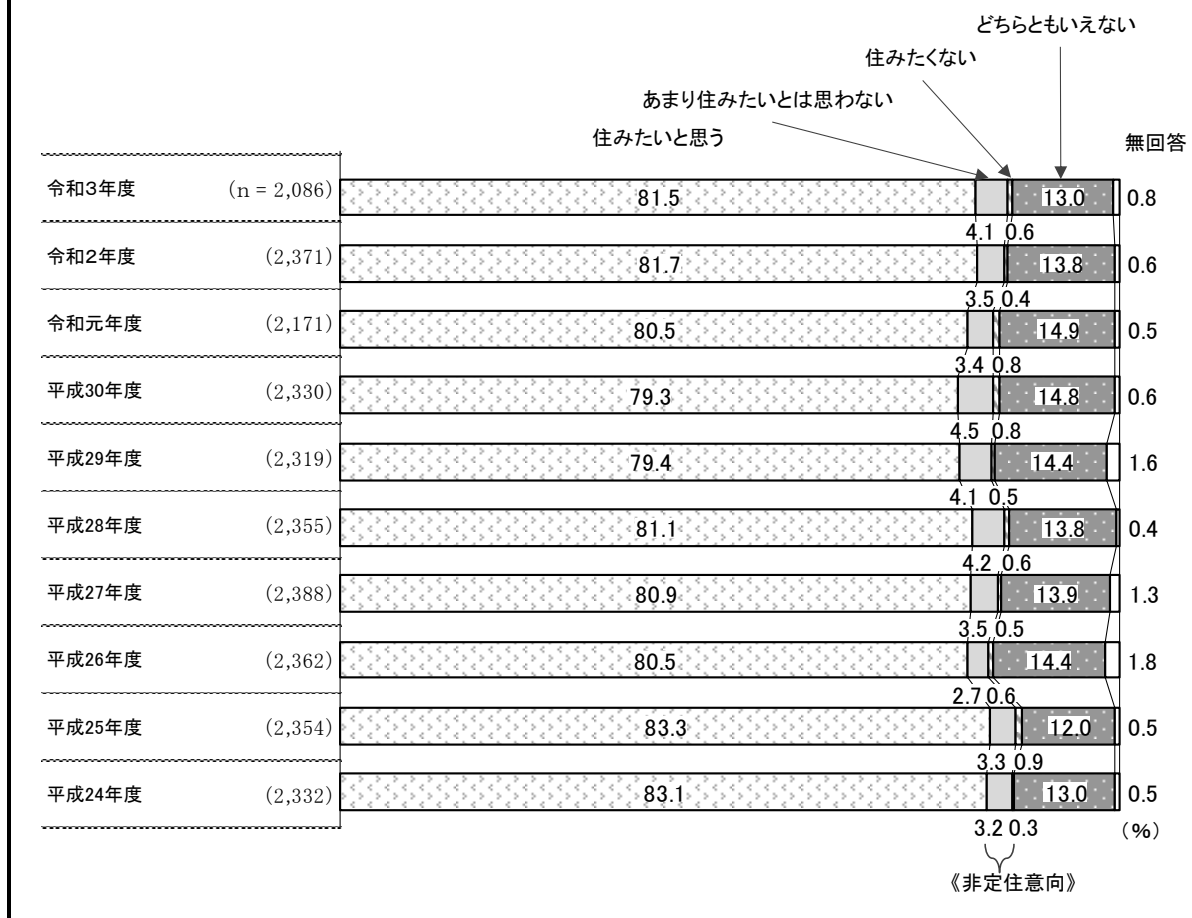
図1-4-1



#### <調査結果>

今後の世田谷区への定住意向を聞いたところ、「住みたいと思う」(81.5%)が8割を超えている。「あまり住みたいとは思わない」(4.1%)と「住みたくない」(0.6%)を合わせた《非定住意向》(4.7%)は1割に満たなかった。(図1-4-1)

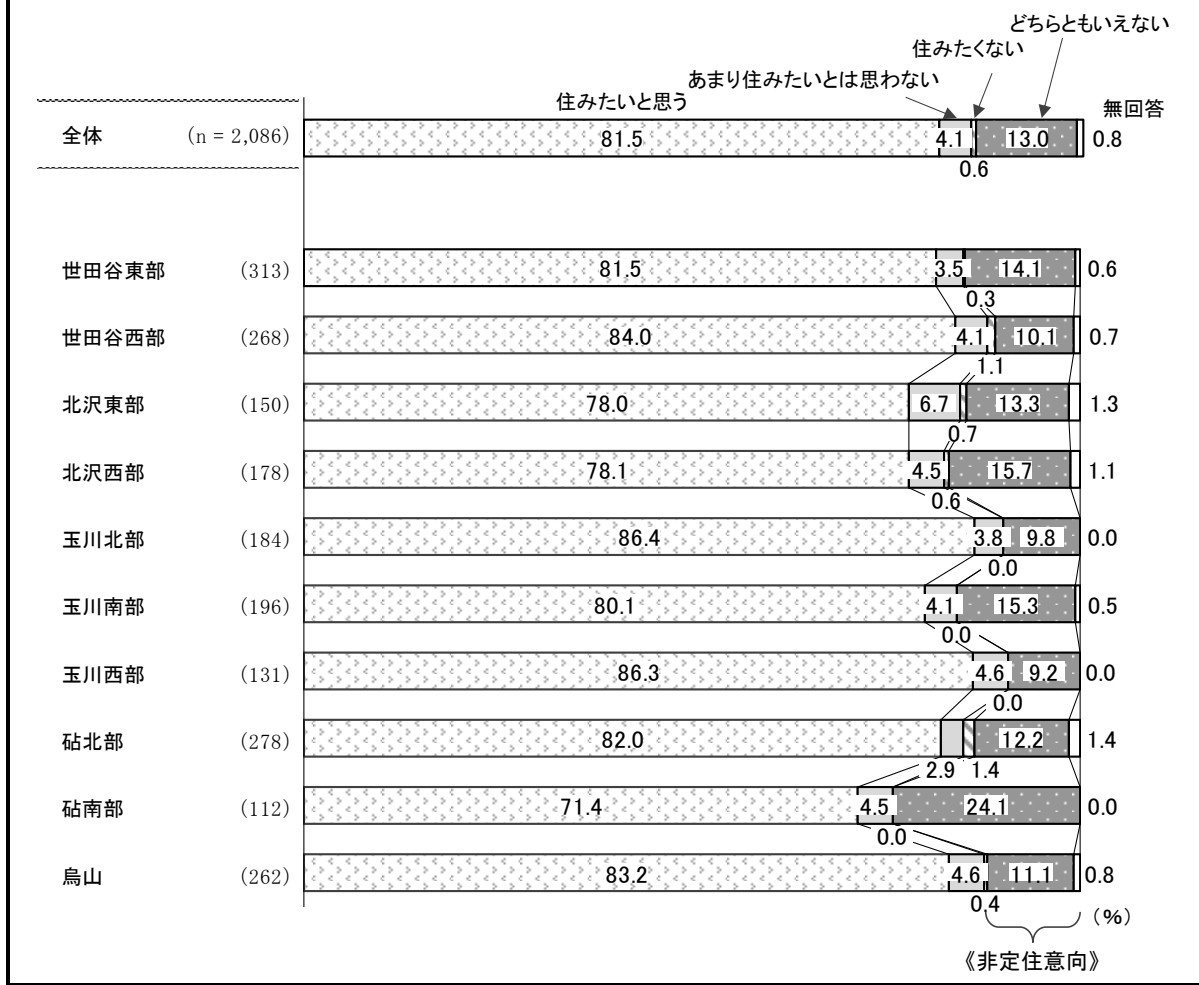
図 1-4-2 定住意向（時系列）



〈調査結果〉

平成 24 年度からの時系列の変化をみると、「住みたいと思う」は、若干の変動はあるものの、8 割前後で推移している。(図 1-4-2)

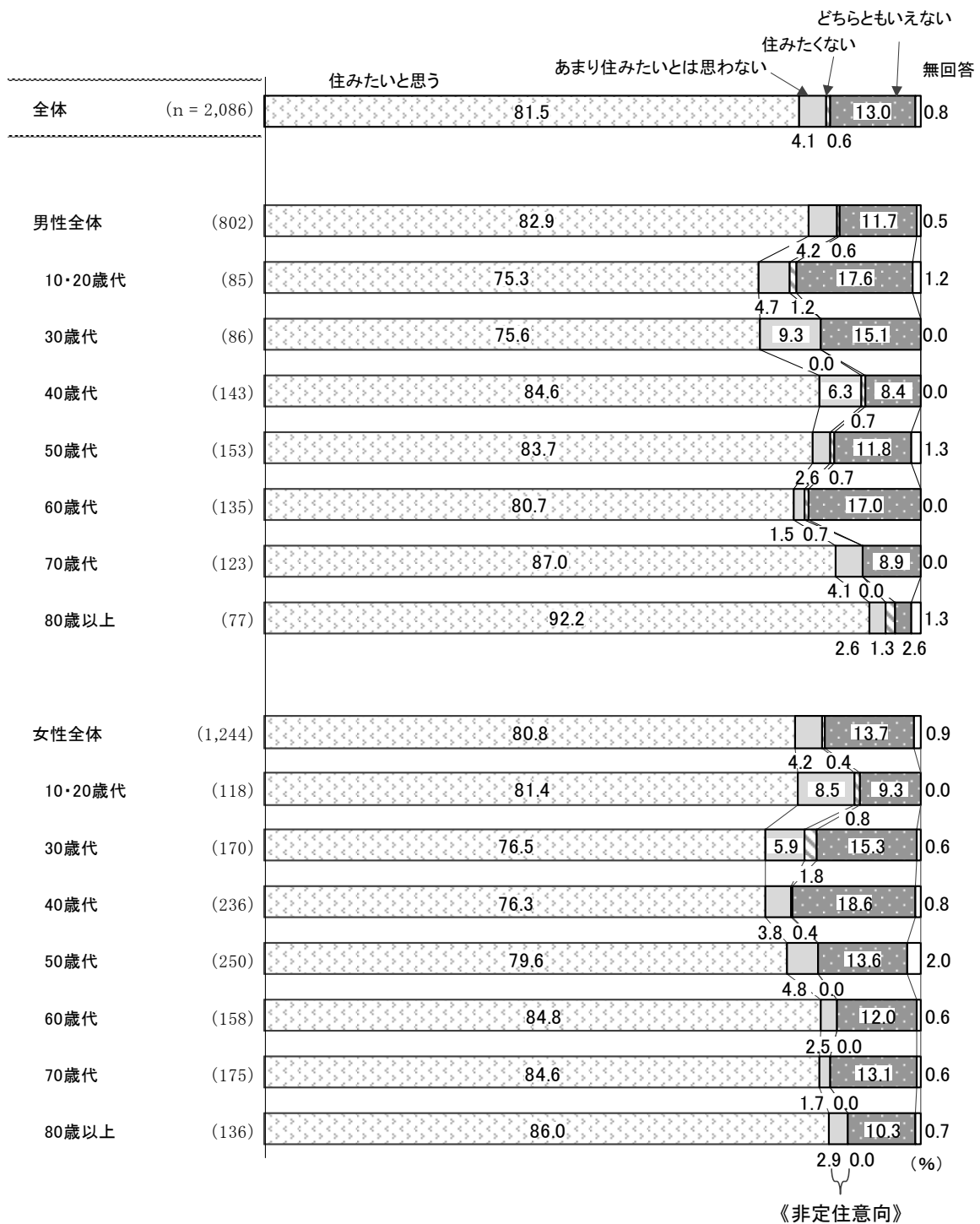
図 1 - 4 - 3 定住意向（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「住みたいと思う」は、世田谷西部、玉川北部、玉川西部で8割半ば、世田谷東部、砧北部、烏山で8割を超えている。いずれの地域でも《非定住意向》は1割に満たなかった。(図 1 - 4 - 3)

図 1-4-4 定住意向（性・年齢別）

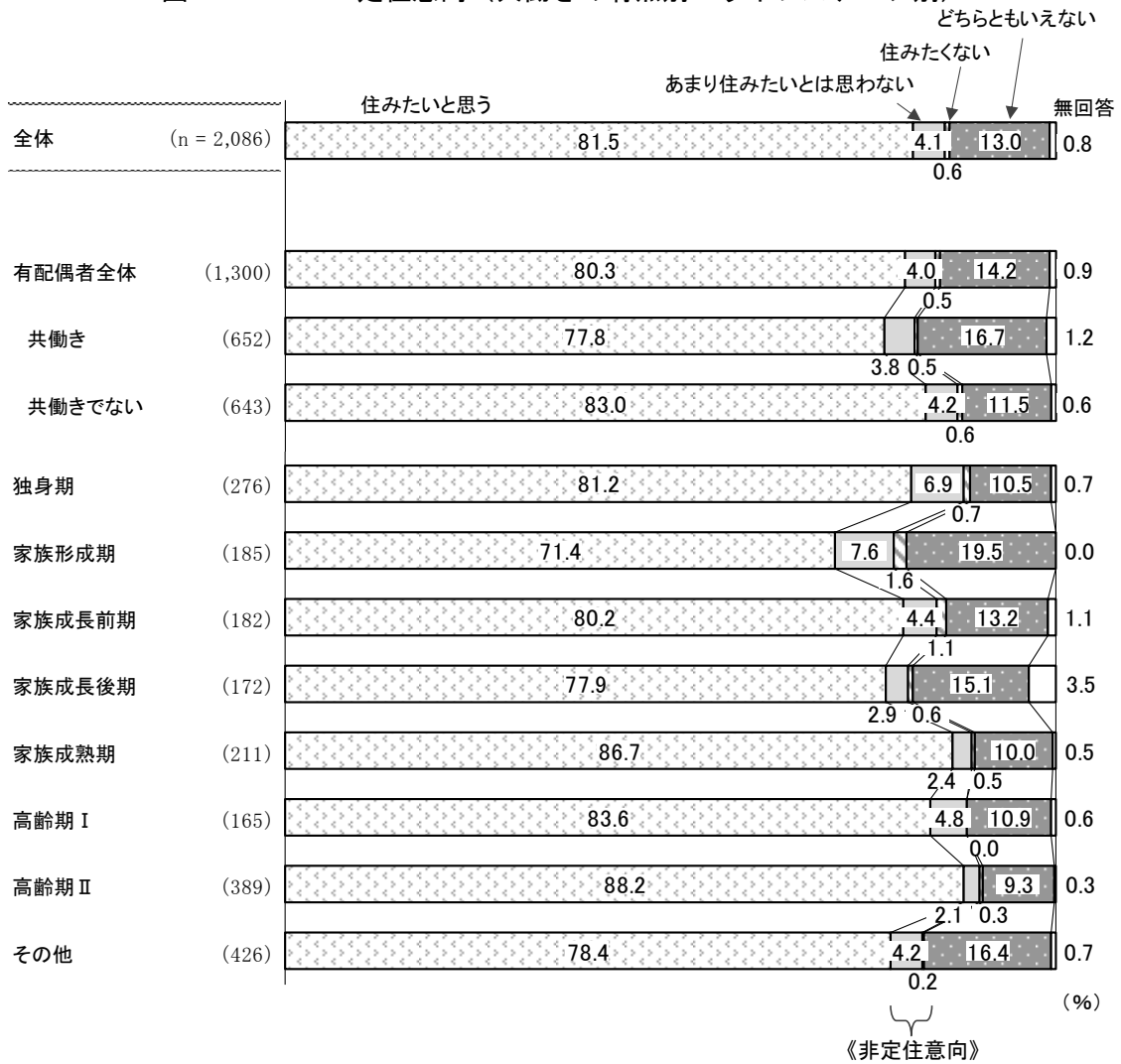


<調査結果>

性・年齢別にみると、「住みたいと思う」は男性の80歳以上で9割を超え、男性の70歳代で9割近くとなっている。《非定住意向》は男性の30歳代、女性の10・20歳代でほぼ1割となっている。定住意向は高年層で高く、若年層で低い傾向がみられる。

(図 1-4-4)

図 1-4-5 定住意向（共働きの有無別・ライフステージ別）



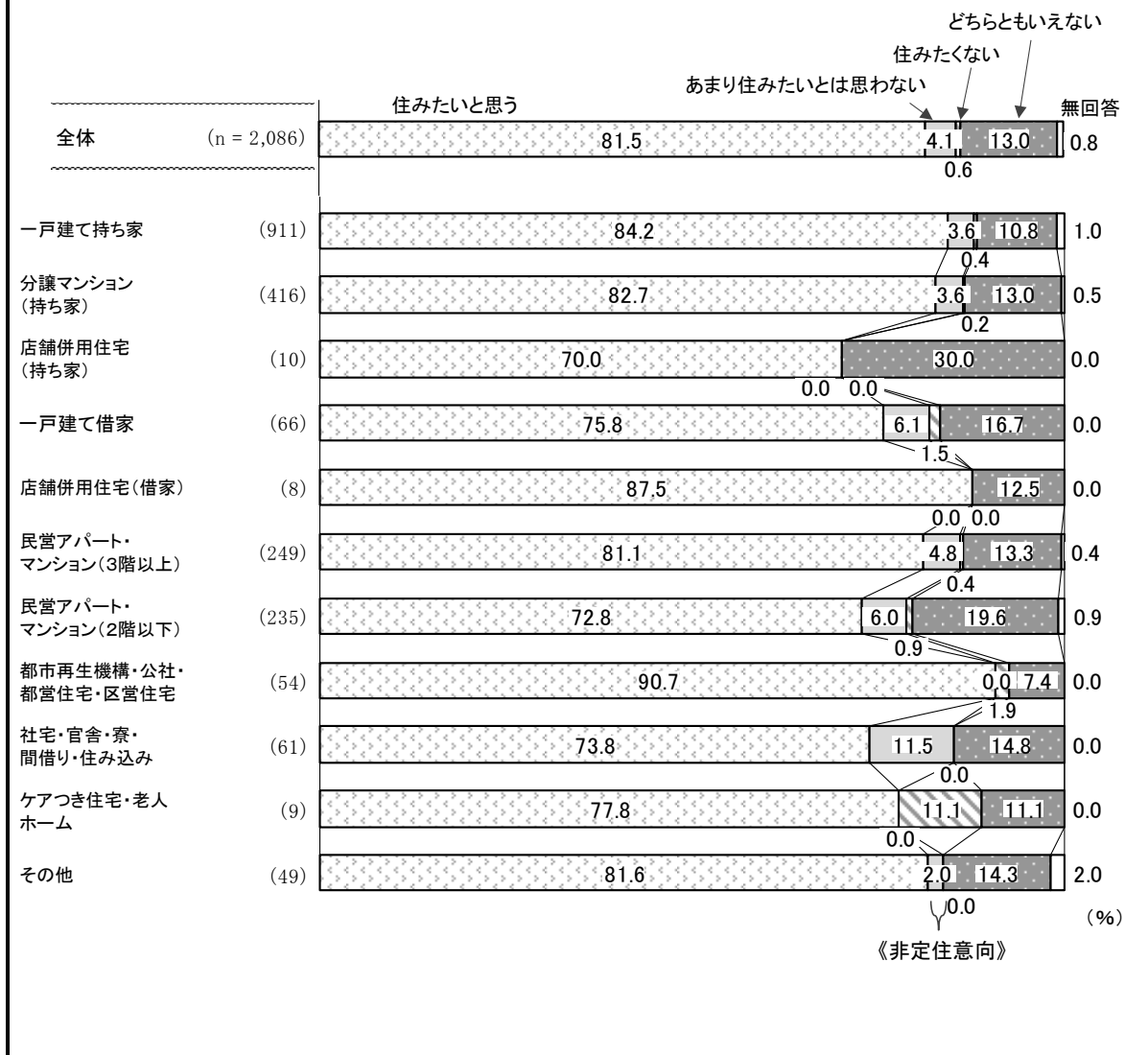
〈調査結果〉

共働きの有無別にみると、「住みたいと思う」は共働きで8割近く、共働きでないで8割を超えている。

ライフステージ別にみると、「住みたいと思う」は高齢期Ⅱと家族成熟期で9割近くとなっている。《非定住意向》は、家族形成期でほぼ1割となっている。

(図 1-4-5)

図1-4-6 定住意向（住居形態別）



〈調査結果〉

住居形態別にみると、「住みたいと思う」は都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅でほぼ9割、一戸建て持ち家で8割半ば、民営アパート・マンション（3階以上）、分譲マンション（持ち家）で8割を超えている。（図1-4-6）

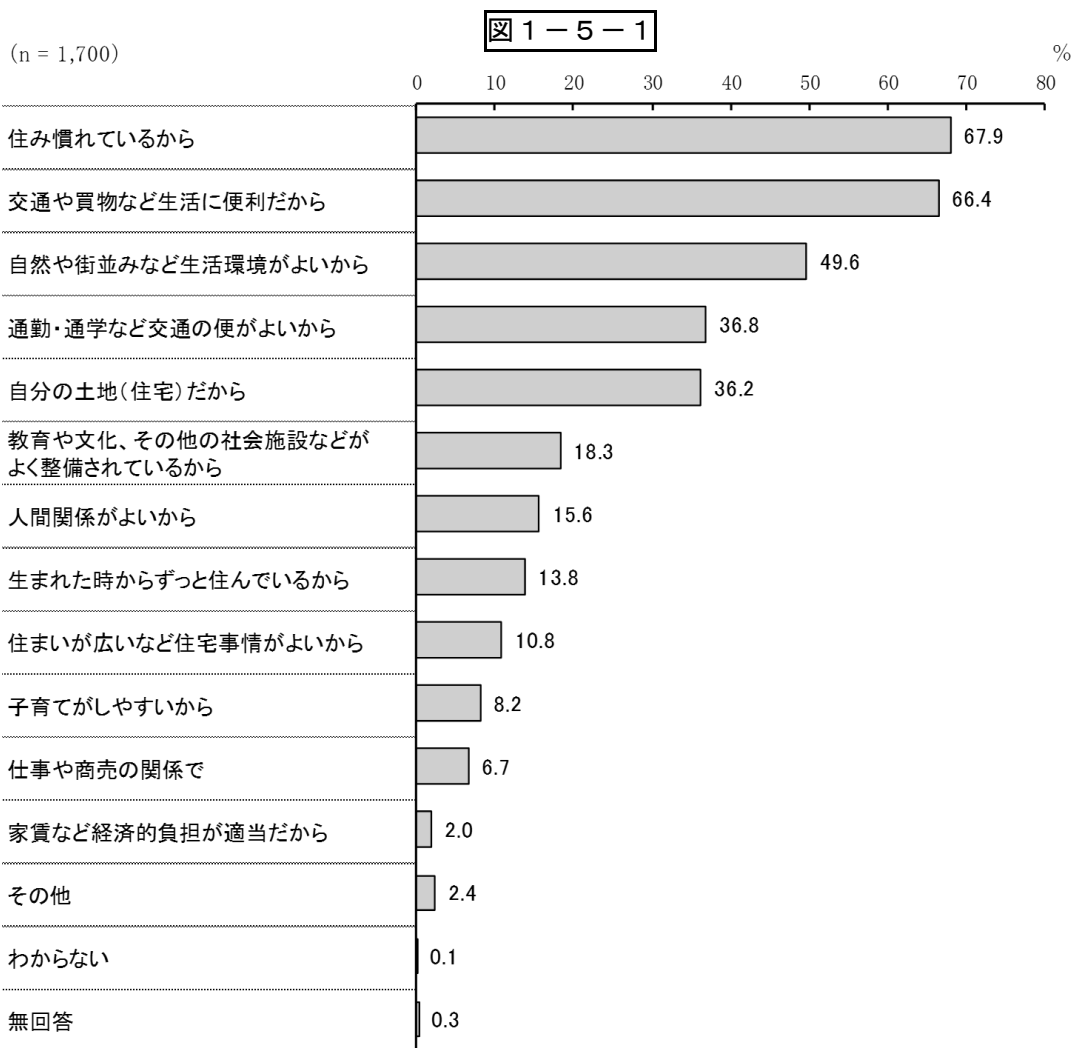
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

## (5) 定住意向理由

◎世田谷区に住みたい理由の第1位は「住み慣れているから」

(問4で「住みたいと思う」と答えた方に)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。  
(〇はいくつでも)



### <調査結果>

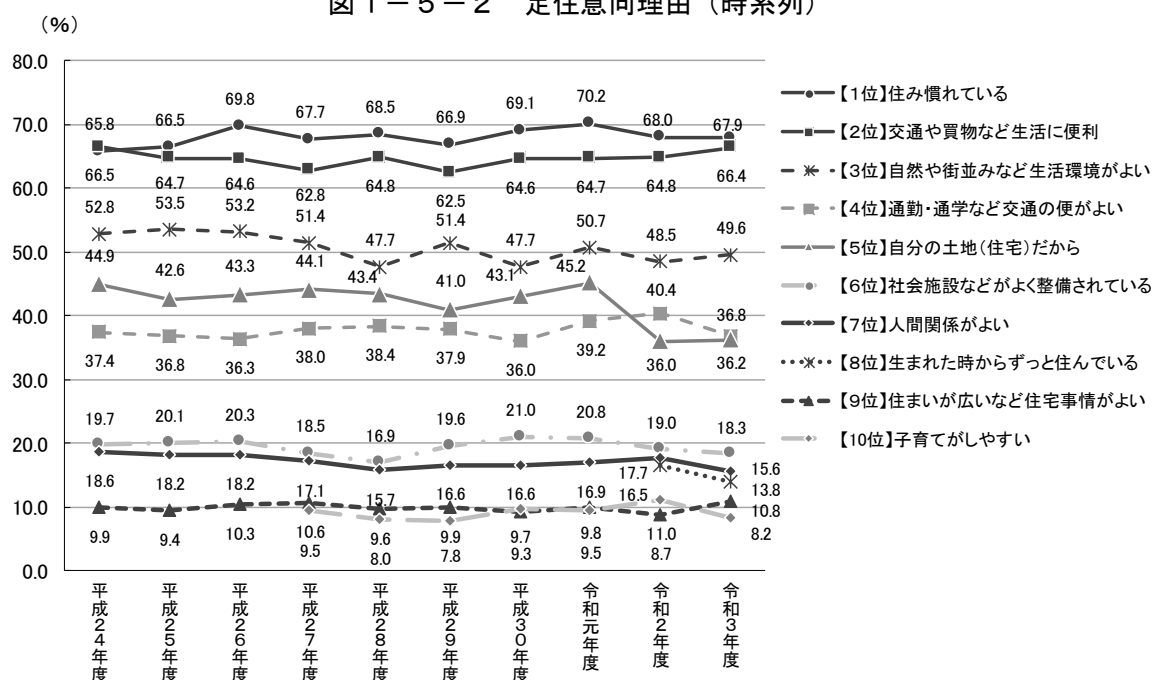
今後も世田谷区に「住みたいと思う」と答えた方(1,700人)に、その理由を聞いたところ、「住み慣れているから」(67.9%)が7割近く、「交通や買い物など生活に便利だから」(66.4%)が6割半ばとなっている。以下、「自然や街並みなど生活環境がよいから」(49.6%)、「通勤・通学など交通の便がよいから」(36.8%)、「自分の土地(住宅)だから」(36.2%)などと続く。

(図1-5-1)

表 1 - 5 - 1 定住意向理由（時系列）

理由	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
n	1,937	1,961	1,901	1,931	1,909	1,841	1,848	1,747	1,936	1,700
【1位】住み慣れている	65.8	66.5	69.8	67.7	68.5	66.9	69.1	70.2	68.0	67.9
【2位】交通や買い物など生活に便利	66.5	64.7	64.6	62.8	64.8	62.5	64.6	64.7	64.8	66.4
【3位】自然や街並みなど生活環境がよい	52.8	53.5	53.2	51.4	47.7	51.4	47.7	50.7	48.5	49.6
【4位】通勤・通学など交通の便がよい	37.4	36.8	36.3	38.0	38.4	37.9	36.0	39.2	40.4	36.8
【5位】自分の土地（住宅）だから	44.9	42.6	43.3	44.1	43.4	41.0	43.1	45.2	36.0	36.2
【6位】社会施設などがよく整備されている	19.7	20.1	20.3	18.5	16.9	19.6	21.0	20.8	19.0	18.3
【7位】人間関係がよい	18.6	18.2	18.2	17.1	15.7	16.6	16.6	16.9	17.7	15.6
【8位】生まれた時からずっと住んでいる	—	—	—	—	—	—	—	—	16.5	13.8
【9位】住まいが広いなど住宅事情がよい	9.9	9.4	10.3	10.6	9.6	9.9	9.3	9.8	8.7	10.8
【10位】子育てがしやすい	—	—	—	9.5	8.0	7.8	9.7	9.5	11.0	8.2

図 1 - 5 - 2 定住意向理由（時系列）



＜調査結果＞

平成 24 年度からの時系列の変化をみると、「住み慣れているから」と「交通や買い物など生活に便利だから」の 2 項目が 6 割台以上で上位に挙げられている傾向に変化はみられない。「自分の土地（住宅）だから」は令和 2 年度に引き続き 4 位から 5 位に下がっている。令和 2 年度から追加された「生まれた時からずっと住んでいるから」は令和 2 年同様 8 位となっている。（表 1 - 5 - 1、図 1 - 5 - 2）



表 1 - 5 - 2 定住意向理由 (地域別)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,700	住み慣れているから 67.9	交通や買い物など生活に便利だから 66.4	自然や街並みなど生活環境がよいから 49.6	通勤・通学など交通の便がよいから 36.8	自分の土地(住宅)だから 36.2	社会施設などがよく整備されているから 18.3	人間関係がよいから 15.6	生まれた時からずっと住んでいるから 13.8	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.8	子育てがしやすいから 8.2
世田谷部 世東部	255	交通や買い物など生活に便利だから 71.4	住み慣れているから 65.9	自然や街並みなど生活環境がよいから 40.0	通勤・通学など交通の便がよいから 37.3	自分の土地(住宅)だから 31.0	人間関係がよいから 15.7	生まれた時からずっと住んでいるから 14.1	社会施設などがよく整備されているから 12.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.6	子育てがしやすいから 7.8
世田谷部 世西部	225	住み慣れているから 74.7	交通や買い物など生活に便利だから 68.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.1	通勤・通学など交通の便がよいから 42.2	自分の土地(住宅)だから 35.6	社会施設などがよく整備されているから 20.9	人間関係がよいから 17.3	生まれた時からずっと住んでいるから 15.1	子育てがしやすいから 12.0	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.6
北東部 沢部	117	交通や買い物など生活に便利だから 77.8	住み慣れているから 59.8	通勤・通学など交通の便がよいから 46.2	自分の土地(住宅)だから 44.4	自然や街並みなど生活環境がよいから 35.0	生まれた時からずっと住んでいるから 21.4	社会施設などがよく整備されているから 15.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 12.0	人間関係がよいから 11.1	仕事や商売の関係で 9.4
北西部 沢部	139	交通や買い物など生活に便利だから 67.6	住み慣れているから 64.0	通勤・通学など交通の便がよいから 41.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 38.8	自分の土地(住宅)だから 32.4	生まれた時からずっと住んでいるから/社会施設などがよく整備されているから 20.1	人間関係がよいから 12.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.5	仕事や商売の関係で 9.4	
玉川部 玉北部	159	住み慣れているから 68.6	交通や買い物など生活に便利だから 66.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 56.0	自分の土地(住宅)だから 39.0	通勤・通学など交通の便がよいから 33.3	社会施設などがよく整備されているから 20.1	人間関係がよいから 17.6	生まれた時からずっと住んでいるから 12.6	住まいが広いなど住宅事情がよいから 9.4	子育てがしやすいから 6.9
玉川部 玉南部	157	交通や買い物など生活に便利だから 71.3	住み慣れているから 65.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 56.1	自分の土地(住宅)だから 41.4	通勤・通学など交通の便がよいから 38.9	人間関係がよいから 19.7	社会施設などがよく整備されているから 14.6	生まれた時からずっと住んでいるから 13.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.5	子育てがしやすいから 8.9
玉川部 玉西部	113	交通や買い物など生活に便利だから 64.6	自然や街並みなど生活環境がよいから 62.8	住み慣れているから 61.9	通勤・通学など交通の便がよいから 33.6	自分の土地(住宅)だから 30.1	社会施設などがよく整備されているから 20.4	住まいが広いなど住宅事情がよいから 16.8	生まれた時からずっと住んでいるから 15.0	人間関係がよいから 11.5	子育てがしやすいから 10.6
砧北部	228	住み慣れているから 73.7	交通や買い物など生活に便利だから 62.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 57.5	自分の土地(住宅)だから 40.4	通勤・通学など交通の便がよいから 34.2	社会施設などがよく整備されているから 23.2	人間関係がよいから 16.2	生まれた時からずっと住んでいるから 14.9	住まいが広いなど住宅事情がよいから 11.8	子育てがしやすいから 8.8
砧南部	80	住み慣れているから 75.0	自然や街並みなど生活環境がよいから 65.0	交通や買い物など生活に便利だから 45.0	自分の土地(住宅)だから 42.5	社会施設などがよく整備されているから 23.8	通勤・通学など交通の便がよいから 22.5	人間関係がよいから 20.0	生まれた時からずっと住んでいるから/子育てがしやすいから 13.8	住まいが広いなど住宅事情がよいから 10.0	
烏山	218	住み慣れているから 65.1	交通や買い物など生活に便利だから 61.9	自然や街並みなど生活環境がよいから 45.0	通勤・通学など交通の便がよいから 32.6	自分の土地(住宅)だから 32.1	社会施設などがよく整備されているから 19.3	人間関係がよいから 14.2	生まれた時からずっと住んでいるから/住まいが広いなど住宅事情がよいから 8.7	仕事や商売の関係で 7.8	

<調査結果>

地域別にみると、「住み慣れているから」はすべての地域で3位以内に挙げられている。砧南部は「交通や買い物など生活に便利だから」が他地域に比べやや低い。(表1-5-2)

表 1-5-3 定住意向理由 (性・年齢別)

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,700	住み慣れている 67.9	交通や買い物など生活に便利 66.4	自然や街並みなど生活環境がよい 49.6	通勤・通学など交通の便がよい 36.8	自分の土地(住宅)だから 36.2	社会施設などがよく整備されている 18.3	人間関係がよい 15.6	生まれた時からずっと住んでいる 13.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.8	子育てがしやすい 8.2
男性全体	665	住み慣れている 66.9	交通や買い物など生活に便利 64.7	自然や街並みなど生活環境がよい 45.3	通勤・通学など交通の便がよい 39.2	自分の土地(住宅)だから 37.1	社会施設などがよく整備されている 20.6	生まれた時からずっと住んでいる 15.8	人間関係がよい 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.3	子育てがしやすい 8.4
10・20歳代	64	住み慣れている 57.8	交通や買い物など生活に便利 56.3	自然や街並みなど生活環境がよい 37.5	生まれた時からずっと住んでいる 35.9	通勤・通学など交通の便がよい 34.4	社会施設などがよく整備されている 14.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.5	人間関係がよい 10.9	自分の土地(住宅)だから 9.4	仕事や商売の関係 3.1
30歳代	65	交通や買い物など生活に便利 61.5	住み慣れている 55.4	通勤・通学など交通の便がよい 44.6	自然や街並みなど生活環境がよい 36.9	社会施設などがよく整備されている 20.0	自分の土地(住宅)だから 16.9	人間関係がよい 15.4	子育てがしやすい 12.3	仕事や商売の関係 9.2	生まれた時からずっと住んでいる／住まいが広いなど住宅事情がよい 7.7
40歳代	121	交通や買い物など生活に便利 68.6	住み慣れている 64.5	自然や街並みなど生活環境がよい 51.2	通勤・通学など交通の便がよい 47.9	自分の土地(住宅)だから 34.7	社会施設などがよく整備されている／子育てがしやすい 18.2	人間関係がよい 14.0	仕事や商売の関係 11.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.7	
50歳代	128	住み慣れている／交通や買い物など生活に便利 66.4	交通や買い物など生活に便利 66.4	通勤・通学など交通の便がよい 48.4	自然や街並みなど生活環境がよい 46.9	自分の土地(住宅)だから 34.4	社会施設などがよく整備されている 20.3	生まれた時からずっと住んでいる 15.6	人間関係がよい 12.5	子育てがしやすい 8.6	住まいが広いなど住宅事情がよい／仕事や商売の関係 6.3
60歳代	109	住み慣れている 70.6	交通や買い物など生活に便利 68.8	自分の土地(住宅)だから 56.0	自然や街並みなど生活環境がよい 48.6	通勤・通学など交通の便がよい 35.8	社会施設などがよく整備されている 23.9	生まれた時からずっと住んでいる 18.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 13.8	人間関係がよい／仕事や商売の関係 9.2	
70歳代	107	住み慣れている 75.7	交通や買い物など生活に便利 64.5	自分の土地(住宅)だから 51.4	自然や街並みなど生活環境がよい 44.9	社会施設などがよく整備されている 21.5	通勤・通学など交通の便がよい 19.6	人間関係がよい 15.9	生まれた時からずっと住んでいる 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.3	子育てがしやすい 6.5
80歳以上	71	住み慣れている 71.8	自分の土地(住宅)だから／交通や買い物など生活に便利 59.2	自然や街並みなど生活環境がよい 42.3	社会施設などがよく整備されている 25.4	通勤・通学など交通の便がよい 22.5	住まいが広いなど住宅事情がよい 21.1	生まれた時からずっと住んでいる 16.9	人間関係がよい 14.1	仕事や商売の関係／家賃的負担が適当だから 4.2	
女性全体	1,005	住み慣れている 68.0	交通や買い物など生活に便利 67.4	自然や街並みなど生活環境がよい 52.5	通勤・通学など交通の便がよい 37.0	自分の土地(住宅)だから 34.3	人間関係がよい 17.4	社会施設などがよく整備されている 16.9	生まれた時からずっと住んでいる 12.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.3	子育てがしやすい 8.4
10・20歳代	96	交通や買い物など生活に便利 66.7	住み慣れている 58.3	通勤・通学など交通の便がよい 55.2	自然や街並みなど生活環境がよい 51.0	生まれた時からずっと住んでいる 29.2	自分の土地(住宅)だから 14.6	住まいが広いなど住宅事情がよい／社会施設などがよく整備されている 12.5	人間関係がよい 8.3	仕事や商売の関係 5.2	
30歳代	130	交通や買い物など生活に便利 73.1	住み慣れている 56.2	自然や街並みなど生活環境がよい／通勤・通学など交通の便がよい 53.8	人間関係がよい 18.5	子育てがしやすい 16.9	自分の土地(住宅)だから／社会施設などがよく整備されている 16.2	生まれた時からずっと住んでいる 16.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 13.1	10.8	
40歳代	180	住み慣れている 68.3	交通や買い物など生活に便利 66.1	自然や街並みなど生活環境がよい 59.4	通勤・通学など交通の便がよい 43.3	自分の土地(住宅)だから 30.0	社会施設などがよく整備されている 18.9	子育てがしやすい 17.8	人間関係がよい 15.6	生まれた時からずっと住んでいる 8.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 5.6
50歳代	199	住み慣れている 70.9	交通や買い物など生活に便利 69.3	自然や街並みなど生活環境がよい 57.8	通勤・通学など交通の便がよい 45.2	自分の土地(住宅)だから 39.2	社会施設などがよく整備されている 24.1	人間関係がよい 21.6	生まれた時からずっと住んでいる 11.6	住まいが広いなど住宅事情がよい／仕事や商売の関係 10.6	
60歳代	134	住み慣れている 81.3	交通や買い物など生活に便利 68.7	自然や街並みなど生活環境がよい 55.2	自分の土地(住宅)だから 40.3	通勤・通学など交通の便がよい 29.1	生まれた時からずっと住んでいる 15.7	人間関係がよい 12.7	住まいが広いなど住宅事情がよい／社会施設などがよく整備されている 11.2	仕事や商売の関係 6.7	
70歳代	148	住み慣れている 70.3	交通や買い物など生活に便利 66.9	自分の土地(住宅)だから 50.0	自然や街並みなど生活環境がよい 47.3	通勤・通学など交通の便がよい 18.9	人間関係がよい 16.9	社会施設などがよく整備されている 14.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.5	生まれた時からずっと住んでいる 10.1	仕事や商売の関係 4.7
80歳以上	117	住み慣れている 65.0	交通や買い物など生活に便利 59.8	自分の土地(住宅)だから 41.9	自然や街並みなど生活環境がよい 35.9	人間関係がよい 25.6	社会施設などがよく整備されている 15.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.8	通勤・通学など交通の便がよい 12.0	生まれた時からずっと住んでいる 6.0	仕事や商売の関係／家賃的負担が適当だから／子育てがしやすい 1.7

<調査結果>

性・年齢別にみると、男性80歳以上を除いて、各年代とも「住み慣れている」「交通や買い物など生活に便利だから」が2位以内に挙げられている。(表1-5-3)

表1-5-4 定住意向理由（共働きの有無別・ライフステージ別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,700	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	生まれた時からずっと住んでいる	住まいが広いなど住宅事情がよい	子育てがしやすい
		67.9	66.4	49.6	36.8	36.2	18.3	15.6	13.8	10.8	8.2
有配偶者全体	1,044	交通や買い物など生活に便利	住み慣れている	自然や街並みなど生活環境がよい	自分の土地（住宅）だから	通勤・通学など交通の便がよい	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	子育てがしやすい	住まいが広いなど住宅事情がよい	生まれた時からずっと住んでいる
		67.0	66.8	53.1	41.4	37.5	21.1	16.1	12.6	11.6	10.0
共働き	507	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	子育てがしやすい	住まいが広いなど住宅事情がよい	仕事や商売の関係
		67.9	66.7	53.8	45.2	38.5	19.5	17.8	14.0	11.2	10.1
共働きでない	534	交通や買い物など生活に便利	住み慣れている	自然や街並みなど生活環境がよい	自分の土地（住宅）だから	通勤・通学など交通の便がよい	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	生まれた時からずっと住んでいる	住まいが広いなど住宅事情がよい	子育てがしやすい
		67.4	65.7	52.2	44.0	30.1	22.3	14.4	12.2	11.6	11.4
独身期	224	交通や買い物など生活に便利	住み慣れている	通勤・通学など交通の便がよい	自然や街並みなど生活環境がよい	生まれた時からずっと住んでいる	自分の土地（住宅）だから	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	住まいが広いなど住宅事情がよい	仕事や商売の関係
		64.7	61.6	51.3	43.8	26.8	13.4	12.5	11.6	9.8	6.7
家族形成期	132	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	住み慣れている	子育てがしやすい	社会施設などがよく整備されている	自分の土地（住宅）だから	人間関係がよい	住まいが広いなど住宅事情がよい	仕事や商売の関係
		69.7	59.1	50.0	43.9	26.5	23.5	18.9	16.7	14.4	9.1
家族成長前期	146	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	子育てがしやすい	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	生まれた時からずっと住んでいる	住まいが広いなど住宅事情がよい
		66.4	61.6	54.8	39.0	36.3	32.2	24.7	24.0	6.8	5.5
家族成長後期	134	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	人間関係がよい	社会施設などがよく整備されている	子育てがしやすい	生まれた時からずっと住んでいる	住まいが広いなど住宅事情がよい
		65.7	64.2	56.7	50.0	39.6	19.4	17.2	16.4	14.2	10.4
家族成熟期	183	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	生まれた時からずっと住んでいる	仕事や商売の関係	住まいが広いなど住宅事情がよい
		76.0	71.0	58.5	45.9	41.0	23.5	14.8	12.6	10.4	9.3
高齢期Ⅰ	138	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自分の土地（住宅）だから	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	社会施設などがよく整備されている	人間関係がよい	住まいが広いなど住宅事情がよい	生まれた時からずっと住んでいる	子育てがしやすい
		75.4	61.6	50.7	44.9	27.5	21.7	19.6	16.7	13.0	8.7
高齢期Ⅱ	343	住み慣れている	交通や買い物など生活に便利	自分の土地（住宅）だから	自然や街並みなど生活環境がよい	人間関係がよい	通勤・通学など交通の便がよい	社会施設などがよく整備されている	生まれた時からずっと住んでいる	住まいが広いなど住宅事情がよい	仕事や商売の関係
		71.7	65.6	48.1	41.4	19.0	16.0	15.5	12.0	11.4	4.1
その他	334	住み慣れている／交通や買い物など生活に便利	自然や街並みなど生活環境がよい	通勤・通学など交通の便がよい	自分の土地（住宅）だから	社会施設などがよく整備されている	生まれた時からずっと住んでいる	人間関係がよい	住まいが広いなど住宅事情がよい	仕事や商売の関係	
			69.8	50.3	39.8	33.5	17.4	15.0	9.9	9.6	9.0

<調査結果>

共働きの有無別にみると、いずれも「住み慣れているから」「交通や買い物など生活に便利だから」が上位2位に挙げられており、3位はいずれも「自然や街並みなど生活環境がよいから」となっている。

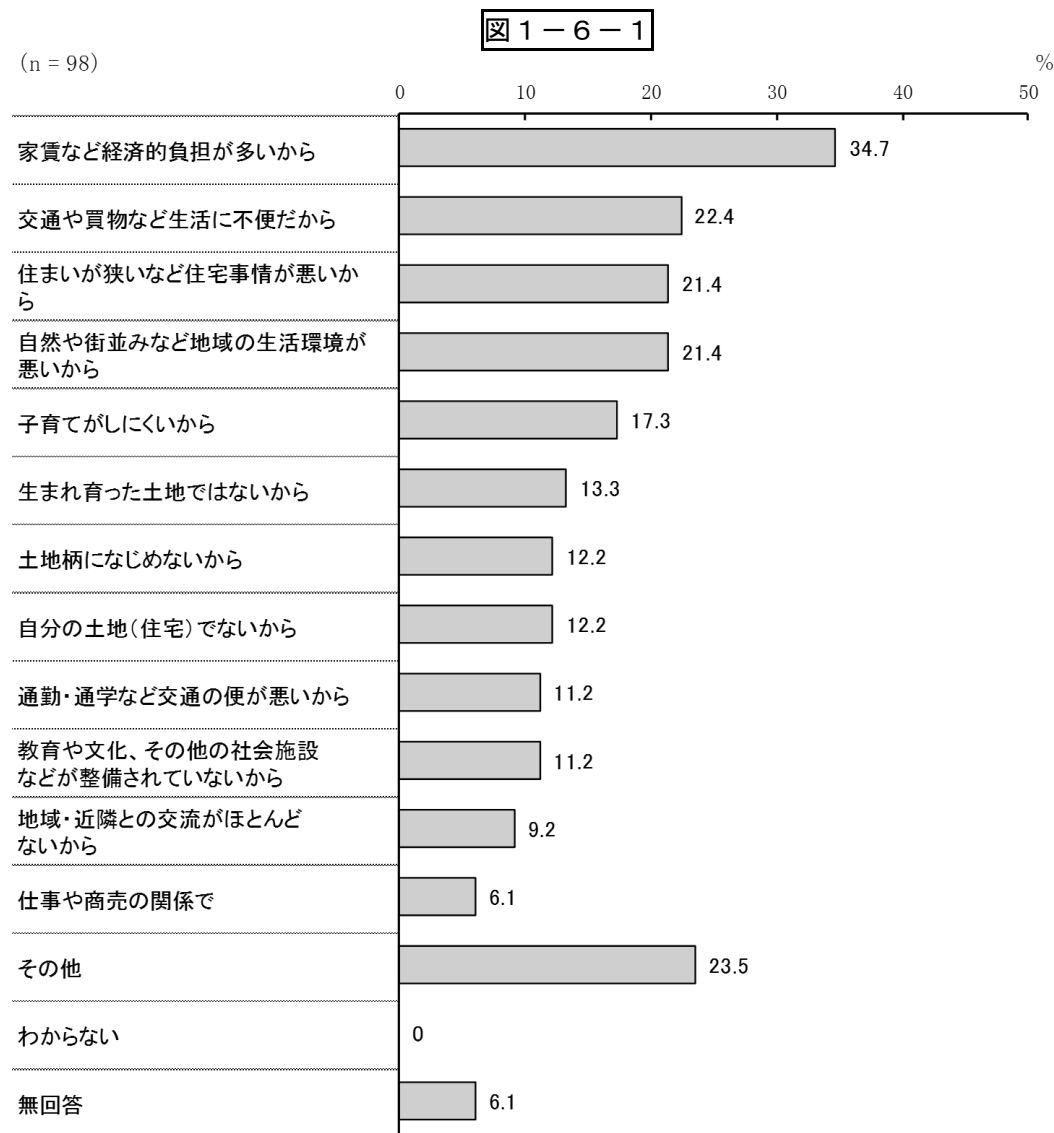
ライフステージ別にみると、「交通や買い物など生活に便利だから」はすべてのライフステージで2位以内に入っている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は家族形成期で2位となっている。（表1-5-4）

## (6) 非定住意向理由

◎世田谷区に住みたくない理由の第1位は「家賃など経済的負担が多いから」

(問4で「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答えた方に)

問4-2 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)



### <調査結果>

今後は世田谷区に「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答え、《非定住意向》を示した方(98人)に、その理由を聞いたところ、「家賃など経済的負担が多いから」(34.7%)が3割半ば、「交通や買い物など生活に不便だから」(22.4%)が2割を超えている。以下、「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」、「自然や街並みなど地域の生活環境が悪いから」(21.4%)、「子育てがしにくいから」(17.3%)、「生まれ育った土地ではないから」(13.3%)などと続く。(図1-6-1)

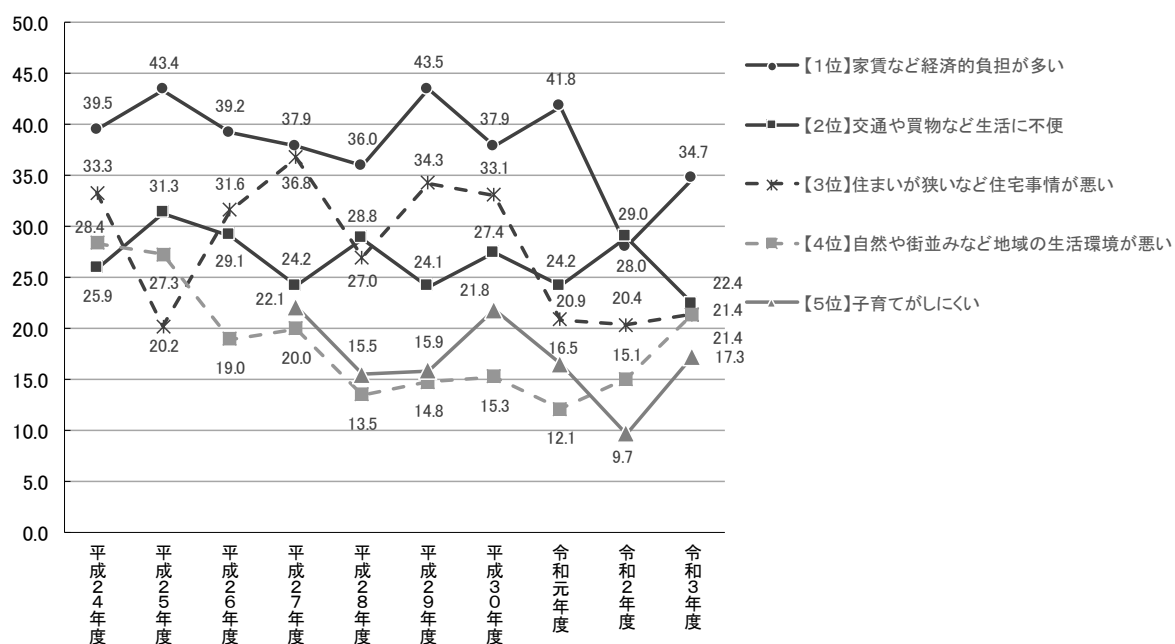
表 1 - 6 - 1 非定住意向理由（時系列）

(%)

理由	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
n	81	99	79	95	111	108	124	91	93	98
【1位】家賃など経済的負担が多い	39.5	43.4	39.2	37.9	36.0	43.5	37.9	41.8	28.0	34.7
【2位】交通や買い物など生活に不便	25.9	31.3	29.1	24.2	28.8	24.1	27.4	24.2	29.0	22.4
【3位】住まいが狭いなど住宅事情が悪い	33.3	20.2	31.6	36.8	27.0	34.3	33.1	20.9	20.4	21.4
【4位】自然や街並みなど地域の生活環境が悪い	28.4	27.3	19.0	20.0	13.5	14.8	15.3	12.1	15.1	21.4
【5位】子育てがしにくい	—	—	—	22.1	15.5	15.9	21.8	16.5	9.7	17.3
【6位】生まれ育った土地ではない	—	—	—	—	—	—	—	—	19.4	13.3
【7位】土地柄になじめない	8.6	11.1	12.7	15.8	14.4	13.0	12.1	15.4	10.8	12.2
【8位】自分の土地(住宅)でない	21.0	14.1	29.1	18.9	18.9	24.1	19.4	24.2	17.2	12.2
【9位】通勤・通学など交通の便が悪い	13.6	11.1	15.2	11.6	19.8	13.9	26.6	16.5	18.3	11.2
【10位】社会施設などが整備されていない	12.3	13.1	16.5	16.8	17.1	14.8	16.9	15.4	11.8	11.2

図 1 - 6 - 2 非定住意向理由（時系列）

(%)



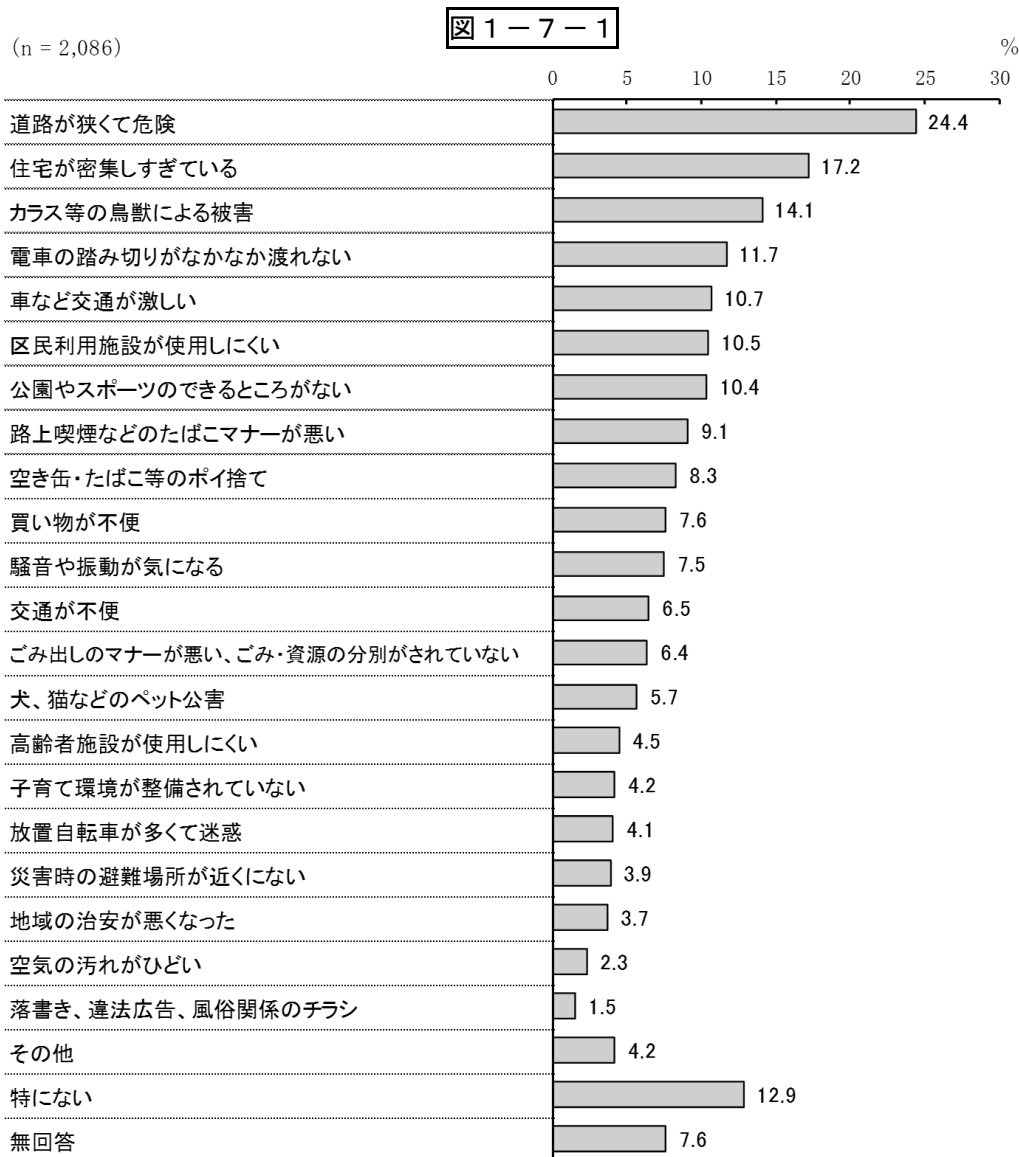
〈調査結果〉

平成 24 年度からの時系列の変化をみると、令和元年度まで 1 位で令和 2 年度に 2 位になった「家賃など経済的負担が多いから」が、令和 3 年度に再び 1 位になっている。「交通や買い物など生活に不便だから」は 2 割半ばから 3 割前後で推移していたが、令和 3 年度では 2 割台になっている。（表 1 - 6 - 1、図 1 - 6 - 2）

## (7) 地域における日常生活での困りごと

◎「道路が狭くて危険」が2割半ば

問5 あなたは、普段生活してこの地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)



### <調査結果>

地域内での日常生活で困っていることを聞いたところ、「道路が狭くて危険」(24.4%)が2割半ばで最も高い。以下、「住宅が密集しすぎている」(17.2%)、「カラス等の鳥獣による被害」(14.1%)、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」(11.7%)、「車など交通が激しい」(10.7%)、「区民利用施設が使用しにくい」(10.5%)などと続く。(図1-7-1)

表1-7-1 地域における日常生活での困りごと（時系列）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
令和3年度	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラス等の鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできるところがない 10.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買い物が不便 7.6
令和2年度	2,371	道路が狭くて危険 28.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラス等の鳥獣による被害 18.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	区民利用施設が使用しにくい 13.3	車など交通が激しい 12.7	たばこマナーが悪い 10.9	公園やスポーツのできるところがない 10.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.7	騒音や振動が気になる 9.0
令和元年度	2,171	道路が狭くて危険 26.7	カラス等の鳥獣による被害 19.2	住宅が密集しすぎている 17.0	車など交通が激しい 13.8	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.4	騒音や振動が気になる 9.7	公園やスポーツのできるところがない 9.5	ごみ出しのマナーが悪い 8.8	
平成29年度	2,319	道路が狭くて危険 26.0	車など交通が激しい 16.1	住宅が密集しすぎている 15.9	カラス等の鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.4	区民利用施設が使用しにくい 10.1	交通が不便 9.1	騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.6	公園やスポーツのできるところがない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.1
平成28年度	2,355	道路が狭くて危険 23.4	住宅が密集しすぎている 15.1	カラス等の鳥獣による被害 14.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 13.2	区民利用施設が使用しにくい 10.2	公園やスポーツのできるところがない／交通が不便 8.0	買い物が不便 7.6	犬、猫などのペット公害 7.3	
平成27年度	2,388	道路が狭くて危険 25.3	住宅が密集しすぎている 15.7	カラス等の鳥獣による被害 14.7	車など交通が激しい 14.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 11.6	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.0	交通が不便／犬、猫などのペット公害 8.6	買い物が不便 8.5	
平成26年度	2,362	道路が狭くて危険 24.1	カラス等の鳥獣による被害 15.9	住宅が密集しすぎている 15.5	車など交通が激しい 15.4	区民利用施設が使用しにくい 11.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.1	放置自転車が多くて迷惑 9.6	公園やスポーツのできるところがない 8.7	交通が不便 8.5	騒音や振動が気になる 8.4
平成25年度	2,354	道路が狭くて危険 25.9	車など交通が激しい／カラス等の鳥獣による被害 15.6	住宅が密集しすぎている 13.8	放置自転車が多くて迷惑 11.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.3	公園やスポーツのできるところがない 10.1	区民利用施設が使用しにくい 10.0	騒音や振動が気になる 9.1	買い物が不便 9.0	
平成24年度	2,332	道路が狭くて危険 25.0	車など交通が激しい 16.3	カラス等の鳥獣による被害 14.5	住宅が密集しすぎている 13.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.6	放置自転車が多くて迷惑 11.6	区民利用施設が使用しにくい 10.9	騒音や振動が気になる 9.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.0	犬、猫などのペット公害 8.9
平成23年度	1,314	道路が狭くて危険 24.6	車など交通が激しい 16.8	カラス等の鳥獣による被害 16.0	住宅が密集しすぎている 14.2	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.2	放置自転車が多くて迷惑 10.7	交通が不便／騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.0	公園やスポーツのできるところがない 7.9	

注) 平成30年度は質問項目がなかった。

<調査結果>

平成23年度からの時系列の変化をみると、「道路が狭くて危険」はいずれの年も1位で、2割半ば前後で推移している。「住宅が密集しすぎている」は平成26年度以降は常に3位以内に挙がっている。「カラス等の鳥獣による被害」は、平成29年度の4位を除くと常に3位以内に挙がっている。(表1-7-1)

図1-7-2 地域における日常生活での困りごと—地域別（上位3項目）

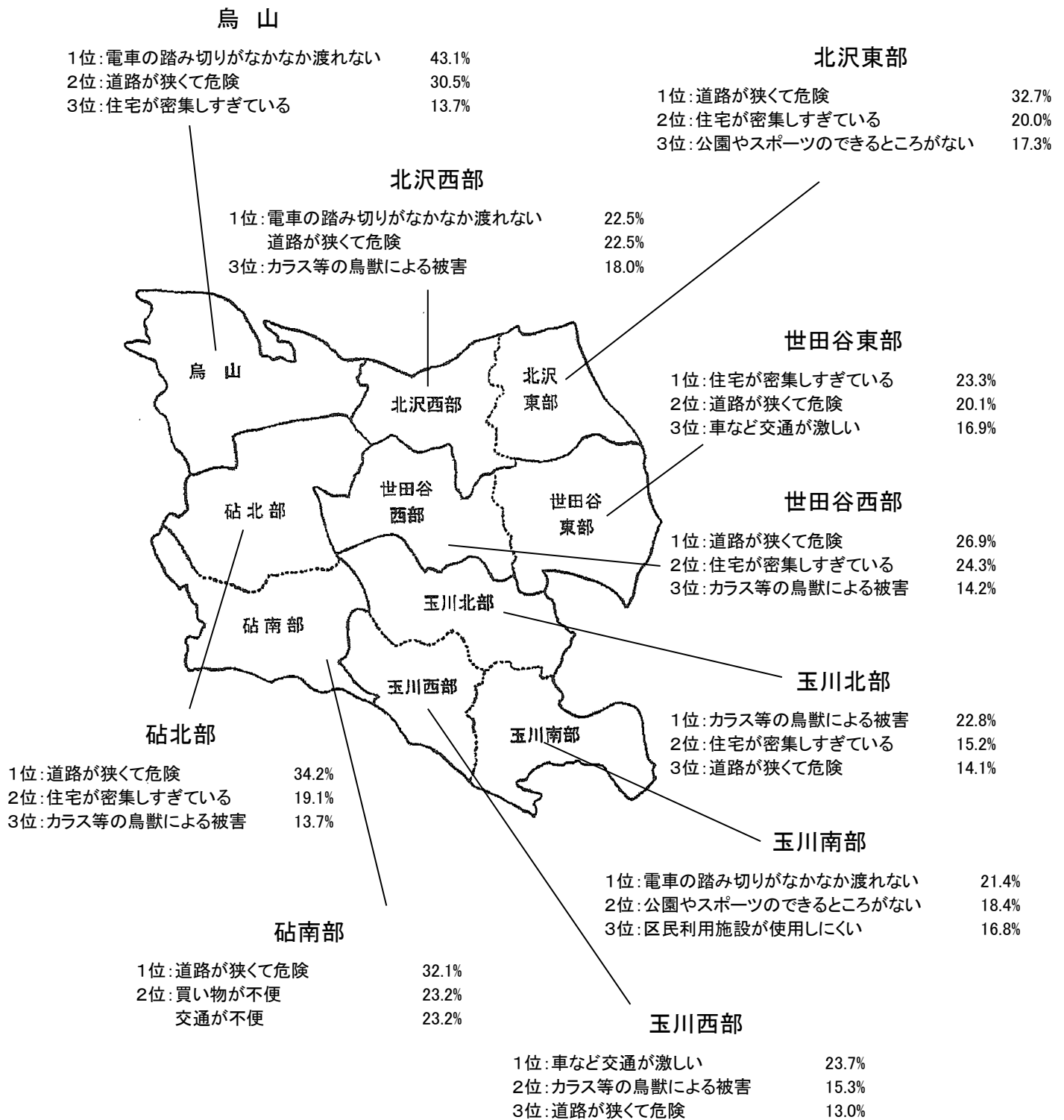




表 1-7-2 地域における日常生活での困りごと（地域別）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラス等の鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.4	たばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買い物に不便 7.6
世田谷東部	313	住宅が密集しすぎている 23.3	道路が狭くて危険 20.1	車など交通が激しい 16.9	区民利用施設が使用しにくい/騒音や振動が気になる 11.8	カラス等の鳥獣による被害 11.5	ごみ出しのマナーが悪い 10.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6	たばこマナーが悪い 8.0	公園やスポーツのできる場所がない/犬、猫などのペット公害 7.3	
世田谷西部	268	道路が狭くて危険 26.9	住宅が密集しすぎている 24.3	カラス等の鳥獣による被害 14.2	公園やスポーツのできる場所がない 12.3	たばこマナーが悪い 10.8	車など交通が激しい 9.7	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6	区民利用施設が使用しにくい/交通が不便 7.1	犬、猫などのペット公害 6.7	
北沢東部	150	道路が狭くて危険 32.7	住宅が密集しすぎている 20.0	公園やスポーツのできる場所がない 17.3	たばこマナーが悪い 13.3	カラス等の鳥獣による被害 12.7	電車の踏み切りがなかなか渡れない/空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.0	区民利用施設が使用しにくい/車など交通が激しい 9.3	騒音や振動が気になる 8.7		
北沢西部	178	電車の踏み切りがなかなか渡れない/道路が狭くて危険 22.5	切りがなかなか渡れない/道路が狭くて危険 18.0	カラス等の鳥獣による被害 16.9	住宅が密集しすぎている 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.1	公園やスポーツのできる場所がない 8.4	ごみ出しのマナーが悪い 7.9	騒音や振動が気になる 7.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て/たばこマナーが悪い 7.3	
玉川北部	184	カラス等の鳥獣による被害 22.8	住宅が密集しすぎている 15.2	道路が狭くて危険 14.1	車など交通が激しい 12.5	交通が不便/騒音や振動が気になる 11.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て/たばこマナーが悪い 9.8	買い物に不便 8.7	住宅が密集しすぎている 7.1	騒音や振動が気になる 6.6	たばこマナーが悪い/犬、猫などのペット公害 6.6
玉川南部	196	電車の踏み切りがなかなか渡れない 21.4	公園やスポーツのできる場所がない 18.4	区民利用施設が使用しにくい 16.8	道路が狭くて危険 15.3	カラス等の鳥獣による被害 13.8	買い物に不便 11.7	住宅が密集しすぎている 8.7	騒音や振動が気になる 7.1	たばこマナーが悪い/犬、猫などのペット公害 6.6	
玉川西部	131	車など交通が激しい 23.7	カラス等の鳥獣による被害 15.3	道路が狭くて危険 13.0	区民利用施設が使用しにくい 11.5	買い物に不便/騒音や振動が気になる 9.9	公園やスポーツのできる場所がない/交通が不便 8.4	住宅が密集しすぎている/たばこマナーが悪い 7.6			
砧北部	278	道路が狭くて危険 34.2	住宅が密集しすぎている 19.1	カラス等の鳥獣による被害 13.7	たばこマナーが悪い 11.2	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.8	区民利用施設が使用しにくい 9.4	公園やスポーツのできる場所がない/車など交通が激しい 9.0	買い物に不便 7.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 5.8	
砧南部	112	道路が狭くて危険 32.1	買い物に不便/交通が不便 23.2	住宅が密集しすぎている 14.3	車など交通が激しい/カラス等の鳥獣による被害 10.7	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.9	災害時の避難場所が近くにない/区民利用施設が使用しにくい 8.0	犬、猫などのペット公害 7.1			
烏山	262	電車の踏み切りがなかなか渡れない 43.1	道路が狭くて危険 30.5	住宅が密集しすぎている 13.7	区民利用施設が使用しにくい 11.5	公園やスポーツのできる場所がない 11.1	カラス等の鳥獣による被害 10.3	放置自転車が多くて迷惑 9.5	たばこマナーが悪い 8.8	車など交通が激しい 7.3	高齢者施設が使用しにくい/空き缶・たばこ等のポイ捨て 6.1

<調査結果>

地域別にみると、「道路が狭くて危険」は世田谷西部、北沢東部、北沢西部、砧北部、砧南部の5つの地域で1位となっている。「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は北沢西部、玉川南部、烏山の3つの地域で1位となっている。「住宅が密集しすぎている」は世田谷東部で1位となっている。（表1-7-2）

表 1-7-3 地域における日常生活での困りごと（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラス等の鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.4	たばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買い物に不便 7.6
男性全体	802	道路が狭くて危険 25.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラス等の鳥獣による被害 13.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.3	車など交通が激しい 12.2	公園やスポーツのできる場所がない 11.0	区民利用施設が使用しにくい 9.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6	騒音や振動が気になる 7.6
10・20歳代	85	道路が狭くて危険 29.4	住宅が密集しすぎている 21.2	公園やスポーツのできる場所がない 17.6	車など交通が激しい 17.6	交通が不便 12.9	騒音や振動が気になる 10.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 9.4	買い物に不便 9.4	放置自転車が多くて迷惑/ 子育て環境が整備されていない/ 空き缶・たばこ等のポイ捨て/ カラス等の鳥獣による被害 7.1	
30歳代	86	道路が狭くて危険 38.4	住宅が密集しすぎている 24.4	公園やスポーツのできる場所がない 18.6	車など交通が激しい 16.3	子育て環境が整備されていない 14.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.6	ごみ出しのマナーが悪い 10.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	買い物に不便 9.3	
40歳代	143	道路が狭くて危険 28.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 17.5	住宅が密集しすぎている 16.1	たばこマナーが悪い 16.1	カラス等の鳥獣による被害 14.0	公園やスポーツのできる場所がない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 10.5	子育て環境が整備されていない 9.1	騒音や振動が気になる 7.7	
50歳代	153	道路が狭くて危険 29.4	住宅が密集しすぎている 23.5	車など交通が激しい 15.7	カラス等の鳥獣による被害 15.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て/ たばこマナーが悪い 11.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 10.5	公園やスポーツのできる場所がない 9.8	区民利用施設が使用しにくい 9.8	騒音や振動が気になる 7.8	
60歳代	135	道路が狭くて危険 23.0	カラス等の鳥獣による被害 22.2	住宅が密集しすぎている 18.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 11.1	犬、猫などのペット公害 10.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.6	交通が不便 8.9	高齢者施設が使用しにくい/ 買い物に不便/ 車など交通が激しい 7.4	
70歳代	123	住宅が密集しすぎている 17.1	道路が狭くて危険 16.3	カラス等の鳥獣による被害 13.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.0	区民利用施設が使用しにくい/ 空き缶・たばこ等のポイ捨て/ たばこマナーが悪い 9.8	高齢者施設が使用しにくい/ 犬、猫などのペット公害 8.9	公園やスポーツのできる場所がない 8.1			
80歳以上	77	住宅が密集しすぎている 14.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 13.0	公園やスポーツのできる場所がない/ 高年齢者施設が使用しにくい/ 道路が狭くて危険 10.4	買い物に不便 9.1	災害時の避難場所が近くにない/ 区民利用施設が使用しにくい/ 車など交通が激しい/ カラス等の鳥獣による被害/ 犬、猫などのペット公害 7.8					
女性全体	1,244	道路が狭くて危険 24.1	住宅が密集しすぎている 16.2	カラス等の鳥獣による被害 14.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.4	区民利用施設が使用しにくい 11.3	公園やスポーツのできる場所がない 9.7	車など交通が激しい 9.6	たばこマナーが悪い 9.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.1	買い物に不便 7.7
10・20歳代	118	道路が狭くて危険 25.4	たばこマナーが悪い/ カラス等の鳥獣による被害 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.3	住宅が密集しすぎている 13.6	騒音や振動が気になる 12.7	公園やスポーツのできる場所がない 11.9	車など交通が激しい 11.0	買い物に不便 9.3	交通が不便 7.6	
30歳代	170	道路が狭くて危険 33.5	住宅が密集しすぎている 21.8	子育て環境が整備されていない 14.1	カラス等の鳥獣による被害 12.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない/ たばこマナーが悪い 11.8	公園やスポーツのできる場所がない 10.6	車など交通が激しい 8.8	区民利用施設が使用しにくい 8.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 7.1	
40歳代	236	道路が狭くて危険 31.8	住宅が密集しすぎている 20.3	カラス等の鳥獣による被害 14.4	公園やスポーツのできる場所がない/ 車など交通が激しい/ たばこマナーが悪い 12.7	区民利用施設が使用しにくい 11.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.0	買い物に不便 7.2	交通が不便 6.8		
50歳代	250	道路が狭くて危険 26.8	カラス等の鳥獣による被害 22.8	住宅が密集しすぎている 20.8	区民利用施設が使用しにくい 13.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.8	騒音や振動が気になる 10.0	車など交通が激しい 9.6	公園やスポーツのできる場所がない 9.2	ごみ出しのマナーが悪い 7.2
60歳代	158	道路が狭くて危険 18.4	区民利用施設が使用しにくい 15.2	住宅が密集しすぎている 14.6	カラス等の鳥獣による被害 11.4	車など交通が激しい 10.1	公園やスポーツのできる場所がない/ 電車の踏み切りがなかなか渡れない 8.9	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.2	放置自転車が 多くて迷惑/ ごみ出しのマナーが悪い 6.3		
70歳代	175	道路が狭くて危険 13.1	高齢者施設が使用しにくい 12.6	区民利用施設が使用しにくい 10.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない/ 空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.3	カラス等の鳥獣による被害 9.7	騒音や振動が気になる/ ごみ出しのマナーが悪い 9.1	災害時の避難場所が近くにない/ 買い物に不便 8.6			
80歳以上	136	高齢者施設が使用しにくい 15.4	道路が狭くて危険 14.0	災害時の避難場所が近くにない 12.5	区民利用施設が使用しにくい/ 買い物に不便 11.8	住宅が密集しすぎている/ 電車の踏み切りがなかなか渡れない/ 犬、猫などのペット公害 10.3	カラス等の鳥獣による被害 10.3	公園やスポーツのできる場所がない 8.8			

<調査結果>

性・年齢別にみると、1位は男性の70歳代、80歳以上が「住宅が密集しすぎている」、女性の80歳以上が「高齢者施設が使用しにくい」、その他の年代はいずれも「道路が狭くて危険」となっている。(表1-7-3)

## 2. 区政

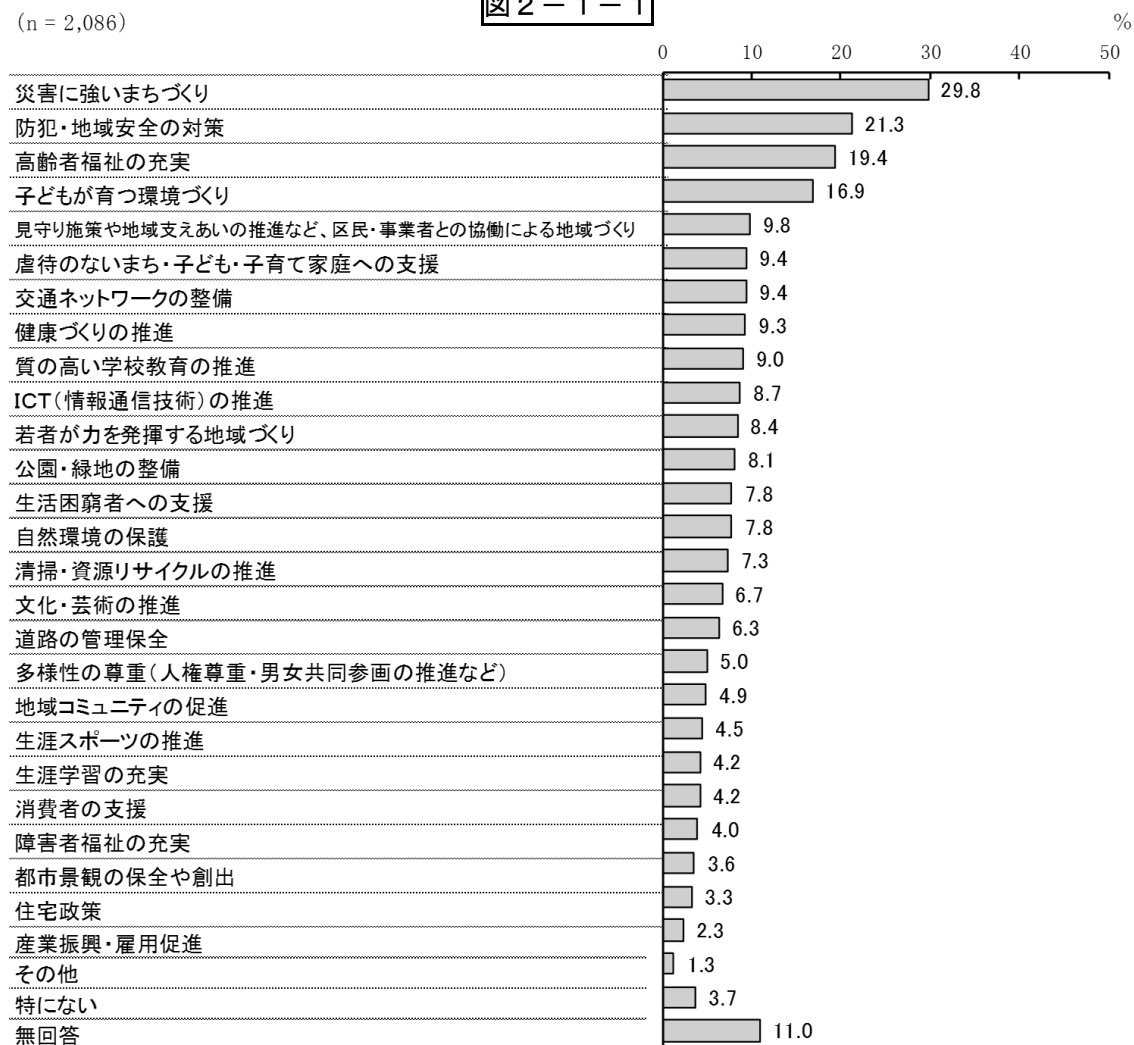
### (1) 区が積極的に取り組むべき事業

◎「災害に強いまちづくり」が第1位、「防犯・地域安全の対策」が第2位、「高齢者福祉の充実」が第3位

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思えますか。(〇は3つまで)

(n = 2,086)

図2-1-1



#### <調査結果>

今後区が積極的に取り組むべき事業について聞いたところ、「災害に強いまちづくり」(29.8%)が3割、「防犯・地域安全の対策」(21.3%)が2割を超え、「高齢者福祉の充実」(19.4%)がほぼ2割となっている。(図2-1-1)

表 2-1-1 区が積極的に取り組むべき事業（時系列）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
令和3年度	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり 9.8	唐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援/交通ネットワークの整備 9.4	健康づくりの推進 9.3	質の高い学校教育の推進 9.0	ICT(情報通信技術)の推進 8.7	
令和2年度	2,371	災害に強いまちづくり 42.9	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 18.6	ICT(情報通信技術)の推進 13.6	健康づくりの推進 13.1	自然環境の保護 12.4	見守り施策や地域支えあいの推進など 12.2	質の高い学校教育の推進/交通ネットワークの整備 12.1	
令和元年度	2,171	災害に強いまちづくり 32.8	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 31.2	子どもが育つ環境づくり 21.1	唐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援など 15.3	見守り施策や地域支えあいの推進 13.4	質の高い学校教育の推進 12.2	健康づくりの推進 11.7	交通ネットワークの整備 11.3	公園・緑地の整備/自然環境の保護 10.6
平成30年度	2,330	防犯・地域安全の対策 35.7	高齢者福祉の充実 35.2	災害に強いまちづくり 34.6	子どもが育つ環境づくり 27.8	健康づくりの推進/見守り施策や地域支えあいの推進など 16.1	自然環境の保護 13.6	交通ネットワークの整備 13.4	質の高い学校教育の推進 13.0	公園・緑地の整備 12.7	
平成28年度	2,355	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	見守り施策や地域支えあいの推進など 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	唐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
平成27年度	2,388	高齢者福祉の充実 33.8	災害に強いまちづくり 27.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子ども子育て家庭への支援 16.8	児童(保育)福祉の充実 16.0	見守り施策や地域支えあいの推進など/若者が力を発揮する地域づくり 11.9	自然環境の保護 11.6	健康づくりの推進 10.7	交通ネットワークの整備 10.2	
平成26年度	2,362	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉の充実 29.2	児童(保育)福祉の充実 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理整備 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7
平成25年度	2,354	災害に強いまちづくり 49.9	防犯・地域安全の対策 41.6	高齢者福祉の充実 28.8	自然環境の保護 18.9	児童(保育)福祉の充実 15.5	道路の管理保全 15.4	公園・緑地の整備 11.4	消費者の支援 7.9	住宅施策 7.6	健康づくり 7.4
平成24年度	2,332	災害に強いまちづくり 56.4	防犯・地域安全の対策 44.6	高齢者福祉の充実 26.0	道路の管理保全 17.8	自然環境の保護 17.2	児童(保育)福祉の充実 13.1	公園・緑地の整備 9.7	消費者の支援 7.9	住宅施策 7.4	健康づくり 6.9
平成23年度	1,314	災害に強いまちづくり 48.6	防犯・地域安全の対策 41.8	高齢者福祉の充実 28.3	自然環境の保護 17.1	道路の管理保全 13.5	児童(保育)福祉の充実 13.0	公園・緑地の整備 11.3	清掃・資源リサイクルの推進 7.4	住宅施策 7.1	都市景観の保全や創出 6.6

注) 平成 29 年度は質問項目がなかった。

<調査結果>

平成 23 年度からの時系列の変化をみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が常に上位 3 位に挙がっている。また、「子どもが育つ環境づくり」は平成 28 年度以降、4 位となっている。(表 2-1-1)

表 2-1-2 区が積極的に取り組むべき事業（地域別）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位											
全体	2,086	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	区民・事業者との協働による地域づくり	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備	健康づくりの推進	質の高い学校教育の推進	ICT(情報通信技術)の推進	29.8	21.3	19.4	16.9	9.8	9.4	9.4	9.3	9.0	8.7		
世田谷東部	313	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	健康づくりの推進	区民・事業者との協働による地域づくり	若者が力を発揮する地域づくり	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	清掃・資源リサイクルの推進	交通ネットワークの整備	28.4	23.3	16.9	14.4	13.1	10.9	9.9	9.6	9.3	8.9	
世田谷西部	268	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	高齢者福祉の充実	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	生活困窮者への支援	区民・事業者との協働による地域づくり	ICT(情報通信技術)の推進／質の高い学校教育の推進	公園・緑地の整備	268	30.6	25.4	19.8	16.8	11.9	10.8	10.4	9.7	9.0		
北沢部	150	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	健康づくりの推進	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	清掃・資源リサイクルの推進	文化・芸術の推進／自然環境の保護	質の高い学校教育の推進	150	36.0	20.7	18.7	16.7	12.0	12.0	11.3	10.0	9.3		
北沢西部	178	災害に強いまちづくり	子どもが育つ環境づくり	防犯・地域安全の対策	高齢者福祉の充実	公園・緑地の整備	ICT(情報通信技術)の推進	区民・事業者との協働による地域づくり	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	質の高い学校教育の推進	生活困窮者への支援／交通ネットワークの整備	178	24.2	20.8	17.4	14.0	11.8	11.2	10.7	10.1	9.0	7.9
玉川北部	184	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	質の高い学校教育の推進／交通ネットワークの整備	公園・緑地の整備	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	健康づくりの推進／生活困窮者への支援	清掃・資源リサイクルの推進	質の高い学校教育の推進	184	27.7	21.2	19.6	15.8	11.4	11.4	11.4	9.8	9.2	
玉川南部	196	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	子どもが育つ環境づくり	ICT(情報通信技術)の推進	公園・緑地の整備	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	健康づくりの推進	質の高い学校教育の推進	196	30.1	23.0	21.9	15.8	11.7	11.2	9.7	9.2	8.7		
玉川西部	131	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	防犯・地域安全の対策	自然環境の保護	健康づくりの推進	生活困窮者への支援	清掃・資源リサイクルの推進	ICT(情報通信技術)の推進	交通ネットワークの整備	131	33.6	23.7	16.0	14.5	11.5	10.7	9.9	9.9	9.2	
砧北部	278	災害に強いまちづくり	防犯・地域安全の対策	高齢者福祉の充実	子どもが育つ環境づくり	質の高い学校教育の推進	交通ネットワークの整備	区民・事業者との協働による地域づくり	健康づくりの推進	若者が力を発揮する地域づくり	ICT(情報通信技術)の推進	278	30.2	27.7	23.4	17.6	11.2	10.4	10.1	9.7	9.4	
砧南部	112	災害に強いまちづくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	交通ネットワークの整備	子どもが育つ環境づくり	質の高い学校教育の推進	区民・事業者との協働による地域づくり	生活困窮者への支援	道路の管理保全	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	112	34.8	24.1	20.5	17.0	15.2	14.3	11.6	10.7	8.9	
烏山	262	災害に強いまちづくり	子どもが育つ環境づくり	高齢者福祉の充実	防犯・地域安全の対策	交通ネットワークの整備	区民・事業者との協働による地域づくり	健康づくりの推進	ICT(情報通信技術)の推進	若者が力を発揮する地域づくり	公園・緑地の整備	262	27.9	16.8	15.6	15.6	13.0	11.8	10.3	9.9	9.2	

<調査結果>

地域別にみると、「災害に強いまちづくり」がすべての地域において1位に挙がっている。砧南部を除くすべての地域で「子どもが育つ環境づくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が2位から4位にあがっている。(表2-1-2)

表 2-1-3 区が積極的に取り組むべき事業（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	区民・事業者との協働による地域づくり 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.4	健康づくりの推進 9.3	質の高い学校教育の推進 9.0	ICT(情報通信技術)の推進 8.7	
男性全体	802	災害に強いまちづくり 27.4	高齢者福祉の充実 20.6	防犯・地域安全の対策 19.5	子どもが育つ環境づくり 16.5	ICT(情報通信技術)の推進 12.7	交通ネットワークの整備 11.3	健康づくりの推進 9.9	公園・緑地の整備 9.4	生活困窮者への支援 9.1	自然環境の保護 8.7
10・20歳代	85	若者が力を発揮する地域づくり 23.5	ICT(情報通信技術)の推進 21.2	災害に強いまちづくり 15.3	子どもが育つ環境づくり／交通ネットワークの整備 14.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.9	生活困窮者への支援／防犯・地域安全の対策／公園・緑地の整備 12.9	生活困窮者への支援 11.8	健康づくりの推進 10.6		
30歳代	86	子どもが育つ環境づくり 32.6	災害に強いまちづくり 31.4	ICT(情報通信技術)の推進 18.6	交通ネットワークの整備 16.3	質の高い学校教育の推進 15.1	防犯・地域安全の対策 14.0	公園・緑地の整備 12.8	若者が力を発揮する地域づくり／消費者の支援 11.6	生活困窮者への支援 10.5	
40歳代	143	災害に強いまちづくり 31.5	子どもが育つ環境づくり 27.3	質の高い学校教育の推進 18.9	ICT(情報通信技術)の推進 17.5	防犯・地域安全の対策 16.1	交通ネットワークの整備 14.7	公園・緑地の整備 13.3	健康づくりの推進／若者が力を発揮する地域づくり 9.8	高齢者福祉の充実 9.1	
50歳代	153	災害に強いまちづくり 30.1	防犯・地域安全の対策 20.3	高齢者福祉の充実 16.3	自然環境の保護 15.0	ICT(情報通信技術)の推進 14.4	健康づくりの推進／交通ネットワークの整備 13.1	生活困窮者への支援／子どもが育つ環境づくり 12.4	区民・事業者との協働による地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.2		
60歳代	135	災害に強いまちづくり 40.7	高齢者福祉の充実 37.8	防犯・地域安全の対策 25.9	子どもが育つ環境づくり 12.6	区民・事業者との協働による地域づくり 10.4	文化・芸術の推進 9.6	健康づくりの推進／生活困窮者への支援 8.9	ICT(情報通信技術)の推進 8.9		
70歳代	123	高齢者福祉の充実 31.7	防犯・地域安全の対策 21.1	災害に強いまちづくり 18.7	子どもが育つ環境づくり／自然環境の保護 12.2	生活困窮者への支援／公園・緑地の整備 10.6	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 8.9	区民・事業者との協働による地域づくり 8.1	健康づくりの推進 7.3		
80歳以上	77	高齢者福祉の充実 40.3	防犯・地域安全の対策 24.7	災害に強いまちづくり 14.3	健康づくりの推進 13.0	地域コミュニティの促進／交通ネットワークの整備 9.1	生涯学習の充実／清掃・資源リサイクルの推進 7.8	区民・事業者との協働による地域づくり 6.5			
女性全体	1,244	災害に強いまちづくり 31.4	防犯・地域安全の対策 22.4	高齢者福祉の充実 18.4	子どもが育つ環境づくり 17.0	区民・事業者との協働による地域づくり 10.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.5	質の高い学校教育の推進 9.5	健康づくりの推進 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.4	交通ネットワークの整備 8.3
10・20歳代	118	災害に強いまちづくり 32.2	子どもが育つ環境づくり 20.3	多様性の尊重 19.5	防犯・地域安全の対策 16.1	若者が力を発揮する地域づくり 13.6	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.7	交通ネットワークの整備 11.9	健康づくりの推進 10.2	公園・緑地の整備 8.5	
30歳代	170	子どもが育つ環境づくり 38.2	災害に強いまちづくり 26.5	防犯・地域安全の対策 18.8	質の高い学校教育の推進 18.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 17.1	公園・緑地の整備 14.1	交通ネットワークの整備 12.4	道路の管理 10.6	清掃・資源リサイクルの推進 8.8	多様性の尊重／文化・芸術の推進 8.2
40歳代	236	災害に強いまちづくり 32.2	防犯・地域安全の対策 25.0	子どもが育つ環境づくり 22.9	質の高い学校教育の推進 19.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 13.1	区民・事業者との協働による地域づくり／ICT(情報通信技術)の推進 11.9	高齢者福祉の充実 11.4	若者が力を発揮する地域づくり 9.3		
50歳代	250	災害に強いまちづくり 44.0	防犯・地域安全の対策 25.2	高齢者福祉の充実 20.8	健康づくりの推進 12.8	子どもが育つ環境づくり 11.2	区民・事業者との協働による地域づくり 10.8	若者が力を発揮する地域づくり 10.0	自然環境の保護／道路の管理 9.6	生活困窮者への支援 9.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.2
60歳代	158	災害に強いまちづくり 32.9	防犯・地域安全の対策 21.5	高齢者福祉の充実 20.3	区民・事業者との協働による地域づくり 15.2	子どもが育つ環境づくり 12.0	清掃・資源リサイクルの推進 10.8	健康づくりの推進 10.1	生活困窮者への支援 8.2	自然環境の保護 7.6	
70歳代	175	高齢者福祉の充実 29.7	災害に強いまちづくり 25.1	防犯・地域安全の対策 21.7	区民・事業者との協働による地域づくり 16.0	子どもが育つ環境づくり 9.7	生活困窮者への支援 7.4	健康づくりの推進 6.9	若者が力を発揮する地域づくり 6.3	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 5.7	
80歳以上	136	高齢者福祉の充実 33.8	防犯・地域安全の対策 25.0	災害に強いまちづくり 18.4	区民・事業者との協働による地域づくり 11.0	清掃・資源リサイクルの推進 9.6	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 8.8	道路の管理 8.1	文化・芸術の推進 7.4	健康づくりの推進 5.1	

### <調査結果>

性・年齢別にみると、1位は、男性の10・20歳代が「若者が力を発揮する地域づくり」、30歳代の男女が「子どもが育つ環境づくり」、70歳代、80歳以上の男女が「高齢者福祉の充実」その他の年代は「災害に強いまちづくり」となっている。(表2-1-3)

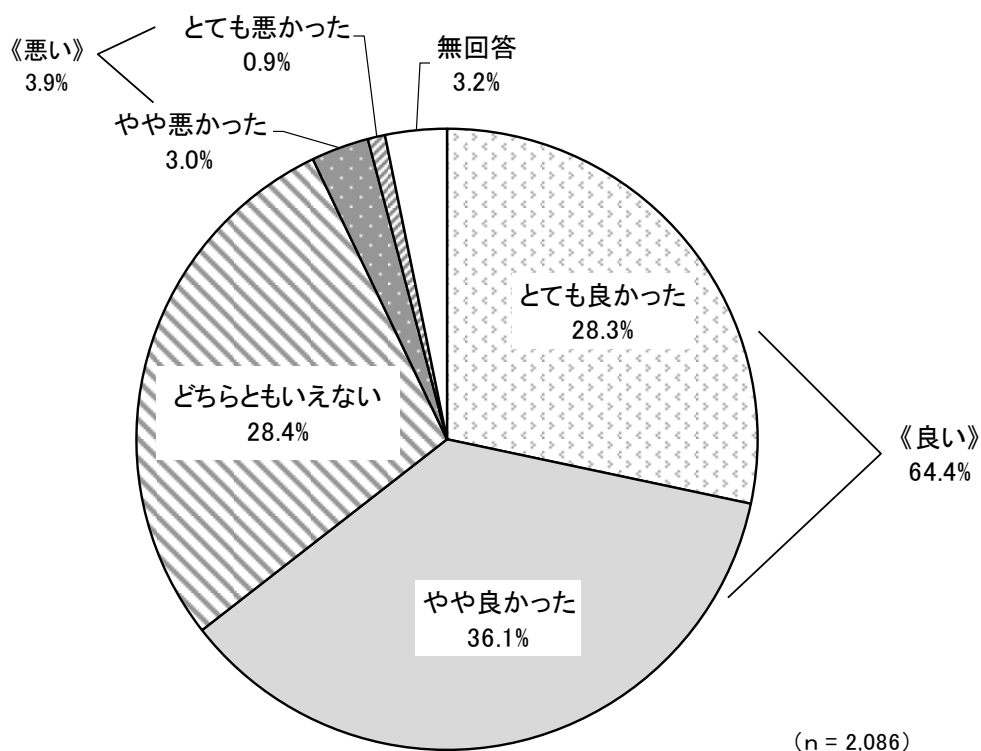
### 3. 職員応対

#### (1) 窓口応対

◎窓口応対が《良い》と感じている人が6割半ば

問7 区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。(○は1つ)

図3-1-1

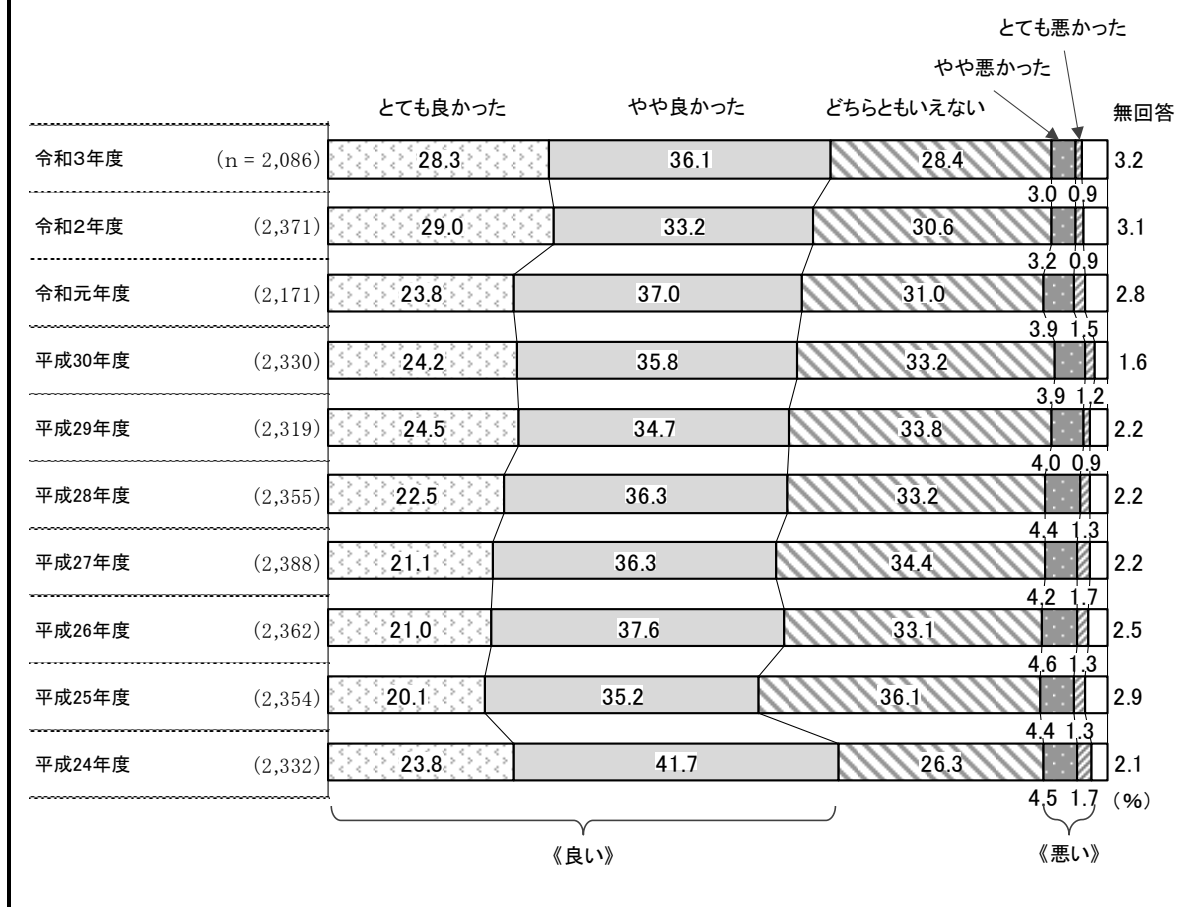


#### <調査結果>

世田谷区の窓口や応対についての印象を聞いたところ、「とても良かった」(28.3%)と「やや良かった」(36.1%)を合わせた《良い》(64.4%)が6割半ばとなっている。「どちらともいえない」(28.4%)は3割近く、「やや悪かった」(3.0%)と「とても悪かった」(0.9%)を合わせた《悪い》(3.9%)は1割に満たない。(図3-1-1)



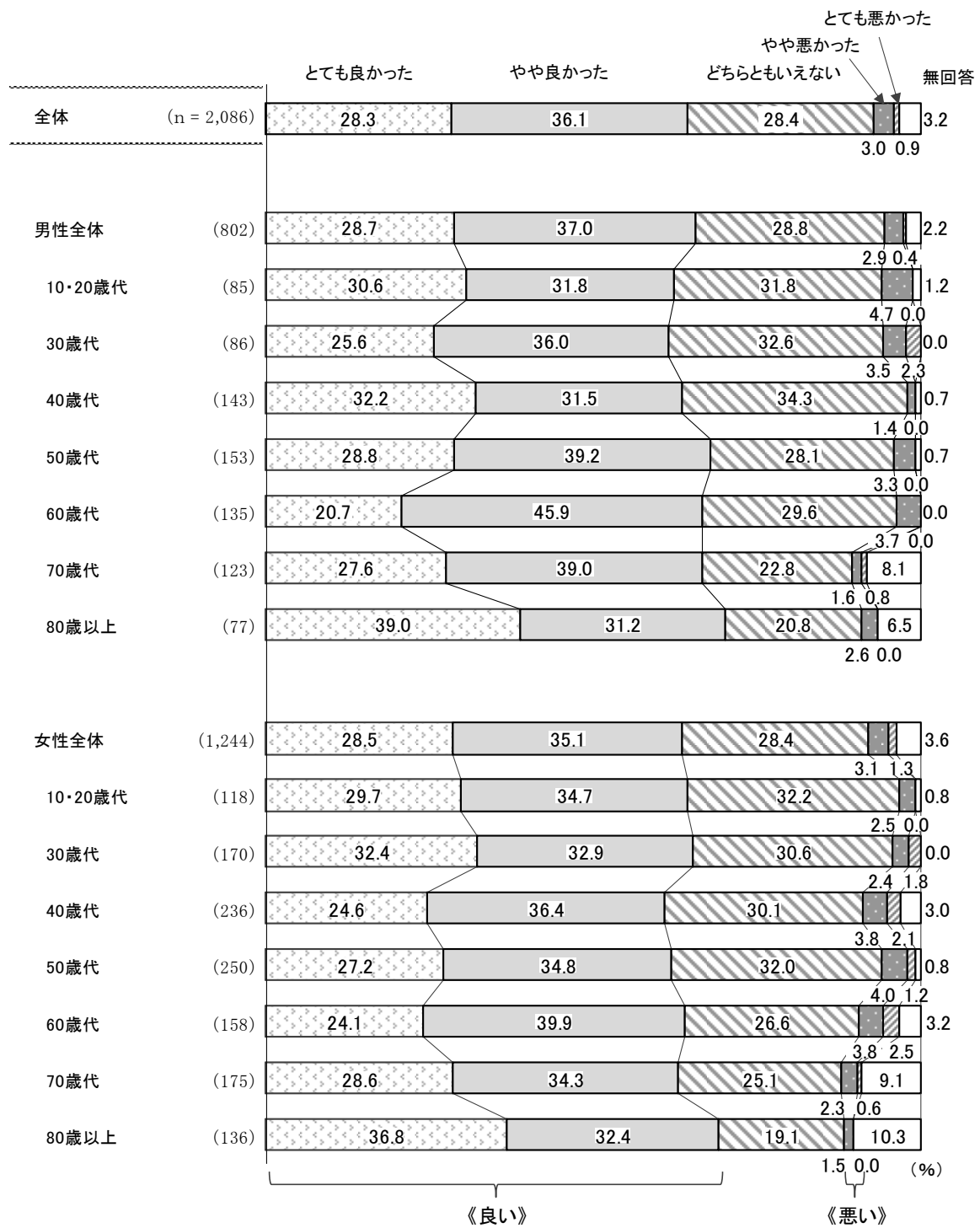
図 3-1-2 窓口対応（時系列）



〈調査結果〉

平成 24 年度からの時系列の変化をみると、《良い》は平成 24 年度（65.5%）から平成 25 年度（55.3%）にかけて減少したが、その後年々増える傾向にある。令和 3 年度（64.4%）では過去最も高くなっている。《悪い》は、いずれの年度も 1 割に満たない。（図 3-1-2）

図3-1-3 窓口対応（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《良い》は男性の80歳以上で7割、女性の80歳以上でほぼ7割となっている。「とても良かった」は男性の80歳以上がほぼ4割、女性の80歳以上が4割近くとなっている。(図3-1-3)

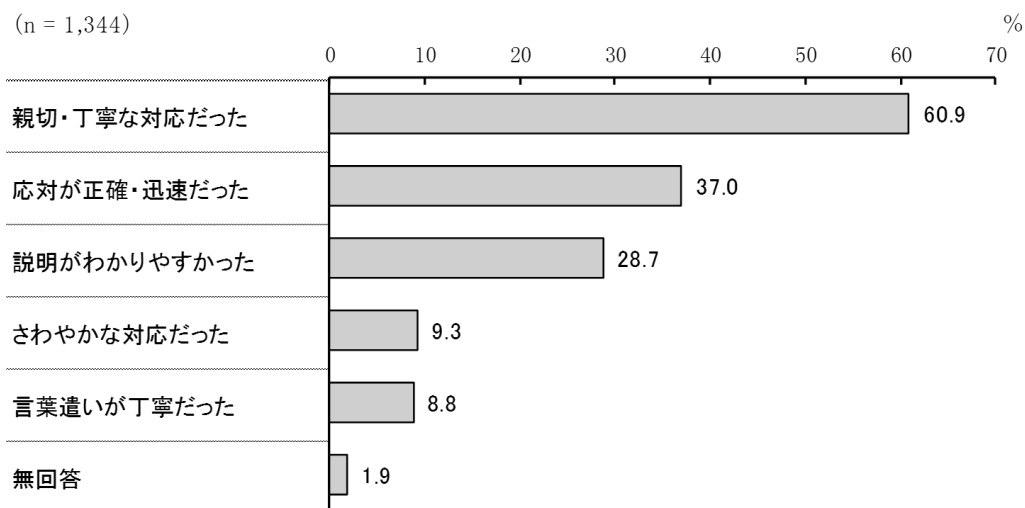
## (2) 印象が良かった点

◎印象が良かった点としては「親切・丁寧な対応だった」がほぼ6割

(問7で「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方に)

問7-1 印象が良かった点はどれですか。(〇は2つまで)

図3-2-1



### <調査結果>

区の窓口や対応について「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方(1,344人)に、印象の良かった点を聞いたところ、「親切・丁寧な対応だった」(60.9%)がほぼ6割で最も高い。以下、「対応が正確・迅速だった」(37.0%)、「説明がわかりやすかった」(28.7%)、「さわやかな対応だった」(9.3%)、「言葉遣いが丁寧だった」(8.8%)と続く。(図3-2-1)

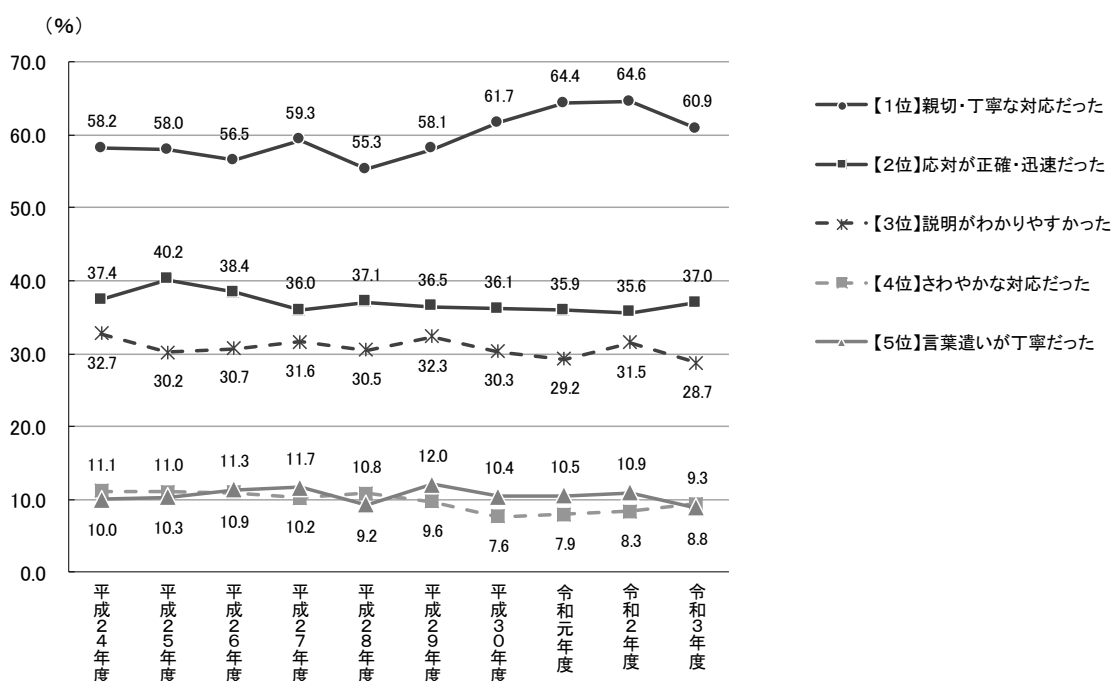
表3-2-1 印象が良かった点（時系列）

(%)

理由	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
n	1,526	1,302	1,382	1,373	1,386	1,371	1,399	1,319	1,473	1,344
【1位】親切・丁寧な対応だった	58.2	58.0	56.5	59.3	55.3	58.1	61.7	64.4	64.6	60.9
【2位】対応が正確・迅速だった	37.4	40.2	38.4	36.0	37.1	36.5	36.1	35.9	35.6	37.0
【3位】説明がわかりやすかった	32.7	30.2	30.7	31.6	30.5	32.3	30.3	29.2	31.5	28.7
【4位】さわやかな対応だった	11.1	11.0	10.9	10.2	10.8	9.6	7.6	7.9	8.3	9.3
【5位】言葉遣いが丁寧だった	10.0	10.3	11.3	11.7	9.2	12.0	10.4	10.5	10.9	8.8

注) 令和3年度の値で順位付けを行った

図3-2-2 印象が良かった点（時系列）



＜調査結果＞

平成24年度からの時系列での変化をみると、「親切・丁寧な対応だった」がいずれの年でも1位となっているが、令和2年度に比べ令和3年度では減少している。以下、3位まではすべて同じ順位になっている。「言葉遣いが丁寧だった」は令和3年度で5位となっている。（表3-2-1、図3-2-2）

表3-2-2 印象が良かった点（性・年齢別）

（%）

区分	n	説明がわかりやすかった	応対が正確・迅速だった	さわやかな対応だった	親切・丁寧な対応だった	言葉遣いが丁寧だった	無回答	
全体	1,344	28.7	37.0	9.3	60.9	8.8	1.9	
性・年齢別	男性全体	527	29.6	39.8	11.8	61.9	9.5	1.3
	10・20 歳代	53	28.3	39.6	13.2	54.7	11.3	1.9
	30 歳代	53	30.2	56.6	5.7	62.3	9.4	—
	40 歳代	91	27.5	33.0	9.9	60.4	11.0	1.1
	50 歳代	104	28.8	48.1	12.5	58.7	8.7	2.9
	60 歳代	90	31.1	35.6	11.1	70.0	12.2	1.1
	70 歳代	82	29.3	39.0	12.2	59.8	4.9	1.2
	80 歳以上	54	33.3	27.8	18.5	66.7	9.3	—
	女性全体	791	28.8	35.0	7.5	60.6	8.0	2.3
	10・20 歳代	76	25.0	43.4	7.9	50.0	13.2	—
	30 歳代	111	32.4	45.9	4.5	52.3	12.6	2.7
	40 歳代	144	24.3	34.7	7.6	68.1	7.6	2.8
	50 歳代	155	29.7	37.4	5.8	61.3	8.4	1.9
	60 歳代	101	28.7	31.7	9.9	63.4	3.0	1.0
	70 歳代	110	32.7	29.1	9.1	59.1	5.5	3.6
	80 歳以上	94	28.7	22.3	8.5	64.9	6.4	3.2

## 〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「親切・丁寧な対応だった」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の60歳代が7割、女性の40歳代が7割近くとなっている。「応対が正確・迅速だった」は男性の30歳代で6割近くとなっている。（表3-2-2）

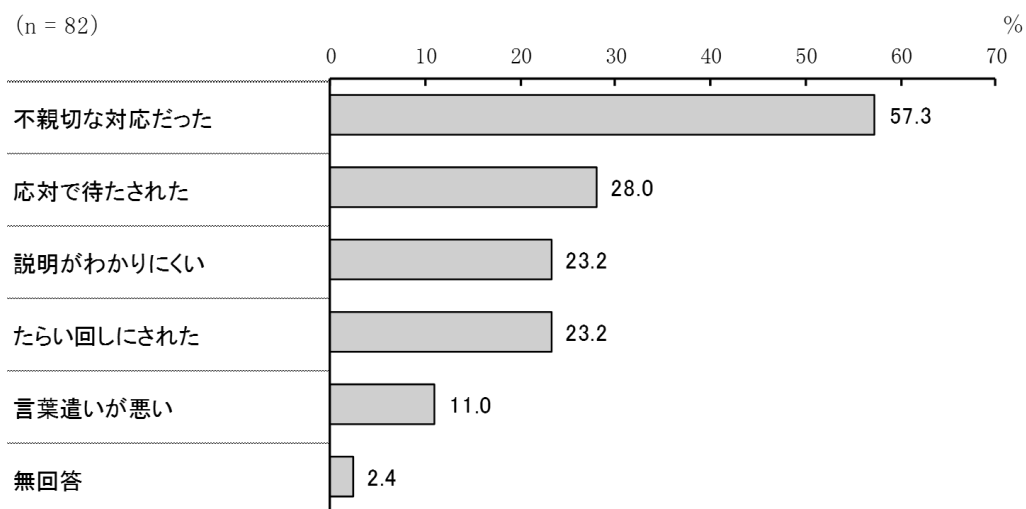
### (3) 印象が悪かった点

◎印象が悪かった点としては「不親切な対応だった」が6割近く

(問7で「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方に)

問7-2 印象が悪かった点はどれですか。(〇は2つまで)

図3-3-1



#### <調査結果>

区の窓口や応対について「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方(82人)に、応対の印象が悪かった点を聞いたところ、「不親切な対応だった」(57.3%)が6割近くで最も高い。以下、「応対で待たされた」(28.0%)、「説明がわかりにくい」(23.2%)、「たらい回しにされた」(23.2%)、「言葉遣いが悪い」(11.0%)と続く。(図3-3-1)

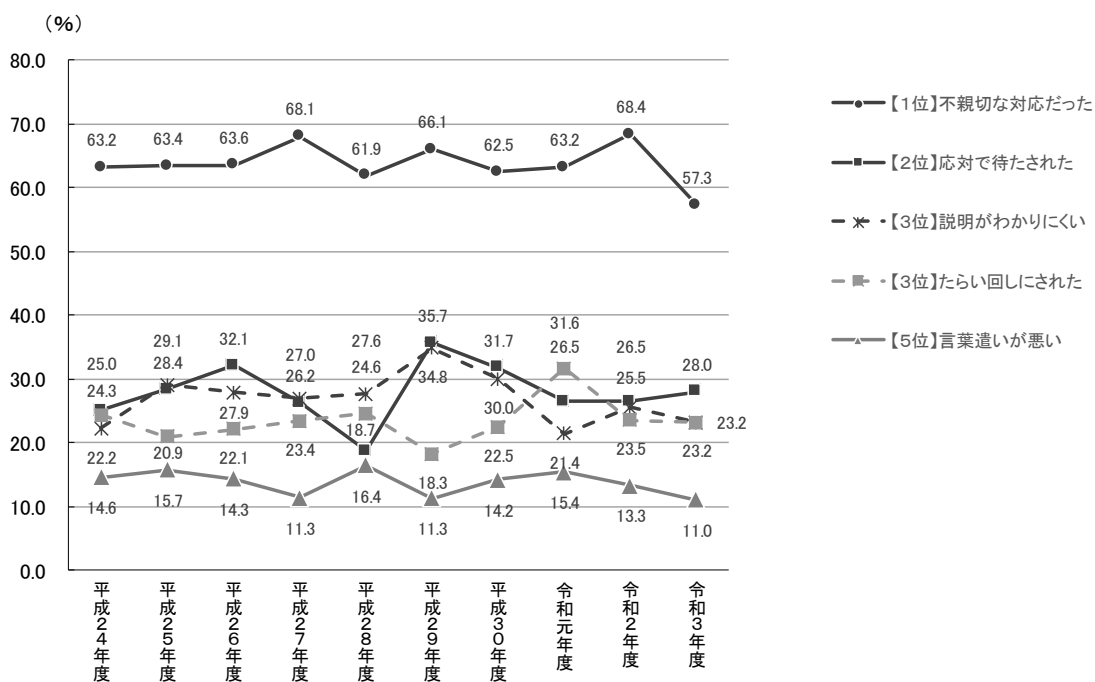
表3-3-1 印象が悪かった点（時系列）

(%)

理由	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
n	144	134	140	141	134	115	120	117	98	82
【1位】不親切な対応だった	63.2	63.4	63.6	68.1	61.9	66.1	62.5	63.2	68.4	57.3
【2位】対応で待たされた	25.0	28.4	32.1	26.2	18.7	35.7	31.7	26.5	26.5	28.0
【3位】説明がわかりにくい	22.2	29.1	27.9	27.0	27.6	34.8	30.0	21.4	25.5	23.2
【3位】たらい回しにされた	24.3	20.9	22.1	23.4	24.6	18.3	22.5	31.6	23.5	23.2
【5位】言葉遣いが悪い	14.6	15.7	14.3	11.3	16.4	11.3	14.2	15.4	13.3	11.0

注) 令和3年度の値で順位付けを行った

図3-3-2 印象が悪かった点（時系列）



〈調査結果〉

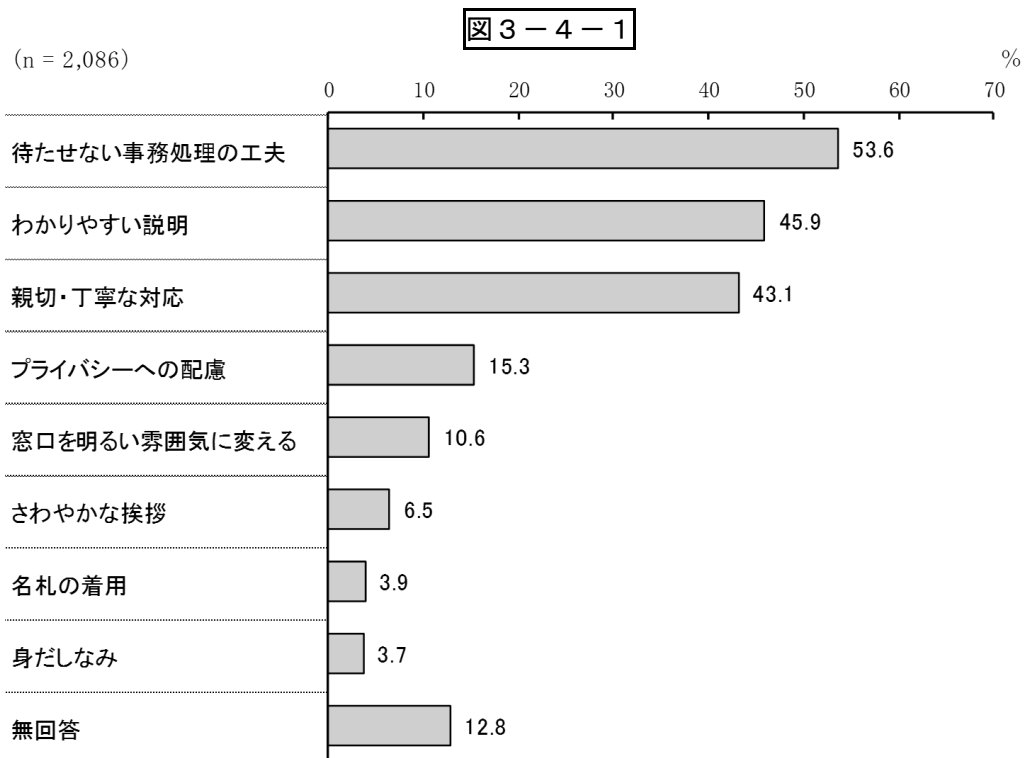
平成24年度からの時系列での変化をみると、「不親切な対応だった」がいずれの年度でも飛びぬけて1位となっているが、令和3年度で割合が減少し、6割近くとなっている。

(表3-3-1、図3-3-2)

#### (4) 職員対応での注意点

◎ 「待たせない事務処理の工夫」「わかりやすい説明」「親切・丁寧な対応」の3点が高い

問8 今後、職員対応について、どのような点に注意すべきだと思いますか。  
(○は3つまで)



#### <調査結果>

今後の職員対応で注意すべき点を聞いたところ、「待たせない事務処理の工夫」(53.6%)が5割を超え、「わかりやすい説明」(45.9%)が4割半ば、「親切・丁寧な対応」(43.1%)が4割を超えている。以下、「プライバシーへの配慮」(15.3%)、「窓口を明るい雰囲気に変える」(10.6%)、「さわやかな挨拶」(6.5%)などと続いている。(図3-4-1)



表 3-4-1 職員対応での注意点（時系列）

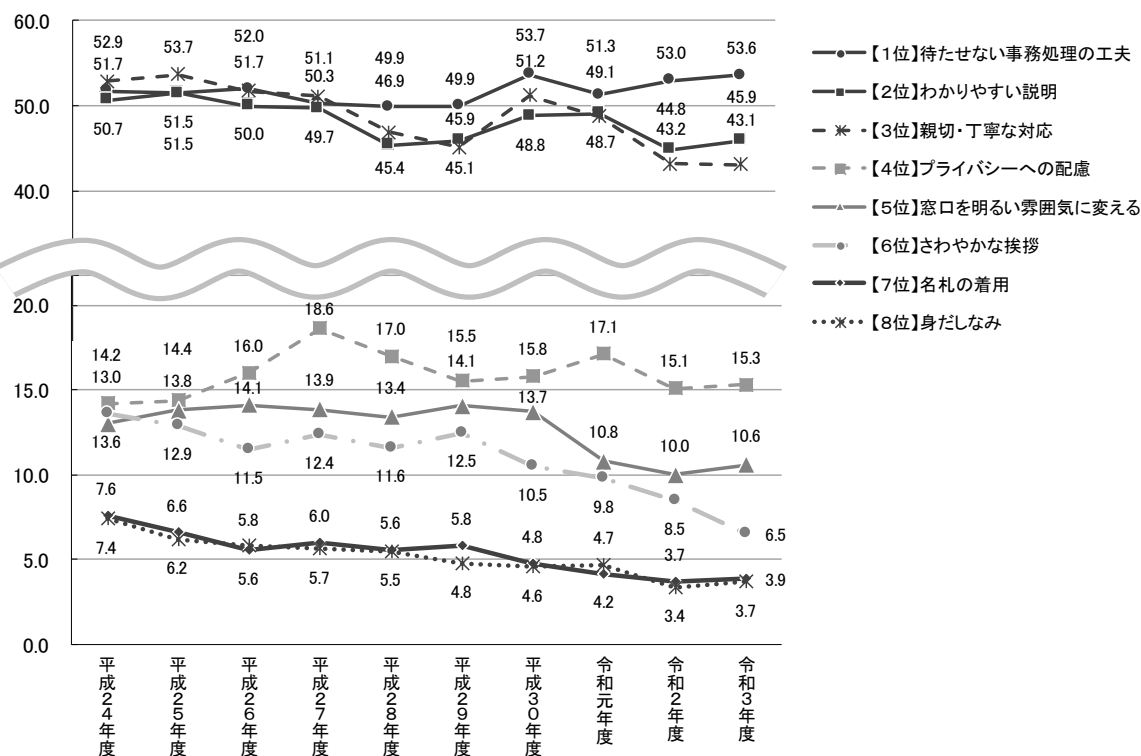
(%)

理由	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
n	2,332	2,354	2,362	2,388	2,355	2,319	2,330	2,171	2,371	2,086
【1位】待たせない事務処理の工夫	51.7	51.5	52.0	50.3	49.9	49.9	53.7	51.3	53.0	53.6
【2位】わかりやすい説明	50.7	51.5	50.0	49.7	45.4	45.9	48.8	49.1	44.8	45.9
【3位】親切・丁寧な対応	52.9	53.7	51.7	51.1	46.9	45.1	51.2	48.7	43.2	43.1
【4位】プライバシーへの配慮	14.2	14.4	16.0	18.6	17.0	15.5	15.8	17.1	15.1	15.3
【5位】窓口を明るい雰囲気に変える	13.0	13.8	14.1	13.9	13.4	14.1	13.7	10.8	10.0	10.6
【6位】さわやかな挨拶	13.6	12.9	11.5	12.4	11.6	12.5	10.5	9.8	8.5	6.5
【7位】名札の着用	7.6	6.6	5.6	6.0	5.6	5.8	4.8	4.7	3.7	3.9
【8位】身だしなみ	7.4	6.2	5.8	5.7	5.5	4.8	4.6	4.2	3.4	3.7

注) 令和3年度の値で順位付けを行った

図 3-4-2 職員対応での注意点（時系列）

(%)



<調査結果>

平成24年度からの時系列での変化をみると、「待たせない事務処理の工夫」、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」の3項目がいずれの年度でも4割台から5割台で推移している。(表3-4-1、図3-4-2)

表 3-4-2 職員対応での注意点（性・年齢別）

（％）

区分	n	身だしなみ	わかりやすい説明	名札の着用	さわやかな挨拶	親切・丁寧な対応	待たせない事務処理の工夫	窓口を明るい雰囲気に変える	プライバシーへの配慮	無回答	
全体	2,086	3.7	45.9	3.9	6.5	43.1	53.6	10.6	15.3	12.8	
性・年齢別	男性全体	802	5.5	45.5	4.1	7.5	42.6	56.6	10.0	12.5	11.8
	10・20 歳代	85	5.9	41.2	1.2	8.2	48.2	45.9	11.8	16.5	12.9
	30 歳代	86	3.5	34.9	1.2	7.0	36.0	62.8	16.3	12.8	12.8
	40 歳代	143	9.1	47.6	2.1	6.3	42.0	60.8	8.4	12.6	10.5
	50 歳代	153	4.6	41.8	3.3	7.2	45.8	59.5	7.8	15.7	9.8
	60 歳代	135	4.4	52.6	5.9	6.7	46.7	66.7	12.6	10.4	5.9
	70 歳代	123	6.5	49.6	8.1	8.9	35.8	50.4	4.1	9.8	16.3
	80 歳以上	77	2.6	46.8	6.5	9.1	42.9	40.3	13.0	9.1	19.5
	女性全体	1,244	2.7	46.5	3.6	5.8	43.6	52.3	11.0	17.1	12.9
	10・20 歳代	118	0.8	38.1	—	8.5	47.5	42.4	20.3	13.6	11.0
	30 歳代	170	1.8	48.2	1.2	8.2	41.2	52.4	12.4	20.0	10.6
	40 歳代	236	3.0	46.6	2.1	4.2	45.8	54.7	8.9	21.2	11.0
	50 歳代	250	4.4	46.0	2.4	6.0	37.2	57.6	9.2	22.8	14.0
	60 歳代	158	3.2	52.5	4.4	5.7	48.7	57.6	8.9	15.2	10.8
	70 歳代	175	1.7	50.3	8.6	4.0	46.3	51.4	9.1	12.0	14.3
	80 歳以上	136	2.9	40.4	7.4	5.1	41.9	42.6	12.5	8.1	19.9

## 〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「待たせない事務処理の工夫」は男性の 60 歳代で 7 割近く、女性の 50 歳代、60 歳代で 6 割近くとなっている。「わかりやすい説明」は男性の 60 歳代と女性の 60 歳代で 5 割を超えている。（表 3-4-2）

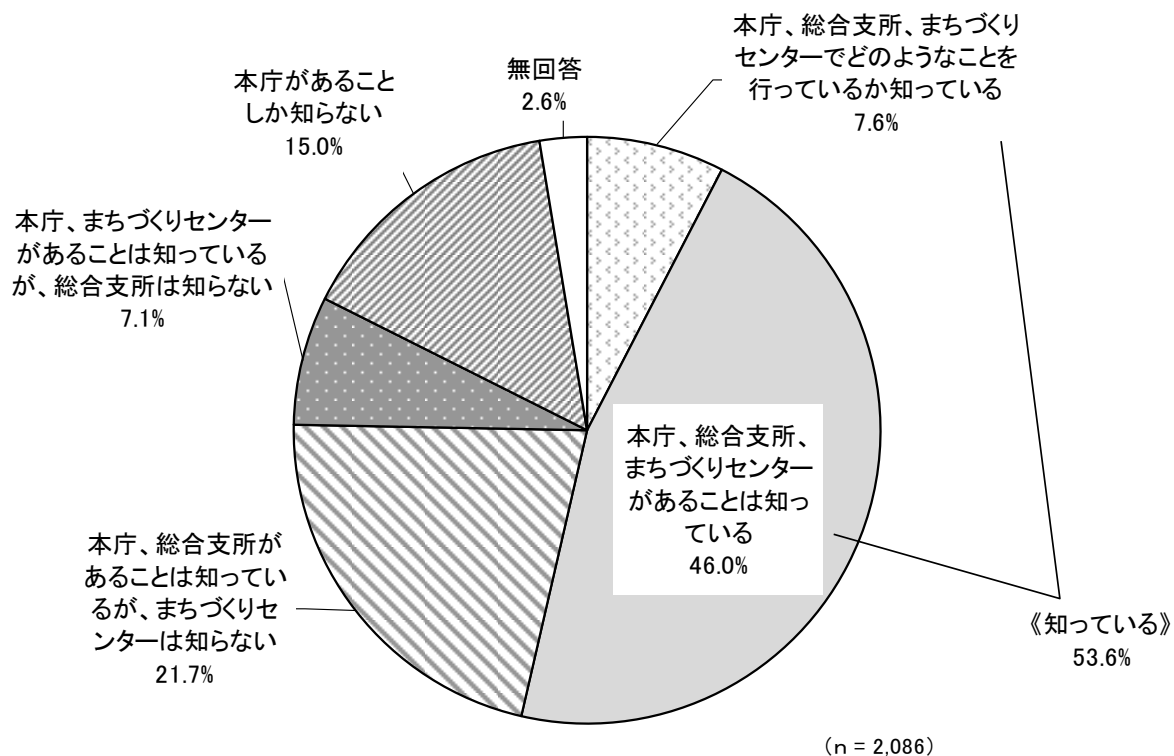
## 4. 地域行政制度

### (1) 行政拠点の認知度

◎地域行政制度による三層構造の行政拠点を知っている人は5割を超えている

問9 あなたは、地域行政制度による三層構造の行政拠点を知っていますか。(○は1つ)

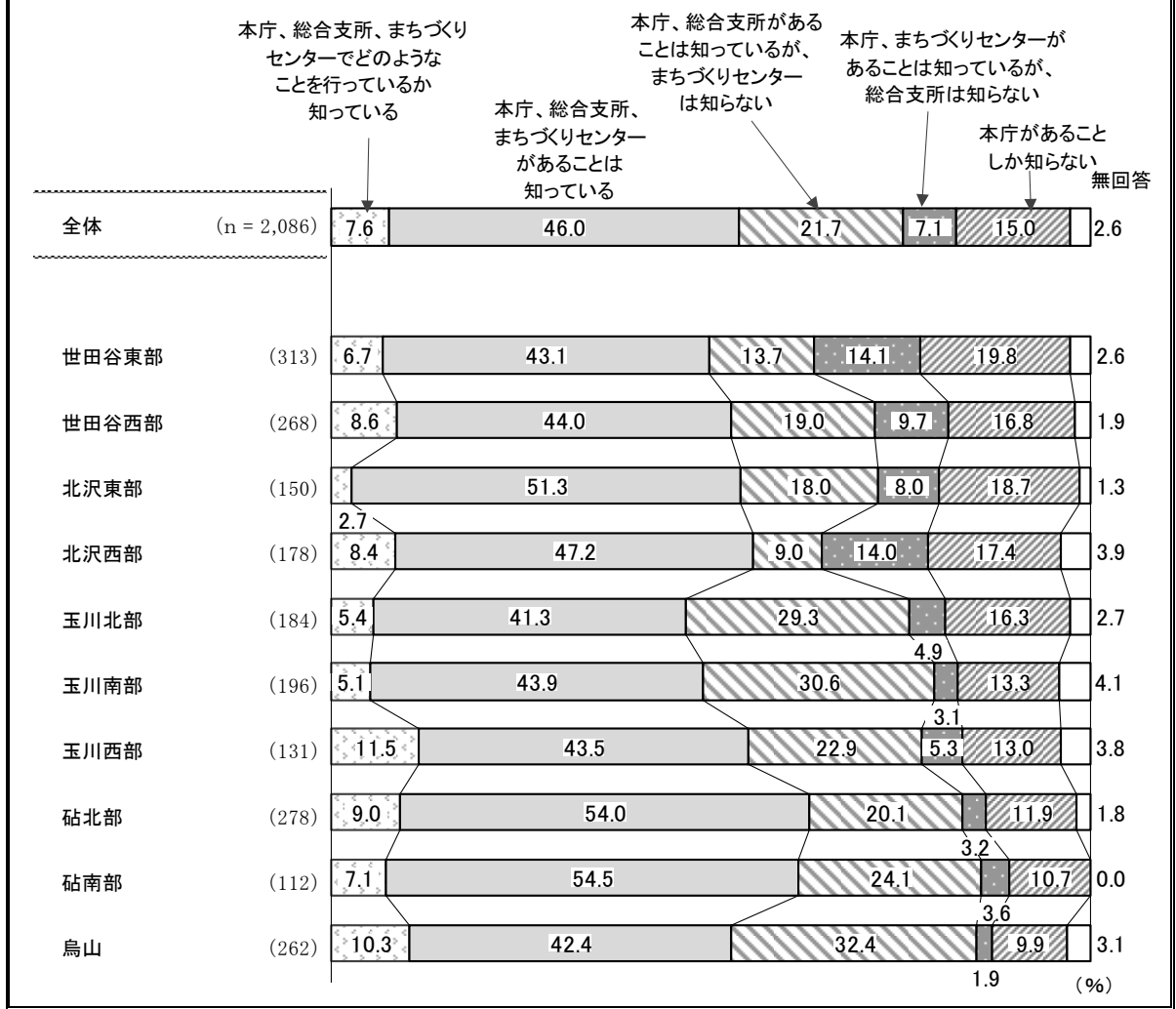
図4-1-1



#### <調査結果>

地域行政制度による三層構造の行政拠点を知っているか聞いたところ、「本庁、総合支所、まちづくりセンターでどのようなことを行っているか知っている」(7.6%)と「本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている」(46.0%)を合わせた《知っている》(53.6%)が5割を超えている。(図4-1-1)

図4-1-2 行政拠点の認知度（地域別）

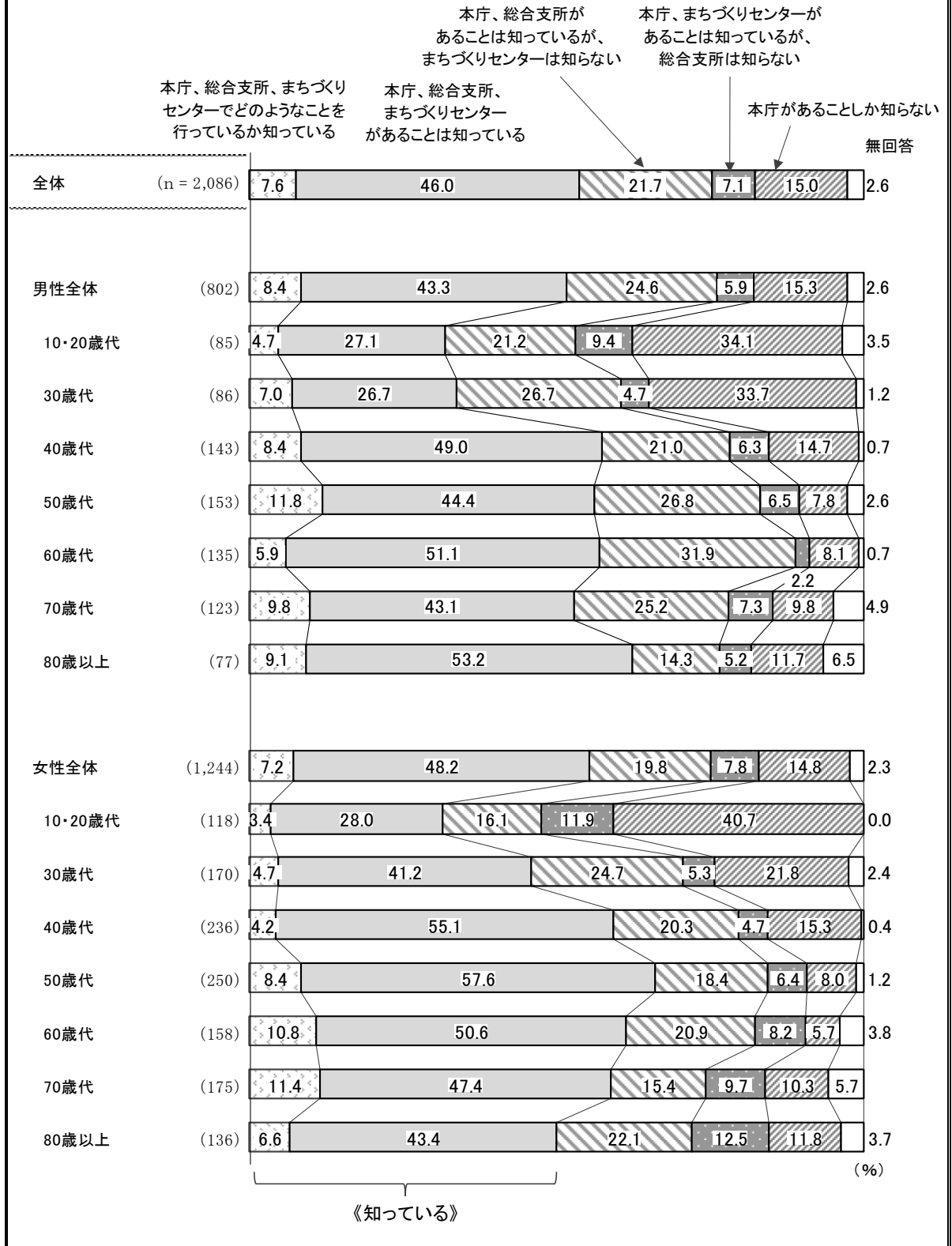


<調査結果>

地域別にみると、「本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている」は砧北部、砧南部で5割半ば、北沢東部で5割を超えている。「本庁があることしか知らない」は世田谷東部で2割となっている。

(図4-1-2)

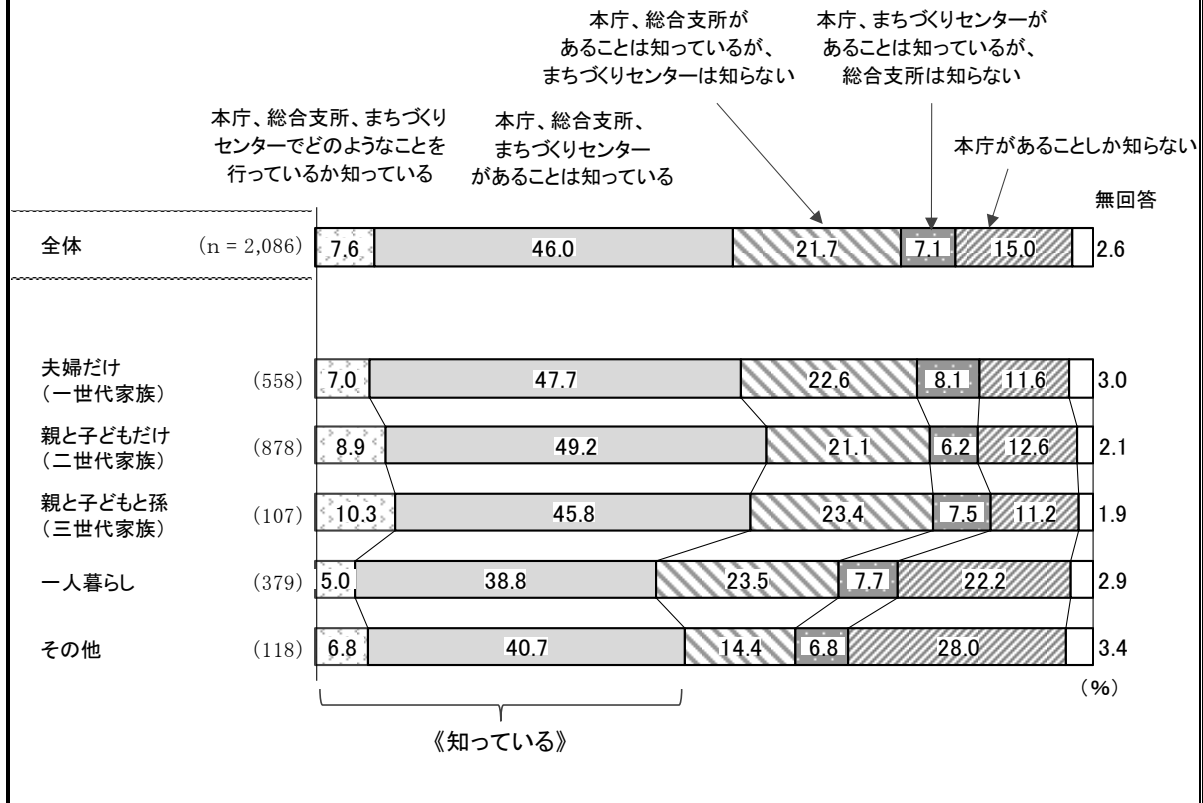
図4-1-3 行政拠点の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている」は女性の50歳代で6割近く、男性の80歳以上で5割を超えている。「本庁があることしか知らない」は女性の10・20歳代でほぼ4割となっている。（図4-1-3）

図 4 - 1 - 4 行政拠点の認知度（家族構成別）



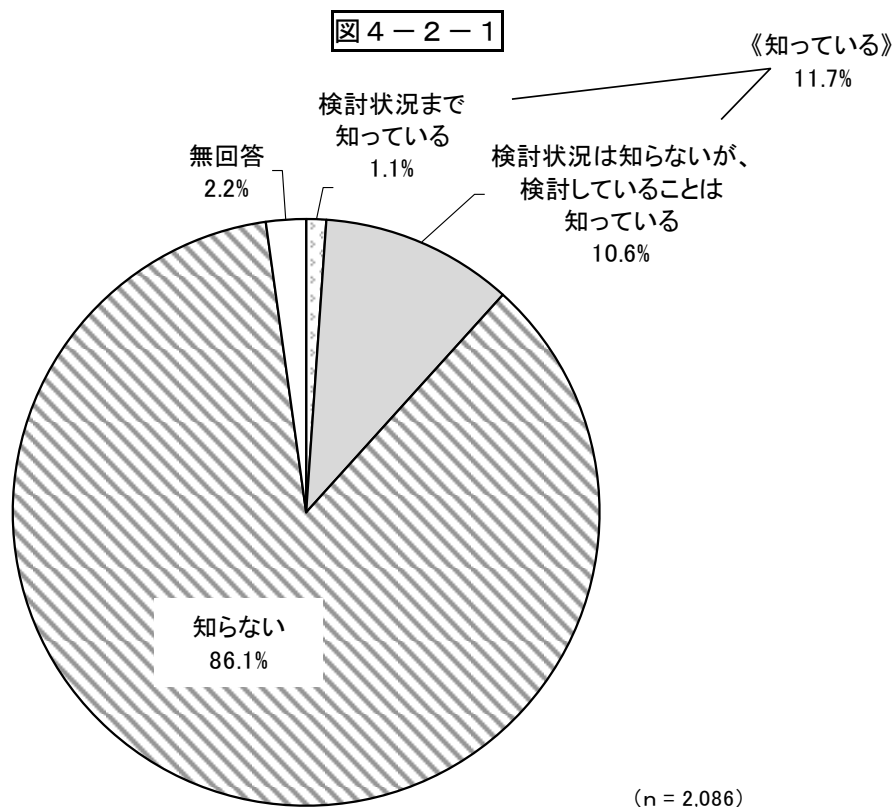
〈調査結果〉

家族構成別にみると、「本庁、総合支所、まちづくりセンターがあることは知っている」は親と子どもだけ（二世世代家族）でほぼ5割、夫婦だけ（一世代家族）で5割近くとなっている。「本庁があることしか知らない」はその他で3割近く、一人暮らしで2割を超えている。（図 4 - 1 - 4）

## (2) 条例制定に向けての検討の認知度

◎地域行政制度の条例制定に向けて検討をしていることを知らない人が8割半ば

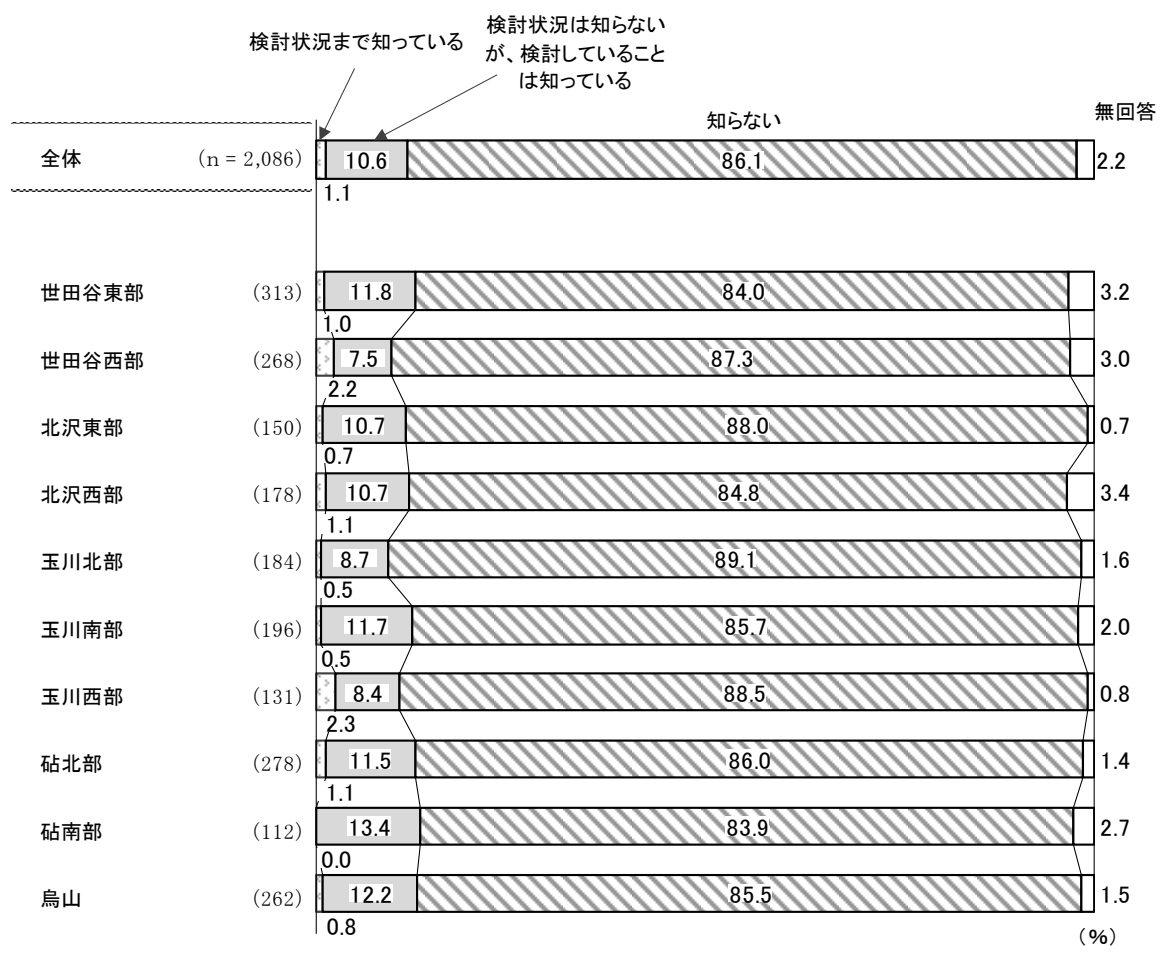
問10 あなたは、地域行政制度の条例制定に向けて検討をしていることを知っていますか。(〇は1つ)



### <調査結果>

地域行政制度の条例制定に向けて検討をしていることを知っているか聞いたところ、「検討状況まで知っている」(1.1%)と「検討状況は知らないが、検討していることは知っている」(10.6%)を合わせた《知っている》(11.7%)は1割を超えている。一方、「知らない」(86.1%)は8割半ばとなっており、《知っている》を大きく超えている。(図4-2-1)

図4-2-2 条例制定に向けての検討の認知度（地域別）

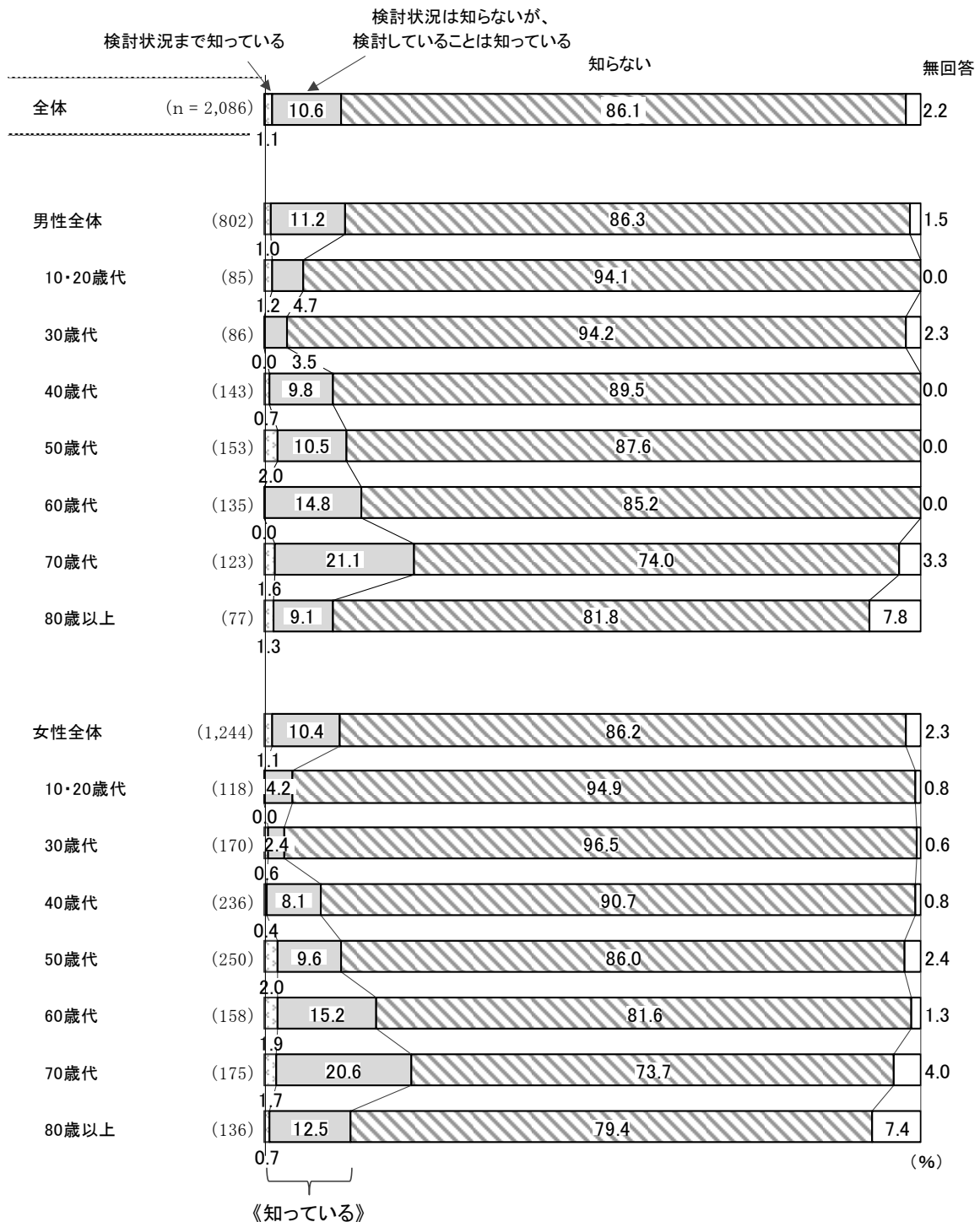


<調査結果>

地域別にみると、「知らない」は玉川北部でほぼ9割、玉川西部、北沢東部、世田谷西部で9割近くとなっている。(図4-2-2)



図4-2-3 条例制定に向けての検討の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「知らない」はいずれの性別でも10・20歳代、30歳代で9割半ばとなっている。(図4-2-3)

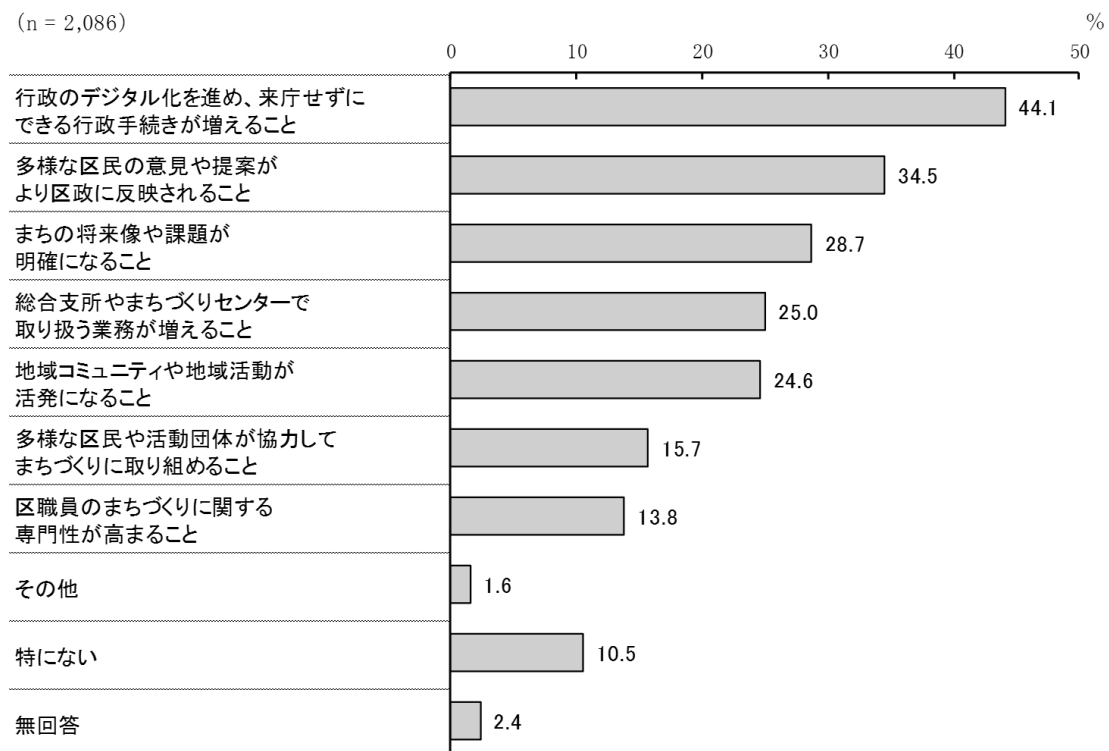
### (3) 地域行政制度の条例に期待すること

◎「行政のデジタル化を進め、来庁せずにできる行政手続きが増えること」が4割半ば

問11 あなたは、地域行政制度の条例にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

図4-3-1

(n = 2,086)



#### <調査結果>

地域行政制度の条例にどのようなことを期待するか聞いたところ、「行政のデジタル化を進め、来庁せずにできる行政手続きが増えること」(44.1%)が4割半ばと最も高くなっている。以下、「多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること」(34.5%)が3割半ば、「まちの将来像や課題が明確になること」(28.7%)が3割近く、「総合支所やまちづくりセンターで取り扱う業務が増えること」(25.0%)、「地域コミュニティや地域活動が活発になること」(24.6%)が2割半ばなどと続いている。(図4-3-1)

表4-3-1 地域行政制度の条例に期待すること（地域別）

(%)

区分	n	行政のデジタル化を進め、来庁せず にできる行政手続きが増えること	多様な区民の意見や提案がより 区政に反映されること	まちの将来像や課題が明確に なること	総合支所やまちづくりセンターで 取り扱う業務が増えること	地域コミュニティや地域活動が 活発になること	まちづくりに取り組めること	多様な区民や活動団体が協力して まちづくりに取り組めること	区職員のまちづくりに関する 専門性が高まること	特にない	無回答	その他
全 体	2,086	44.1	34.5	28.7	25.0	24.6	15.7	13.8	10.5	2.4	1.6	
地域別	世田谷東部	313	37.1	31.0	27.2	21.4	26.2	14.7	14.7	13.1	3.2	1.0
	世田谷西部	268	50.7	34.3	27.2	24.3	25.4	16.8	12.3	8.6	3.4	0.4
	北沢東部	150	50.7	38.0	32.0	26.7	22.7	14.7	17.3	4.0	0.0	2.0
	北沢西部	178	41.0	34.3	28.7	30.3	23.0	13.5	11.8	10.7	3.4	1.1
	玉川北部	184	48.9	30.4	28.3	23.4	21.2	15.8	13.6	9.8	3.3	3.3
	玉川南部	196	49.0	32.7	27.0	21.4	24.0	17.9	17.9	11.2	2.0	2.0
	玉川西部	131	45.8	38.9	32.1	29.8	24.4	16.0	17.6	10.7	0.0	1.5
	砧北部	278	39.2	33.1	30.6	24.5	24.8	14.7	12.9	10.4	2.9	1.8
	砧南部	112	37.5	43.8	31.3	26.8	24.1	17.9	8.0	8.0	2.7	0.0
	烏山	262	44.3	37.0	28.2	26.0	28.2	16.0	11.8	13.7	1.1	2.7

<調査結果>

地域別にみると、「行政のデジタル化を進め、来庁せずに行ける行政手続きが増えること」は、世田谷西部、北沢東部、玉川南部がほぼ5割、玉川北部で5割近くとなっている。「多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること」は砧南部で4割を超え、北沢東部、玉川西部で4割近くとなっている。(表4-3-1)

表 4-3-2 地域行政制度の条例に期待すること（性・年齢別）

区分		n	地域コミュニティや地域活動が活発になること	多様な区民や活動団体が協力してまちづくりに取り組めること	まちの将来像や課題が明確になること	多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること	総合支所やまちづくりセンターで取り扱う業務が増えること	行政のデジタル化を進め、来庁せずに行ける行政手続きが増えること	区職員のまちづくりに関する専門性が高まること	その他	特になし	無回答
全 体		2,086	24.6	15.7	28.7	34.5	25.0	44.1	13.8	1.6	10.5	2.4
性・年齢別	男性全体	802	25.8	14.8	32.3	31.4	22.8	48.0	12.1	2.0	10.8	1.7
	10・20 歳代	85	10.6	3.5	25.9	11.8	16.5	44.7	9.4	1.2	25.9	—
	30 歳代	86	16.3	12.8	26.7	15.1	25.6	62.8	8.1	—	15.1	1.2
	40 歳代	143	24.5	13.3	35.0	32.9	34.3	66.4	14.7	4.2	5.6	—
	50 歳代	153	31.4	17.6	37.9	32.7	20.9	52.9	10.5	0.7	6.5	—
	60 歳代	135	30.4	16.3	39.3	34.8	23.0	51.1	10.4	3.7	5.2	1.5
	70 歳代	123	28.5	13.8	29.3	40.7	17.1	28.5	15.4	1.6	13.0	4.1
	80 歳以上	77	32.5	26.0	22.1	45.5	18.2	16.9	15.6	1.3	14.3	7.8
	女性全体	1,244	24.2	16.0	26.6	36.7	26.4	42.0	14.5	1.3	10.0	2.7
	10・20 歳代	118	17.8	16.9	20.3	39.8	13.6	56.8	6.8	2.5	14.4	—
	30 歳代	170	22.4	15.9	29.4	38.8	32.4	62.4	10.6	1.2	9.4	1.2
	40 歳代	236	19.9	14.0	27.1	31.8	32.2	52.1	11.9	1.3	8.9	—
	50 歳代	250	24.4	18.8	31.6	36.4	29.2	49.2	16.8	2.0	4.0	2.4
	60 歳代	158	27.8	18.4	29.1	39.2	27.2	36.1	19.0	1.9	6.3	3.8
70 歳代	175	30.3	13.1	26.3	40.6	22.3	16.6	17.1	—	13.7	5.1	
80 歳以上	136	26.5	14.7	16.2	32.4	19.1	12.5	18.4	—	19.9	8.1	

### <調査結果>

性・年齢別にみると、「行政のデジタル化を進め、来庁せずに行ける行政手続きが増えること」は男性の 40 歳代で 6 割半ば、女性の 30 歳代で 6 割を超えている。「多様な区民の意見や提案がより区政に反映されること」は男性の 80 歳以上で 4 割半ばとなっている。（表 4-3-2）

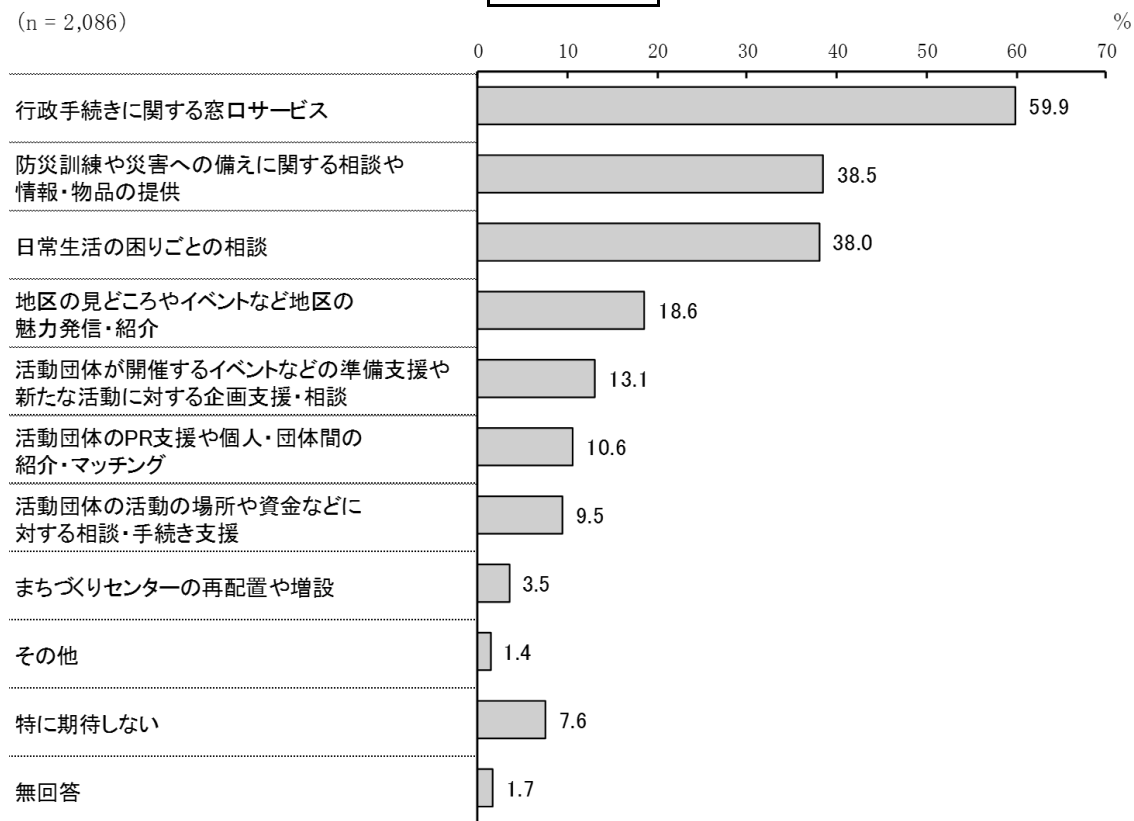
## (4) まちづくりセンターに期待すること

◎「行政手続きに関する窓口サービス」が6割

問12 あなたは、区民に一番身近なまちづくりセンターにどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

(n = 2,086)

図4-4-1



### <調査結果>

まちづくりセンターにどのようなことを期待するか聞いたところ、「行政手続きに関する窓口サービス」(59.9%)が6割と最も高くなっている。以下、「防災訓練や災害への備えに関する相談や情報・物品の提供」(38.5%)、「日常生活の困りごとの相談」(38.0%)が4割近く、「地区の見どころやイベントなど地区の魅力発信・紹介」(18.6%)が2割近くなどと続いている。(図4-4-1)

表4-4-1 まちづくりセンターに期待すること（地域別）

		(%)														
区分	n	行政手続きに関する窓口サービス	相談や情報・物品の提供	防災訓練や災害への備えに関する	日常生活の困りごとの相談	魅力発信・紹介	地区の見どころやイベントなど地区の	活動団体が開催するイベントなどの準備支援や新たな活動に対する企画支援・相談	紹介・マッチング	活動団体の支援や個人・団体間の	活動団体の活動の場所や資金などに	活動団体の活動の場所や資金などに	まちづくりセンターの再配置や増設	その他	特に期待しない	無回答
全 体	2,086	59.9	38.5	38.0	18.6	13.1	10.6	9.5	3.5	1.4	7.6	1.7				
地域別	世田谷東部	313	59.7	36.7	34.2	20.1	12.5	7.3	10.2	2.2	1.3	7.7	1.6			
	世田谷西部	268	59.3	38.8	38.1	17.2	14.6	9.0	9.3	5.6	1.5	6.0	3.0			
	北沢東部	150	62.7	40.0	32.0	18.0	12.7	10.0	7.3	4.0	2.0	8.7	1.3			
	北沢西部	178	61.8	38.2	37.6	14.0	12.4	15.2	12.4	6.2	1.1	5.1	2.2			
	玉川北部	184	54.9	38.0	35.9	15.2	12.0	9.8	8.2	1.6	2.7	9.8	2.2			
	玉川南部	196	55.6	34.7	37.8	16.8	16.8	9.7	9.7	3.1	1.0	9.7	1.0			
	玉川西部	131	62.6	37.4	38.9	27.5	13.7	13.0	9.2	5.3	0.8	5.3	0.0			
	砧北部	278	59.4	43.9	41.7	20.1	11.5	12.9	9.7	2.9	1.4	7.2	1.4			
	砧南部	112	63.4	49.1	40.2	17.9	10.7	9.8	10.7	5.4	0.0	6.3	1.8			
	烏山	262	62.2	33.2	43.5	20.2	13.7	11.8	8.4	1.1	1.5	9.5	1.1			

<調査結果>

地域別にみると、「防災訓練や災害への備えに関する相談や情報・物品の提供」は砧南部でほぼ5割、砧北部で4割を超えている。（表4-4-1）

表 4-4-2 まちづくりセンターに期待すること（性・年齢別）

		(%)													
区分	n	活動団体が開催するイベントなどの準備支援や新たな活動に対する企画支援・相談	活動団体のPR支援や個人・団体間の紹介・マッチング	活動団体の活動の場所や資金などに対する相談・手続き支援	活動団体の活動の場所や資金などに対する相談・手続き支援	報・物品の提供	防災訓練や災害への備えに関する相談や情報・物の提供	発信・紹介	地区の見どころやイベントなど地区の魅力	日常生活の困りごとの相談	行政手続きに関する窓口サービス	まちづくりセンターの再配置や増設	その他	特に期待しない	無回答
全 体	2,086	13.1	10.6	9.5	38.5	18.6	38.0	59.9	3.5	1.4	7.6	1.7			
性・年齢別	男性全体	802	14.0	11.1	11.0	34.9	19.1	35.4	59.7	3.9	1.9	8.4	1.2		
	10・20 歳代	85	15.3	10.6	12.9	24.7	11.8	25.9	42.4	3.5	1.2	16.5	1.2		
	30 歳代	86	14.0	9.3	12.8	30.2	18.6	34.9	59.3	3.5	1.2	11.6	1.2		
	40 歳代	143	13.3	9.1	10.5	37.8	21.0	28.7	68.5	4.9	2.1	10.5	—		
	50 歳代	153	16.3	13.1	11.8	35.9	19.6	39.9	66.7	3.9	2.0	5.2	0.7		
	60 歳代	135	13.3	17.8	9.6	45.2	15.6	43.7	63.7	4.4	2.2	3.0	—		
	70 歳代	123	13.0	6.5	7.3	32.5	22.8	35.0	48.8	4.1	0.8	10.6	2.4		
	80 歳以上	77	11.7	9.1	14.3	29.9	23.4	36.4	59.7	1.3	3.9	3.9	5.2		
	女性全体	1,244	12.6	10.5	8.7	40.8	18.2	39.7	60.0	3.1	1.1	7.1	1.8		
	10・20 歳代	118	17.8	12.7	14.4	39.0	15.3	33.1	45.8	1.7	—	16.9	0.8		
	30 歳代	170	15.3	11.2	9.4	44.7	22.4	34.7	59.4	4.7	0.6	7.1	0.6		
	40 歳代	236	12.3	9.3	9.3	41.5	14.8	39.8	62.3	3.0	0.8	6.4	0.8		
	50 歳代	250	13.2	10.4	8.4	44.4	19.2	43.2	63.6	2.8	1.6	3.2	1.6		
	60 歳代	158	14.6	12.0	7.6	44.9	18.4	43.0	63.9	3.2	—	3.8	1.9		
	70 歳代	175	8.0	8.6	6.3	36.0	18.3	42.3	60.0	3.4	1.7	8.0	1.7		
	80 歳以上	136	8.1	11.0	6.6	30.9	19.9	37.5	57.4	2.2	2.9	9.6	6.6		

<調査結果>

性・年齢別にみると、「行政手続きに関する窓口サービス」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の40歳代が7割近く、女性の50歳代、60歳代が6割を超えている。

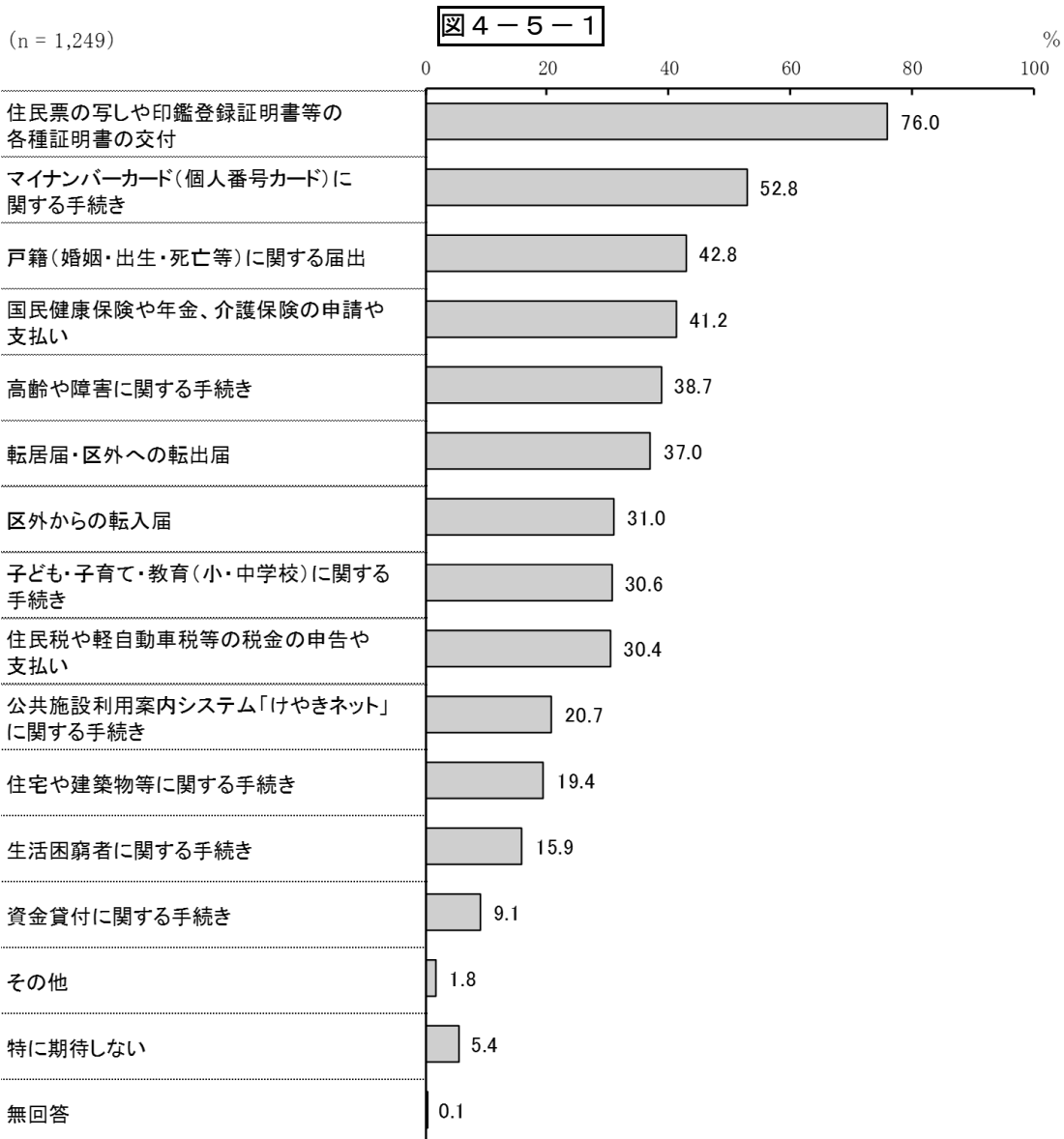
(表 4-4-2)

## (5) まちづくりセンターでできるとよい行政手続き

◎「住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付」が7割半ばと最も高い

(問12で「行政手続きに関する窓口サービス」と答えた方に)

問12-1 あなたはまちづくりセンターの窓口で、どのような行政手続きができることに期待しますか。(〇はいくつでも)



### <調査結果>

まちづくりセンターの窓口で、どのような行政手続きができることに期待するか聞いたところ、「住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付」(76.0%)が7割半ばと最も高くなっている。以下、「マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き」(52.8%)が5割を超え、「戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出」(42.8%)「国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い」(41.2%)が4割を超えている。(図4-5-1)



表4-5-1 まちづくりセンターできるとよい行政手続き（地域別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,249	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 76.0	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 52.8	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 42.8	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 41.2	高齢や障害に関する手続き 38.7	転居届・区外への転出届 37.0	区外からの転入届 31.0	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 30.6	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 30.4	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 20.7
世田谷部	187	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 76.5	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 50.3	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 41.7	転居届・区外への転出届 38.5	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 37.4	高齢や障害に関する手続き 36.9	区外からの転入届 32.1	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 26.7	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 25.7	住宅や建築物等に関する手続き 19.8
世田谷部	159	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 75.5	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 50.9	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 50.9	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 39.0	転居届・区外への転出届 37.1	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 34.6	高齢や障害に関する手続き 32.7	区外からの転入届 30.8	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 28.9	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 18.2
北沢部	94	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 76.6	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 57.4	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 47.9	転居届・区外への転出届 43.6	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 41.5	高齢や障害に関する手続き 41.5	区外からの転入届 40.4	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 37.2	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 35.1	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 27.7
北沢部	110	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 72.7	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 55.5	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 49.1	転居届・区外への転出届 41.8	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 39.1	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 39.1	区外からの転入届 34.5	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 34.5	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 26.4	生活困窮者に関する手続き 23.6
玉川部	101	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 69.3	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 50.5	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 36.6	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 35.6	高齢や障害に関する手続き 32.7	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 26.7	転居届・区外への転出届 26.7	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 25.7	住宅や建築物等に関する手続き 21.8	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 16.8
玉川部	109	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 84.4	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 54.1	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 51.4	転居届・区外への転出届 42.2	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 41.3	高齢や障害に関する手続き 41.3	区外からの転入届 38.5	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 35.8	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 33.0	住宅や建築物等に関する手続き 25.7
玉川部	82	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 74.4	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 54.9	高齢や障害に関する手続き 41.5	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 39.0	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 37.8	転居届・区外への転出届 35.4	区外からの転入届 30.5	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 28.0	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 26.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 25.6
砧北部	165	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 73.9	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 57.6	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 43.6	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 43.6	高齢や障害に関する手続き 42.4	転居届・区外への転出届 32.1	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 29.1	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 29.1	区外からの転入届 25.5	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 23.6
砧南部	71	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 84.5	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 47.9	高齢や障害に関する手続き 46.5	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 45.1	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 45.1	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 33.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 32.4	転居届・区外への転出届 26.8	区外からの転入届 23.9	住宅や建築物等に関する手続き 19.7
烏山	163	住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付 75.5	マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き 51.5	戸籍(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 43.6	国民健康保険や年金、介護保険の申請や支払い 42.9	転居届・区外への転出届 41.7	高齢や障害に関する手続き 38.0	区外からの転入届 37.4	住民税や軽自動車税等の税金の申告や支払い 31.9	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 31.3	住宅や建築物等に関する手続き 20.9

<調査結果>

地域別にみると、「住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付」はすべての地域で1位となっており、特に玉川南部、砧南部で8割半ばと高い。また「マイナンバーカード(個人番号カード)に関する手続き」は砧南部を除くすべての地域で2位となっている。(表4-5-1)

表 4-5-2 まちづくりセンターできるとよい行政手続き (性・年齢別)

(%)											
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,249	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 76.0	マイナンバー(個人)カードの届出 52.8	戸籍(婚姻・死亡)に関する届出 42.8	国民健康保険や年金の支払い 41.2	介護申請 38.7	高齢や障害に関する手続き 37.0	転居届・区外への転出届 31.0	区外からの転入届 30.6	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 30.4	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 20.7
男性全体	479	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 75.4	マイナンバー(個人)カードの届出 53.7	戸籍(婚姻・死亡)に関する届出 43.4	国民健康保険や年金の支払い 40.9	介護申請 36.3	高齢や障害に関する手続き 36.1	転居届・区外への転出届 33.0	区外からの転入届 30.3	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 27.8	住宅や建築物等に関する手続き 22.8
10・20歳代	36	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 58.3	マイナンバー(個人)カードの届出 55.6	転居届・区外への転出届 33.3	国民健康保険や年金の支払い 30.6	介護申請 25.0	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 22.2	区外からの転入届 16.7	生活困窮者に関する手続き 13.9	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 8.3	高齢や障害に関する手続き 8.3
30歳代	51	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 78.4	マイナンバー(個人)カードの届出 62.7	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 47.1	転居届・区外への転出届 43.1	住民税や軽自動車税等の申告や支払い(婚姻・出生・死亡等)に関する届出 41.2	国民健康保険や年金の支払い 33.3	区外からの転入届 31.4	住宅や建築物等に関する手続き 25.5	生活困窮者に関する手続き 17.6	
40歳代	98	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 84.7	マイナンバー(個人)カードの届出 67.3	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 53.1	戸籍(婚姻・死亡)に関する届出 48.0	国民健康保険や年金の支払い 46.9	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 42.9	転居届・区外への転出届 36.7	区外からの転入届 35.7	高齢や障害に関する手続き 27.6	住宅や建築物等に関する手続き 27.6
50歳代	102	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 77.5	マイナンバー(個人)カードの届出 55.9	戸籍(婚姻・死亡)に関する届出 45.1	転居届・区外への転出届 40.2	国民健康保険や年金の支払い 39.2	区外からの転入届 37.3	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 34.3	高齢や障害に関する手続き 32.4	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 23.5	住宅や建築物等に関する手続き 22.5
60歳代	86	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 76.7	マイナンバー(個人)カードの届出 55.8	マイナンバー(個人)カードに関する手続き 50.0	国民健康保険や年金の支払い 48.8	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 46.5	転居届・区外への転出届 37.2	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 31.4	住民税や軽自動車税等の申告や支払い/区外からの転入届 31.4	住宅や建築物等に関する手続き/公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 24.4	
70歳代	60	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 70.0	マイナンバー(個人)カードの届出 50.0	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 45.0	国民健康保険や年金の支払い 41.7	マイナンバー(個人)カードに関する手続き 31.7	転居届・区外への転出届 28.3	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 25.0	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 23.3	区外からの転入届 21.7	住宅や建築物等に関する手続き 20.0
80歳以上	46	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 65.2	マイナンバー(個人)カードの届出 54.3	国民健康保険や年金の支払い(婚姻・出生・死亡)に関する届出 43.5	国民健康保険や年金の支払い/介護申請に関する届出 32.6	転居届・区外への転出届 28.3	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 21.7	住民税や軽自動車税等の申告や支払い/公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 19.6	区外からの転入届 17.4		
女性全体	746	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 77.2	マイナンバー(個人)カードの届出 52.7	戸籍(婚姻・死亡)に関する届出 42.6	国民健康保険や年金の支払い 41.4	高齢や障害に関する手続き 40.3	転居届・区外への転出届 38.2	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 33.2	区外からの転入届 31.8	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 29.4	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 21.6
10・20歳代	54	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 81.5	マイナンバー(個人)カードの届出 72.2	転居届・区外への転出届 61.1	国民健康保険や年金の支払い 55.6	国民健康保険や年金の支払い/区外からの転入届 48.1	住民税や軽自動車税等の申告や支払い(子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き) 46.3	高齢や障害に関する手続き 29.6	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 24.1		
30歳代	101	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 84.2	マイナンバー(個人)カードの届出 65.3	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 64.4	転居届・区外への転出届 60.4	国民健康保険や年金の支払い 58.4	区外からの転入届 52.5	国民健康保険や年金の支払い 38.6	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 36.6	高齢や障害に関する手続き 25.7	住宅や建築物等に関する手続き 22.8
40歳代	147	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 80.3	マイナンバー(個人)カードの届出 57.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 49.0	転居届・区外への転出届 38.8	国民健康保険や年金の支払い 36.7	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 36.1	区外からの転入届 32.7	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 31.3	高齢や障害に関する手続き 30.6	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 23.8
50歳代	159	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 81.1	マイナンバー(個人)カードの届出 56.0	国民健康保険や年金の支払い 52.2	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 50.3	高齢や障害に関する手続き 49.7	転居届・区外への転出届 42.8	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 35.8	区外からの転入届 35.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 30.8	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 27.0
60歳代	101	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 79.2	マイナンバー(個人)カードの届出 47.5	高齢や障害に関する手続き 43.6	国民健康保険や年金の支払い 42.6	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 40.6	転居届・区外への転出届 34.7	区外からの転入届 28.7	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 22.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 20.8	住宅や建築物等に関する手続き 17.8
70歳代	105	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 65.7	マイナンバー(個人)カードの届出 48.6	国民健康保険や年金の支払い 40.0	マイナンバー(個人)カードに関する手続き 31.4	戸籍(婚姻・出生・死亡)に関する届出 29.5	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 21.9	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 16.2	転居届・区外への転出届 16.2	生活困窮者に関する手続き 13.3	区外からの転入届 12.4
80歳以上	78	住民票の写し、戸籍謄本等の提出 64.1	マイナンバー(個人)カードの届出 51.3	国民健康保険や年金の支払い(婚姻・出生・死亡)に関する届出 41.0	国民健康保険や年金の支払い 30.8	介護申請 26.9	転居届・区外への転出届 17.9	住民税や軽自動車税等の申告や支払い 16.7	区外からの転入届 14.1	公共施設利用案内システム「けやきネット」に関する手続き 12.8	子ども・子育て・教育(小・中学校)に関する手続き 10.3

### <調査結果>

性・年齢別にみると、「住民票の写しや印鑑登録証明書等の各種証明書の交付」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の40歳代と女性の30歳代が8割半ばとなっている。

(表4-5-2)

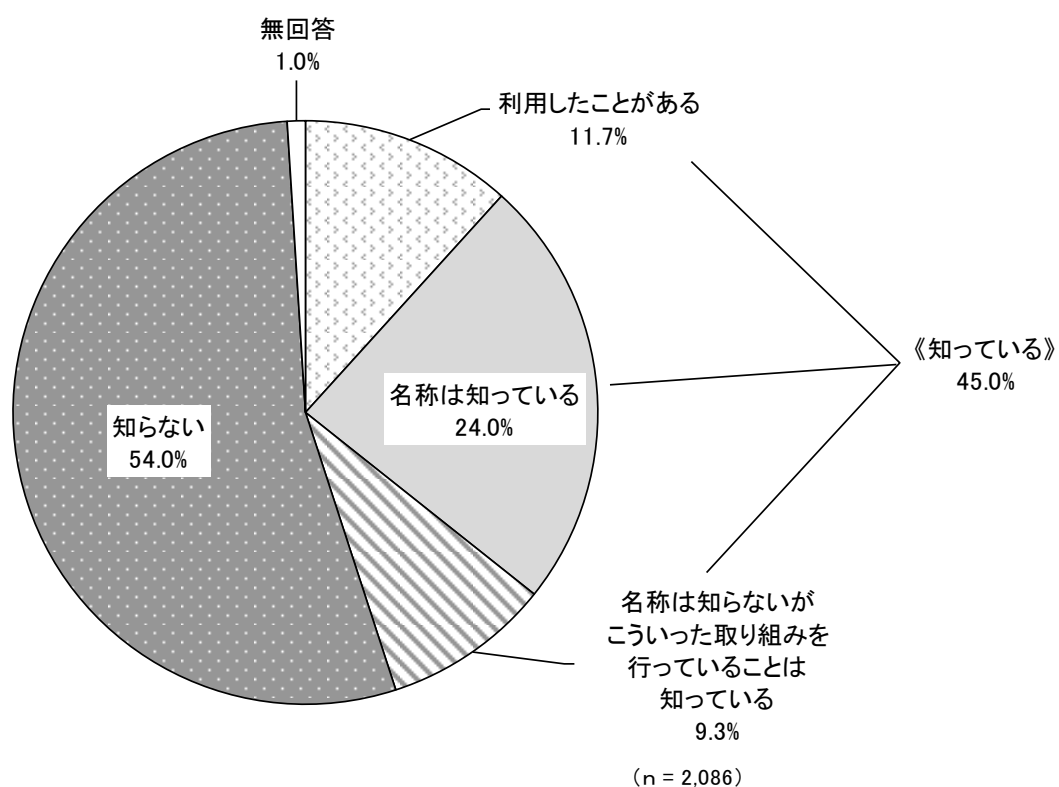
## 5. 福祉と医療

### (1) 「福祉の相談窓口」の認知度

◎ 《知っている》が4割半ば、「利用したことがある」は1割を超える

問13 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（〇は1つ）

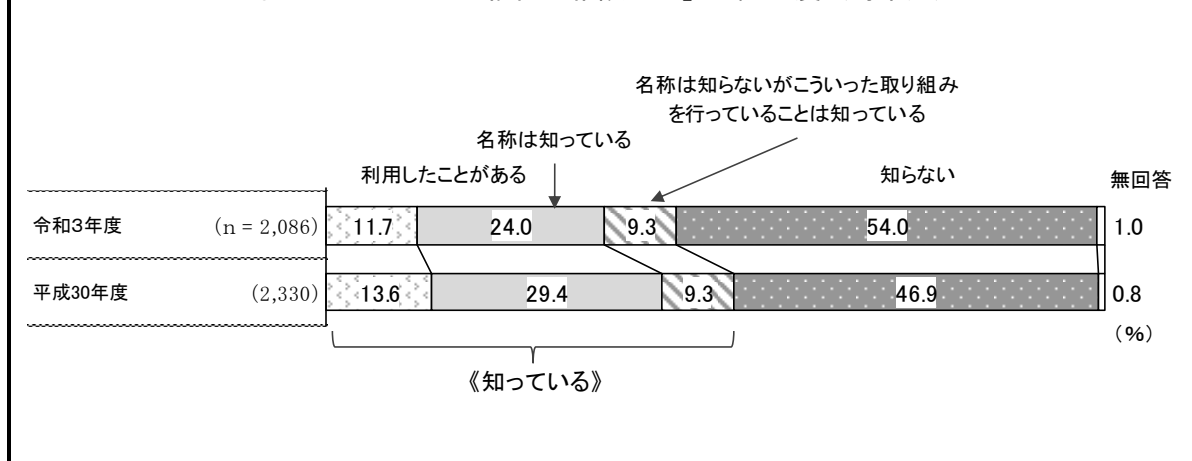
図5-1-1



#### <調査結果>

「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（24.0%）、「利用したことがある」（11.7%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.3%）を合わせた《知っている》（45.0%）が4割半ば、「知らない」（54.0%）は5割半ばとなっている。（図5-1-1）

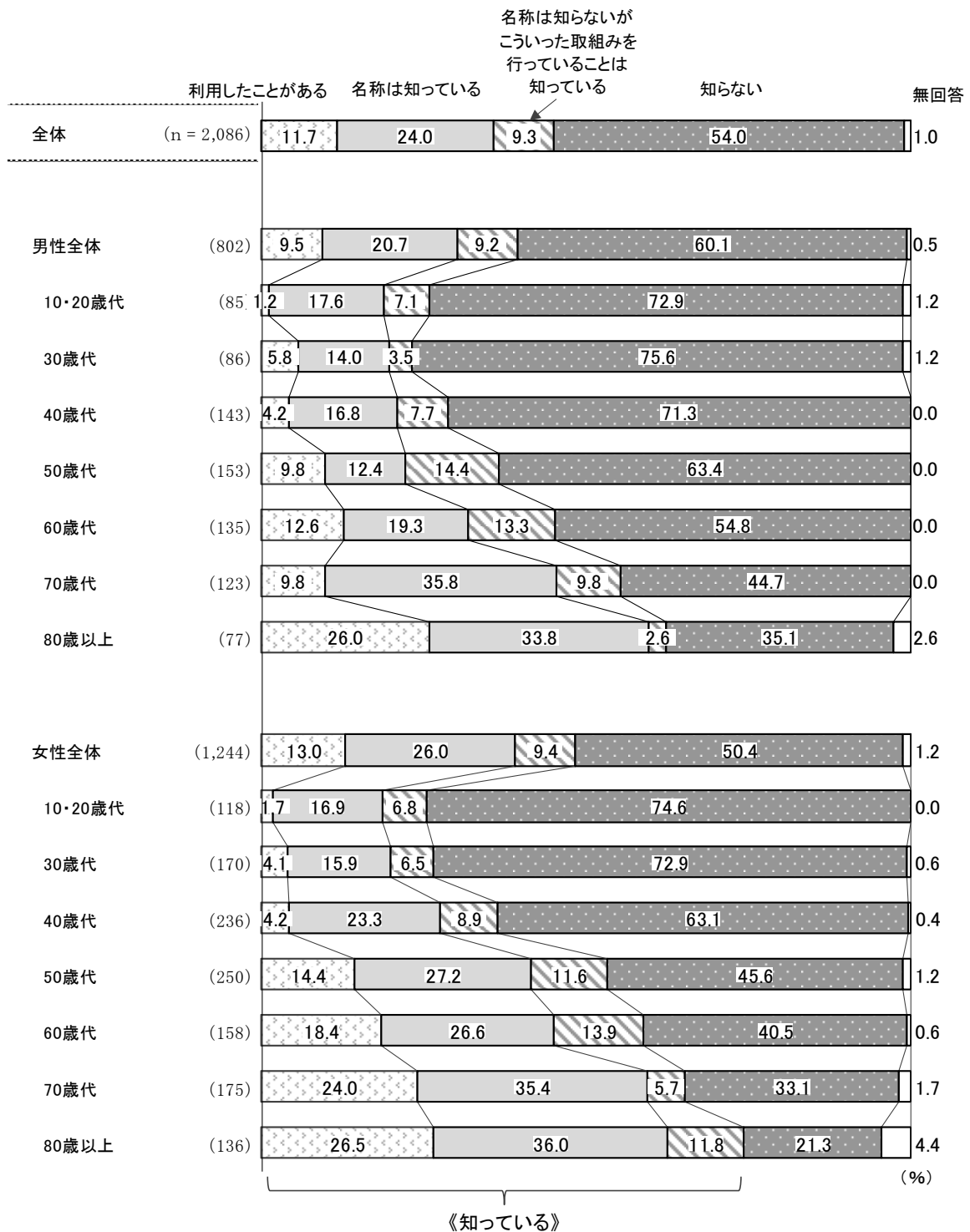
図5-1-2 「福祉の相談窓口」の認知度（時系列）



〈調査結果〉

平成30年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成30年度（52.3%）から令和3年度（45.0%）で減少している。（図5-1-2）

図 5-1-3 「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）

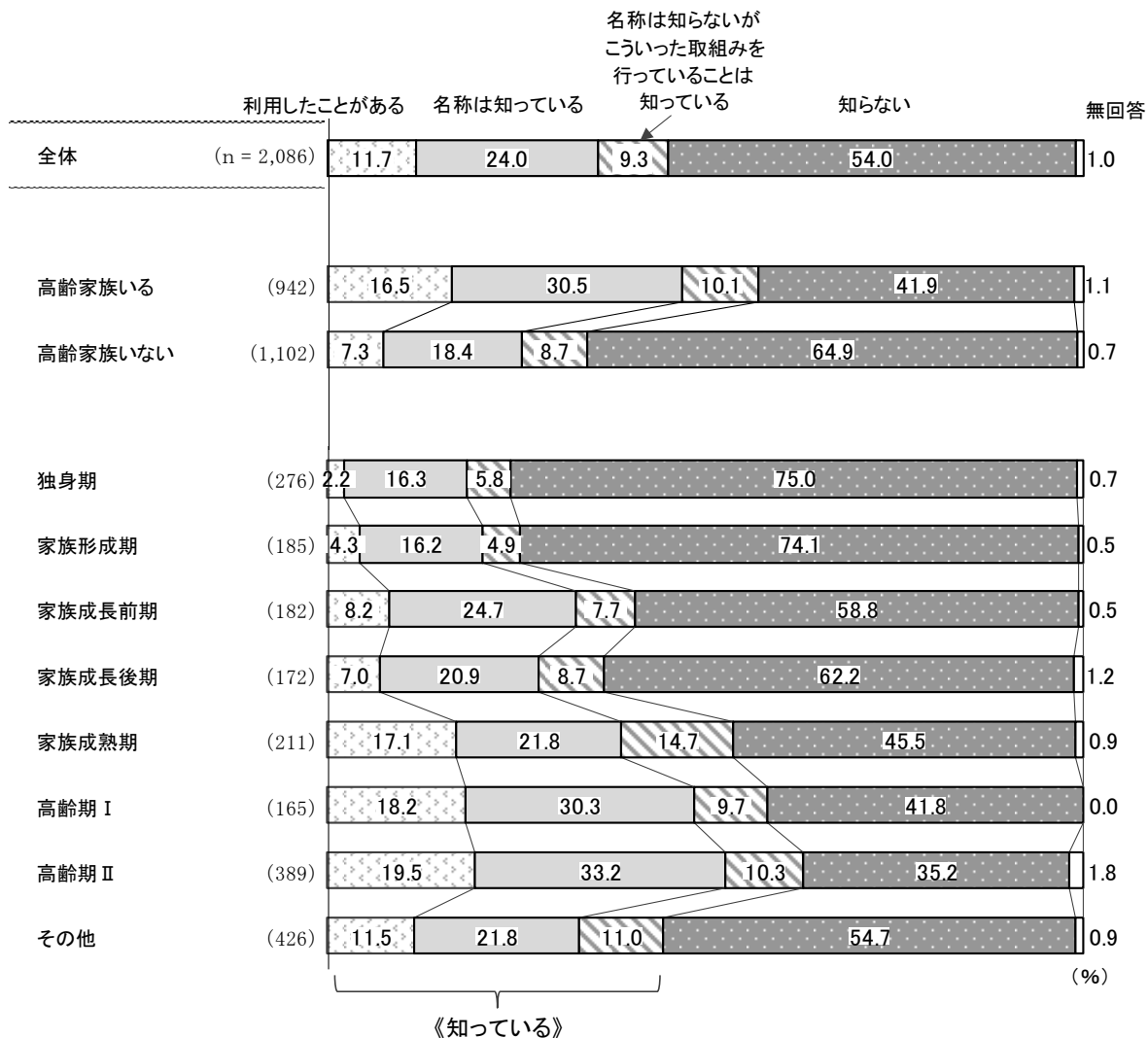


〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《知っている》は男性の30歳代、女性の10・20歳代が最も低く、男性は30歳代から、女性は10・20歳代から年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で7割半ば、男性の80歳以上で6割を超えている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で3割近く、男性の80歳以上で2割半ばとなっている。

(図 5-1-3)

図5-1-4 「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



〈調査結果〉

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が2割近く、「名称は知っている」がほぼ3割で、高齢家族がいない世帯より高い。

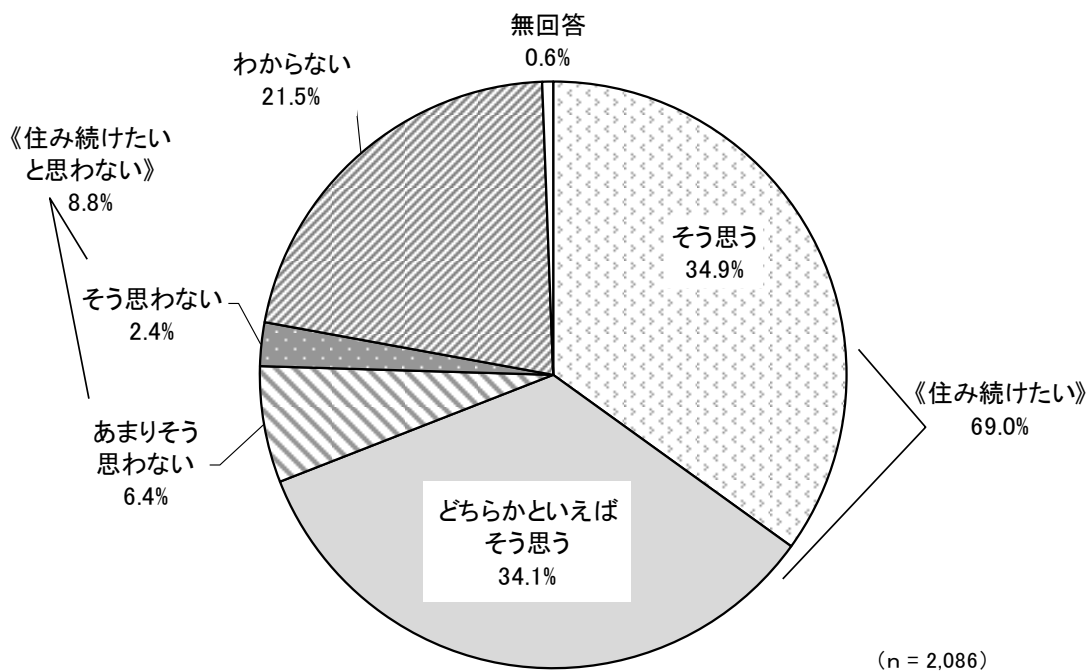
ライフステージ別にみると、「利用したことがある」は高齢期Ⅱで2割、高齢期Ⅰで2割近くとなっている。《知っている》は高齢期Ⅱが6割を超え、高齢期Ⅰが6割近くとなっている。(図5-1-4)

## (2) 介護や医療必要時の居留意向

◎ 《住み続けたい》がほぼ7割

問14 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。  
(○は1つ)

図5-2-1

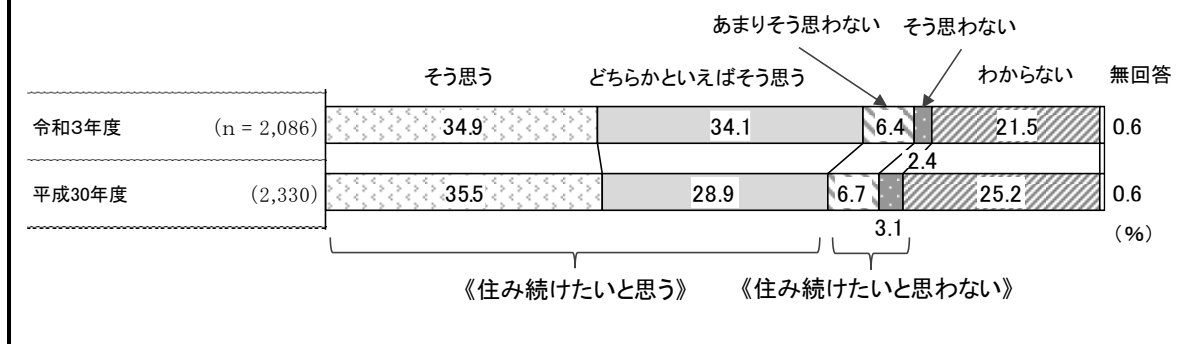


### <調査結果>

介護や医療必要時の世田谷区への居留意向について聞いたところ、「そう思う」(34.9%)と「どちらかといえばそう思う」(34.1%)を合わせた《住み続けたい》(69.0%)がほぼ7割、「あまりそう思わない」(6.4%)と「そう思わない」(2.4%)を合わせた《住み続けたいと思わない》(8.8%)は1割近くとなっている。(図5-2-1)



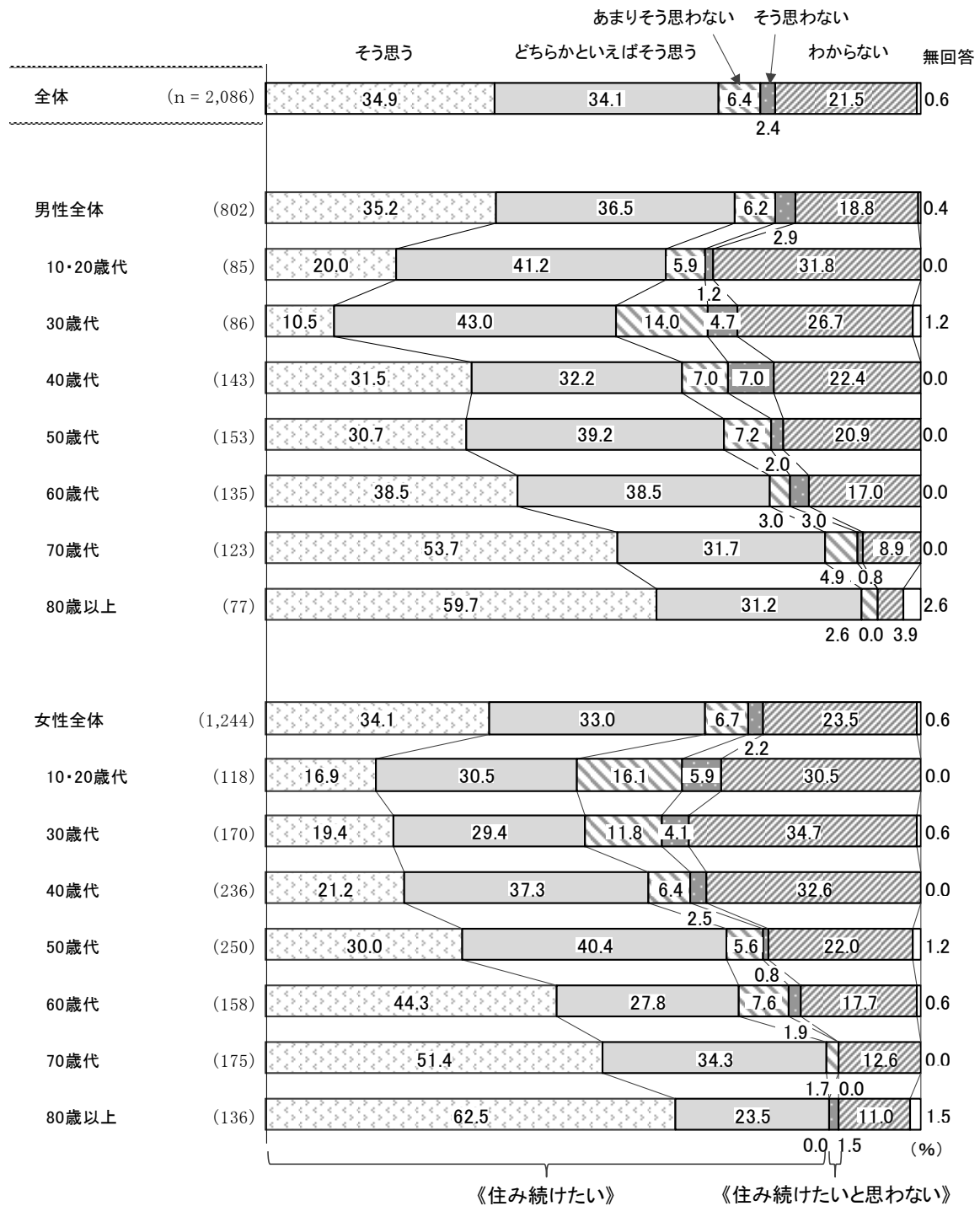
図5-2-2 介護や医療必要時の居留意向（時系列）



<調査結果>

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《住み続けたいと思う》は平成 30 年度（64.4%）から令和 3 年度（69.0%）で増加している。《住み続けたいと思わない》は平成 30 年度（9.8%）から令和 3 年度（8.8%）で大きな違いはみられない。（図 5-2-2）

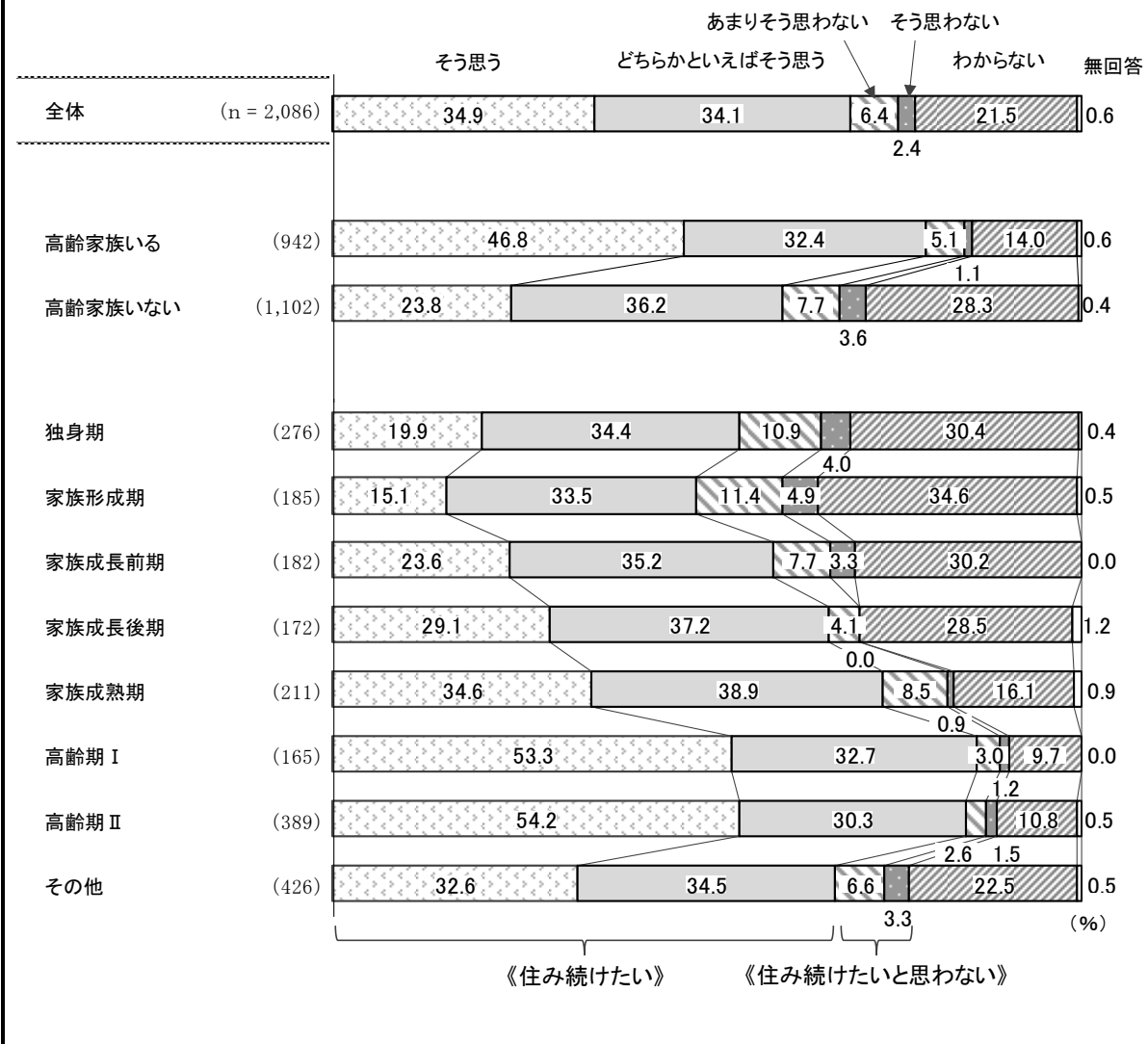
図 5-2-3 介護や医療必要時の居留意向（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、年代が上がるにつれ《住み続けたい》が高くなる傾向にあり、男性の80歳以上がほぼ9割、女性の80歳以上が8割半ばとなっている。《住み続けたいと思わない》は、女性の10・20歳代は2割を超え、男性の30歳代が2割近くとなっている。（図5-2-3）

図5-2-4 介護や医療必要時の居留意向（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



＜調査結果＞

高齢家族の有無別にみると、《住み続けたい》は高齢家族がいる世帯でほぼ8割、高齢家族がいない世帯で6割である。「そう思う」は高齢家族がいる世帯で5割近くとなっている。

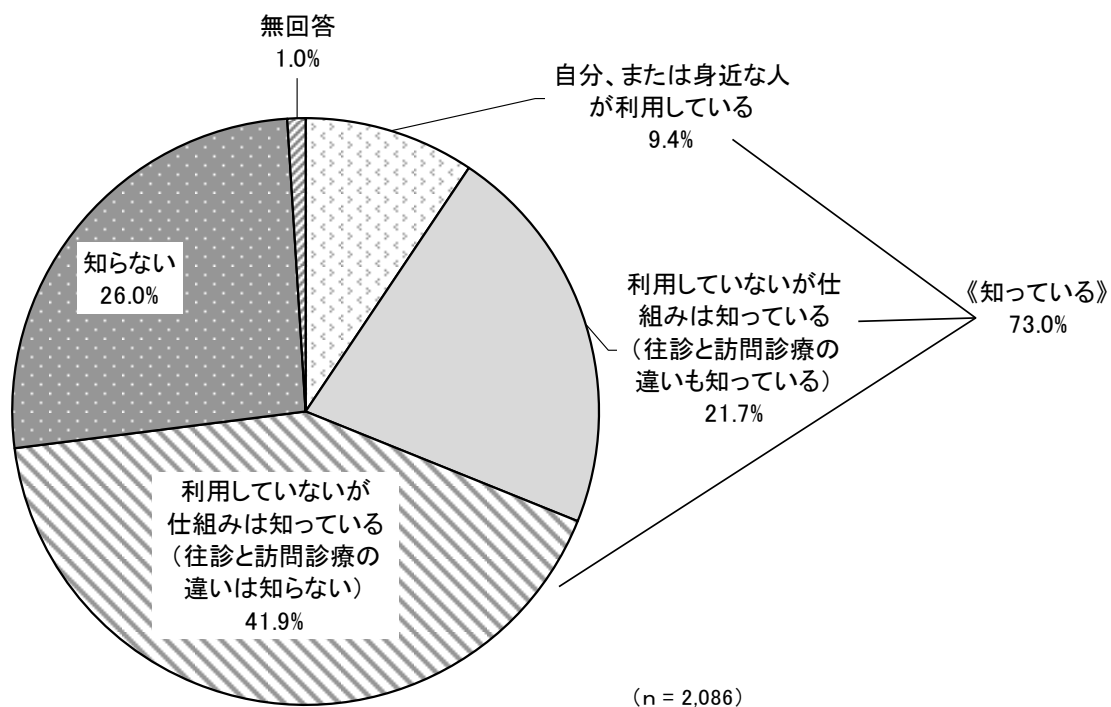
ライフステージ別にみると、《住み続けたい》は高齢期Ⅰと高齢期Ⅱが8割半ばで、そのうち、「そう思う」は高齢期Ⅱが5割半ば、高齢期Ⅰが5割を超えている。《住み続けたいと思わない》は独身期と家族形成期が1割半ばとなっている。（図5-2-4）

### (3) 「在宅医療」の認知度

◎ 《知っている》が7割を超え、「自分、または身近な人が利用している」はほぼ1割

問15 あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。(〇は1つ)

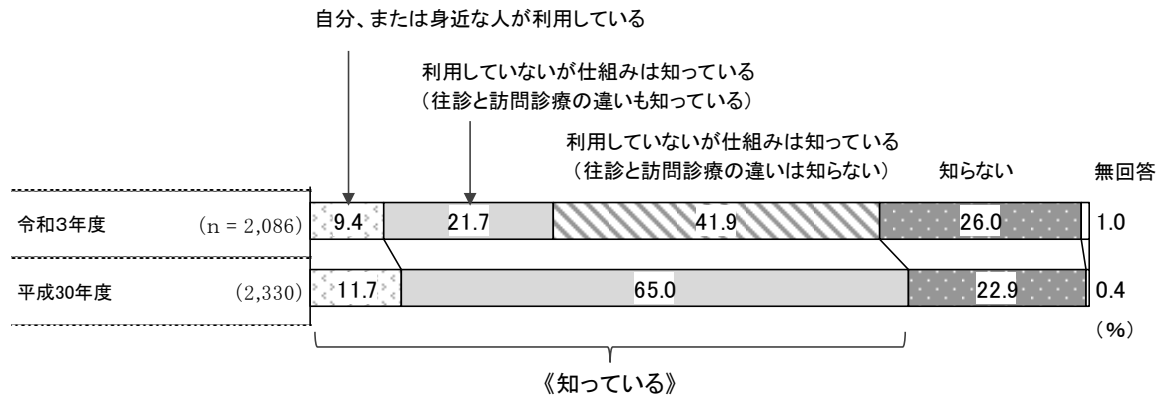
図5-3-1



#### <調査結果>

「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いは知らない)」(41.9%)が4割を超え、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いも知っている)」(21.7%)、「自分、または身近な人が利用している」(9.4%)と合わせた《知っている》(73.0%)が7割を超えている。(図5-3-1)

図 5-3-2 「在宅医療」の認知度（時系列）

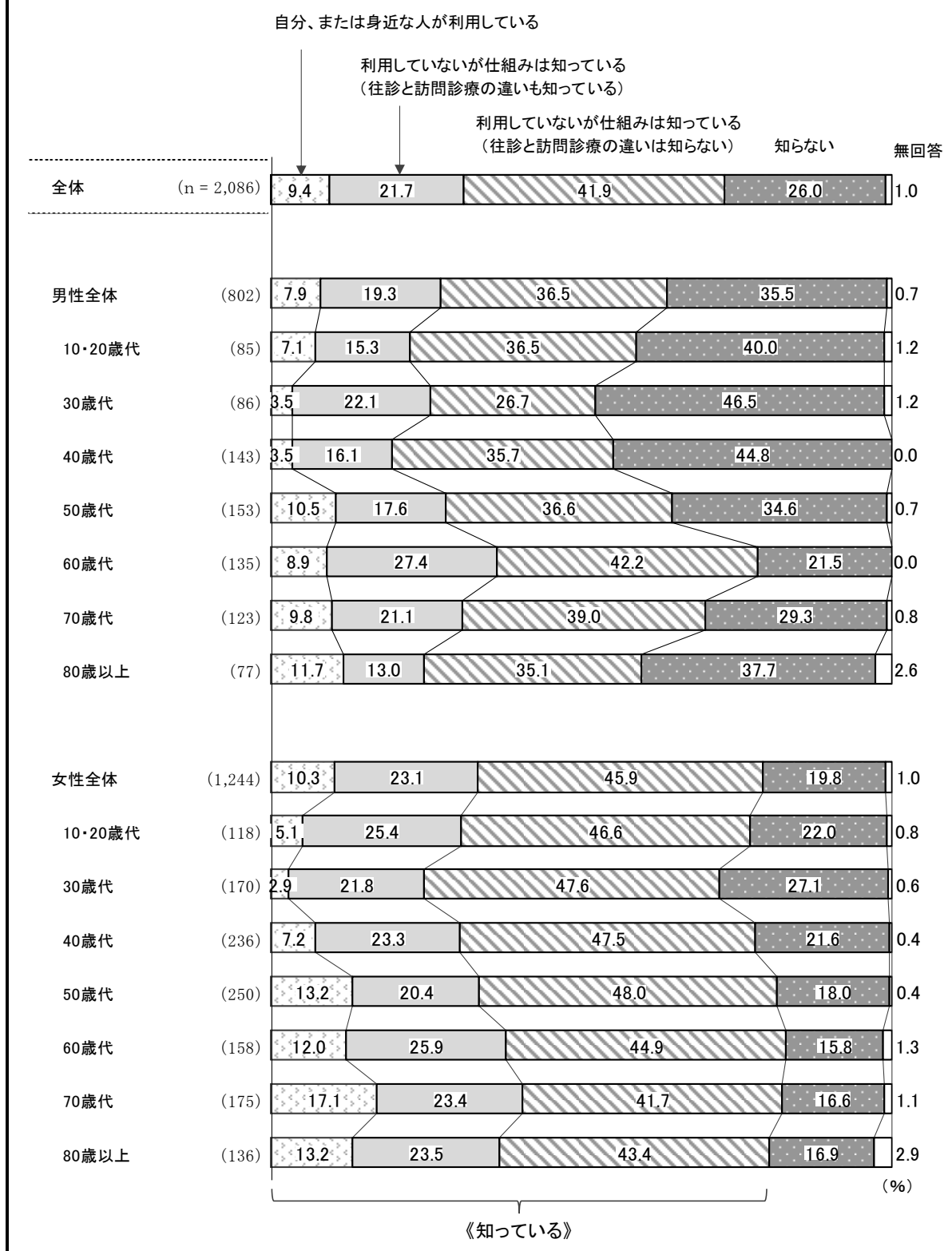


※平成 30 年度調査では、「利用していないが仕組みは知っている」はひとつの選択肢でした。

〈調査結果〉

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度 (76.7%) から令和 3 年度 (73.0%) でわずかに減少している。(図 5-3-2)

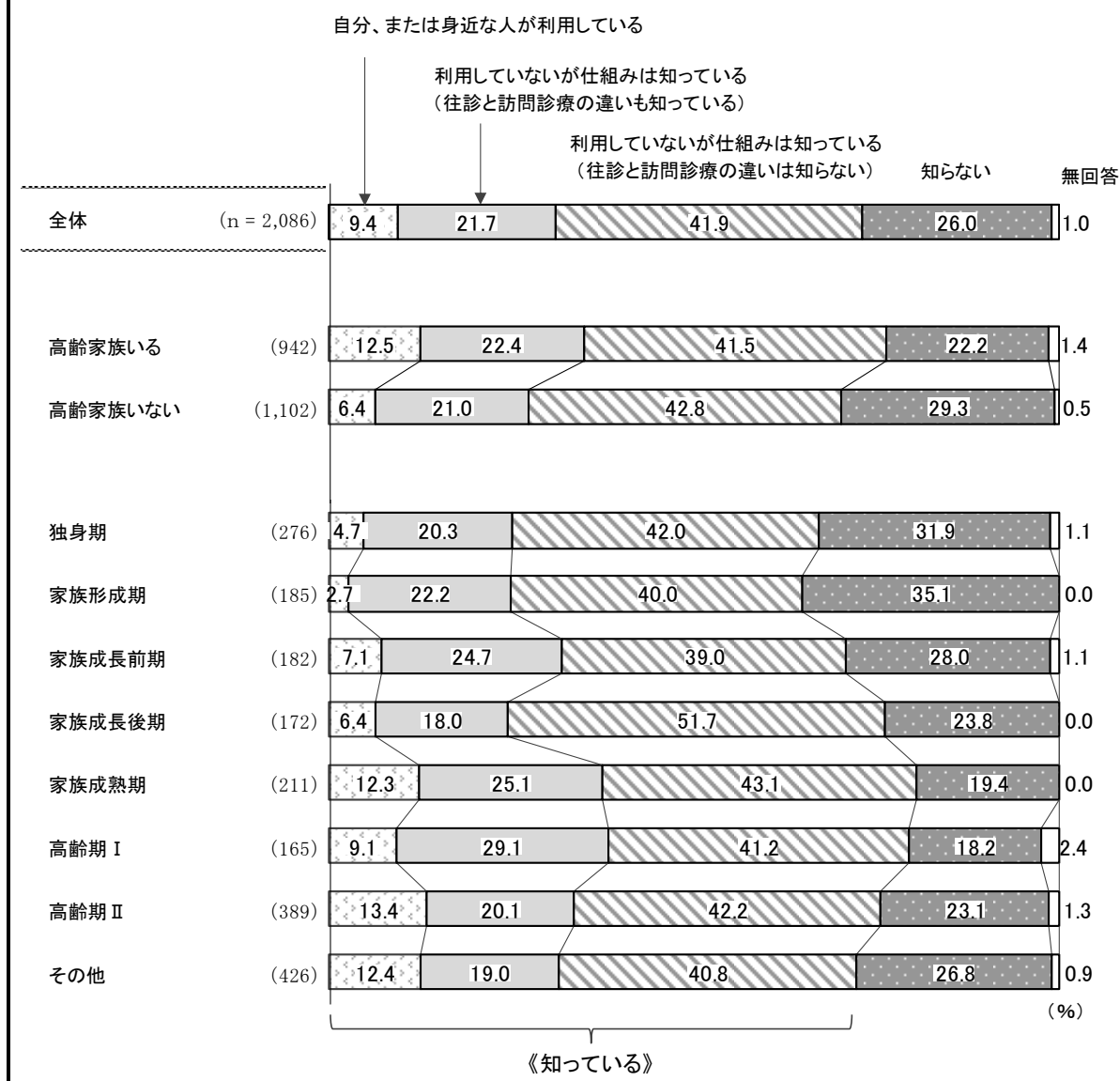
図5-3-3 「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《知っている》は女性全体がほぼ8割、男性全体が6割を超え、いずれの年代も男性より女性の方が高く、特に女性の50歳代～70歳代は8割を超えている。  
(図5-3-3)

図5-3-4 「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



〈調査結果〉

高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」の割合は高齢家族がいる世帯で1割を超え、高齢家族がいない世帯のほぼ倍となっている。

ライフステージ別にみると、「自分、または身近な人が利用している」と「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」を合わせた割合は、家族成熟期と高齢期 I で4割近くと、他の層よりも高くなっている。（図5-3-4）

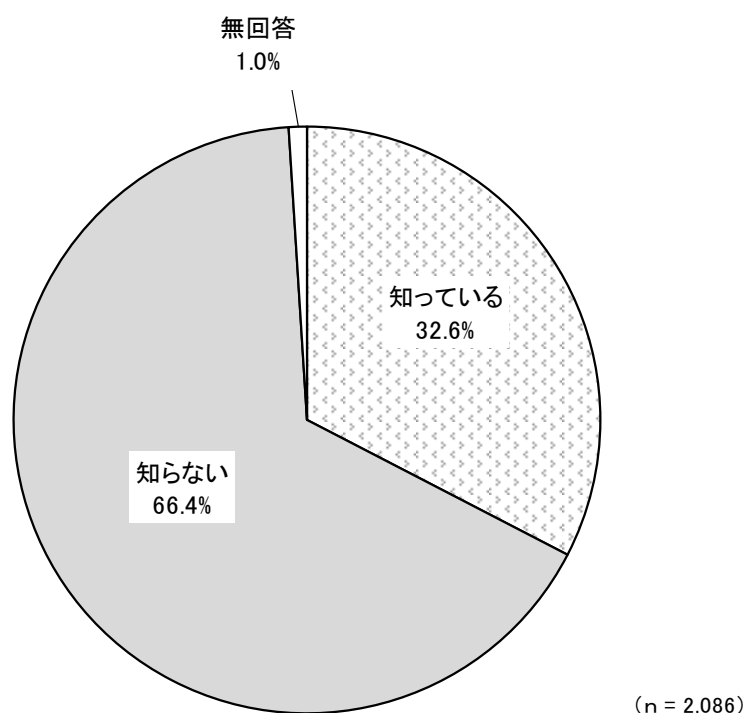
## 6. 悩みや不安の相談先

### (1) 相談できる医療機関や行政窓口の認知度

◎ 「知っている」が3割を超え、「知らない」が6割半ば

問16 あなたは、悩みや不安、ストレスを感じたときに相談できる、医療機関や行政機関の専門窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

図6-1-1

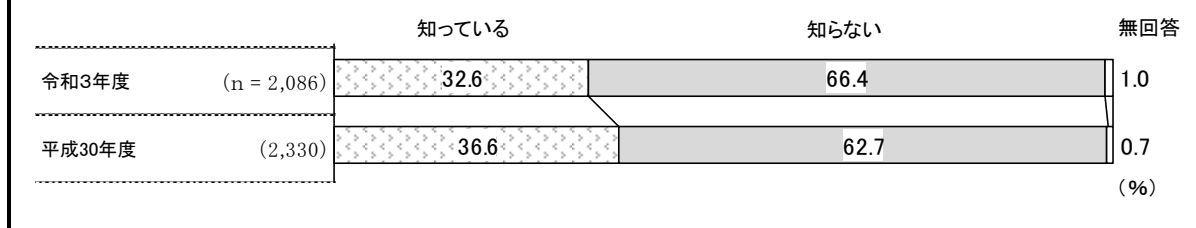


#### <調査結果>

相談できる医療機関や行政窓口の認知度を聞いたところ、「知っている」(32.6%)が3割を超え、「知らない」(66.4%)が6割半ばとなっている。(図6-1-1)



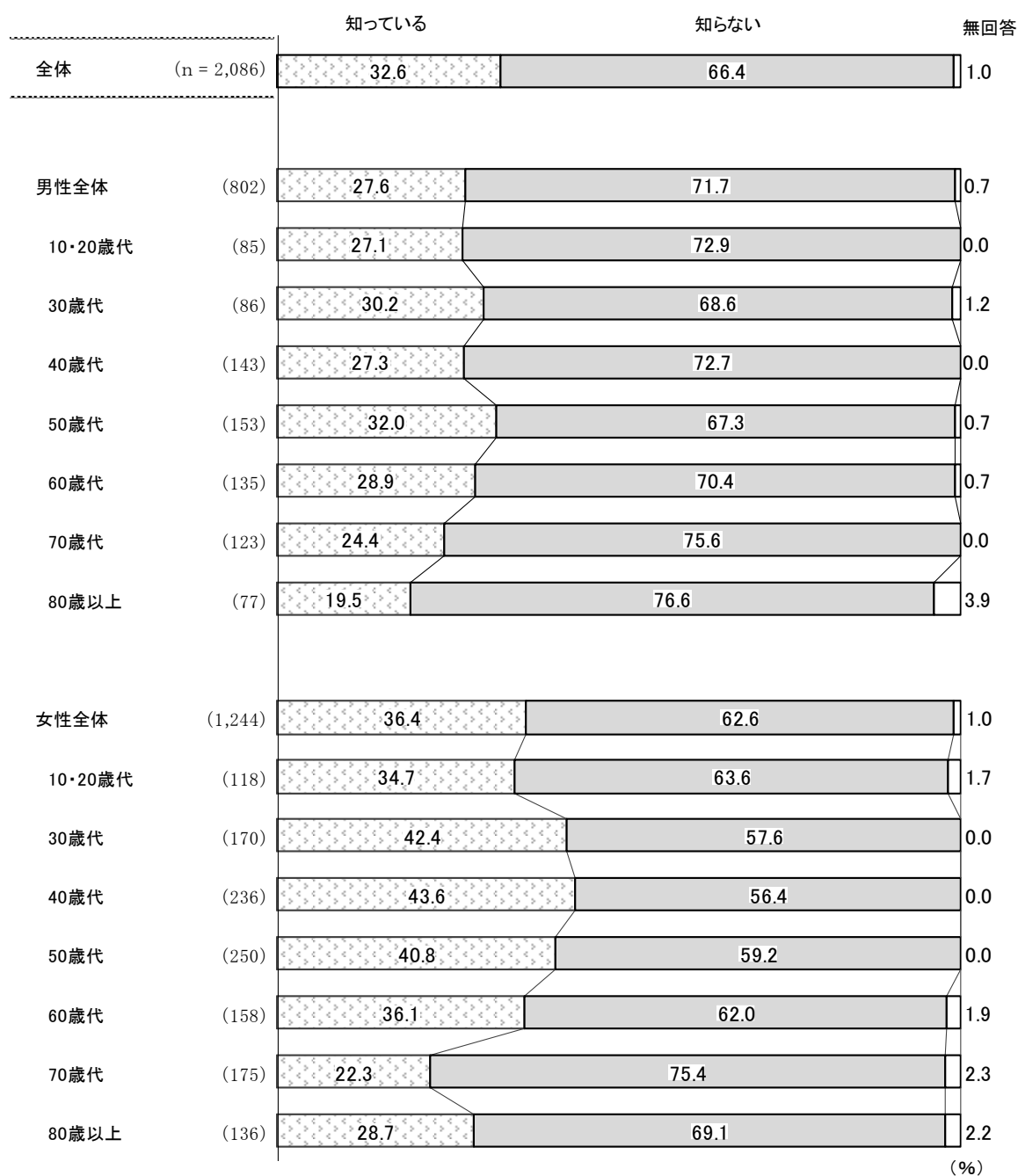
図6-1-2 相談できる医療機関や行政窓口の認知度（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成30年度（36.6%）から令和3年度（32.6%）でわずかに減少している。（図6-1-2）

図 6-1-3 相談できる医療機関や行政窓口の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

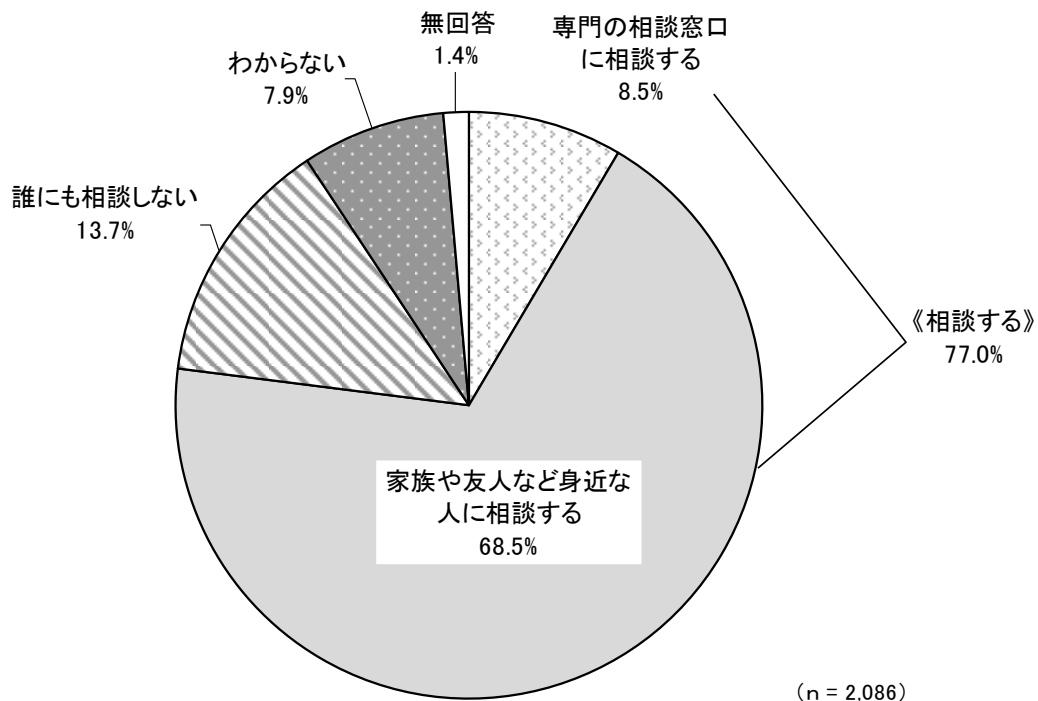
性・年齢別にみると、「知っている」は女性の30歳代、40歳代が4割を超え、50歳代がほぼ4割となっている。男性は50歳代が3割を超えるにとどまり、その他の年代は2割～3割で、70歳代を除き男性より女性の方が認知度は高い。(図6-1-3)

## (2) 悩みや不安の相談先

◎「家族や友人など身近な人に相談する」が8割近く

問17 あなたは、自分自身では抱えきれない悩みや不安、ストレスを感じたときに、どのようにしますか。(〇は1つ)

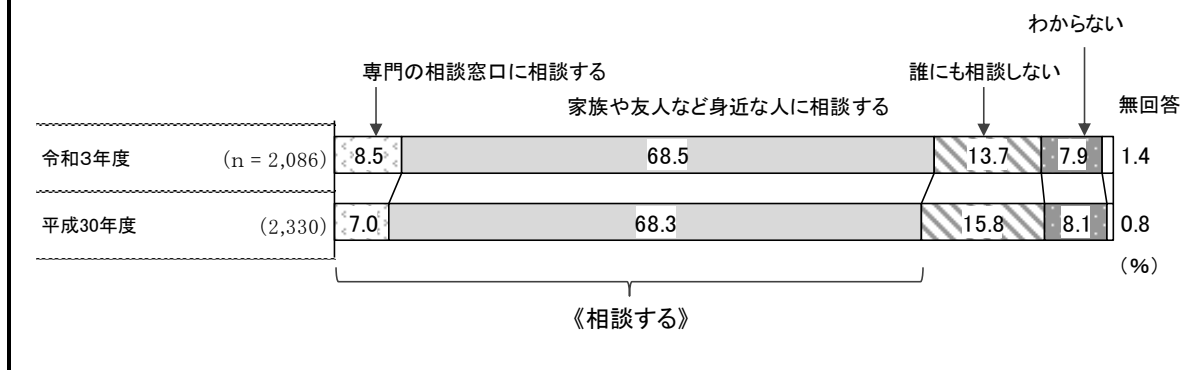
図6-2-1



### <調査結果>

悩みや不安の相談先について聞いたところ、「家族や友人など身近な人に相談する」(68.5%)が7割近くで「専門の相談窓口に相談する」(8.5%)と合わせた《相談する》(77.0%)が8割近くとなっている。「誰にも相談しない」(13.7%)は1割を超えている。(図6-2-1)

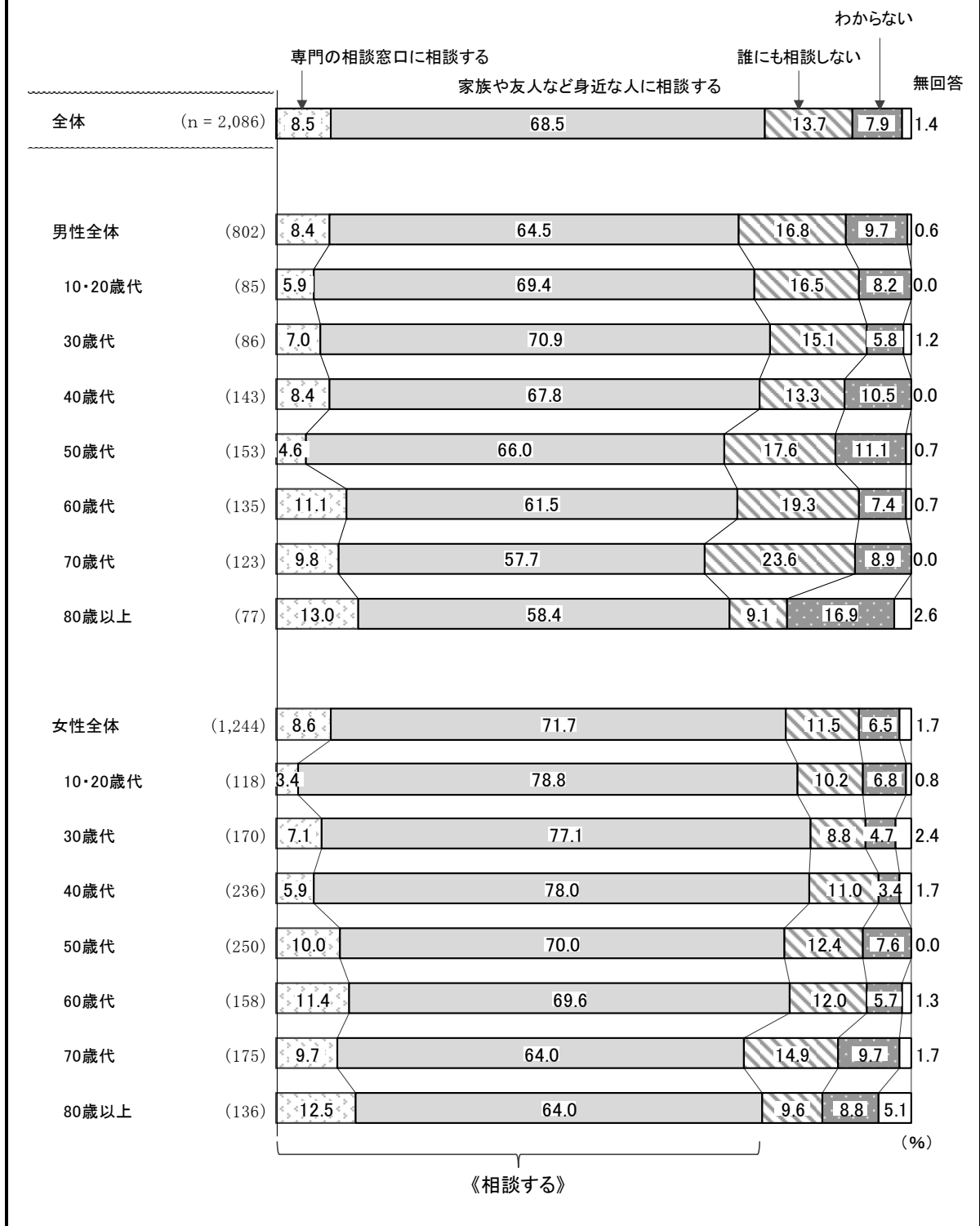
図 6-2-2 悩みや不安の相談先（時系列）



<調査結果>

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「誰にも相談しない」は平成 30 年度 (15.8%) から令和 3 年度 (13.7%) でわずかに減少している。(図 6-2-2)

図6-2-3 悩みや不安の相談先（性・年齢別）



<調査結果>

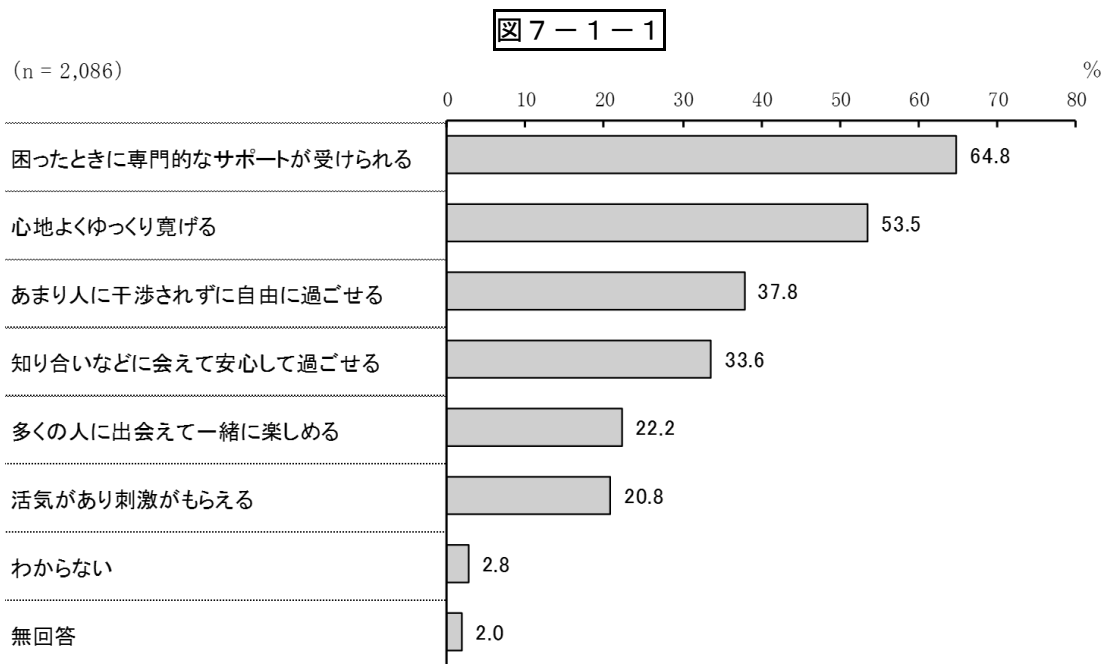
性・年齢別にみると、「家族や友人など身近な人に相談する」は女性の10・20歳代～40歳代で8割近くとなっている。「誰にも相談しない」は男性の70歳代で2割を超え、80歳以上を除いて、女性に比べ男性の方が高い。(図6-2-3)

## 7. 高齢者の居場所

### (1) 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるもの

◎「困ったときに専門的なサポートが受けられる」が6割半ば

問18 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるものとして、あなたの気持ちに近いものはどれですか（10～50歳代の方はご自身が高齢になったときに何を求めたいと思いますか）。（〇は3つまで）



#### <調査結果>

高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるものについて聞いたところ、「困ったときに専門的なサポートが受けられる」（64.8%）が6割半ばと最も高く、以下「心地よくゆっくり寛げる」（53.5%）が5割を超え、「あまり人に干渉されずに自由に過ごせる」（37.8%）、「知り合いなどに会えて安心して過ごせる」（33.6%）が3割台となっている。（図7-1-1）

表 7-1-1 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるもの（性・年齢別）

		(%)								
区分	n	活 気 が あ り 刺 激 が も ら え る	心 知 り 合 い な ど に 会 え て 安 心 し て 過 ご せ る	多 く の 人 に 出 会 え て 一 緒 に 楽 し め る	心 地 よ く ゆ っ く り 寛 げ る	あ ま り 人 に 干 渉 さ れ ず に 自 由 に 過 ご せ る	困 っ た と き に 専 門 的 な サ ポ ー ト が 受 け ら れ る	わ か ら な い	無 回 答	
全 体	2,086	20.8	33.6	22.2	53.5	37.8	64.8	2.8	2.0	
性・年齢別	男性全体	802	21.7	30.9	21.1	55.0	44.3	54.4	3.2	1.4
	10・20 歳代	85	21.2	43.5	18.8	61.2	35.3	43.5	10.6	—
	30 歳代	86	26.7	40.7	22.1	53.5	36.0	45.3	2.3	1.2
	40 歳代	143	26.6	44.1	23.8	56.6	35.7	60.8	2.8	—
	50 歳代	153	22.9	33.3	19.0	62.7	45.1	58.2	0.7	0.7
	60 歳代	135	18.5	17.0	17.8	62.2	58.5	60.7	0.7	1.5
	70 歳代	123	19.5	21.1	18.7	45.5	52.0	56.1	3.3	1.6
	80 歳以上	77	14.3	16.9	31.2	33.8	40.3	42.9	6.5	6.5
	女性全体	1,244	20.3	35.5	23.2	53.1	33.8	71.3	2.5	2.2
	10・20 歳代	118	18.6	50.8	24.6	56.8	33.1	55.1	4.2	1.7
	30 歳代	170	18.8	48.2	30.0	57.1	27.1	72.9	1.8	0.6
	40 歳代	236	21.6	41.5	22.0	61.4	29.2	76.3	—	1.3
	50 歳代	250	22.0	34.4	16.8	62.0	39.2	81.6	1.2	0.8
	60 歳代	158	21.5	22.8	28.5	48.7	34.8	78.5	1.3	3.8
	70 歳代	175	19.4	24.6	22.3	41.7	37.1	66.3	5.1	2.3
	80 歳以上	136	18.4	27.2	22.1	33.8	35.3	53.7	6.6	6.6

<調査結果>

性・年齢別にみると、「困ったときに専門的なサポートが受けられる」は女性の50歳代で8割を超えている。「心地よくゆっくり寛げる」は男性の10・20歳代、50歳代、60歳代と女性の40歳代、50歳代で6割を超えている。（表7-1-1）

表 7-1-2 高齢者が自宅以外で過ごす居場所に求めるもの（高齢家族の有無別）

区分		n	活気があり刺激が もらえる	知り合いなどに会えて 安心して過ごせる	多くの人に出会えて 一緒に楽しめる	心地よくゆっくり寛げる	あまり人に干渉されずに 自由に過ごせる	困ったときに専門的な サポートが受けられる	わからない	無回答
全 体		2,086	20.8	33.6	22.2	53.5	37.8	64.8	2.8	2.0
高齢家族の有無別	い る	942	19.4	26.9	21.9	49.4	40.2	64.4	3.6	2.4
	い ない	1102	22.1	39.7	22.5	57.9	36.0	65.1	2.1	1.3

<調査結果>

高齢家族の有無別にみると、「知り合いなどに会えて安心して過ごせる」「心地よくゆっくり寛げる」は高齢家族がいる人よりも高齢家族がいない人で割合が高くなっている。

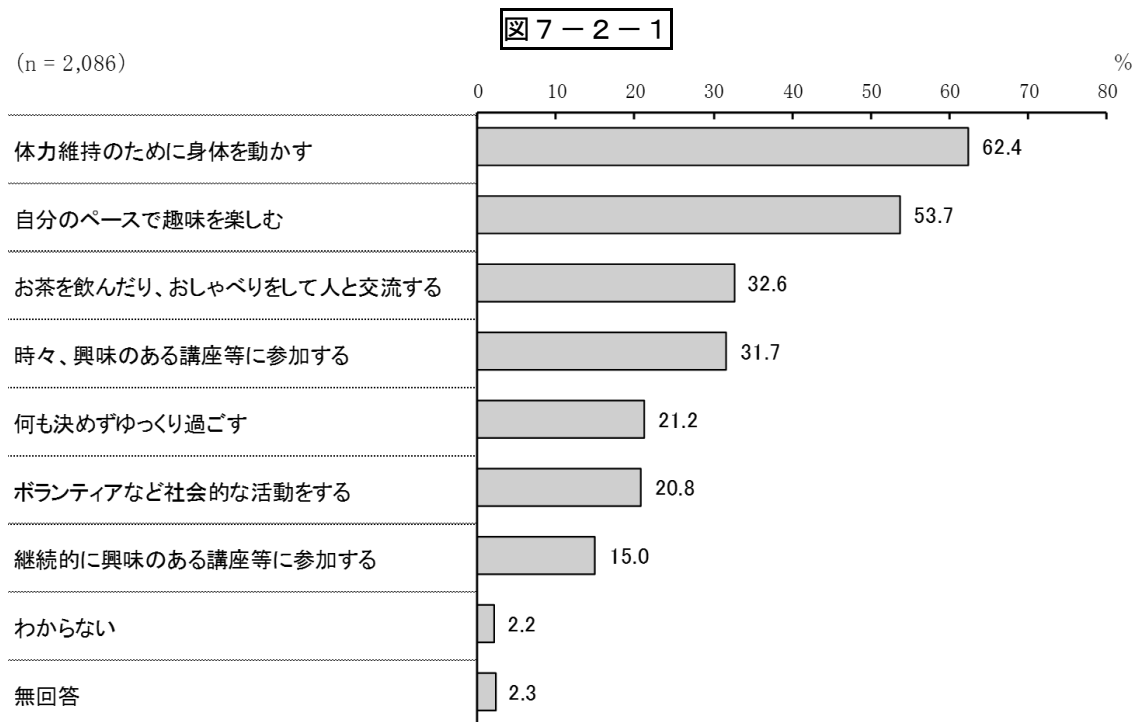
(表 7-1-2)



## (2) 高齢者の自宅以外での過ごし方の希望

◎「体力維持のために身体を動かす」が6割を超えている

問19 高齢者の自宅以外での過ごし方として、あなたの気持ちに近いものはどれですか（10～50歳代の方はご自身が高齢になったときにどう過ごしたいと思いませんか）。（〇は3つまで）



### <調査結果>

高齢者の自宅以外での過ごし方として、回答者の気持ちに近いものを聞いたところ、「体力維持のために身体を動かす」(62.4%)が6割を超えて最も高く、続いて「自分のペースで趣味を楽しむ」(53.7%)が5割を超えている。また、「お茶を飲んだり、おしゃべりをして人と交流する」(32.6%)、「時々、興味のある講座等に参加する」(31.7%)が3割を超えている。

(図7-2-1)

表 7-2-1 高齢者の自宅以外での過ごし方の希望（性・年齢別）

区分		n	お茶を飲んだり、おしゃべりをして人と交流する	自分のペースで趣味を楽しむ	時々、興味のある講座等に参加する	継続的に興味のある講座等に参加する	体力維持のために身体を動かす	何も決めずゆとり過ごす	ボランティアなど社会的な活動をする	わからない	無回答
全 体		2,086	32.6	53.7	31.7	15.0	62.4	21.2	20.8	2.2	2.3
性・年齢別	男性全体	802	25.3	62.6	27.4	13.1	62.2	23.8	18.1	2.9	1.5
	10・20 歳代	85	37.6	68.2	17.6	7.1	62.4	15.3	11.8	9.4	—
	30 歳代	86	43.0	64.0	27.9	10.5	61.6	24.4	11.6	3.5	1.2
	40 歳代	143	27.3	60.8	28.7	13.3	68.5	26.6	25.2	1.4	1.4
	50 歳代	153	24.2	64.1	26.1	13.7	64.7	21.6	26.1	0.7	1.3
	60 歳代	135	14.1	63.7	31.9	16.3	63.7	28.1	20.7	1.5	—
	70 歳代	123	16.3	62.6	31.7	12.2	59.3	24.4	13.0	1.6	3.3
	80 歳以上	77	24.7	53.2	23.4	16.9	48.1	23.4	6.5	6.5	3.9
	女性全体	1,244	37.8	48.7	34.6	16.2	62.4	19.1	22.5	1.8	2.7
	10・20 歳代	118	44.9	57.6	29.7	10.2	53.4	28.0	13.6	5.1	3.4
	30 歳代	170	51.8	54.7	35.3	21.2	61.8	12.9	19.4	2.4	2.4
	40 歳代	236	41.5	50.4	36.9	17.8	64.0	19.1	25.0	1.7	1.7
	50 歳代	250	30.0	50.4	34.8	22.8	71.6	13.6	32.8	1.6	1.6
	60 歳代	158	30.4	44.3	38.6	14.6	62.0	16.5	34.2	—	2.5
70 歳代	175	36.6	40.0	34.9	10.3	64.6	22.3	14.3	1.7	3.4	
80 歳以上	136	32.4	43.4	29.4	10.3	49.3	27.9	8.1	1.5	5.1	

<調査結果>

性・年齢別にみると、「体力維持のために身体を動かす」は女性の 50 歳代で 7 割を超え、60 歳代、70 歳代で 6 割を超えている。「自分のペースで趣味を楽しむ」は男性の 70 歳代、80 歳代以上では一番高い割合となっている。（表 7-2-1）

表 7-2-2 高齢者の自宅以外での過ごし方の希望（高齢家族の有無別）

区分		n	お茶を飲んだり、おしゃべりをして人と交流する	自分のペースで趣味を楽しむ	時々、興味のある講座等に参加する	継続的に興味のある講座等に参加する	体力維持のために身体を動かす	何も決めずゆっくり過ごす	ボランティアなど社会的な活動をする	わからない	無回答
全 体		2,086	32.6	53.7	31.7	15.0	62.4	21.2	20.8	2.2	2.3
高齢家族の有無	い る	942	29.2	51.6	32.7	13.1	60.7	23.1	17.3	1.9	2.5
	いない	1102	36.0	56.4	30.9	16.5	63.8	19.3	23.8	2.5	1.9

<調査結果>

高齢家族の有無別にみると、「お茶を飲んだり、おしゃべりをして人と交流する」「ボランティアなど社会的な活動をする」は高齢家族がいる人よりも高齢家族がいない人で割合が高くなっている。（表 7-2-2）

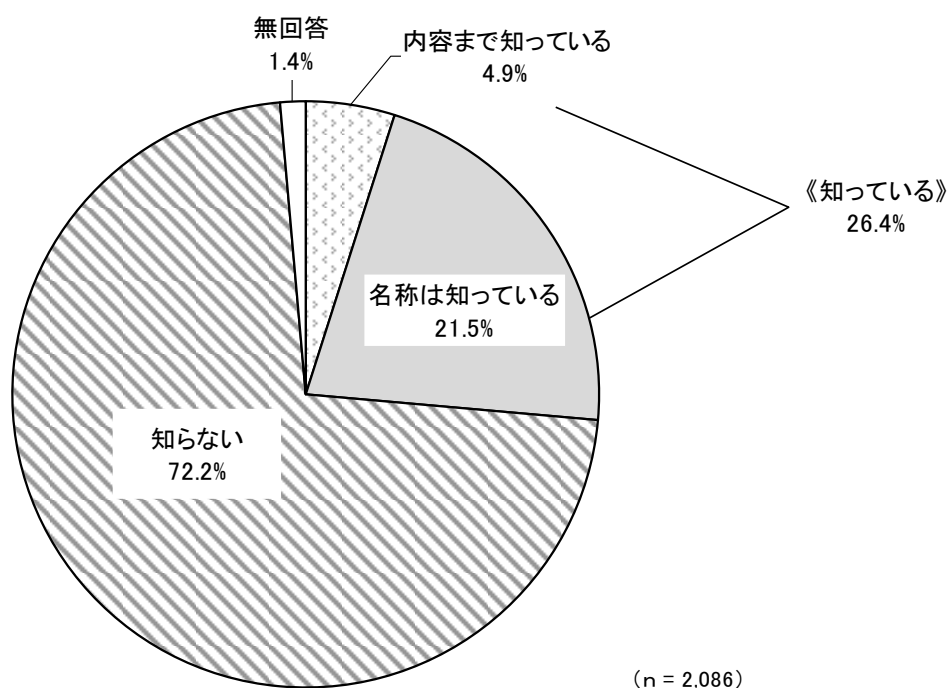
## 8. 障害者を支える取り組み

### (1) 障害者差別解消法の認知度

◎ 《知っている》は2割半ば

問20 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(○は1つ)

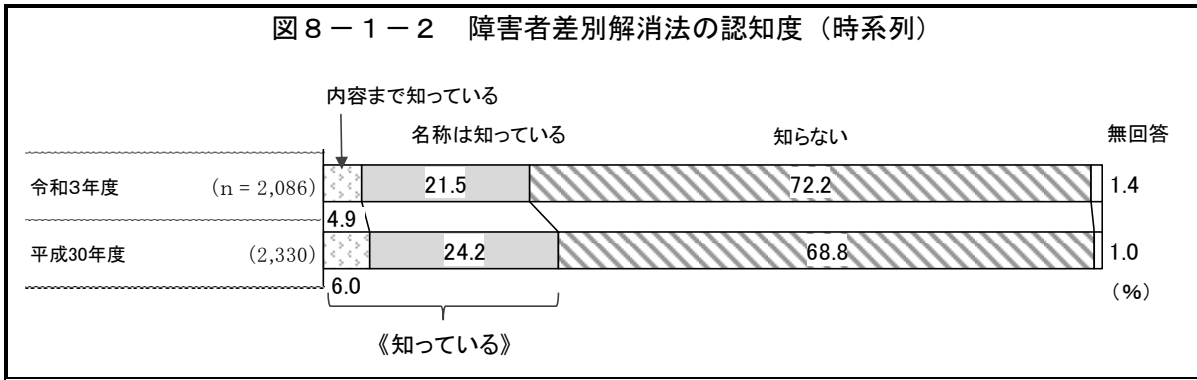
図8-1-1



#### <調査結果>

障害者差別解消法の認知度を聞いたところ、「内容まで知っている」(4.9%)と「名称は知っている」(21.5%)を合わせた《知っている》(26.4%)が2割半ば、「知らない」(72.2%)が7割を超えている。(図8-1-1)

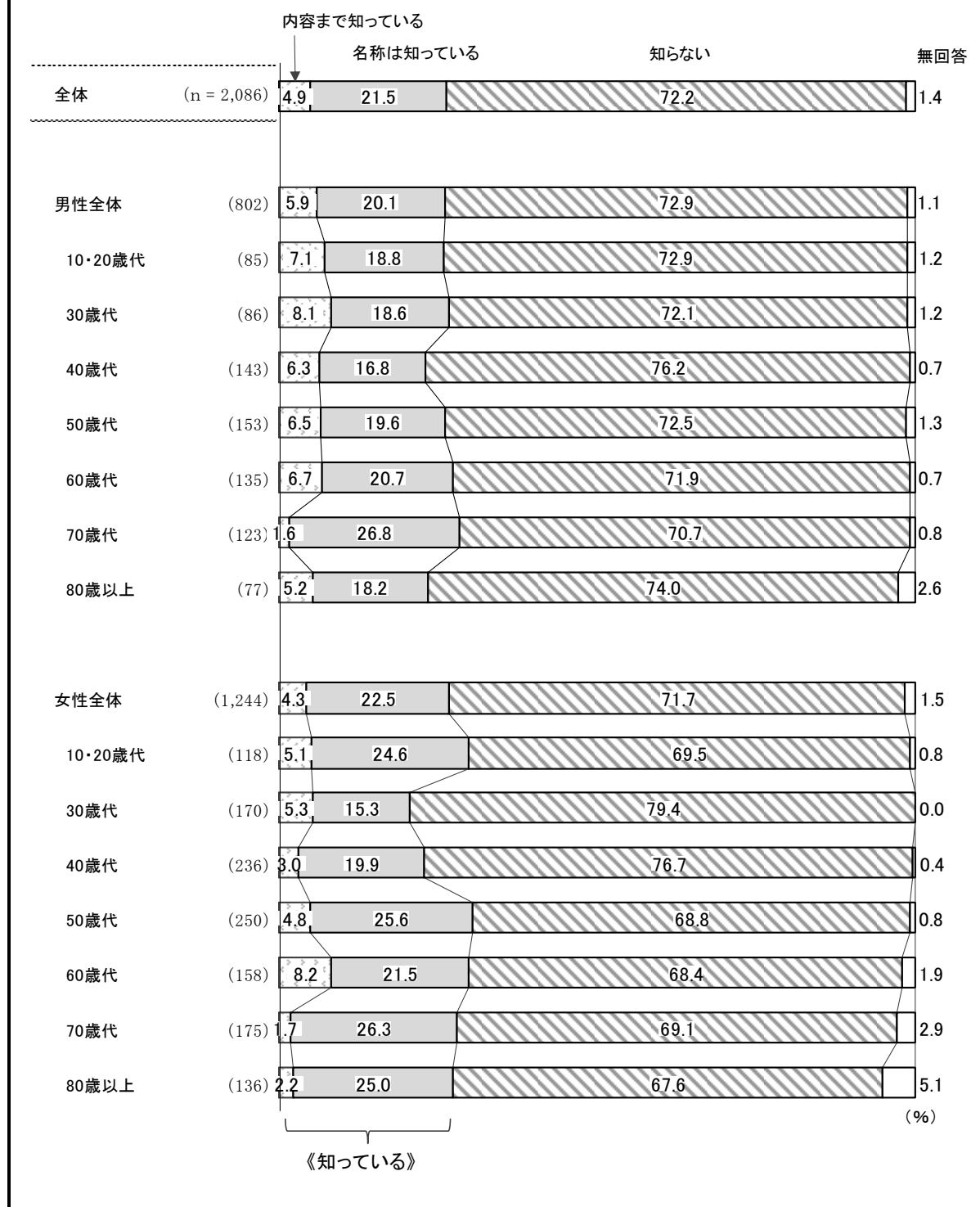
図 8 - 1 - 2 障害者差別解消法の認知度（時系列）



〈調査結果〉

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（30.2%）から令和 3 年度（26.4%）でわずかに減少している。（図 8 - 1 - 2）

図 8-1-3 障害者差別解消法の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《知っている》は女性の10・20歳代、50歳代、60歳代が3割、男性の60歳代、70歳代と女性の70歳代が3割近くとなっている。「内容まで知っている」はすべての年代で1割に満たない。(図8-1-3)

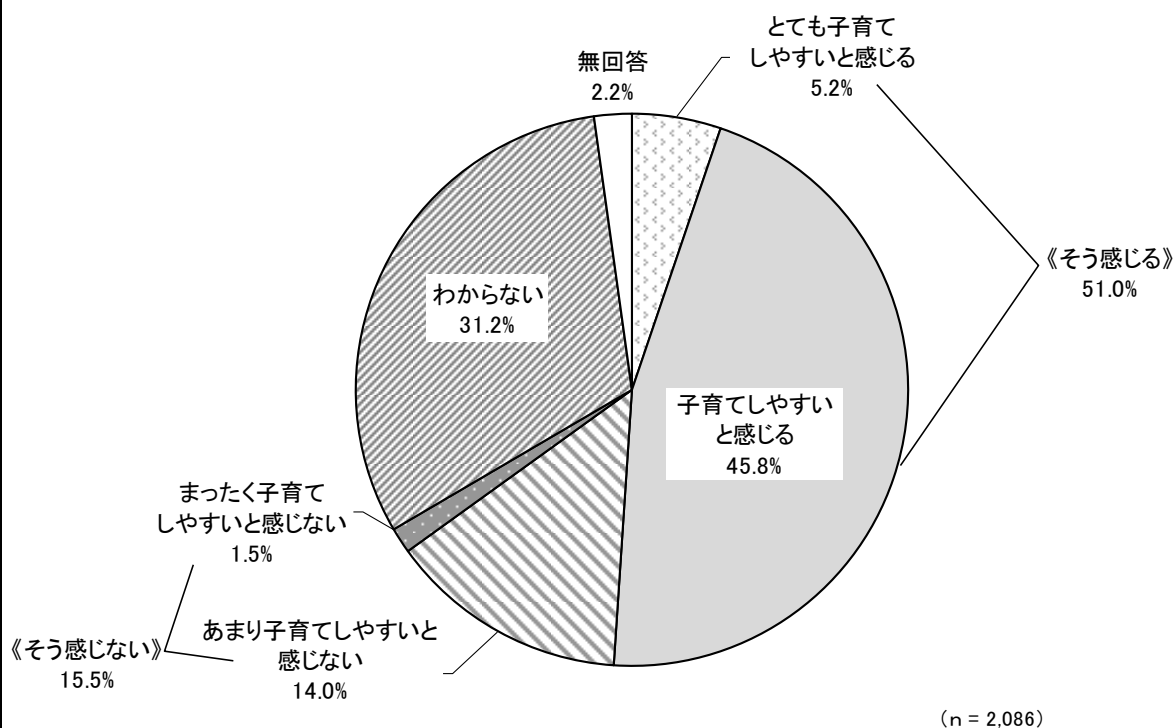
## 9. 子育て・子どもを取り巻く環境

### (1) 区の子育て環境

◎「とても子育てしやすいと感じる」と「子育てしやすいと感じる」を合わせると5割を超える

問21 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。(〇は1つ)

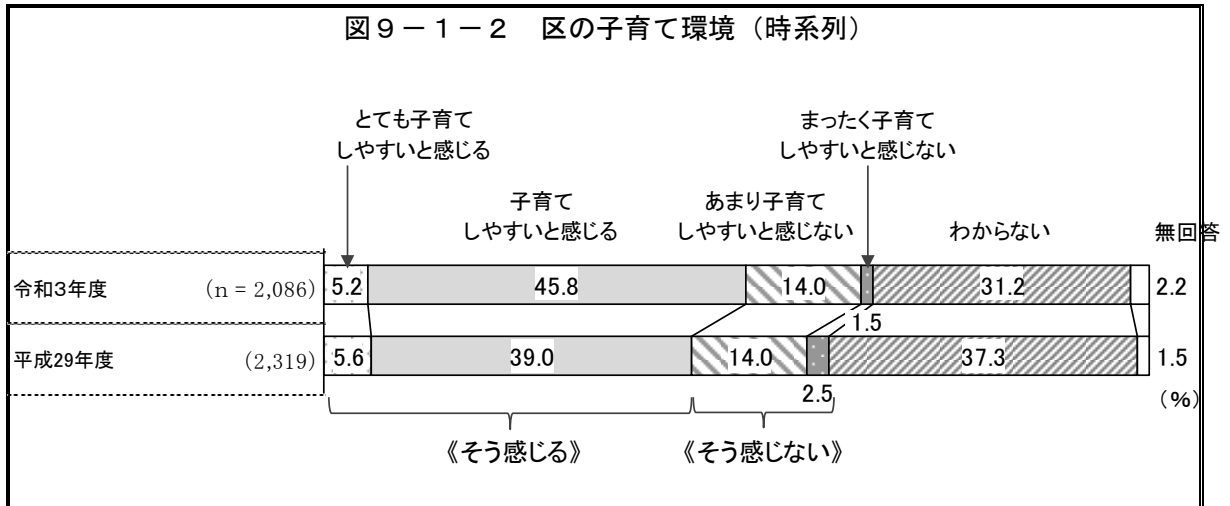
図9-1-1



#### <調査結果>

世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「子育てしやすいと感じる」(45.8%)が4割半ば、「とても子育てしやすいと感じる」(5.2%)と合わせた《そう感じる》(51.0%)が5割を超え、「あまり子育てしやすいと感じない」(14.0%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.5%)を合わせた《そう感じない》(15.5%)が1割半ばとなっている。(図9-1-1)

図9-1-2 区の子育て環境（時系列）

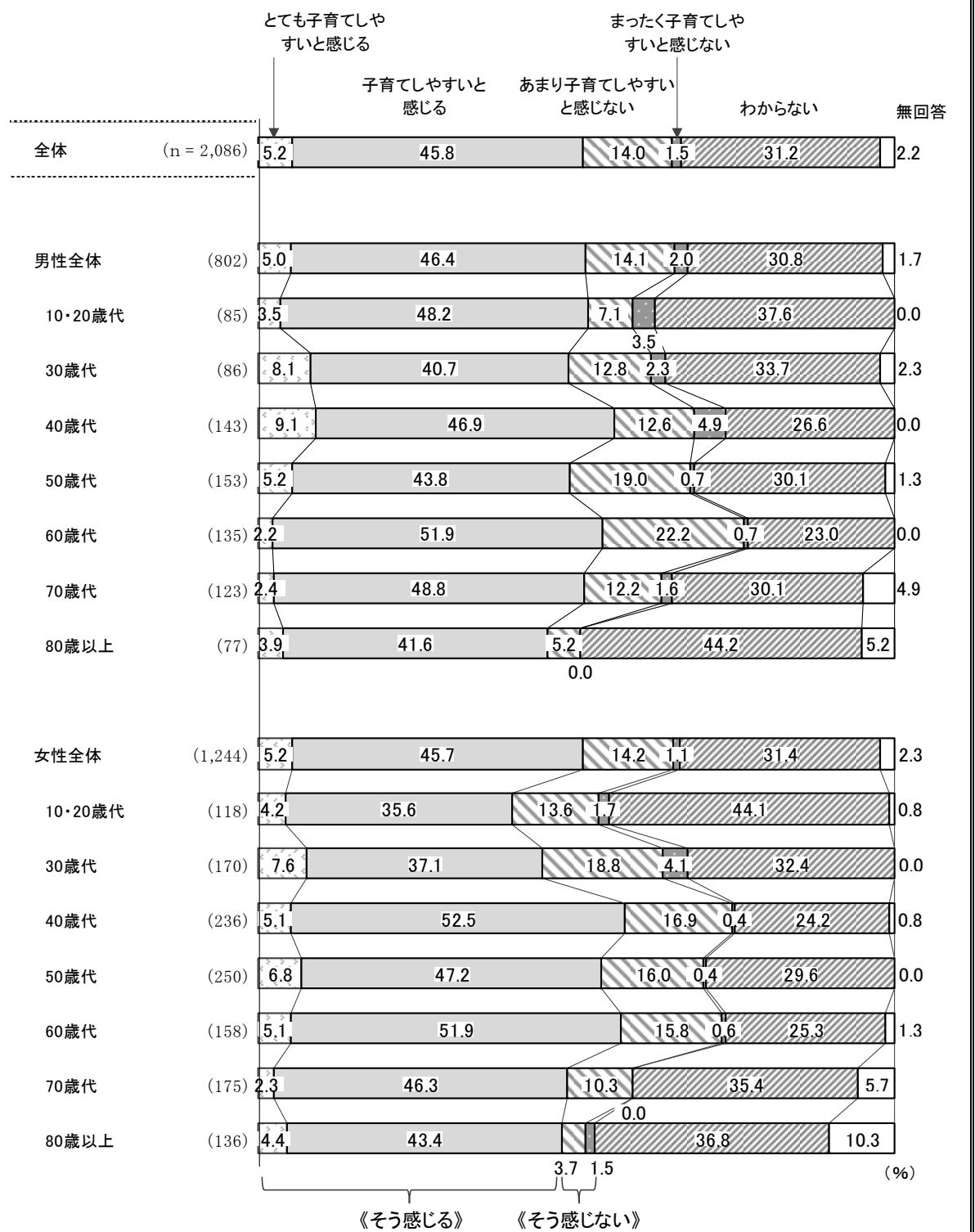


<調査結果>

平成29年度からの時系列の変化をみると、《そう感じる》は平成29年度（44.6%）から令和3年度（51.0%）で増加している。《そう感じない》は平成29年度（16.5%）から令和3年度（15.5%）で大きな違いはみられない。（図9-1-2）



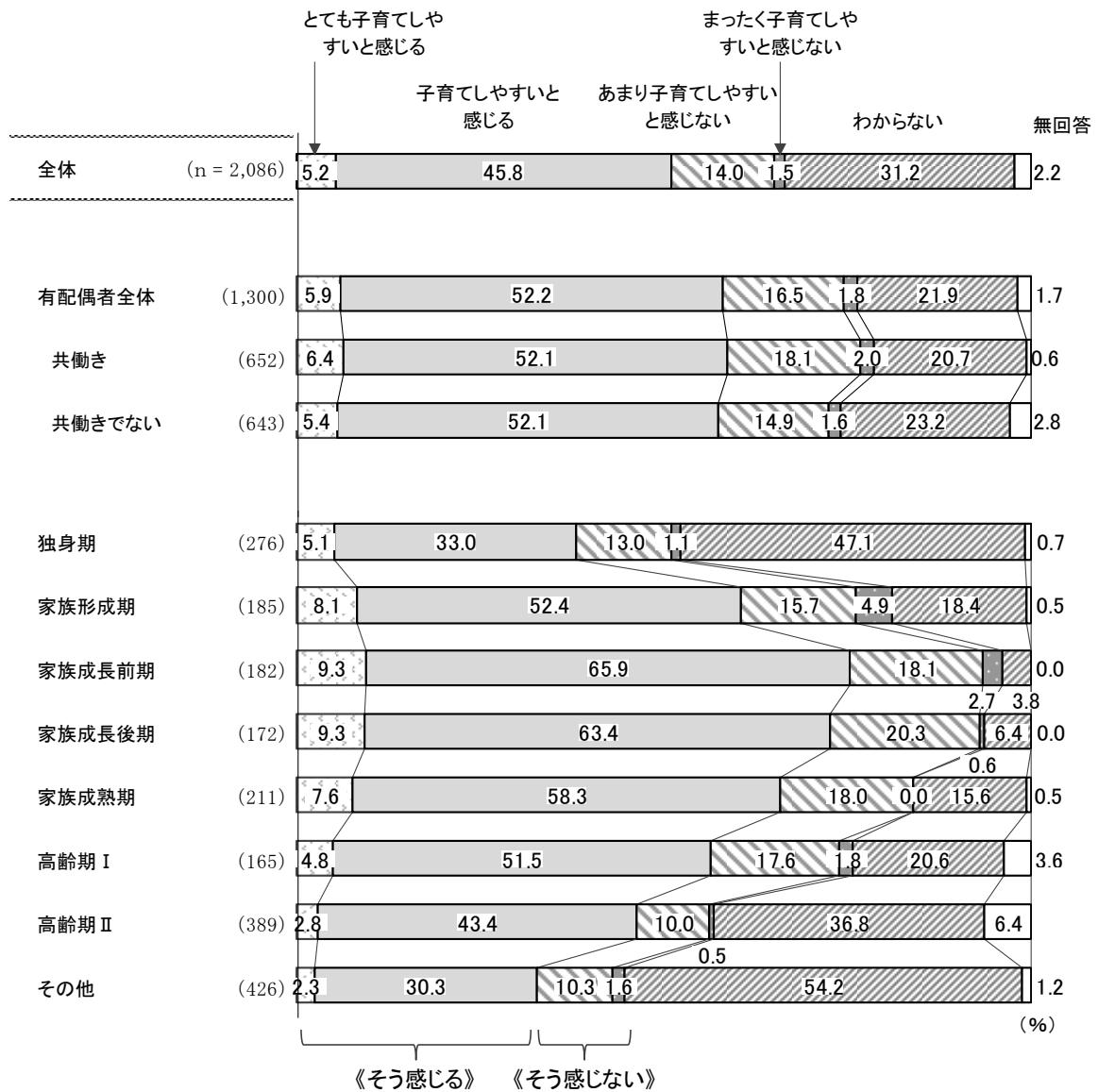
図9-1-3 区の子育て環境（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《そう感じる》は女性の40歳代、60歳代で6割近く、男性の40歳代、60歳代で5割半ばとなっている。《そう感じない》は男性の60歳代、女性の30歳代で2割を超えている。30歳代は《そう感じる》が男性で5割近く、女性で4割半ばとなっている。(図9-1-3)

図 9-1-4 区の子育て環境（共働きの有無別・ライフステージ別）



〈調査結果〉

共働きの有無別にみると、共働き世帯、共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

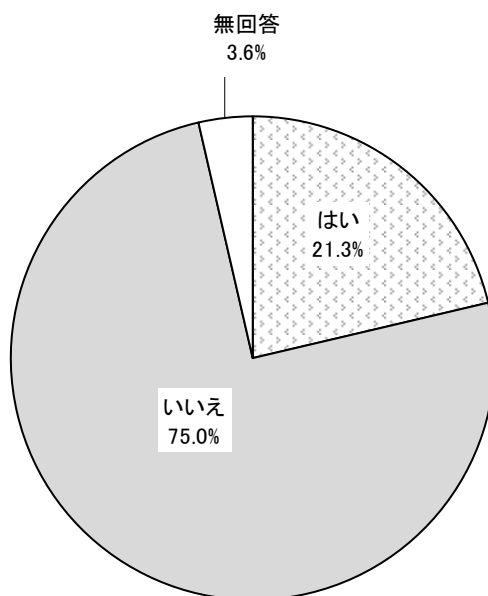
ライフステージ別にみると、《そう感じる》は家族成長前期で7割半ば、家族成長後期で7割を超えている。一方、《そう感じない》は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期でほぼ2割となっている。(図9-1-4)

## (2) 子育てについて相談できる人の有無

◎「相談できる人がいる」が8割近く、「相談できる人がいない」がほぼ2割

問22 あなたは、18歳未満の子どもを子育て中、またはあなたご自身もしくは配偶者が妊娠中ですか。(○は1つ)

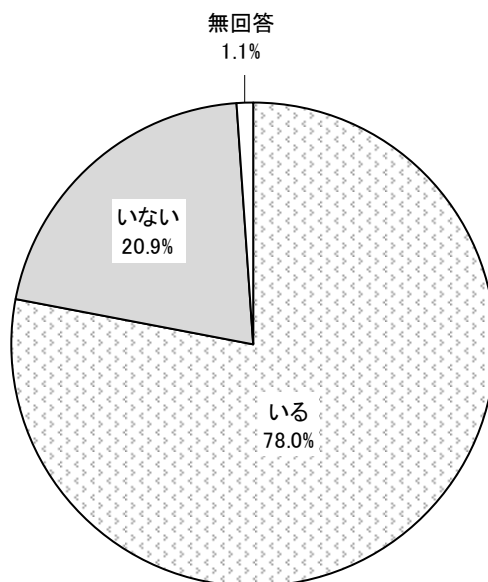
図9-2-1



(n = 2,086)

(問22で「はい」と答えた方に)

問22-1 あなたは、子育てについて相談できる人が身近な地域にいますか。(○は1つ)

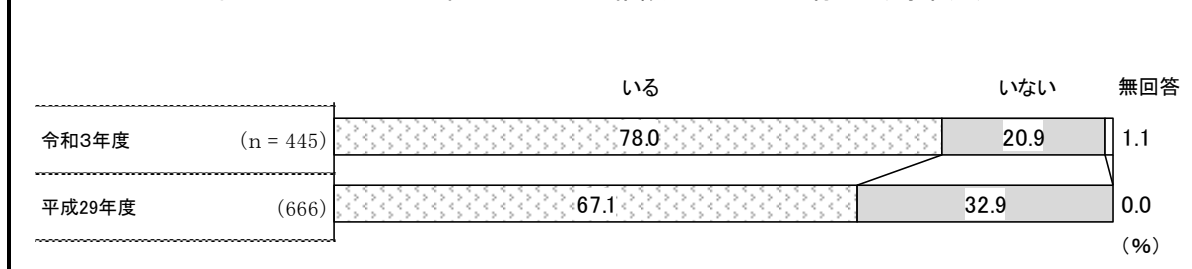


(n = 445)

### <調査結果>

18歳未満の子どもを子育て中、またはご自身もしくは配偶者が妊娠中の方(445人)に、子育てについて相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(78.0%)は8割近く、「いない」(20.9%)はほぼ2割となっている。(図9-2-1)

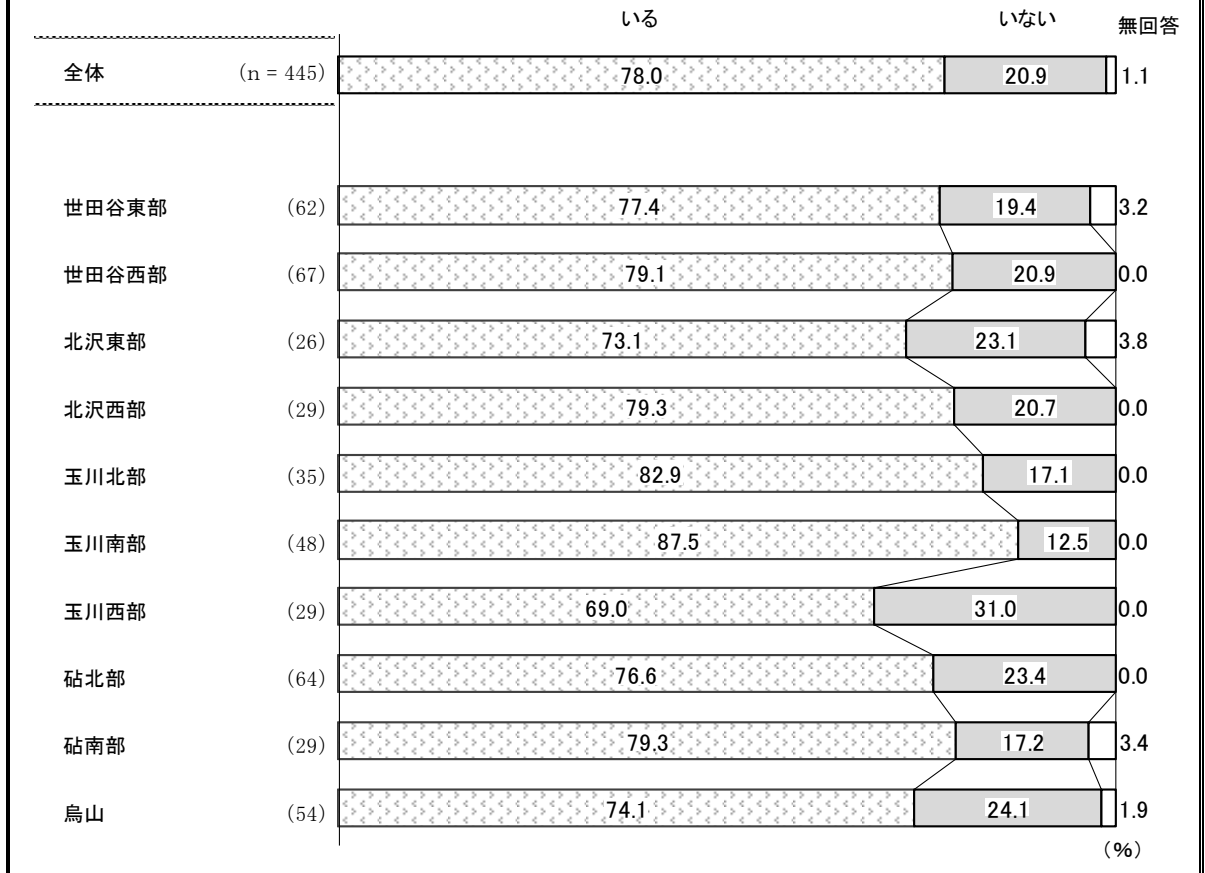
図 9-2-2 子育てについて相談できる人の有無（時系列）



〈調査結果〉

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「いない」は平成 29 年度（32.9%）から令和 3 年度（20.9%）で減少している。（図 9-2-2）

図9-2-3 子育てについて相談できる人の有無（地域別）



<調査結果>

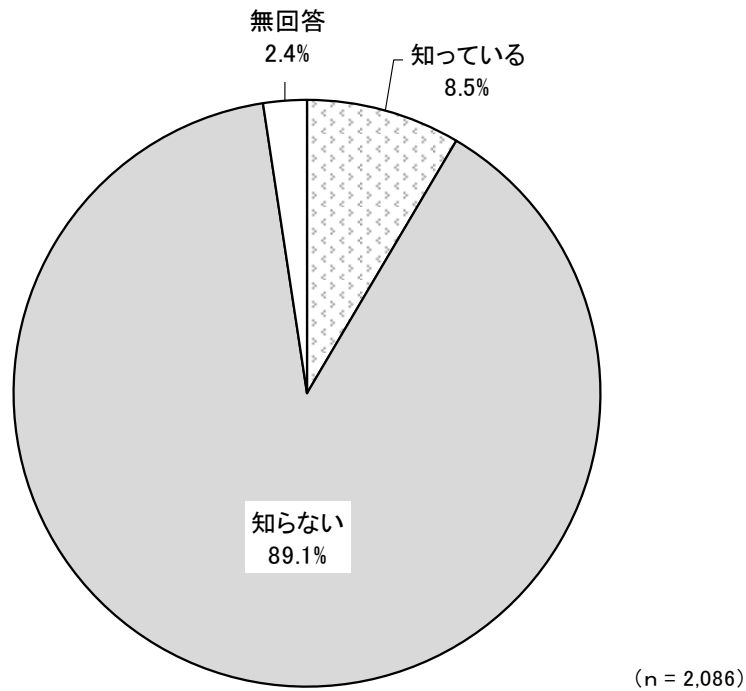
地域別にみると、「いる」は玉川南部で9割近く、玉川北部で8割を超えている。「いない」は玉川西部で3割を超えている。(図9-2-3)

### (3) 「世田谷版ネウボラ」の認知度

◎世田谷版ネウボラを「知らない」がほぼ9割

問23 あなたは、「世田谷版ネウボラ」という、妊娠期から就学前までの乳幼児を育てているご家庭を切れ目なく支えるため、医療機関や地域の支援の担い手と連携して相談支援していく取り組みを行っていることを知っていますか。(○は1つ)

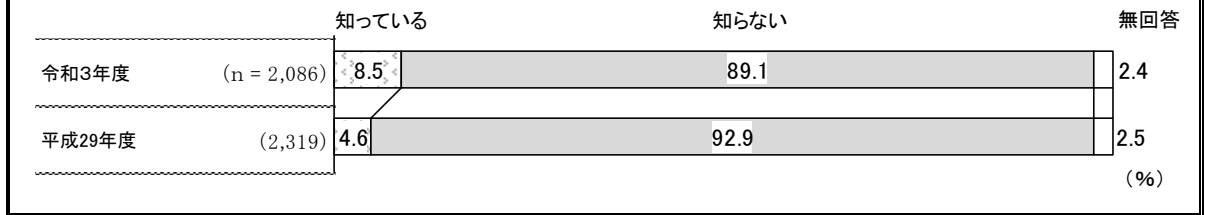
図9-3-1



#### <調査結果>

「世田谷版ネウボラ」の認知度を聞いたところ、「知っている」(8.5%)が1割に満たず、「知らない」(89.1%)がほぼ9割となっている。(図9-3-1)

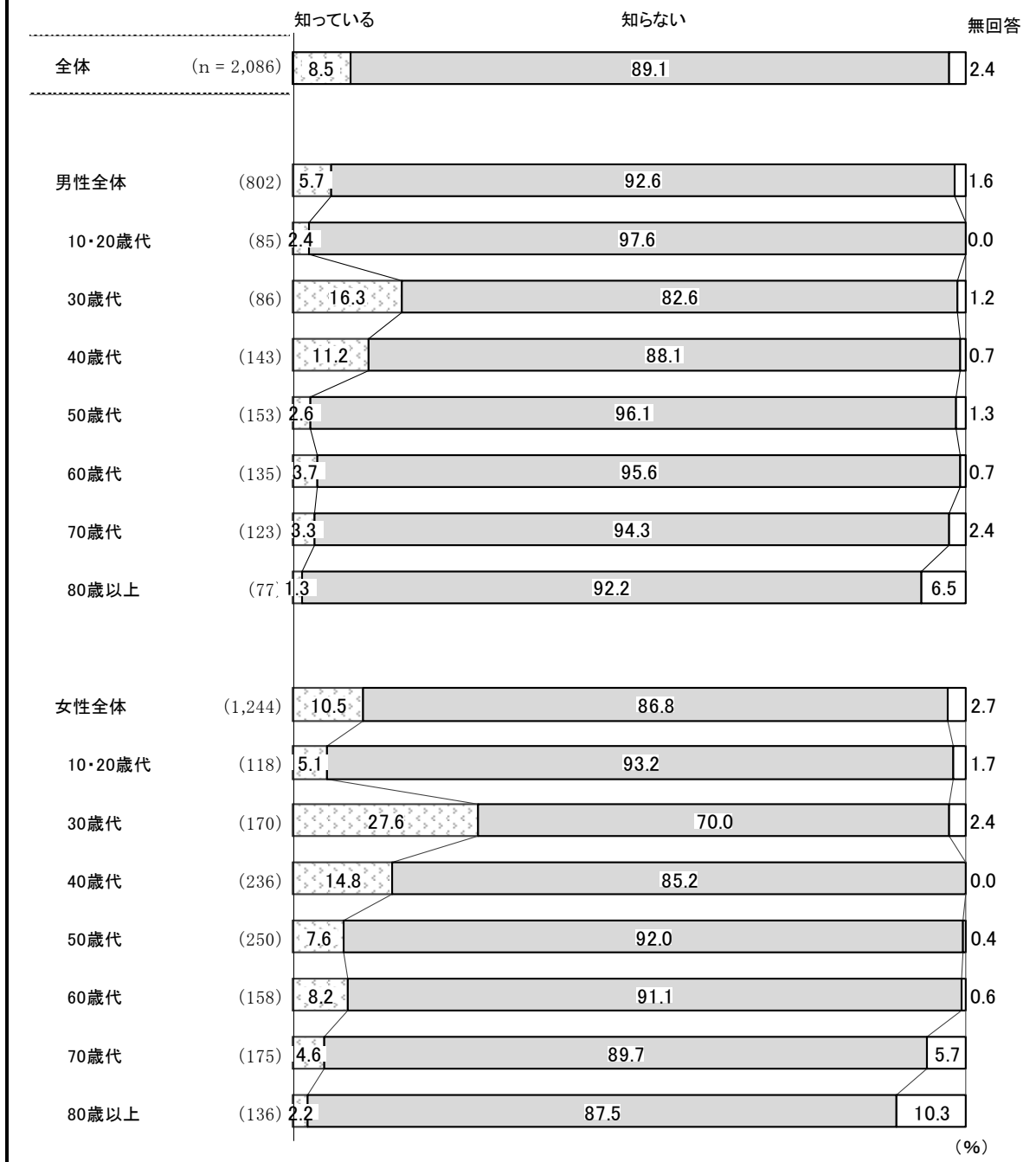
図 9 - 3 - 2 「世田谷版ネウボラ」の認知度（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 29 年度（4.6%）から令和 3 年度（8.5%）でわずかに増加している。（図 9 - 3 - 2）

図 9-3-3 「世田谷版ネウボラ」の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、「知っている」は、30歳代が男女とも他の年代に比べ高く、女性が3割近く、男性が1割半ばとなっている。その他の年代は、女性の40歳代が1割半ば、男性の40歳代が1割を超えるにとどまっている。(図9-3-3)

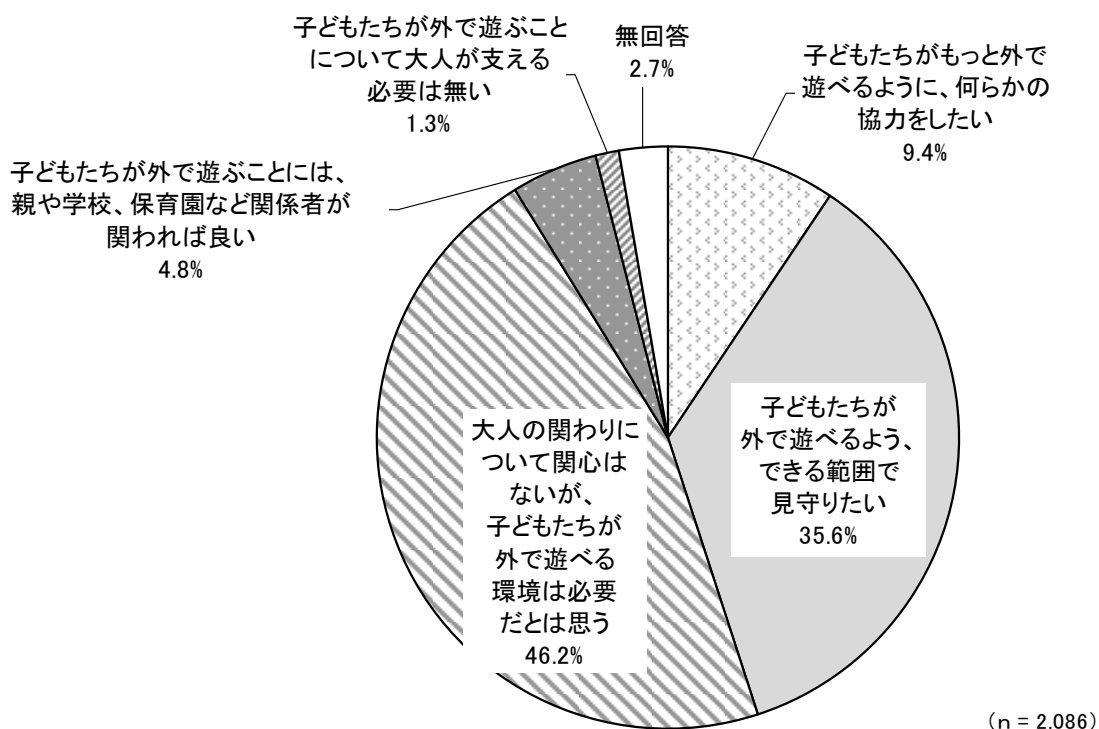


#### (4) 子どもの外遊びへの大人の関わりについて

◎「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」が4割半ば、「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」が3割半ば

問24 近所の子どもたちが外で遊ぶことへの大人の関わりについて、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

図9-4-1

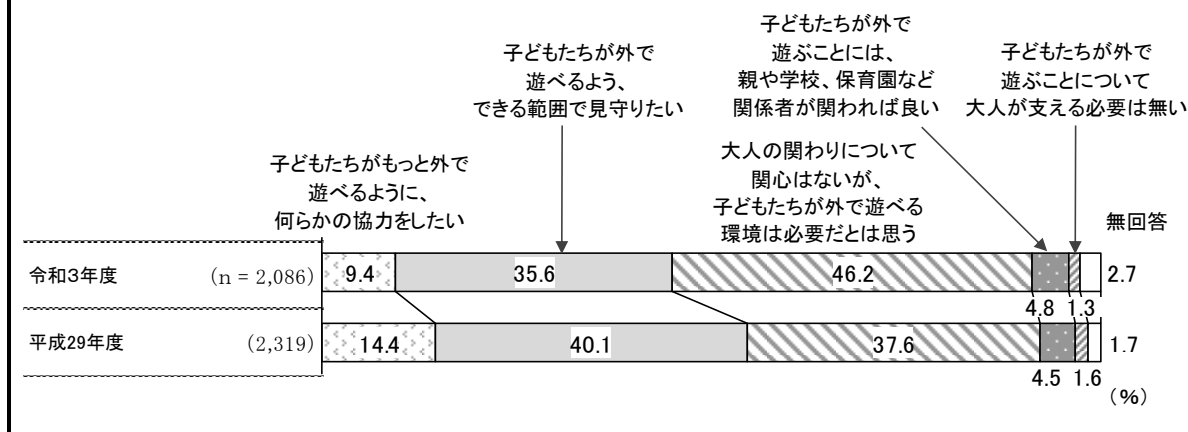


#### <調査結果>

子どもの外遊びへの大人の関わりについて聞いたところ、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」(46.2%)が4割半ば、次いで、「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」(35.6%)が3割半ばと高い。「子どもたちがもっと外で遊べるように、何らかの協力をしたい」(9.4%)はほぼ1割となっている。

(図9-4-1)

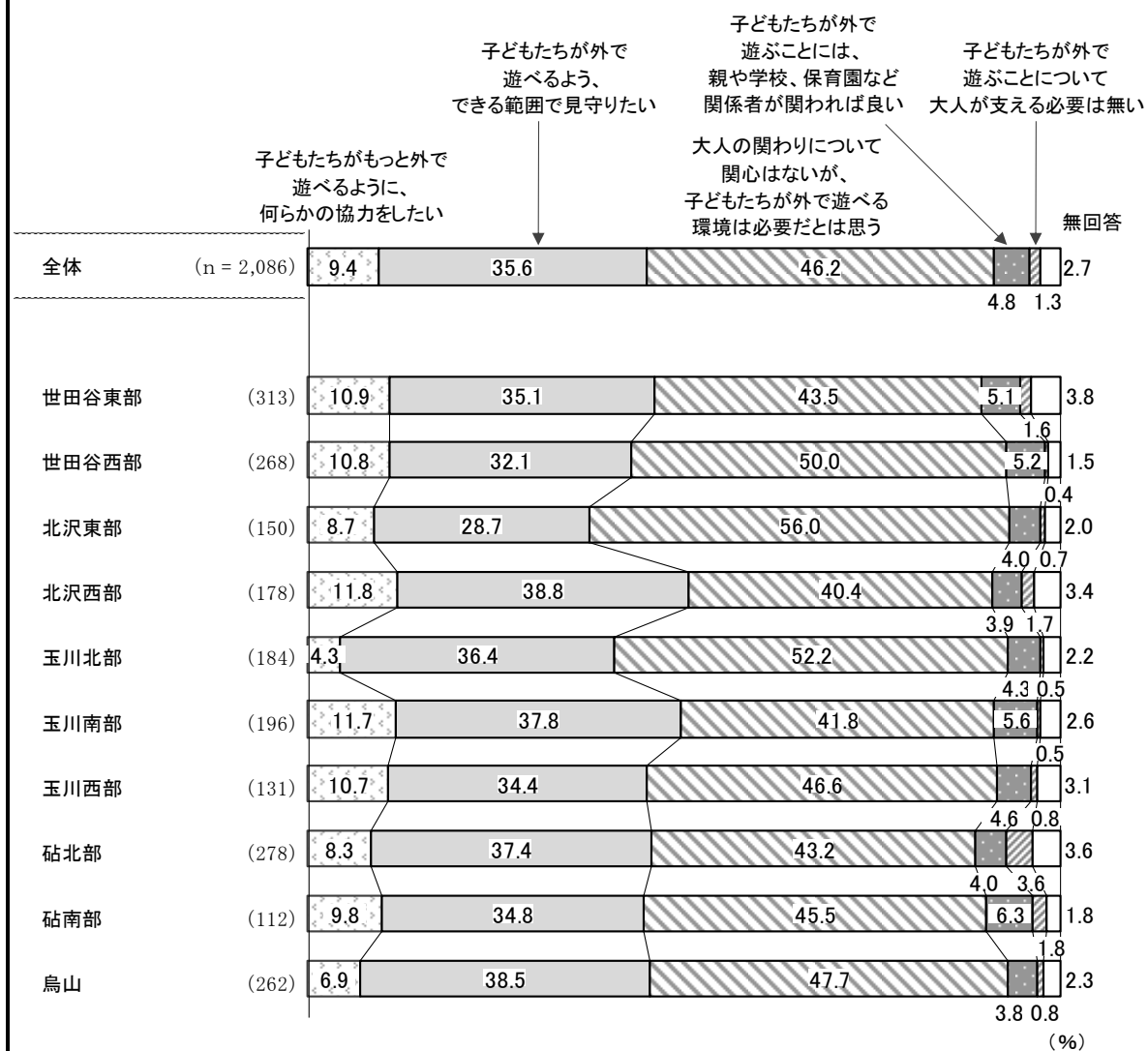
図 9-4-2 子どもの外遊びへの大人の関わりについて（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」は平成 29 年度（37.6%）から令和 3 年度（46.2%）で増加している。「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」は平成 29 年度（40.1%）から令和 3 年度（35.6%）でわずかに減少している。（図 9-4-2）

図9-4-3 子どもの外遊びへの大人の関わりについて（地域別）



<調査結果>

地域別にみると、「大人の関わりについて関心はないが、子どもたちが外で遊べる環境は必要だとは思う」は北沢東部で5割半ば、玉川北部で5割を超え、世田谷西部で5割、「子どもたちが外で遊べるよう、できる範囲で見守りたい」は北沢西部、玉川南部、砧北部、烏山で4割近くとなっている。(図9-4-3)

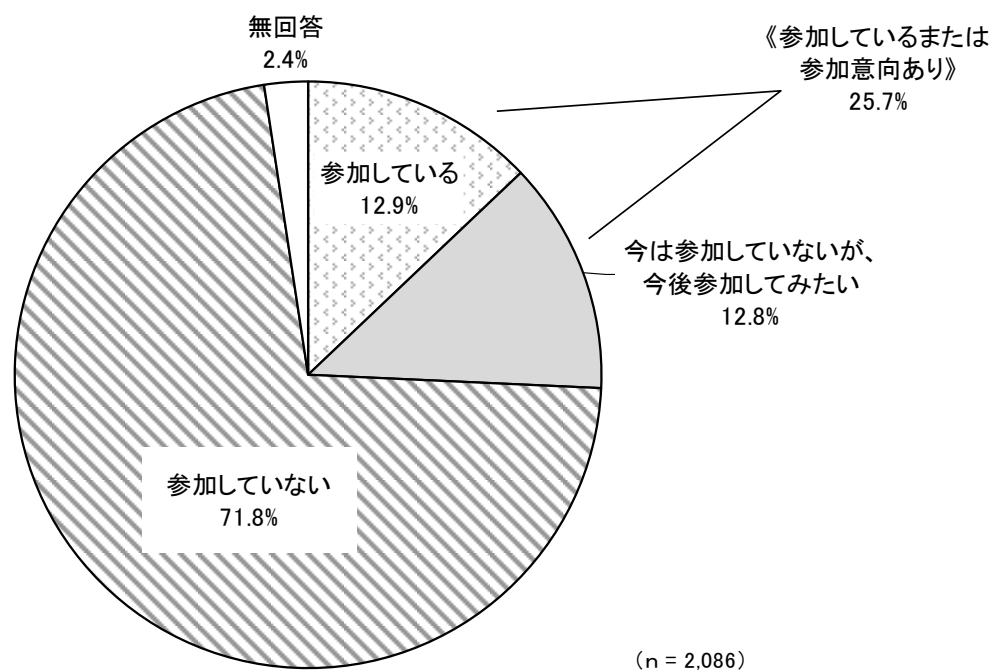
## 10. 地域コミュニティ

### (1) 地域活動への参加経験・参加意向

◎ 《参加しているまたは参加意向あり》が2割半ば

問25 あなたは、身近な地域の活動に参加していますか。(○は1つ)

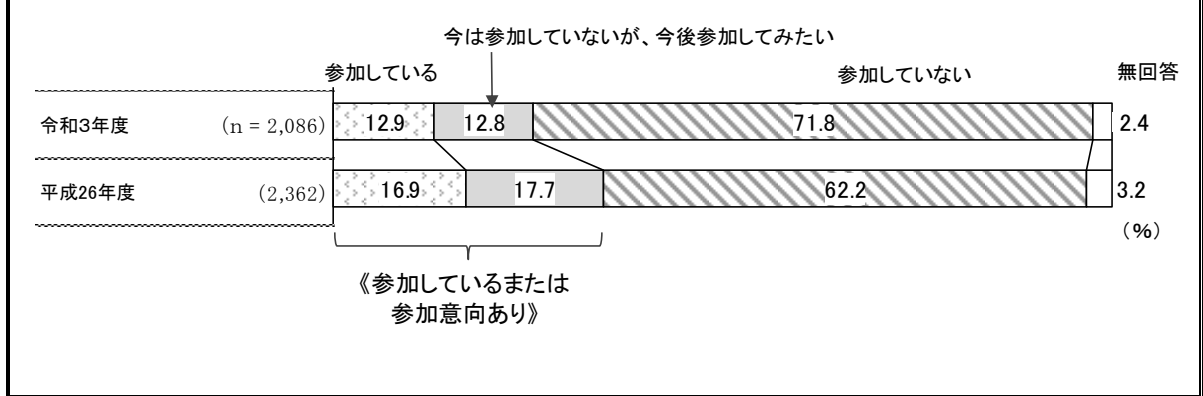
図 10-1-1



#### <調査結果>

身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(12.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(12.8%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》(25.7%)が2割半ばとなっている。「参加していない」(71.8%)は7割を超えている。(図 10-1-1)

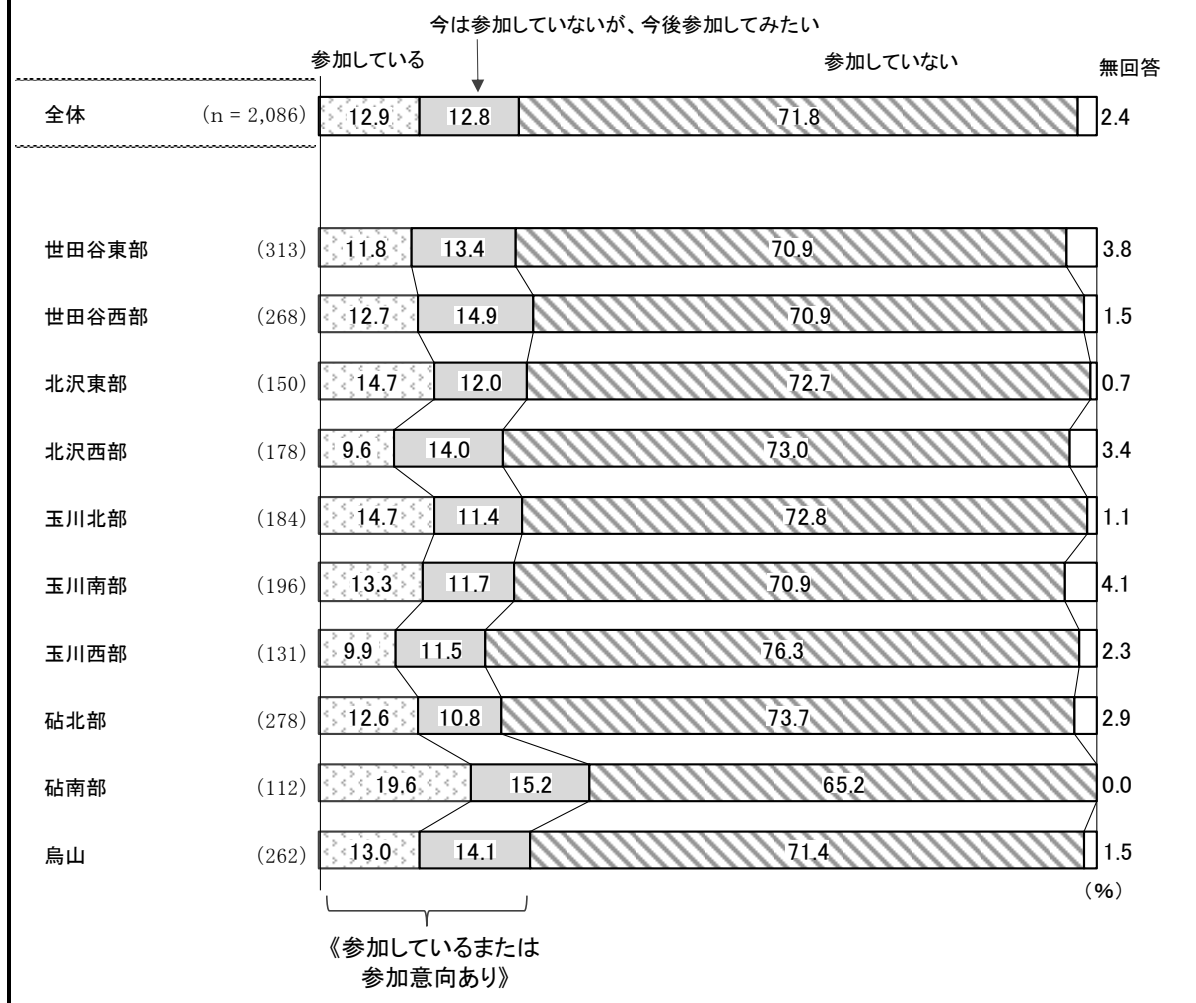
図 10-1-2 地域活動への参加経験・参加意向（時系列）



<調査結果>

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《参加しているまたは参加意向あり》は平成 26 年度（34.6%）から令和 3 年度（25.7%）で減少している。（図 10-1-2）

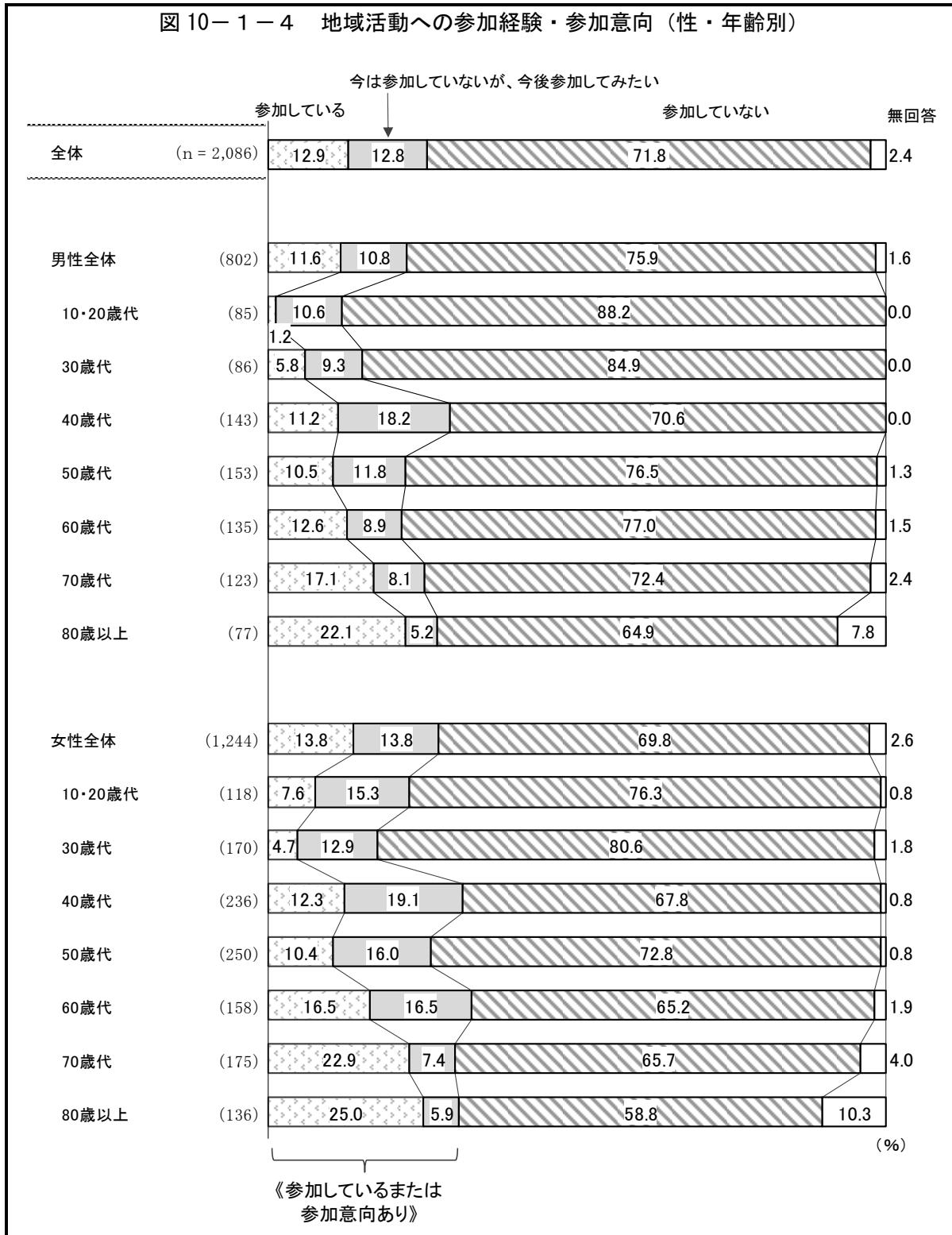
図 10-1-3 地域活動への参加経験・参加意向（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「参加している」は砧南部で2割、北沢東部と玉川北部で1割半ば、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は世田谷西部、北沢西部、砧南部、烏山で1割半ばとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は砧南部で3割半ばとなっている。(図 10-1-3)

図 10-1-4 地域活動への参加経験・参加意向（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「参加している」は女性の80歳以上で2割半ば、男性の80歳以上で2割を超え、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は、女性の40歳代でほぼ2割、男性の40歳代で2割近くとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は女性の40歳代、60歳代で3割を超え、男性の40歳代でほぼ3割となっている。

(図 10-1-4)

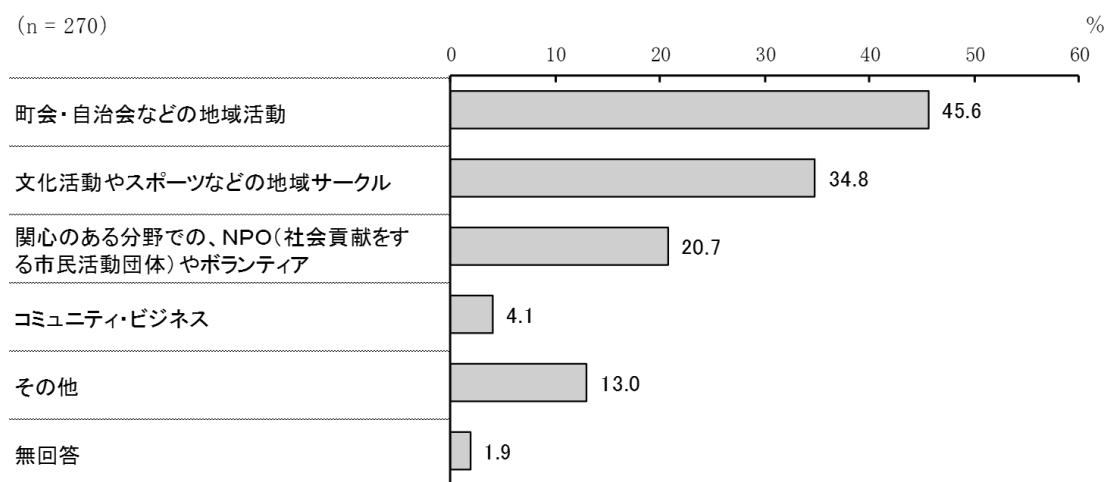
## (2) 参加している地域団体

◎「町会・自治会などの地域活動」が4割半ば、「文化活動やスポーツなどの地域サークル」が3割半ば

(問25で「参加している」と答えた方に)

問25-1 参加している地域団体等は何ですか。(〇はいくつでも)

図10-2-1



### <調査結果>

地域の活動に参加していると答えた方(270人)に、参加している地域団体等は何かを聞いたところ、「町会・自治会などの地域活動」(45.6%)が4割半ば、次いで、「文化活動やスポーツなどの地域サークル」(34.8%)が3割半ばと高い。以下、「関心のある分野でのNPOやボランティア」(20.7%)、「コミュニティ・ビジネス」(4.1%)と続いている。(図10-2-1)



表 10-2-1 参加している地域団体（時系列）

（％）

地域団体	平成 26年度	令和 3年度
	n	399
【1位】町会・自治会などの地域活動	52.1	45.6
【2位】文化活動やスポーツなどの地域サークル	39.6	34.8
【3位】関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア	20.6	20.7
【4位】コミュニティ・ビジネス（ビジネスの手法で、地域住民に公共的なサービスを提供する事業）	3.8	4.1

### 〈調査結果〉

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「町会・自治会などの地域活動」は平成 26 年度（52.1％）から令和 3 年度（45.6％）で減少している。「関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア」は平成 26 年度（20.6％）から令和 3 年度（20.7％）で大きな違いはみられない。（表 10-2-1）

表 10-2-2 参加している地域団体（性・年齢別）

区分		n	町会・自治会などの地域活動	関心のある分野での、NPO（社会貢献をする市民活動団体）やボランティア	文化活動やスポーツなどの地域サークル	コミュニティ・ビジネス	その他	無回答
全 体		270	45.6	20.7	34.8	4.1	13.0	1.9
性・年齢別	男性全体	93	44.1	18.3	33.3	3.2	12.9	2.2
	10・20 歳代	1	—	—	—	—	100.0	—
	30 歳代	5	40.0	20.0	—	20.0	20.0	—
	40 歳代	16	50.0	6.3	43.8	—	6.3	—
	50 歳代	16	37.5	31.3	31.3	—	12.5	—
	60 歳代	17	41.2	23.5	5.9	—	29.4	—
	70 歳代	21	52.4	14.3	38.1	4.8	9.5	4.8
	80 歳以上	17	41.2	17.6	58.8	5.9	—	5.9
	女性全体	172	47.1	21.5	35.5	4.7	13.4	1.7
	10・20 歳代	9	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	11.1
	30 歳代	8	50.0	12.5	—	—	37.5	—
	40 歳代	29	34.5	24.1	41.4	3.4	13.8	—
	50 歳代	26	53.8	34.6	19.2	11.5	15.4	—
	60 歳代	26	46.2	23.1	42.3	3.8	7.7	—
	70 歳代	40	50.0	20.0	40.0	5.0	17.5	—
	80 歳以上	34	58.8	8.8	41.2	—	5.9	5.9

<調査結果>

性・年齢別にみると、「町会・自治会などの地域活動」は女性が5割近く、男性が4割半ば、「文化活動やスポーツなどの地域サークル」は女性が3割半ば、男性が3割を超えている。（表 10-2-2）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

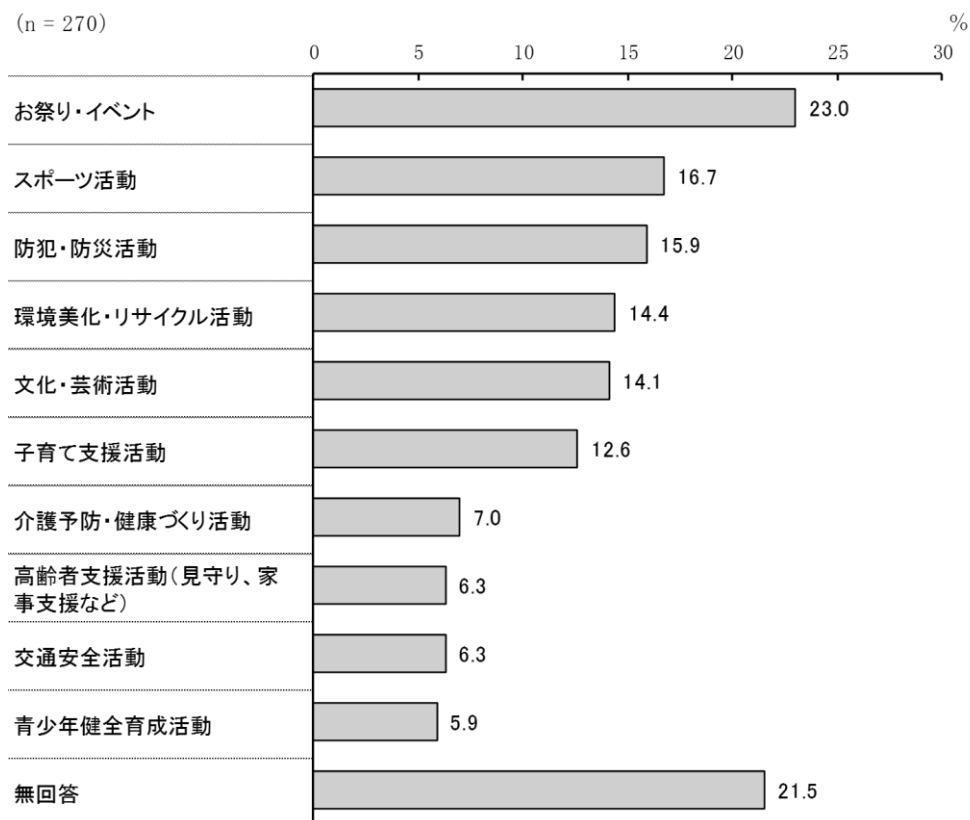
### (3) 参加している地域活動の種類

◎「お祭り・イベント」が2割を超えている

(問25で「参加している」と答えた方に)

問25-2 参加している地域活動はどんなことですか。(〇はいくつでも)

図 10-3-1



#### <調査結果>

地域の活動に参加していると答えた方(270人)に、活動の内容を聞いたところ、「お祭り・イベント」(23.0%)が2割を超えて最も高く、以下、「スポーツ活動」(16.7%)、「防犯・防災活動」(15.9%)、「環境美化・リサイクル活動」(14.4%)、「文化・芸術活動」(14.1%)など続く。(図10-3-1)

表 10-3-1 参加している地域活動の種類（時系列）

地域活動の種類	（％）	
	平成 26 年度	令和 3 年度
n	399	270
【1位】お祭り・イベント	36.3	23.0
【2位】スポーツ活動	24.1	16.7
【3位】防犯・防災活動	24.6	15.9
【4位】環境美化・リサイクル活動	16.0	14.4
【5位】文化・芸術活動	18.5	14.1
【6位】子育て支援活動	15.8	12.6
【7位】介護予防・健康づくり活動	10.8	7.0
【8位】高齢者支援活動（見守り、家事支援など）	7.0	6.3
【9位】交通安全活動	10.5	6.3
【10位】青少年健全育成活動	6.8	5.9

<調査結果>

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「お祭り・イベント」は平成 26 年度（36.3％）から令和 3 年度（23.0％）で減少している。（表 10-3-1）

表 10-3-2 参加している地域活動の種類（性・年齢別）

		(%)											
区分	有効回答数 (件)	子育て支援活動	青少年健全育成活動	高齢者支援活動(見守り、家事支援など)	お祭り・イベント	防犯・防災活動	介護予防・健康づくり活動	スポーツ活動	文化・芸術活動	環境美化・リサイクル活動	交通安全活動	無回答	
全体	270	12.6	5.9	6.3	23.0	15.9	7.0	16.7	14.1	14.4	6.3	21.5	
性・年齢別	男性全体	93	7.5	5.4	5.4	29.0	22.6	2.2	15.1	15.1	14.0	9.7	23.7
	10・20 歳代	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0
	30 歳代	5	40.0	—	20.0	40.0	20.0	—	—	20.0	—	—	—
	40 歳代	16	18.8	12.5	—	43.8	18.8	—	31.3	6.3	12.5	6.3	—
	50 歳代	16	—	—	—	31.3	25.0	—	18.8	—	18.8	6.3	25.0
	60 歳代	17	—	5.9	—	5.9	17.6	—	11.8	17.6	11.8	5.9	41.2
	70 歳代	21	9.5	9.5	9.5	33.3	33.3	4.8	14.3	19.0	19.0	23.8	23.8
	80 歳以上	17	—	—	11.8	29.4	17.6	5.9	5.9	29.4	11.8	5.9	29.4
	女性全体	172	15.7	5.8	6.4	19.2	12.8	9.9	16.9	14.0	15.1	4.7	20.9
	10・20 歳代	9	11.1	22.2	—	22.2	11.1	—	—	33.3	11.1	—	11.1
	30 歳代	8	75.0	—	—	—	—	—	—	—	12.5	—	25.0
	40 歳代	29	17.2	3.4	3.4	27.6	13.8	3.4	27.6	13.8	6.9	13.8	20.7
	50 歳代	26	30.8	—	7.7	19.2	11.5	7.7	11.5	7.7	26.9	—	23.1
	60 歳代	26	11.5	15.4	7.7	23.1	11.5	—	19.2	15.4	7.7	—	19.2
	70 歳代	40	5.0	5.0	5.0	22.5	20.0	12.5	17.5	7.5	20.0	5.0	22.5
	80 歳以上	34	5.9	2.9	11.8	8.8	8.8	26.5	17.6	23.5	14.7	5.9	20.6

<調査結果>

性・年齢別にみると、「お祭り・イベント」が男女とも最も高く、男性がほぼ3割、女性がほぼ2割となっている。「防犯・防災活動」で男性が2割超、女性が1割超で、男性の方が高いが、「子育て支援活動」は男性が1割近く、女性が1割半ばで女性の方が高い。

(表 10-3-2)

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

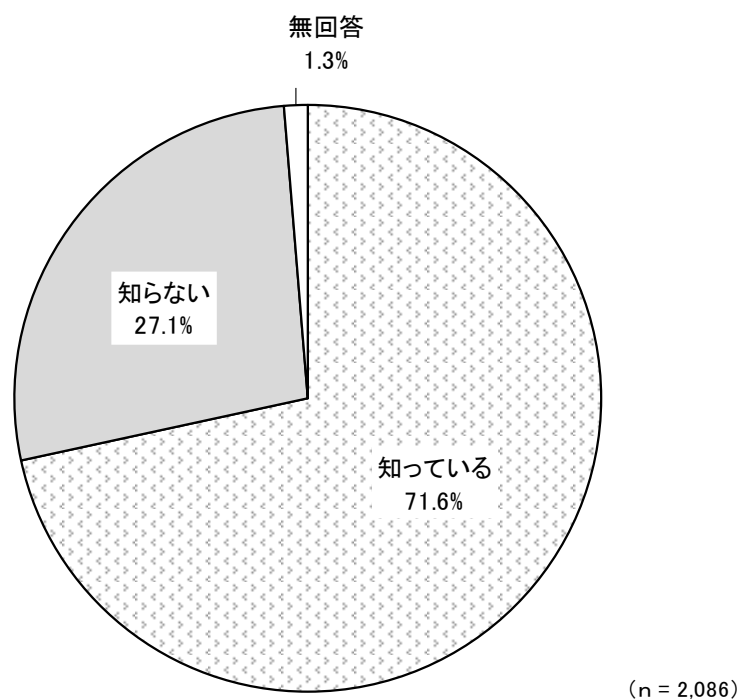
## 11. 公共施設

### (1) 地区会館や区民集会所の認知度

◎「知っている」が7割を超えている

問26 あなたは、身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所を知っていますか。  
(○は1つ)

図 11-1-1

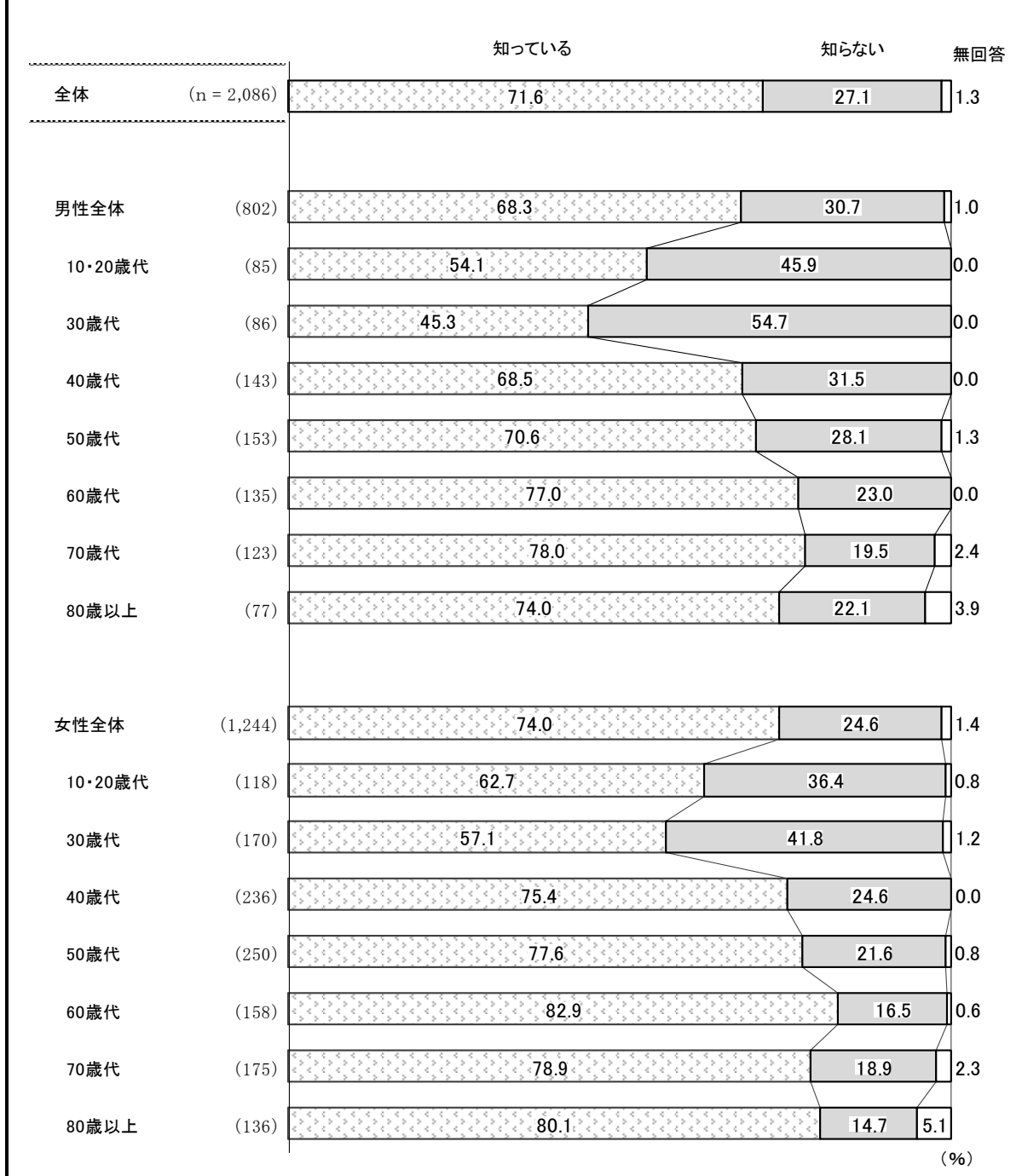


#### <調査結果>

身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所の認知度を聞いたところ、「知っている」(71.6%)が7割を超えている。「知らない」(27.1%)は3割近くとなっている。

(図 11-1-1)

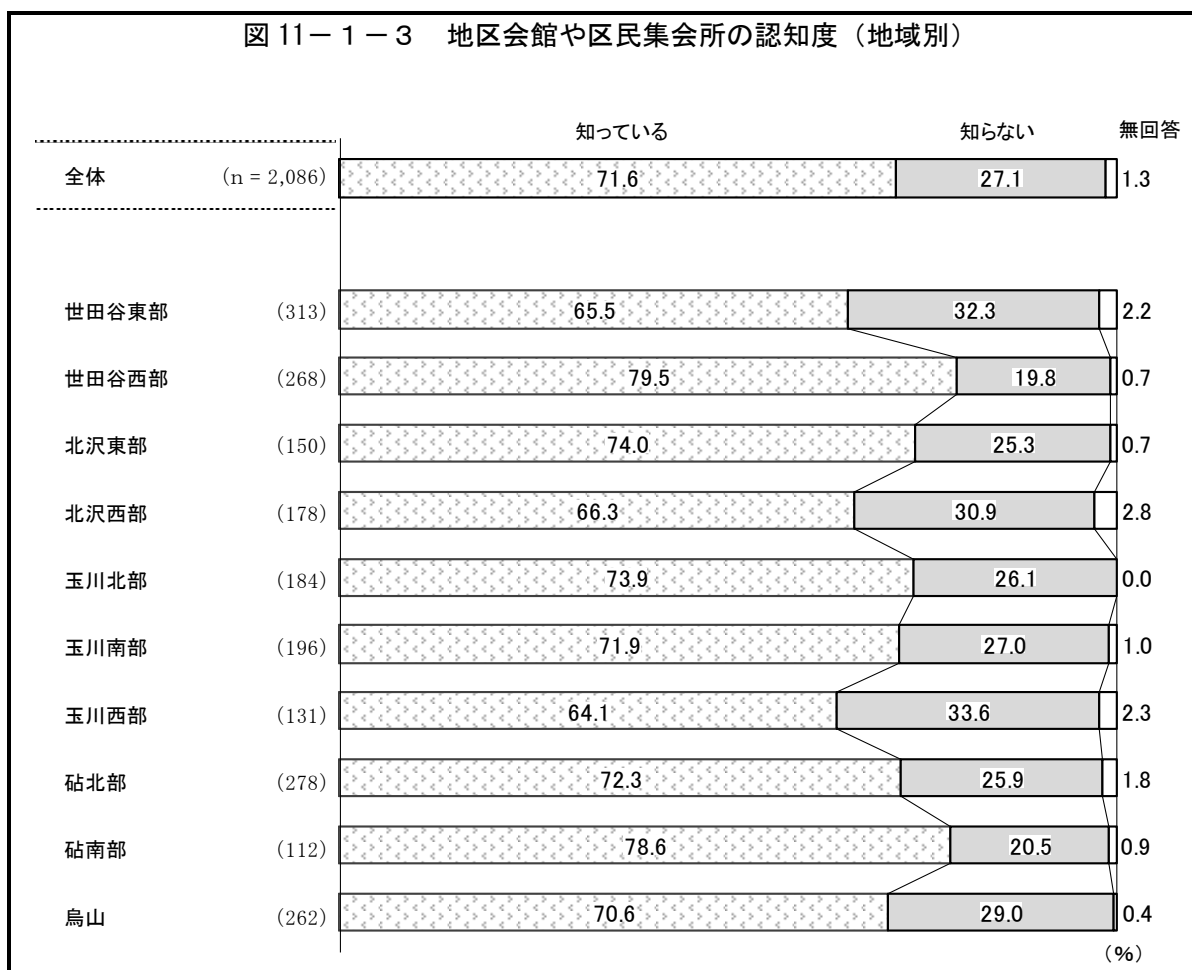
図 11-1-2 地区会館や区民集会所の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、「知らない」は男性の30歳代で5割半ば、女性の30歳代で4割を超えている。(図 11-1-2)

図 11-1-3 地区会館や区民集会所の認知度（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「知らない」は世田谷東部、玉川西部で3割を超えている。

(図 11-1-3)

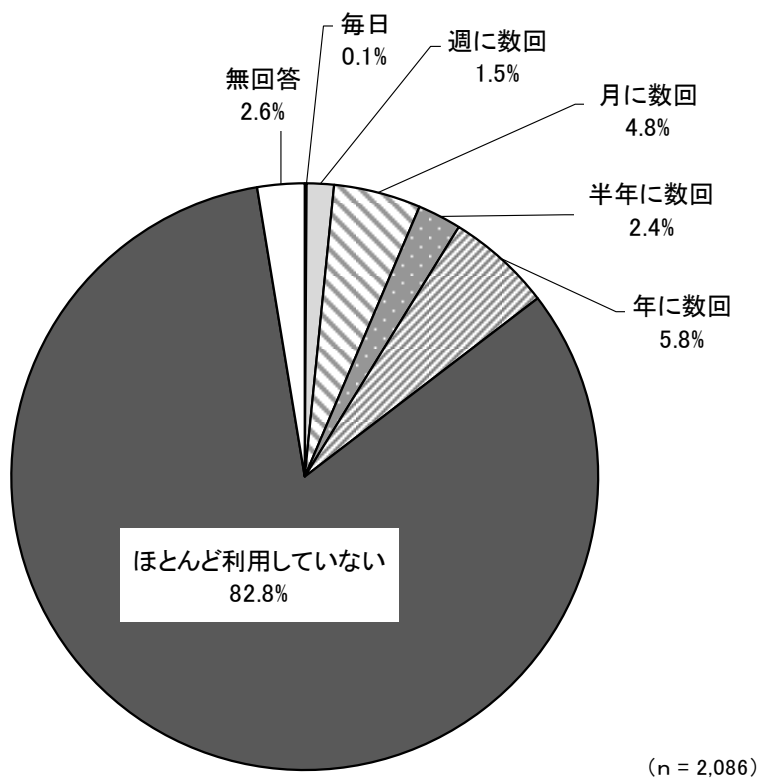


## (2) 地区会館や区民集会所の利用頻度

◎「ほとんど利用していない」が8割を超えている

問27 あなたは、身近な区民集会施設である地区会館や区民集会所をどの程度利用しますか。(○は1つ)

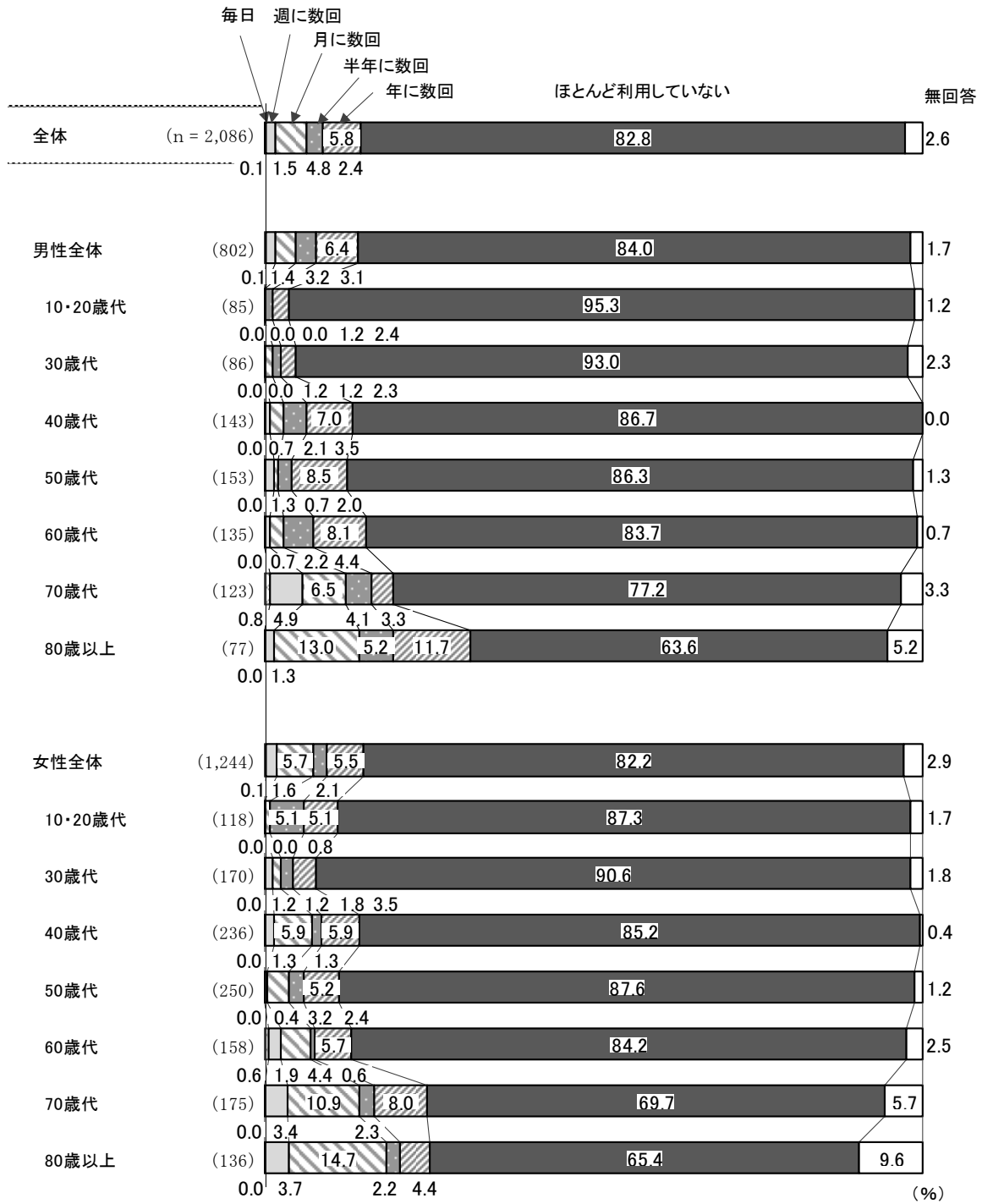
図 11-2-1



### <調査結果>

地区会館や区民集会所の利用頻度を聞いたところ、「ほとんど利用していない」(82.8%)が8割を超えている。(図 11-2-1)

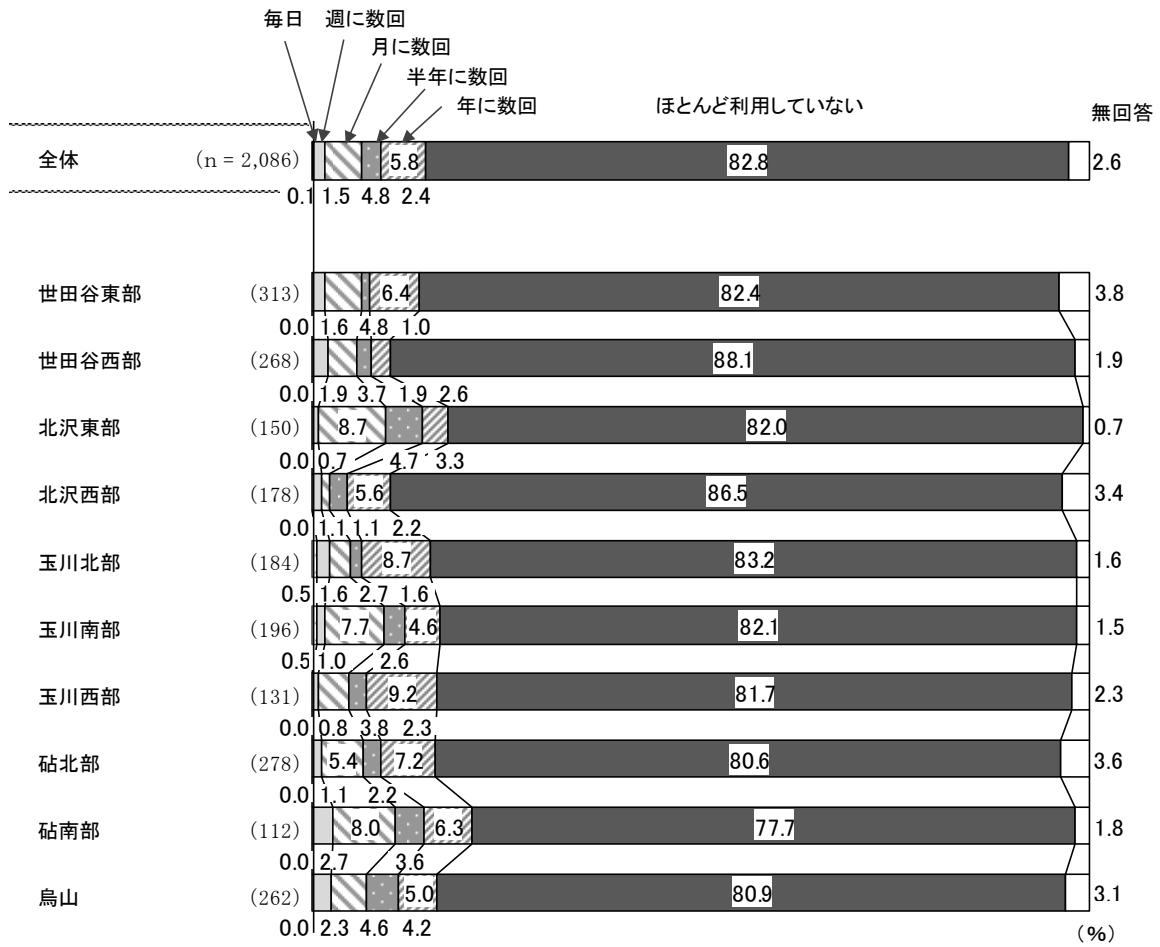
図 11-2-2 地区会館や区民集会所の利用頻度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、「ほとんど利用していない」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の10・20歳代が9割半ば、女性の30歳代でほぼ9割となっている。(図 11-2-2)

図 11-2-3 地区会館や区民集会所の利用頻度（地域別）



〈調査結果〉

地域別でみると、「ほとんど利用していない」はいずれの地域でも最も高く、世田谷西部、北沢西部が9割近くとなっている。(図 11-2-3)

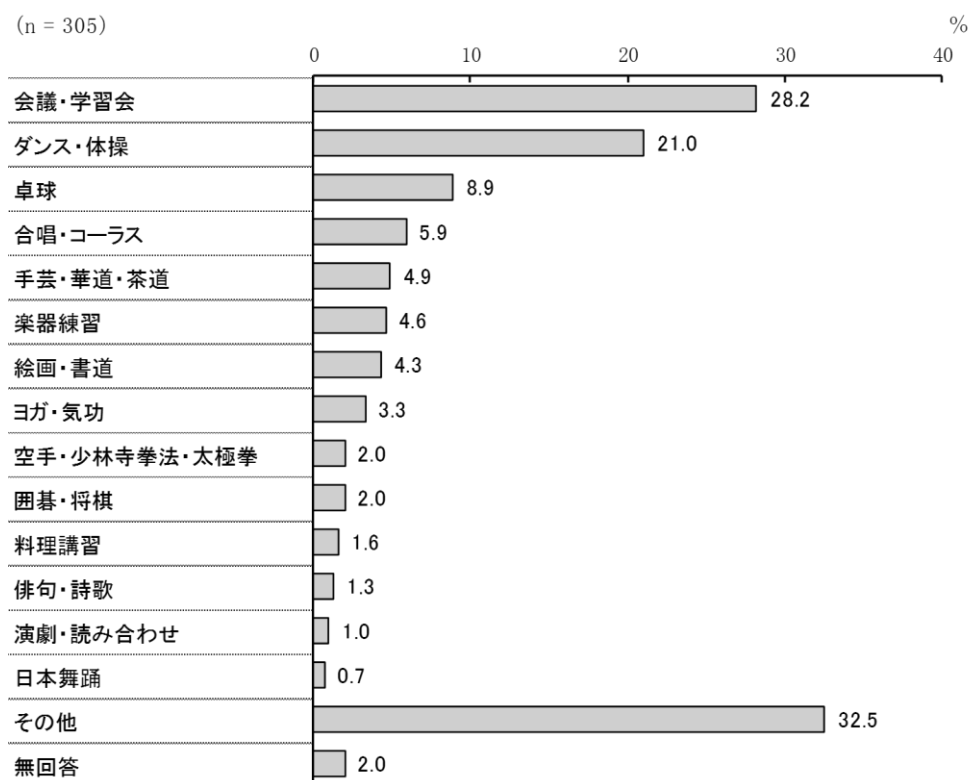
### (3) 区民集会所の利用目的

◎「会議・学習会」が3割近く、「ダンス・体操」が2割を超えている

(問27で「毎日」から「年に数回」と答えた方に)

問27-1 身近な区民集会所では地域のコミュニティの形成のため様々なことに利用できますが、どのような目的で利用していますか。以下の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図 11-3-1



#### <調査結果>

区民集会所を「毎日」～「年に数回」利用していると答えた方(305人)に利用目的を聞いたところ、「会議・学習会」(28.2%)が3割近くと最も高く、次いで「ダンス・体操」(21.0%)が2割を超えている。(図11-3-1)

表 11-3-1 区民集会所の利用目的（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	305	会議・学習会 28.2	ダンス・体操 21.0	卓球 8.9	合唱・コーラス 5.9	手芸・華道・茶道 4.9	楽器練習 4.6	絵画・書道 4.3	ヨガ・気功 3.3	空手・少林寺拳法・太極拳 2.0	囲碁・将棋 2.0
男性全体	114	会議・学習会 39.5	ダンス・体操 8.8	卓球 7.9	囲碁・将棋 5.3	楽器練習 4.4	空手・少林寺拳法・太極拳 3.5	ヨガ・気功 2.6	絵画・書道 2.6	合唱・コーラス 2.6	手芸・華道・茶道 1.8
10・20歳代	3	卓球 33.3	会議・学習会 33.3	—	—	—	—	—	—	—	—
30歳代	4	卓球 25.0	会議・学習会 25.0	絵画・書道 25.0	楽器練習 25.0	—	—	—	—	—	—
40歳代	19	会議・学習会 36.8	卓球 21.1	ダンス・体操 15.8	空手・少林寺拳法・太極拳 5.3	料理講習 5.3	—	—	—	—	—
50歳代	19	会議・学習会 47.4	演劇・読み合わせ 5.3	—	—	—	—	—	—	—	—
60歳代	21	会議・学習会 47.6	ダンス・体操 9.5	卓球 4.8	合唱・コーラス 4.8	—	—	—	—	—	—
70歳代	24	会議・学習会 41.7	ヨガ・気功 8.3	空手・少林寺拳法・太極拳 8.3	卓球 8.3	囲碁・将棋 8.3	ダンス・体操 4.2	絵画・書道 4.2	料理講習 4.2	楽器練習 4.2	—
80歳以上	24	会議・学習会 29.2	ダンス・体操 16.7	囲碁・将棋 16.7	楽器練習 12.5	手芸・華道・茶道 8.3	合唱・コーラス 8.3	ヨガ・気功 4.2	空手・少林寺拳法・太極拳 4.2	俳句・詩歌 4.2	絵画・書道 4.2
女性全体	186	ダンス・体操 29.0	会議・学習会 21.5	卓球 9.1	合唱・コーラス 8.1	手芸・華道・茶道 6.5	絵画・書道 5.4	楽器練習 4.8	ヨガ・気功 3.2	俳句・詩歌 1.6	料理講習 1.6
10・20歳代	13	ダンス・体操 23.1	会議・学習会 23.1	卓球 15.4	楽器練習 15.4	—	—	—	—	—	—
30歳代	13	ダンス・体操 38.5	会議・学習会 15.4	空手・少林寺拳法・太極拳 7.7	俳句・詩歌 7.7	合唱・コーラス 7.7	楽器練習 7.7	演劇・読み合わせ 7.7	—	—	—
40歳代	34	ダンス・体操 32.4	会議・学習会 17.6	ヨガ・気功 8.8	卓球 2.9	手芸・華道・茶道 2.9	合唱・コーラス 2.9	楽器練習 2.9	演劇・読み合わせ 2.9	—	—
50歳代	28	会議・学習会 35.7	ダンス・体操 25.0	卓球 14.3	楽器練習 10.7	絵画・書道 3.6	料理講習 3.6	合唱・コーラス 3.6	—	—	—
60歳代	21	会議・学習会 38.1	卓球 23.8	ダンス・体操 19.0	ヨガ・気功 9.5	絵画・書道 9.5	合唱・コーラス 9.5	楽器練習 4.8	—	—	—
70歳代	43	ダンス・体操 32.6	会議・学習会 18.6	手芸・華道・茶道 14.0	絵画・書道 9.3	合唱・コーラス 9.3	料理講習 4.7	ヨガ・気功 2.3	空手・少林寺拳法・太極拳 2.3	卓球 2.3	日本舞踊 2.3
80歳以上	34	ダンス・体操 29.4	合唱・コーラス 17.6	手芸・華道・茶道 14.7	卓球 11.8	会議・学習会 8.8	絵画・書道 8.8	俳句・詩歌 5.9	日本舞踊 2.9	—	—

<調査結果>

性・年齢別で見ると、「会議・学習会」は男性で4割、女性で2割を超えている。「ダンス・体操」は女性でほぼ3割となっている。（表 11-3-1）

なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

表 11-3-2 区民集会所の利用目的（地域別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	305	会議・学習会 28.2	ダンス・体操 21.0	卓球 8.9	合唱・コーラス 5.9	手芸・華道・茶道 4.9	楽器練習 4.6	絵画・書道 4.3	ヨガ・気功 3.3	空手・少林寺拳法・太極拳 2.0	囲碁・将棋 2.0
世田谷東部	43	会議・学習会 32.6	ダンス・体操 23.3	手芸・華道・茶道 9.3	ヨガ・気功／絵画・書道 7.0		合唱・コーラス／楽器練習 4.7		—	—	—
世田谷西部	27	会議・学習会 29.6	ダンス・体操 14.8	合唱・コーラス 11.1	手芸・華道・茶道／絵画・書道／楽器練習／卓球／囲碁・将棋					料理講習／日本舞踊 3.7	
北沢東部	26	会議・学習会 26.9	ダンス・体操 19.2	卓球 15.4	手芸・華道・茶道 11.5	合唱・コーラス／絵画・書道 7.7		空手・少林寺拳法・太極拳／俳句・詩歌 3.8			—
北沢西部	18	会議・学習会 50.0	ダンス・体操 16.7	—	—	—	—	—	—	—	—
玉川北部	28	会議・学習会／ダンス・体操 32.1		卓球 10.7	ヨガ・気功 7.1	手芸・華道・茶道／合唱・コーラス／空手・少林寺拳法・太極拳／楽器練習 3.6			—	—	
玉川南部	32	ダンス・体操／卓球 21.9		合唱・コーラス 12.5	会議・学習会 9.4	絵画・書道／囲碁・将棋 3.1		—	—	—	—
玉川西部	21	会議・学習会 38.1	ダンス・体操 14.3	手芸・華道・茶道 9.5	絵画・書道／空手・少林寺拳法・太極拳／料理講習 4.8			—	—	—	—
砧北部	44	会議・学習会 25.0	合唱・コーラス／楽器練習 13.6		ダンス・体操 9.1	絵画・書道／卓球 6.8		ヨガ・気功／俳句・詩歌 4.5		手芸・華道・茶道／空手・少林寺拳法・太極拳 2.3	
砧南部	23	ダンス・体操 39.1	会議・学習会 34.8	卓球 講習	空手・少林寺拳法・太極拳／料理講習 8.7		楽器練習／絵画・書道／ヨガ・気功／手芸・華道・茶道／演劇・読み合わせ		—	4.3	
烏山	42	ダンス・体操 23.8	会議・学習会 19.0	卓球 14.3	楽器練習／ヨガ・気功／囲碁・将棋 4.8			料理講習／手芸・華道・茶道／俳句・詩歌 2.4		—	—

<調査結果>

地域別でみると、「ダンス・体操」は、世田谷東部、烏山、玉川南部で2割を超えている。

(表 11-3-2)

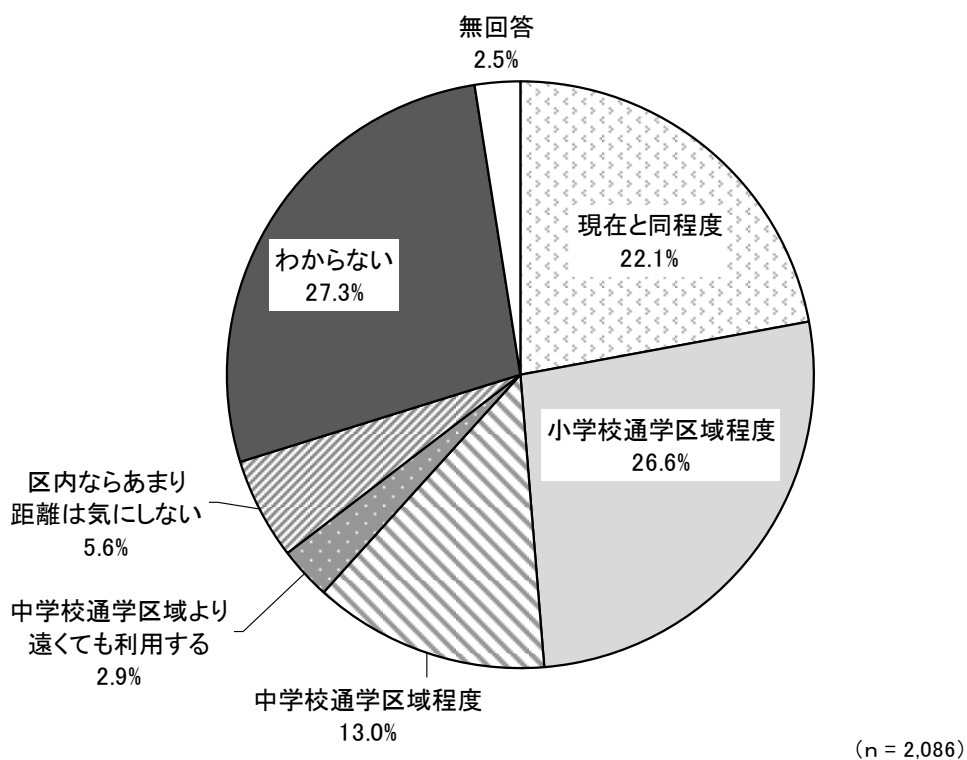
なお、基数が30に満たない層については参考値とする。

#### (4) 体を動かすために利用したいと思う距離

◎「小学校通学区域程度」が2割半ば、「現在と同程度」が2割を超えている

問28 あなたが、ダンス、ヨガ、空手、卓球など体を動かす目的に利用する場合ほどの程度の距離なら利用しようと思いますか。(〇は1つ)

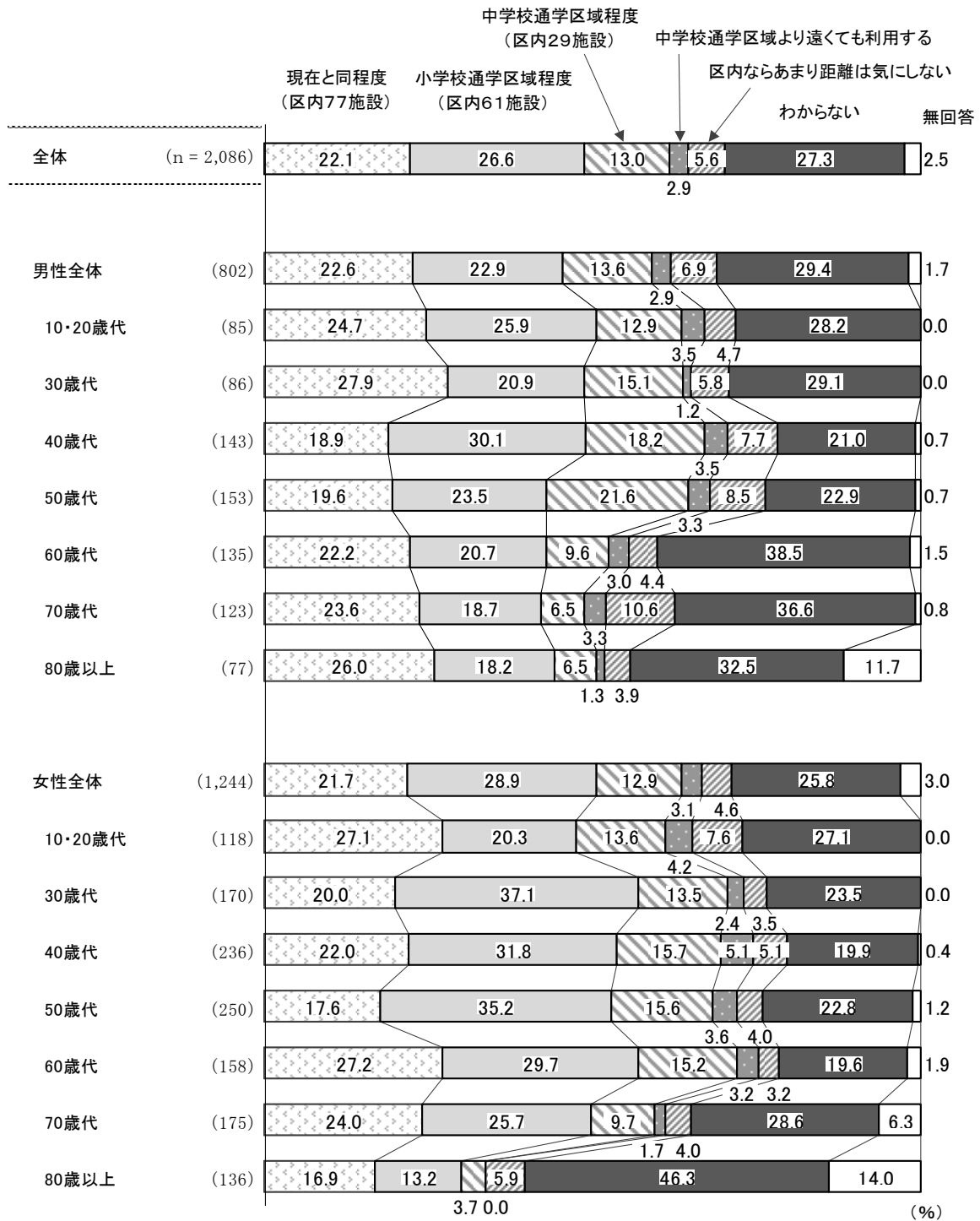
図 11-4-1



#### <調査結果>

体を動かす目的に利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」(26.6%)が2割半ばと最も高く、続いて「現在と同程度」(22.1%)が2割を超えている。(図 11-4-1)

図 11-4-2 体を動かすために利用したいと思う距離（性・年齢別）

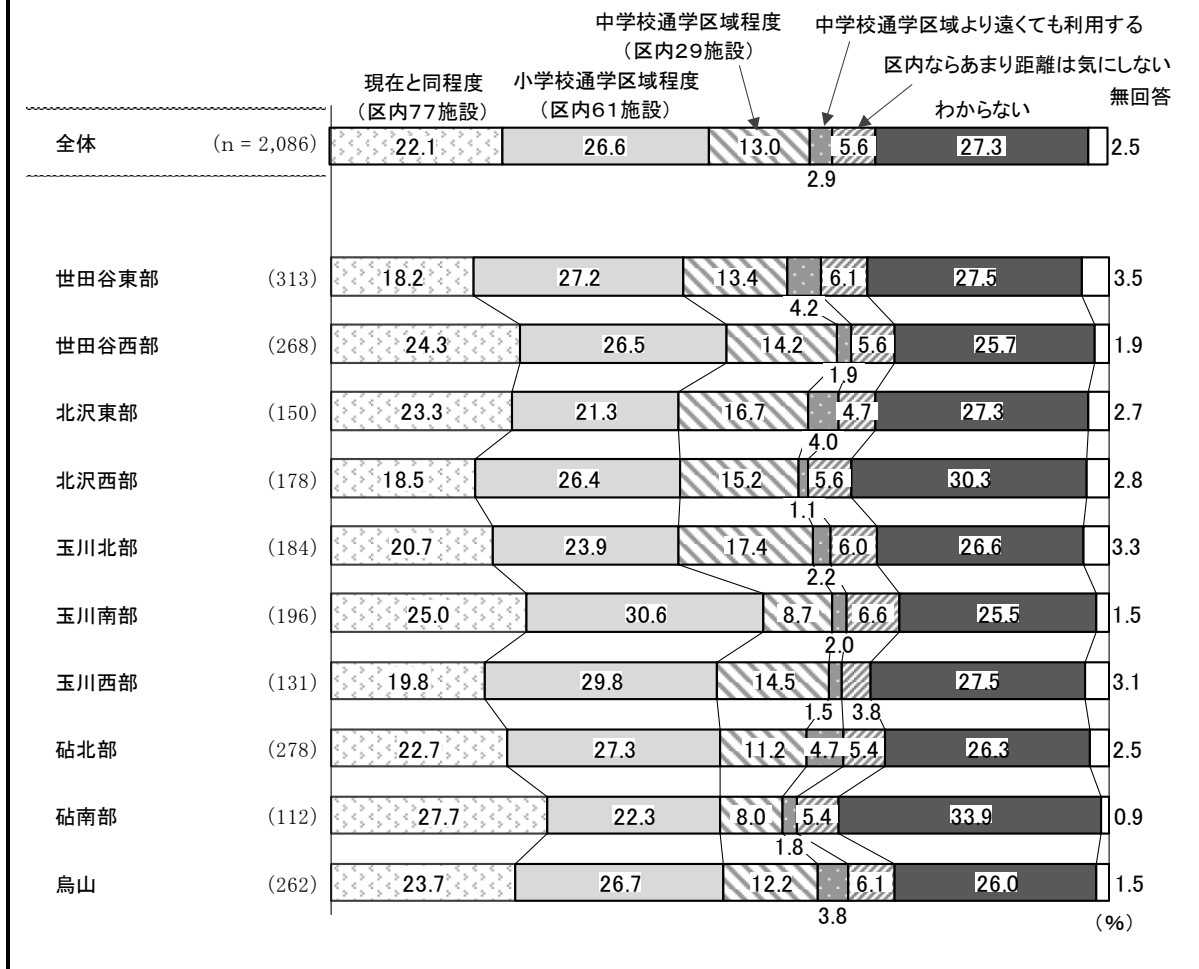


<調査結果>

性・年齢別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は男性の30歳代で3割近く、女性の10・20歳代、60歳代で3割近く、「小学校通学区域程度（区内61施設）」は、女性の30歳代で4割近く、男性の40歳代でほぼ3割となっている。（図11-4-2）



図 11-4-3 体を動かすために利用したいと思う距離（地域別）



〈調査結果〉

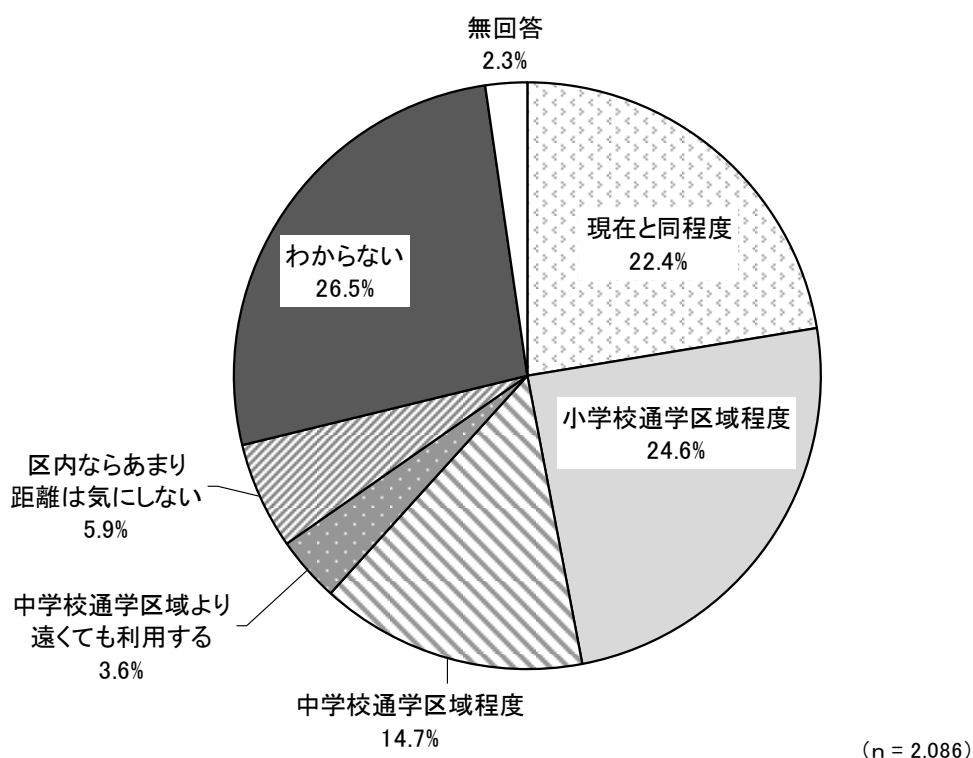
地域別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は、砧南部が3割近く、世田谷西部、玉川南部が2割半ばとなっている。「小学校通学区域程度（区内61施設）」は、玉川南部がほぼ3割、玉川西部が3割、世田谷東部、砧北部が3割近くとなっている。（図 11-4-3）

## (5) 会議・学習会のために利用したいと思う距離

◎「小学校通学区域程度」が2割半ば、「現在と同程度」が2割を超えている

問29 あなたが、会議・学習会に利用する場合ほどの程度の距離なら利用しようと思いませんか。(○は1つ)

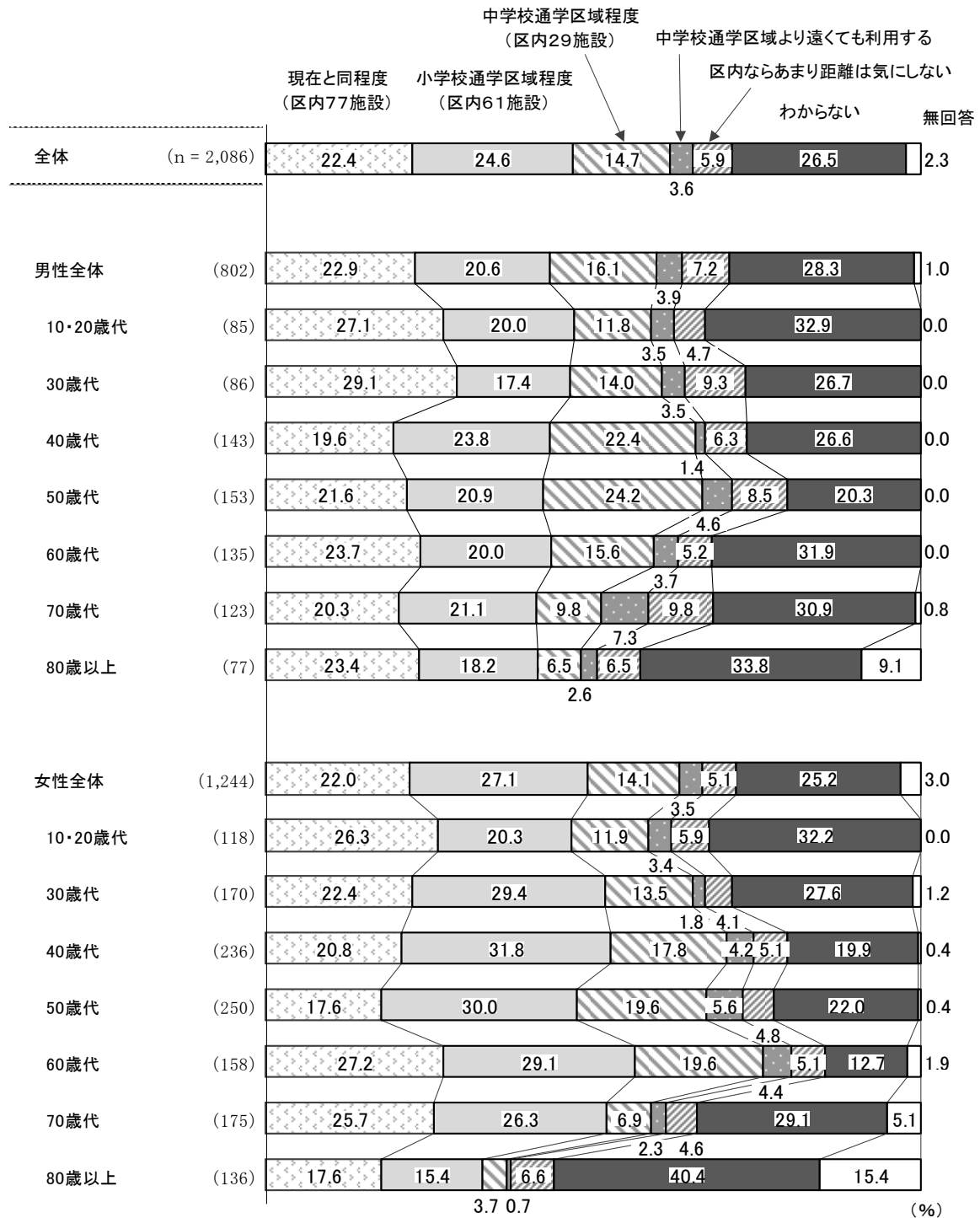
図 11-5-1



### <調査結果>

会議・学習会のために利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」(24.6%)が2割半ばと最も高く、続いて「現在と同程度」(22.4%)が2割を超えている。(図 11-5-1)

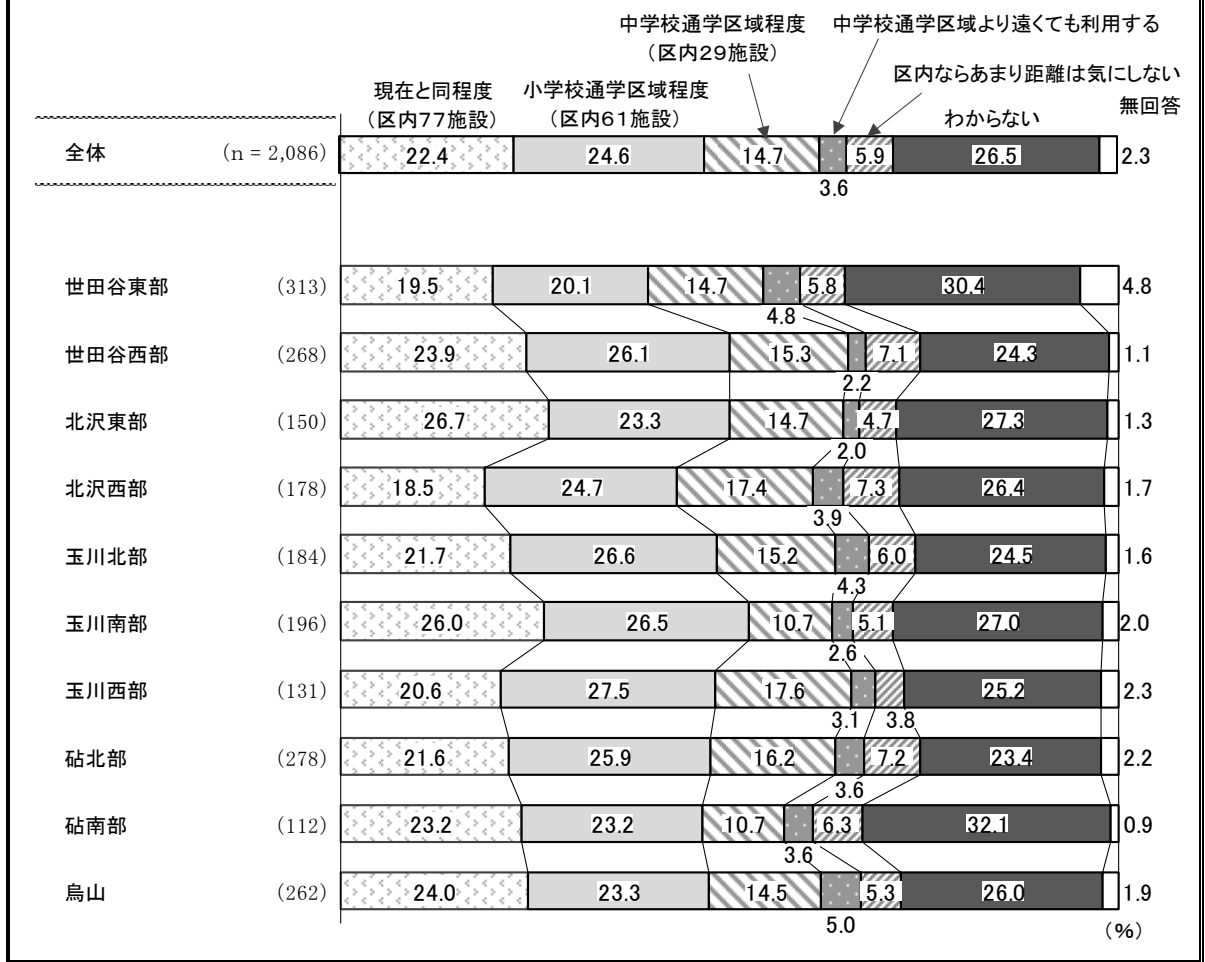
図 11-5-2 会議・学習会のために利用したいと思う距離（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は男性の30歳代でほぼ3割、女性の60歳代で3割近く、「小学校通学区域程度（区内61施設）」は、女性の40歳代で3割を超え、男性の40歳代、70歳代で2割を超えている。（図11-5-2）

図 11-5-3 会議・学習会のために利用したいと思う距離（地域別）



〈調査結果〉

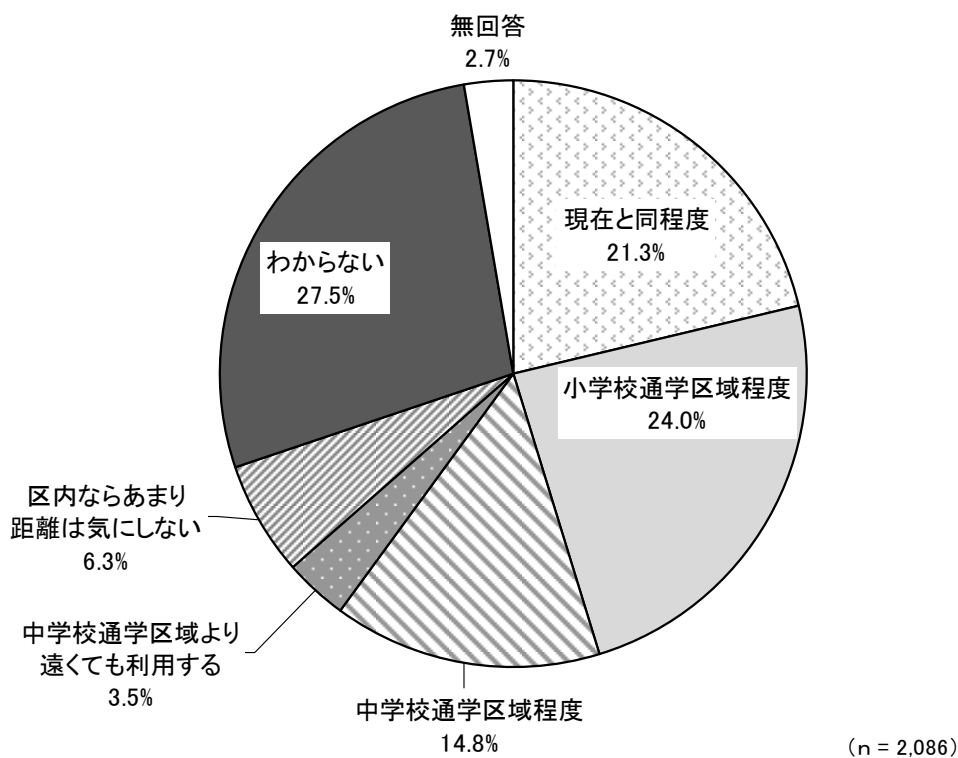
地域別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は北沢東部が3割近く、玉川南部、烏山が2割半ばとなっている。（図 11-5-3）

## (6) 芸術活動のために利用したいと思う距離

◎「小学校通学区域程度」が2割半ば、「現在と同程度」が2割を超えている

問30 あなたが、俳句、手芸、絵画、合唱、楽器練習など芸術活動に利用する場合ほどの程度の距離なら利用しようと思いますか。(○は1つ)

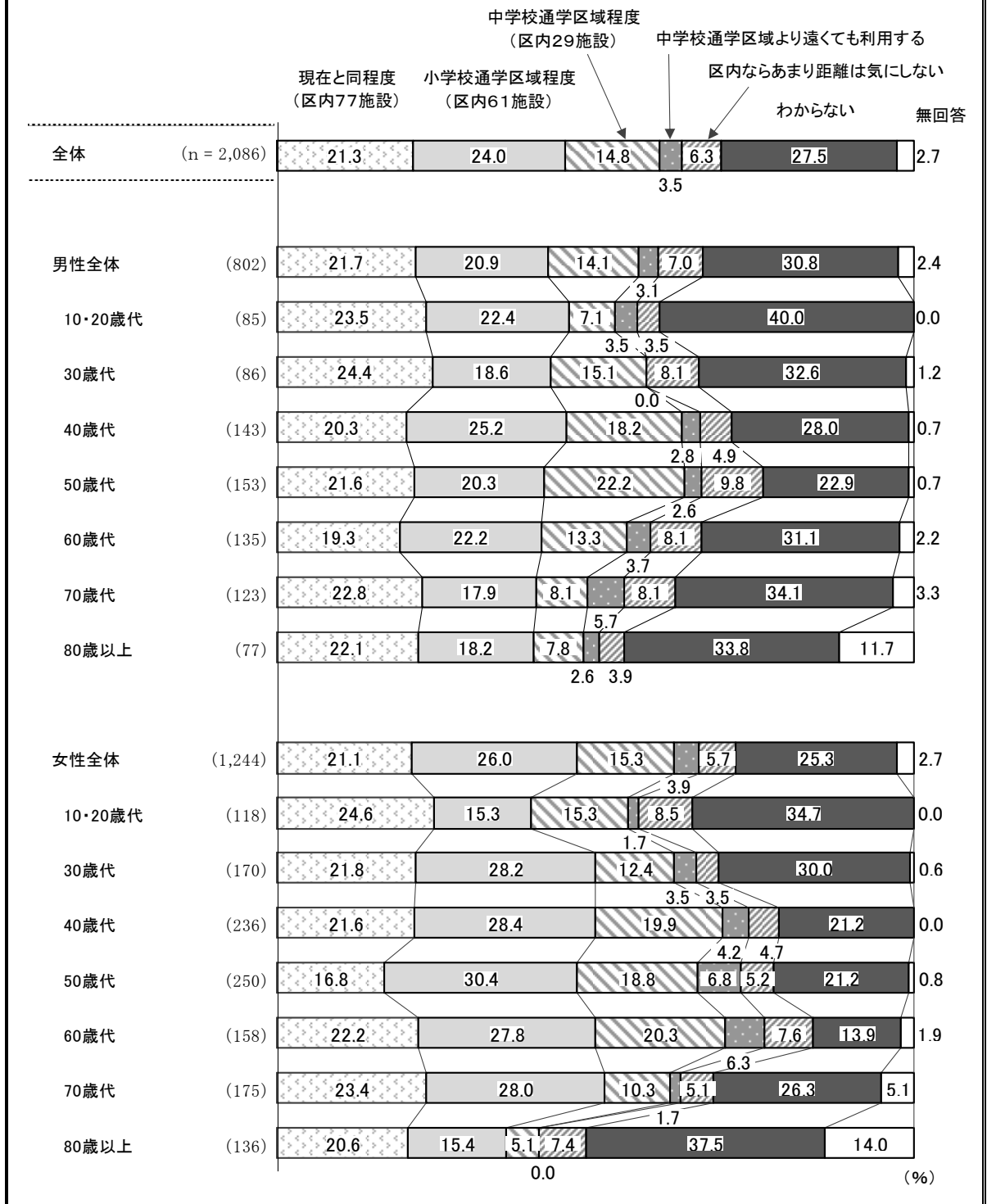
図 11-6-1



### <調査結果>

芸術活動のために利用する場合にどの程度の距離なら利用するか聞いたところ、「小学校通学区域程度」(24.0%)が2割半ばと最も高く、続いて「現在と同程度」(21.3%)が2割を超えている。(図 11-6-1)

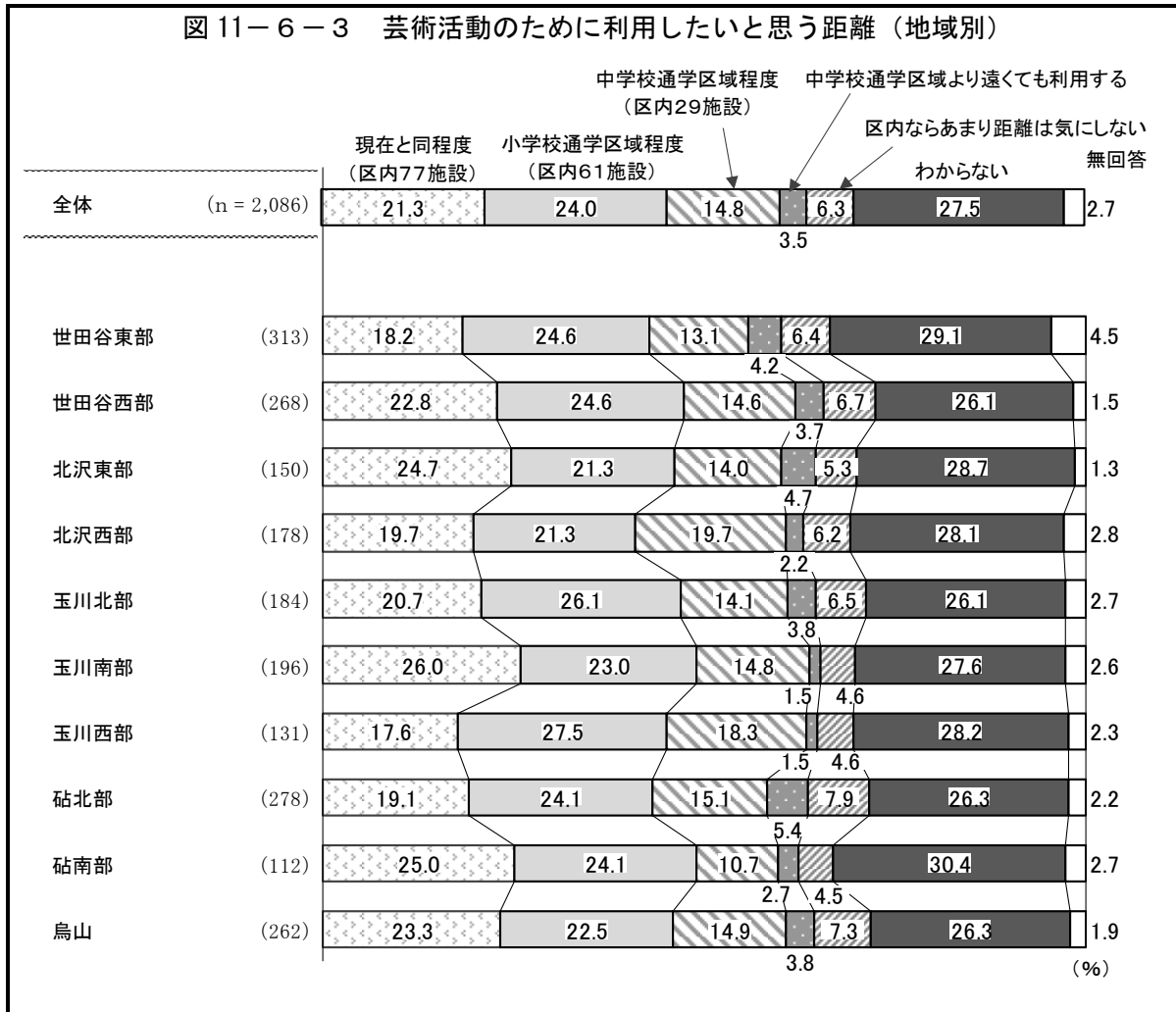
図 11-6-2 芸術活動のために利用したいと思う距離（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は女性の10・20歳代で2割半ば、男性の30歳代で2割半ば、「小学校通学区域程度（区内61施設）」は、女性の50歳代で3割、男性の40歳代で2割半ばとなっている。（図11-6-2）

図 11-6-3 芸術活動のために利用したいと思う距離（地域別）



〈調査結果〉

地域別でみると、「現在と同程度（区内77施設）」は北沢東部、玉川南部、砧南部で2割半ばとなっている。「小学校通学区域程度（区内61施設）」は玉川西部で3割近く、世田谷東部、世田谷西部、玉川北部で2割半ばとなっている。（図 11-6-3）

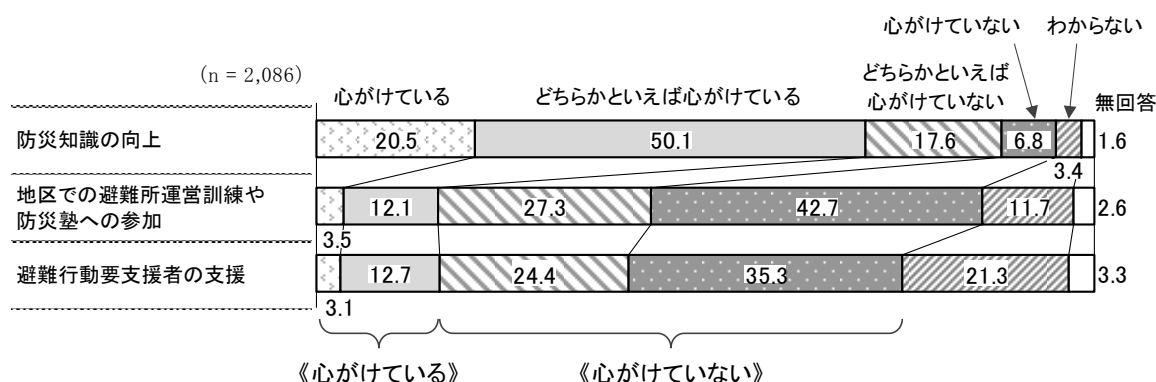
## 12. 災害時の備え

### (1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》がほぼ7割

問3 1 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図 12-1-1



#### <調査結果>

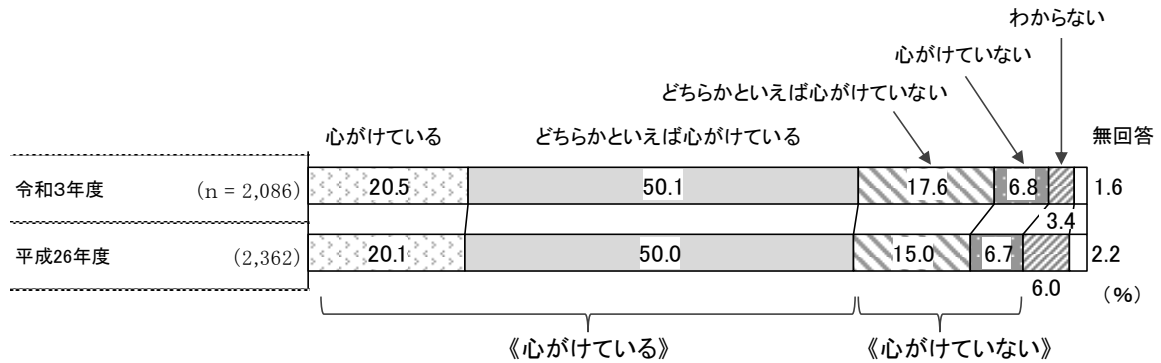
防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(70.6%)がほぼ7割、一方「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.6%)、「避難行動要支援者の支援」(15.8%)は1割半ばにとどまっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(70.0%)が7割で他の2項目より高い。

(図 12-1-1)

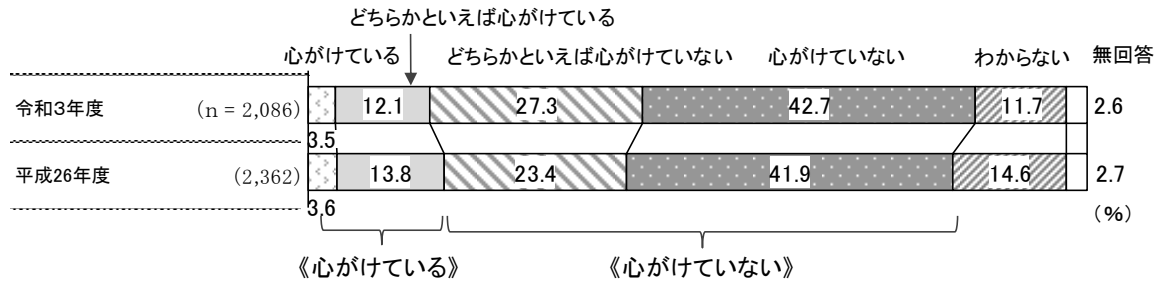


図 12-1-2 防災への対処（時系列）

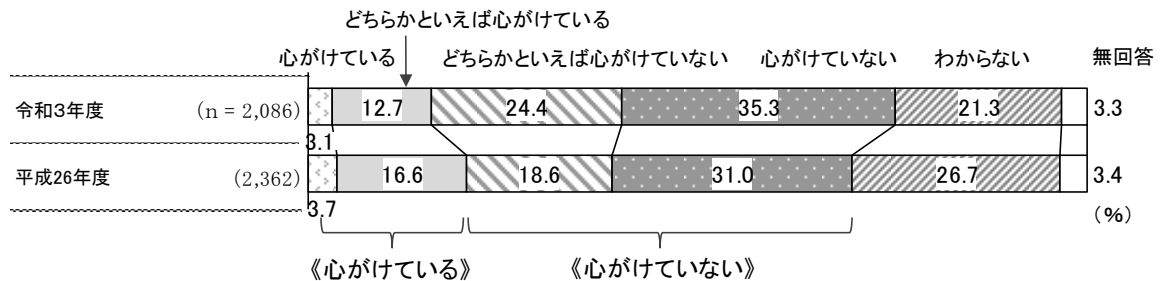
「防災知識の向上」(時系列)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(時系列)



「避難行動要支援者の支援」(時系列)



〈調査結果〉

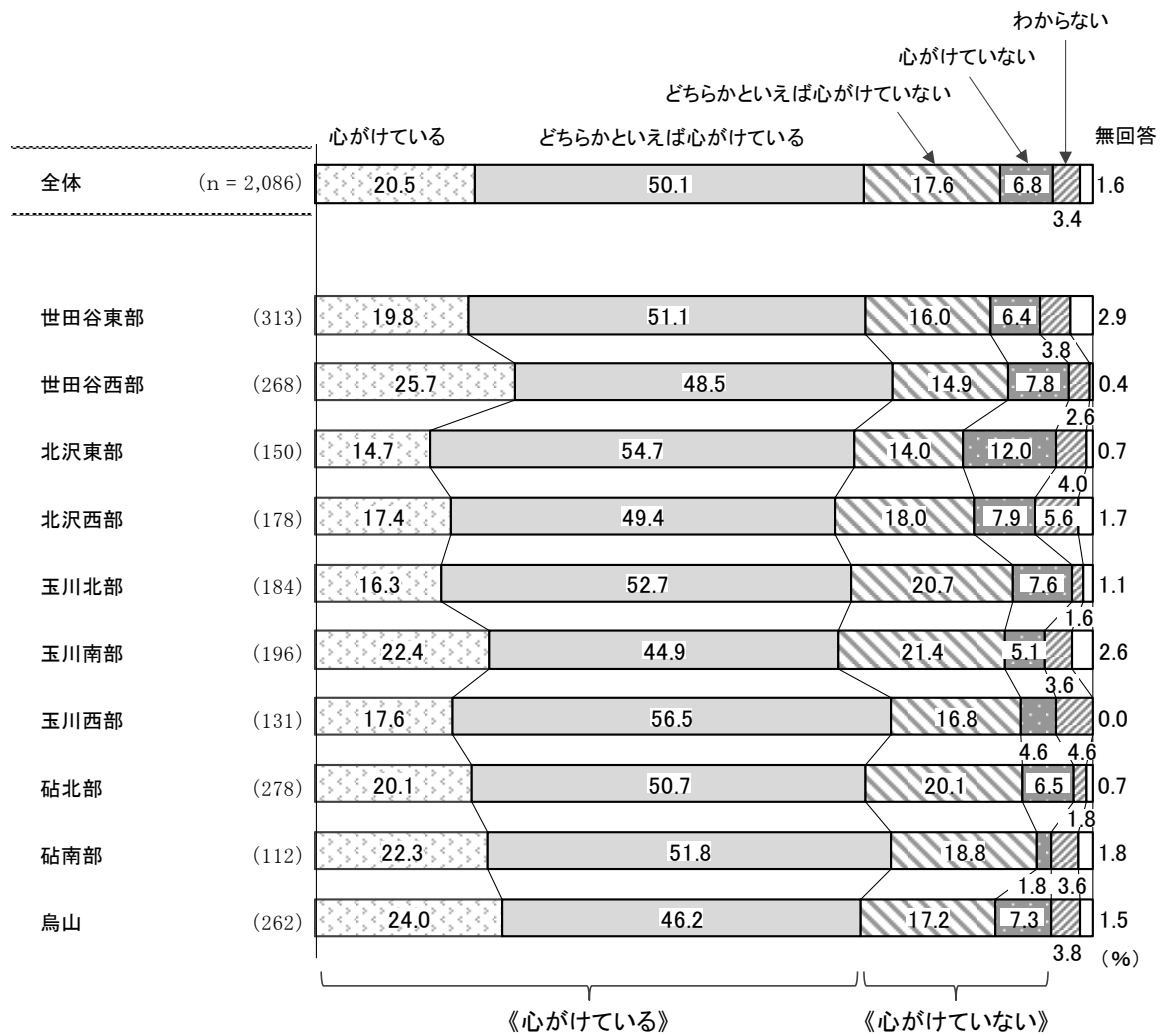
「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度 (70.1%) から令和 3 年度 (70.6%)、《心がけていない》は平成 26 年度 (21.7%) から令和 3 年度 (24.4%) で大きな違いはみられない。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度 (17.4%) から令和 3 年度 (15.6%) で大きな違いはみられない。《心がけていない》は平成 26 年度 (65.3%) から令和 3 年度 (70.0%) で増加している。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度 (20.3%) から令和 3 年度 (15.8%) で減少している。《心がけていない》は平成 26 年度 (49.6%) から令和 3 年度 (59.7%) で増加している。(図 12-1-2)

図 12-1-3 防災への対処

「防災知識の向上」(地域別)

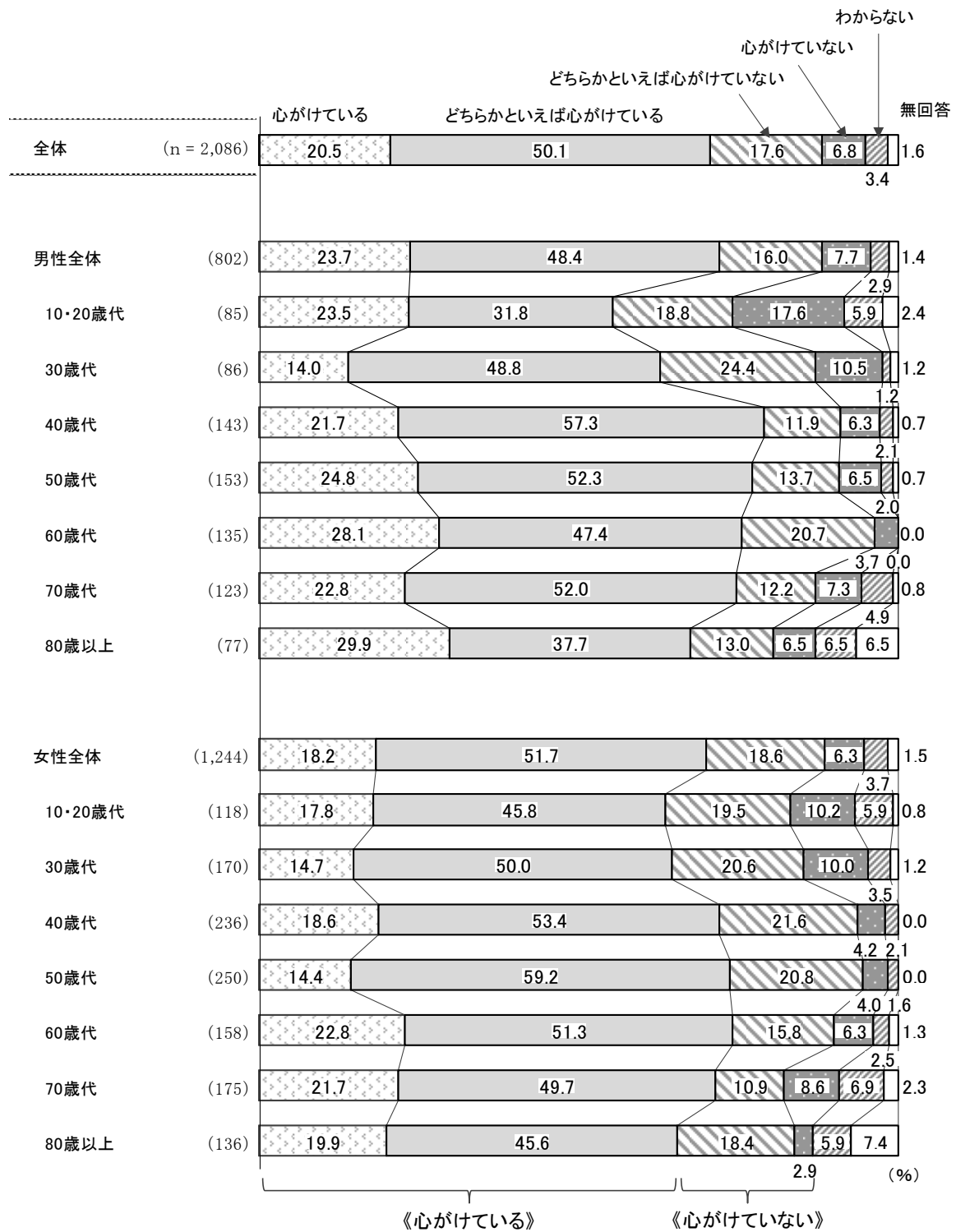


〈調査結果〉

「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は世田谷西部、烏山で2割半ばとなっている。《心がけている》は世田谷西部、玉川西部、砧南部で7割半ば、《心がけていない》は玉川北部、玉川南部、砧北部で3割近くとなっている。(図 12-1-3)

図 12-1-4 防災への対処

「防災知識の向上」(性・年齢別)

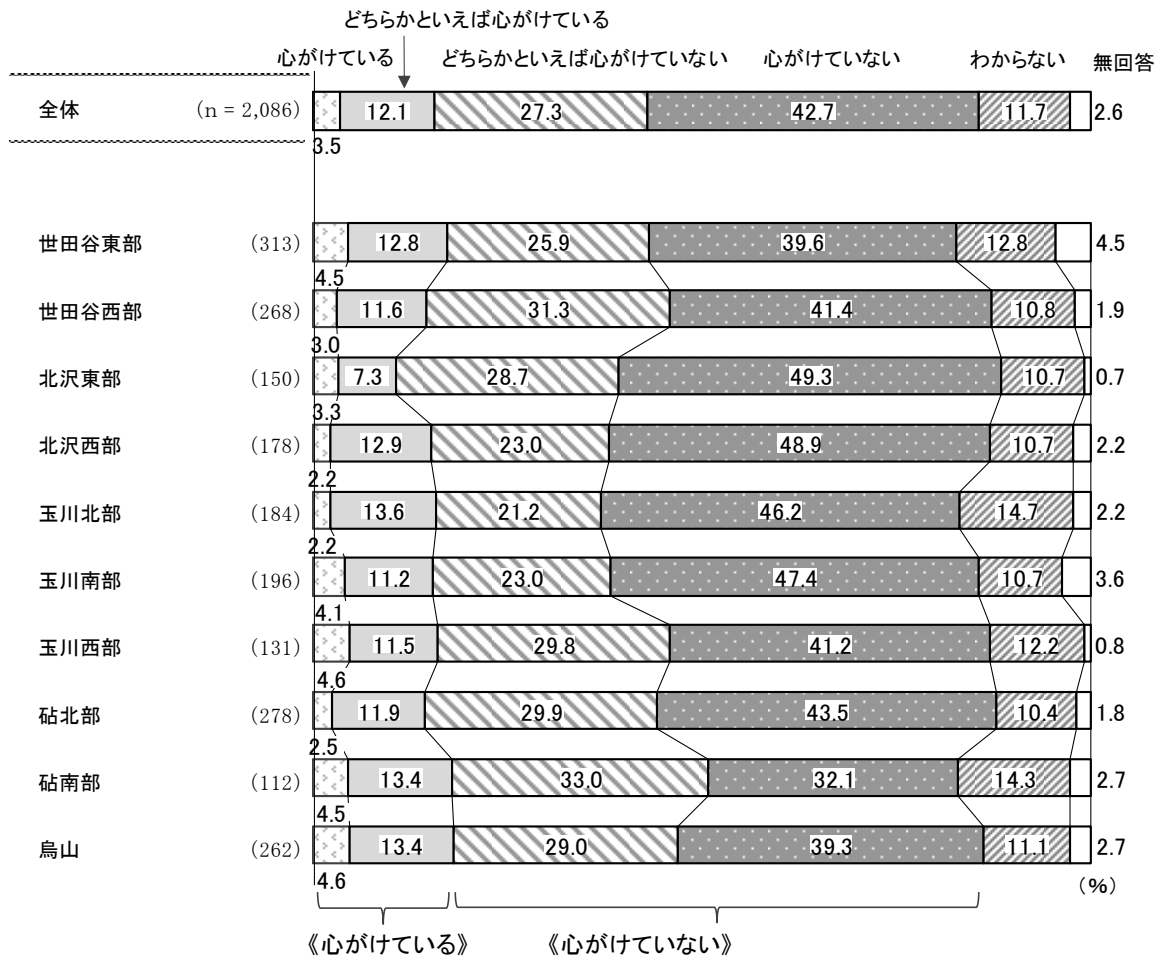


〈調査結果〉

「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性の40歳代がほぼ8割、女性の60歳代が7割半ばとなっている。(図12-1-4)

図 12-1-5 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)

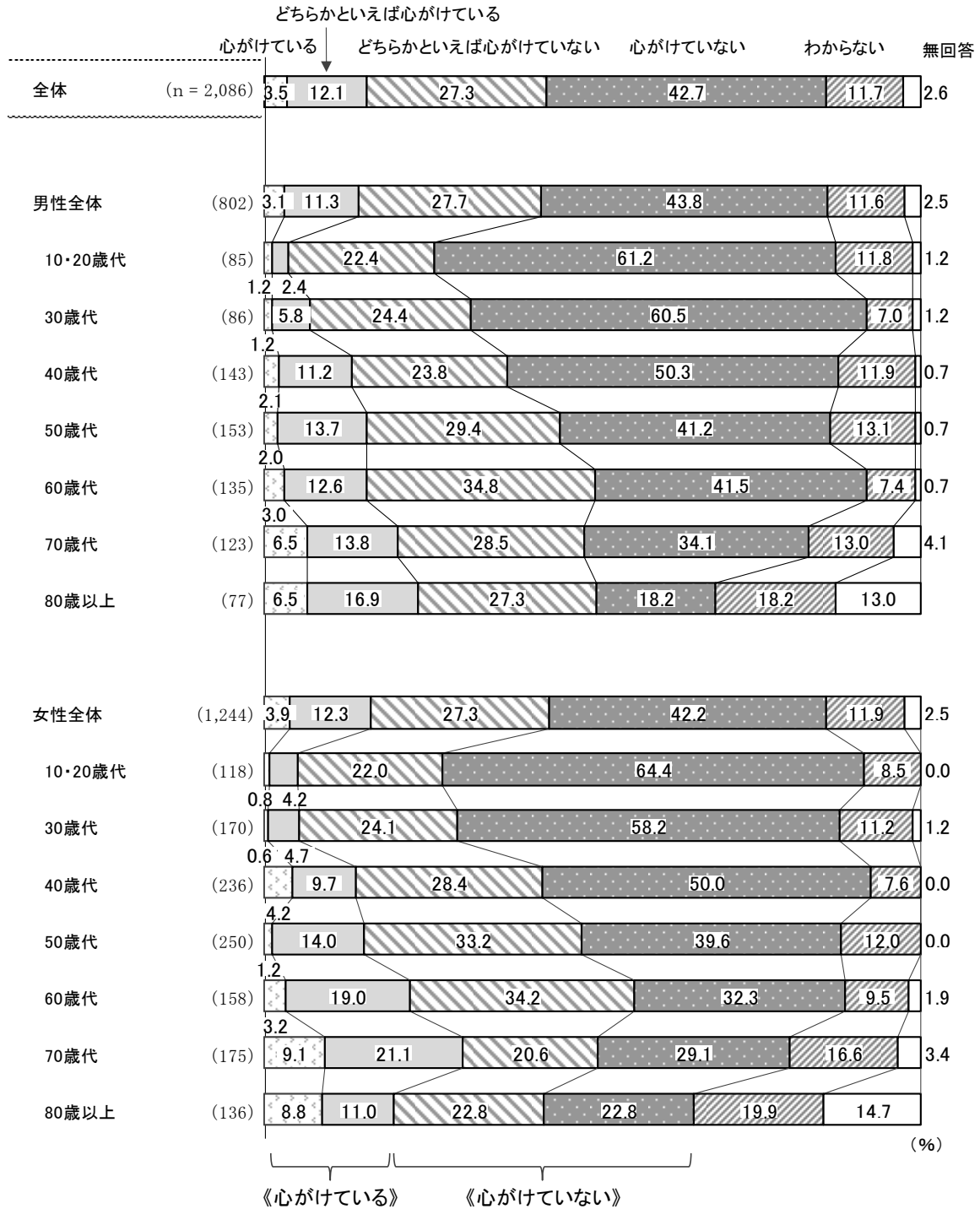


〈調査結果〉

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がかけている》は世田谷東部、砧南部、烏山で2割近くとなっている。《心がかけていない》は北沢東部で8割近くとなっている。(図 12-1-5)

図 12-1-6 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)

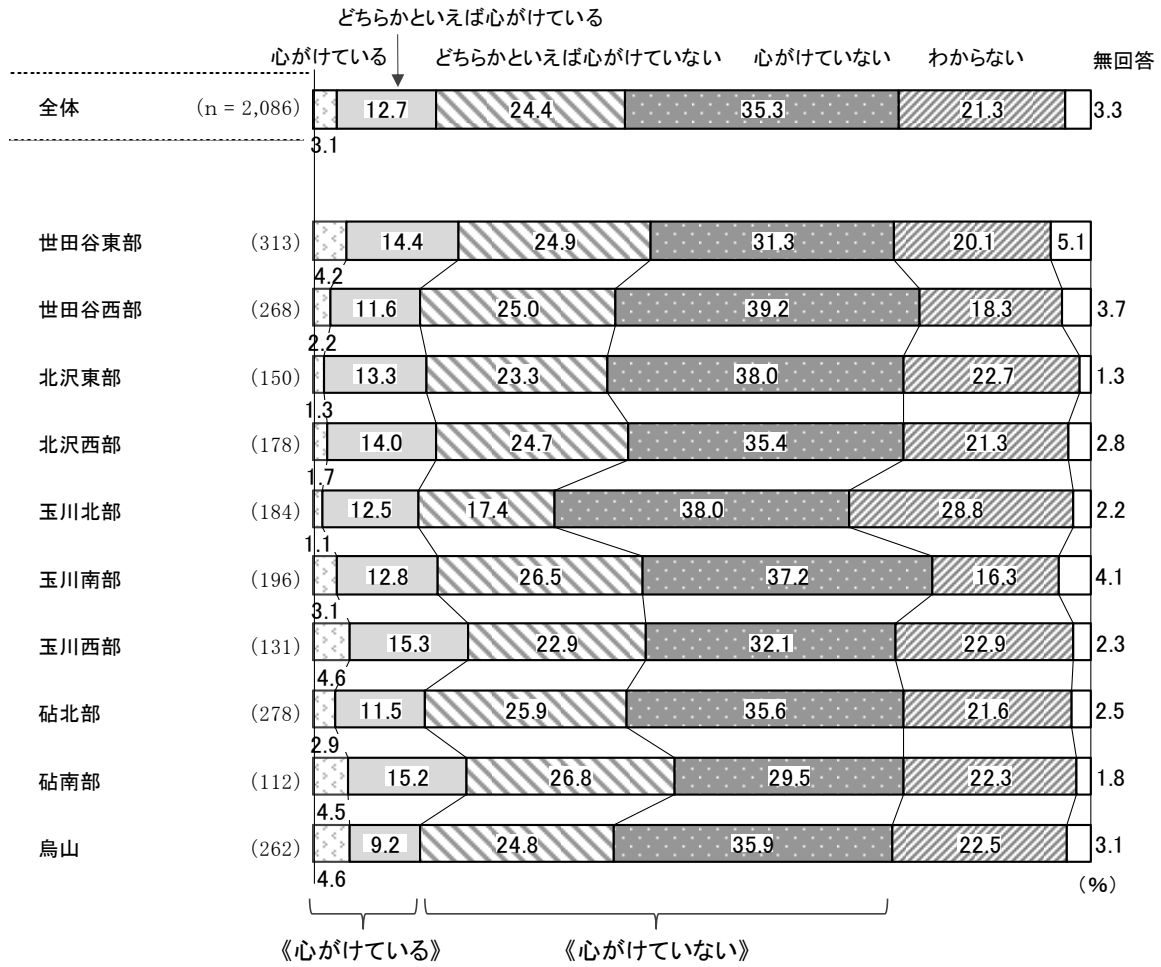


〈調査結果〉

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の70歳代が3割、男性の80歳以上が2割を超えている。《心がけていない》は女性の10・20歳代、男性の30歳代が8割半ばとなっている。(図12-1-6)

図 12-1-7 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(地域別)



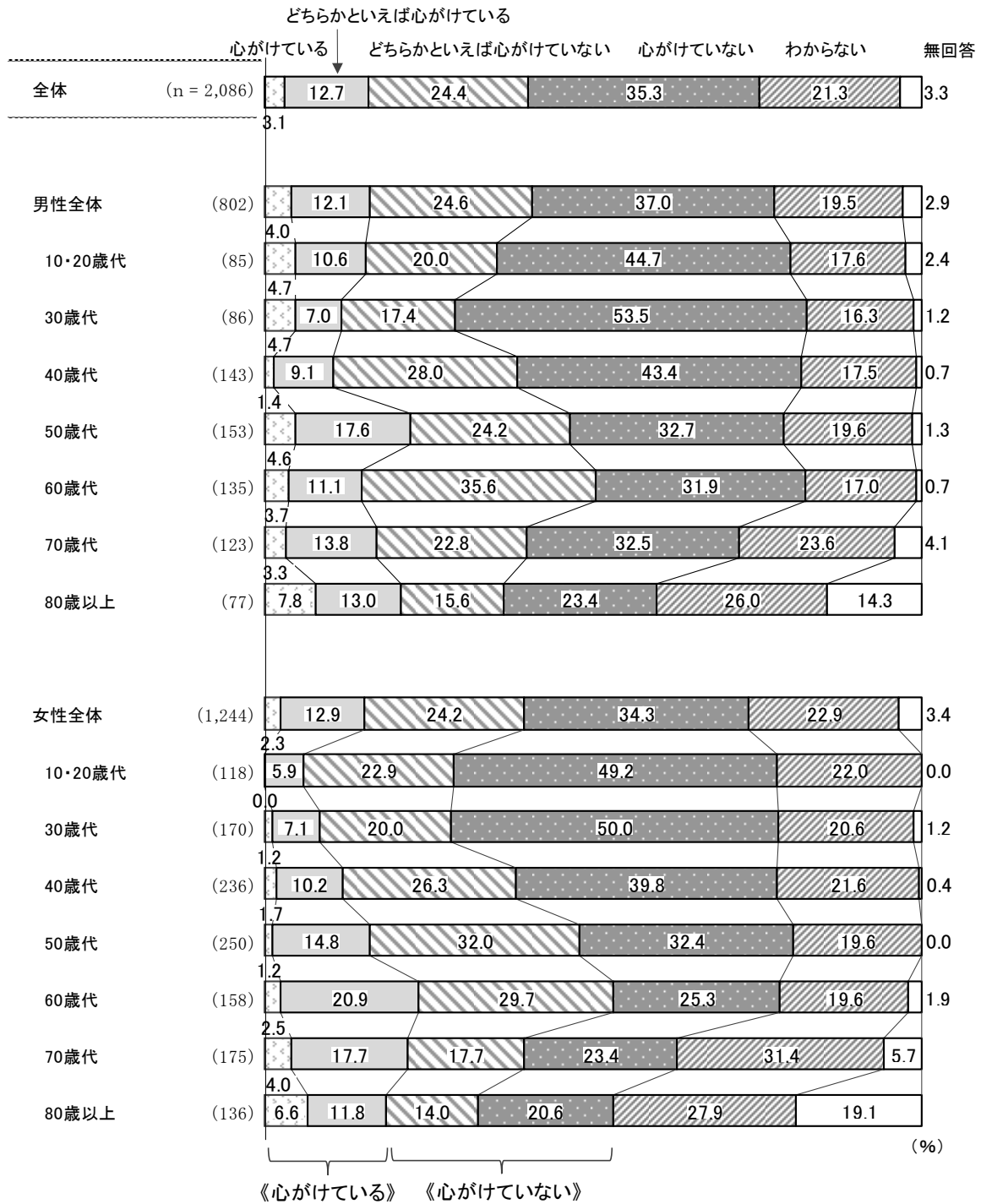
<調査結果>

「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は玉川西部で2割となっている。《心がけていない》は世田谷西部で6割半ばとなっている。

(図 12-1-7)

図 12-1-8 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



〈調査結果〉

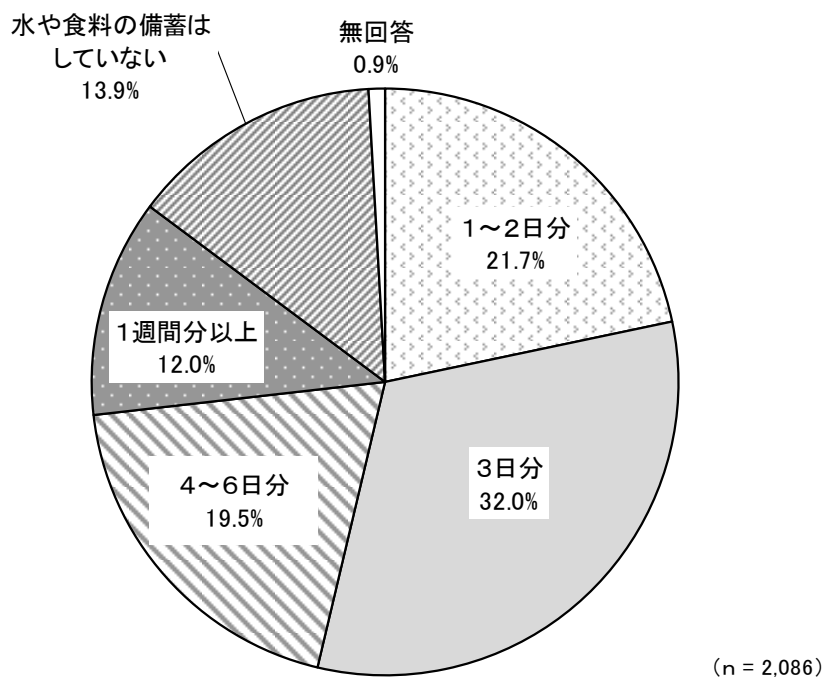
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の60歳代、男性の50歳代が2割を超えている。《心がけていない》は女性の10・20歳代、男性の40歳代が7割を超えている。(図12-1-8)

## (2) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割を超えている

問32 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。  
(○は1つ)

図 12-2-1

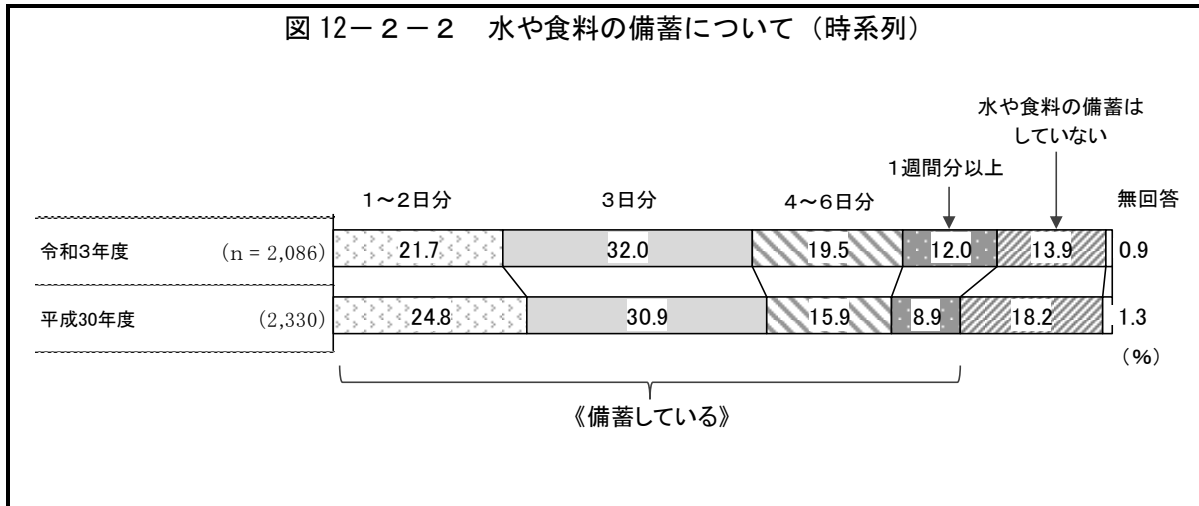


### <調査結果>

災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(32.0%)が3割を超えて最も高く、以下、「1~2日分」(21.7%)、「4~6日分」(19.5%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(13.9%)は1割を超えている。(図 12-2-1)



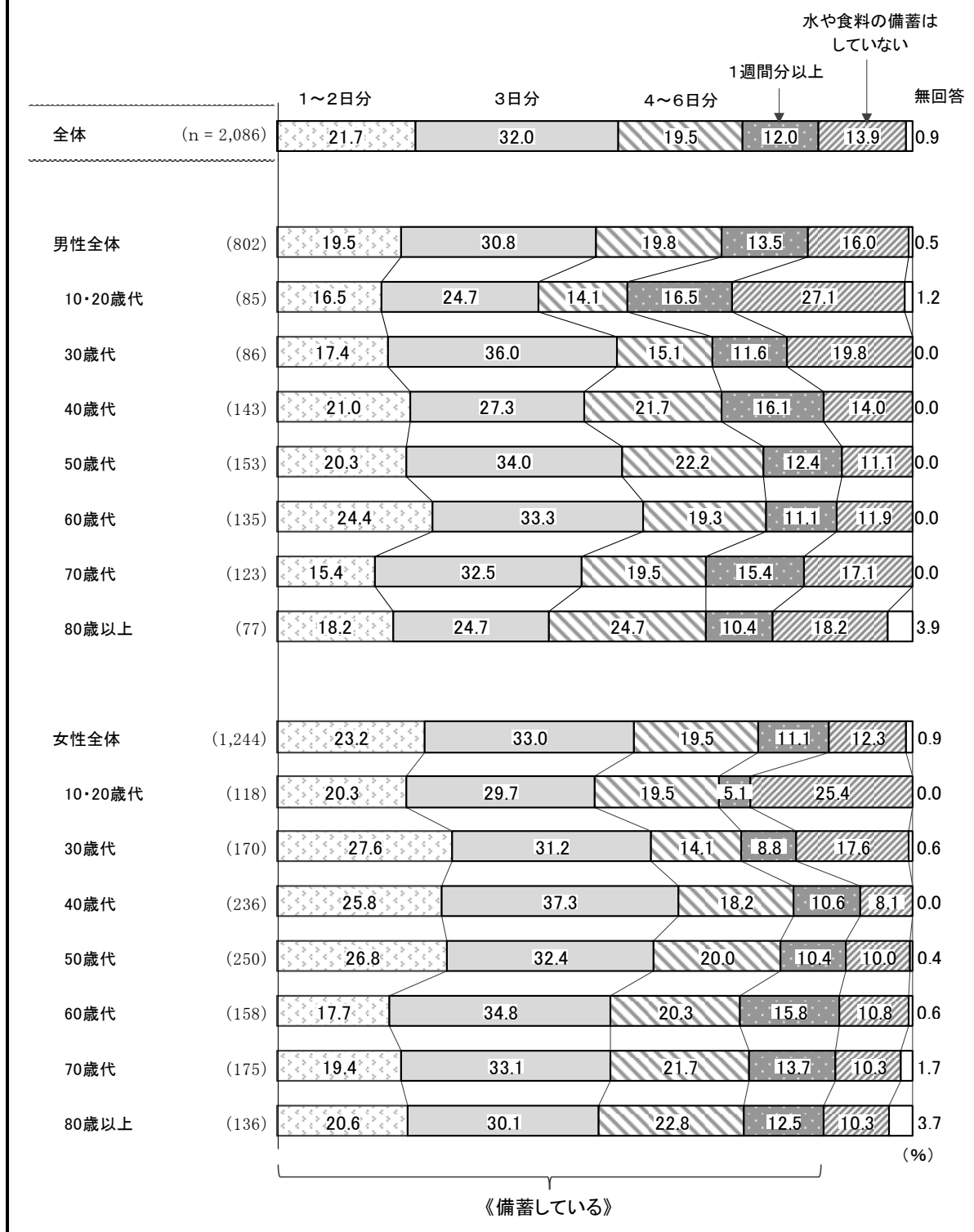
図 12-2-2 水や食料の備蓄について（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、《備蓄している》は平成30年度（80.5%）から令和3年度（85.2%）で増加している。（図12-2-2）

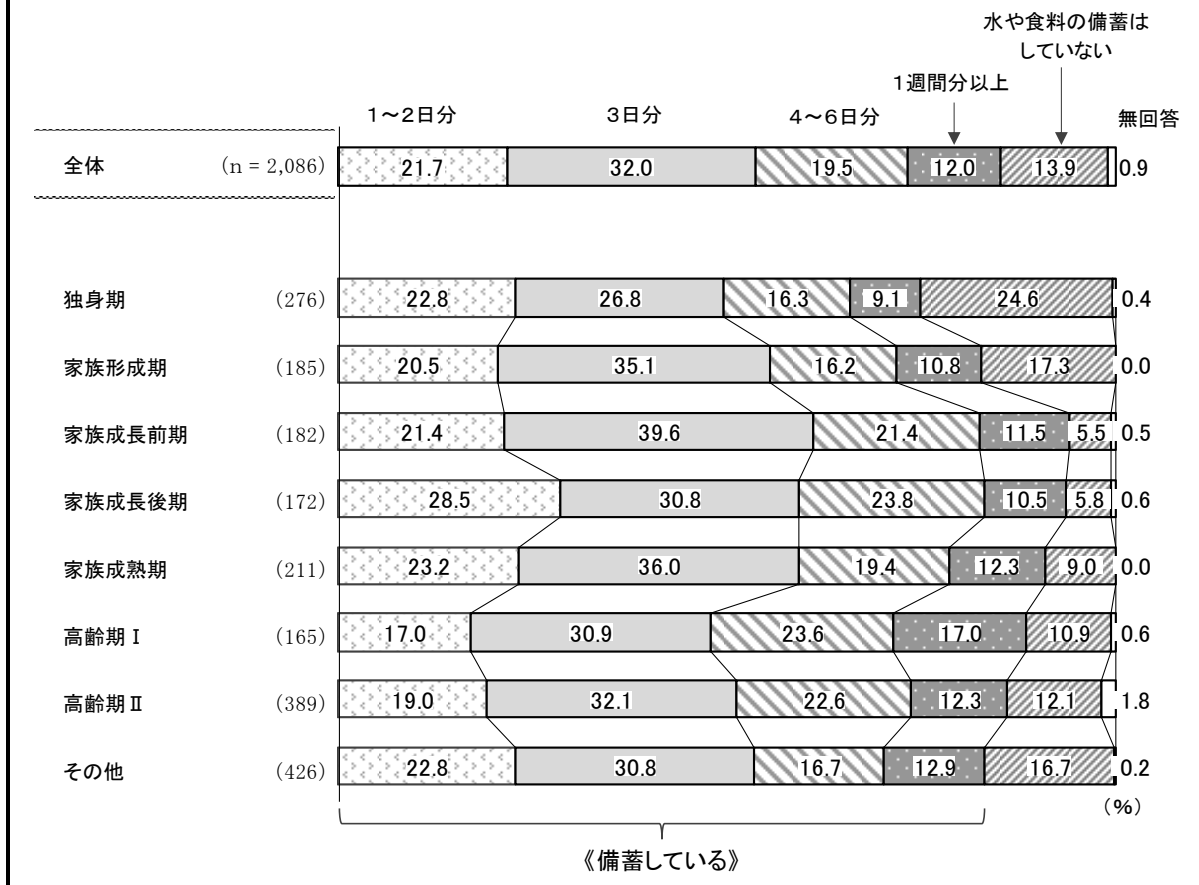
図 12-2-3 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合はいずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代はほぼ7割となっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女とも10・20歳代が他の年代に比べ高く、男性の10・20歳代で3割近く、女性の10・20歳代で2割半ばとなっている。（図12-2-3）

図 12-2-4 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

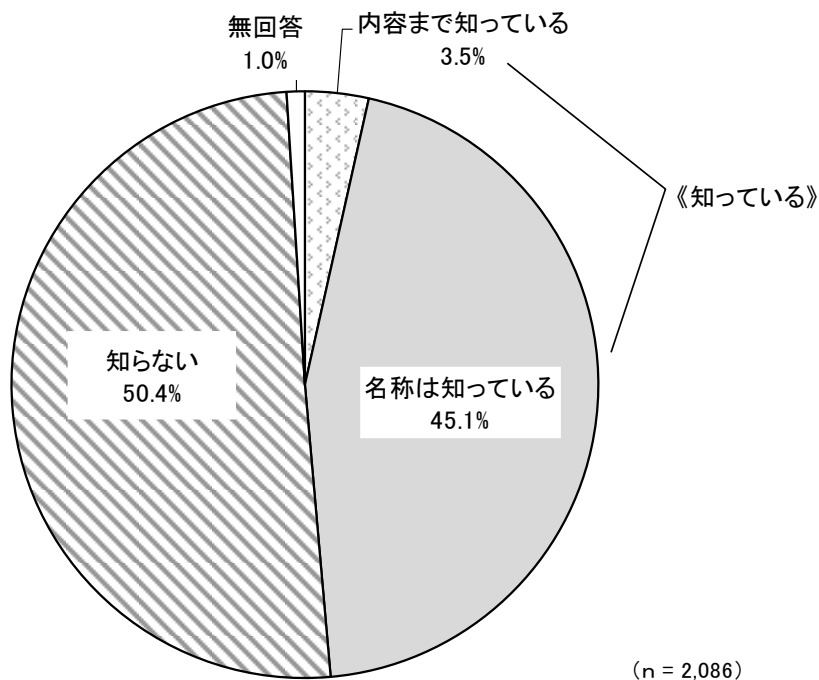
ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は家族成長前期、高齢期 I が7割を超えている。一方、独身期で3日分以上備蓄している割合は5割を超えているが他のライフステージに比べ低い。（図 12-2-4）

### (3) 地区防災計画の認知度

◎地区防災計画の「名称は知っている」が4割半ばだが「内容まで知っている」は1割未満

問33 あなたは、地区防災計画を知っていますか。(○は1つ)

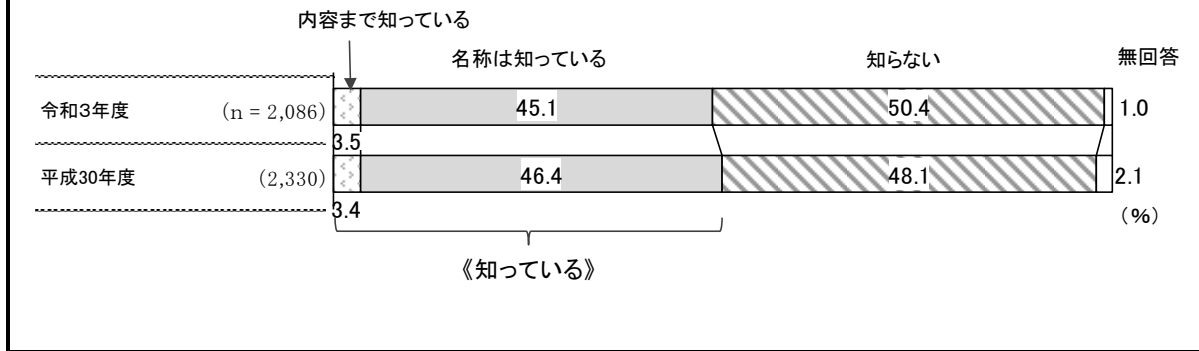
図12-3-1



#### <調査結果>

地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(45.1%)が4割半ば、「内容まで知っている」(3.5%)と合わせた《知っている》(48.6%)が5割近く、「知らない」(50.4%)が5割となっている。(図12-3-1)

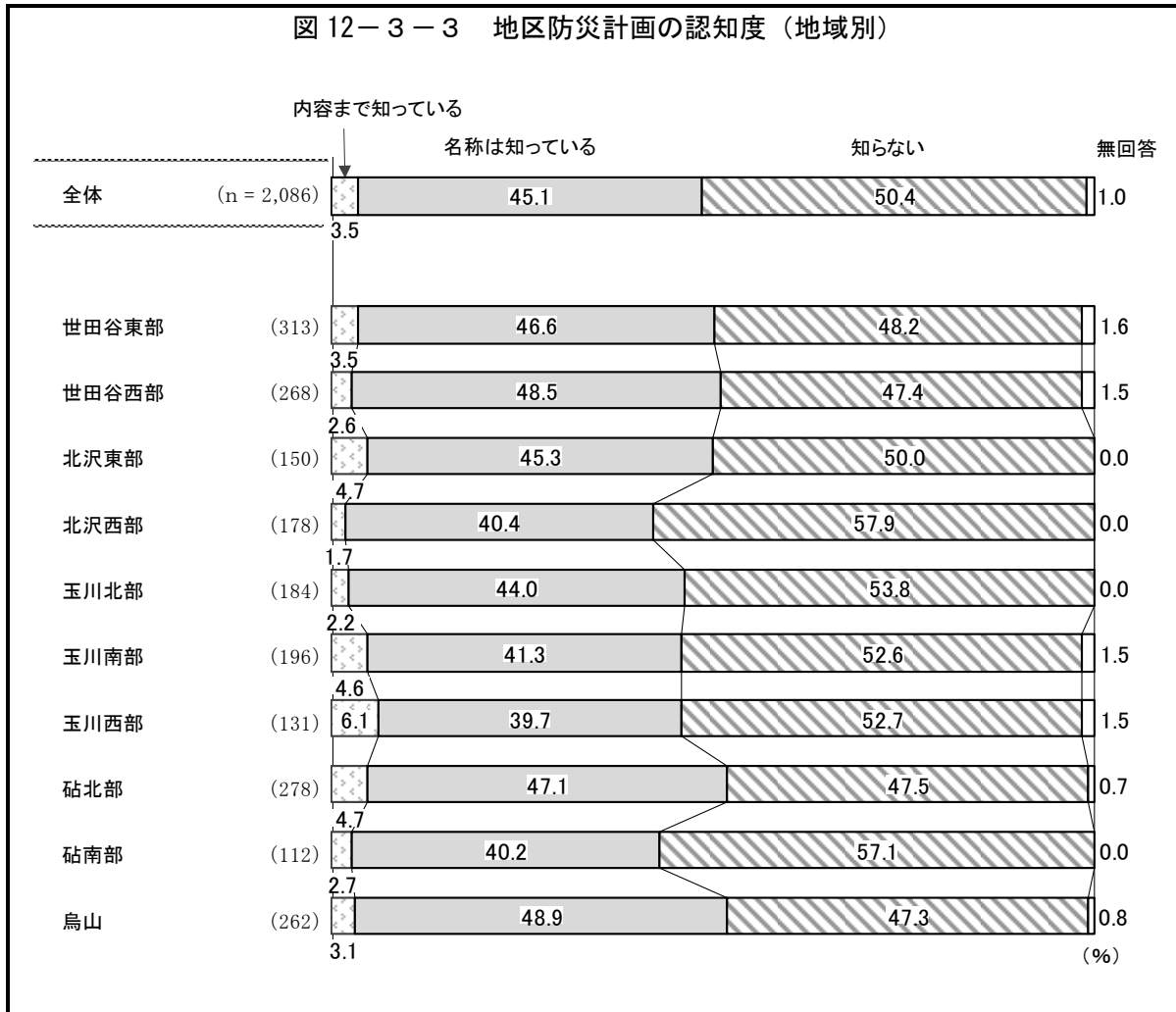
図 12-3-2 地区防災計画の認知度（時系列）



<調査結果>

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（49.8%）から令和 3 年度（48.6%）で大きな違いはみられない。（図 12-3-2）

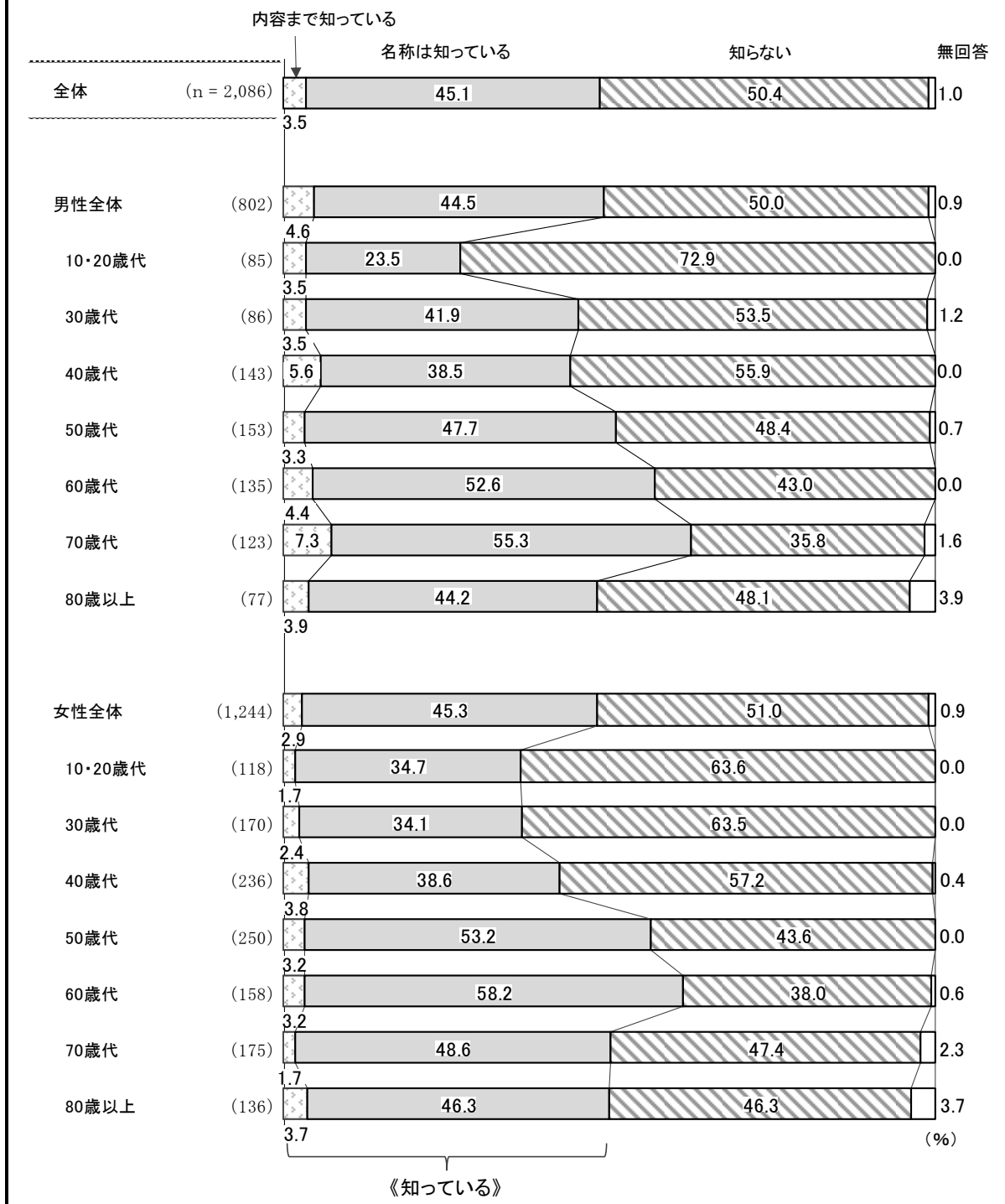
図 12-3-3 地区防災計画の認知度（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「知っている」は世田谷西部、砧北部、烏山で5割を超えている。「知らない」は北沢西部、砧南部で6割近くとなっている。(図 12-3-3)

図 12-3-4 地区防災計画の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、《知っている》は男性の70歳代と女性の60歳代で6割を超えている。「知らない」は男性の10・20歳代で7割を超え、女性の10・20歳代、30歳代で6割を超えている。(図12-3-4)

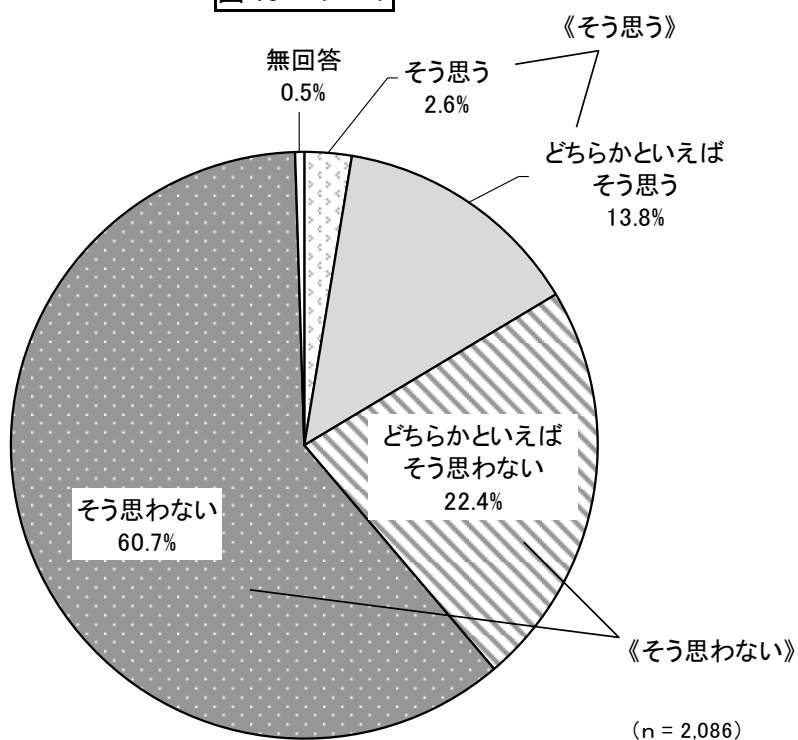
### 13. 男女共同参画の推進

#### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎ 《そう思わない》が8割を超えている

問34 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。(○は1つ)

図 13-1-1

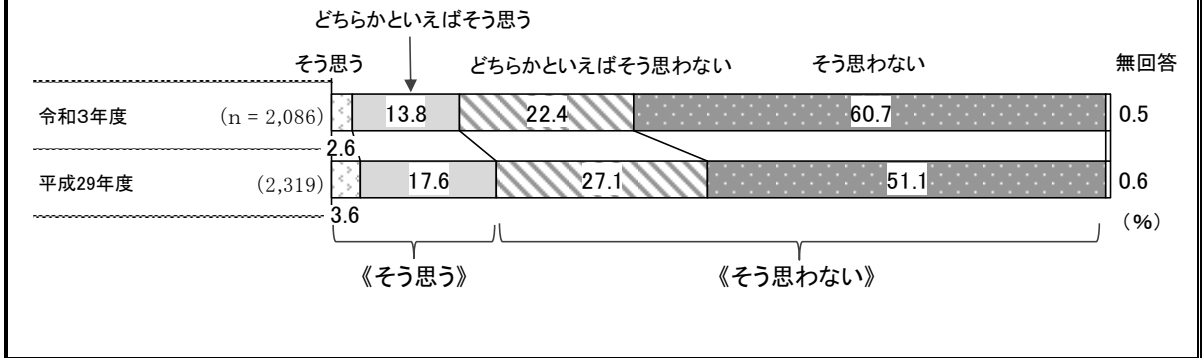


#### <調査結果>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(60.7%)がほぼ6割で最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(22.4%)と合わせた《そう思わない》(83.1%)が8割を超えている。「どちらかといえばそう思う」(13.8%)と「そう思う」(2.6%)を合わせた《そう思う》(16.4%)は1割半ばとなっている。(図13-1-1)



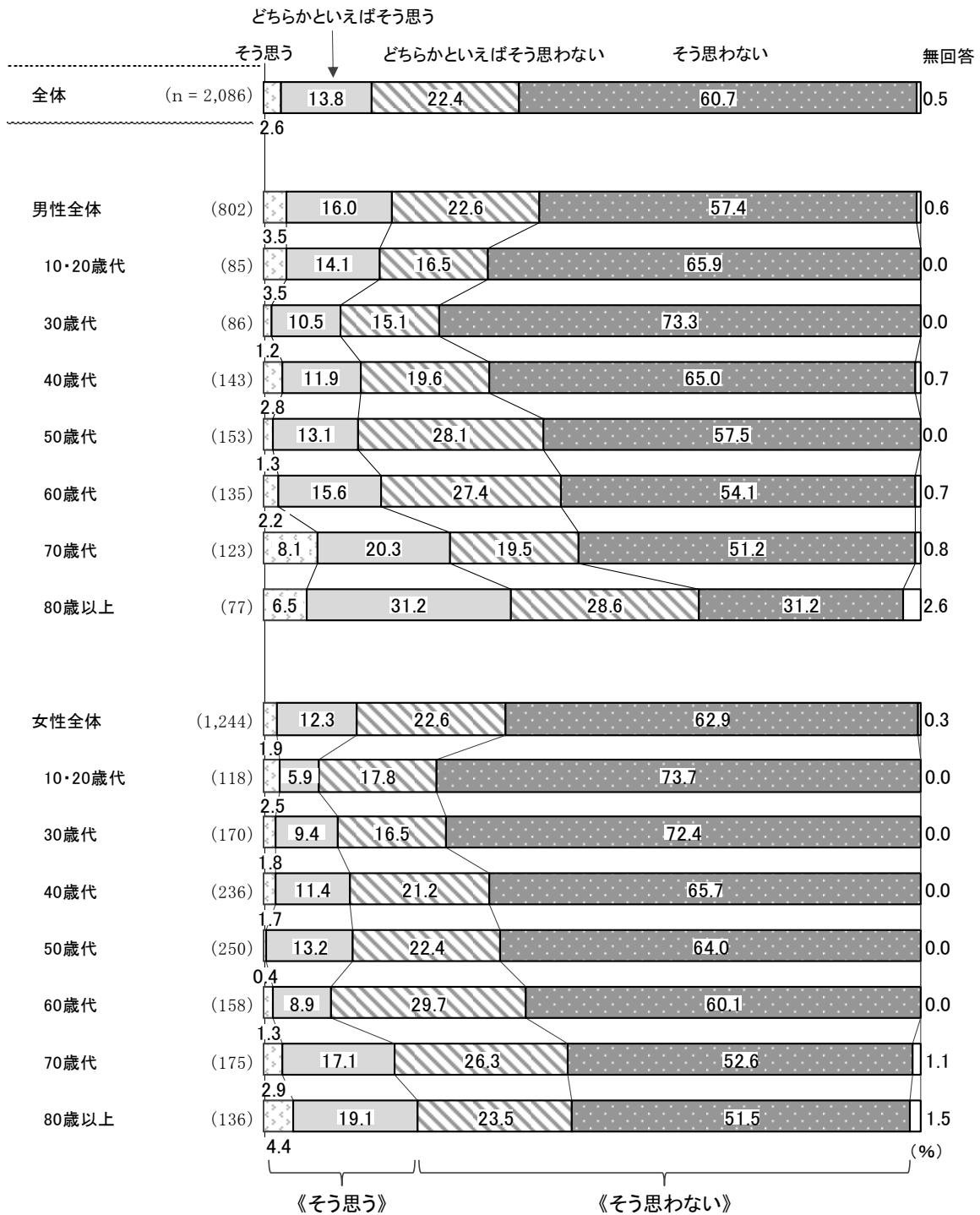
図 13-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう思う》は平成 29 年度（21.2%）から令和 3 年度（16.4%）で減少している。《そう思わない》は平成 29 年度（78.2%）から令和 3 年度（83.1%）で増加している。（図 13-1-2）

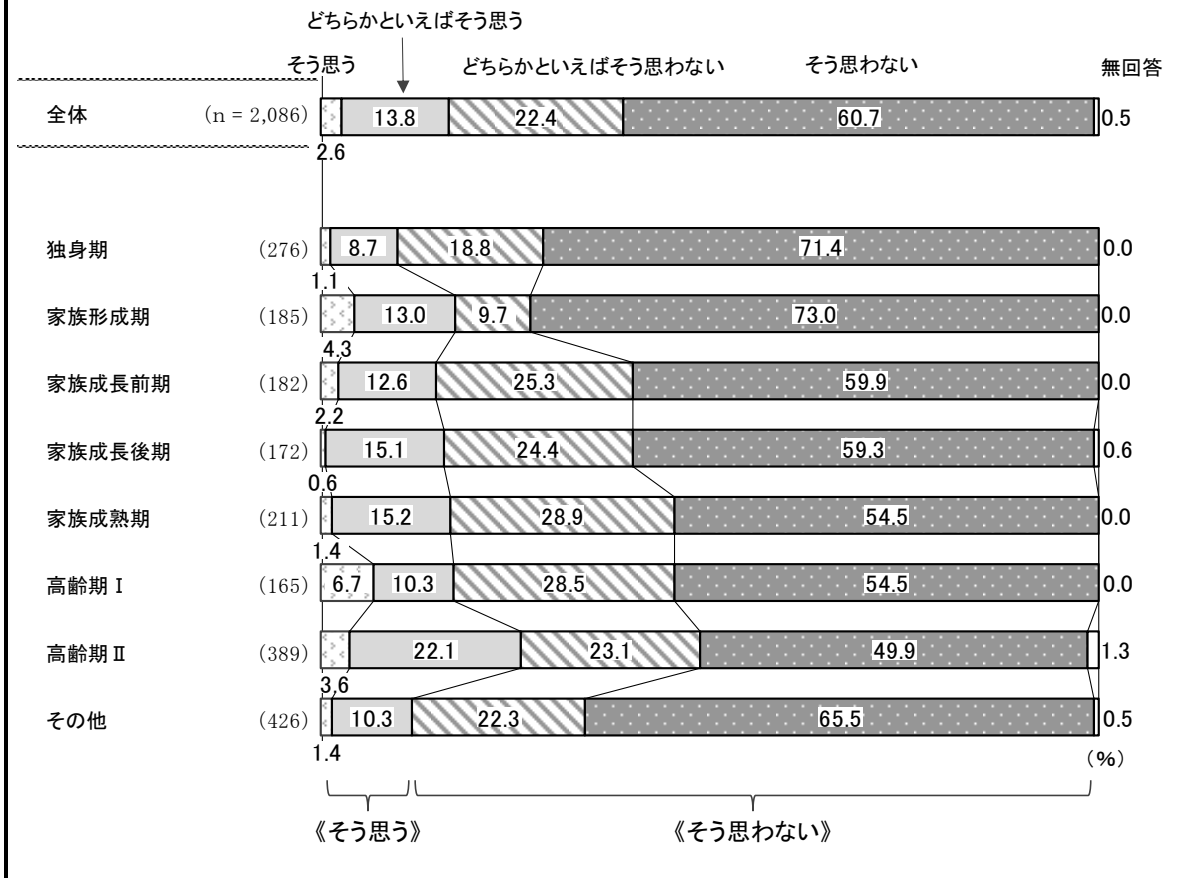
図 13-1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、《そう思う》は男女とも70歳代以上が高く、男性の80歳以上で4割近く、70歳代で3割近く、女性の80歳以上で2割を超え、70歳代で2割となっている。一方、《そう思わない》は女性の10・20歳代で9割を超え、男性の30歳代で9割近くとなっている。(図 13-1-3)

図 13-1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

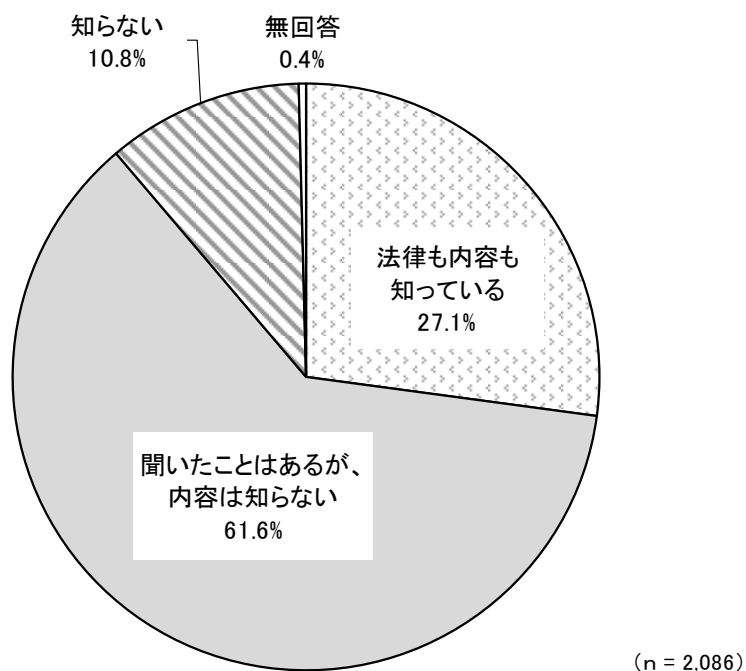
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期 II で 2 割半ばとなっている。《そう思わない》は独身期で 9 割となっている。（図 13-1-4）

## (2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度

◎ 「聞いたことはあるが、内容は知らない」が6割を超えている

問35 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)を知っていますか。(〇は1つ)

図13-2-1

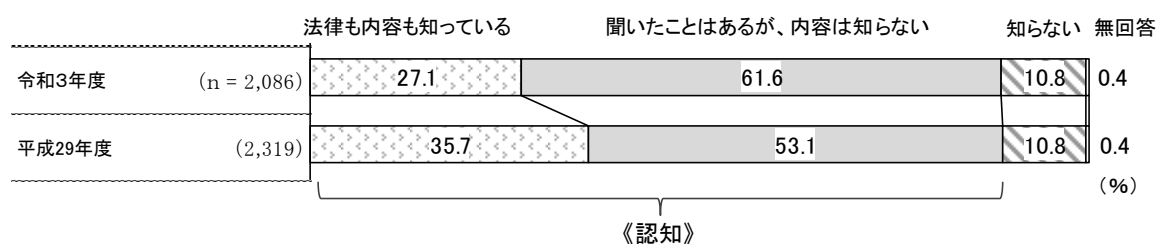


### <調査結果>

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を聞いたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(61.6%)が6割を超えて最も高く、「法律も内容も知っている」(27.1%)は3割近く、「知らない」(10.8%)はほぼ1割となっている。

(図13-2-1)

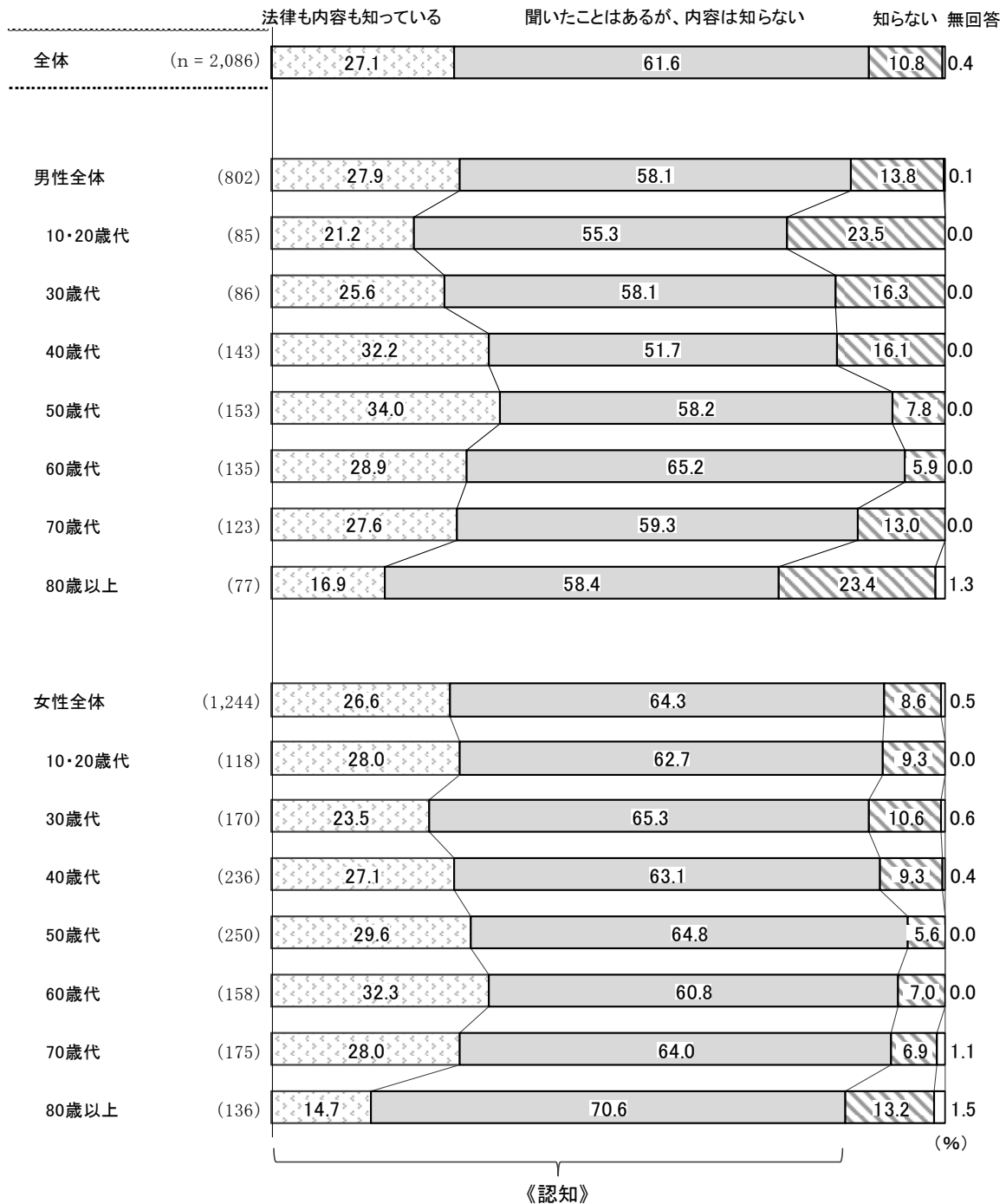
図 13-2-2 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(時系列)



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《認知》は平成 29 年度 (88.8%) から令和 3 年度 (88.7%) で大きな違いはみられない。(図 13-2-2)

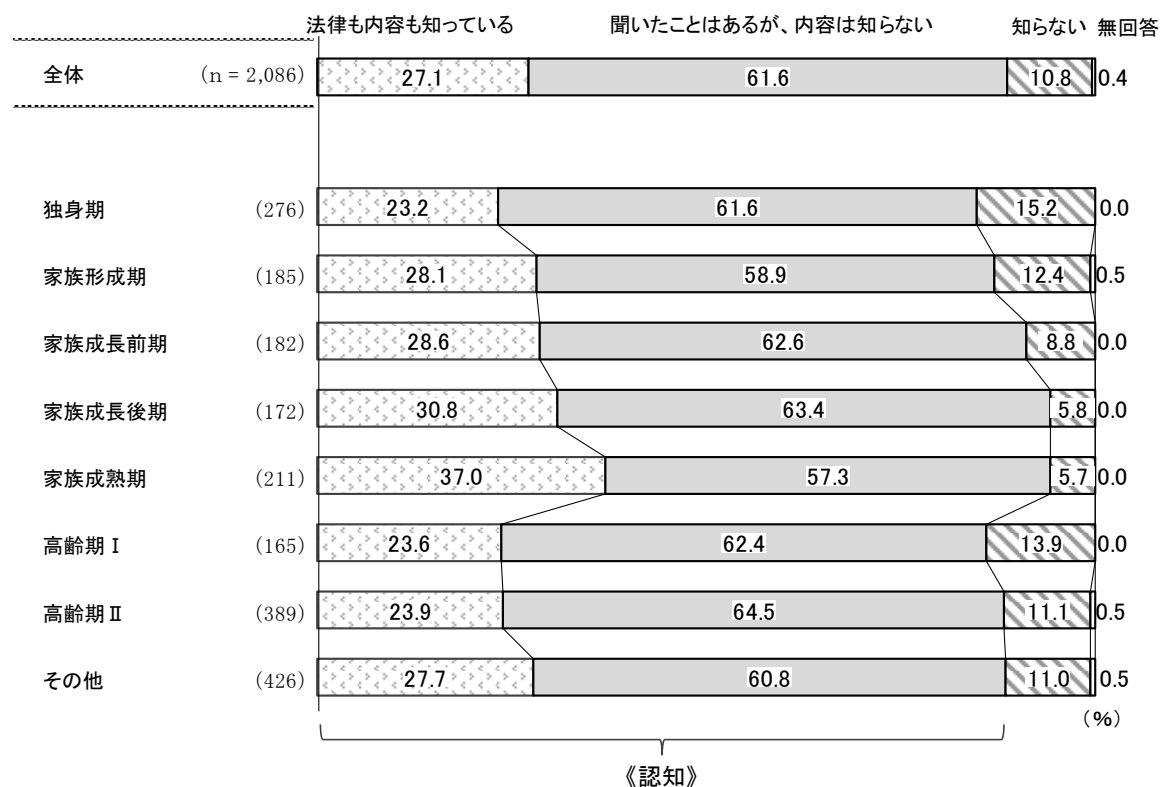
図 13-2-3 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(性・年齢別)



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、「法律も内容も知っている」は、男性の50歳代で3割半ば、女性の60歳代で3割を超えている。「知らない」は男性の10・20歳代と80歳以上で2割を超え、女性の80歳以上で1割を超えている。(図13-2-3)

図 13-2-4 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(ライフステージ別)



〈調査結果〉

ライフステージ別にみると、「法律も内容も知っている」は家族成熟期で4割近く、家族成長後期でほぼ3割となっている。「知らない」は独身期で1割半ばとなっている。

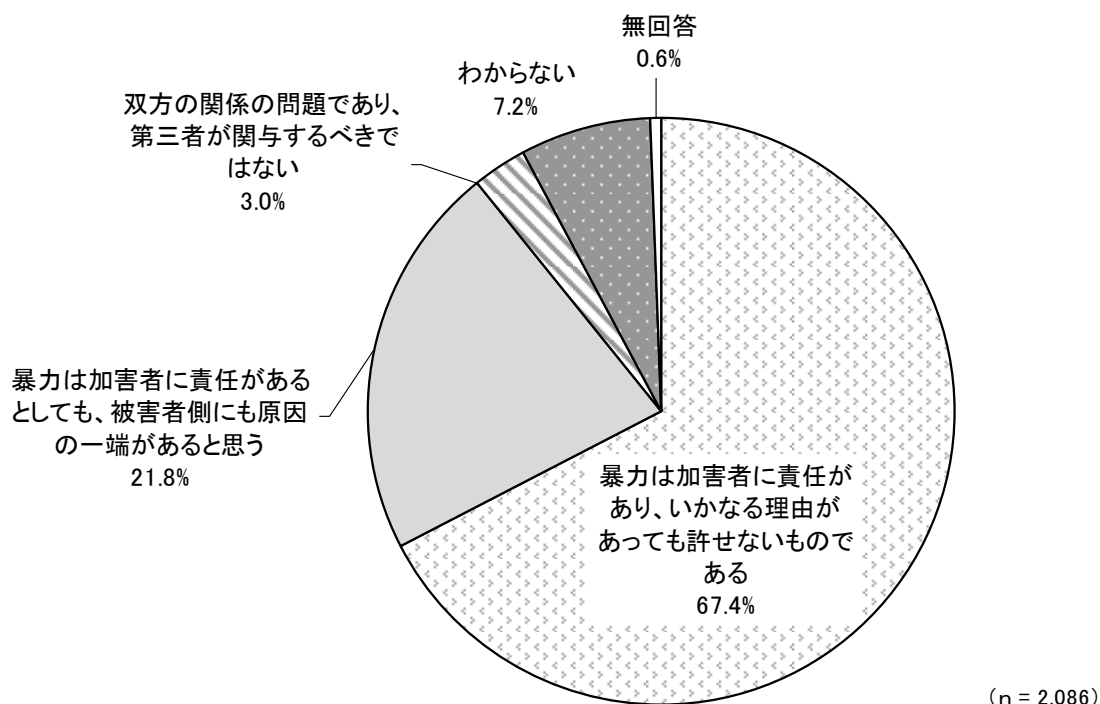
(図 13-2-4)

### (3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

◎ 「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が6割半ば

問36 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス＝夫婦（事実婚・離婚後も含む）や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

図 13-3-1

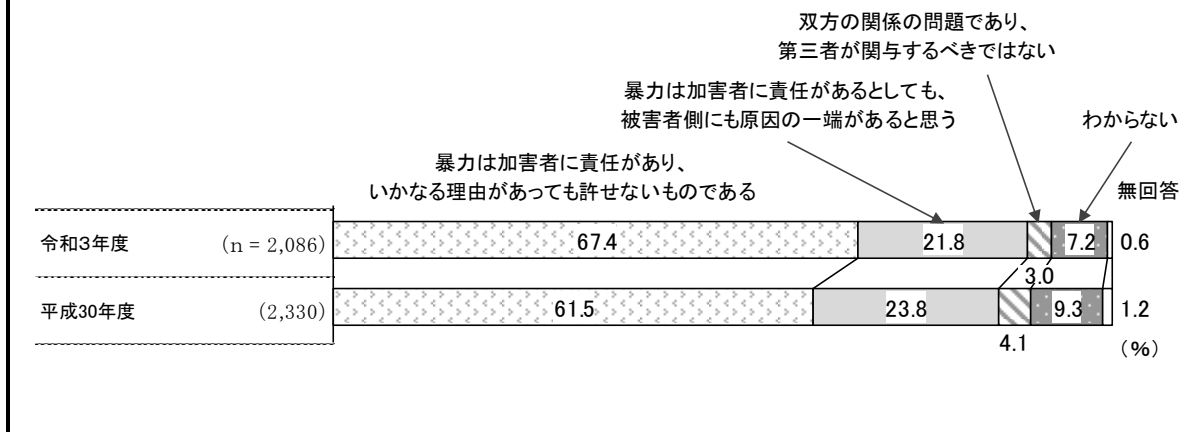


#### <調査結果>

「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」（67.4%）が7割近くで最も高く、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（21.8%）が2割を超えている。（図 13-3-1）



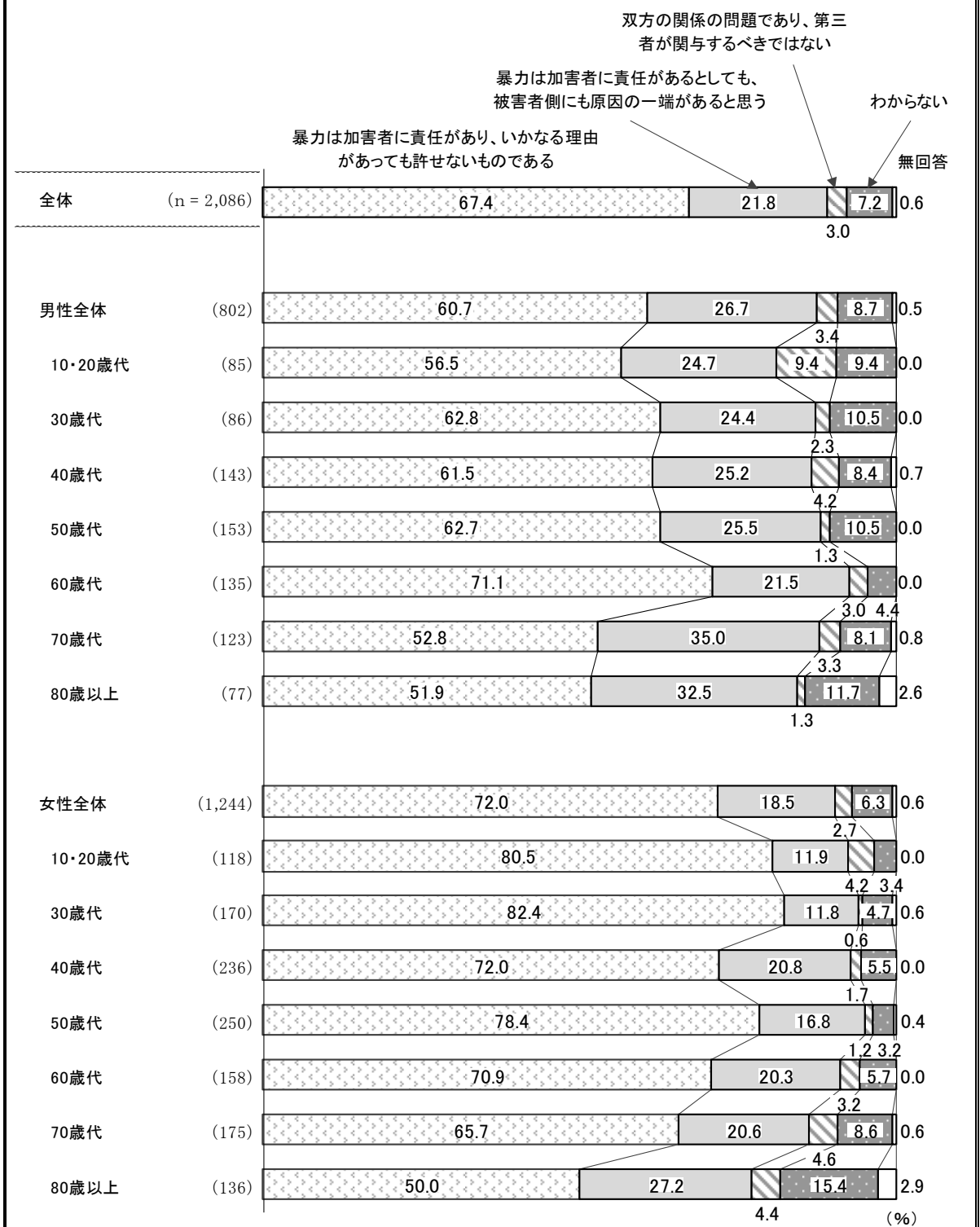
図 13-3-2 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は平成30年度（61.5%）から令和3年度（67.4%）で増加している。（図13-3-2）

図 13-3-3 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方（性・年齢別）



<調査結果>

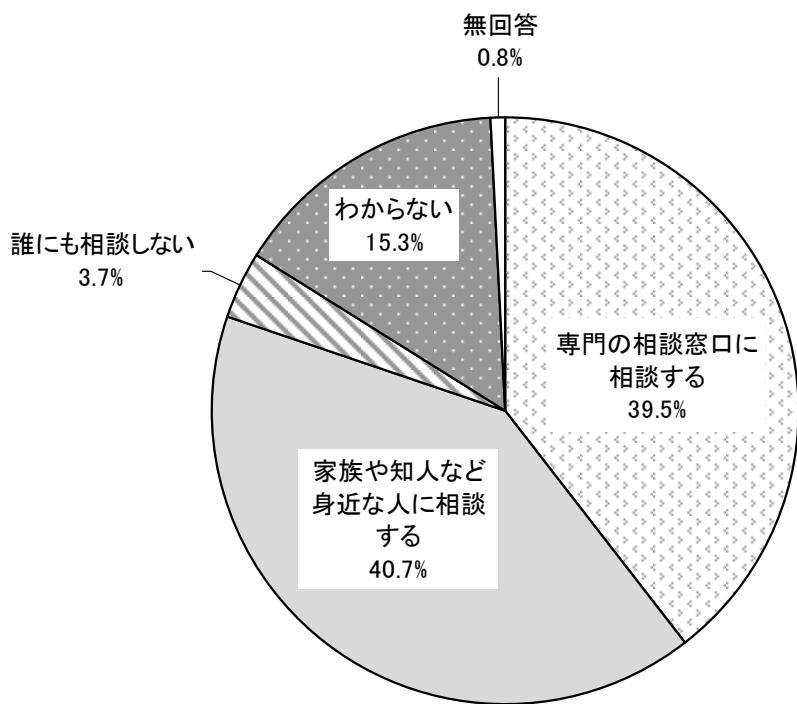
性・年齢別にみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は女性の30歳代が8割を超え、男性の60歳代が7割を超えている。「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」は男性の70歳代で3割半ば、女性の80歳以上で3割近くとなっている。(図 13-3-3)

#### (4) DV被害にあったときの相談先

◎「家族や知人など身近な人に相談する」がほぼ4割、「専門の相談窓口相談する」が4割

問37 あなたは、DV被害にあったとき、どのようにしますか。(〇は1つ)

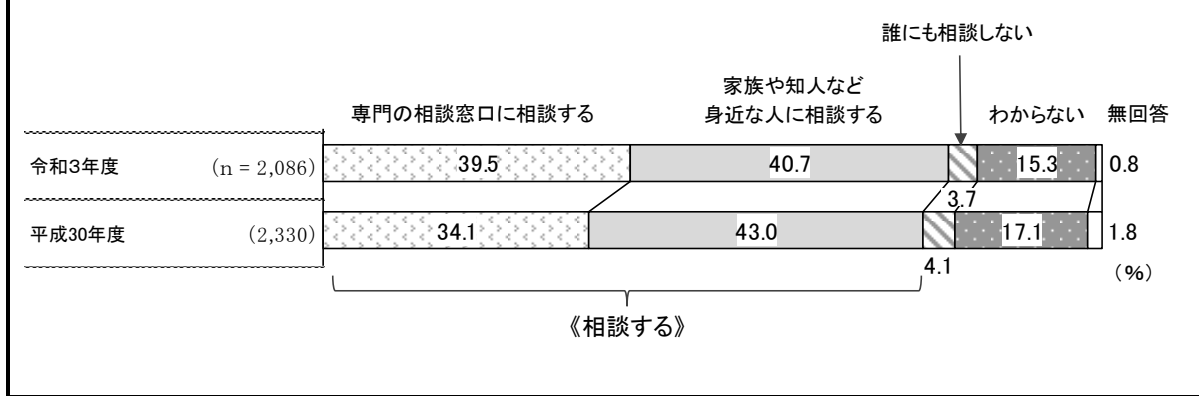
図13-4-1



#### <調査結果>

DV被害にあったときの相談先について聞いたところ、「家族や知人など身近な人に相談する」(40.7%)がほぼ4割、「専門の相談窓口相談する」(39.5%)が4割となっている。「誰にも相談しない」(3.7%)は1割に満たない。(図13-4-1)

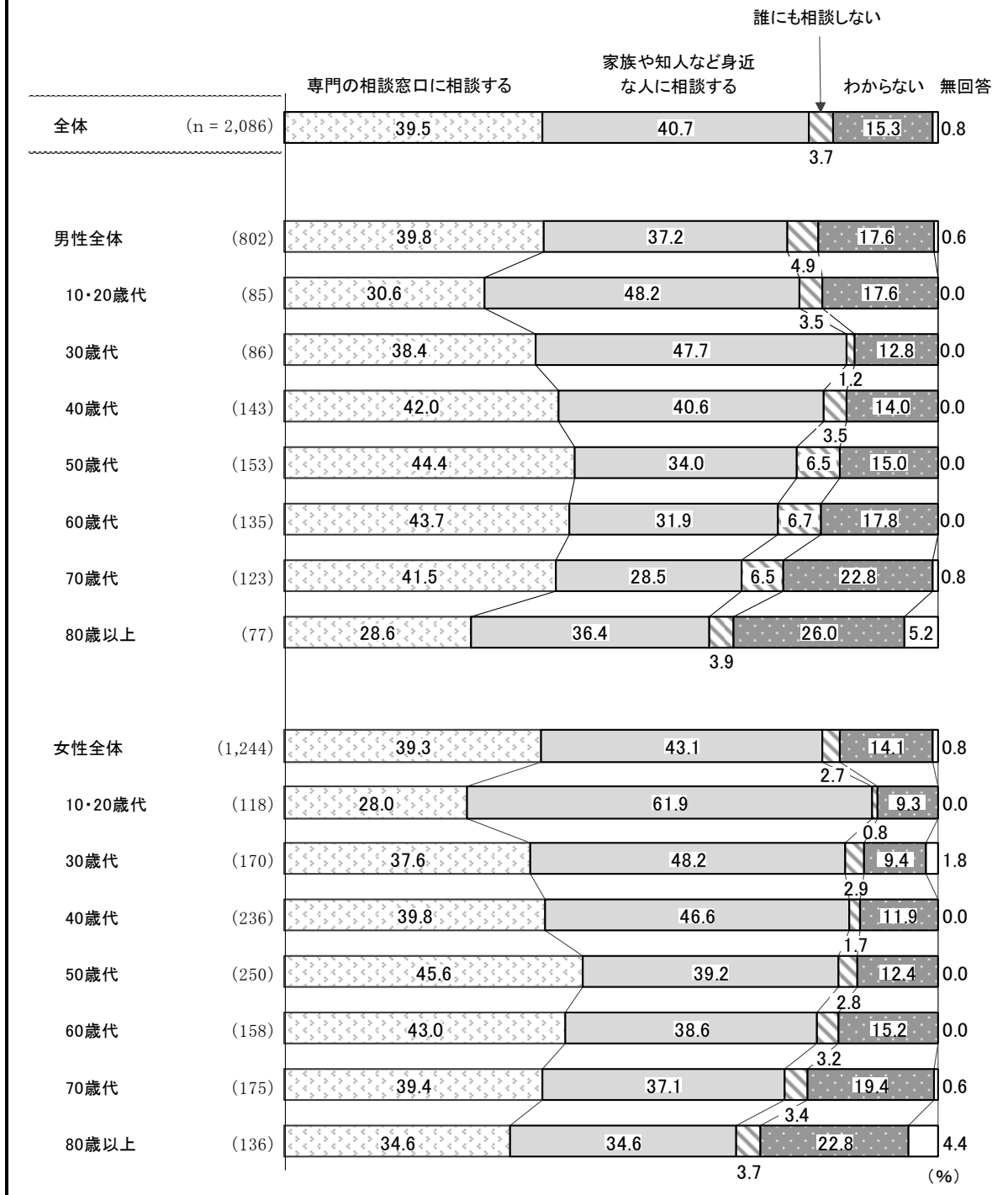
図 13-4-2 DV被害にあったときの相談先（時系列）



<調査結果>

平成30年度からの時系列の変化をみると、《相談する》は平成30年度（77.0%）から令和3年度（80.2%）でわずかに増加している。（図13-4-2）

図 13-4-3 DV被害にあったときの相談先（性・年齢別）



<調査結果>

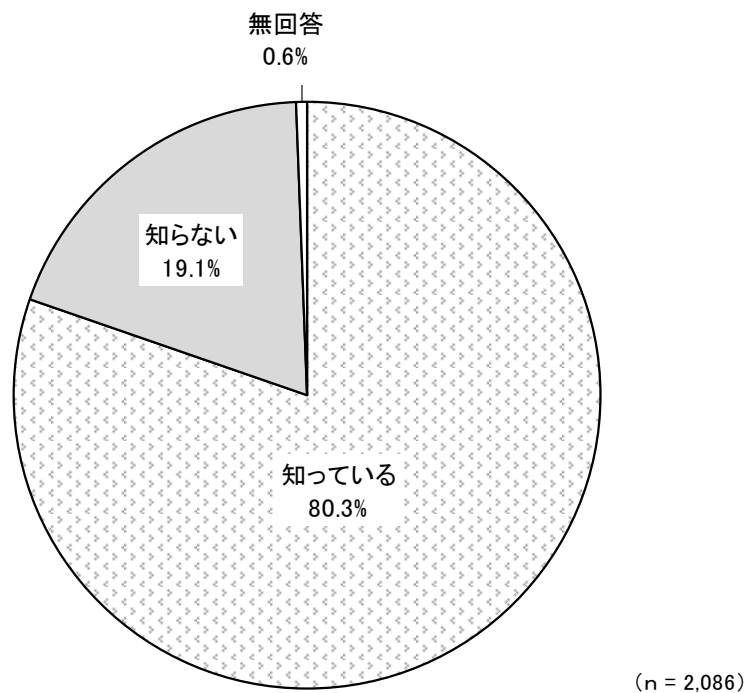
性・年齢別にみると、女性は80歳以上を除いて、「家族や知人など身近な人に相談する」が男性より高く、10・20歳代は6割を超えている。「専門の相談窓口」は男性は40歳代～70歳代、女性は50歳代～70歳代で「家族や知人など身近な人に相談する」より高くなっている。(図13-4-3)

## (5) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎「知っている」が8割

問38 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

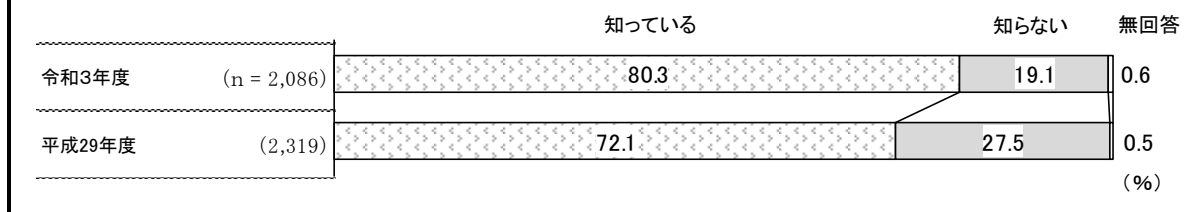
図13-5-1



### <調査結果>

性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(80.3%)が8割、「知らない」(19.1%)がほぼ2割となっている。(図13-5-1)

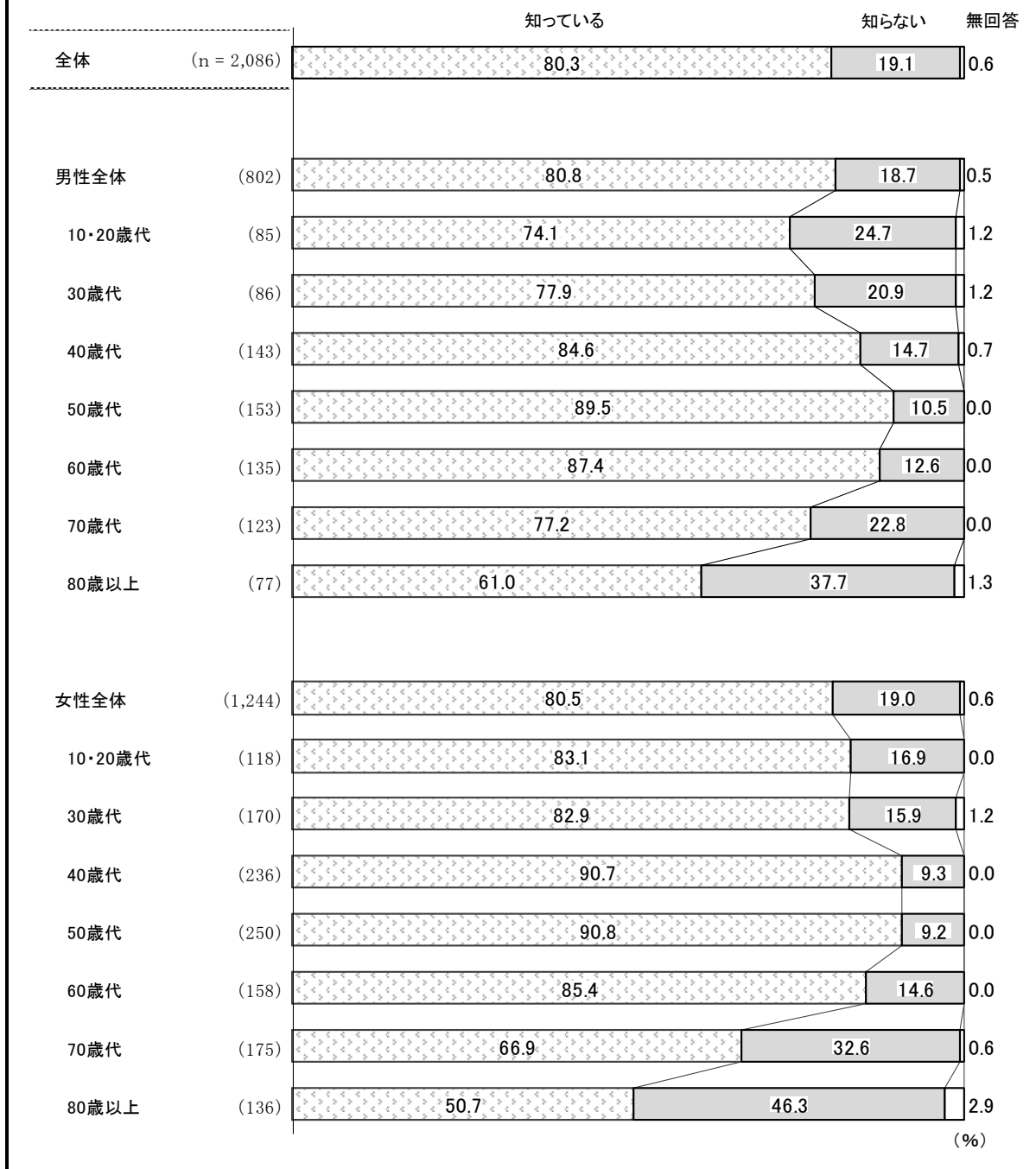
図 13-5-2 性的マイノリティという言葉の認知度（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、「知っている」は平成 29 年度（72.1%）から令和 3 年度（80.3%）で増加している。（図 13-5-2）

図 13-5-3 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、性別による大きな差異はみられない。「知っている」は女性の 40 歳代、50 歳代がほぼ 9 割、男性の 50 歳代が 9 割となっている。(図 13-5-3)



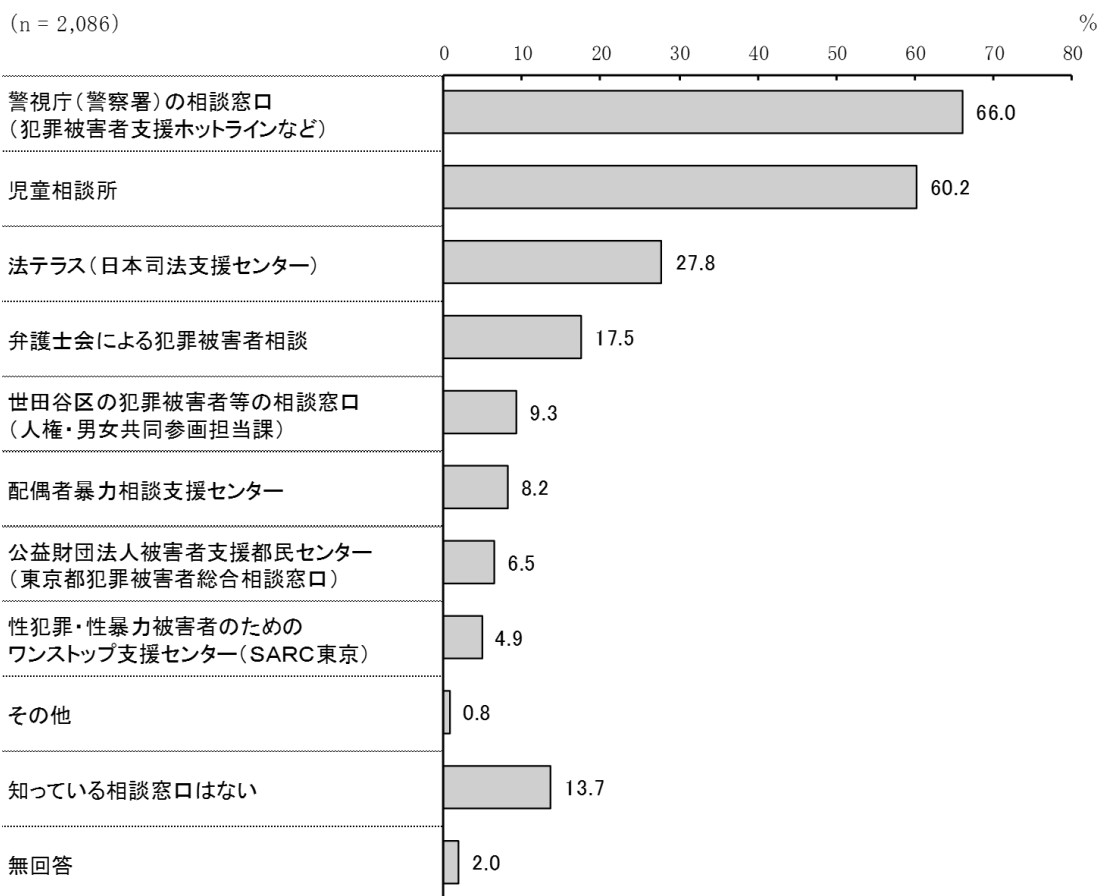
## 14. 犯罪被害者支援

### (1) 犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況

◎「警視庁（警察署）の相談窓口」が6割半ば

問39 あなたが、以下の犯罪被害者とその家族または遺族の支援のための相談窓口の中で、知っているものはどれですか。（〇はいくつでも）

図 14-1-1



#### <調査結果>

犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況について聞いたところ、「警視庁（警察署）の相談窓口」（66.0%）が6割半ば、次いで、「児童相談所」（60.2%）が6割と高い。以下、「法テラス（日本司法支援センター）」（27.8%）、「弁護士会による犯罪被害者相談」（17.5%）、「世田谷区の犯罪被害者等の相談窓口（人権・男女共同参画担当課）」（9.3%）などと続く。「知っている相談窓口はない」（13.7%）は1割を超えている。（図 14-1-1）

表 14-1-1 犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況（時系列）

相談窓口	令和 元年度	令和 3年度
n	2171	2,086
警視庁（警察署）の相談窓口（犯罪被害者支援ホットラインなど）	60.9	66.0
児童相談所	63.6	60.2
法テラス（日本司法支援センター）	29.0	27.8
弁護士会による犯罪被害者相談	—	17.5
世田谷区の犯罪被害者等の相談窓口（人権・男女共同参画担当課）	8.5	9.3
配偶者暴力相談支援センター	8.6	8.2
公益財団法人被害者支援都民センター（東京都犯罪被害者総合相談窓口）	3.8	6.5
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（SARC東京）	2.9	4.9

※令和元年度調査では、「弁護士会による犯罪被害者相談」の選択肢はありません。

#### <調査結果>

令和元年度からの時系列の変化をみると、「警視庁（警察署）の相談窓口（犯罪被害者支援ホットラインなど）」は令和元年度（60.9%）から令和3年度（66.0%）で増加している。  
（表 14-1-1）

表 14-1-2 犯罪被害者支援の相談窓口の認知状況（性・年齢別）

		(%)											
区分	n	警視庁（警察署）の相談窓口（犯罪被害者支援ホットラインなど）	公益財団法人被害者支援都民センター（東京都犯罪被害者総合相談窓口）	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（SARC東京）	世田谷区の犯罪被害者等の相談窓口（人権・男女共同参画担当課）	児童相談所	配偶者暴力相談支援センター	弁護士会による犯罪被害者相談	法テラス（日本司法支援センター）	その他	知っている相談窓口はない	無回答	
全 体	2,086	66.0	6.5	4.9	9.3	60.2	8.2	17.5	27.8	0.8	13.7	2.0	
性・年齢別	男性全体	802	64.7	6.9	4.4	10.3	53.0	6.6	18.7	27.2	1.4	17.6	1.6
	10・20 歳代	85	67.1	9.4	9.4	12.9	55.3	10.6	20.0	32.9	4.7	14.1	—
	30 歳代	86	65.1	7.0	4.7	8.1	59.3	12.8	11.6	36.0	3.5	14.0	—
	40 歳代	143	60.8	8.4	7.7	10.5	61.5	7.7	18.9	35.0	1.4	17.5	0.7
	50 歳代	153	71.9	6.5	3.9	6.5	54.9	6.5	20.3	26.8	0.7	17.6	0.7
	60 歳代	135	65.2	5.2	3.7	11.1	59.3	3.7	21.5	28.9	—	17.8	1.5
	70 歳代	123	60.2	6.5	0.8	13.0	40.7	4.1	18.7	19.5	0.8	19.5	1.6
	80 歳以上	77	61.0	5.2	—	11.7	32.5	2.6	16.9	6.5	—	22.1	9.1
	女性全体	1,244	67.1	6.2	5.2	8.6	65.4	9.5	16.8	28.5	0.4	10.9	2.1
	10・20 歳代	118	70.3	12.7	5.9	10.2	73.7	11.9	11.0	29.7	—	11.0	—
	30 歳代	170	70.6	4.7	5.3	7.1	75.3	7.6	10.6	39.4	—	6.5	1.8
	40 歳代	236	72.5	5.5	7.6	6.4	70.3	10.2	19.5	39.4	—	9.7	0.8
	50 歳代	250	67.2	8.0	8.4	8.4	72.4	11.2	20.8	35.2	0.4	9.2	1.6
	60 歳代	158	69.6	5.7	3.2	8.2	68.4	12.0	24.1	25.9	—	7.6	1.3
	70 歳代	175	61.7	4.6	2.3	10.3	52.6	5.1	16.0	12.0	0.6	18.3	2.3
	80 歳以上	136	55.1	2.9	0.7	11.8	37.5	8.1	10.3	7.4	2.2	15.4	8.1

<調査結果>

性・年齢別にみると、「警視庁（警察署）の相談窓口」はいずれの年代も5割半ば～7割を超えと高い。「児童相談所」は男性より女性の方が高く、30歳代で7割半ばとなっている。「法テラス（日本司法支援センター）」は女性の30歳代と40歳代でほぼ4割、男性の30歳代と40歳代で3割半ばとなっている。（表 14-1-2）

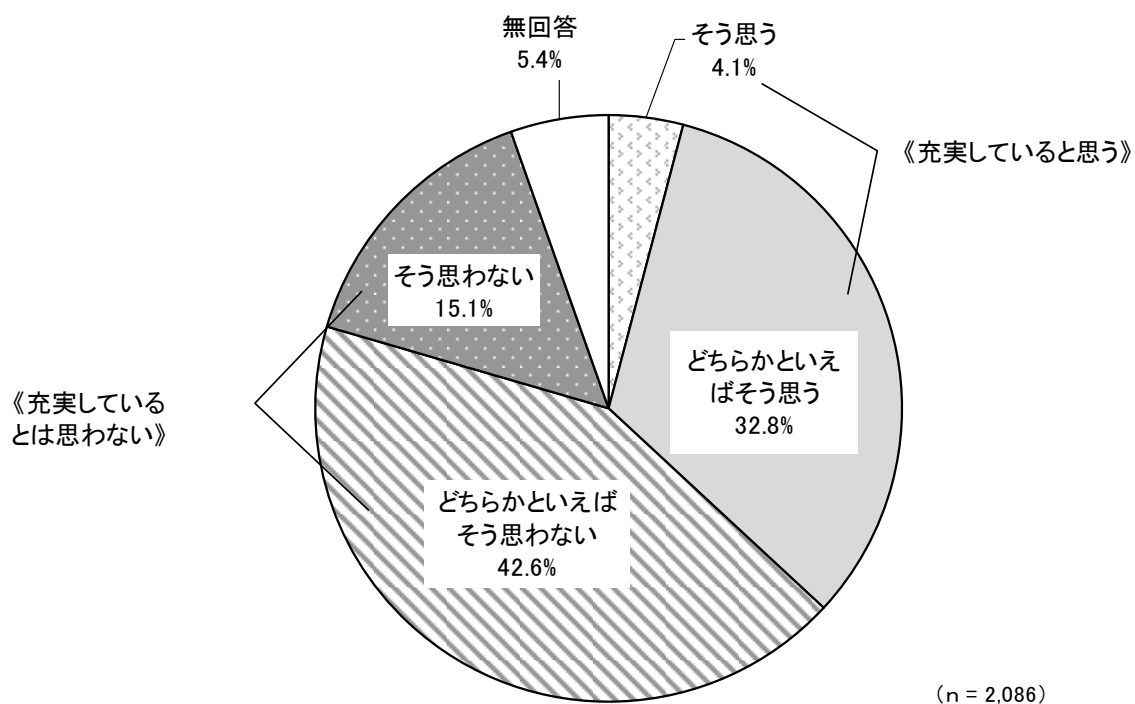
## 15. 多文化共生

### (1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

◎ 《充実しているとは思わない》が6割近く

問40 あなたは、「外国人と日本人が共に暮らす」という視点からみて、区の多文化共生社会の実現に向けた施策が充実していると思いますか。(〇は1つ)

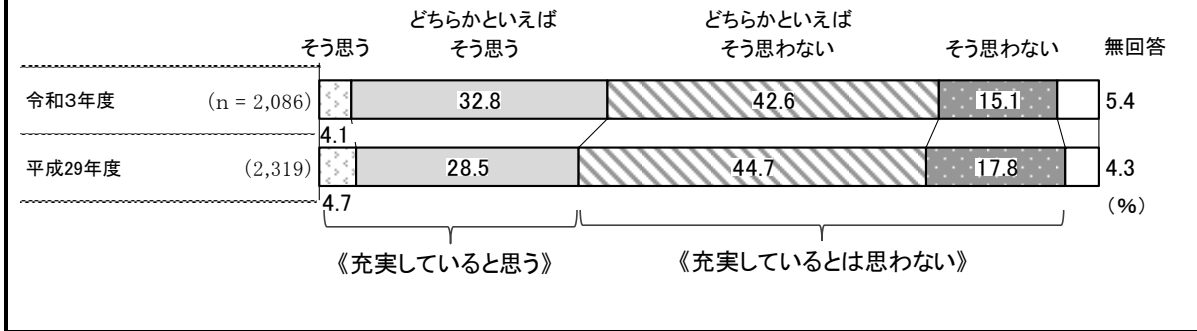
図 15-1-1



#### <調査結果>

区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(42.6%)が4割を超えて最も高く、「そう思わない」(15.1%)と合わせた《充実しているとは思わない》(57.7%)が6割近くとなっている。「どちらかといえばそう思う」(32.8%)と「そう思う」(4.1%)を合わせた《充実していると思う》(36.9%)は4割近くにとどまっている。(図 15-1-1)

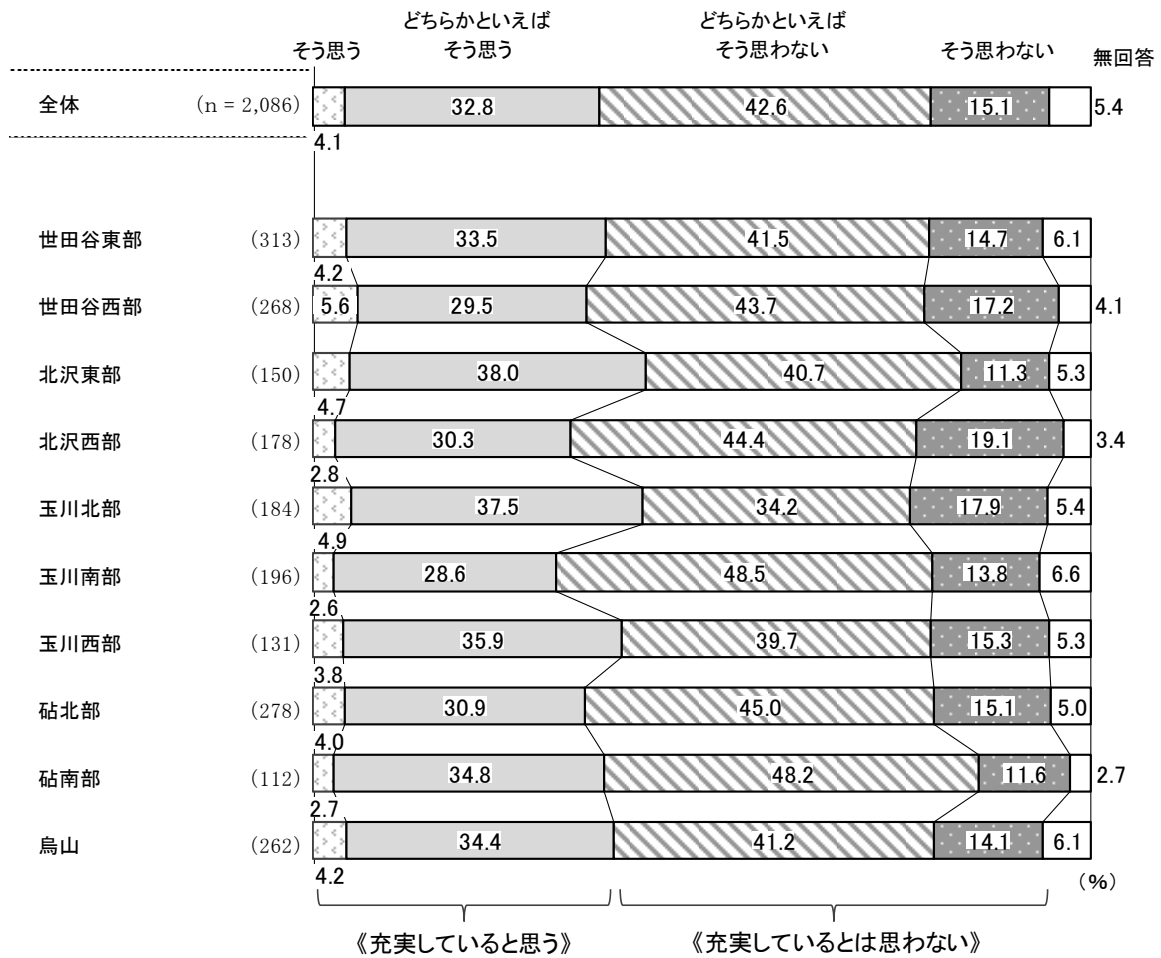
図 15-1-2 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度（時系列）



<調査結果>

平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《充実していると思う》は平成 29 年度（33.2%）から令和 3 年度（36.9%）でわずかに増加している。（図 15-1-2）

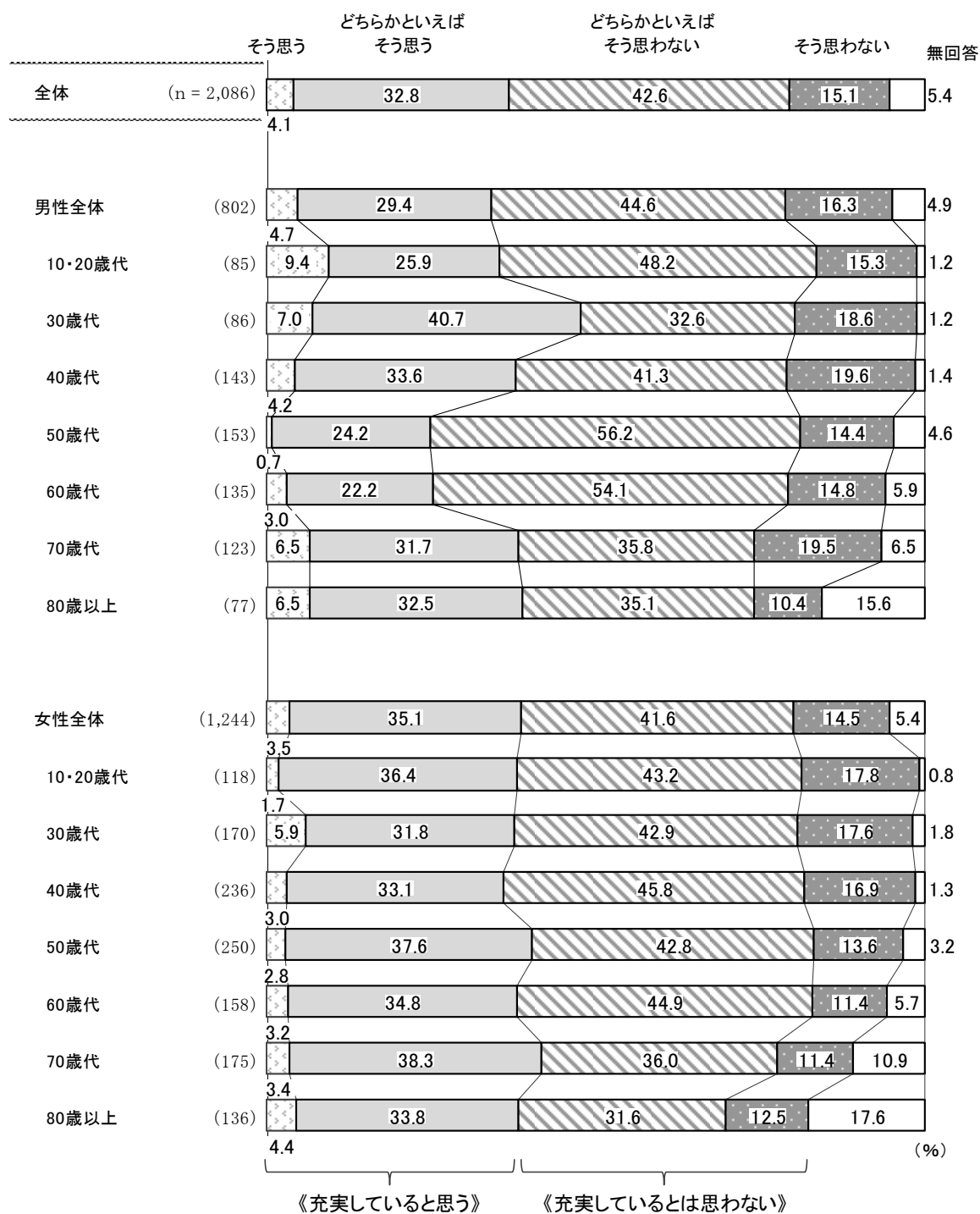
図 15-1-3 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、《充実していると思う》は北沢東部、玉川北部で4割を超えている。《充実しているとは思わない》は北沢西部、玉川南部で6割を超えている。（図 15-1-3）

図 15-1-4 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度（性・年齢別）



<調査結果>

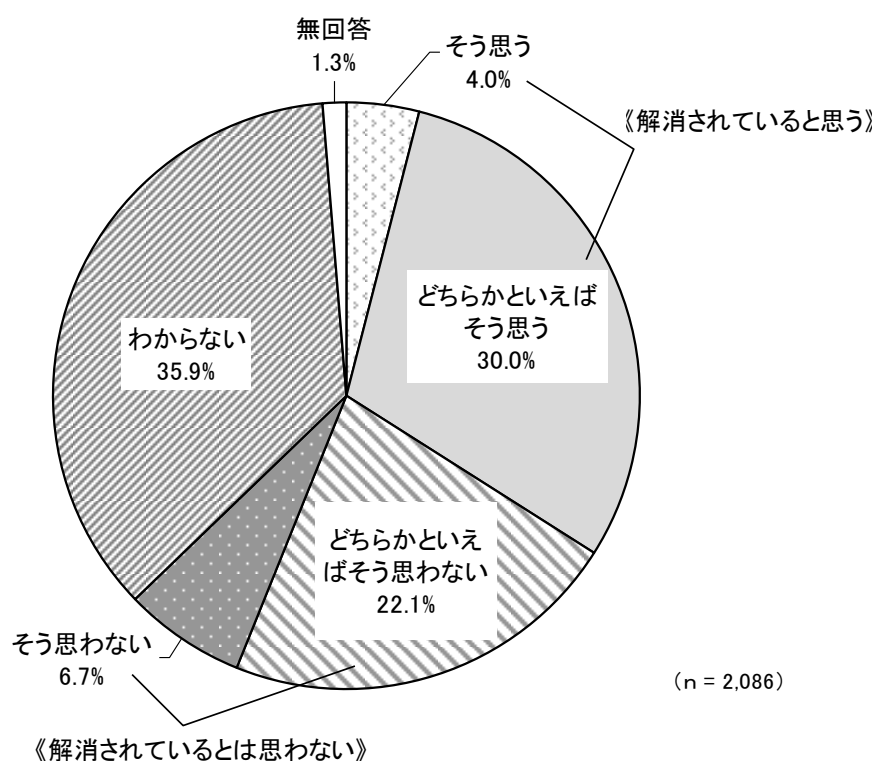
性・年齢別にみると、《充実していると思う》は男性の30歳代で5割近く、女性の70歳代で4割を超えている。《充実しているとは思わない》は男性の50歳代でほぼ7割、女性の10・20歳代、40歳代で6割を超えている。（図 15-1-4）

## (2) 外国人に対する偏見や差別の解消

◎ 《解消されていると思う》が3割半ば、《解消されているとは思わない》が3割近く

問41 区では、多様な文化を理解し合える交流イベント等を開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人に対する偏見や差別が解消されていると思いますか。(〇は1つ)

図 15-2-1

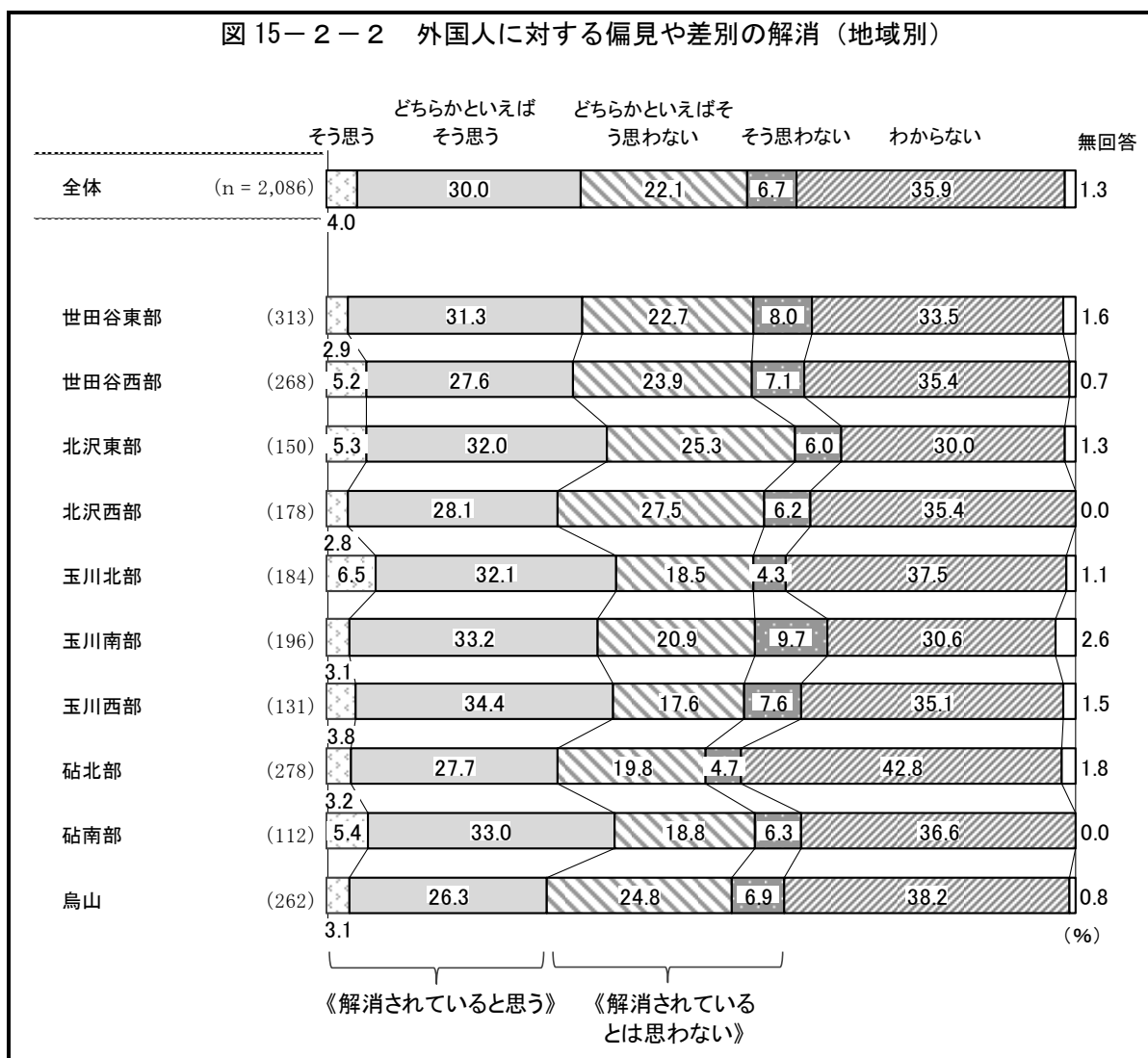


### <調査結果>

区内において外国人に対する偏見や差別が解消されているかについて聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(30.0%)が3割と最も高く、「そう思う」(4.0%)と合わせた《解消されていると思う》(34.0%)が3割半ばとなっている(「わからない」は除く)。「どちらかといえばそう思わない」(22.1%)と「そう思わない」(6.7%)を合わせた《解消されているとは思わない》(28.8%)は3割近くと、《解消されていると思う》と《解消されているとは思わない》の差は小さくなっている。(図 15-2-1)



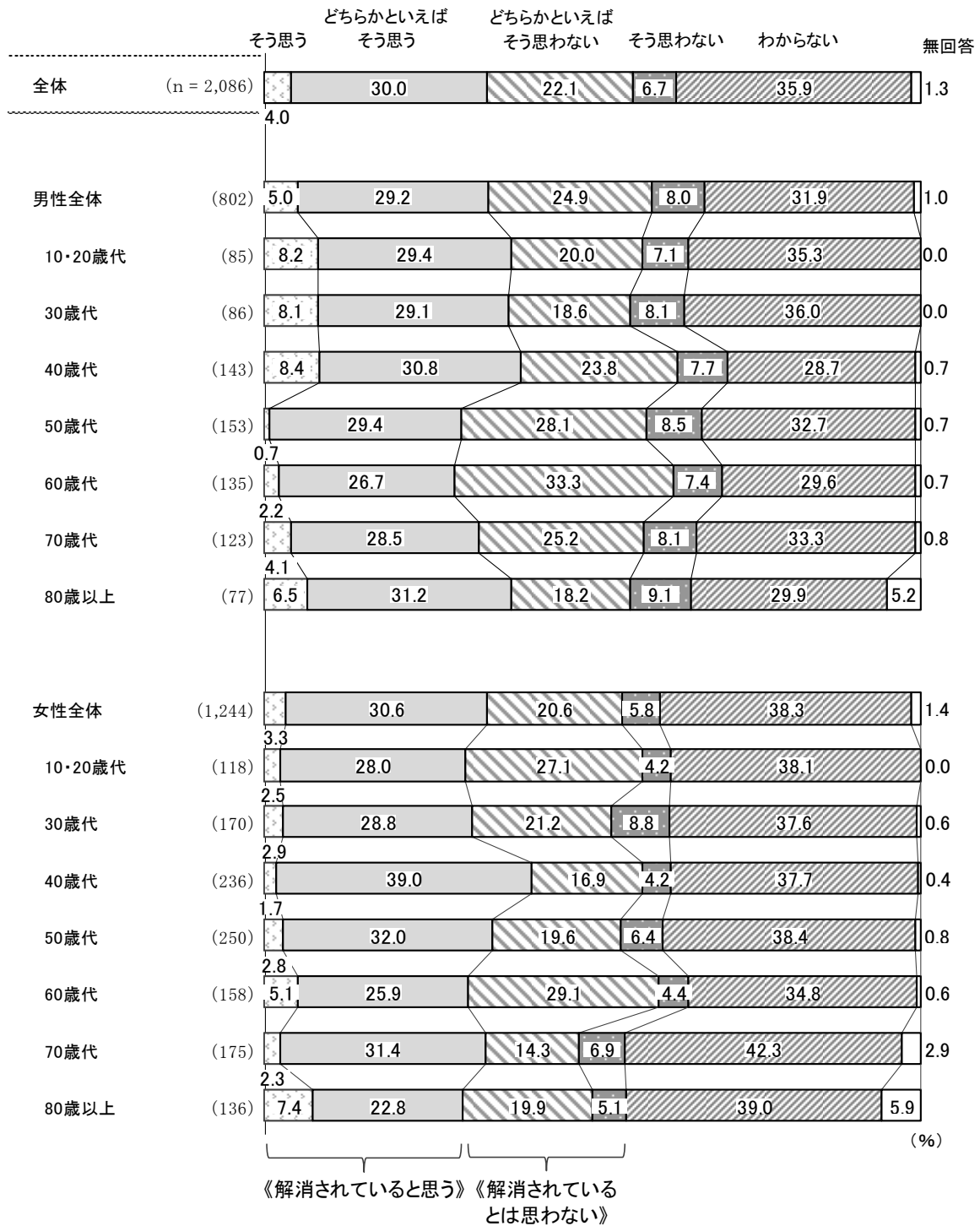
図 15-2-2 外国人に対する偏見や差別の解消（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、《解消されていると思う》は北沢東部、玉川北部、玉川西部、砧南部で4割近くとなっている。《解消されているとは思わない》は世田谷西部、北沢東部、北沢西部、烏山で3割を超えている。（図 15-2-2）

図 15-2-3 外国人に対する偏見や差別の解消（性・年齢別）



<調査結果>

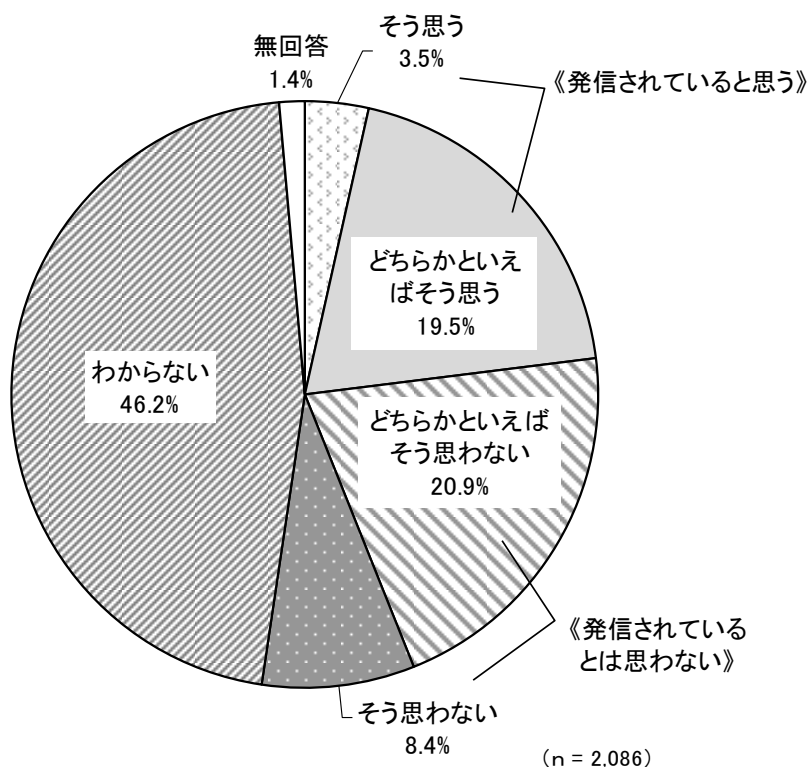
性・年齢別にみると、《解消されていると思う》は女性の40歳代でほぼ4割、男性の40歳代でほぼ4割となっている。《解消されているとは思わない》は男性の60歳代でほぼ4割、女性の10・20歳代、60歳代で3割を超えている。（図 15-2-3）

### (3) 外国人へのわかりやすい情報発信

◎ 《発信されていると思う》が2割を超え、《発信されているとは思わない》がほぼ3割

問42 区の情報が多言語や、「やさしい日本語」などにより区内の外国人にもわかりやすく発信されていると思いますか。(〇は1つ)

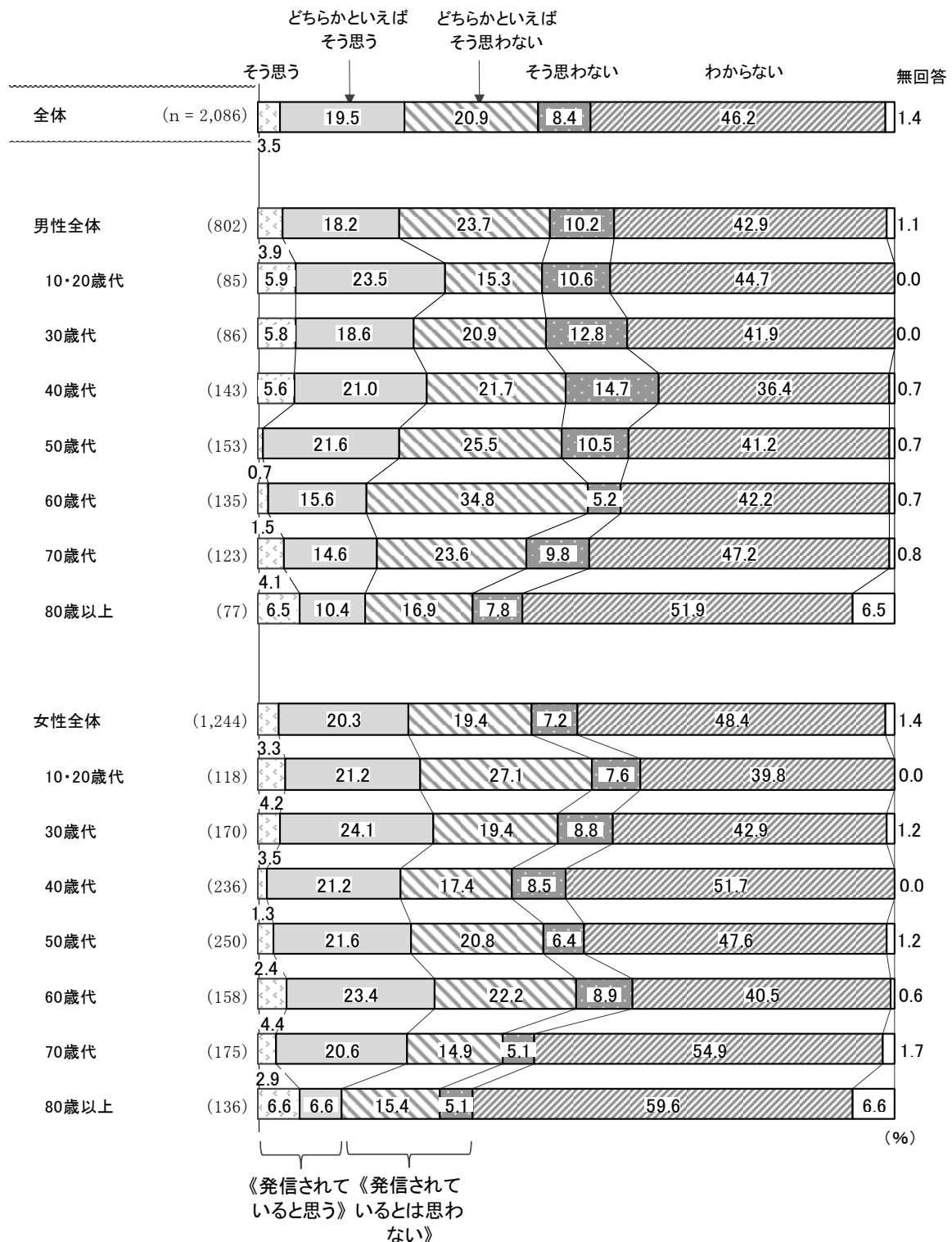
図 15-3-1



#### <調査結果>

外国人へのわかりやすい情報発信がされているか聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(20.9%)がほぼ2割と最も高く、「そう思わない」(8.4%)と合わせた《発信されているとは思わない》(29.3%)がほぼ3割となっている(「わからない」は除く)。「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(19.5%)を合わせた《発信されていると思う》(23.0%)は2割を越えるにとどまっている。(図 15-3-1)

図 15-3-2 外国人へのわかりやすい情報発信（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、「発信されていると思う」は男性の10・20歳代でほぼ3割、女性の30歳代、60歳代で3割近くとなっている。「発信されているとは思わない」は男性の60歳代で4割、女性の10・20歳代で3割半ばとなっている。(図15-3-2)

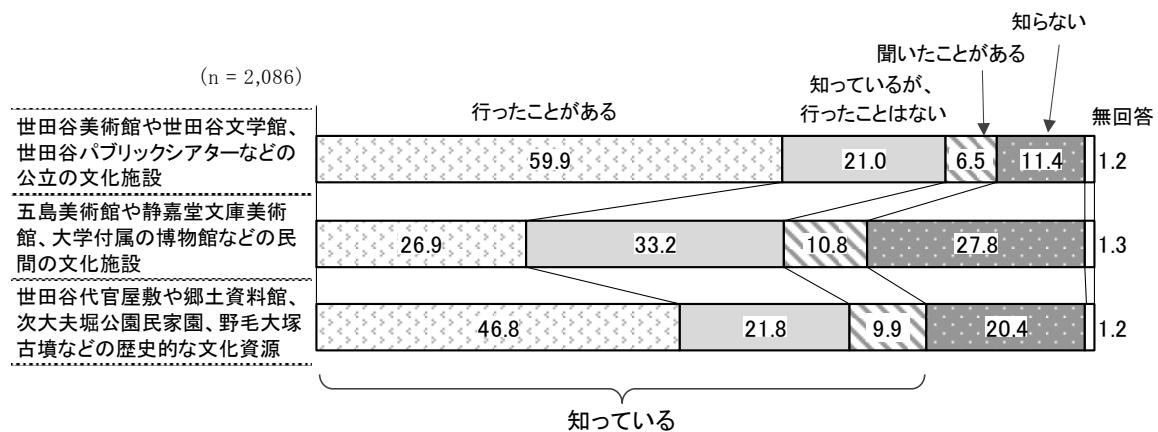
## 16. 文化活動

### (1) 区内の文化資源の認知度

◎ 「行ったことがある」は公立の文化施設が6割、歴史的な文化資源が4割半ば

問43 あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図 16-1-1

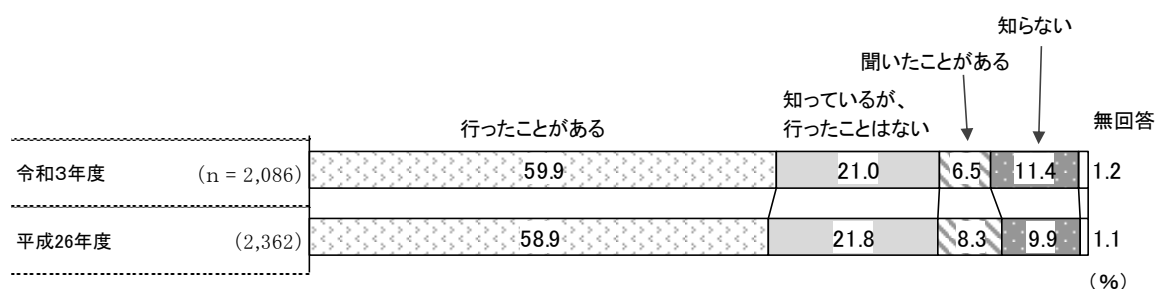


#### <調査結果>

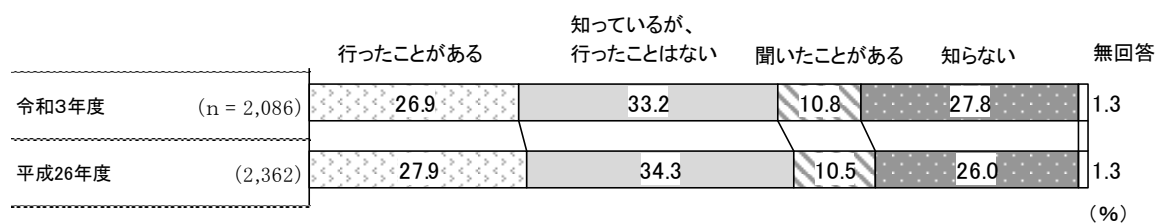
区内の文化資源についてどの程度知っているか聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設(59.9%)が6割で最も高く、歴史的な文化資源(46.8%)が5割近く、民間の文化施設(26.9%)が3割近くとなっている。《知っている》は、公立の文化施設が9割近くで最も高い。(図16-1-1)

図 16-1-2 区内の文化資源の認知度（時系列）

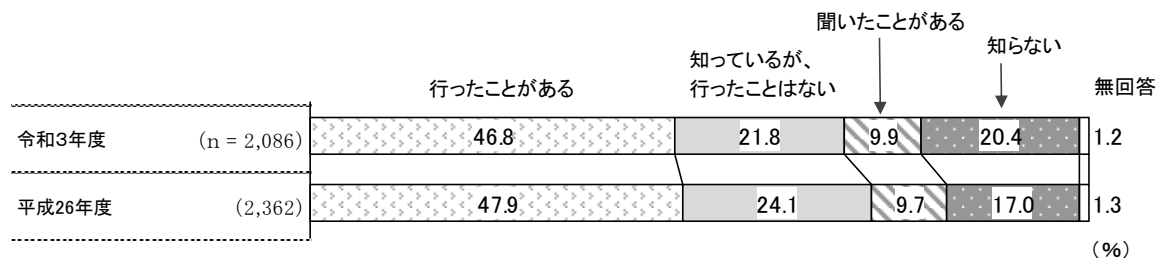
「公立の文化施設」(時系列)



「民間の文化施設」(時系列)



「歴史的な文化資源」(時系列)



<調査結果>

「公立の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度 (58.9%) から令和 3 年度 (59.9%) で大きな違いはみられない。

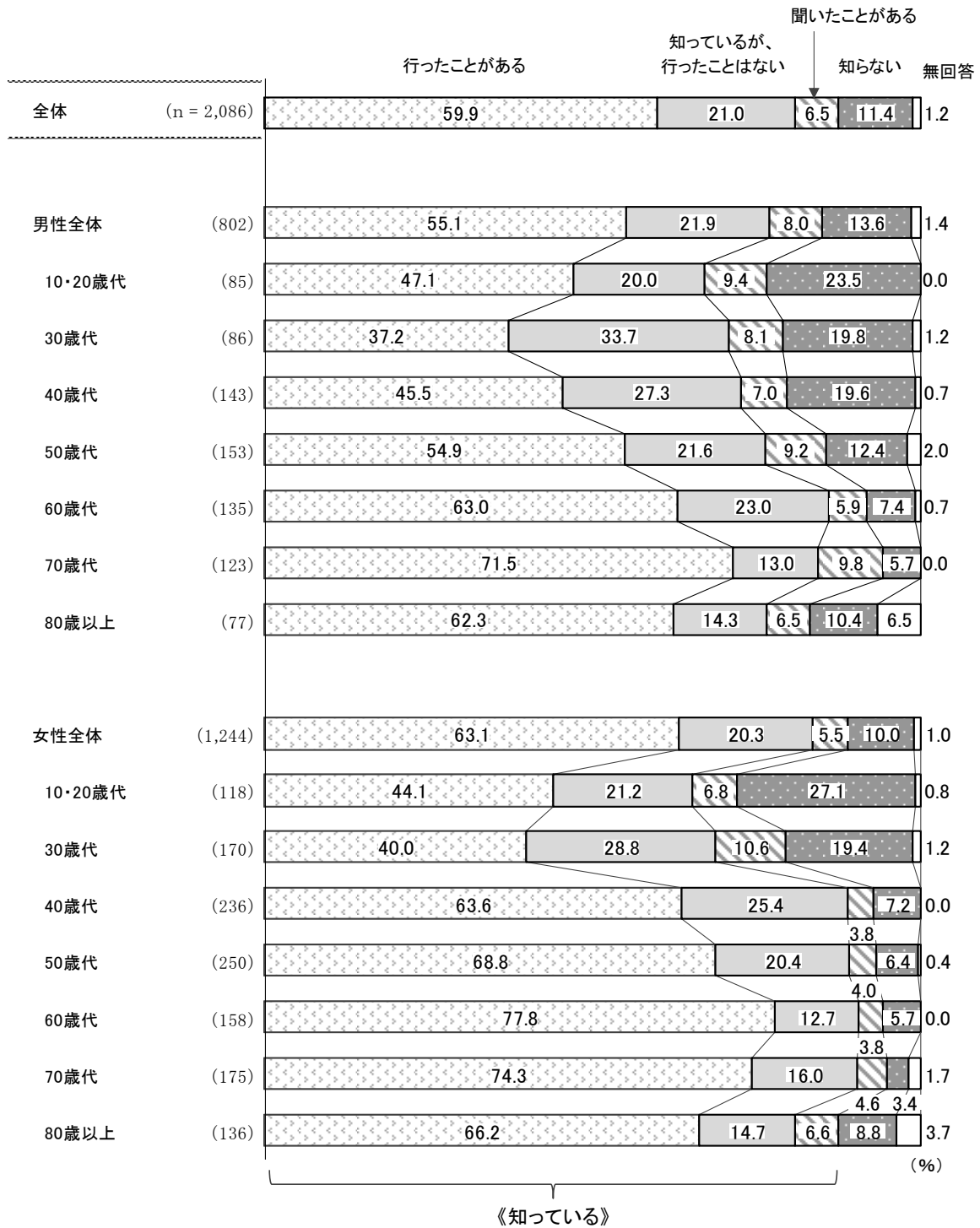
「民間の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度 (27.9%) から令和 3 年度 (26.9%) で大きな違いはみられない。

「歴史的な文化資源」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度 (47.9%) から令和 3 年度 (46.8%) で大きな違いはみられない。

(図 16-1-2)

図 16-1-3 区内の文化資源の認知度

公立の文化施設（性・年齢別）

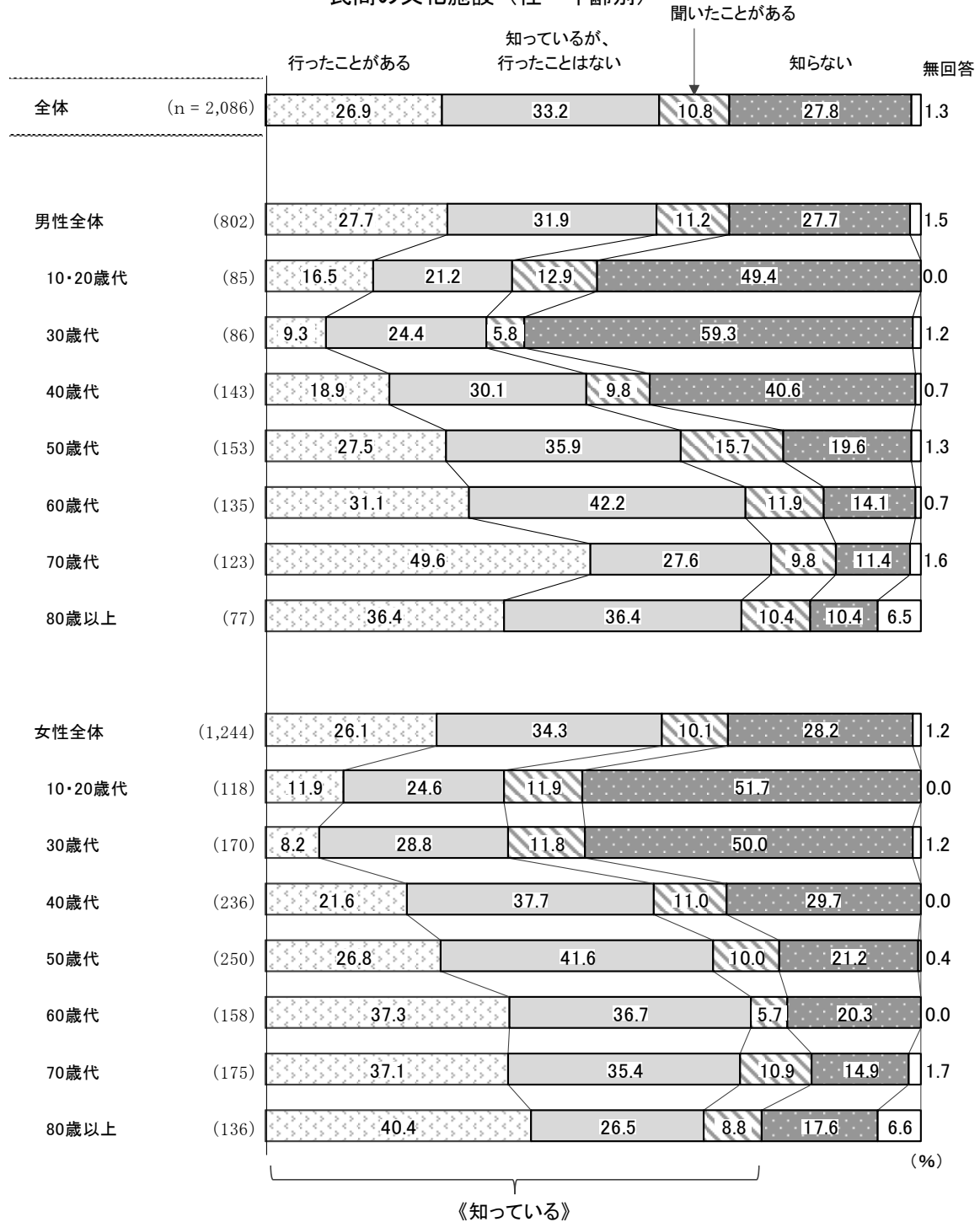


〈調査結果〉

「公立の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の60歳代で8割近くとなっている。「知らない」は女性の10・20歳代で3割近く、男性の10・20歳代で2割を超えている。(図 16-1-3)

図 16-1-4 区内の文化資源の認知度

民間の文化施設（性・年齢別）



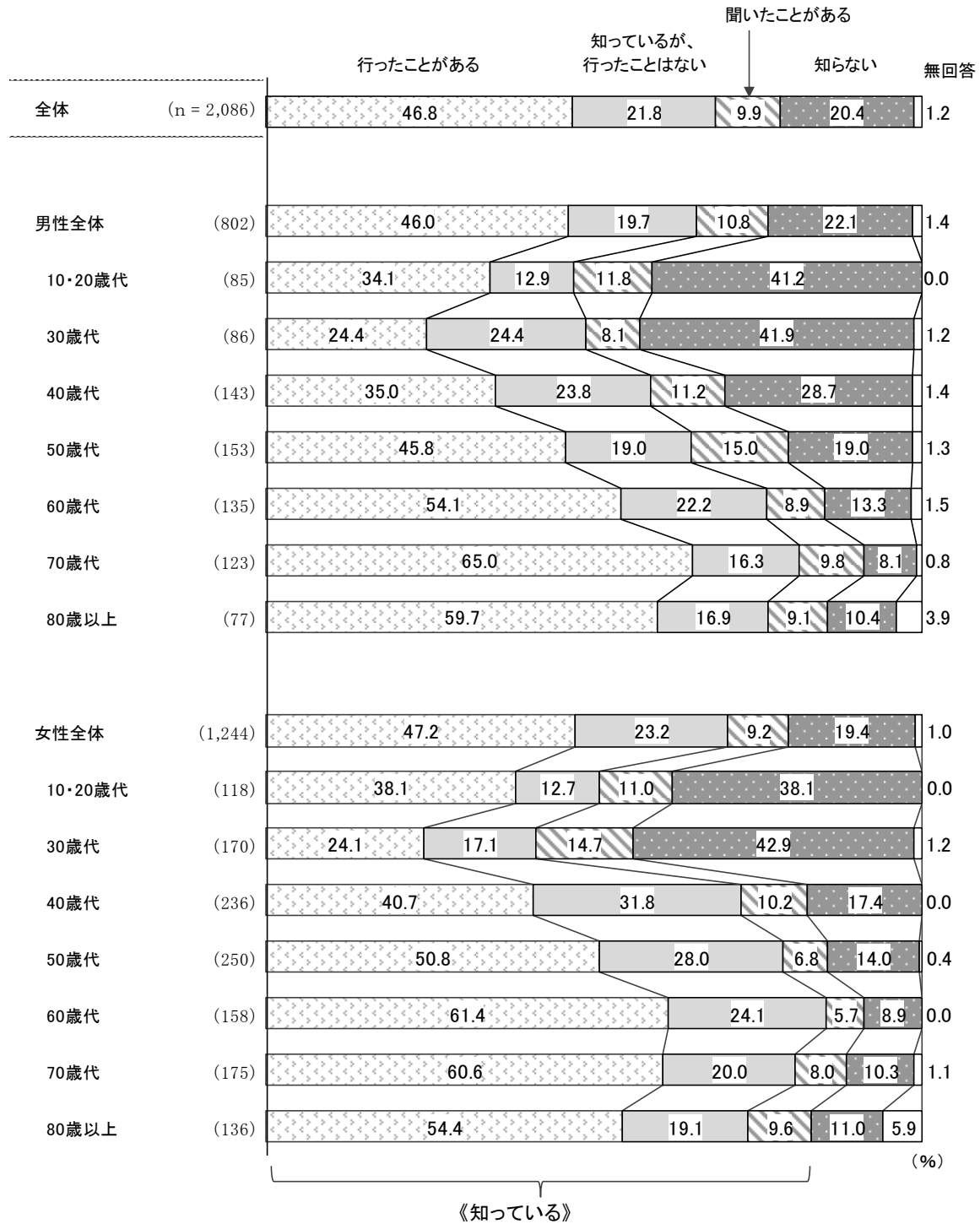
〈調査結果〉

「民間の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は男性の70歳代で5割となっている。「知らない」は男性の30歳代でほぼ6割、女性の10・20歳代で5割を超えている。(図 16-1-4)



図 16-1-5 区内の文化資源の認知度

歴史的な文化資源（性・年齢別）



〈調査結果〉

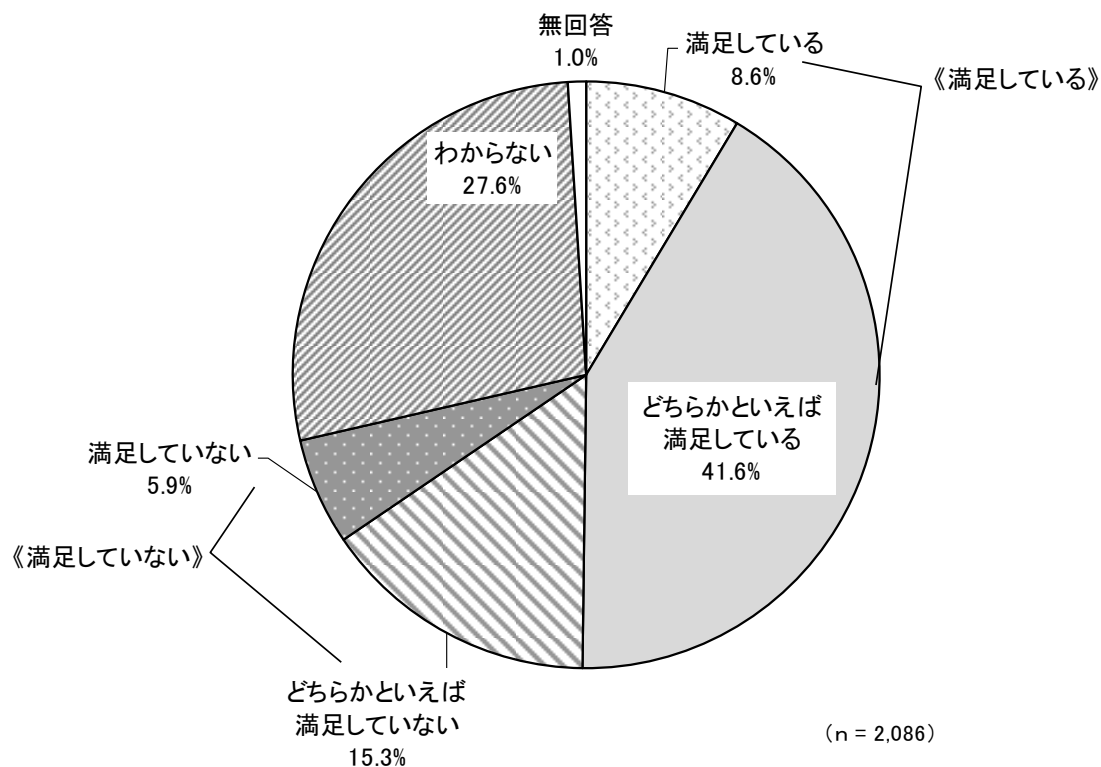
「歴史的な文化資源」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は男性の70歳代で6割半ばとなっている。「知らない」は女性の30歳代、男性の10・20歳代、30歳代で4割を超えている。(図16-1-5)

## (2) 区内の文化資源環境への満足度

◎ 《満足している》が5割近く

問44 あなたは、区内の文化・芸術に親しめる環境に満足していますか。(○は1つ)

図16-2-1

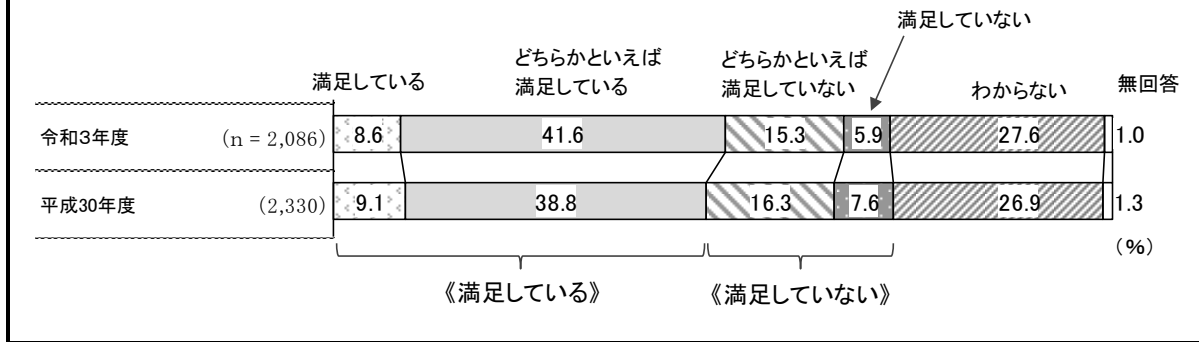


### <調査結果>

区内の文化資源環境への満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足している」（どちらかといえば満足している%）が4割を超え、「満足している」（8.6%）と合わせた《満足している》（50.2%）が5割となっている。一方、「どちらかといえば満足していない」（15.3%）と「満足していない」（5.9%）を合わせた《満足していない》（21.2%）は2割を超えている。

(図16-2-1)

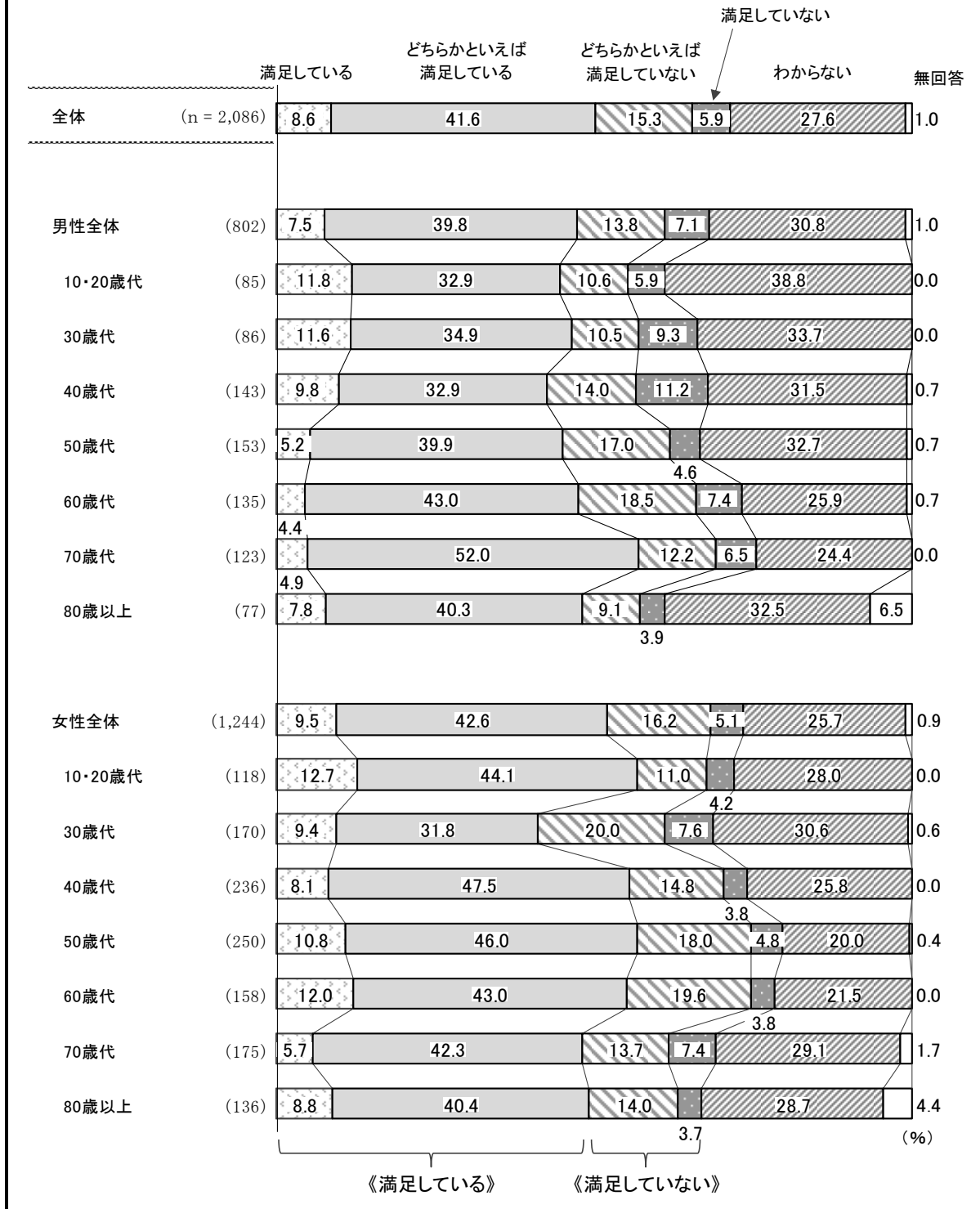
図 16-2-2 区内の文化資源環境への満足度（時系列）



<調査結果>

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《満足していない》は、平成 30 年度 (23.9%) から令和 3 年度 (21.2%) でわずかに減少している。(図 16-2-2)

図 16-2-3 区内の文化資源環境への満足度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《満足している》は男性の70歳代は5割半ば、女性の10・20歳代と50歳代で6割近くとなっている。《満足していない》は女性の30歳代で3割近く、男性の40歳代と60歳代で2割半ばとなっている。(図 16-2-3)

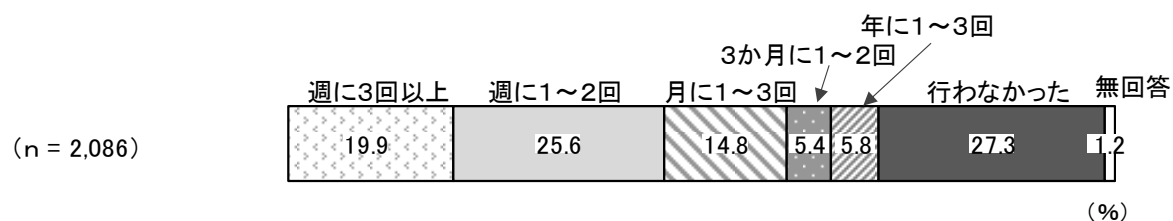
## 17. スポーツ

### (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数

◎「週に1～2回」が2割半ば、「週に3回以上」が2割

問45 あなたがこの1年間にスポーツや運動（ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は1つ）

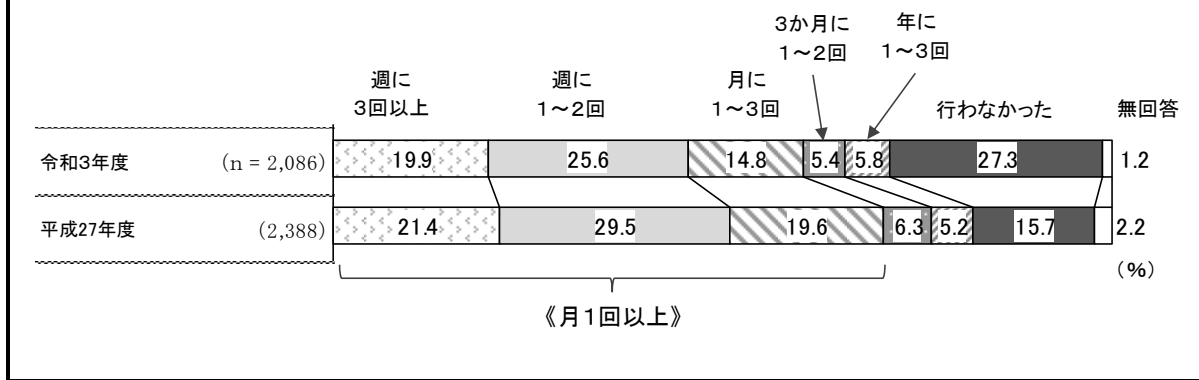
図 17-1-1



#### <調査結果>

この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に1～2回」(25.6%)が2割半ばで最も高く、以下、「週に3回以上」(19.9%)、「月に1～3回」(14.8%)などと続く。「行わなかった」(27.3%)は3割近くとなっている。(図 17-1-1)

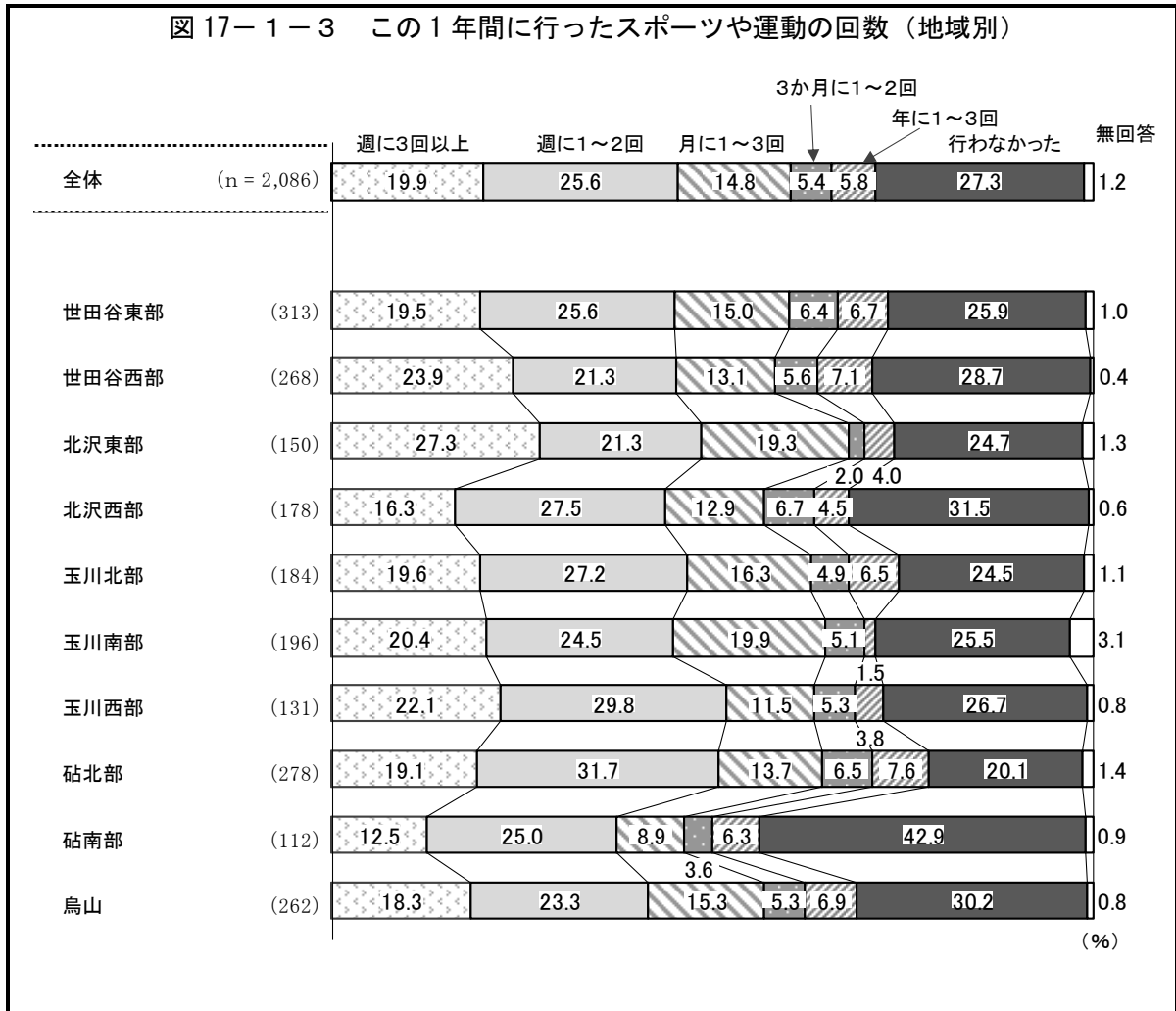
図 17-1-2 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（時系列）



<調査結果>

平成27年度からの時系列の変化をみると、《月1回以上》は、平成27年度（70.5%）から令和3年度（60.3%）で減少している。（図17-1-2）

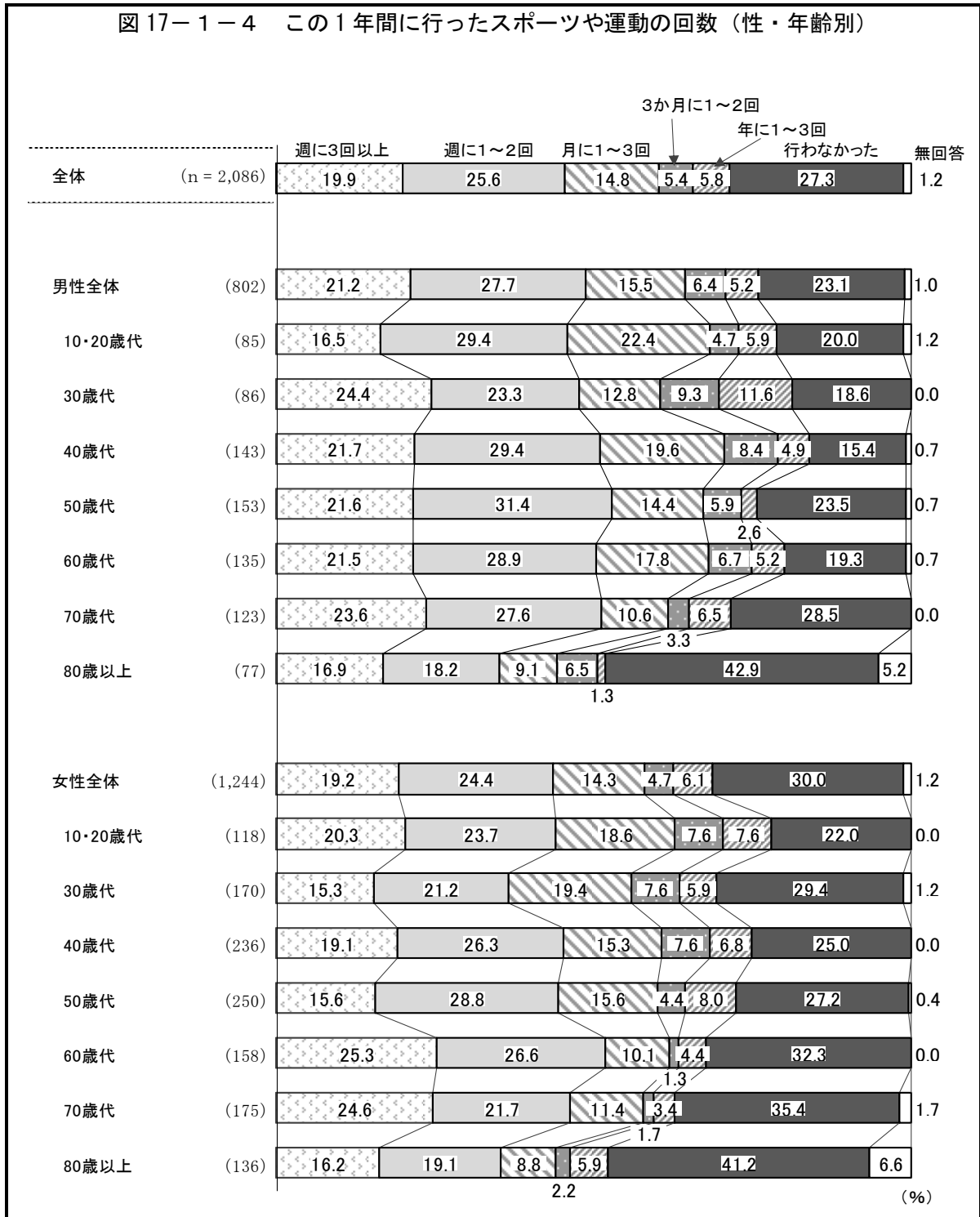
図 17-1-3 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（地域別）



〈調査結果〉

地域別にみると、「週に3回以上」は北沢東部で3割近くとなっている。週に1回以上（「週に3回以上」＋「週に1～2回」）は玉川西部で5割を超え、砧北部ではほぼ5割となっている。月に1回以上（「週に3回以上」＋「週に1～2回」＋「月に1～3回」）は砧南部が4割半ばで他の地域より低い。（図 17-1-3）

図 17-1-4 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（性・年齢別）



<調査結果>

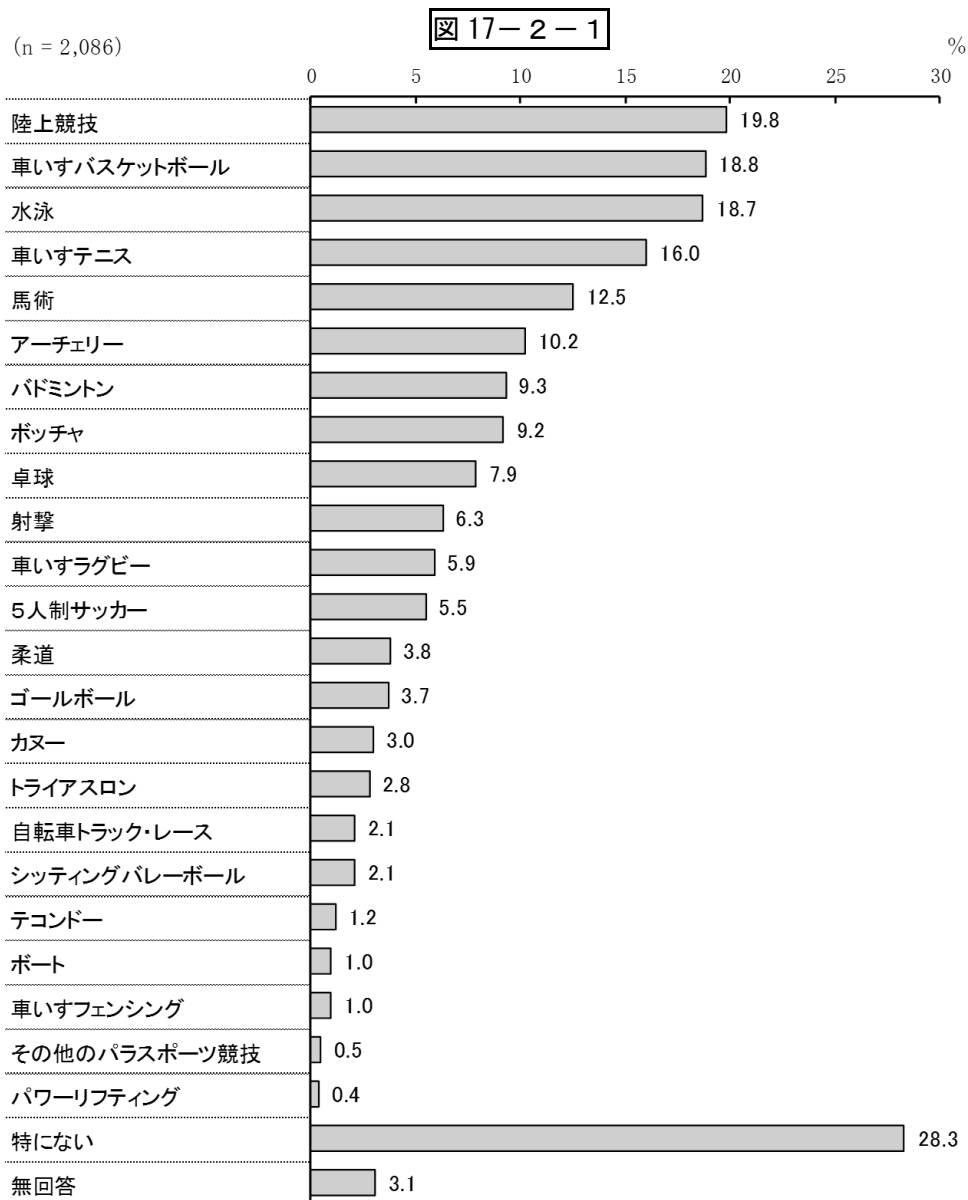
性・年齢別にみると、「週に3回以上」は男性の30歳代、女性の60歳代、70歳代で2割半ばとなっている。週に1回以上は男性の40歳代、50歳代、70歳代、女性の60歳代が5割を超え、月に1回以上は男性の40歳代でほぼ7割、男性の10・20歳代、50歳代、60歳代で7割近くとなっている。(図 17-1-4)



## (2) 観戦またはやってみたいパラスポーツ

◎「陸上競技」が2割、「車いすバスケットボール」「水泳」が2割近く

問46 あなたが観戦（会場での観戦、テレビ観戦等）してみたい、またはやってみたい（イベント会場での体験を含む）と思うパラスポーツはどれですか。（以下の項目1～22の競技は、東京2020パラリンピック競技大会実施競技です。）（○は3つまで）



### <調査結果>

観戦またはやってみたいパラスポーツについて聞いたところ、「陸上競技」（19.8%）が2割「車いすバスケットボール」（18.8%）、「水泳」（18.7%）が2割近くとなっている。以下、「車いすテニス」（16.0%）、「馬術」（12.5%）、「アーチェリー」（10.2%）などと続く。

（図 17-2-1）

表 17-2-1 観戦またはやってみたいパラスポーツ（時系列）

(%)

パラスポーツ	令和 2年度	令和 3年度
n	2,371	2,086
【1位】陸上競技	23.1	19.8
【2位】車いすバスケットボール	21.6	18.8
【3位】水泳	17.8	18.7
【4位】車いすテニス	18.3	16.0
【5位】馬術	11.7	12.5
【6位】アーチェリー	7.0	10.2
【7位】バドミントン	8.5	9.3
【8位】ボッチャ	8.1	9.2
【9位】卓球	8.7	7.9
【10位】射撃	5.7	6.3

<調査結果>

令和2年度からの時系列の変化をみると、「アーチェリー」は令和2年度（7.0%）から令和3年度（10.2%）でわずかに増加している。「車いすバスケットボール」は令和2年度（21.6%）から令和3年度（18.8%）でわずかに減少している。（表 17-2-1）

表 17-2-2 観戦またはやってみしたいパラスポーツ（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	陸上競技 19.8	車いすバスケットボール 18.8	水泳 18.7	車いすテニス 16.0	馬術 12.5	アーチェリー 10.2	バドミントン 9.3	ポッチャ 9.2	卓球 7.9	射撃 6.3
男性全体	802	陸上競技 19.0	車いすバスケットボール 18.2	水泳 17.5	車いすテニス 12.8	アーチェリー 10.1	ポッチャ/馬術 8.4	5人制サッカー 7.7	射撃 7.6	バドミントン/車いすラグビー 7.5	
10・20歳代	85	車いすバスケットボール 23.5	5人制サッカー/水泳 15.3	馬術 14.1	陸上競技/ポッチャ/車いすテニス 12.9	アーチェリー 11.8	バドミントン/射撃 8.2				
30歳代	86	車いすバスケットボール 25.6	陸上競技 19.8	水泳/車いすテニス 17.4	馬術 11.6	アーチェリー/5人制サッカー 10.5	バドミントン 9.3	自転車トラック・レース 8.1	ポッチャ/柔道/卓球 5.8		
40歳代	143	車いすバスケットボール 21.0	陸上競技 17.5	水泳 16.1	車いすテニス 15.4	馬術 14.7	5人制サッカー 11.9	ポッチャ 11.2	アーチェリー/射撃 9.8	バドミントン 8.4	
50歳代	153	車いすバスケットボール 20.9	陸上競技 20.3	水泳 18.3	車いすテニス 14.4	車いすラグビー 12.4	射撃 10.5	アーチェリー 9.2	バドミントン/ポッチャ 8.5	馬術 6.5	
60歳代	135	陸上競技 17.0	水泳/車いすバスケットボール 15.6	車いすテニス 11.1	アーチェリー 10.4	5人制サッカー 8.9	ポッチャ/ゴールボール/卓球 8.1	射撃 8.1	車いすラグビー 7.4		
70歳代	123	陸上競技 24.4	水泳 19.5	アーチェリー 10.6	車いすバスケットボール 9.8	射撃 8.9	車いすラグビー/車いすテニス 8.1	卓球 6.5	ポッチャ 5.7	柔道 4.9	
80歳以上	77	水泳 22.1	陸上競技 19.5	卓球 13.0	柔道/車いすバスケットボール 11.7	アーチェリー/車いすテニス 9.1	バドミントン 7.8	ポッチャ/馬術/車いすラグビー 5.2			
女性全体	1,244	陸上競技 20.4	車いすバスケットボール 19.5	水泳 19.4	車いすテニス 18.0	馬術 15.1	バドミントン 10.5	アーチェリー 10.2	ポッチャ 9.7	卓球 8.5	射撃 5.5
10・20歳代	118	車いすバスケットボール 23.7	馬術 16.1	アーチェリー/バドミントン/射撃/車いすテニス 15.3	水泳 12.7	陸上競技 11.9	ポッチャ 10.2	卓球 8.5			
30歳代	170	車いすバスケットボール 27.1	水泳 20.0	馬術 17.6	陸上競技 15.9	アーチェリー 14.7	車いすテニス 11.8	バドミントン 11.2	ポッチャ 7.6	射撃 7.1	卓球 6.5
40歳代	236	馬術 22.0	陸上競技/車いすテニス 21.2	車いすバスケットボール 19.5	水泳 17.4	ポッチャ 14.0	バドミントン 11.4	アーチェリー 9.3	5人制サッカー 6.4	射撃/車いすラグビー 5.5	
50歳代	250	車いすテニス 24.8	車いすバスケットボール 23.6	陸上競技 21.2	馬術 16.0	水泳 15.6	ポッチャ 12.4	アーチェリー 10.8	バドミントン 9.2	卓球 8.0	車いすラグビー 7.2
60歳代	158	車いすテニス 22.2	陸上競技/車いすバスケットボール 20.9	水泳 19.6	馬術 13.9	バドミントン 13.3	アーチェリー 12.7	ポッチャ 8.9	卓球/車いすラグビー 6.3		
70歳代	175	陸上競技 27.4	水泳 26.3	卓球/車いすテニス 13.1	車いすバスケットボール 10.9	馬術 8.6	ポッチャ 8.0	バドミントン 7.4	アーチェリー 5.7	カヌー/柔道/シッティングバレーボール 2.9	
80歳以上	136	水泳 25.7	陸上競技 21.3	卓球 15.4	車いすテニス 11.8	車いすバスケットボール 8.8	バドミントン/馬術 7.4	アーチェリー/柔道 3.7	ポッチャ/射撃/車いすフェンシング 2.9		

<調査結果>

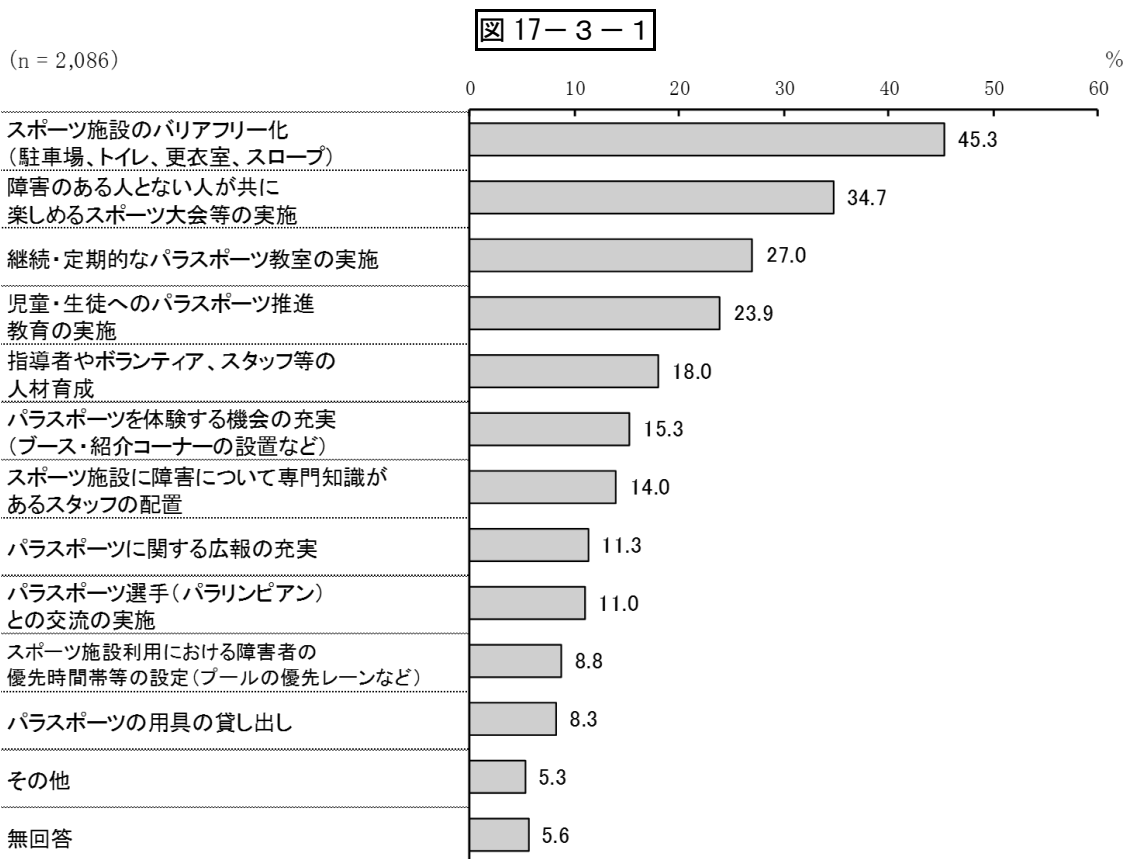
性・年齢別にみると、「陸上競技」は女性の70歳代で3割近く、男性の70歳代で2割半ばとなっている。「車いすバスケットボール」は男性の60歳代以下、女性の30歳代以下、50歳代、60歳代で上位2位以内に挙げられている。「車いすテニス」は女性の50歳代と60歳代が2割台で1位、「水泳」は80歳以上の男女が2割台で1位となっている。

(表 17-2-2)

### (3) パラスポーツ推進のための取り組み

◎「スポーツ施設のバリアフリー化」が4割半ば、「障害のある人とない人が共に楽しめるスポーツ大会等の実施」が3割半ば

問47 区では、(公益財団法人)世田谷区スポーツ振興財団と連携し、現在、以下のパラスポーツの取り組みを行っております。あなたが、良いと思う取り組みはどれですか。(〇は3つまで)



#### <調査結果>

パラスポーツ推進のための取り組みについて聞いたところ、「スポーツ施設のバリアフリー化」(45.3%)が4割半ばで最も高く、以下、「障害のある人とない人が共に楽しめるスポーツ大会等の実施」(34.7%)、「継続・定期的なパラスポーツ教室の実施」(27.0%)、「児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施」(23.9%)、「指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成」(18.0%)などと続く。(図 17-3-1)

表 17-3-1 パラスポーツ推進のための取り組み（時系列）

(%)

取り組み	令和 元年度	令和 3年度
n	2,171	2,086
【1位】スポーツ施設のバリアフリー化(駐車場、トイレ、更衣室、スロープ)	38.2	45.3
【2位】障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会等の実施	34.3	34.7
【3位】継続・定期的なパラスポーツ教室の実施	25.7	27.0
【4位】児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施	23.3	23.9
【5位】指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成	24.6	18.0
【6位】パラスポーツを体験する機会の充実(ブース・紹介コーナーの設置など)	16.1	15.3
【7位】スポーツ施設に障害について専門知識があるスタッフの配置	14.6	14.0
【8位】パラスポーツに関する広報の充実	13.8	11.3
【9位】パラスポーツ選手(パラリンピアン)との交流の実施	12.6	11.0
【10位】スポーツ施設利用における障害者の優先時間帯等の設定(プールの優先レーンなど)	7.7	8.8

#### <調査結果>

令和元年度からの時系列の変化をみると、「スポーツ施設のバリアフリー化（駐車場、トイレ、更衣室、スロープ）」は令和元年度（38.2%）から令和3年度（45.3%）で増加している。「パラスポーツに関する広報の充実」は、令和元年度（13.8%）から令和3年度（11.3%）でわずかに減少している。（表 17-3-1）

表 17-3-2 パラスポーツ推進のための取組み（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	スポーツ施設のパリアフリー化 45.3	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 34.7	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 27.0	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 23.9	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 18.0	パラスポーツを体験する機会の充実 15.3	障害について専門知識があるスタッフの配置 14.0	パラスポーツに関する広報の充実 11.3	パラスポーツ選手との交流の実施 11.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 8.8
男性全体	802	スポーツ施設のパリアフリー化 41.3	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 33.0	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 27.4	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 17.7	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 17.0	パラスポーツを体験する機会の充実 13.2	障害について専門知識があるスタッフの配置 13.0	パラスポーツに関する広報の充実 11.1	パラスポーツ選手との交流の実施 9.4	施設利用における障害者の優先時間帯等 9.4
10・20歳代	85	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会／継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 37.6	スポーツ施設のパリアフリー化 31.8	パラスポーツを体験する機会の充実 23.5	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 21.2	パラスポーツを体験する機会の充実 17.6	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 11.8	パラスポーツに関する広報の充実／障害について専門知識があるスタッフの配置 10.6			
30歳代	86	スポーツ施設のパリアフリー化 40.7	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 31.4	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 26.7	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 22.1	パラスポーツを体験する機会の充実 17.4	パラスポーツに関する広報の充実 16.3	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 15.1	パラスポーツ選手との交流の実施 14.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 11.6	
40歳代	143	スポーツ施設のパリアフリー化 50.3	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 32.9	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 29.4	パラスポーツを体験する機会の充実 17.5	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 16.8	パラスポーツに関する広報の充実 16.1	障害について専門知識があるスタッフの配置 14.7	パラスポーツ選手との交流の実施 14.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 7.7	
50歳代	153	スポーツ施設のパリアフリー化 44.4	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 37.9	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 21.6	パラスポーツを体験する機会の充実 19.6	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 16.3	パラスポーツに関する広報の充実 15.7	障害について専門知識があるスタッフの配置 13.1	パラスポーツ選手との交流の実施 12.4	施設利用における障害者の優先時間帯等 7.8	
60歳代	135	スポーツ施設のパリアフリー化 39.3	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 31.1	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 29.6	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 25.9	障害について専門知識があるスタッフの配置 20.0	パラスポーツを体験する機会の充実 16.3	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 15.6	パラスポーツに関する広報の充実 14.8	パラスポーツ選手との交流の実施 8.1	施設利用における障害者の優先時間帯等 6.7
70歳代	123	スポーツ施設のパリアフリー化 39.0	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 31.7	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 19.5	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 18.7	パラスポーツに関する広報の充実 17.9	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 17.1	施設利用における障害者の優先時間帯等 13.8	障害について専門知識があるスタッフの配置 13.0	パラスポーツ選手との交流の実施 12.2	パラスポーツの用具の貸し出し 8.1
80歳以上	77	スポーツ施設のパリアフリー化 36.4	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 31.2	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 29.9	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 16.9	パラスポーツに関する広報の充実 14.3	パラスポーツを体験する機会の充実 11.7	施設利用における障害者の優先時間帯等 10.4	障害について専門知識があるスタッフの配置 9.1	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 7.8	
女性全体	1,244	スポーツ施設のパリアフリー化 48.1	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 36.0	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 28.5	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 27.1	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 17.8	障害について専門知識があるスタッフの配置 14.7	パラスポーツを体験する機会の充実 14.5	パラスポーツに関する広報の充実 10.9	パラスポーツ選手との交流の実施 10.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 9.8
10・20歳代	118	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 44.9	スポーツ施設のパリアフリー化 44.1	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 29.7	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 27.1	パラスポーツを体験する機会の充実 23.7	パラスポーツに関する広報の充実 14.4	パラスポーツ選手との交流の実施 12.7	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 11.9	パラスポーツに関する広報の充実 10.2	障害について専門知識があるスタッフの配置 7.6
30歳代	170	スポーツ施設のパリアフリー化 50.6	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 38.2	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 33.5	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 30.0	パラスポーツを体験する機会の充実 22.9	障害について専門知識があるスタッフの配置 15.3	パラスポーツに関する広報の充実 12.4	パラスポーツ選手との交流の実施 11.8	パラスポーツの用具の貸し出し 9.4	
40歳代	236	スポーツ施設のパリアフリー化 54.7	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 44.1	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 35.6	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 30.9	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 18.6	パラスポーツを体験する機会の充実 18.2	障害について専門知識があるスタッフの配置 15.7	パラスポーツに関する広報の充実 12.7	パラスポーツ選手との交流の実施 8.1	
50歳代	250	スポーツ施設のパリアフリー化 54.4	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 32.8	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 28.8	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 26.8	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 20.4	障害について専門知識があるスタッフの配置 18.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 14.8	パラスポーツに関する広報の充実 13.2	パラスポーツ選手との交流の実施 12.4	パラスポーツに関する広報の充実 8.8
60歳代	158	スポーツ施設のパリアフリー化 43.7	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 29.7	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 28.5	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 26.6	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 22.8	障害について専門知識があるスタッフの配置 19.6	パラスポーツに関する広報の充実 15.2	パラスポーツを体験する機会の充実 13.9	施設利用における障害者の優先時間帯等 10.8	パラスポーツの用具の貸し出し 10.1
70歳代	175	スポーツ施設のパリアフリー化 45.7	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 32.6	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 29.1	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 18.3	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 17.1	障害について専門知識があるスタッフの配置 15.4	パラスポーツに関する広報の充実 11.4	施設利用における障害者の優先時間帯等 8.6	パラスポーツを体験する機会の充実 8.0	パラスポーツの用具の貸し出し 5.1
80歳以上	136	スポーツ施設のパリアフリー化 33.8	障害のある人となない人が共に楽しめるスポーツ大会 30.9	児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施 26.5	指導者やボランティア、スタッフ等の人材育成 15.4	継続・定期的なパラスポーツ教室の実施 14.0	施設利用における障害者の優先時間帯等 11.8	障害について専門知識があるスタッフの配置 11.0	パラスポーツに関する広報の充実 8.8	パラスポーツを体験する機会の充実 7.4	パラスポーツの用具の貸し出し 5.9

### <調査結果>

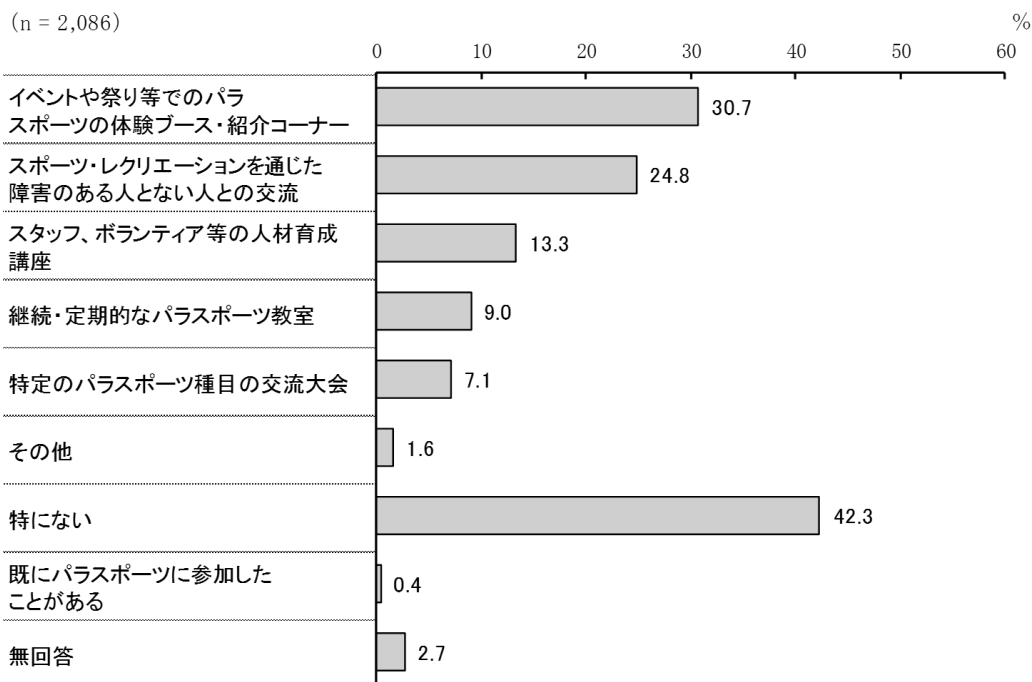
性・年齢別にみると、「スポーツ施設のバリアフリー化」は男性より女性の方が高く、女性の40歳代、50歳代で5割半ば、女性の30歳代でほぼ5割となっている。「児童・生徒へのパラスポーツ推進教育の実施」も同じく男性より女性の方が高く、女性の30歳代で3割を超え、10・20歳代は3割、40歳代でほぼ3割となっている。(表17-3-2)

#### (4) 参加したいパラスポーツの内容

◎「イベントや祭り等でのパラスポーツの体験ブース・紹介コーナー」がほぼ3割

問48 あなたは、どのような内容であれば、今後パラスポーツに参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

図 17-4-1



#### <調査結果>

参加したいパラスポーツの内容を聞いたところ、「イベントや祭り等でのパラスポーツの体験ブース・紹介コーナー」(30.7%)がほぼ3割と最も高く、以下「スポーツ・レクリエーションを通じた障害のある人とない人との交流」(24.8%)、「スタッフ、ボランティア等の人材育成講座」(13.3%)などと続いている。

(図 17-4-1)



表 17-4-1 参加してみたいパラスポーツの内容（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	2,086	30.7	24.8	13.3	9.0	7.1
男性全体	802	26.3	23.8	10.8	10.0	8.4
10・20歳代	85	22.4	21.2	15.3	8.2	5.9
30歳代	86	32.6	27.9	10.5	10.5	9.3
40歳代	143	36.4	25.2	14.0	8.4	8.4
50歳代	153	29.4	26.1	14.4	7.8	6.5
60歳代	135	22.2	22.2	11.9	9.6	6.7
70歳代	123	21.1	17.9	13.8	8.9	6.5
80歳以上	77	20.8	20.8	13.0	7.8	6.5
女性全体	1,244	33.5	25.5	14.7	8.4	6.5
10・20歳代	118	40.7	26.3	12.7	11.0	7.6
30歳代	170	42.4	30.6	11.2	11.2	8.2
40歳代	236	42.4	31.8	17.4	10.2	6.4
50歳代	250	38.0	27.2	21.2	10.0	6.8
60歳代	158	32.9	26.6	21.5	7.0	5.1
70歳代	175	18.3	17.7	8.6	5.1	4.6
80歳以上	136	14.0	12.5	5.9	5.1	2.9

〈調査結果〉

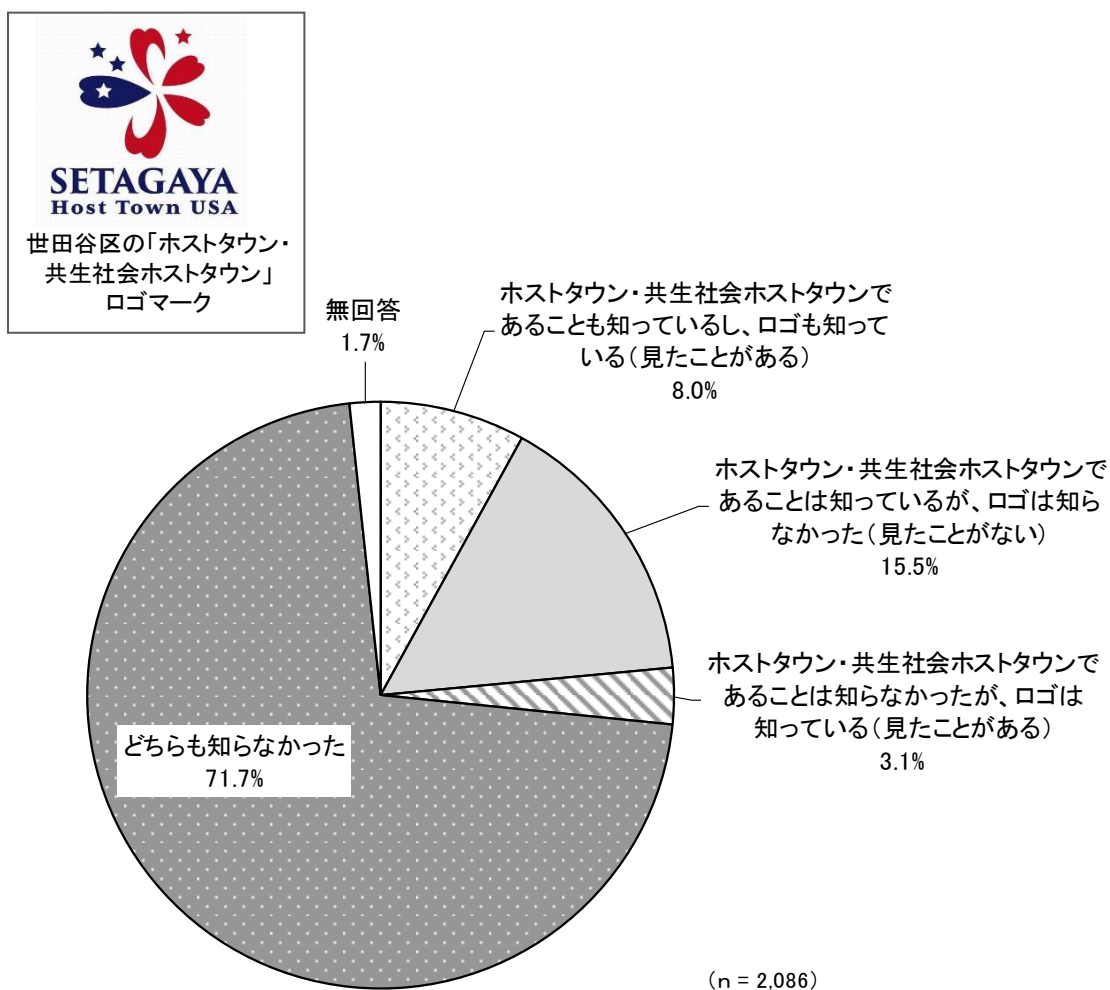
性・年齢別にみると、「イベントや祭り等でのパラスポーツの体験ブース・紹介コーナー」は男性より女性の方が高く、女性の30歳代、40歳代で4割を超え、女性の10・20歳代ではほぼ4割となっている。（表 17-4-1）

## (5) ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度

◎「どちらも知らなかった」が7割を超えている

問49 あなたは、世田谷区がアメリカ合衆国のホストタウン・共生社会ホストタウンであることについて、ロゴマークを含めて知っていますか。(〇は1つ)

図17-5-1

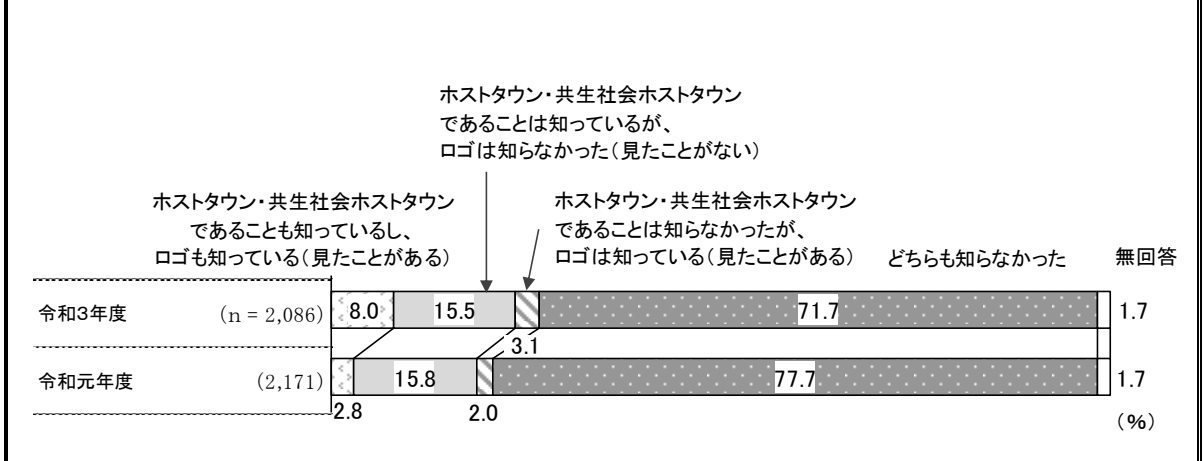


### <調査結果>

ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度を聞いたところ、「どちらも知らなかった」(71.7%)が7割を超えている。「ホストタウン・共生社会ホストタウンであることは知っているが、ロゴは知らなかった(見たことがない)」(15.5%)が1割半ばで、「ホストタウン・共生社会ホストタウンであることも知っているし、ロゴも知っている(見たことがある)」(8.0%)と合わせるとホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度(23.5%)は2割を超えている。

(図17-5-1)

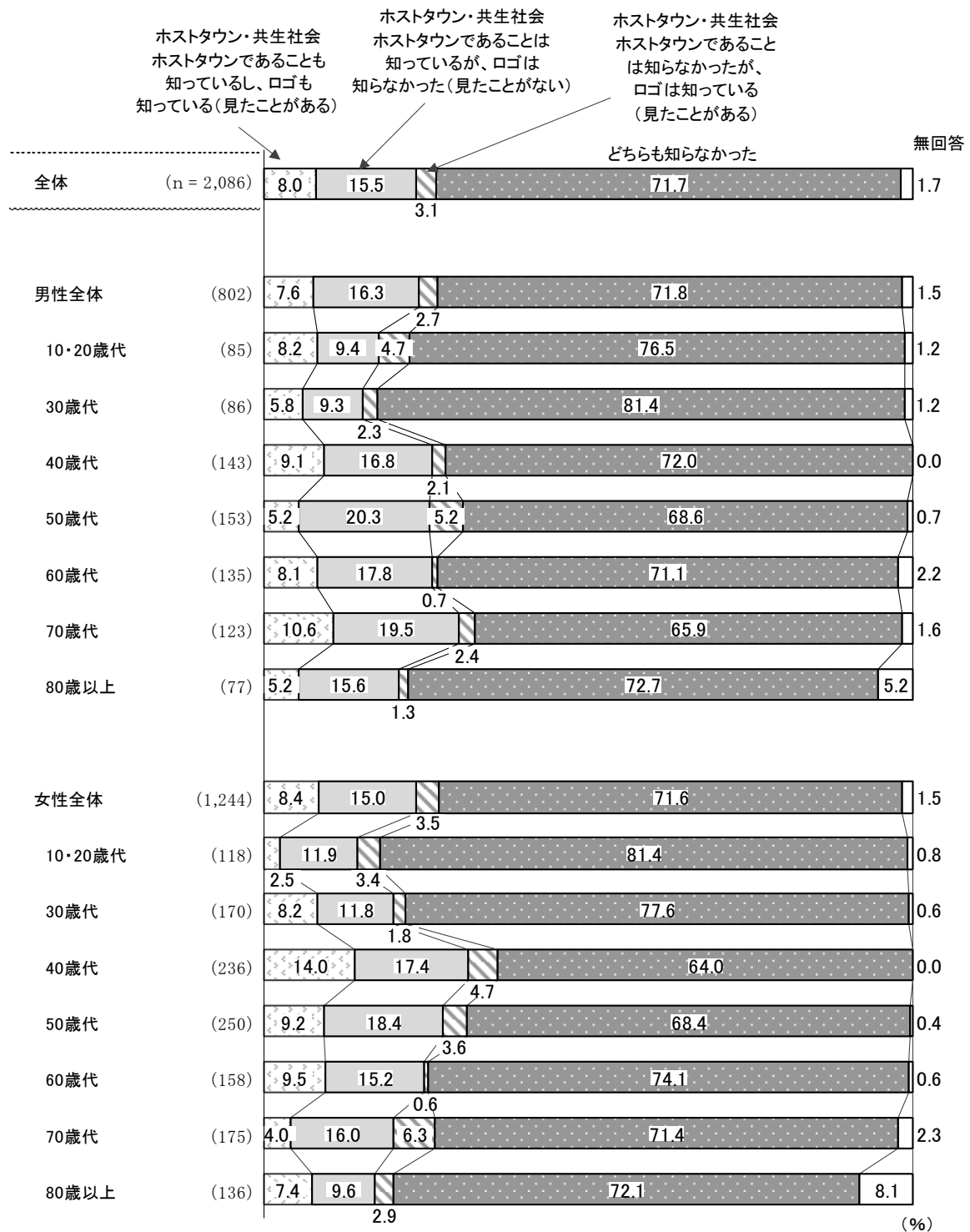
図 17-5-2 ホストタウン・共生社会ホストタウンの認知度（時系列）



<調査結果>

令和元年度からの時系列の変化をみると「どちらも知らなかった」は、令和元年度（77.7%）から令和3年度（71.7%）で減少している。（図 17-5-2）

図 17-5-3 ホスタウン・共生社会ホスタウンの認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、ホスタウン・共生社会ホスタウンの認知度は女性の40歳代、男性の70歳代がほぼ3割となっている。一方、「どちらも知らなかった」は女性の10・20歳代、男性の30歳代が最も高く8割を超えている。(図 17-5-3)

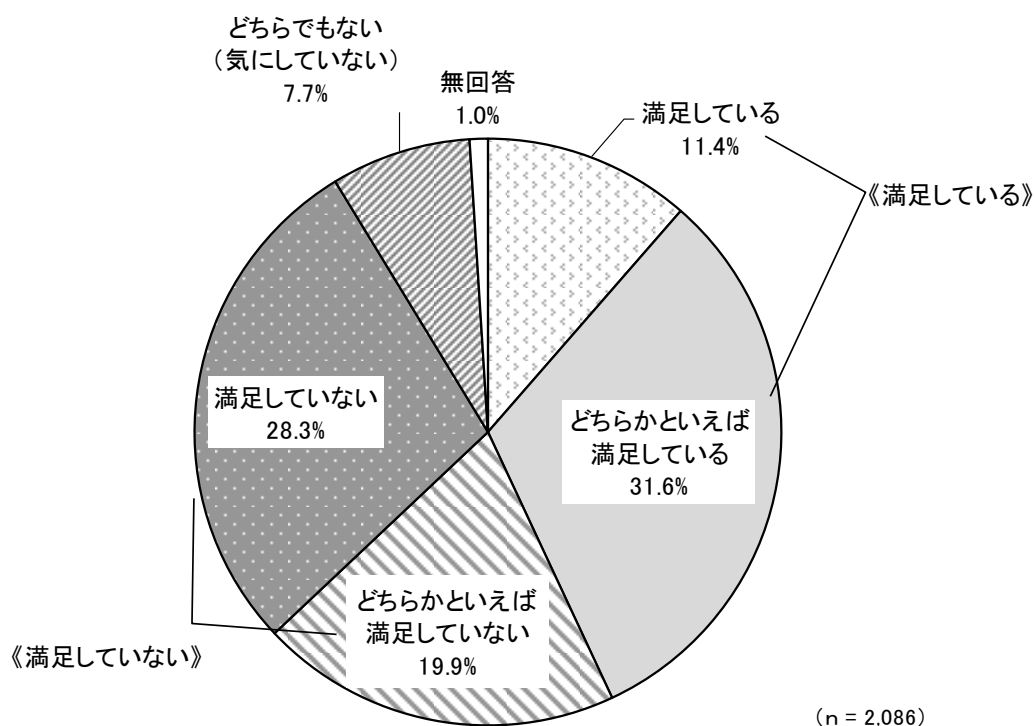
## 18. たばこマナー

### (1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

◎ 《満足していない》が5割近く、《満足している》が4割を超えている

問50 あなたは、現在お住まいの地域における路上喫煙やポイ捨て等たばこマナーに満足していますか。(〇は1つ)

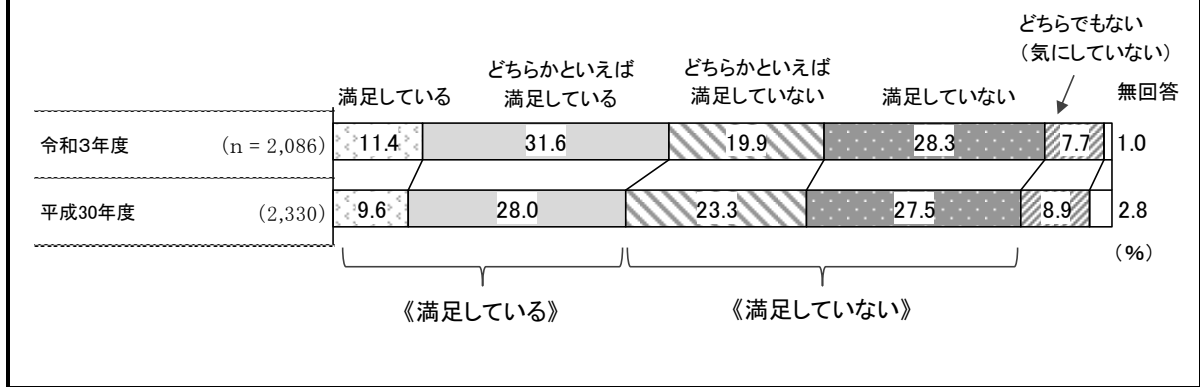
図 18-1-1



#### <調査結果>

居住地域におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、「満足していない」(28.3%)と「どちらかといえば満足していない」(19.9%)を合わせた《満足していない》(48.2%)が5割近くとなっている。一方、「満足している」(11.4%)と「どちらかといえば満足している」(31.6%)を合わせた《満足している》(43.0%)は4割を超えている。(図 18-1-1)

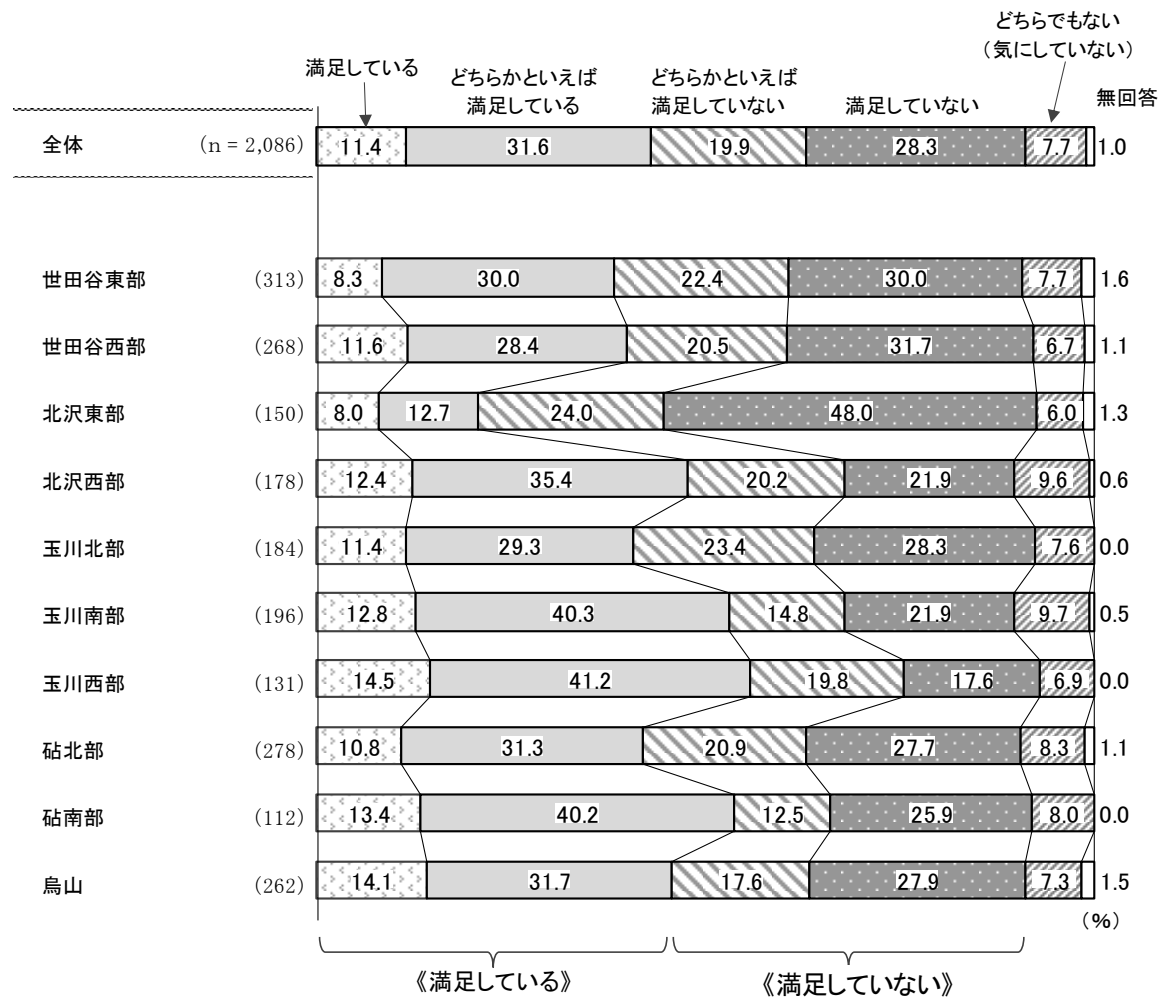
図 18-1-2 居住地域におけるたばこマナーの満足度（時系列）



<調査結果>

平成30度からの時系列の変化をみると、《満足している》は、平成30年度（37.6%）から令和3年度（43.0%）で増加している。（図18-1-2）

図 18-1-3 居住地域におけるたばこマナーの満足度（地域別）

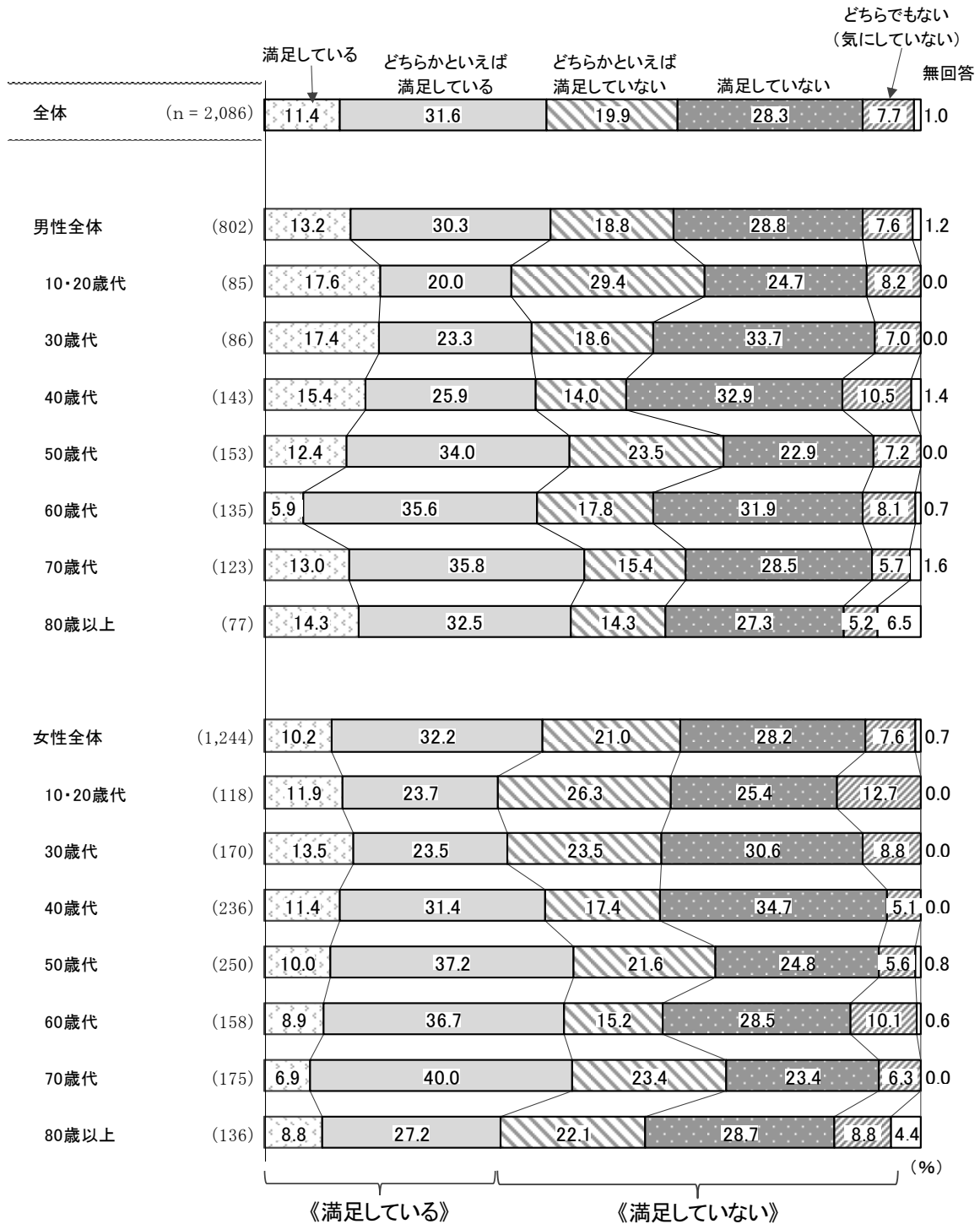


〈調査結果〉

地域別にみると、《満足している》は玉川西部で5割半ば、玉川南部、砧南部で5割を超えている。一方、《満足していない》は北沢東部で7割を超えている。

(図 18-1-3)

図 18-1-4 居住地域におけるたばこマナーの満足度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別にみると、《満足している》は男性の70歳代、80歳以上、女性の50歳代、70歳代で5割近く、男性の50歳代、女性の60歳代で4割半ばとなっている。《満足していない》は男性の10・20歳代、女性の30歳代で5割半ば、男性の30歳代、女性の10・20歳代と40歳代で5割を超えている。(図18-1-4)



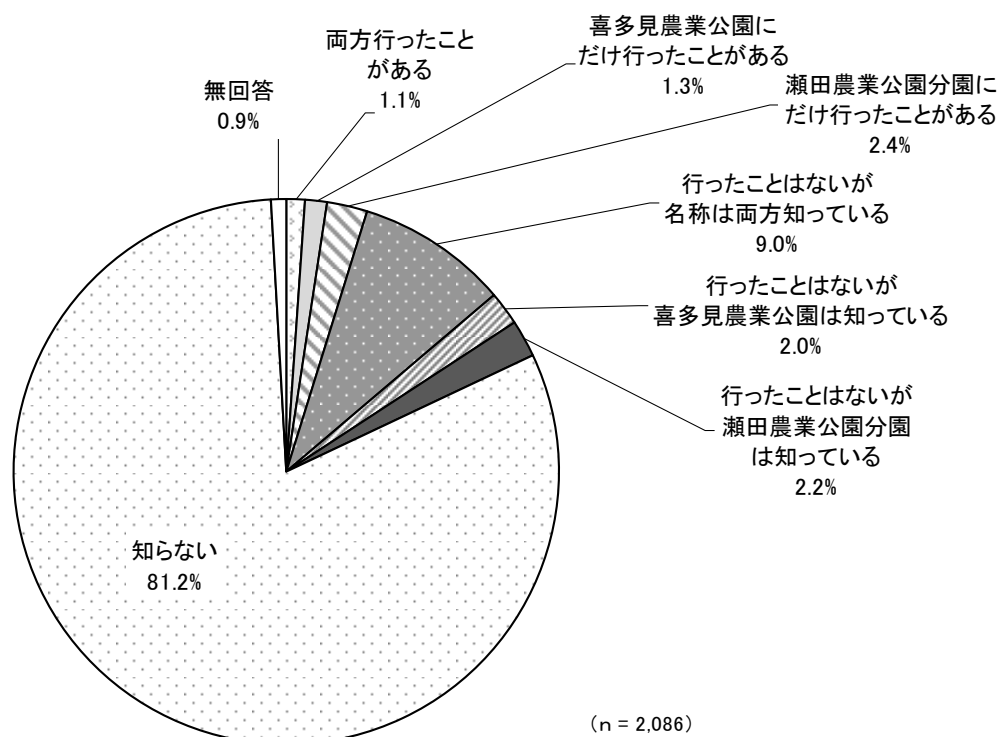
## 19. 農業

### (1) 農業公園の認知度

◎農業公園を「知らない」が8割を超える

問51 あなたは、農業公園（喜多見農業公園・瀬田農業公園分園）を知っていますか。  
(○は1つ)

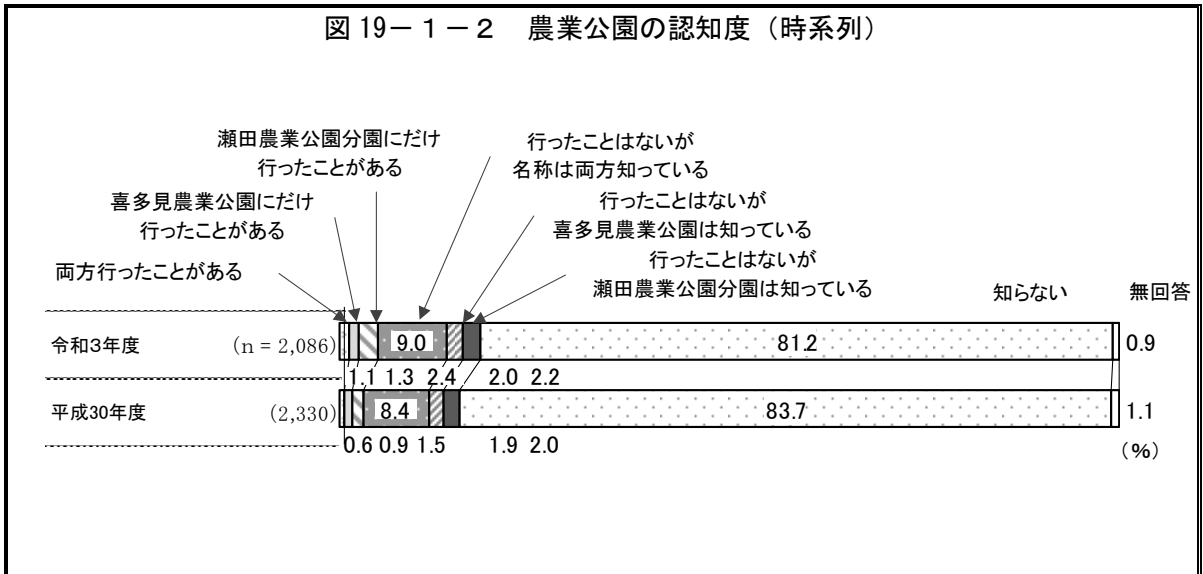
図 19-1-1



#### <調査結果>

農業公園の認知度を聞いたところ、「知らない」(81.2%)が8割を超え、多数を占めている。喜多見農業公園の認知度(「両方行ったことがある」+「喜多見農業公園にだけ行ったことがある」+「行ったことはないが名称は両方知っている」+「行ったことはないが喜多見農業公園は知っている」)は1割を超えるにとどまり、瀬田農業公園分園の認知度(「両方行ったことがある」+「瀬田農業公園分園にだけ行ったことがある」+「行ったことはないが名称は両方知っている」+「行ったことはないが瀬田農業公園分園は知っている」)は1割半ばにとどまっている。(図 19-1-1)

図 19-1-2 農業公園の認知度（時系列）

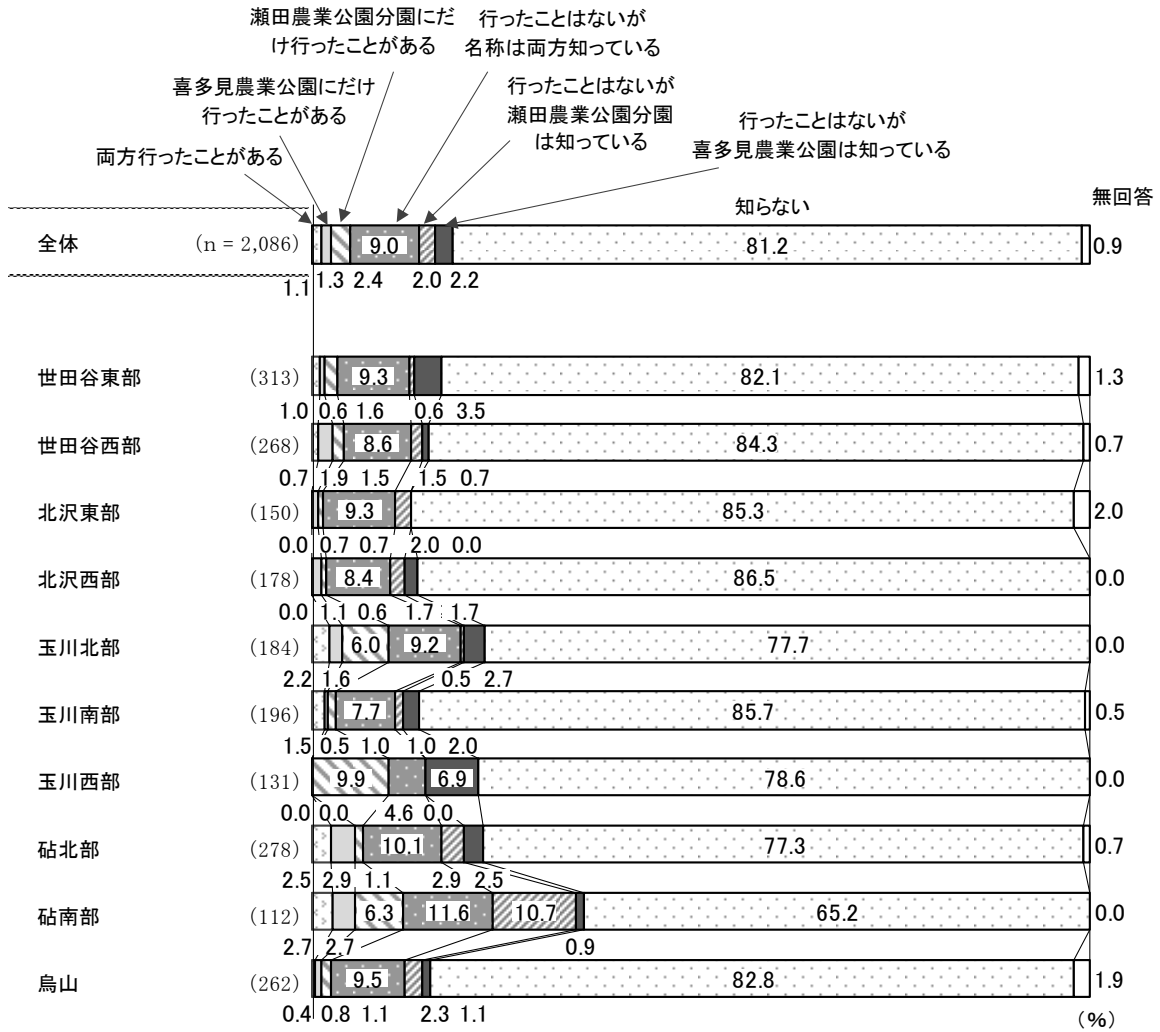


<調査結果>

平成 30 年度からの時系列の変化をみると、「知らない」は、平成 30 年度（83.7%）から令和 3 年度（81.2%）でわずかに減少している

(図 19-1-2)

図 19-1-3 農業公園の認知度（地域別）

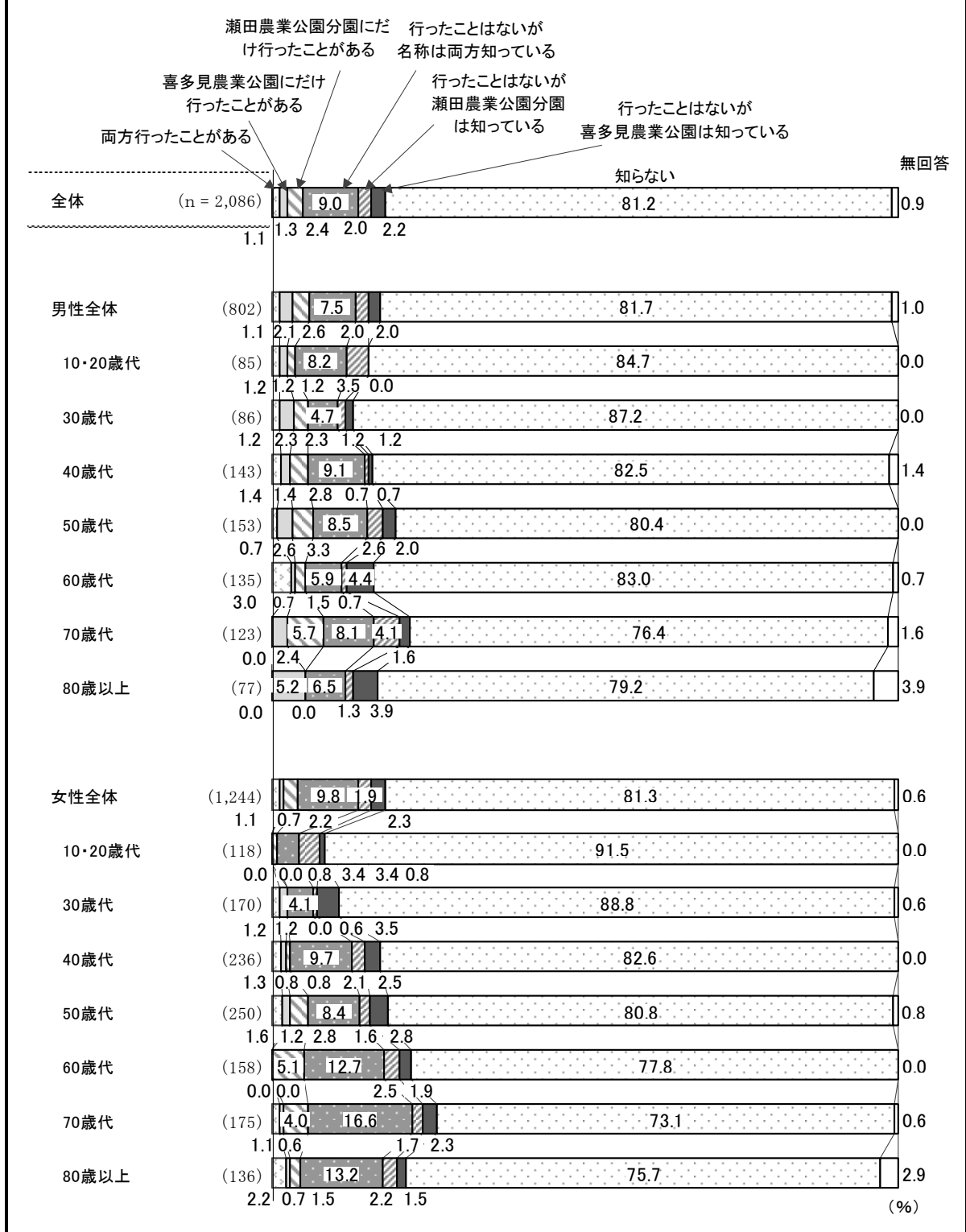


<調査結果>

地域別にみると、両方またはいずれかの農業公園への訪問経験は、砧南部が1割を超えている。両方またはいずれかの農業公園の認知度は、砧南部が3割を超えている。

(図 19-1-3)

図 19-1-4 農業公園の認知度（性・年齢別）



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、両方またはいずれかの農業公園への訪問経験は、男性の70歳代が1割近くとなっている。両方またはいずれかの農業公園の認知度は、女性の70歳代で2割半ば、男性の70歳代、女性の60歳代、80歳以上が2割を超えている。

(図 19-1-4)

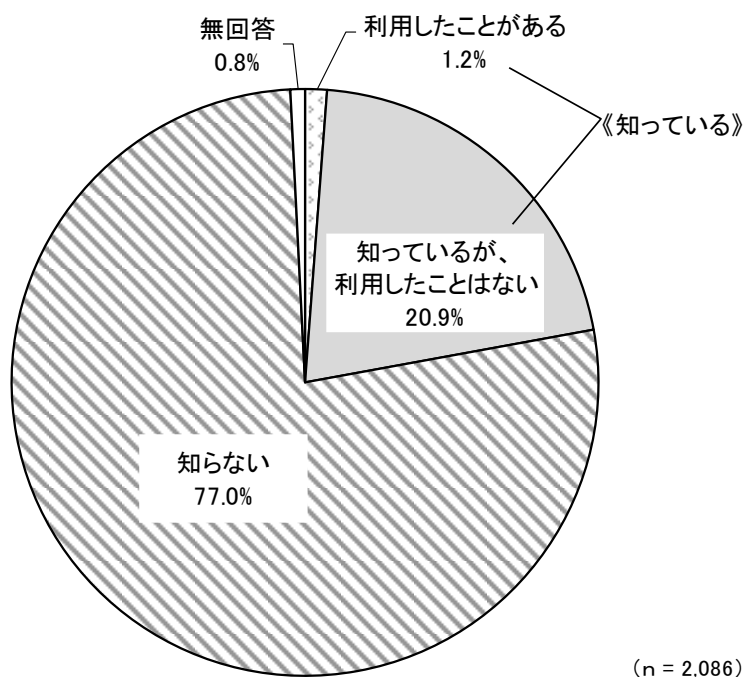
## 20. 産業

### (1) せたがや Pay の認知度

◎ 「知らない」が8割近く

問52 あなたは、せたがやPayを知っていますか。また、利用したことがありますか。  
(○は1つ)

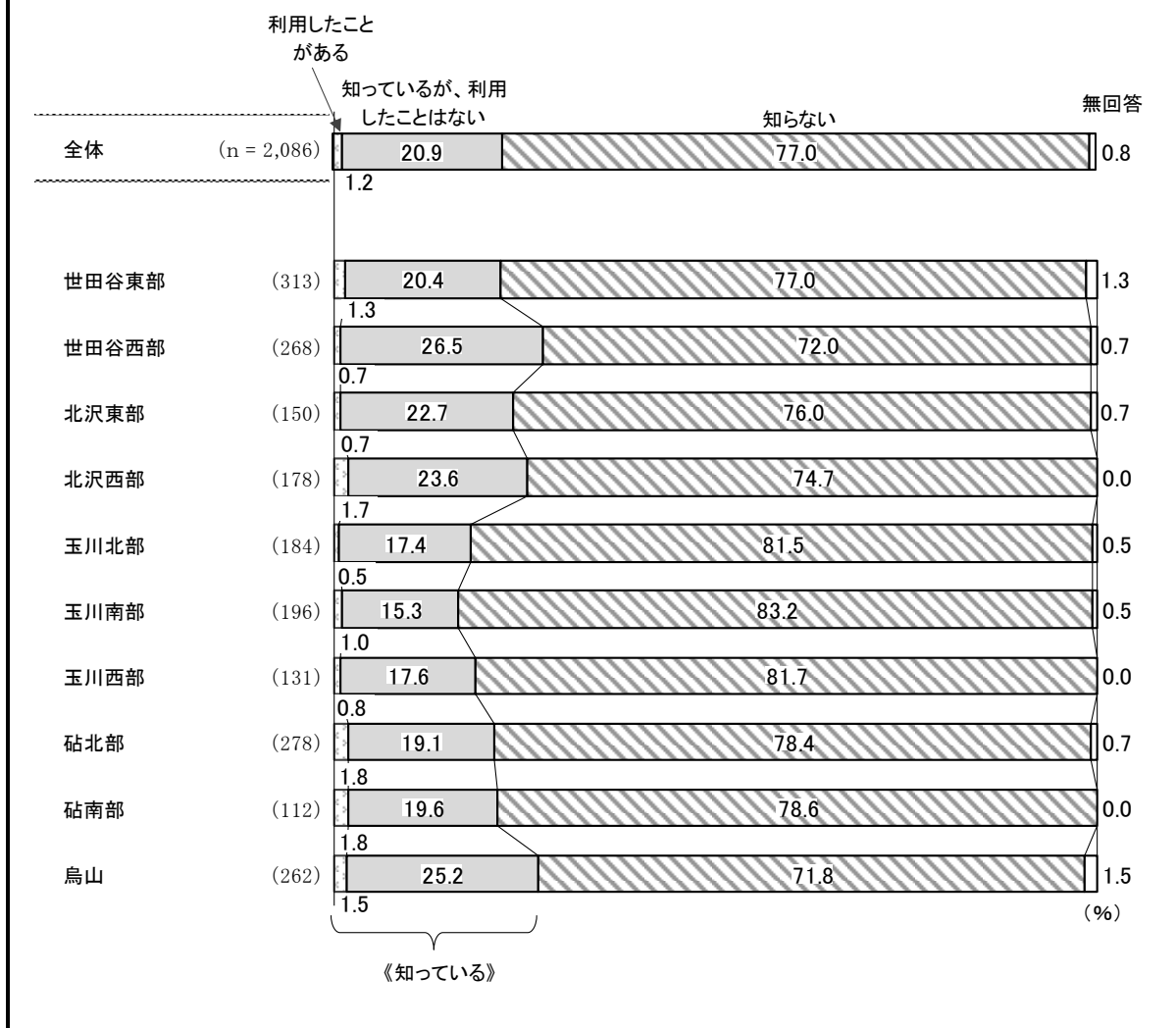
図 20-1-1



#### <調査結果>

せたがやPayの認知度は、「知らない」(77.0%)が8割近くと、多数を占めている。「利用したことがある」(1.2%)と「知っているが、利用したことはない」(20.9%)を合わせた《知っている》(22.1%)は2割を超えるにとどまっている。(図 20-1-1)

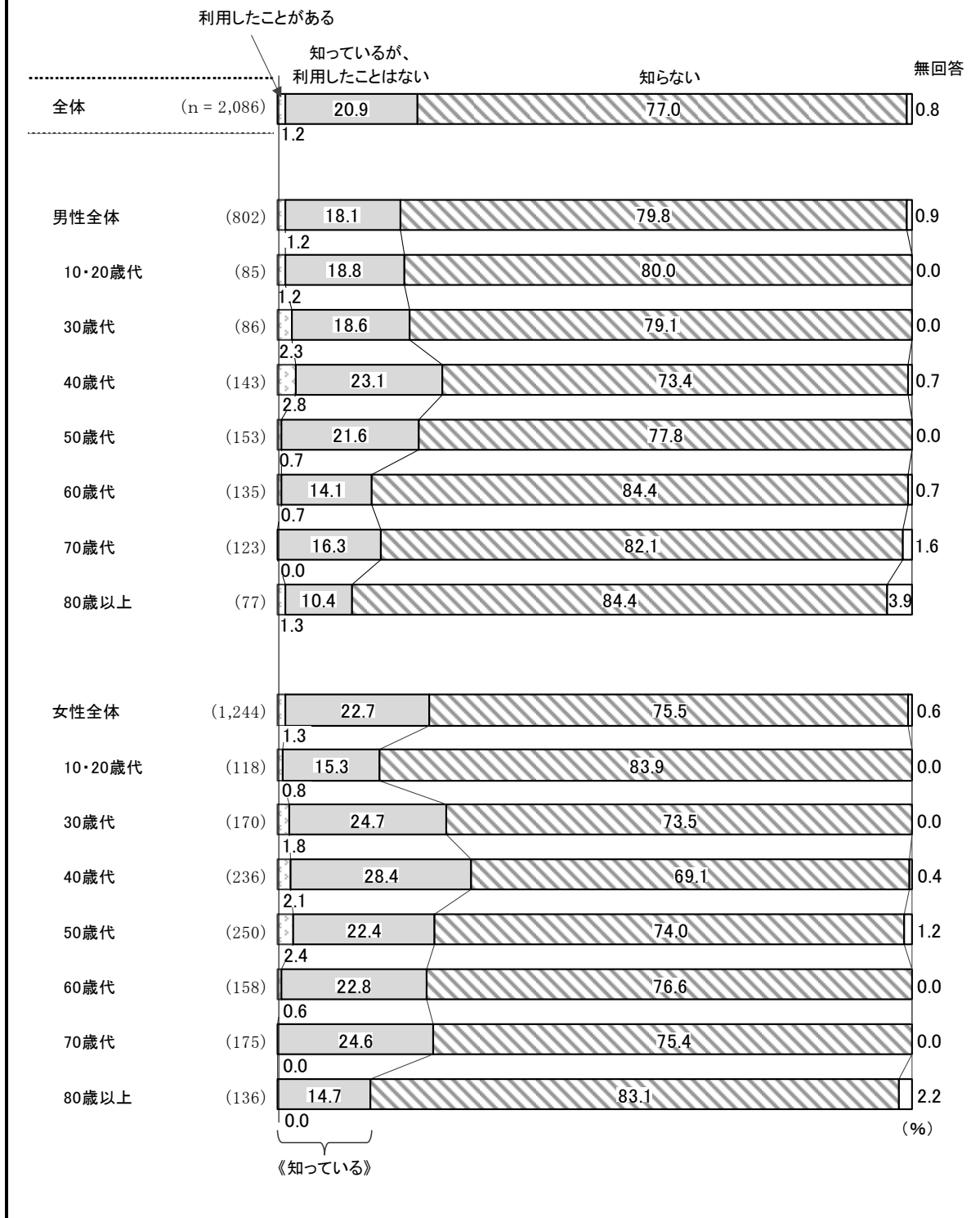
図 20-1-2 せたがや Pay の認知度（地域別）



〈調査結果〉

地域別でみると、《知っている》は、世田谷西部、烏山が3割近く、北沢西部が2割半ばとなっている、一方、「知らない」は玉川北部、玉川南部、玉川西部が8割を超えている。  
 (図 20-1-2)

図 20-1-3 せたがや Pay の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

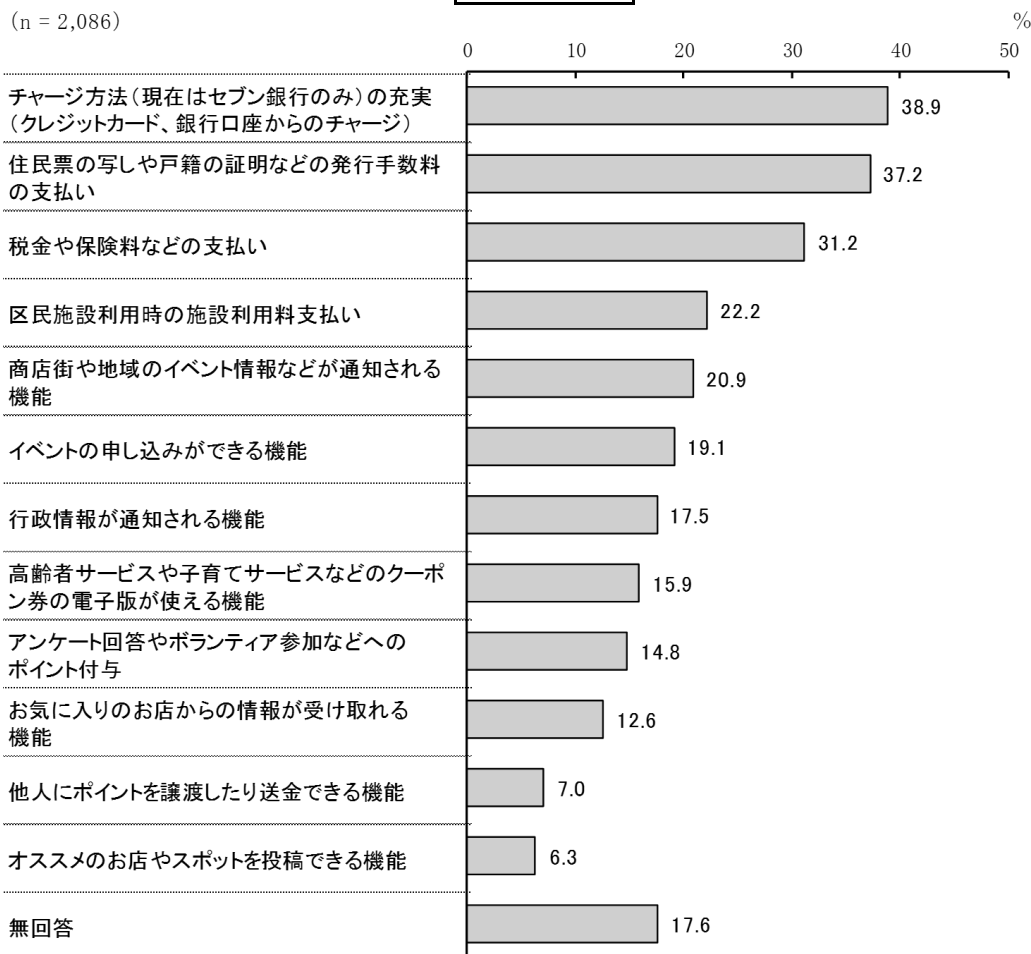
性・年齢別でみると、《知っている》は、女性の40歳代がほぼ3割、女性の30歳代が3割近く、男性の40歳代、女性の50歳代、70歳代が2割半ばとなっている。一方、「知らない」は男性の10・20歳代で8割、男性の60歳代、80歳以上で8割半ば、女性の80歳以上が8割を超えている。(図 20-1-3)

## (2) せたがや Pay の活用できる機能の希望

◎「チャージ方法の充実」「住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い」が4割近く

問53 せたがや Pay では単なる決済ツールだけではなく、利用者への通知、アンケート、ポイント付与など、様々なサービスへの活用も検討しています。活用できる機能としてどのようなものを希望されますか。(〇はいくつでも)

図 20-2-1



### <調査結果>

せたがや Pay の活用できる機能の希望を聞いたところ、「チャージ方法(現在はセブン銀行のみ)の充実(クレジットカード、銀行口座からのチャージ)」(38.9%)、「住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い」(37.2%)が4割近くと高い。以下、「税金や保険料などの支払い」(31.2%)、「区民施設利用時の施設利用料支払い」(22.2%)、「商店街や地域のイベント情報などが通知される機能」(20.9%)などと続いている。(図 20-2-1)



表 20-2-1 せたがや Pay の活用できる機能の希望（地域別）

区分	n	希望する機能											無回答		
		チャージ方法（現在はセブン銀行のみ）の充実（クレジットカード、銀行口座からのチャージ）	住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い	税金や保険料などの支払い	区民施設利用時の施設利用料支払い	商店街や地域のイベント情報などが通知される機能	イベントの申し込みができる機能	行政情報が通知される機能	高齢者サービスや子育てサービスなどのクーポン券の電子版が使える機能	アンケート回答やボランティア参加などへのポイント付与	お気に入りのお店からの情報が受け取れる機能	他人にポイントを譲渡したり送金できる機能		オススメのお店やスポットを投稿できる機能	
全体	2,086	38.9	37.2	31.2	22.2	20.9	19.1	17.5	15.9	14.8	12.6	7.0	6.3	17.6	
地域別	世田谷東部	313	36.7	37.1	28.1	17.6	19.8	19.2	15.0	13.7	14.1	11.8	4.2	7.7	16.0
	世田谷西部	268	38.1	35.1	30.6	22.8	19.0	20.1	16.0	11.9	13.8	10.8	6.3	4.9	20.1
	北沢東部	150	44.7	30.7	30.7	19.3	23.3	20.0	16.7	15.3	10.7	13.3	8.0	8.7	17.3
	北沢西部	178	35.4	37.6	42.1	25.3	26.4	19.7	20.8	15.7	19.7	12.4	10.7	7.3	14.6
	玉川北部	184	37.0	36.4	33.7	25.5	19.6	16.8	19.0	17.4	14.1	9.2	3.8	3.8	17.4
	玉川南部	196	36.7	39.8	30.1	17.9	23.0	23.5	17.9	16.3	16.8	16.3	7.1	8.7	16.3
	玉川西部	131	47.3	39.7	29.8	30.5	25.2	18.3	22.1	19.8	13.0	14.5	9.9	6.1	16.8
	砧北部	278	37.1	36.7	29.5	27.0	21.9	21.2	20.9	18.3	14.7	13.7	9.0	5.0	19.1
	砧南部	112	37.5	41.1	30.4	19.6	15.2	11.6	11.6	13.4	14.3	15.2	3.6	4.5	17.0
	烏山	262	42.7	39.3	30.5	20.6	17.2	16.8	16.0	18.3	15.6	11.5	8.4	6.5	18.3

<調査結果>

地域別でみると、「チャージ方法（現在はセブン銀行のみ）の充実（クレジットカード、銀行口座からのチャージ）」は玉川西部が5割近くと最も高く、北沢東部が4割半ばなどとなっている。「税金や保険料などの支払い」は北沢西部が4割を超えている。（表 20-2-1）

表 20-2-2 せたがや Pay の活用できる機能の希望（性・年齢別）

(%)

区分	n	チャージ方法（現在はセブン銀行のみ）の充実（クレジットカード、銀行口座からのチャージ）	住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い	税金や保険料などの支払い	区民施設利用時の施設利用料支払い	商店街や地域のイベント情報などが通知される機能	イベントの申し込みができる機能	行政情報が通知される機能	高齢者サービスや子育てサービスなどのクーポン券の電子版が使える機能	アンケート回答やボランティア参加などへのポイント付与	お気に入りのお店からの情報が受け取れる機能	他人にポイントを譲渡したり送金できる機能	オススメのお店やスポットを投稿できる機能	無回答	
全体	2,086	38.9	37.2	31.2	22.2	20.9	19.1	17.5	15.9	14.8	12.6	7.0	6.3	17.6	
性・年齢別	男性全体	802	39.0	40.1	35.4	24.2	18.0	15.8	17.8	13.6	11.1	10.5	7.5	6.7	18.5
	10・20 歳代	85	49.4	41.2	48.2	22.4	8.2	16.5	9.4	14.1	12.9	11.8	16.5	7.1	8.2
	30 歳代	86	43.0	51.2	47.7	26.7	15.1	18.6	16.3	18.6	17.4	11.6	9.3	9.3	8.1
	40 歳代	143	46.2	46.9	38.5	34.3	23.8	19.6	19.6	16.1	16.8	14.7	10.5	7.0	11.2
	50 歳代	153	45.8	48.4	38.6	22.2	22.9	15.7	17.0	9.2	11.1	15.0	7.2	8.5	13.7
	60 歳代	135	38.5	37.8	32.6	25.2	20.7	18.5	20.7	19.3	7.4	6.7	5.2	9.6	20.0
	70 歳代	123	23.6	24.4	23.6	16.3	13.8	11.4	19.5	8.9	5.7	4.1	2.4	3.3	33.3
	80 歳以上	77	22.1	27.3	19.5	19.5	13.0	7.8	19.5	9.1	6.5	7.8	2.6	0.0	37.7
	女性全体	1,244	39.0	35.7	28.8	20.9	22.9	21.5	17.5	17.5	17.1	14.1	6.8	6.1	16.4
	10・20 歳代	118	51.7	47.5	44.9	26.3	26.3	32.2	16.1	16.9	33.1	23.7	15.3	11.9	4.2
	30 歳代	170	52.4	51.8	38.8	23.5	25.3	30.0	17.6	27.6	25.3	20.0	15.3	8.8	4.7
	40 歳代	236	45.8	38.1	33.9	27.5	25.0	23.7	11.9	16.5	21.6	15.3	7.6	5.5	11.0
	50 歳代	250	42.4	39.6	31.6	24.8	26.0	24.8	25.2	18.4	18.4	13.2	6.4	6.4	10.4
	60 歳代	158	34.8	26.6	19.0	19.0	25.3	20.3	22.8	19.6	13.3	9.5	3.8	3.8	16.5
70 歳代	175	22.3	22.3	15.4	10.3	19.4	9.7	14.9	10.9	3.4	8.0	0.6	5.1	32.6	
80 歳以上	136	19.9	22.1	16.9	10.3	9.6	8.1	11.8	11.8	5.1	11.8	0.0	2.2	40.4	

<調査結果>

性・年齢別でみると、「チャージ方法（現在はセブン銀行のみ）の充実（クレジットカード、銀行口座からのチャージ）」は、女性の10・20歳代、30歳代が5割を超え、男性の10・20歳代ではほぼ5割となっている。「住民票の写しや戸籍の証明などの発行手数料の支払い」は、30歳代の男女が5割を超え、男性の40歳代、50歳代、女性の10・20歳代が5割近くとなっている。（表20-2-2）

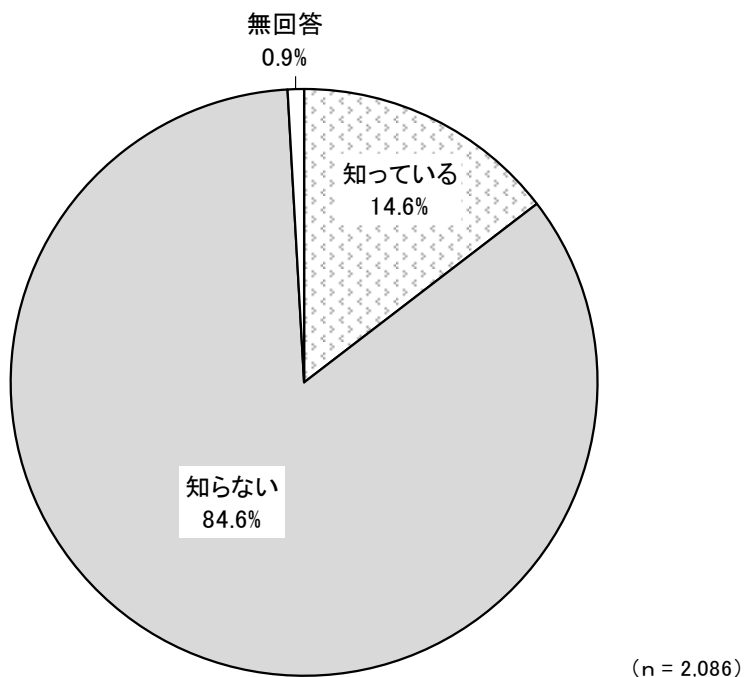
## 21. 気候危機

### (1) 気候非常事態宣言の認知度

◎ 「知らない」が8割半ば

問54 あなたは、世田谷区が気候非常事態宣言を行い、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロ等をめざしていることを知っていますか。(〇は1つ)

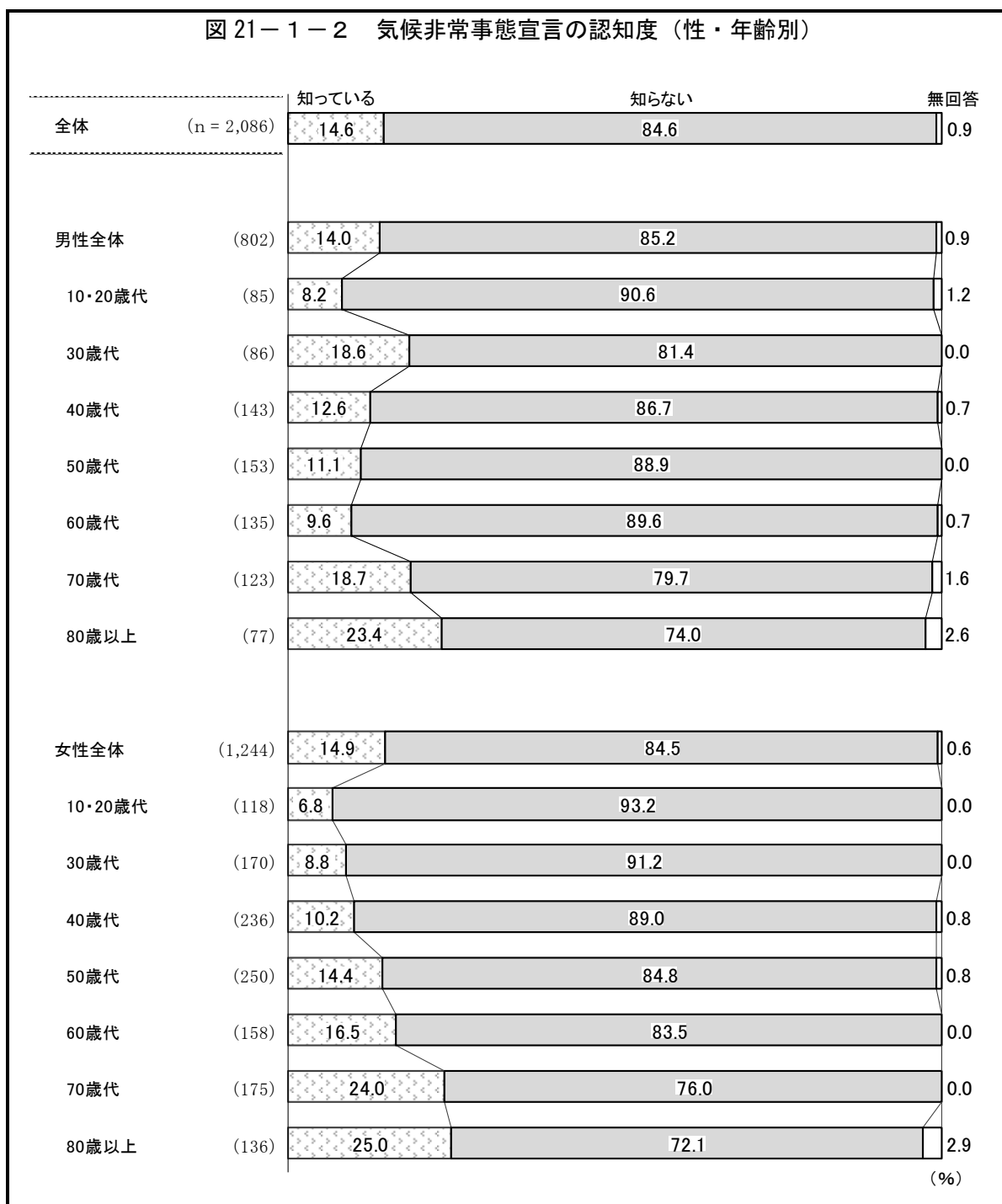
図 21-1-1



#### <調査結果>

気候非常事態宣言の認知度は、「知らない」(84.6%)が8割半ばと多数を占めている。「知っている」(14.6%)は1割半ばとなっている。(図 21-1-1)

図 21-1-2 気候非常事態宣言の認知度（性・年齢別）



<調査結果>

性・年齢別で見ると、「知っている」は、女性の70歳代、80歳以上が2割半ば、男性の80歳以上で2割を超えている。「知らない」は、女性の10・20歳代、30歳代が9割を超え、男性の10・20歳代ではほぼ9割、男性の60歳代で9割となっている。

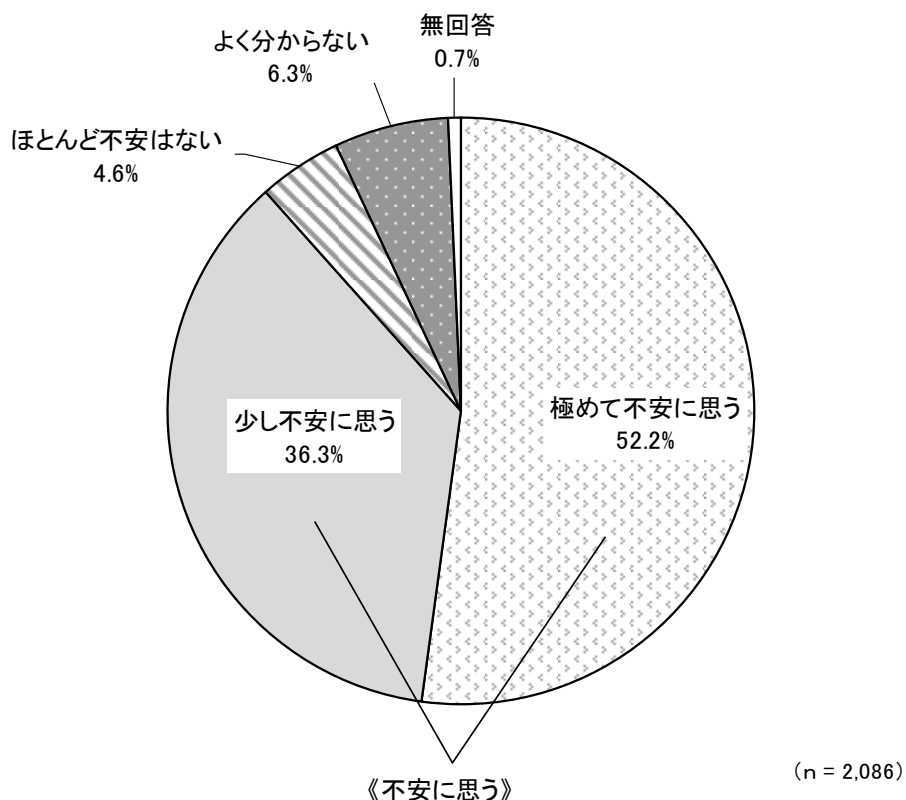
(図 21-1-2)

## (2) 気候危機への不安感

◎ 《不安に思う》が9割近く

問55 あなたは、地球温暖化に伴う気候危機について、どのように感じていますか。  
(○は1つ)

図 21-2-1

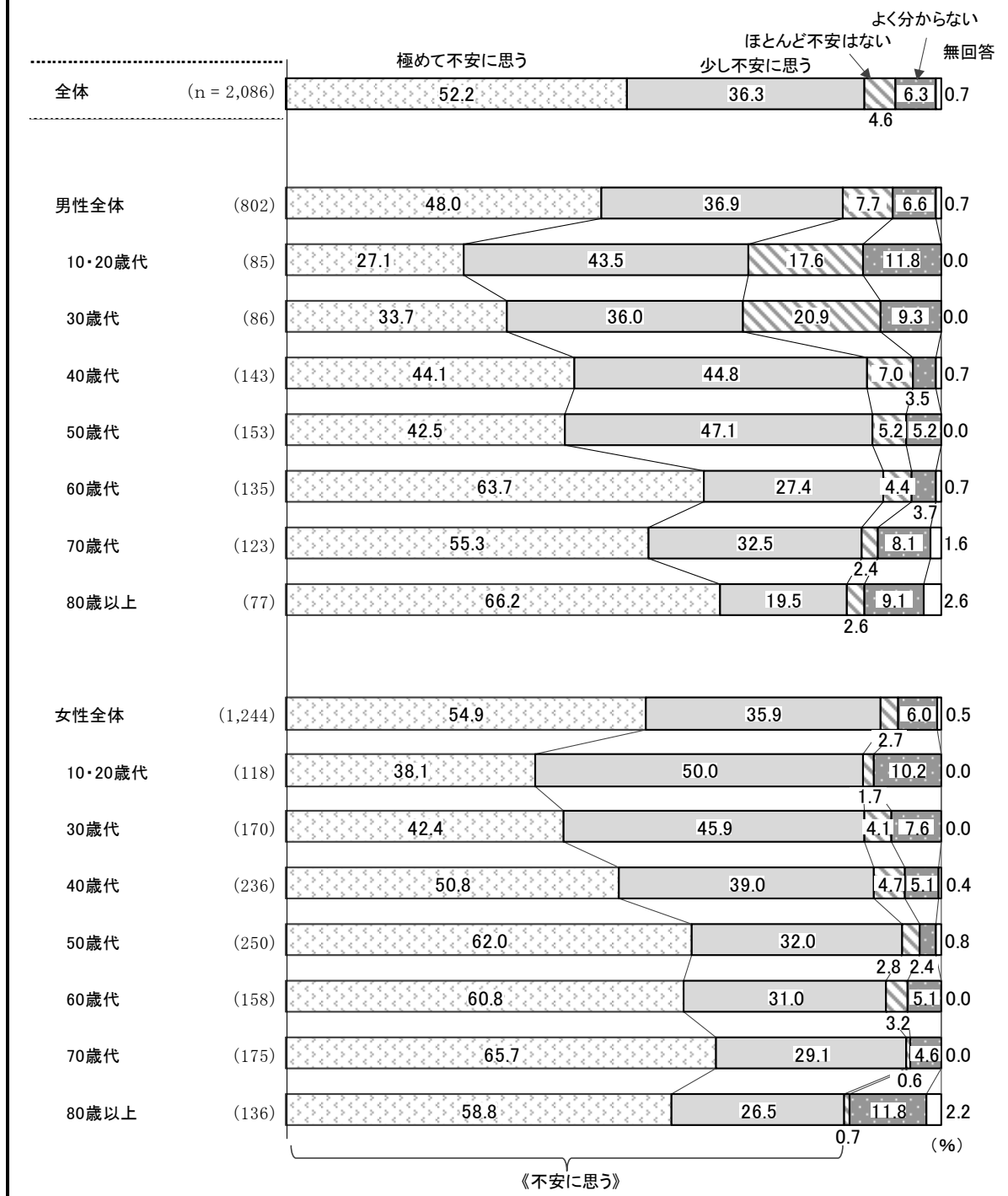


### <調査結果>

気候危機への不安感を聞いたところ、「極めて不安に思う」(52.2%)が5割を超えて最も高く、「少し不安に思う」(36.3%)と合わせた《不安に思う》(88.5%)は9割近くとなっている。

(図 21-2-1)

図 21-2-2 気候危機への不安感（性・年齢別）



<調査結果>

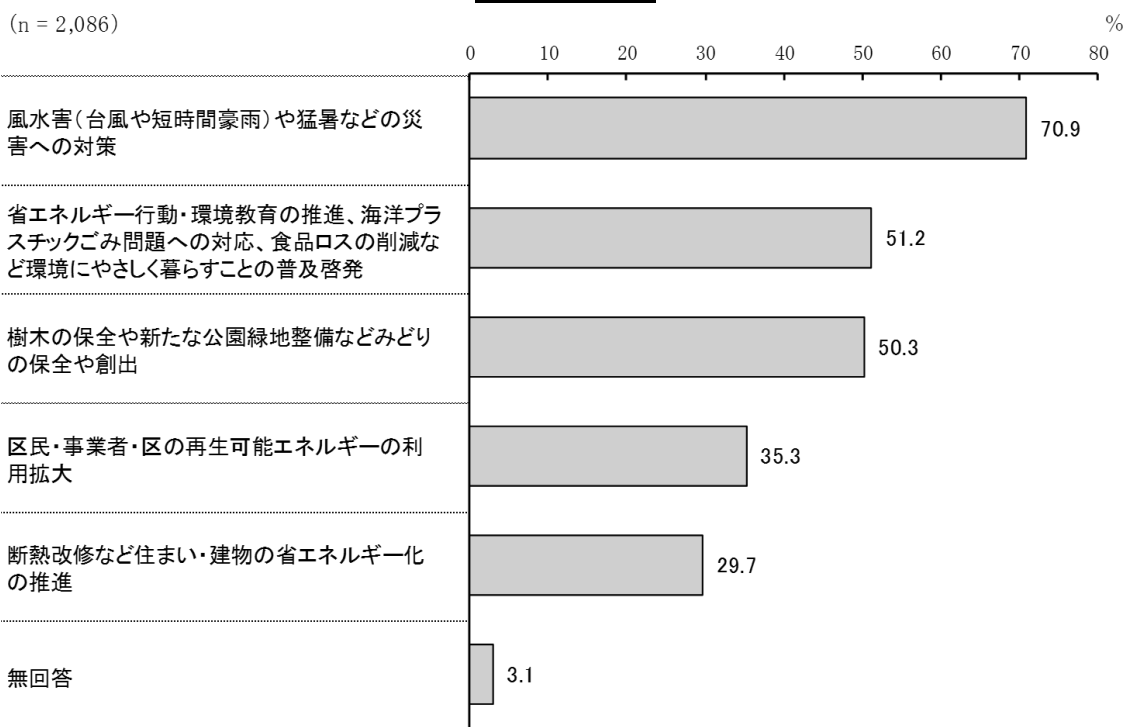
性・年齢別でみると、《不安に思う》は、女性の50歳代、70歳代が9割半ばと高く、60歳代の男女で9割を超えている。「ほとんど不安はない」は、男性の30歳代でほぼ2割、男性の10・20歳代で2割近くとなっている。(図 21-2-2)

### (3) 重点的に取り組むべき気候危機への対策

◎「風水害や猛暑などの災害への対策」がほぼ7割

問56 気候危機への対策として、区として重点的に行ってほしい取り組みを選んでください。(〇はいくつでも)

図 21-3-1



#### <調査結果>

重点的に取り組むべき気候危機への対策について聞いたところ、「風水害(台風や短時間豪雨)や猛暑などの災害への対策」(70.9%)がほぼ7割と最も高く、「省エネルギー行動・環境教育の推進、海洋プラスチックごみ問題への対応、食品ロスの削減など環境にやさしく暮らすことの普及啓発」(51.2%)が5割を超え、「樹木の保全や新たな公園緑地整備などみどりの保全や創出」(50.3%)が5割などと続いている。(図 21-3-1)

表 21-3-1 重点的に取り組むべき気候危機への対策（性・年齢別）

(%)

区分	n	風水害（台風や短時間豪雨）や猛暑などの災害への対策	省エネルギー行動・環境教育の推進、海洋プラスチックごみ問題への対応、食品ロスの削減など環境にやさしく暮らすことの普及啓発	樹木の保全や新たな公園緑地整備などみどりの保全や創出	区民・事業者・区の再生可能エネルギーの利用拡大	断熱改修など住まい・建物の省エネルギー化の推進	無回答	
全体	2,086	70.9	51.2	50.3	35.3	29.7	3.1	
性・年齢別	男性全体	802	68.8	46.8	48.8	36.3	29.2	3.0
	10・20 歳代	85	64.7	40.0	41.2	32.9	21.2	4.7
	30 歳代	86	72.1	38.4	43.0	32.6	31.4	1.2
	40 歳代	143	72.7	42.7	46.9	44.1	33.6	0.7
	50 歳代	153	73.9	47.1	47.1	35.3	25.5	1.3
	60 歳代	135	74.8	45.2	53.3	39.3	34.8	3.0
	70 歳代	123	56.9	60.2	52.8	31.7	27.6	4.9
	80 歳以上	77	61.0	51.9	55.8	33.8	27.3	7.8
	女性全体	1,244	72.7	54.0	51.4	34.4	29.7	3.0
	10・20 歳代	118	66.9	43.2	61.9	36.4	29.7	3.4
	30 歳代	170	75.3	51.2	55.3	37.1	35.9	1.2
	40 歳代	236	77.5	49.6	46.6	29.2	28.8	1.7
	50 歳代	250	75.2	56.8	54.8	44.4	38.4	1.6
	60 歳代	158	69.6	51.9	49.4	33.5	28.5	3.8
	70 歳代	175	70.9	68.6	49.7	30.9	20.0	2.3
	80 歳以上	136	67.6	53.7	44.9	25.7	20.6	9.6

<調査結果>

性・年齢別でみると、「風水害（台風や短時間豪雨）や猛暑などの災害への対策」は女性の 40 歳代で 8 割近く、男性の 60 歳代、女性の 30 歳代と 50 歳代で 7 割半ばとなっている。「区民・事業者・区の再生可能エネルギーの利用拡大」は、男性の 40 歳代、女性の 50 歳代で 4 割半ばと高くなっている。（表 21-3-1）



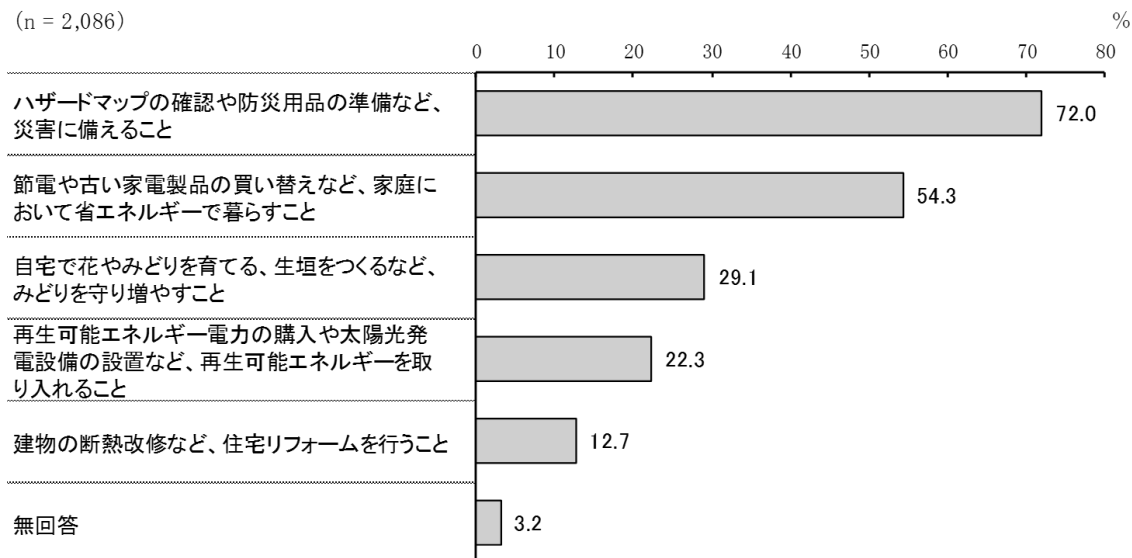
#### (4) 気候危機に対して自分ができること

◎「ハザードマップの確認や防災用品の準備など、災害に備えること」が7割を超えている

問57 気候危機の問題に対して、あなたにできることは何だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図 21-4-1

(n = 2,086)



#### <調査結果>

気候危機に対して自分ができることについては、「ハザードマップの確認や防災用品の準備など、災害に備えること」(72.0%)が7割を超えて、最も高い。以下、「節電や古い家電製品の買い替えなど、家庭において省エネルギーで暮らすこと」(54.3%)、「自宅で花やみどりを育てる、生垣をつくるなど、みどりを守り増やすこと」(29.1%)、「再生可能エネルギー電力の購入や太陽光発電設備の設置など、再生可能エネルギーを取り入れること」(22.3%)などと続いている。(図 21-4-1)

表 21-4-1 気候危機に対して自分ができること（性・年齢別）

（%）

区分	n	ハザードマップの確認や防災用品の準備など、災害に備えること	節電や古い家電製品の買い替えなど、家庭において省エネルギーで暮らすこと	自宅で花やみどりを育てる、生垣をつくるなど、みどりを守り増やすこと	再生可能エネルギー電力の購入や太陽光発電設備の設置など、再生可能エネルギーを取り入れること	建物の断熱改修など、住宅リフォームを行うこと	無回答	
全体	2,086	72.0	54.3	29.1	22.3	12.7	3.2	
性・年齢別	男性全体	802	69.1	50.2	28.1	24.9	15.1	3.0
	10・20 歳代	85	65.9	40.0	24.7	23.5	9.4	3.5
	30 歳代	86	65.1	38.4	20.9	23.3	17.4	2.3
	40 歳代	143	72.0	49.7	24.5	30.8	16.1	1.4
	50 歳代	153	75.2	51.6	22.9	25.5	13.1	2.0
	60 歳代	135	69.6	60.0	24.4	21.5	18.5	2.2
	70 歳代	123	67.5	56.9	39.0	21.1	16.3	4.1
	80 歳以上	77	61.0	45.5	45.5	28.6	13.0	7.8
	女性全体	1,244	74.8	56.9	29.8	20.4	11.1	3.2
	10・20 歳代	118	67.8	53.4	23.7	19.5	3.4	2.5
	30 歳代	170	82.9	51.8	27.6	25.9	11.8	0.6
	40 歳代	236	80.9	56.4	26.3	21.6	11.4	0.4
	50 歳代	250	80.8	60.8	29.6	24.8	15.2	2.4
	60 歳代	158	80.4	57.0	30.4	16.5	10.8	5.1
	70 歳代	175	68.6	60.6	33.1	17.7	12.6	3.4
80 歳以上	136	50.7	55.1	39.0	12.5	7.4	11.0	

### <調査結果>

性・年齢別でみると、「ハザードマップの確認や防災用品の準備など、災害に備えること」は、男性全体（69.1%）よりも女性全体（74.8%）で割合が高く、女性の30歳代で8割を超え、女性の40歳代、50歳代でほぼ8割、女性の60歳代で8割となっている。

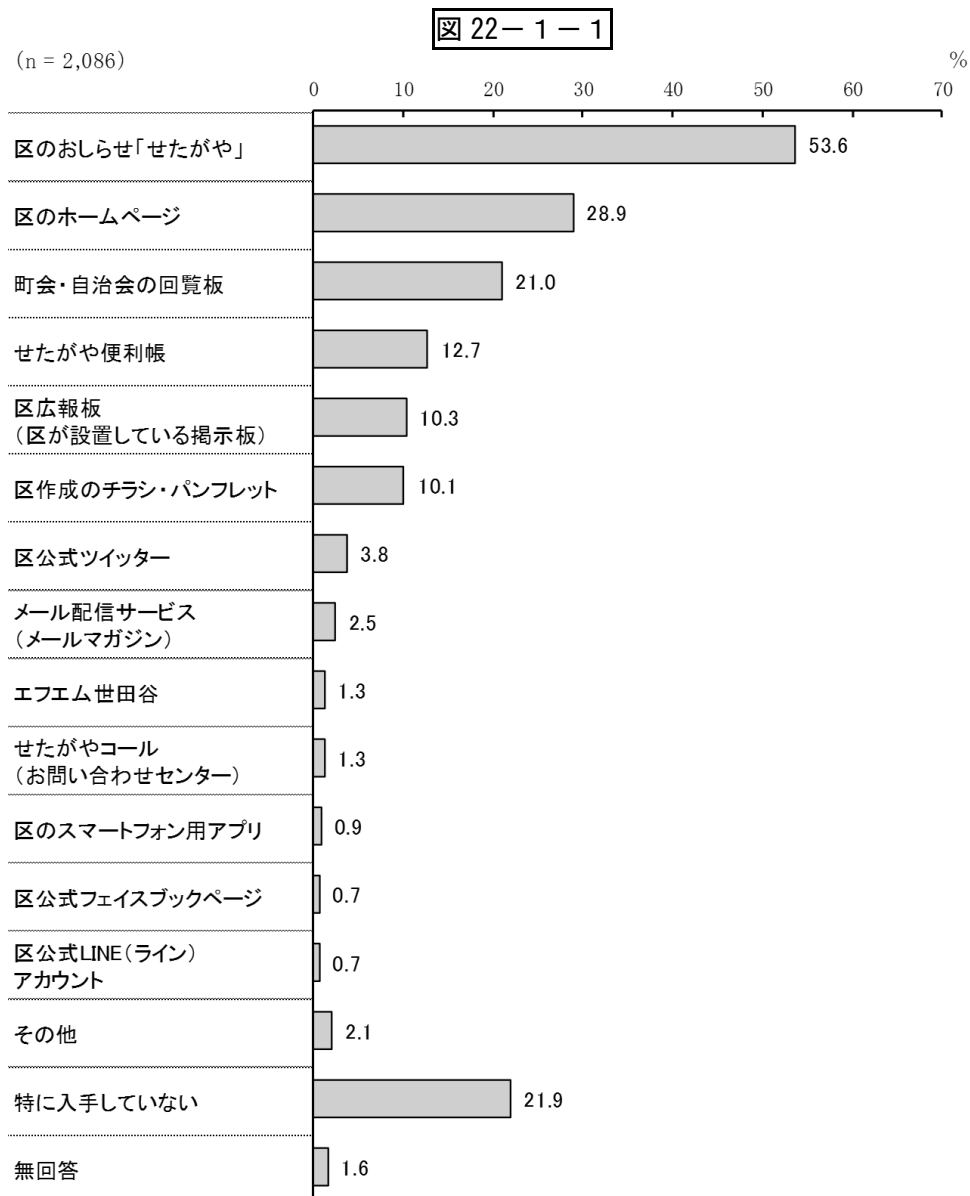
（表 21-4-1）

## 22. 広報

### (1) 区に関する情報の入手先

◎「区のおしらせ「せたがや」」が5割を超えている

問58 区に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)



#### <調査結果>

区に関する情報の入手先について聞いたところ、「区のおしらせ「せたがや」」(53.6%)が5割を超えて最も高く、以下「区のホームページ」(28.9%)、「町会・自治会の回覧板」(21.0%)、「せたがや便利帳」(12.7%)、「区広報板(区が設置している掲示版)」(10.3%)、「区作成のチラシ・パンフレット」(10.1%)などと続いている。「特に入手していない」(21.9%)は2割を超えている。(図 22-1-1)

表 22-1-1 区に関する情報の入手先（性・年齢別）

（％）

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	2,086	区のおしらせ「せたがや」 53.6	区のホームページ 28.9	町会・自治会の回覧板 21.0	せたがや便利帳 12.7	区広報板 10.3
男性 全体	802	区のおしらせ「せたがや」 51.2	区のホームページ 28.9	町会・自治会の回覧板 22.6	せたがや便利帳／区作成のチラシ・パンフレット 11.6	
10・ 20歳代	85	区のホームページ 21.2	区のおしらせ「せたがや」 18.8	区公式ツイッター／町会・自治会の回覧板 7.1		区公式フェイスブックページ／メール配信サービス／区広報板／区作成のチラシ・パンフレット 3.5
30歳代	86	区のホームページ 25.6	区のおしらせ「せたがや」 19.8	せたがや便利帳／区作成のチラシ・パンフレット 9.3		区広報板／町会・自治会の回覧板 8.1
40歳代	143	区のホームページ 38.5	区のおしらせ「せたがや」 37.8	町会・自治会の回覧板 16.1	区広報板 9.1	区作成のチラシ・パンフレット 7.7
50歳代	153	区のおしらせ「せたがや」 54.2	区のホームページ 30.7	町会・自治会の回覧板 19.0	区広報板 10.5	区作成のチラシ・パンフレット 9.8
60歳代	135	区のおしらせ「せたがや」 65.2	区のホームページ 34.1	町会・自治会の回覧板 25.2	せたがや便利帳 15.6	区作成のチラシ・パンフレット 11.1
70歳代	123	区のおしらせ「せたがや」 76.4	町会・自治会の回覧板 43.1	区のおしらせ「せたがや」 27.6	せたがや便利帳 17.9	区作成のチラシ・パンフレット 17.1
80歳 以上	77	区のおしらせ「せたがや」 76.6	町会・自治会の回覧板 37.7	せたがや便利帳 31.2	区作成のチラシ・パンフレット 26.0	区のホームページ 13.0
女性 全体	1,244	区のおしらせ「せたがや」 55.0	区のホームページ 29.3	町会・自治会の回覧板 19.9	せたがや便利帳 13.3	区広報板 10.9
10・ 20歳代	118	区のホームページ 27.1	区のおしらせ「せたがや」 16.1	区作成のチラシ・パンフレット 8.5	町会・自治会の回覧板 7.6	区広報板 6.8
30歳代	170	区のホームページ 41.2	区のおしらせ「せたがや」 31.8	区公式ツイッター 8.8	区広報板 7.6	区作成のチラシ・パンフレット／町会・自治会の回覧板 7.1
40歳代	236	区のおしらせ「せたがや」 45.8	区のホームページ 37.7	区広報板 13.1	町会・自治会の回覧板 11.4	区公式ツイッター／メール配信サービス 8.9
50歳代	250	区のおしらせ「せたがや」 53.6	区のホームページ 39.2	町会・自治会の回覧板 20.4	せたがや便利帳 11.6	区広報板 10.8
60歳代	158	区のおしらせ「せたがや」 72.2	町会・自治会の回覧板 31.6	区のおしらせ「せたがや」 29.1	せたがや便利帳 20.3	区広報板 13.3
70歳代	175	区のおしらせ「せたがや」 85.1	せたがや便利帳 29.1	町会・自治会の回覧板 28.0	区作成のチラシ・パンフレット 13.7	区のホームページ 12.6
80歳 以上	136	区のおしらせ「せたがや」 77.2	町会・自治会の回覧板 36.8	せたがや便利帳 27.2	区作成のチラシ・パンフレット 13.2	区広報板 11.8

## 〈調査結果〉

性・年齢別でみると、「区のおしらせ「せたがや」」「区のホームページ」は男性の60歳代以下、女性の50歳代以下で1位、2位となっている。「町会・自治会の回覧板」は、男性の70歳代以上、女性の80歳以上で2位となっている。（表 22-1-1）

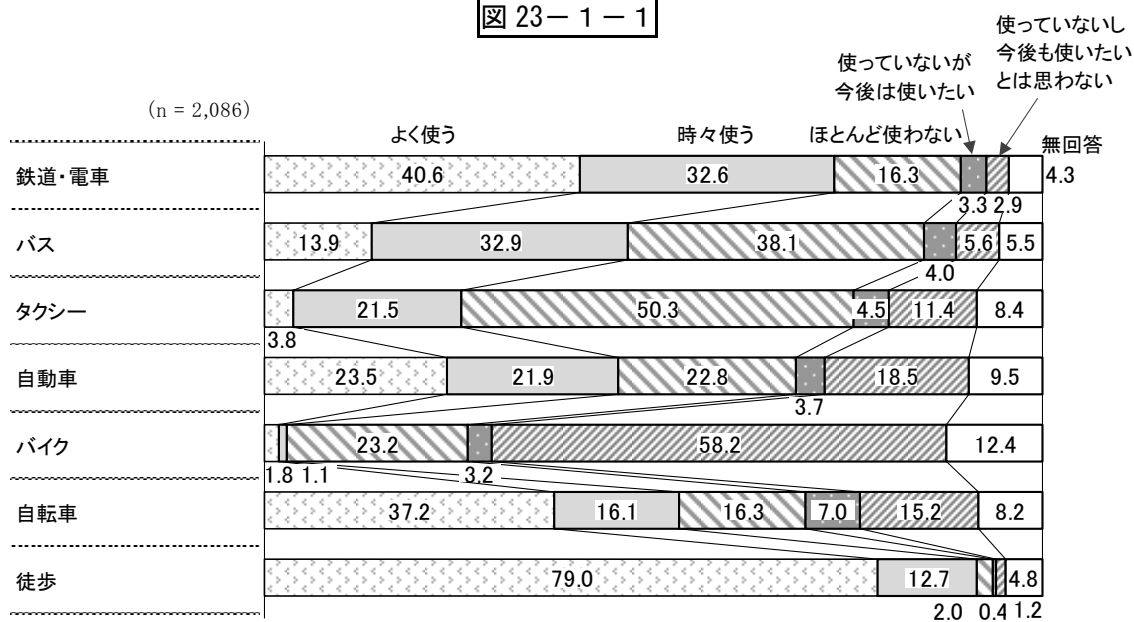
## 23. 新型コロナウイルス感染症に伴う生活への影響

### (1) 各交通手段の利用頻度

◎「よく使う」のは徒歩がほぼ8割

問59 あなたは、現在、区内の各交通手段（移動手段）をどのくらいの頻度で利用していますか。次の（1）から（7）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

図 23-1-1

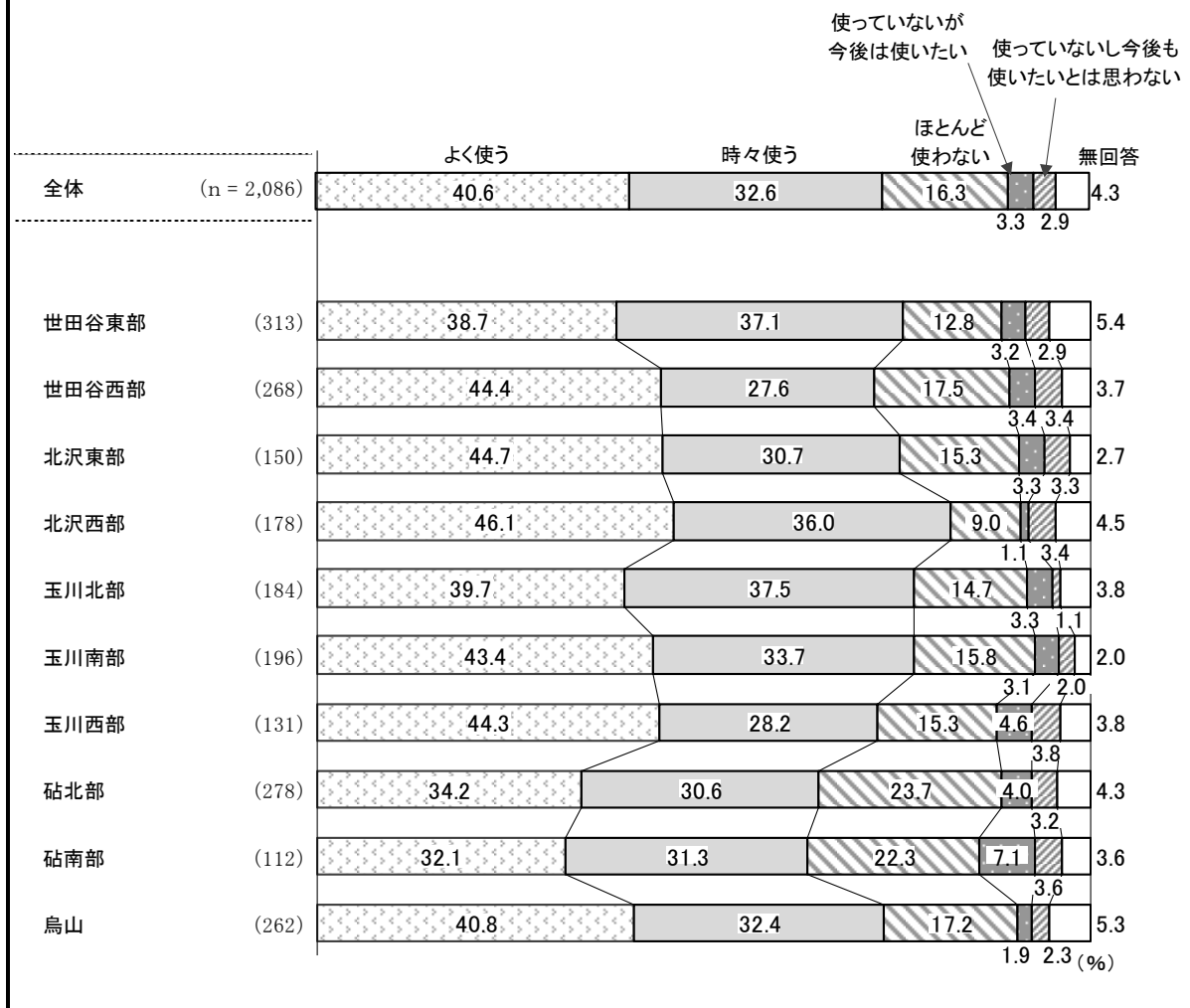


#### <調査結果>

各交通手段の利用頻度について聞いたところ、「よく使う」は徒歩（79.0%）がほぼ8割と最も高くなっている。また、鉄道・電車（40.6%）がほぼ4割、自転車（37.2%）が4割近くとなっている。（図 23-1-1）

図 23-1-2 各交通手段の利用頻度

鉄道・電車（地域別）

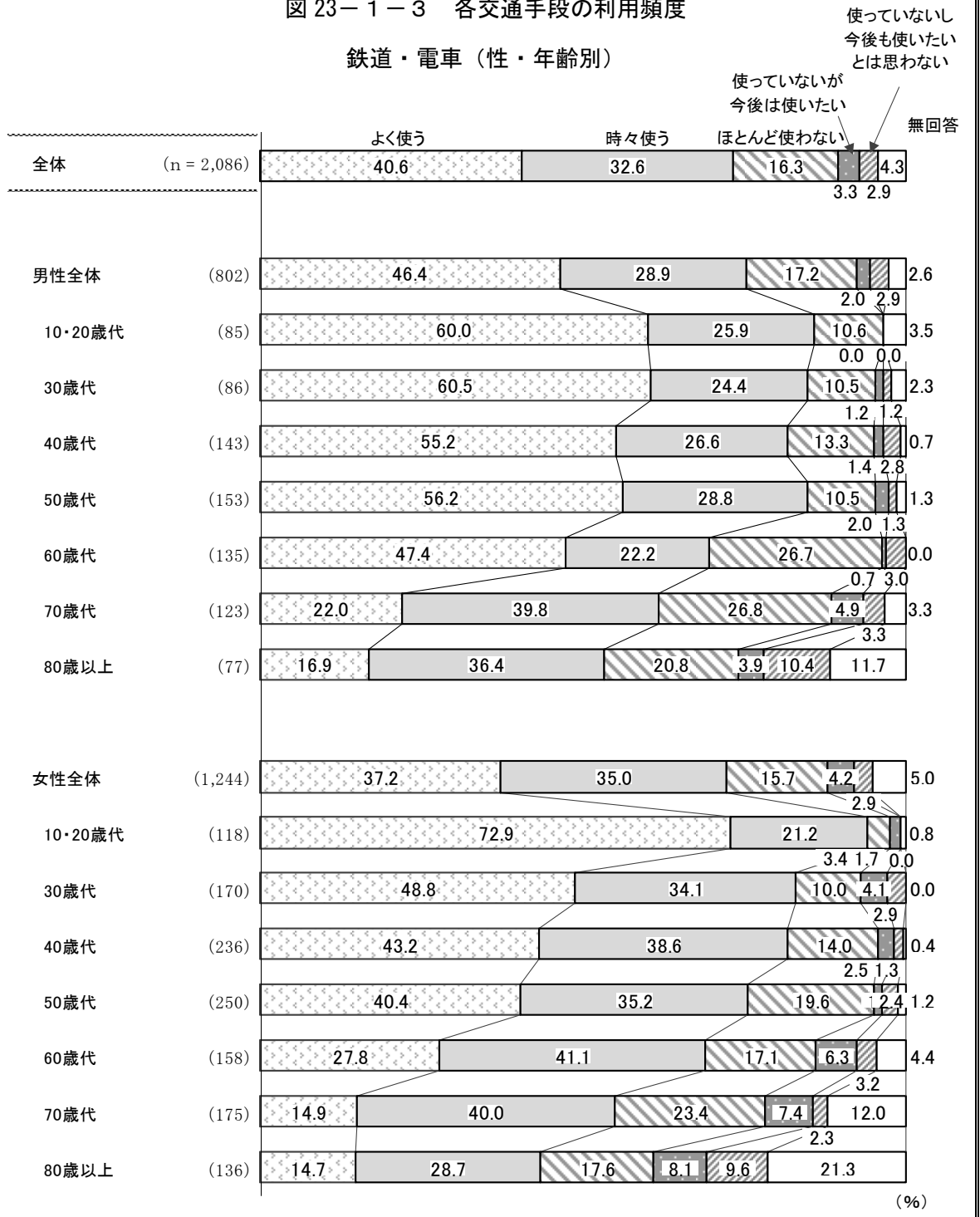


<調査結果>

鉄道・電車の利用頻度を地域別でみると、「よく使う」は世田谷西部、北沢東部、北沢西部、玉川西部で4割半ばとなっている。一方、「ほとんど使わない」は、砧北部、砧南部で2割を超えている。(図 23-1-2)

図 23-1-3 各交通手段の利用頻度

鉄道・電車（性・年齢別）

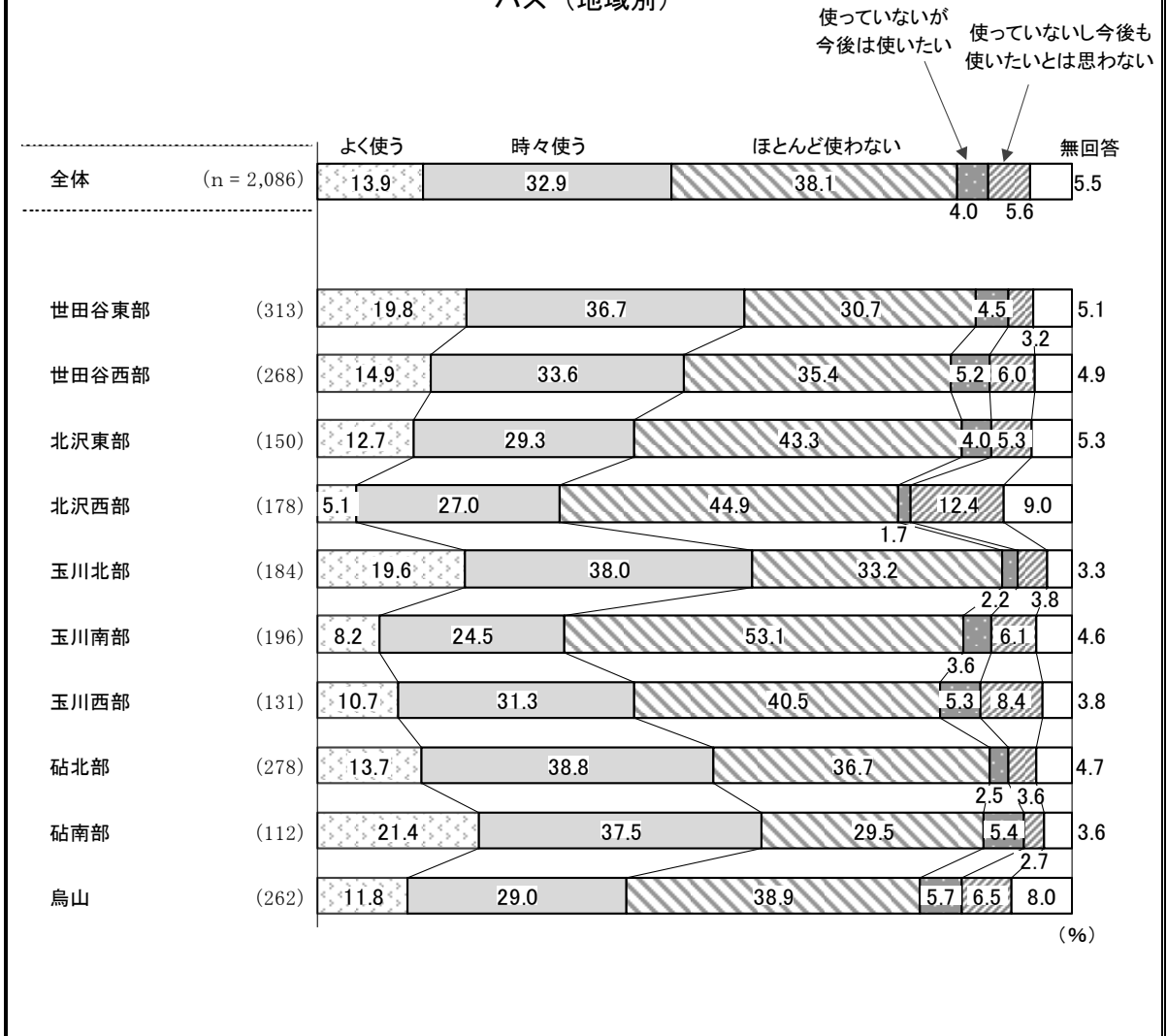


<調査結果>

鉄道・電車の利用頻度を性・年齢別で見ると、「よく使う」は女性の10・20歳代で7割を超え、最も高くなっている。一方、「ほとんど使わない」は、男性の60歳代、70歳代で3割近くとなっている。(図 23-1-3)

図 23-1-4 各交通手段の利用頻度

バス（地域別）



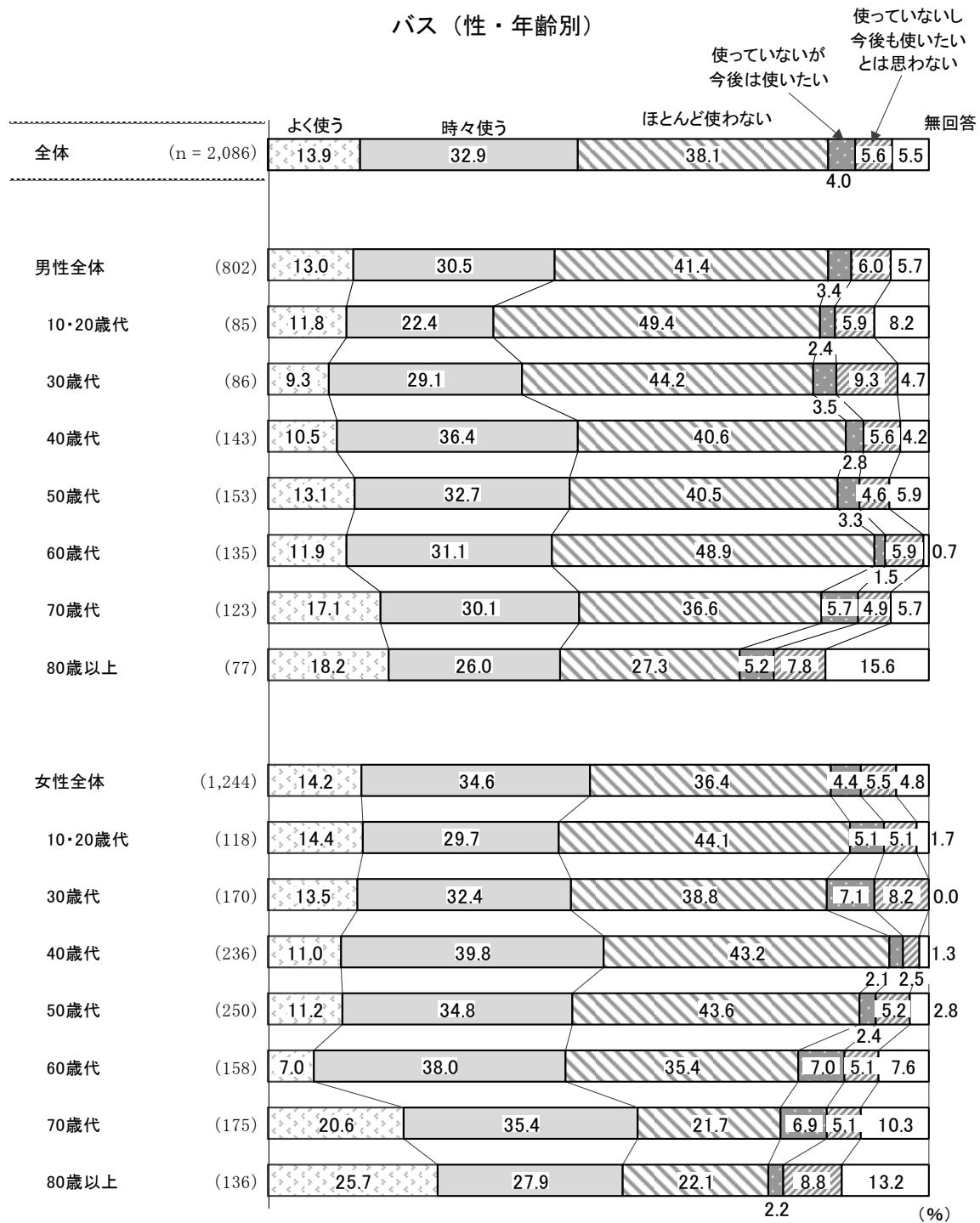
<調査結果>

バスの利用頻度を地域別でみると、「よく使う」は砧南部で2割を超え、世田谷東部、玉川北部で2割となっている。一方、「ほとんど使わない」は、玉川南部で5割を超えている。  
(図 23-1-4)



図 23-1-5 各交通手段の利用頻度

バス（性・年齢別）



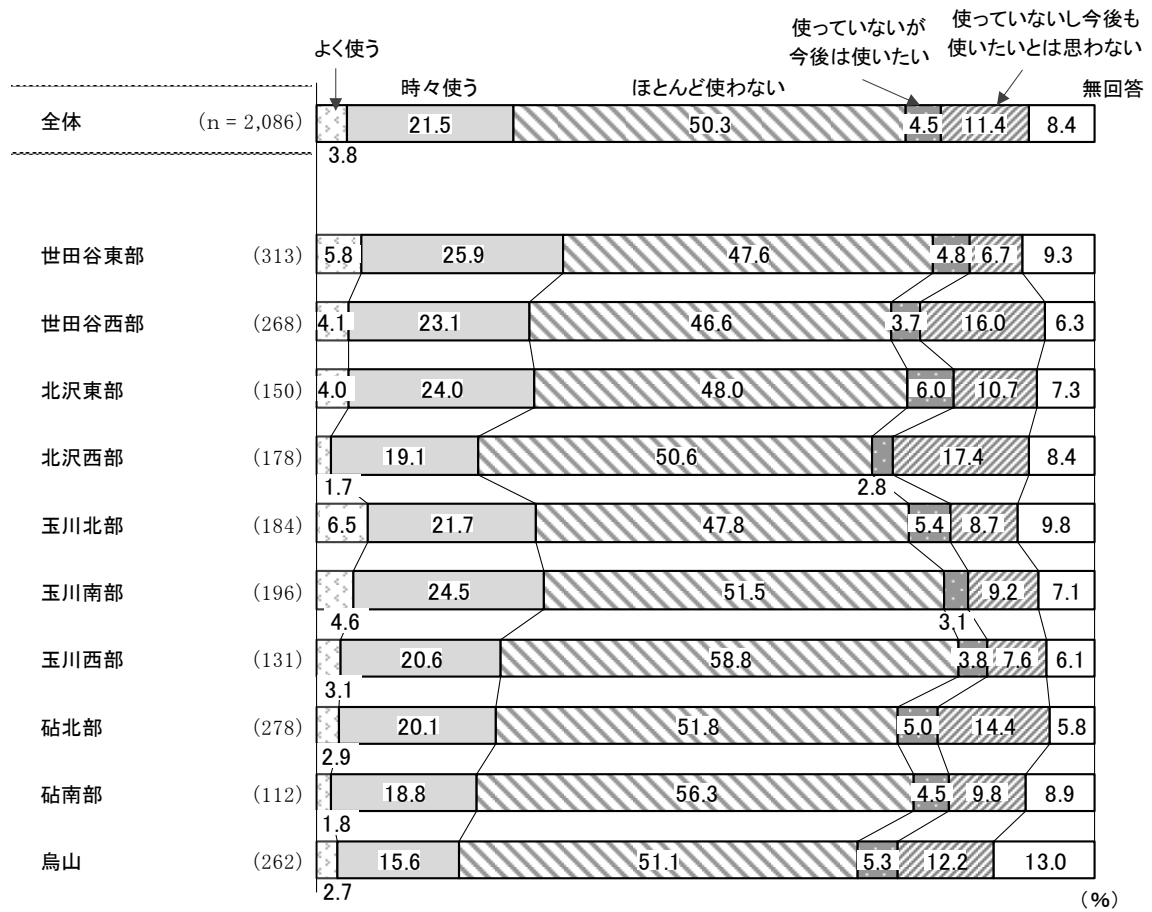
<調査結果>

バスの利用頻度について性・年齢別でみると、「よく使う」は女性の80歳以上で2割半ば、女性の70歳代でほぼ2割と女性の70歳以上で利用頻度が高くなっている。「使っていないし今後も使いたいとは思わない」はすべての年代で1割未満となっている。

(図 23-1-5)

図 23-1-6 各交通手段の利用頻度

タクシー（地域別）

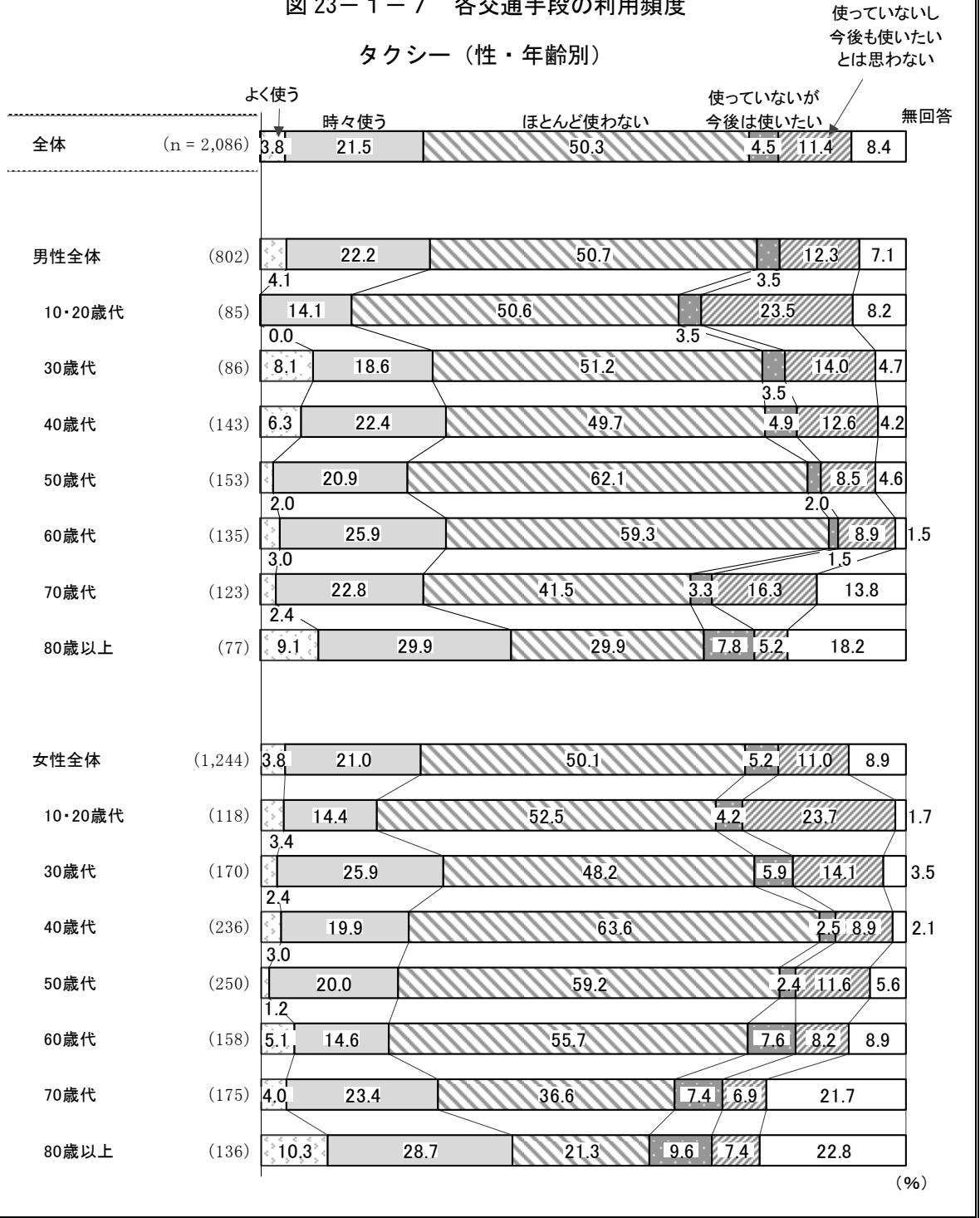


<調査結果>

タクシーの利用頻度を地域別で見ると、「時々使う」は世田谷東部、北沢東部、玉川南部で2割半ばとなっている。「よく使う」はすべての地域で1割未満となっている。(図 23-1-6)

図 23-1-7 各交通手段の利用頻度

タクシー（性・年齢別）

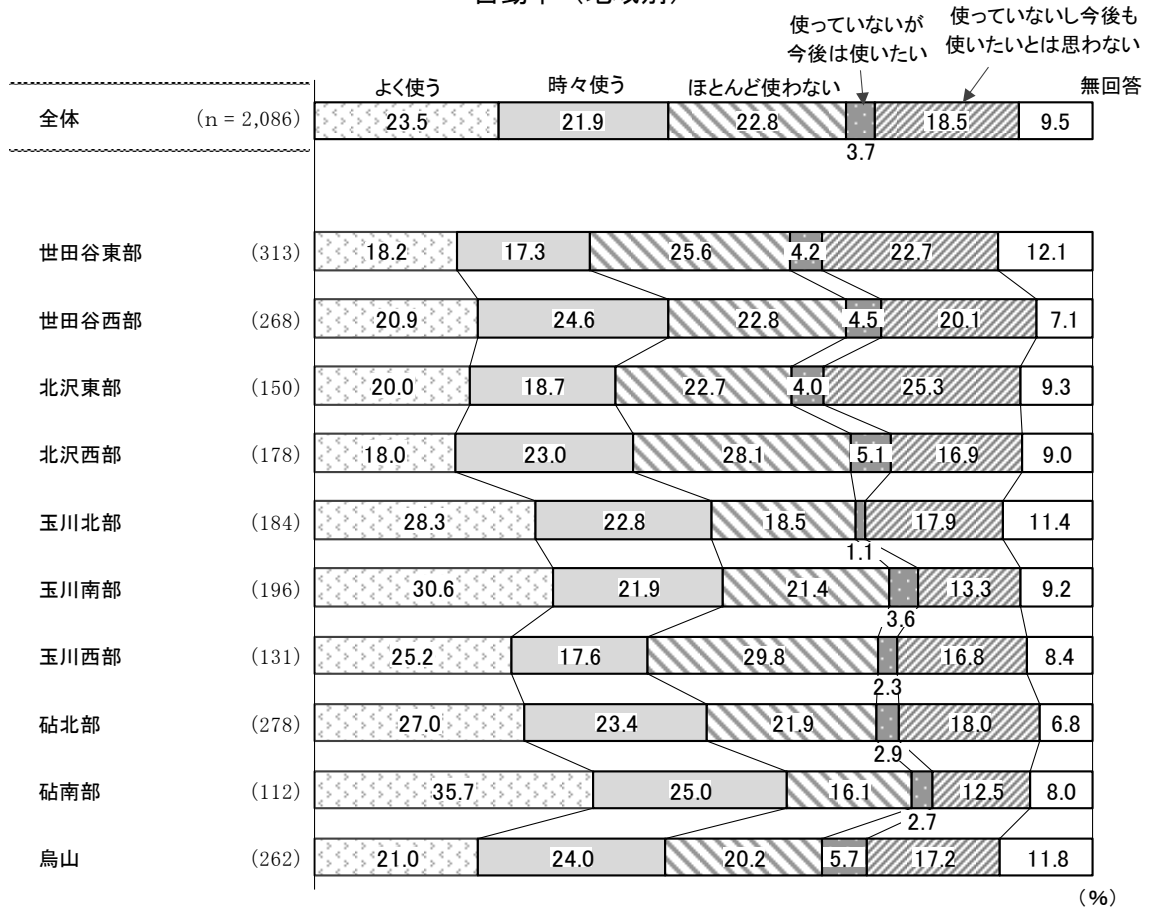


<調査結果>

タクシーの利用頻度を性・年齢別で見ると、「よく使う」及び「使っていないが今後は使いたい」は女性の80歳以上で1割となっている以外、すべての年代で1割未満となっている。(図 23-1-7)

図 23-1-8 各交通手段の利用頻度

自動車（地域別）

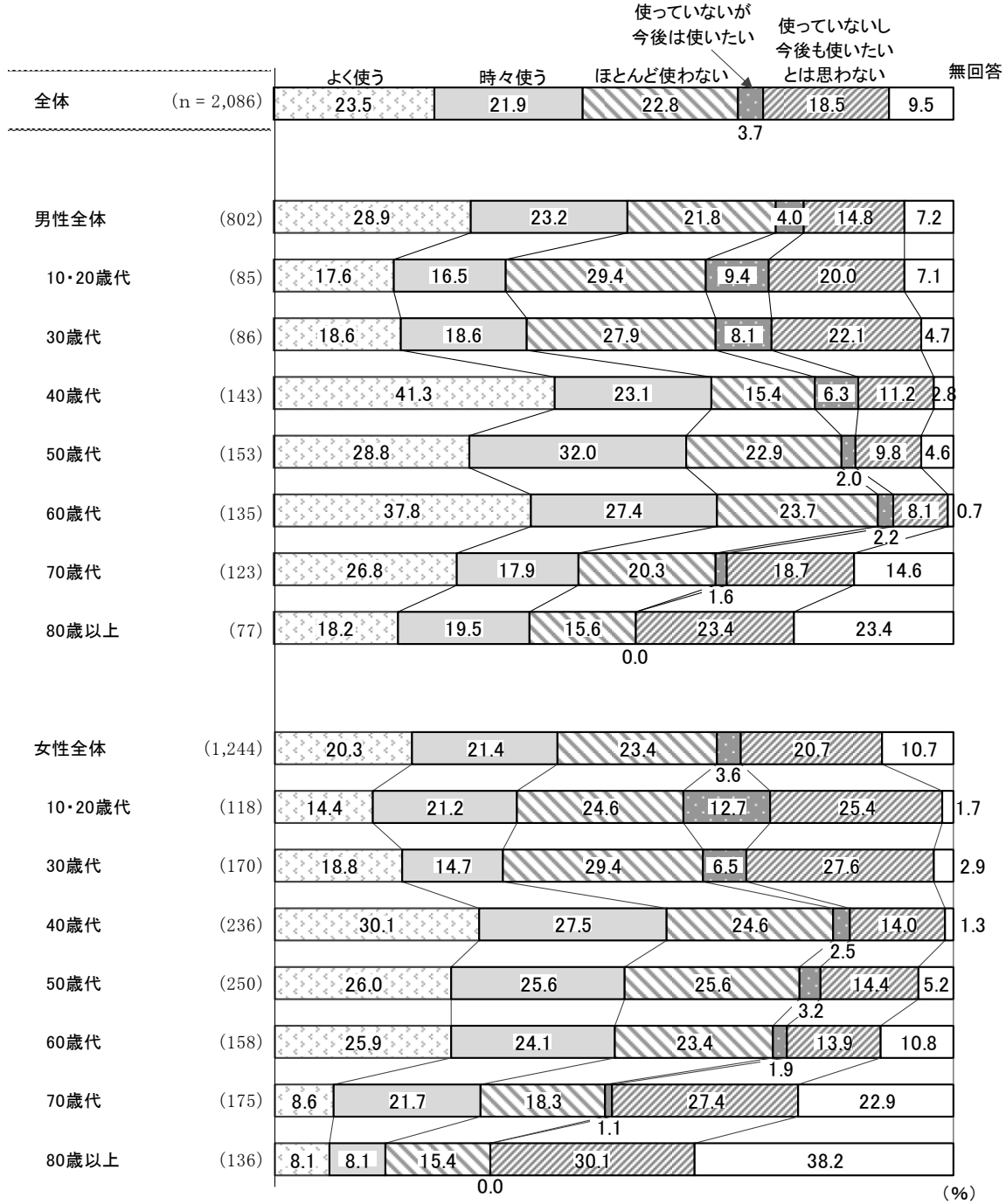


<調査結果>

自動車の利用頻度を地域別で見ると、「よく使う」は砧南部が3割半ば、玉川南部がほぼ3割、玉川北部、砧北部が3割近くとなっている。一方、「ほとんど使わない」は玉川西部で3割、北沢西部で3割近くとなっている。(図 23-1-8)

図 23-1-9 各交通手段の利用頻度

自動車（性・年齢別）

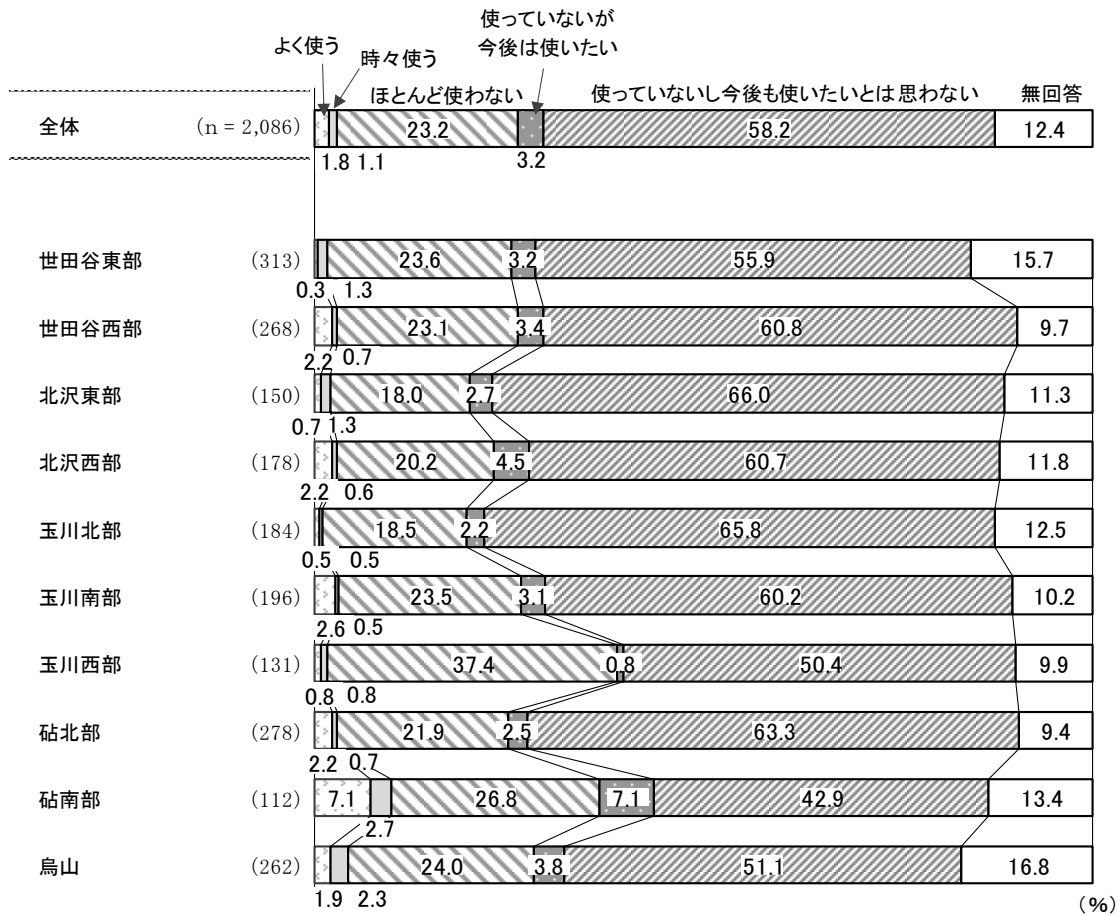


<調査結果>

自動車の利用頻度を性・年齢別でみると、「よく使う」は30歳代を除いて、女性よりも男性が高く、男性の40歳代で4割を超え、60歳代で4割近くとなっている。「使っていないが今後は使いたい」は、女性の10・20歳代で1割を超えているが、他のすべての年代で1割未満となっている。(図 23-1-9)

図 23-1-10 各交通手段の利用頻度

バイク (地域別)

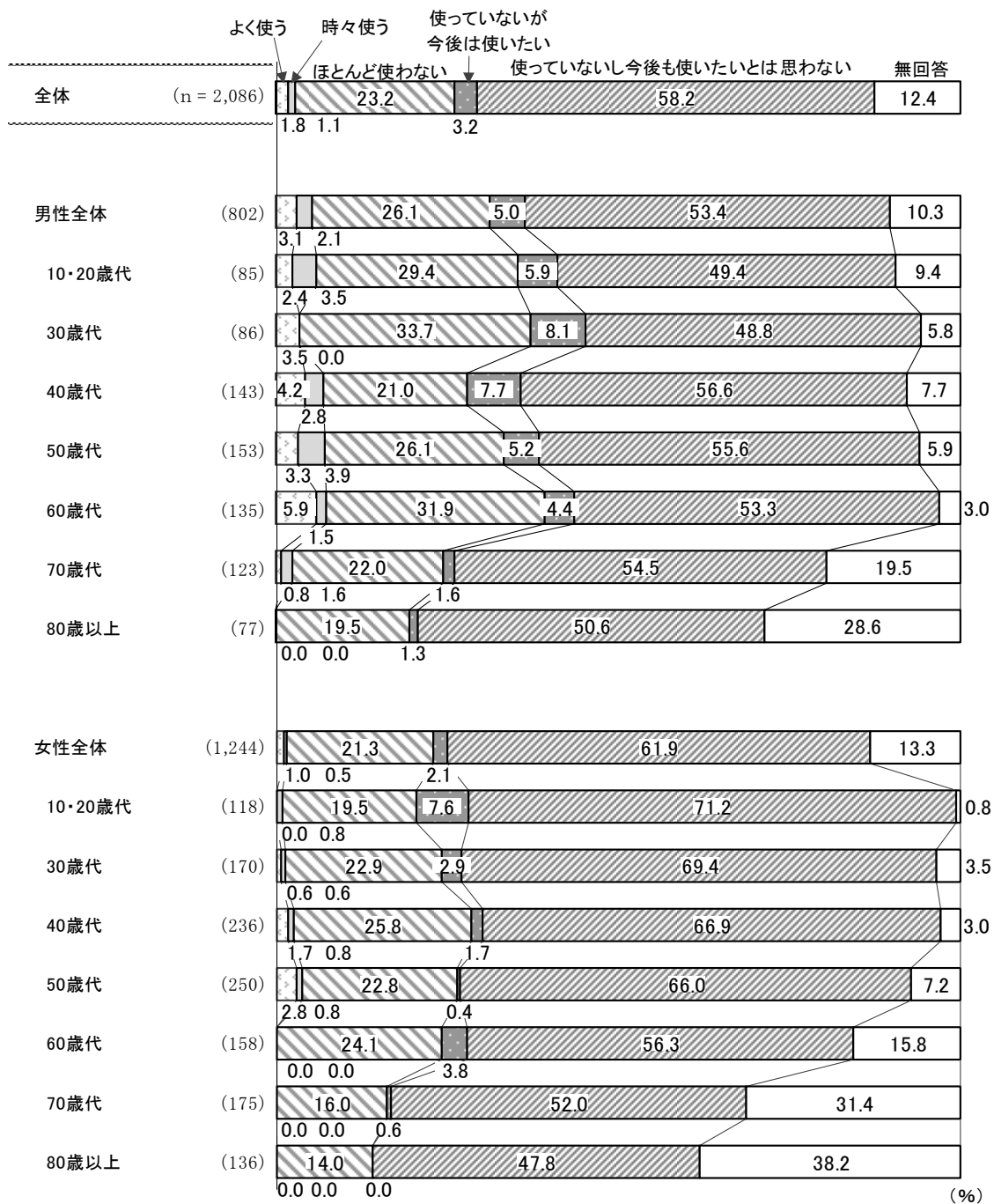


<調査結果>

バイクの利用頻度を地域別で見ると、「よく使う」は砧南部が1割近くとなっているが、すべての地域で1割未満となっている。また、「使っていないし今後も使いたいとは思わない」がすべての地域で最も高く、北沢東部、玉川北部では6割半ばとなっている。(図 23-1-10)

図 23-1-11 各交通手段の利用頻度

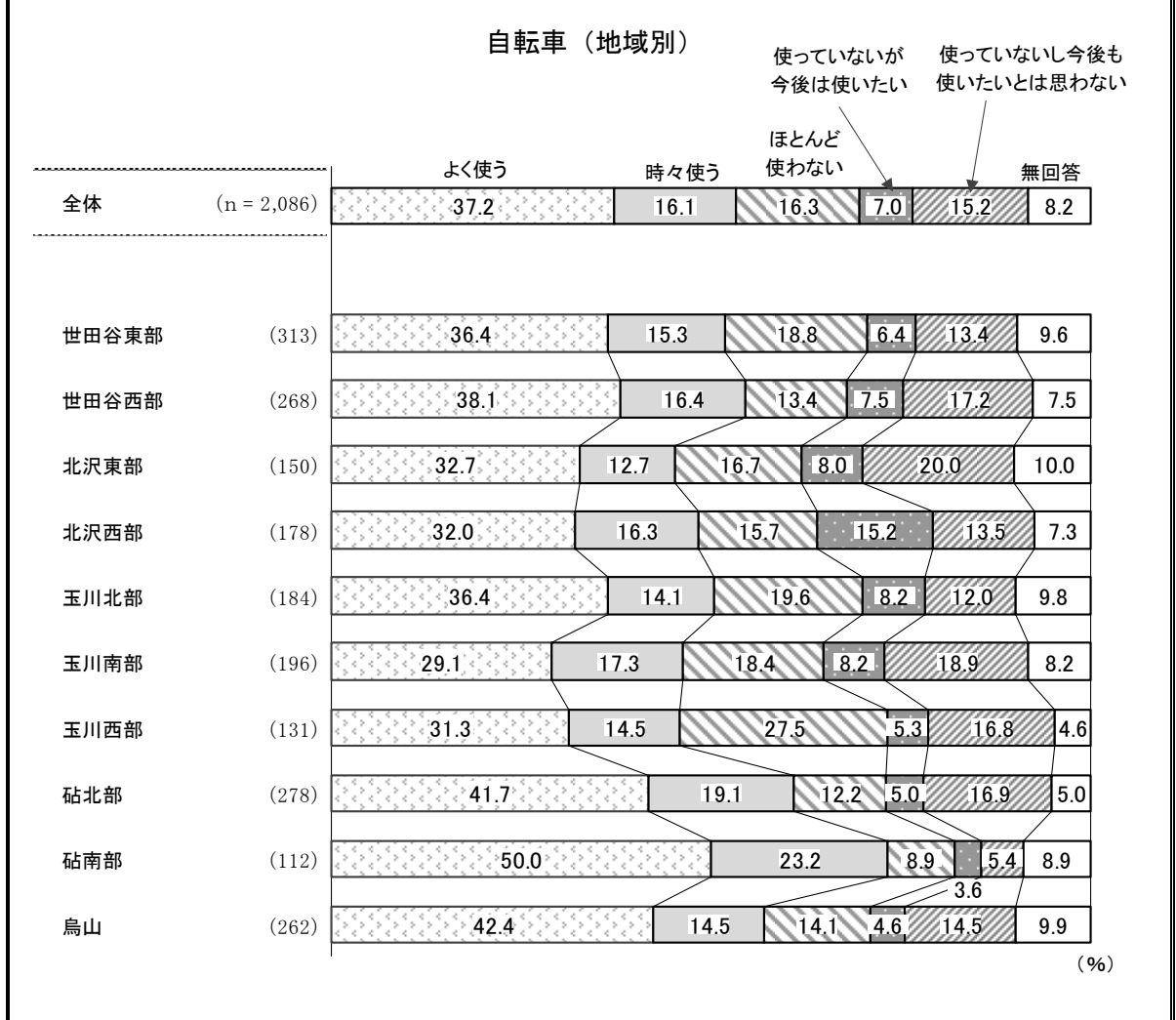
バイク (性・年齢別)



<調査結果>

バイクの利用頻度を性・年齢別で見ると、「使っていないし今後も使いたいとは思わない」は70歳以上を除いて、男性よりも女性が高く、女性の10・20歳代で7割を超えている。(図 23-1-11)

図 23-1-12 各交通手段の利用頻度

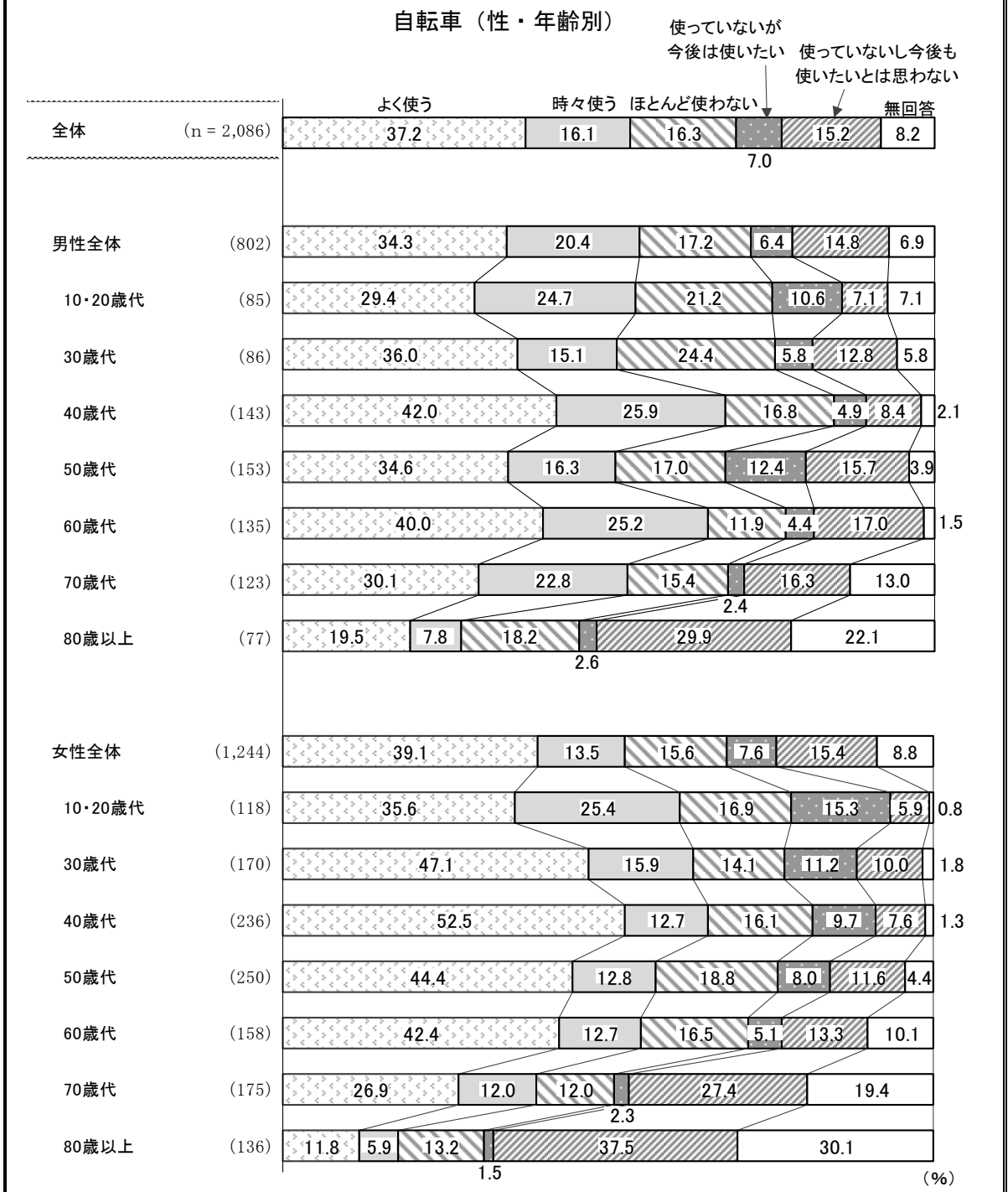


<調査結果>

自転車の利用頻度を地域別で見ると、「よく使う」は砧南部が5割、砧北部、烏山が4割を超えている。「ほとんど使わない」は玉川西部が3割近くとなっている。(図 23-1-12)



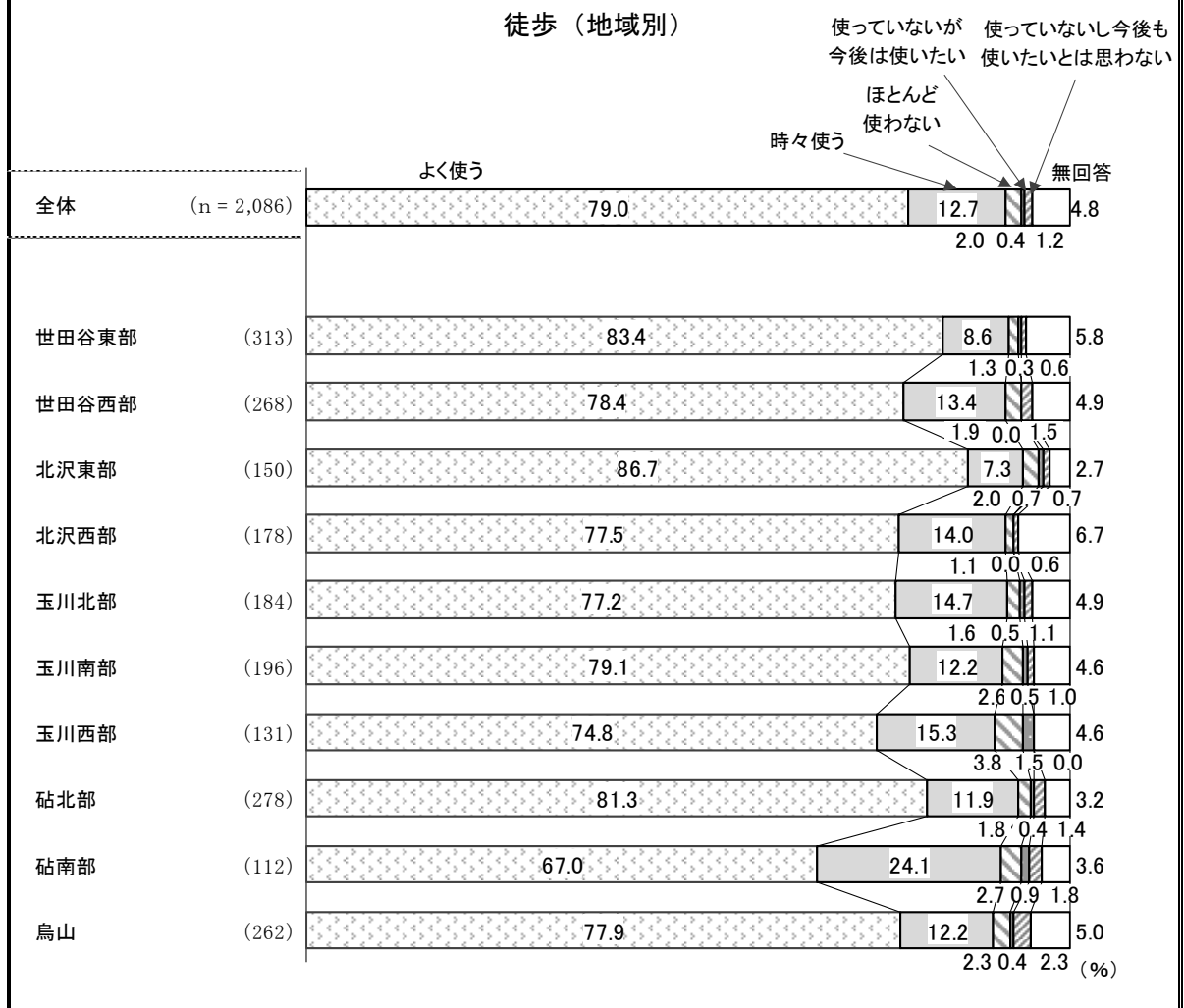
図 23-1-13 各交通手段の利用頻度



<調査結果>

自転車の利用頻度を性・年齢別で見ると、「よく使う」は女性の40歳代で5割を超え、利用頻度が高くなっている。「使っていないし今後も使いたいとは思わない」は女性の80歳以上で4割近くとなっている。(図 23-1-13)

図 23-1-14 各交通手段の利用頻度

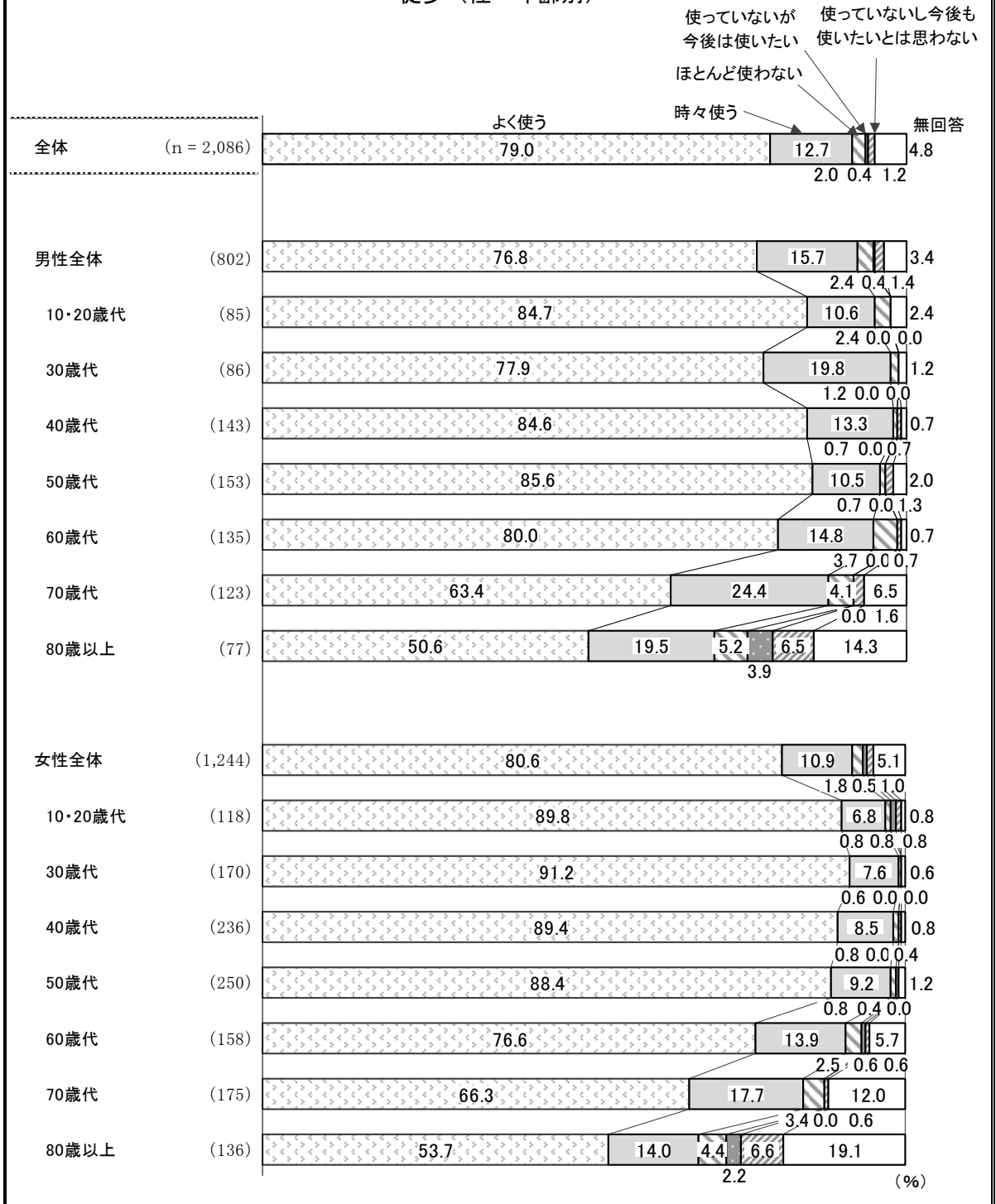


<調査結果>

徒歩の利用頻度を地域別で見ると、「よく使う」は北沢東部が9割近く、世田谷東部、砧北部が8割を超えている。(図 23-1-14)

図 23-1-15 各交通手段の利用頻度

徒歩（性・年齢別）



〈調査結果〉

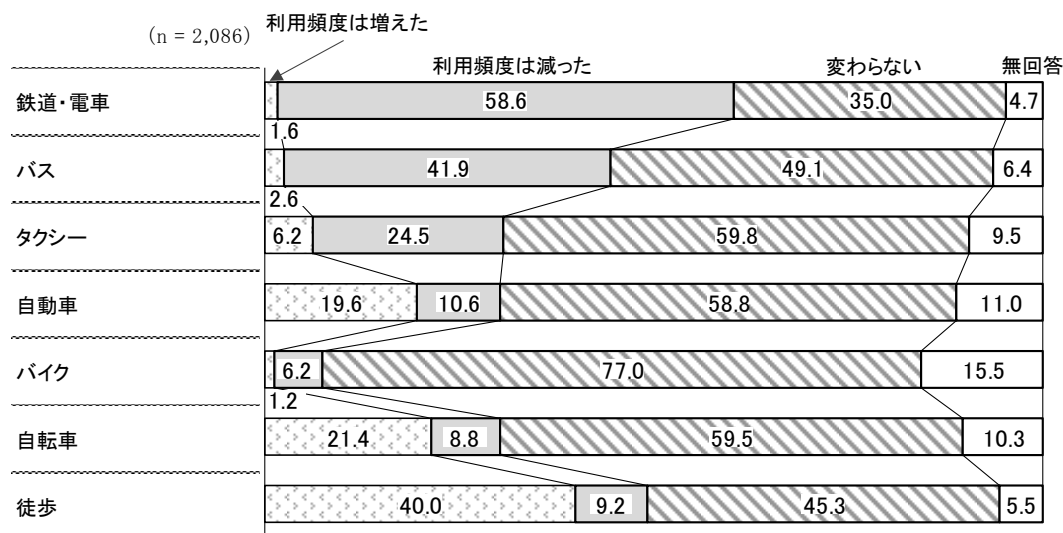
徒歩の利用頻度について性・年齢別で見ると、「よく使う」は女性の30歳代で9割を超えている。(図 23-1-15)

## (2) 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

◎「利用頻度は増えた」のは徒歩が4割、「利用頻度は減った」のは鉄道・電車で6割近く

問60 あなたは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、区内の各交通手段（移動手段）の利用頻度に変化はありましたか。次の（1）から（7）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

図 23-2-1

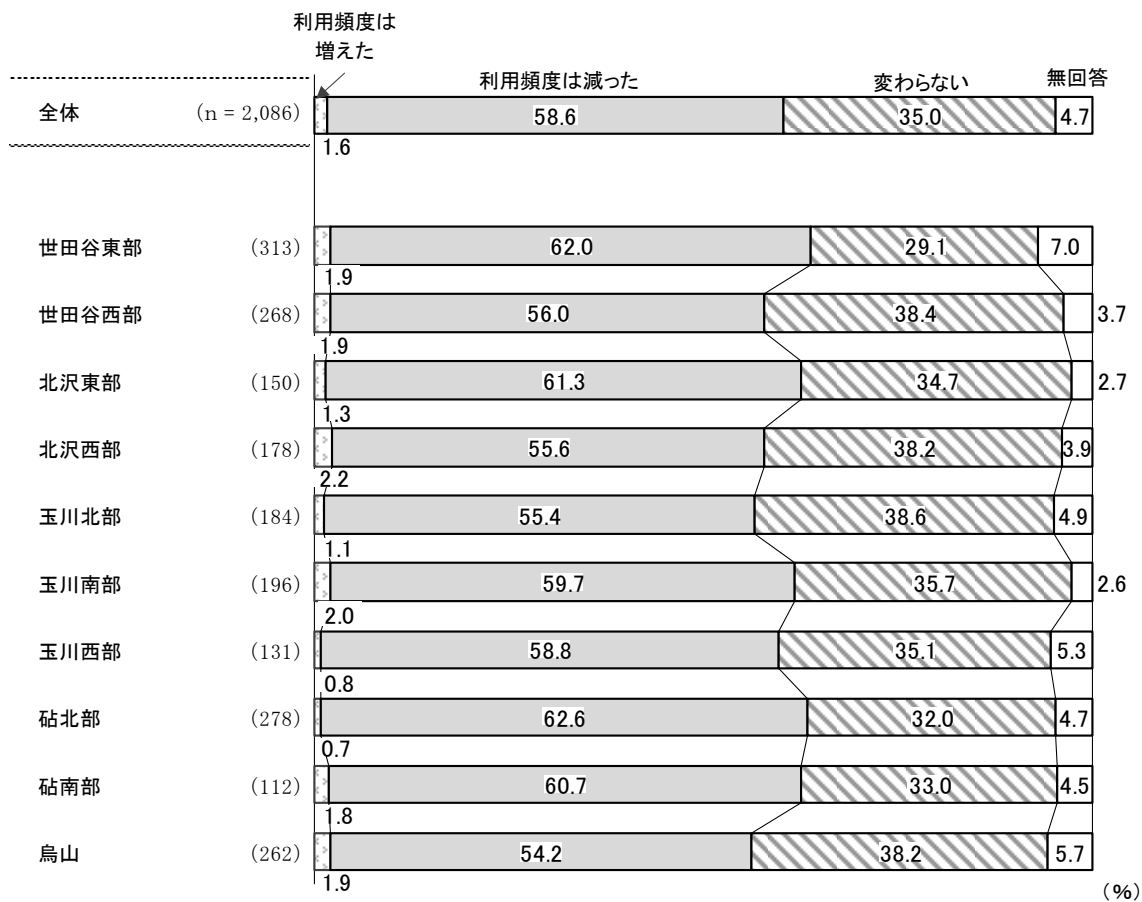


### <調査結果>

新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化について聞いたところ、「利用頻度は増えた」のは徒歩（40.0%）が4割と最も高く、自転車（21.4%）が2割を超え、自動車（19.6%）が2割となっている。「利用頻度は減った」のは鉄道・電車（58.6%）が6割近く、バス（41.9%）が4割を超えて高くなっている。（図 23-2-1）

図 23-2-2 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

鉄道・電車（地域別）

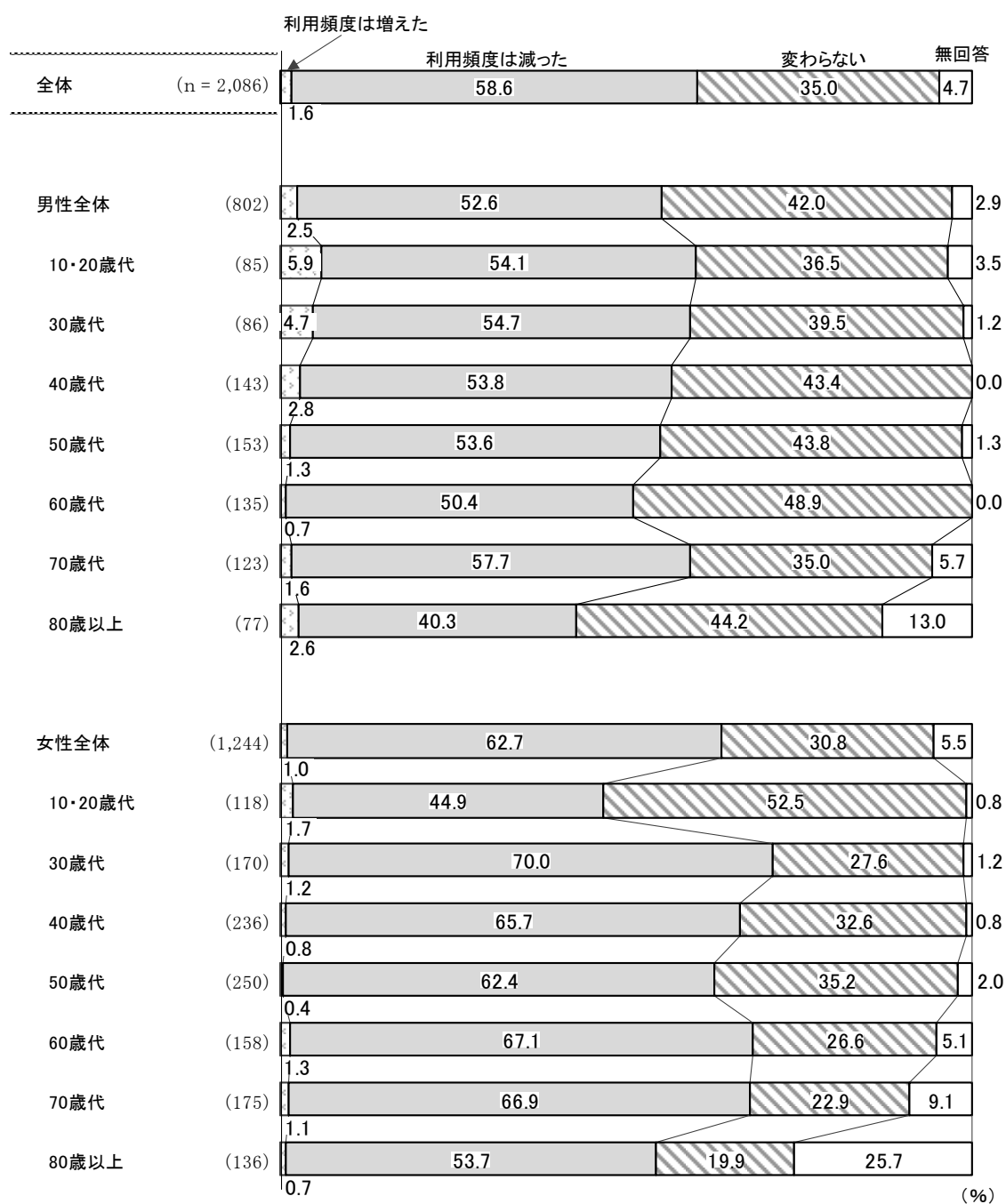


<調査結果>

鉄道・電車の利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は減った」は世田谷東部、北沢東部、砧北部で6割を超えている。(図 23-2-2)

図 23-2-3 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

鉄道・電車（性・年齢別）

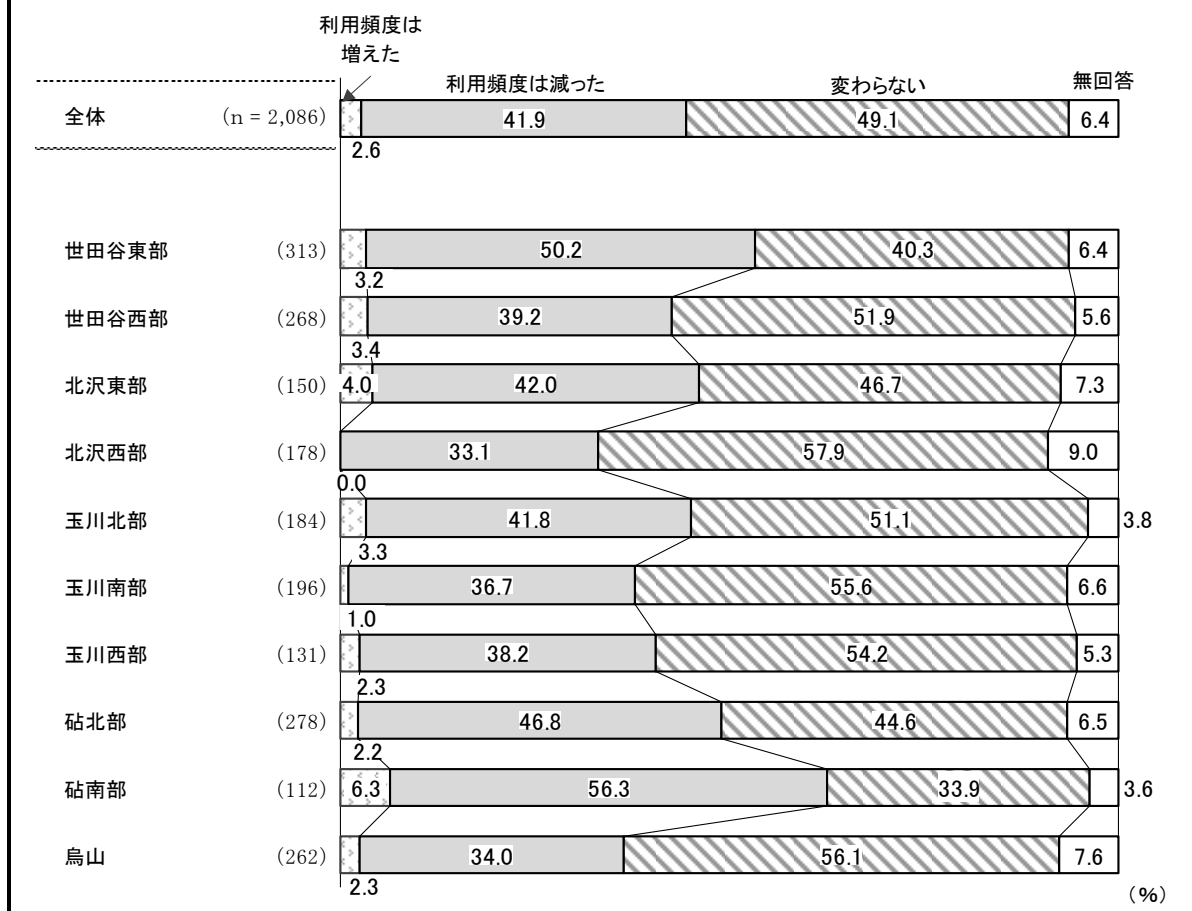


<調査結果>

鉄道・電車の利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は女性の30歳代は7割、女性の60歳代、70歳代で7割近くとなっている。(図 23-2-3)

図 23-2-4 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

バス（地域別）

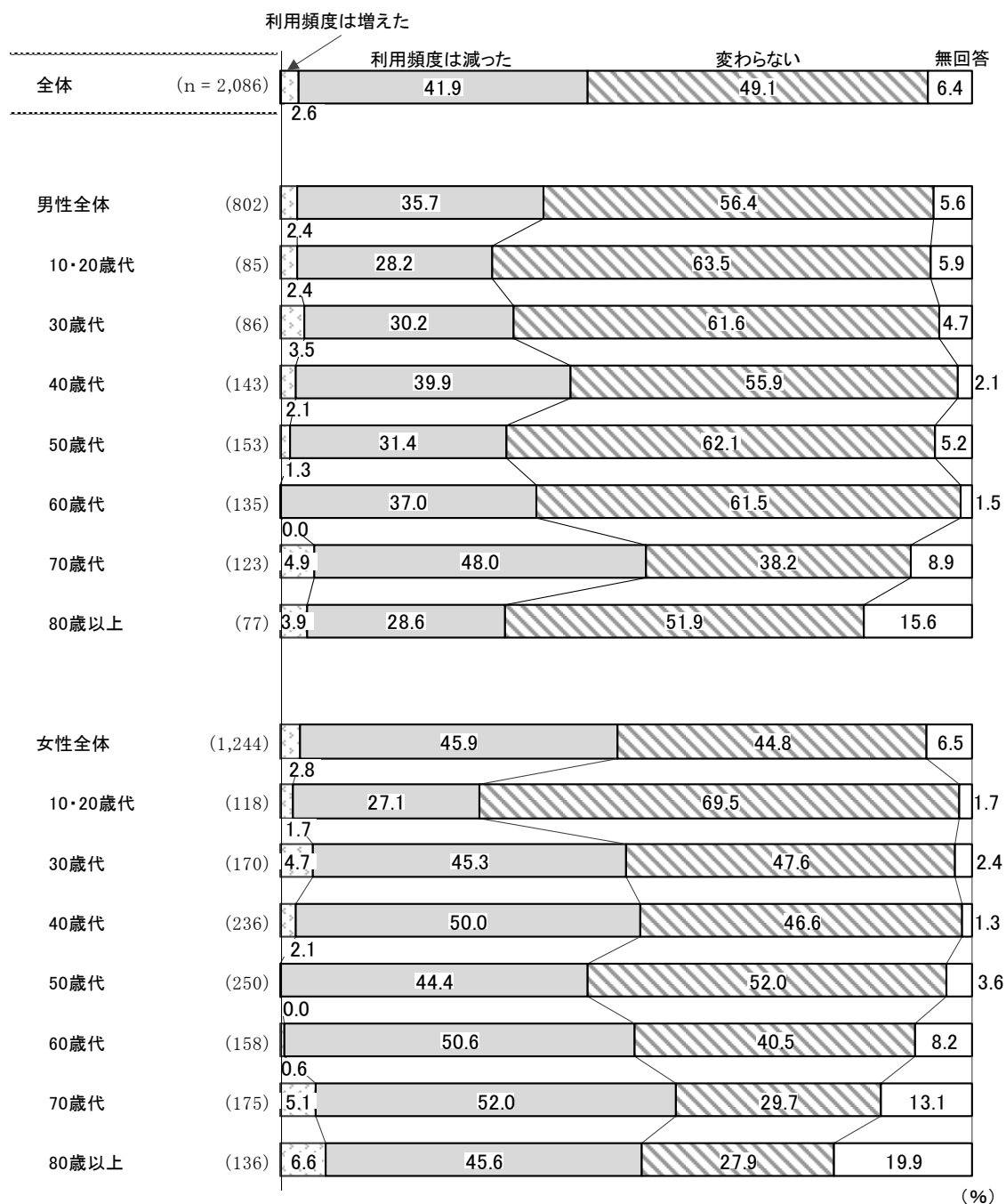


<調査結果>

バスの利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は減った」は砧南部が5割半ば、世田谷東部で5割となっている。(図 23-2-4)

図 23-2-5 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

バス（性・年齢別）



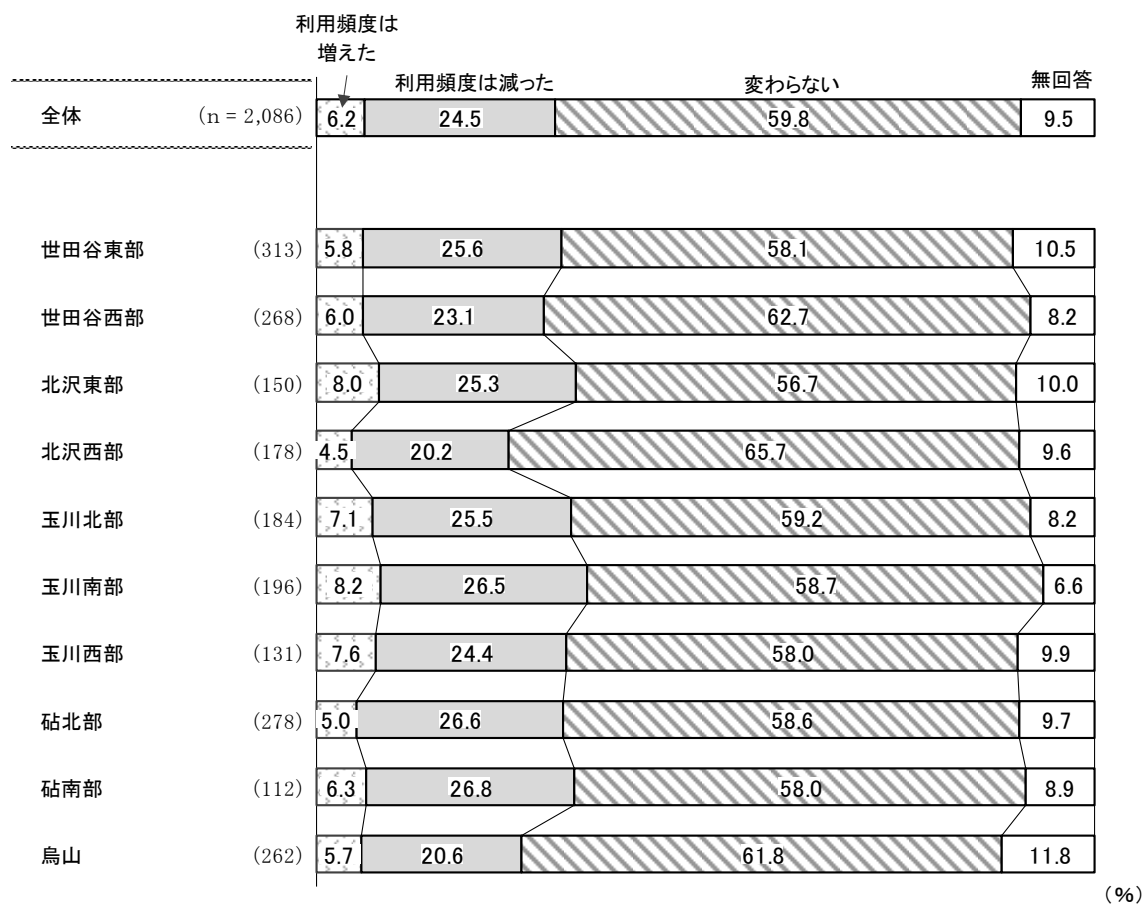
<調査結果>

バスの利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は女性の70歳代で5割を超えている。(図 23-2-5)



図 23-2-6 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

タクシー（地域別）

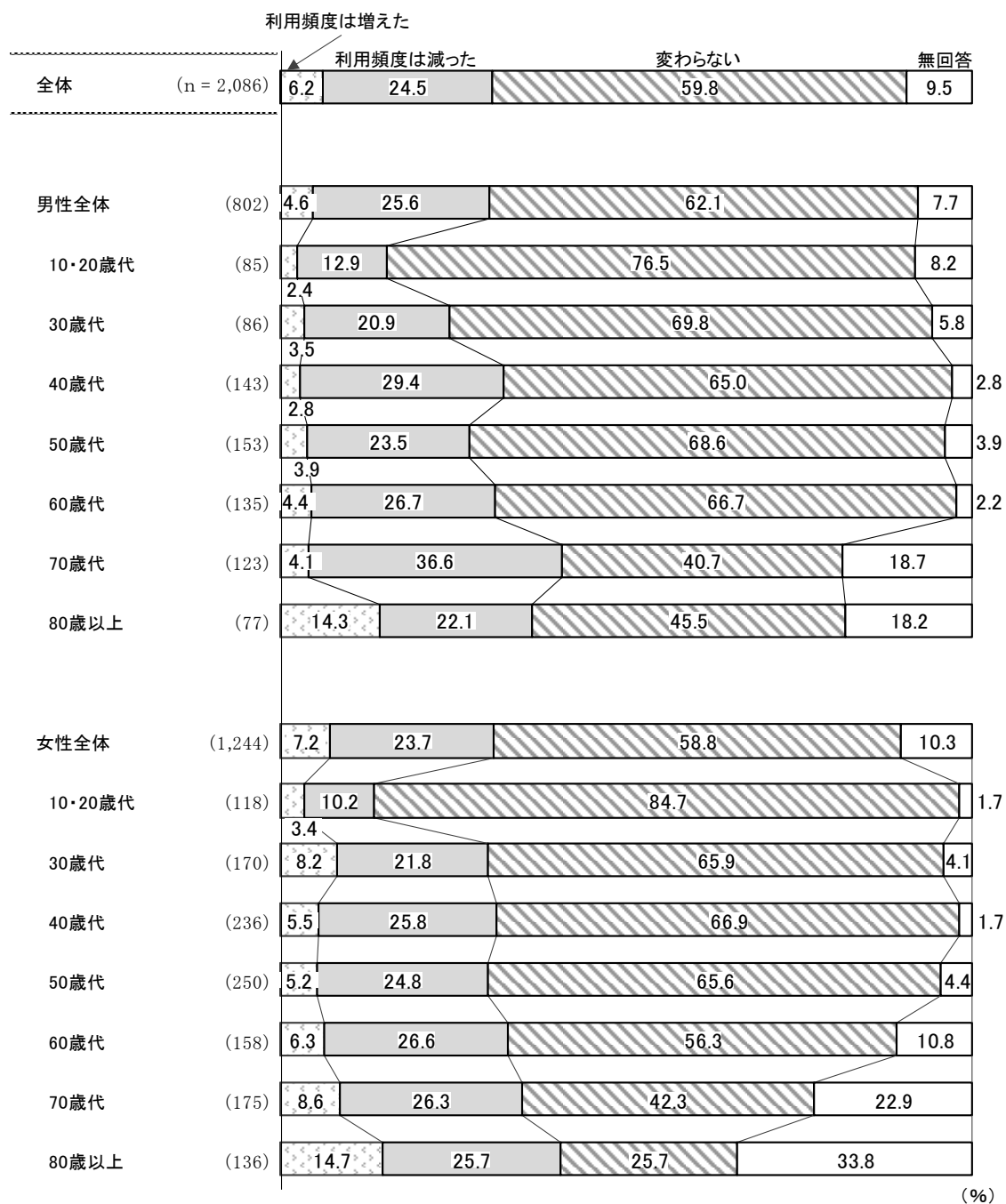


<調査結果>

タクシーの利用頻度を地域別で見ると、「変わらない」は北沢西部が6割半ば、世田谷西部、烏山で6割を超えている。(図 23-2-6)

図 23-2-7 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

タクシー（性・年齢別）



<調査結果>

タクシーの利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は男性の70歳代で4割近くとなっている。(図 23-2-7)

図 23-2-8 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

自動車（地域別）

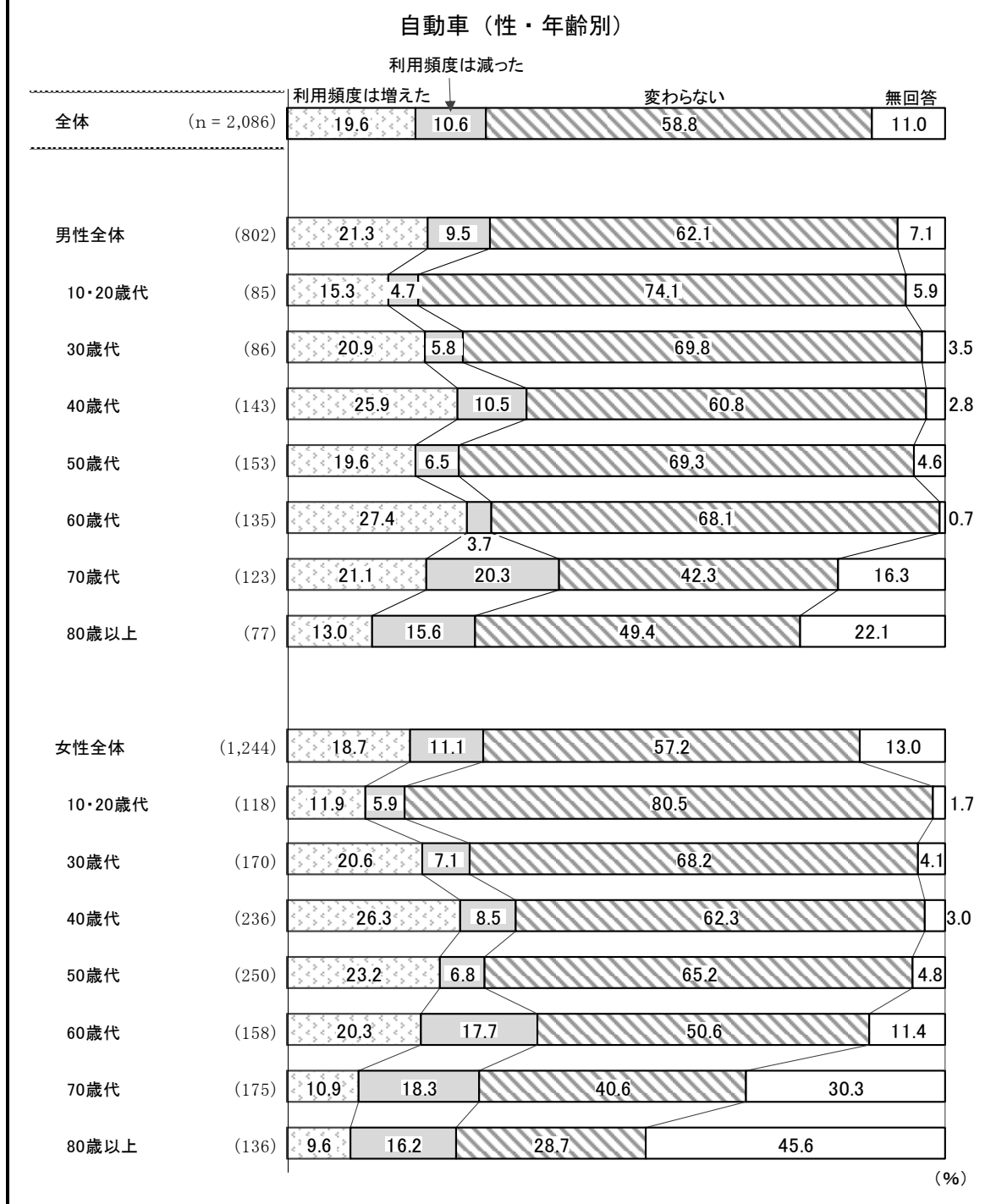
		利用頻度は 増えた	利用頻度は 減った	変わらない	無回答
全体	(n = 2,086)	19.6	10.6	58.8	11.0
世田谷東部	(313)	18.2	11.5	55.6	14.7
世田谷西部	(268)	17.5	9.7	64.2	8.6
北沢東部	(150)	23.3	9.3	57.3	10.0
北沢西部	(178)	18.0	7.3	64.0	10.7
玉川北部	(184)	22.8	9.2	53.3	14.7
玉川南部	(196)	19.9	10.7	61.2	8.2
玉川西部	(131)	19.8	6.9	63.4	9.9
砧北部	(278)	20.9	13.3	56.1	9.7
砧南部	(112)	19.6	16.1	56.3	8.0
烏山	(262)	19.1	10.7	59.2	11.1

(%)

<調査結果>

自動車の利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は増えた」は北沢東部、玉川北部が2割を超え、砧北部でほぼ2割となっている。(図 23-2-8)

図 23-2-9 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

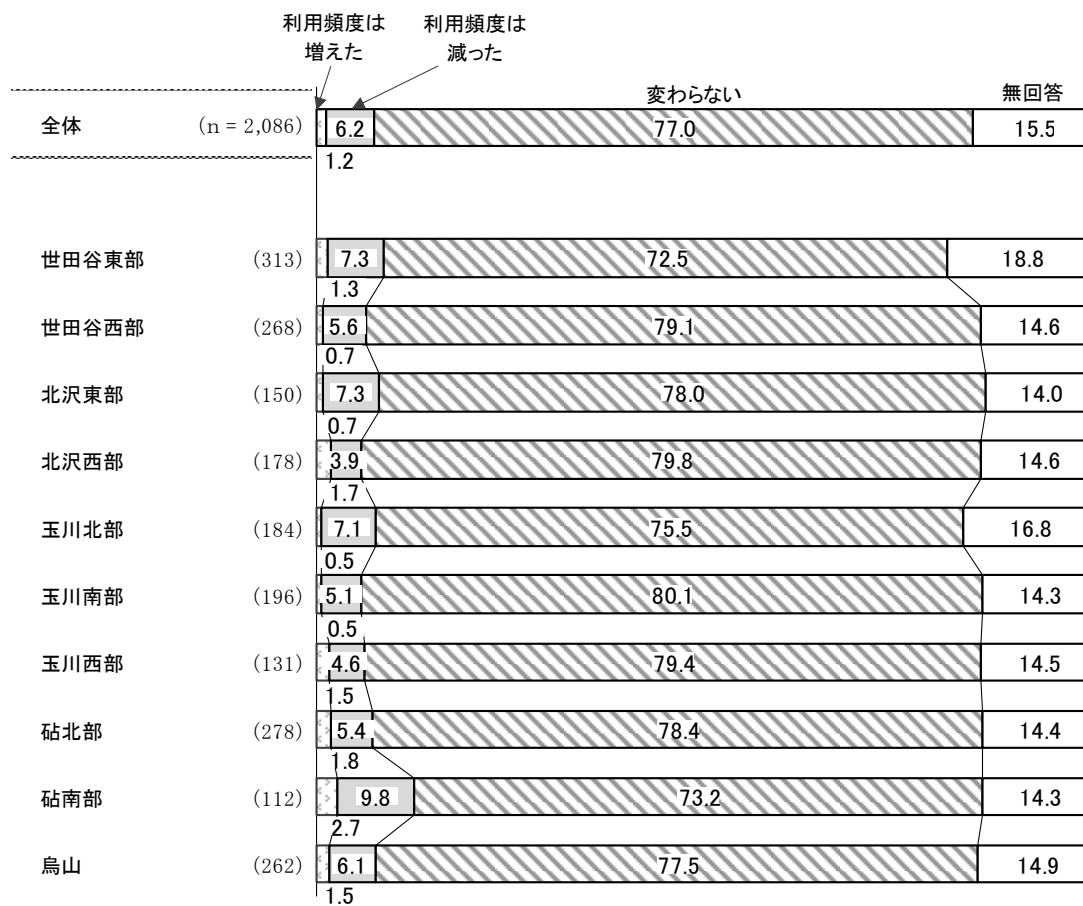


<調査結果>

自動車の利用頻度を性・年齢別でみると、「利用頻度は増えた」は男性の60歳代で3割近く、女性の40歳代、男性の40歳代で2割半ばとなっている。(図 23-2-9)

図 23-2-10 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

バイク（地域別）



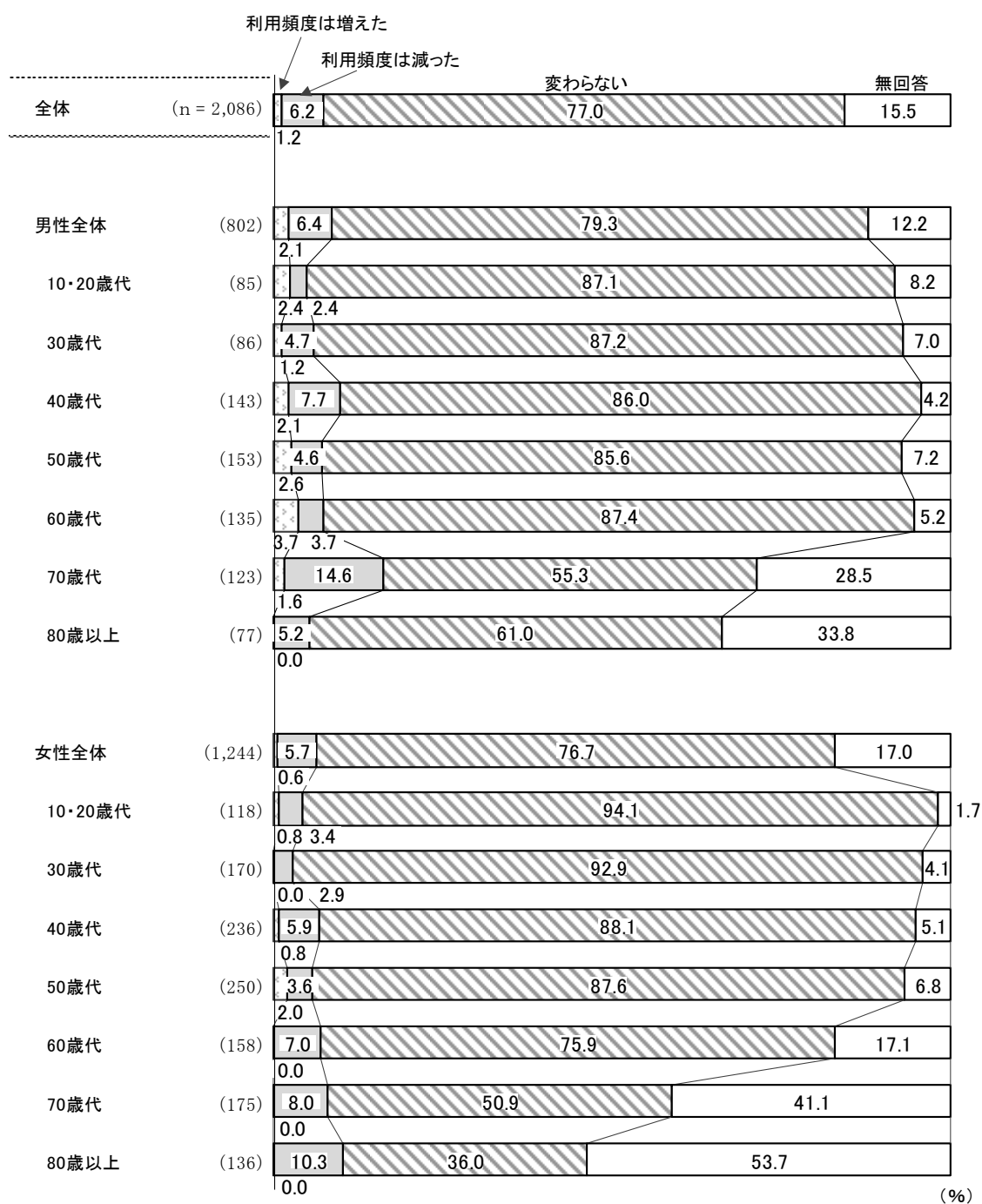
(%)

<調査結果>

バイクの利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は増えた」、「利用頻度は減った」はすべての地区で1割未満となっている。(図 23-2-10)

図 23-2-11 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

バイク (性・年齢別)

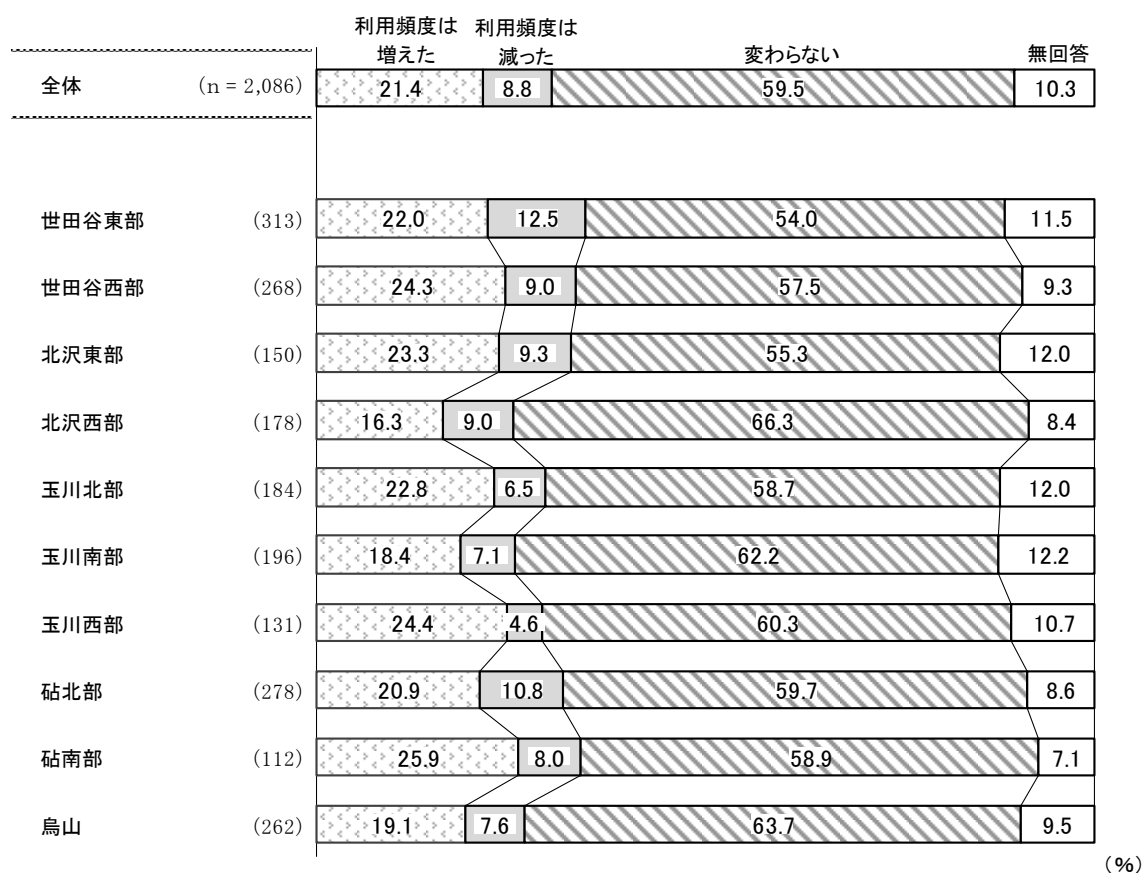


〈調査結果〉

バイクの利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は男性の70歳代で1割半ば、女性の80歳以上で1割となっている。(図 23-2-11)

図 23-2-12 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

自転車（地域別）

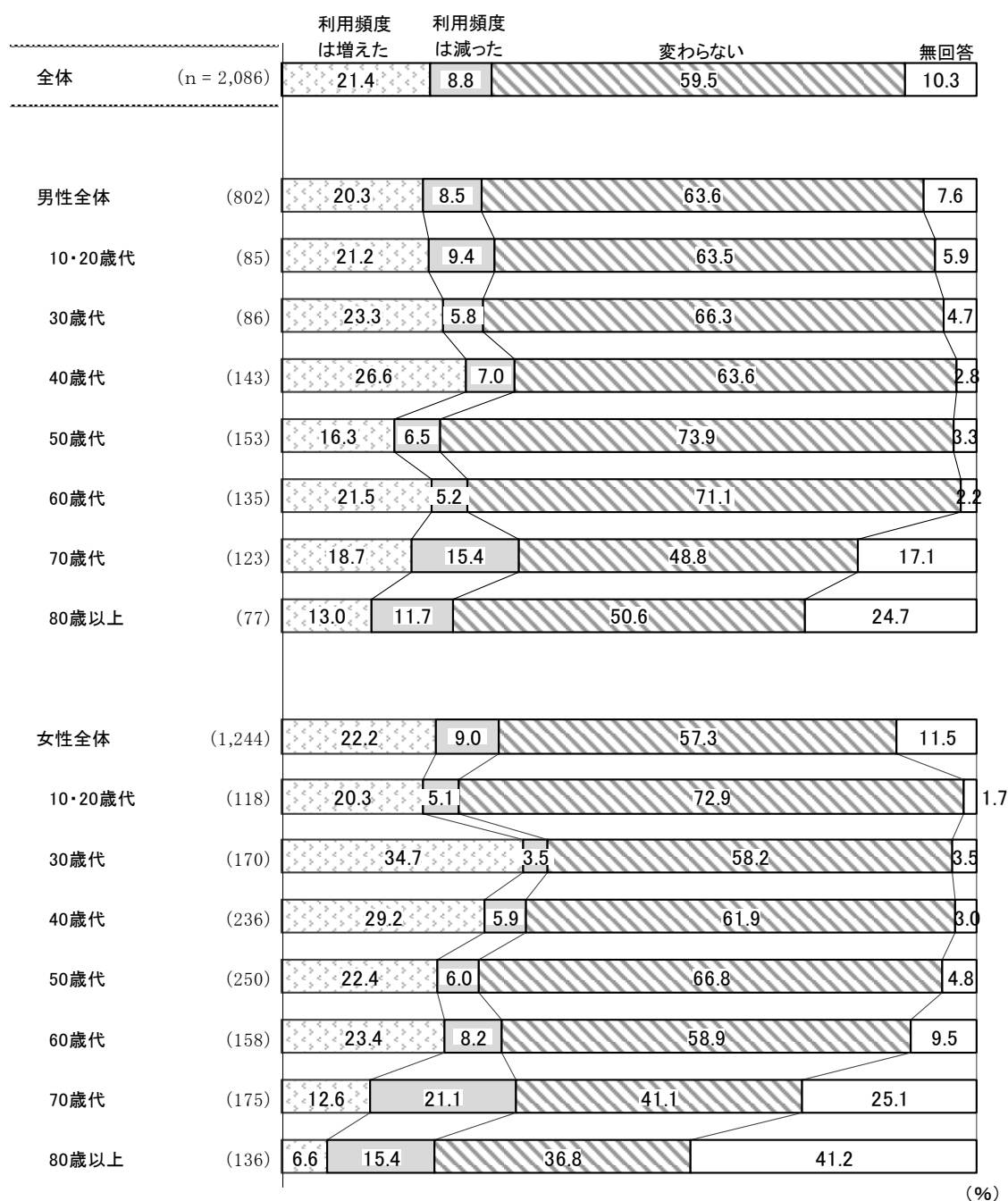


<調査結果>

自転車の利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は増えた」は世田谷西部、玉川西部、砧南部が2割半ばとなっている。「利用頻度は減った」は世田谷東部が1割を超えている。  
(図 23-2-12)

図 23-2-13 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

自転車（性・年齢別）



<調査結果>

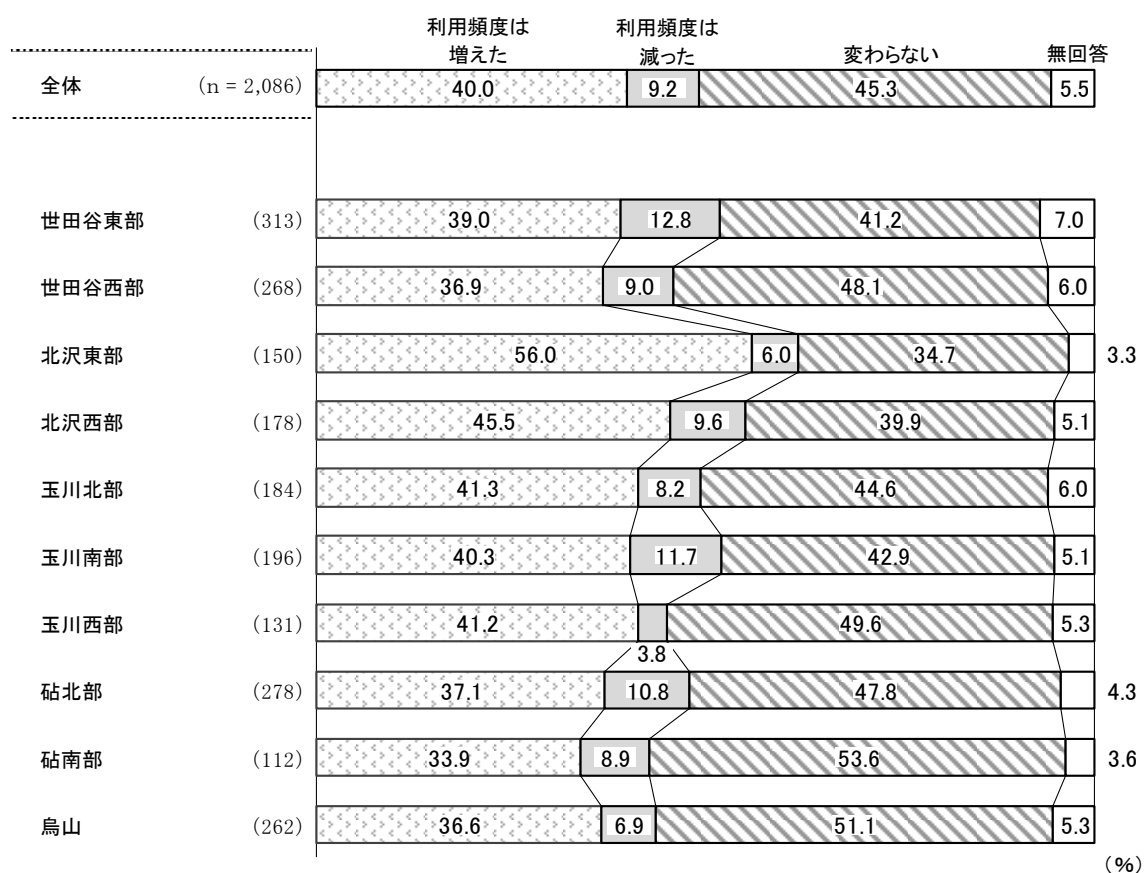
自転車の利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は増えた」は女性の30歳代で3割半ばとなっている。「利用頻度は減った」は女性の70歳代で2割を超えている。

(図 23-2-13)



図 23-2-14 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

徒歩（地域別）

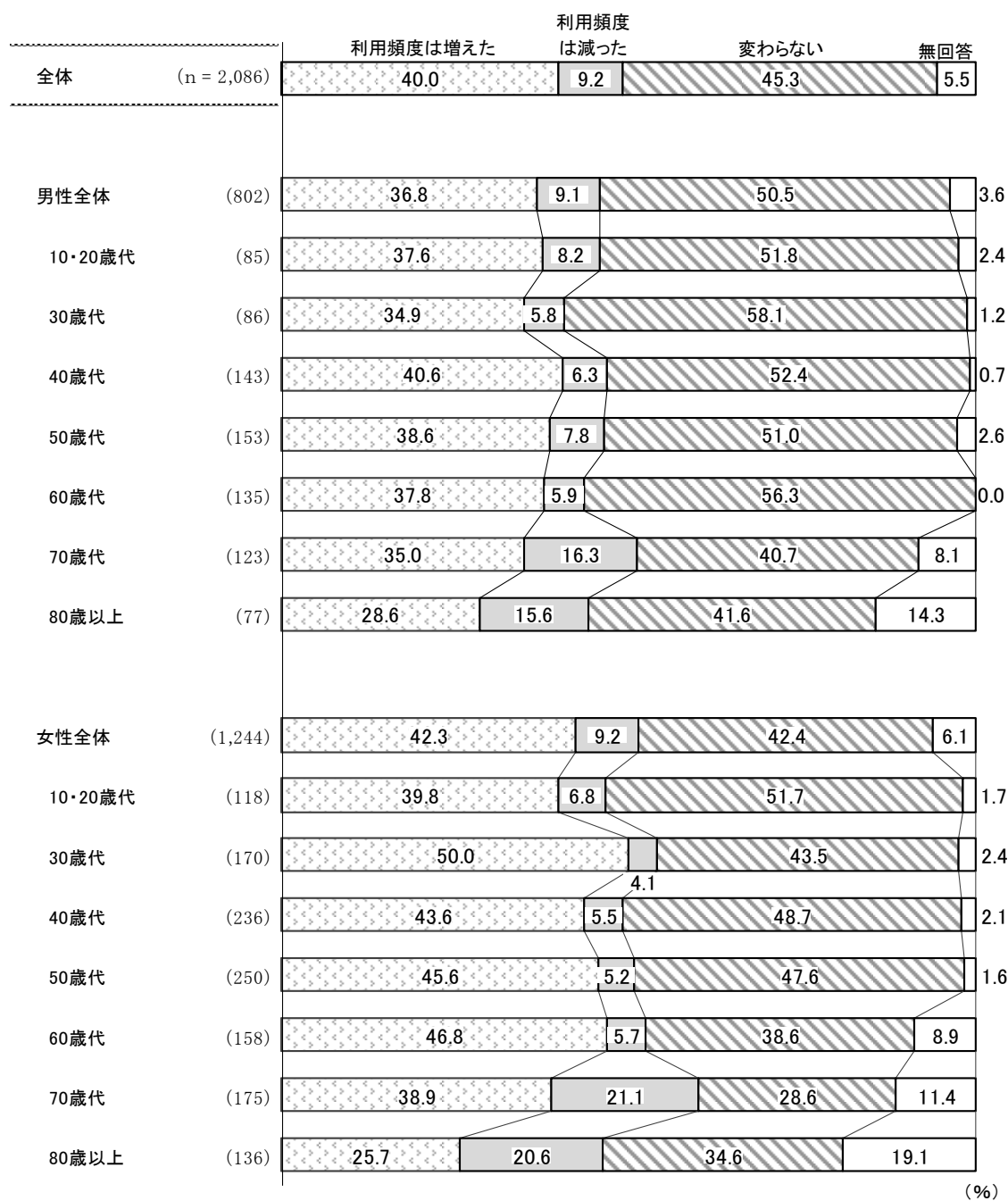


<調査結果>

徒歩の利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は増えた」は北沢東部が5割半ば、北沢西部が4割半ばとなっている。「利用頻度は減った」は世田谷東部、玉川南部が1割を超えている。(図 23-2-14)

図 23-2-15 新型コロナウイルス感染拡大による各交通手段の利用頻度の変化

徒歩（性・年齢別）



<調査結果>

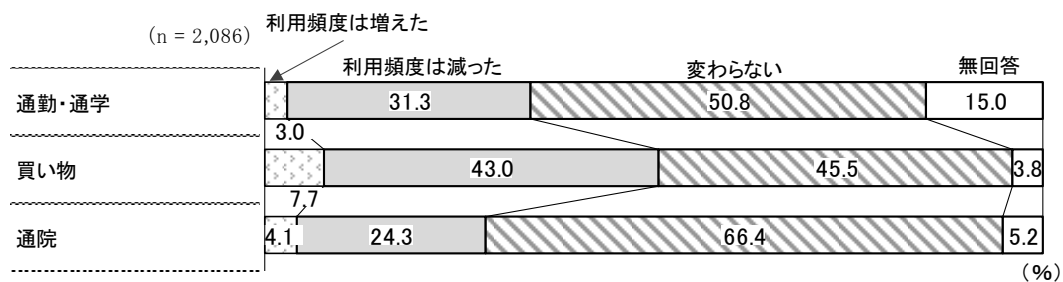
徒歩の利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は増えた」は女性の30歳代で5割となっている。「利用頻度は減った」は女性の70歳代で2割を超えている。(図 23-2-15)

### (3) 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

◎「利用頻度は減った」のは買い物で4割を超えている

問61 あなたは、下記目的毎の区内各交通手段（移動手段）利用頻度に変化はありましたか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。  
(○はそれぞれ1つずつ)

図 23-3-1

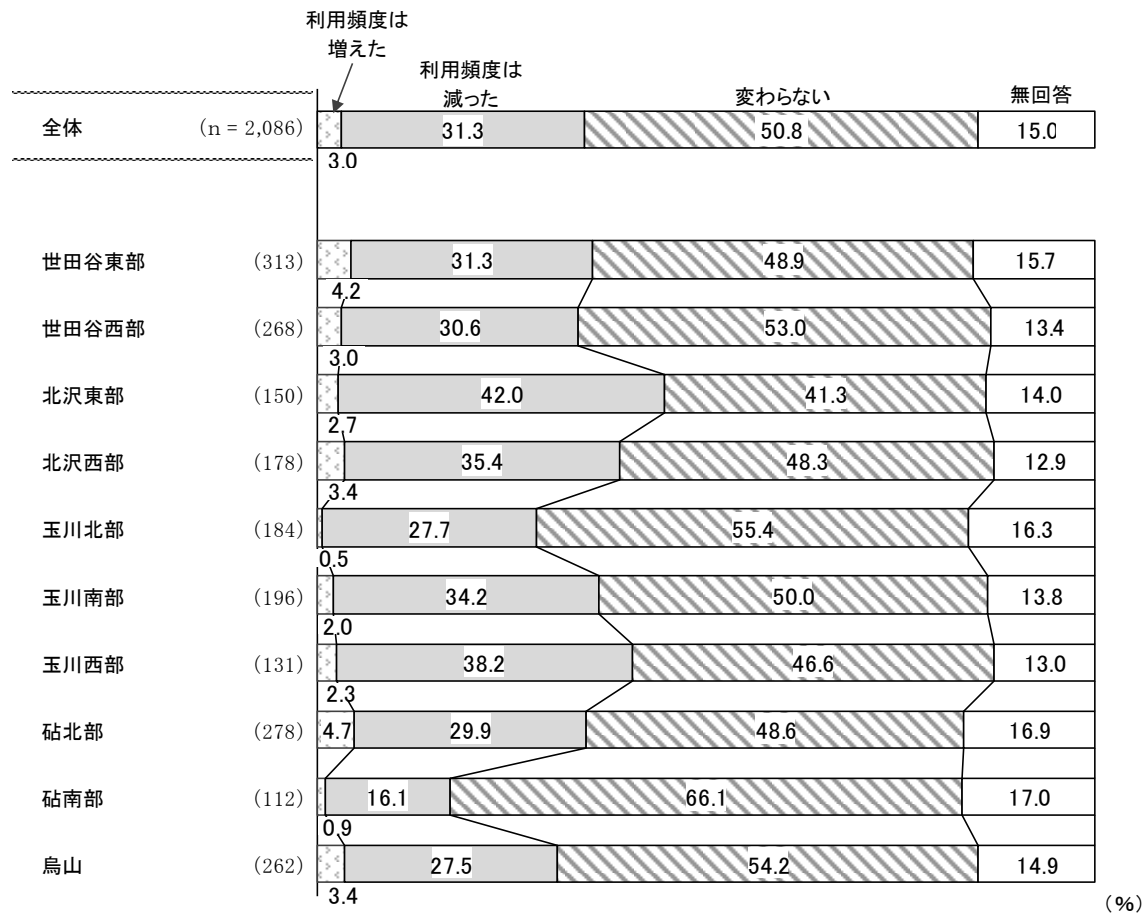


#### <調査結果>

目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化について聞いたところ、「変わらない」が通勤・通学(50.8%)、買い物(45.5%)、通院(66.4%)のいずれでも最も高くなっている。「利用頻度は減った」は、買い物(43.0%)で4割を超えている。(図 23-3-1)

図 23-3-2 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

通勤・通学（地域別）

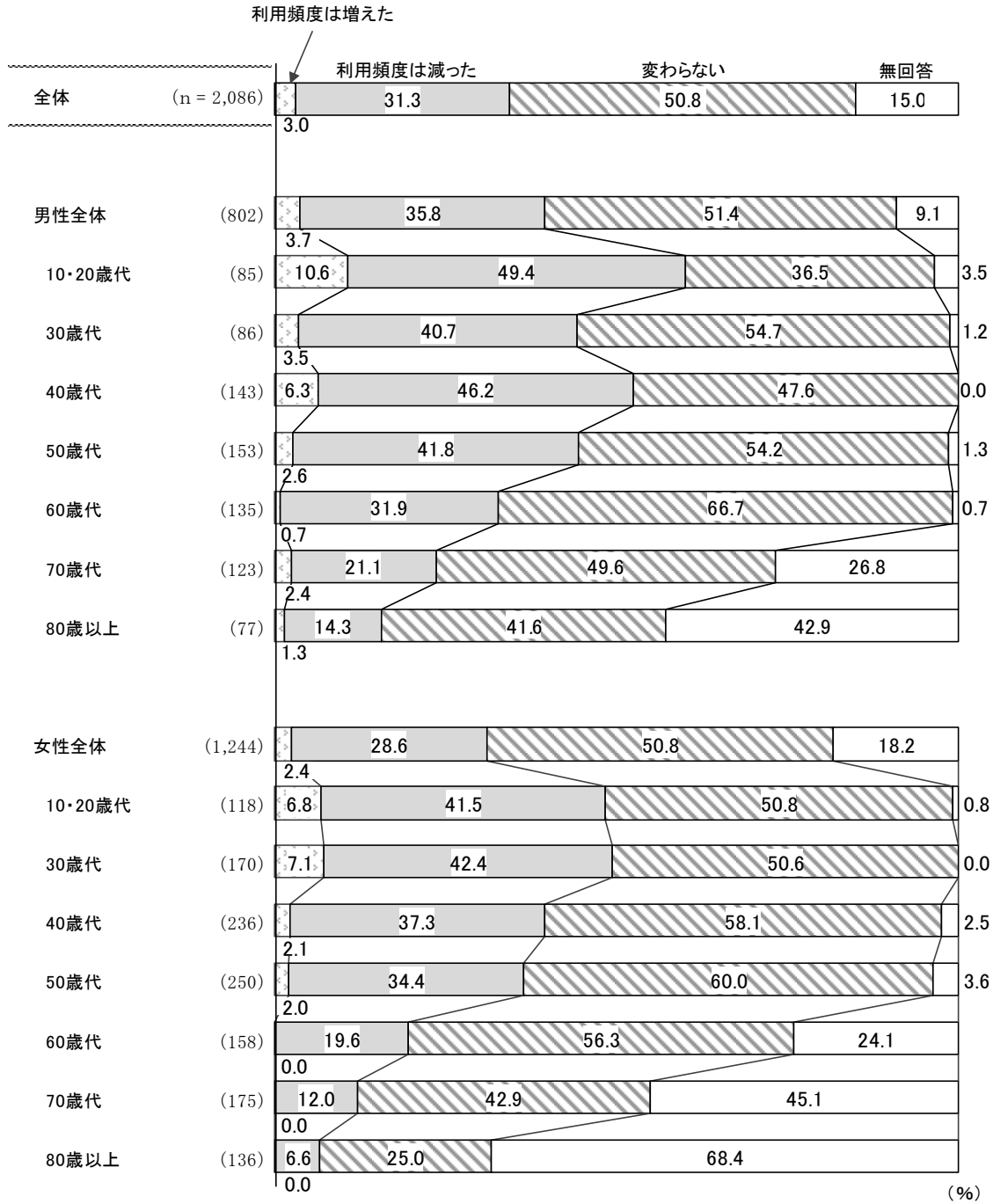


<調査結果>

通勤・通学での利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は減った」は北沢東部が4割を超え、玉川西部で4割近くとなっている。(図 23-3-2)

図 23-3-3 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

通勤・通学（性・年齢別）

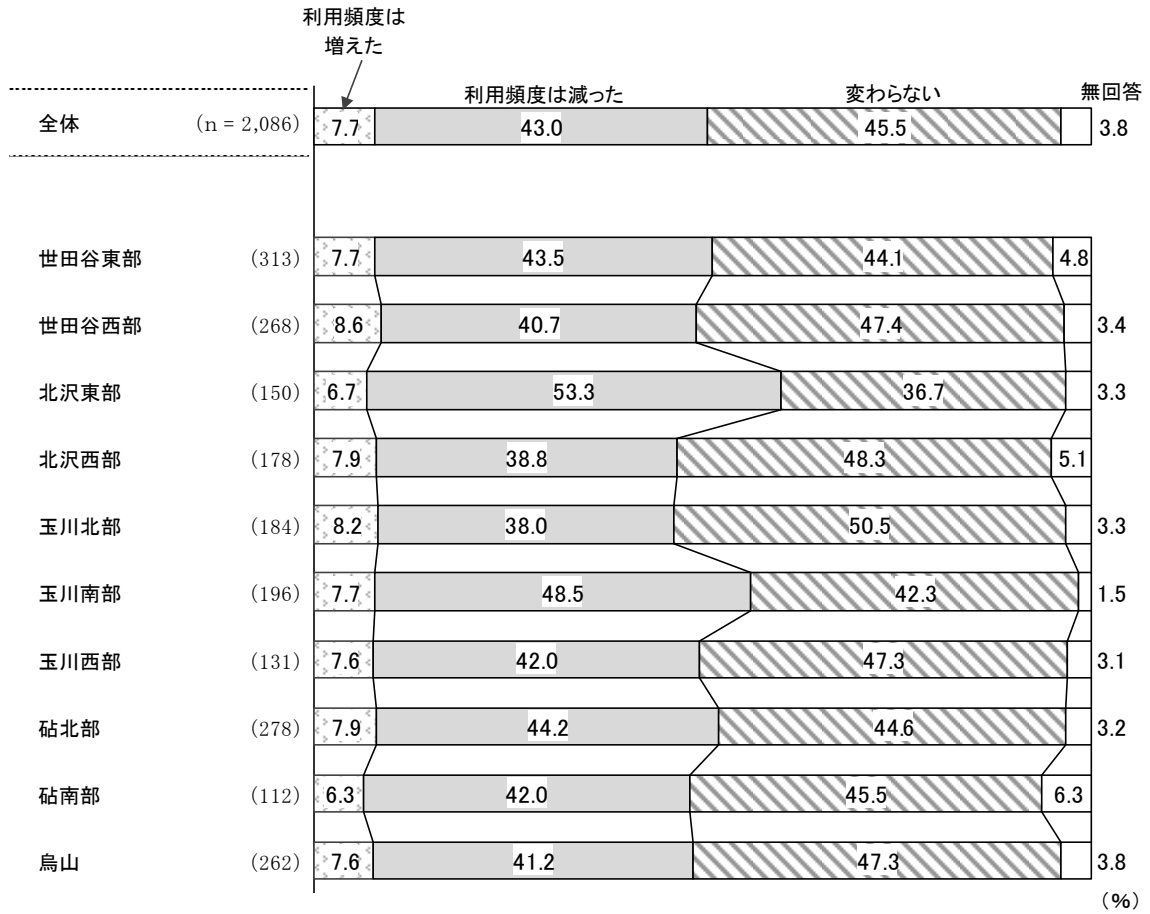


<調査結果>

通勤・通学での利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は男性の10・20歳代ではほぼ5割となっている。(図 23-3-3)

図 23-3-4 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

買い物（地域別）

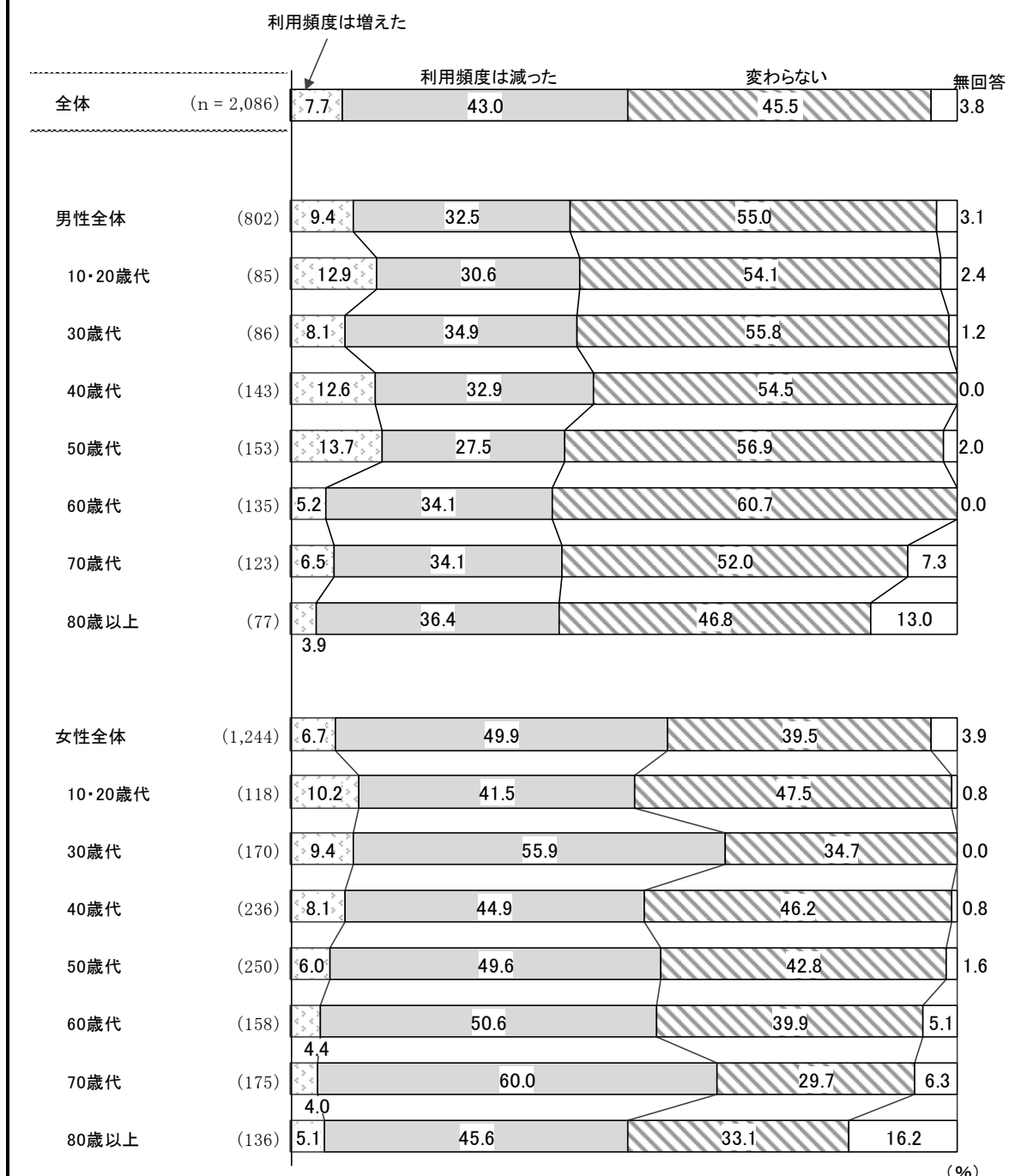


<調査結果>

買い物での利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は減った」は北沢東部が5割を超え、玉川南部で5割近くとなっている。(図 23-3-4)

図 23-3-5 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

買い物（性・年齢別）

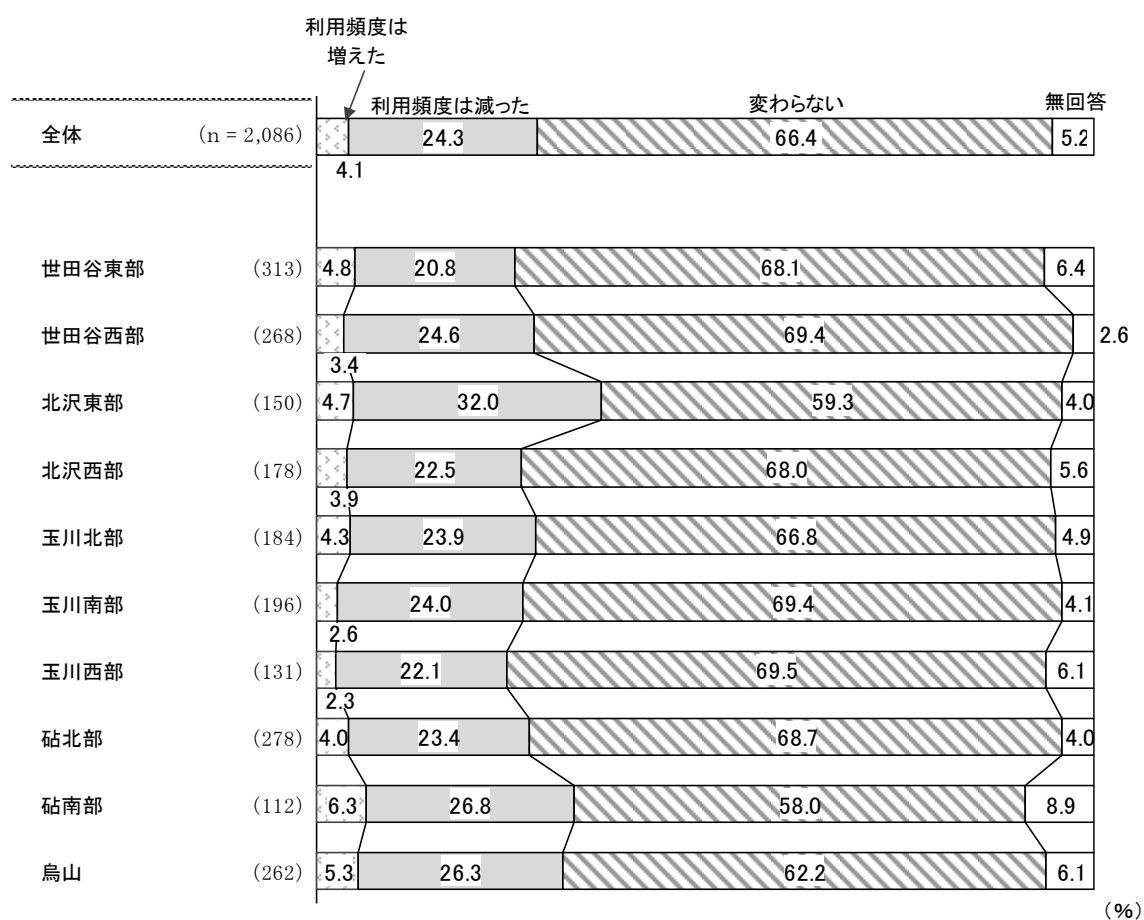


<調査結果>

買い物での利用頻度を性・年齢別で見ると、「利用頻度は減った」は女性の70歳代で6割となっている。(図 23-3-5)

図 23-3-6 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

通院（地域別）



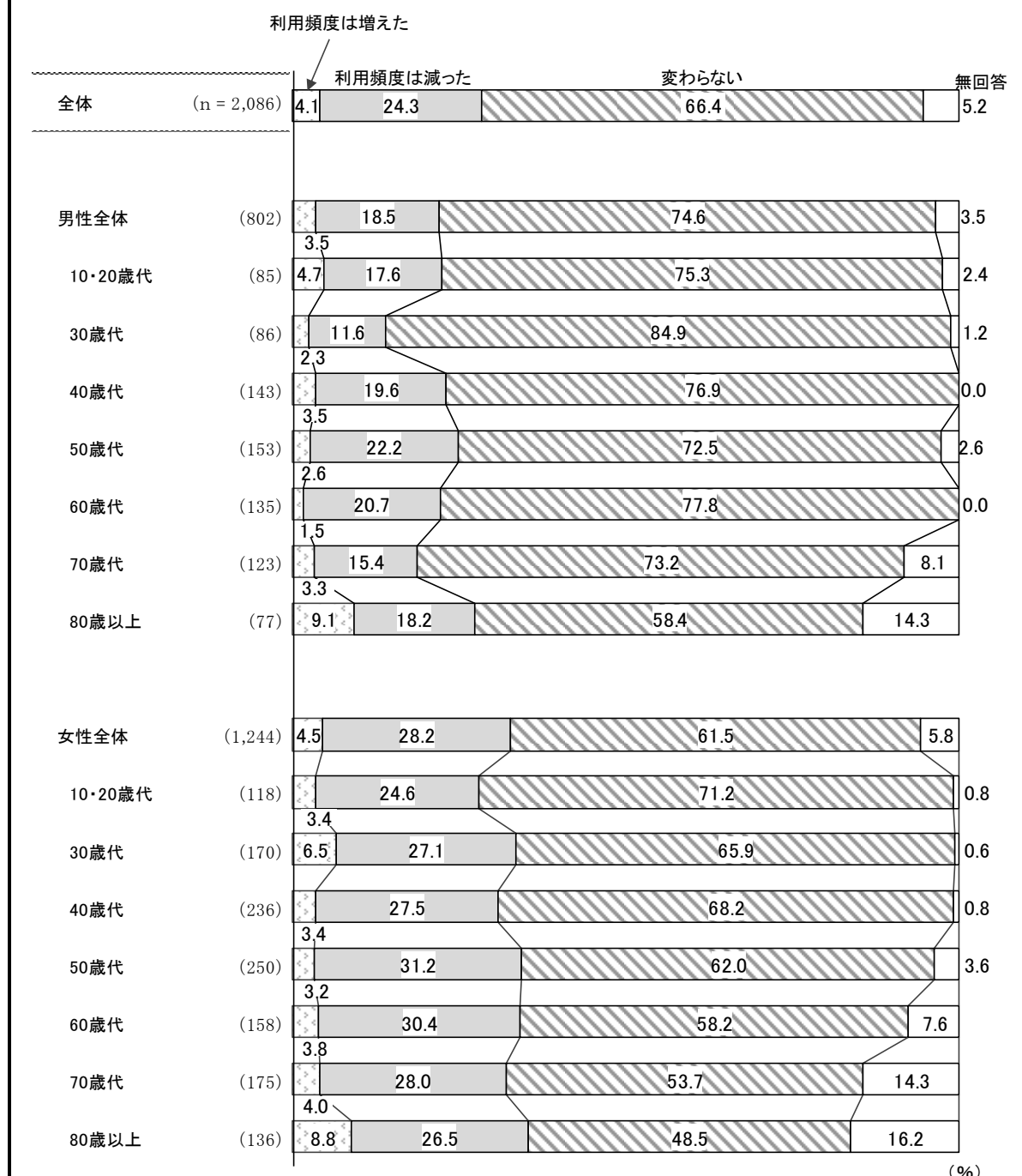
<調査結果>

通院での利用頻度を地域別で見ると、「利用頻度は減った」は北沢東部が3割を超えている。(図 23-3-6)



図 23-3-7 目的ごとの各交通手段の利用頻度の変化

通院（性・年齢別）



<調査結果>

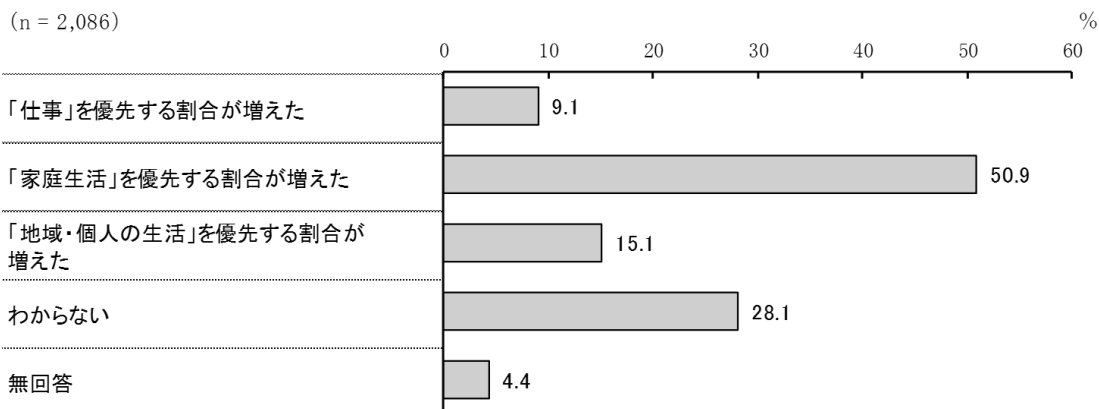
通院での利用頻度を性・年齢別でみると、「利用頻度は減った」は女性の50歳代で3割を超え、女性の60歳代で3割となっている。(図 23-3-7)

#### (4) 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化

◎ 「家庭生活」を優先する割合が増えた」がほぼ5割

問62 新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児、介護など）」「地域・個人の生活（地域・社会活動、学習・研修、趣味、娯楽、スポーツなど）」の優先度に変化はありましたか。（○はいくつでも）

図 23-4-1



#### <調査結果>

新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化については、「家庭生活」を優先する割合が増えた」がほぼ5割で最も高くなっている。（図 23-4-1）

表 23-4-1 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化（地域別） (%)

区分		n	「仕事」を優先する割合が増えた	「家庭生活」を優先する割合が増えた	「地域・個人の生活」を優先する割合が増えた	わからない	無回答
全 体		2,086	9.1	50.9	15.1	28.1	4.4
地域別	世田谷東部	313	7.0	52.7	13.7	26.5	5.4
	世田谷西部	268	9.3	53.7	9.3	30.2	4.1
	北沢東部	150	11.3	48.7	15.3	28.0	2.7
	北沢西部	178	11.8	47.2	21.3	25.8	3.9
	玉川北部	184	10.9	48.9	15.2	26.1	5.4
	玉川南部	196	9.7	51.0	14.8	29.1	2.6
	玉川西部	131	9.2	48.1	20.6	25.2	6.9
	砧北部	278	6.8	53.6	14.4	30.2	3.6
	砧南部	112	9.8	45.5	18.8	33.9	3.6
	烏山	262	8.8	52.7	16.0	27.1	3.8

<調査結果>

地域別でみると、「家庭生活」を優先する割合が増えた」は世田谷東部、世田谷西部、玉川南部、砧北部、烏山で5割を超えている。また、「地域・個人の生活」を優先する割合が増えた」は、北沢西部が2割を超えている。(表 23-4-1)

表 23-4-2 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化（性・年齢別）（%）

区分		n	「仕事」を優先する割合が増えた	「家庭生活」を優先する割合が増えた	「地域・個人の生活」を優先する割合が増えた	わからない	無回答
全体		2,086	9.1	50.9	15.1	28.1	4.4
性・年齢別	男性全体	802	10.0	50.0	14.2	32.0	2.1
	10・20 歳代	85	17.6	40.0	17.6	34.1	0.0
	30 歳代	86	14.0	61.6	11.6	20.9	1.2
	40 歳代	143	14.7	51.0	10.5	32.2	0.7
	50 歳代	153	12.4	47.1	10.5	34.0	2.6
	60 歳代	135	4.4	51.9	14.1	37.0	1.5
	70 歳代	123	4.9	53.7	15.4	32.5	0.8
	80 歳以上	77	1.3	42.9	26.0	28.6	10.4
	女性全体	1,244	8.5	52.8	16.2	26.4	3.5
	10・20 歳代	118	16.9	34.7	22.9	29.7	0.8
	30 歳代	170	9.4	54.7	18.8	25.9	0.6
	40 歳代	236	6.4	61.0	10.6	23.3	3.0
	50 歳代	250	10.8	54.4	12.8	28.8	2.4
	60 歳代	158	11.4	54.4	20.3	22.2	1.9
	70 歳代	175	5.1	58.3	15.4	22.3	6.3
	80 歳以上	136	0.7	39.7	19.9	36.0	10.3

<調査結果>

性・年齢別でみると、「家庭生活」を優先する割合が増えたは男性の30歳代、女性の40歳代で6割を超えている。（表 23-4-2）

表 23-4-3 新型コロナウイルス感染拡大による生活の優先度の変化

(ライフステージ別)

(%)

区分		n	「仕事」を優先する割合が増えた	「家庭生活」を優先する割合が増えた	「地域・個人の生活」を優先する割合が増えた	わからない	無回答
全 体		2,086	9.1	50.9	15.1	28.1	4.4
ライフステージ別	独身期	276	17.4	32.2	22.1	35.1	1.1
	家族形成期	185	9.2	72.4	10.8	16.8	0.0
	家族成長前期	182	6.6	73.1	10.4	17.0	0.5
	家族成長後期	172	12.8	57.0	8.7	29.1	1.7
	家族成熟期	211	8.1	54.5	11.4	28.4	2.8
	高齢期Ⅰ	165	5.5	63.0	15.8	25.5	2.4
	高齢期Ⅱ	389	3.6	45.5	20.6	31.6	6.4
	その他	426	11.3	43.2	15.3	33.6	3.5

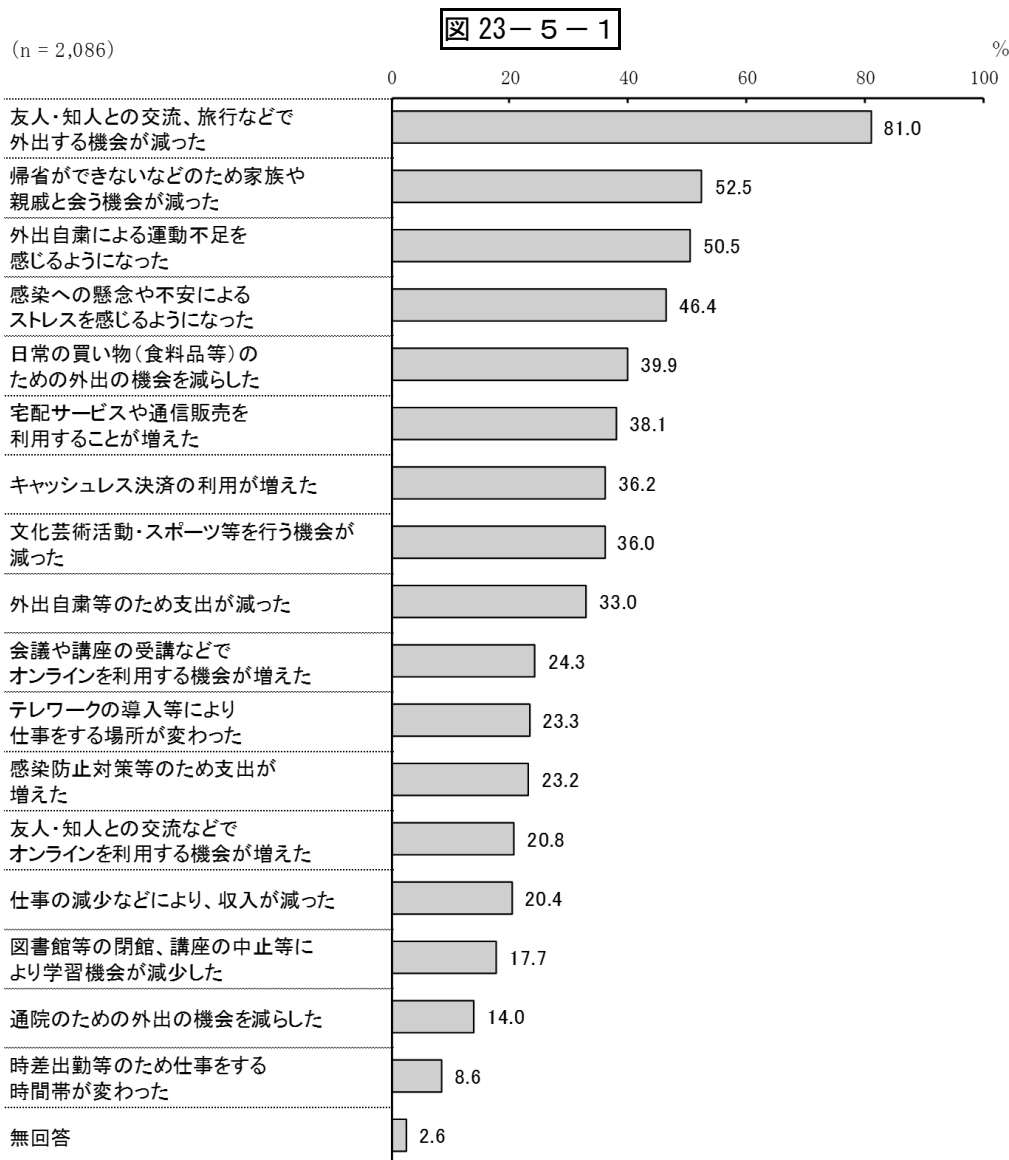
<調査結果>

ライフステージ別でみると、「仕事」を優先する割合が増えたは独身期で2割近くとなっている。「家庭生活」を優先する割合が増えたは家族形成期、家族成長前期が7割を超えて高くなっている。「地域・個人の生活」を優先する割合が増えたは独身期で2割を超え最も高く、次いで高齢期Ⅱがほぼ2割などと続いている。(表 23-4-3)

## (5) 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響

◎「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」が8割を超えている

問63 新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、あなたの仕事や生活にどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)



### <調査結果>

新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響は、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」(81.0%)が8割を超えて最も高く、「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った」(52.5%)、「外出自粛による運動不足を感じるようになった」(50.5%)、「感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった」(46.4%)、「日常の買い物(食料品等)のための外出の機会を減らした」(39.9%)などと続いている(図23-5-1)

表 23-5-1 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響（地域別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	2,086	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた	
		81.0	52.5	50.5	46.4	39.9	38.1	36.2	36.0	33.0	24.3	
世田谷部	313	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	
		81.2	55.6	49.2	44.1		39.9	37.4	32.9	31.6	23.6	
世田谷部	268	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた	
		81.3	53.0	50.0	45.5	44.8	39.2		35.8	32.1	28.0	
北沢部	150	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた
		86.0	56.0	51.3	47.3	41.3	40.7	39.3	35.3	32.7	30.7	
北沢部	178	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	外出自粛等のため支出が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	仕事の減少などにより収入が減った	
		80.9	52.2	51.7	49.4	43.8	39.3	37.1	36.0	32.0	28.1	
玉川部	184	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等のため支出が減った	感染防止対策等のため支出が増えた	
		77.2	56.5	47.3	42.9	41.8		41.3	37.0	31.5	23.4	
玉川部	196	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等のため支出が減った	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた	
		81.1	50.5	49.0		44.4	43.9	40.8	35.7	33.7	26.5	
玉川部	131	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	キャッシュレス決済の利用が増えた	
		82.4	50.4	45.0	44.3		40.5	36.6	34.4	29.8	29.0	
砧北部	278	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等のため支出が減った	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	
		82.7	56.8	53.6	45.7	39.6	38.1	34.9	33.8	32.0	24.8	
砧南部	112	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	仕事の減少などにより収入が減った	感染防止対策等のため支出が増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	
		80.4	52.7	51.8	50.0	41.1	38.4	33.0	27.7	26.8	25.0	
烏山	262	友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛等のため支出が減った	日常の買い物のため外出の機会を減らした	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	感染防止対策等のため支出が増えた	
		79.4	54.2	49.2	48.9	37.0		36.6		32.1	25.2	

<調査結果>

地域別で見ると、「友人・知人と旅行などでの外出する機会が減った」はいずれの地域においても1位となっている。「帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った。」は北沢東部、玉川北部を除くすべての地域で2位となっている。(表 23-5-1)

表 23-5-2 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響（性・年齢別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	2,086	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた
		81.0	52.5	50.5	46.4	39.9	38.1	36.2	36.0	33.0	24.3
男性全体	802	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	日常の買い物や不安によるストレスを感じるようになった	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった
		77.4	49.3	46.8	40.4	37.3	37.0	35.4	34.0	31.4	29.4
10・20歳代	85	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等のため支出が減った	会議や講座受講でオンラインを利用する機会が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった
		74.1	44.7	41.2	37.6	36.5	35.3	32.9	29.4	29.4	29.4
30歳代	86	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	キャッシュレス決済の利用が増えた	仕事の減少などにより、収入が減った
		73.3	54.7	47.7	41.9	39.5	37.2	36.0	29.1	29.1	29.1
40歳代	143	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	日常の買い物や不安によるストレスを感じるようになった
		83.2	69.9	51.7	51.0	46.2	45.5	40.6	37.1	36.4	32.2
50歳代	153	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	外出自粛による運動不足を感じる	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた
		80.4	51.0	45.1	44.4	42.5	39.9	39.2	38.6	37.9	37.9
60歳代	135	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等のため支出が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた	日常の買い物や不安によるストレスを感じるようになった
		84.4	48.1	40.7	37.0	35.6	34.8	33.3	27.4	27.4	27.4
70歳代	123	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等のため支出が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った	感染防止対策等のため支出が増えた
		71.5	48.8	46.3	43.1	41.5	38.2	30.1	22.8	19.5	19.5
80歳以上	77	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	感染防止対策等のため支出が増えた	図書館等の閉館、講座の中止等により学習機会が減った
		66.2	50.6	46.8	45.5	28.6	26.0	20.8	16.9	16.9	16.9
女性全体	1,244	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	感染防止対策等のため支出が増えた
		85.5	56.0	54.3	51.4	46.4	39.7	38.4	37.5	31.3	25.2
10・20歳代	118	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	交流などでオンラインを利用する機会が増えた	外出自粛による運動不足を感じる	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	キャッシュレス決済の利用が増えた	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた
		81.4	49.2	48.3	45.8	43.2	42.4	38.1	34.7	33.9	32.2
30歳代	170	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	外出自粛による運動不足を感じる	キャッシュレス決済の利用が増えた	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った
		91.8	70.6	57.6	55.9	53.5	50.6	50.0	37.1	36.5	34.7
40歳代	236	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	会議や講座の受講などでオンラインを利用する機会が増えた	テレワークの導入等により仕事をする場所が変わった
		91.1	69.1	56.4	52.1	51.7	45.3	43.6	42.8	33.5	31.8
50歳代	250	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	キャッシュレス決済の利用が増えた	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	感染防止対策等のため支出が増えた	外出自粛等のため支出が減った
		92.4	64.0	55.2	50.8	42.4	41.2	40.4	35.6	34.8	34.8
60歳代	158	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用が増えた	外出自粛等のため支出が減った	感染防止対策等のため支出が増えた	感染防止対策等のため支出が増えた
		87.3	49.4	44.9	43.0	40.5	36.1	32.9	31.0	29.1	29.1
70歳代	175	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じる	外出自粛による運動不足を感じる	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	外出自粛等のため支出が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	通院のための外出の機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	感染防止対策等のため支出が増えた
		81.1	67.4	53.7	53.1	46.3	33.1	31.4	30.3	26.9	25.1
80歳以上	136	友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った	日常の買い物や不安によるストレスを感じる	外出自粛による運動不足を感じる	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	帰省ができないなどのため家族や親戚と会う機会が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が増えた	外出自粛等のため支出が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	通院のための外出の機会が減った	感染防止対策等のため支出が増えた
		61.8	51.5	51.5	50.0	30.1	28.7	27.2	26.5	22.1	14.7



### <調査結果>

性・年齢別で見ると、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」はいずれの年代においても1位となっており、女性の30歳代～50歳代で9割を超えている。(表23-5-2)

表 23-5-3 新型コロナウイルス感染拡大による仕事や生活への影響  
(ライフステージ別)

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	2,086	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等による支出が減った	会議や講座等を利用する機会が増えた
		81.0	52.5	50.5	46.4	39.9	38.1	36.2	36.0	33.0	24.3	
独身期	276	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	テレワークの導入等による仕事場が変化した	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等による支出が減った
		79.3	49.3	46.0	43.8	43.1	40.6	39.5	32.2	31.9	30.8	
家族形成期	185	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	テレワークの導入等による仕事場が変化した	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等による支出が減った
		87.6	73.0	55.1	47.6	44.9	42.7	38.9	38.4	30.3		
家族成長前期	182	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	会議や講座等を利用する機会が増えた	日常の買い物のための外出機会が減った	テレワークの導入等による仕事場が変化した
		89.6	73.1	56.0	52.7	52.2	49.5	48.9	42.3	40.7	37.4	
家族成長後期	172	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	会議や講座等を利用する機会が増えた	日常の買い物のための外出機会が減った	感染防止対策等による支出が増えた
		91.3	70.9	55.8	54.1	46.5	44.2	38.4	37.8	36.0	34.3	
家族成熟期	211	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	日常の買い物のための外出機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた	会議や講座等を利用する機会が増えた	日常の買い物のための外出機会が減った	感染防止対策等による支出が増えた
		89.1	64.0	50.2	49.8	44.5	41.7	38.4	33.2	29.9		
高齢期Ⅰ	165	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	日常の買い物のための外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等による支出が減った	外出自粛等による支出が減った	外出自粛等による支出が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	感染防止対策等による支出が増えた	キャッシュレス決済の利用率が増えた
		80.6	50.9	49.7	46.1	38.8	38.2	37.0	30.9	23.0	22.4	
高齢期Ⅱ	389	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	日常の買い物のための外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	外出自粛等による支出が減った	外出自粛等による支出が増えた	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	通院のための外出機会が減った	図書館等の閉館・講座の中止等により学習機会が減少した
		72.0	51.7	50.4	49.4	38.8	36.5	33.9	24.2	19.3	18.5	
その他	426	友人・知人と旅行などでの外出機会が減った	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	外出自粛による運動不足を感じるようになった	感染への懸念や不安によるストレスを感じるようになった	宅配サービスや通信販売を利用することが増えた	日常の買い物のための外出機会が減った	文化芸術活動・スポーツ等を行う機会が減った	外出自粛等による支出が減った	テレワークの導入等による仕事場が変化した	
		82.6	53.5	49.5	45.1	39.9	37.6	37.3	36.6	32.2	28.2	

〈調査結果〉

ライフステージ別でみると、「友人・知人との交流、旅行などで外出する機会が減った」はいずれのステージにおいても1位となっており、家族成長後期で9割を超え最も高く、家族成長前期で9割などと続いている。「外出自粛による運動不足を感じるようになった」は独身期、家族成長前期、家族成長後期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱ、その他で2位から3位と高くなっている。(表 23-5-3)

## 世田谷区民意調査 2021

令和3年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 1967）

発行 世田谷区政策経営部広報広聴課  
〒154-8504 東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号  
電話：03（5432）2014  
ファクシミリ：03（5432）3001

実施 株式会社名豊  
〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原2丁目2番33号  
電話：052（322）0071  
ファクシミリ：052（322）0130